平成23年度厚生労働科学研究費補助金

「CBRNEテロ対策に対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究」

平成23年度総括研究報告書

研究代表者 近藤 久禎

平成23年度厚生労働科学研究費補助金
（健康安全・危機管理対策総合研究事業）

平成23年度総括研究報告書

CBRNEテロ対策に対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究

研究代表者　近藤　久禎
（国立病院機構災害医療センター）

平成24（2012）年3月

平成２３年度厚生労働科学研究費補助金

健康安全・危機管理対策総合研究事業

「CBRNE テロ対策に対する効果的な対策の検証と
国際連携ネットワークの活用に関する研究」

平成２３年度
総括研究報告書

（研究代表者　近藤　久禎）

平成 24(2012)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金

健康安全・危機管理対策総合研究事業

「CBRNE テロ対策に対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究」

平成 23 年度　総括研究報告書

研究代表者；近藤　久禎

平成 24(2012)年 3 月

目次

Ⅰ．主任研究報告

「CBRNE テロ対策に対する効果的な対策の検証と

国際連携ネットワークの活用に関する研究」

（近藤　久禎　研究代表者）　p．3

１．東京電力福島第一原子力発電所事故対応 DMAT 報告書
報告書　東京電力福島第一原子力発電所事故に対する
DMAT 活動と課題

資料　DMAT いわき派遣活動報告

先遣隊　国立病院機構災害医療センター
第１次隊　愛媛県立中央病院
第２次隊　佐賀 DMAT（佐賀大学医学部附属病院、佐賀県立病院好生館）
第３次隊　国立病院機構災害医療センター
第４次隊　みなと赤十字病院
第５次隊　混成チーム(平鹿総合病院、済生会宇都宮病院、
川崎市立川崎病院、愛知医科大、京都第一赤十字病院)
第６次隊　東京医科歯科大学
第７次隊　JA とりで総合医療センター
第８次隊　日本医科大学付属病院
第９次隊　横浜労災病院
第１０次隊　横浜市立大学附属市民総合医療センター
第１１次隊　川口市立医療センター
第１２次隊　秦野赤十字病院
第１３次隊　前橋赤十字病院
第１４次隊　藤沢市民病院
第１５次隊　愛知医科大学
第１６次隊　大阪府済生会千里病院
第１７次隊　草津総合病院
第１８次隊　兵庫医科大学
第１９次隊　聖マリアンナ医科大学病院
第２０次隊　相澤病院
第２１次隊　兵庫県災害医療センター
第２２次隊　日本医科大学千葉北総病院
撤収隊　国立病院機構災害医療センター

２．APEC 報告書

1. 横浜市保健部局の対応	横浜市健康福祉局	山田裕之	p. 331
2. 横浜市消防局の対応	横浜市消防局西消防署	松原正之	p. 359
3. 神奈川県の対応	神奈川県保健福祉局	金井信高	p. 363
4. 集団災害対応			
1) 災害医療対応計画（DMAT APEC 対応マニュアル）	国立病院機構災害医療センター	近藤久禎	p. 368
2) 本部活動	国立病院機構災害医療センター	市原正行	p. 479
3) 横浜配備ＤＭＡＴの活動	前橋赤十字病院	中村光伸	p. 488
	東京医科歯科大学大学院	大友康裕	
4) 羽田配備ＤＭＡＴの活動	山形県立中央病院	森野一真	p. 517
	国立病院機構災害医療センター	井上潤一	
5) 成田配備ＤＭＡＴの活動	東北大学大学院	山内　聡	p. 530
	愛知医科大学	中川　隆	
6) 横浜市内の病院の準備			
	神奈川県警友会けいゆう病院	湯浅洋司	p. 537
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	森村尚登	p. 539
	横浜市立みなと赤十字病院	伊藤敏孝	p. 544
	済生会横浜市東部病院	船曳知弘	p. 548
	労働者健康福祉機構横浜労災病院	中森知毅	p. 551
7) 現場医療活動マニュアル	藤沢市民病院	阿南英明	p. 554
8) 無線について			
日赤無線の活用について	武蔵野赤十字病院	高桑大介	p. 561
ＭＣＡ無線の活用について	国立病院機構災害医療センター	大野龍男	p. 573

Ⅱ．研究報告

「国際連携ネットワークを活用した
健康危機管理体制構築に関する研究」
（明石　真言　研究分担者）　p．581

「化学テロ全体を総合的な観点からみたリスク評価、
各国における対応事例の集積」
（黒木　由美子　研究分担者）　p．585

主任研究報告

CBRNE テロ対策に対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究

研究代表者　近藤　久禎

研究要旨

G7＋メキシコの各国でテロや感染症などの健康危機の国際的な対応を討議する世界健康安全保障行動グループ（GHSAG）においては、化学テロ等の作業部会が設けられ、各国の専門家がそれぞれの国における知見を持ち寄り、それぞれの分野における課題および国際協力のあり方について検討されている。本研究班は、この GHSAG 作業部会における課題について、日本からの貢献をするための科学的根拠を提示するものである。

本研究班の成果は、GHSAG 作業部会における日本からの科学的根拠として発信される。それは、GHSI を通じて世界における健康危機対応体制の進展に資するものである。

本研究班は、主に化学テロ、核放射線テロ、災害医療および天然痘テロの分野を対象とする。

現在、GHSAG の作業部会においては、優先化学物質選定基準の検証、化学テロにおける緊急連絡体制の在り方と訓練手法の開発、化学、放射線テロにおける除染手法の開発、各国における対応事例の集積等の課題が挙げられている。これらの課題には、国際的な健康危機管理体制を強化するための課題であり、日本からの貢献も求められている。

今年度は、事例研究として横浜ＡＰＥＣにおける集団災害医療体制についてその成果をまとめた。また、東京電力福島第一原発事故への DMAT の対応について DMAT 活動実績をまとめ、課題を抽出した。入院患者の避難における医療搬送、一時立ち入りへの対応等、今回の事故対応における DMAT の有効性が確認できた。被ばく医療も災害医療の一つであり、災害医療体制との整合性は必須であることが示唆された。今後は、やはり災害医療体制の中で、緊急被ばく医療もしっかりと位置付けられることが必要である。そのような観点からの緊急被ばく医療体制のあり方について研究していくことが今後は必要である。

研究代表者
近藤久禎　国立病院機構災害医療センター教育研修室長
研究分担者
明石真言　独立行政法人放射線医学総合研究所　理事
黒木由美子　(財)日本中毒情報センター施設長

研究協力者（別表）

Ａ　研究目的

テロとりわけＮＢＣテロへの世界的な健康危機管理の準備と対応に係るネットワークとして各国保健担当閣僚レベルの会合である世界健康安全保障イニシアティブ: GHSI がある。本会合は、G7、メキシコ、EU、WHO が参加している。この閣僚級会合の下に、局長クラスの作業グループ(世界健康安全保障行動グループ: GHSAG)が置かれている。この GHSAG の下、化学テロ等の作業部会が設置され、技術的な検討作業や情報交換を行っている。日本は地下鉄サリン事件の経験を持つこともあり、化学テロ作業部会の議長役を引き受けている。また、その他放射線テロに関する作業部会もおかれている。これらの作業部会においては各国の専門家がそれぞれの国における知見を持ち寄り、それぞれの分野における課題および国際協力のあり方について検討されている。

現在、GHSAG の作業部会においては、優

先化学物質選定基準の検証、化学テロにおける緊急連絡体制の在り方と訓練手法の開発、化学、放射線テロにおける除染手法の開発、各国における対応事例の集積等の課題が挙げられている。これらの課題には、国際的な健康危機管理体制を強化するための課題であり、日本からの貢献も求められている。そこで、本研究班はこれらの課題について日本からの貢献をするための科学的根拠を提示することを目的とする。また、これらの課題の中で、このネットワークを生かし、国内の対応体制の強化に資する知見を抽出し、日本における活用のモデルを提示することも目的とする。

昨年までの厚生労働科学研究費補助金「国際連携ネットワークを活用した健康危機管理体制構築に関する研究」においては、GHSAG 化学テロ作業部会で策定された優先化学物質選定基準をベースに、日本におけるテロ対策を優先的に行うべき化学物質が提示された。また、国際的な化学テロにおける緊急連絡体制の在り方が提示された。

本研究においては、この手法を発展させ、CBRNE テロ全体を総合的な観点からみた、リスク評価を行う。また、国際的な緊急連絡体制と連動した国内のサーベイランス手法、システムを開発する。

昨年度、日本ＡＰＥＣが横浜市に手開催された。日本におけるテロ対応事例として、このＡＰＥＣにおける集団災害医療対応体制のあり方を検討した。今年度はこの報告をまとめた。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による地震と津波は東京電力福島第一原子力発電所を襲い、甚大な被害を引き起こし、多量の放射性物質を環境中に放出した。この事故対応において、多くの DMAT 隊員が派遣された。今回、その活動について意義を検証し、今後の DMAT 活動、緊急被ばく医療における課題を提示することを目的とした。

Ｂ　　研究方法

化学テロ、核放射線テロ、災害医療等の分野において、国内の対応から国際的危機管理体制の強化に資する事項を抽出し、それを国際ネットワークである GHSAG 作業部会などに提示する。また、GHSAG 作業部会の成果を基に、国内の健康危機管理体制の進展に資する事項を提示する。その結果を国際健康危機管理体制の強化につなげるだけでなく、我が国の危機管理対応にフィードバックするための手法について検討する。

昨年度検討した、ＡＰＥＣにおける集団災害医療対応体制のあり方については、対応機関からの活動報告を集積し、報告書としてまとめた。

東京電力福島第一原発事故への DMAT の対応については、高線量被ばく・汚染（緊急作業従事者）への緊急被ばく医療対応、住民対応、入院患者の移送対応など DMAT 活動実績をまとめ、課題を抽出した。

（倫理面への配慮）

本研究においては特定の個人、実験動物などを対象とした研究は行わないため倫理的問題を生じることは少ないと考えられる。しかし、研究の過程おいて各機関、それに所属する職員等の関与が生じる可能性があるため人権擁護上十分配慮すると共に必要であれば対象者に対する説明と理解を得るよう努める。

Ｃ　　研究成果

CBRNE テロ全体を総合的な観点からみたリスク評価、国際的な緊急連絡体制とその国内体制の検討、化学、放射線テロにおける除染手法の開発については、ＧＨＳＡＧワークショップにおける情報収集、情報提供を当初の予定通りに実施した。

日本ＡＰＥＣにおける集団災害対応についての成果、課題を以下の項目についてまとめた。

1. 災害医療体制について

１－１　APEC における災害医療・NBC テロ対応の体制について

１－２　DMAT の配置、活動

１－３　災害拠点病院からの後方搬送の手順

１－４　DMAT シフト表

２　標準診療手順

３　災害拠点病院、後方搬送関連資料

２－１　後方搬送リスト

２－２　近隣都県拠点病院等キャパシティー

２－３　神奈川、近隣都県病院へリポート情報

４　横浜市内災害医療体制
４－１　横浜市内病院災害対応
４－２　横浜市病院の災害対応計画

５　DMAT の通信体制について
５－１　通信体制
５－２　日赤無線通信配置運用要領
５－３　日赤無線教育スライド
５－４　主要連絡先リスト

６　資器材
６－１　ＤＭＡＴ持参ＮＢＣ資器材
６－２　横浜市災害拠点病院 NBC 対応拮抗薬情報

７　救急医療
７－１　救護所診療報告定型
７－２　空港において傷病者が発生した場合の手順等について

今年度の主要な研究として、東京電力福島第一原発事故への DMAT の対応について DMAT 活動実績をまとめ、課題を抽出した。

DMAT の入院患者移送対応は、福島第一原子力発電所から 20～30km 圏内の病院を対象に 3 月 18 日～22 日に行われた。入院患者 454 名を搬送したが、搬送中の死亡は防げた。DMAT は緊急被ばく医療体制でも重要な役割を果たした。DMAT は原子力発電所からＪビレッジを経由し二次被ばく医療機関、三次被ばく医療機関に分散搬送する流れをサポートする体制を確立した。その為の、研修会の実施といわき市内への DMAT の待機のための派遣を行った。いわき市内への DMAT 派遣は、いわき市立総合磐城共立病院を拠点として、4 月 22 日から 9 月 7 日まで 22 次隊、のべ 127 名が派遣された。

DMAT による住民一時立入り対応においては、中継基地における医療対応を行った。具体的には、会場のコーディネーション、Hot エリアの医療対応を行うとともに、救護班としても活動した。

活動期日は 5 月 3 日から 9 月 2 日のうち 60 日に及び、スクリーニング・健康管理の対象者は 14700 人以上で、さらに傷病者 131 名に対応した。これらの活動を通じて、重篤な傷病の発生、スクリーニングレベルを上回る汚染は、DMAT が活動したところにおいては、ともになかった。

Ｄ　考察

本年度の研究の成果は、ＡＰＥＣの災害体制の構築、東京電力福島第一原発事故対応からの課題の抽出である。

ＡＰＥＣの災害体制の検討を通して、国際会議における本格的な集団災害体制を構築することができた。このことは、今後の同様のイベントにおける集団災害対応体制のモデルとなるものと考えられる。更に、病院支援の際の必要最低限の情報、局地災害対応体制のモデル、病院のＮＢＣテロ体制のモデル、ＤＭＡＴのテロ現場活動体制のモデルを提示した。

本邦の緊急被ばく医療体制は、原子力施設立地道府県の地方自治体毎に構築されており、いくつかの問題が指摘されていた。問題の一つは放射線緊急事態への対応の教育、研修はこれらの地域のみで行われていたことである。さらに、他の災害との連携、整合性に問題があることはたびたび指摘されていた。DMAT が医療搬送を行うことにより、509 名の患者を安全に搬送したことと、住民一時立入りでの DMAT の活動の意義は深かった。

Ｅ　結論

横浜ＡＰＥＣにおける集団災害医療体制の在り方について検討した。その結果、今回の国際会議における本格的な集団災害体制の構築ができた。このことは、同様のイベントにおける集団災害対応体制のモデルになるものと考えられる。更に、病院支援の際の必要最低限の情報、局地災害対応体制のモデル、病院のＮＢＣテロ体制のモデル、ＤＭＡＴのテロ現場活動体制のモデルを提示した。これらのことはテロ対策全般に寄与できる成果であると考えられる。

東京電力福島第一原発事故への DMAT の対応について DMAT 活動実績をまとめ、課題を抽出した。入院患者の避難における医療搬送、一時立ち入りへの対応等、今回の事故対応における DMAT の有効性が確認できた。被ばく医療も災害医療の一つであり、災害医療体制との整合性は必須であることが示唆された。今後は、やはり災害医療体制の中で、緊急被ばく医療もしっかりと位置付けられることが必要である。そのような観点からの緊急被ばく医療体制のあり方について研究していくことが今後は必要である。

F　健康危険情報

特になし

G　研究発表

G．1　論文発表

1) 近藤久禎ら、東京電力福島第一原発事故に対するDMAT活動と課題. 保健医療科学. 2011；第60巻6号：502-509
2) 明石真言：放射線と正しく向き合うために-公衆衛生従事者に必要な基礎知識、公衆衛生、75(11)、pp824-829、2011.11
3) 明石真言、富永隆子、高畠貴志、道川祐市、蜂谷みさを：我が国の緊急被ばく医療の現状と展望、日本臨床、70(3)、pp469-474、2012.3

G．2　学会発表

1) Hisayoshi KONDO, Yuichi KOIDO. Medical Response to Fukushima Nuclear Power Plant Disaster. World Congress on Disaster and Emergency Medicine. June. 2011. Beijing
2) 近藤久禎、市原正行、小井土雄一：東京電力福島第一原発災害における住民対応. 第39回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2011.10
3) 東日本大震災における急性期医療対応. 自由集会：公衆衛生と危機管理　第8回　東日本大震災でのインシデントコマンドシステムの活用. 第70回日本公衆衛生学会総会、秋田、2011.10
4) 近藤久禎、市原正行、小井土雄一：日本大震災におけるDMAT活動と緊急被ばく医療. 第65回国立病院総合医学会. 岡山. 2011.10
5) 飯田薫、黒木由美子、高野博徳、他：東日本大震災・原発事故に関連して発生した急性中毒に関する受信状況と対応. 日本中毒学会東日本地方会（盛岡)、2012年1月21日.
6) 明石真言：被曝による健康調査、シンポジウム「放射線と向き合う-低レベルの影響」(朝日新聞社)、東京、2011.10
7) 明石真言：福島第一原発事故と放射線被ばくについて、医療政策シンポジウム（日本医師会)、東京、2012.3

H　知的財産権の出願・登録状況

H－1　論文発表

特になし。

H－2　学会発表

特になし。

H－3　学会発表

特になし

東京電力福島第一原子力発電所発事故対応
DMAT 報告書

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（自衛隊救急車による中継地点への患者搬送）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（自衛隊救急車による中継地点への患者搬送）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（海上保安庁ヘリによる患者搬送）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（中継地点に参集した救急車）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（中継地点に参集した DMAT・サーベイチーム）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（中継地点で活動する医療チーム・自衛隊・消防・警察等）

福島県での原発 20-30km 圏入院患者避難（中継地点で活動する医療チーム・自衛隊・消防・警察等）

報告書　東京電力福島第一原子力発電所事故に対するDMAT活動と課題

東京電力福島第一原子力発電所事故に対する DMAT 活動と課題

【背景】

災害派遣医療チーム（DMAT）とは、「災害の急性期（４８時間以内）に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム」である。阪神淡路大震災以降、広域医療搬送などの災害医療の担い手として、整備の必要性が指摘されていたが、平成 16 年の新潟県中越地震の教訓から災害時の医療支援を行うための訓練された医療チームの必要性が強く認識され、国による DMAT の整備が開始された。DMAT は「日本 DMAT 隊員養成研修」の修了者により構成される。DMAT は厚生労働省、地方公共団体等からの要請を受けた病院から派遣され、活動内容は、急性期（概ね 48 時間以内）における医療救援活動であり、被災地から被災地外へ患者を搬送する広域搬送や被災地内の医療活動支援を行う。[1)]

日本の緊急被ばく医療体制は、1999 年に発生したウラン加工工場での臨界事故の教訓を受け、初期、二次、三次の被ばく医療体制が構築されている。外来診療を念頭に置いた初期被ばく医療体制、入院加療を行う二次被ばく医療体制、専門的な高度の医療を行う三次被ばく医療体制である。[2)]

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が起こり、それに伴い、東京電力福島第一原子力発電所において、原子力災害が発生した。これは、地震、津波による被害により、東電福島第一原発の 1～4 号機は全電源喪失し、原子炉が冷却機能を失ったことで、環境中に放射性物質が多量に放出される事態となった。政府は、3 月 11 日に、半径 3km 以内の住民に避難命令、10km 圏内の住民に対し屋内待機の指示を行った。3 月 14 日には、３号機の建屋が爆発し、作業員および自衛隊員あわせて 11 人が負傷し、2 号機も冷却機能を消失した。3 月 15 日には、2 号機建屋が損壊し 4 号機の建屋が爆発した。このため、避難、屋内退避の範囲が段階的に拡大されていった。

東京電力福島第一原発事故にける緊急被ばく医療として高線量被ばく・汚染（緊急作業従事者）への緊急被ばく医療対応、住民対応、入院患者の移送対応などが行われた。これらの被ばく医療活動において、DMAT は様々な活動に貢献した。筆者も DMAT の本部要員、派遣隊員としてこれらの活動に参加した。

そこで今回、東京電力福島第一原発事故に対する DMAT の活動について、実績をまとめ、意義を検証する。そして、たびたび大震災を被る本邦において、来るべき次なる大震災に備えて、今後の DMAT 活動、緊急被ばく医療の進歩に資すべく、今回の活動における課題を提示することを目的とした。

【方法】

DMAT は、屋内退避区域の入院患者移送対応、緊急被ばく医療対応においてはその体制支援、住民対応については一時立ち入り対応を行った。

屋内退避区域の入院患者移送対応については、本部の統括者、各チームから以下のフォーマットに従って活動記録を集めた。

本部用

１．　活動期間
２．　活動場所
３．　メンバー：本部のメンバーと活動期間
４．　管轄区域の被災状況、病院の患者状況
５．　活動
　　①　　活動概要：主な活動内容を提示
　　②　　経時的活動記録
　　③　　管下の DMAT の活動期間と活動場所（拠点、SCU、域外本部）
　　④　　対応した患者状況・リストと搬送状況
６．　活動の評価と今後の問題点（できたこと、できなかったこと）
　　①　　活動内容別に評価と問題点を提示
７．　まとめ（今後に向けての提言を含む）

各チーム

１．　活動期間
２．　活動場所
３．　メンバー
４．　支援先の状況（病院、現場など）
５．　活動
　　①　　活動概要
　　②　　経時的活動記録
　　③　　対応した患者集計・リスト
　　④　　患者搬送状況
６．　活動の評価と今後の問題点（できたこと、できなかったこと）
７．　まとめ（今後に向けての提言を含む）

また、緊急被ばく医療体制支援、住民対応については一時立ち入り対応については、各チームからの日報を集めた。日報は以下の項目をカバーしている。

活動日、活動内容、活動場所、メンバー、経時活動記録、対応した傷病者・住民情報

これらの活動記録、日報を基に、実績をまとめた。更に、活動の実績、本部、各チームから挙げられている課題を抽出した。

【結果】

DMAT の入院患者移送対応

3 月 12 日に政府は、半径 20km 以内に避難指示を出した。これに伴い、この地域の医療機関の入院患者の移送が行われた。しかし、混乱の中、医療の管理下における搬送、医療搬送が行われなかった結果、多くの命が失われた。この搬送活動に、携わった南会津病院救護班の活動記録を表 1 に示す。一つの中継地点となった高校で、計 10 名の患者が亡くなった。また、3 月 15 日、16 日にもそれぞれ 30 名程度の搬送先の未決定患者が発見され、併せて 5-6 名の患者の死亡が確認されている。（表 2）

ところがこのような事態が、再度福島で起こりつつあった。3 月 15 日に政府は、半径 20～30km 圏内に屋内退避指示を出した。本来、屋内退避とは、避難よりは一段落低く、通常の生活を送ることは問題ないとされる地域であった。しかし、現実は、全く異なった。すべての物資の流通はとまり、救助者の立ち入りも少なくなった。その結果、この地域は、町としての機能を失った。それに伴い、病院も入院診療継続困難となった。そこには、病院の床数は、約 1000 床であった。これらの病院の入院患者を 1 日でも早く避難させる必要が生じた。そこで、3 月 16 日から検討に入った。医療搬送の枠組み作り、搬送先の調整などを経て、3 月 17 日に DMAT を再度要請し、翌 3 月 18 日からこの入院患者移送のための医療搬送を開始した。

搬送は、中継地点を設け、そこまでは自衛隊の搬送手段で搬送された。中継地点においては、放射線のサーベイチームにより、サーベイが行われ、その後、DMAT によりトリアージ、応急処置、搬送車両・航空機への同乗が行われた。

搬送は、3 月 18 日から 22 日にかけて行われた。3 月 18 日には、飯館村公民館に中継基地を設け、DMAT5 チームにより 51 名の入院患者の搬送が行われた。19 日には、川俣高校及びいわき光洋高校に中継基地を設け、DMAT5 チームにより 230 名の入院患者の搬送を行った。20 日には、サテライト鹿島や海上保安庁艦船「伊豆」の甲板に中継地点を設け、ヘリコプターを用いて DMAT11 チームにより 27 名の患者の移送を行った。21 日には、サテライト鹿島及びいわき光洋高校に中継基地を設け、DMAT14 チームにより 85 名の患者の移送を行った。22 日には、サテライト鹿島に中継基地を設け、DMAT2 チームにより老健施設の患者 61 名の移送を行った。（図 1）（写真 1）（表 4）

最終的に、入院患者 454 名を搬送したが、搬送中の死亡は防げた。

DMAT の緊急被ばく医療体制への支援

本災害においては、福島県内の 6 つの初期被ばく医療機関のうち、3 医療機関が避難区域内の病院となり、さらに残りの医療機関も地震と津波の被害により通常の医療機関としての機能を十分に発揮できなくなったことも相まって、再構築を余儀なくされた。そこで、政府現地対策本部医療班と日本救急医学会を中心として、原発作業員や防災関係者の拠点となっていた J ビレッジに初期被ばく医療の代替となる診療機能が構築さ

れた。その結果、J ビレッジにおける初期被ばく医療、福島県立医科大学における二次被ばく医療、放射線医学総合研究所（以下、放医研）における三次被ばく医療という、福島県における被ばく医療体制が再構築された。

DMAT は、この被ばく医療体制を強化し、また原子炉の状況が不安定であり、余震もたびたび発生していたため、多数傷病者の発生に備え、活動した。原発における多数傷病者発生時における患者の流れを図 2 に示す。まずは、患者を J ビレッジまで搬送し、そこで、トリアージを受け、福島県立医科大学、茨城県の二次被ばく医療機関に分散搬送する。更に多数の傷病者が発生した場合、関東の放医研の協力協定締結医療機関や宮城県の被ばく医療機関が受け入れる。この全体の流れを DMAT がサポートする体制を構築した。J ビレッジの緊急被ばく医療体制としては、当初日本救急医学会から推薦された医師、広島大学の医師、放医研の放射線管理要員、東京電力病院の医師と看護師そして東京電力職員で構成されており、必要に応じて陸上自衛隊中央即応集団が支援するというものであった。一方で想定された被ばく傷病者数は 100 名を超えるものであり、そうした事態への迅速な対応のため、いわき市内に DMAT 1 チームを派遣し、多数傷病者発生時には J ビレッジに出動できるよう待機にあたった。その上で、東北、関東の DMAT には事故発生時に緊急派遣できる体制の確保を呼びかけた。

この体制を確保すべく、東電福島第一原発における多数傷病者発生時に対応する DMAT が活動の全体像を共有し、DMAT 隊員の安全確保の手段、汚染患者への診療に習熟することを目的に、研修会を開催した。(表 3)　対象者は、福島原発多数傷病者事故対応に係わる可能性のある DMAT 隊員、つまりは、待機のための派遣される DMAT 及び東北、関東等の被ばく医療施設、NBC 研修受講施設の DMAT 隊員とした。内容は、福島原子力災害対応について、J ビレッジにおける対応について、福島原子力災害対応 DMAT 活動について、放射線の人体影響、放射能汚染患者への診療、内閣府施設見学、今後の準備計画についてのディスカッションであった。

いわき市内への DMAT 派遣は、いわき市立総合磐城共立病院を拠点として、4 月 22 日から 9 月 7 日にかけて、22 次隊, のべ 127 名が派遣された。派遣された DMAT は、NBC テロ研修受講済みであり、上記の追加講習を受けた DMAT とされ、多数傷病者・被ばく汚染患者対応準備、東電作業者等の傷病者対応、いわき市立総合磐城共立病院支援、住民一時立入り中継所の救護班活動等の活動を行った。

各チームの活動詳報を別紙資料にまとめた。

DMAT による住民一時立入り対応

2011 年 4 月 22 日以降は、福島第一原子力発電所から 20 キロ圏内が警戒区域に指定され、住民の立ち入りが原則禁止されている。一方、着の身着のままで避難してきた住民から一時立入りについて強い要望があった。しかし、20 キロ圏内はある程度の外部被ばく、多少の汚染の可能性があり、無防備に侵入すべき地域ではないため、政府の管

理下での安全を確保した上で、一時立入りが実施された。

一時立入りの流れを図 3 に示す。住民は、まず、中継基地に集合し、ブリーフィングを受けるとともに、医療チームによる健康チェックを受け、個人線量計と防護服を着装する。その後、バスに乗り、20 キロ圏内に入り、自宅に一時帰宅をする。2 時間経過後に、バスは住民を迎えに行く。中継基地まで戻ると、健康状態の確認、汚染検査を受け、その後、防護服を脱衣し、個人線量計の値を確認して、被ばく線量を確認する。

この住民一時立入りにおける政府の現地対策本部医療班の主な役割は、スクリーニングエリアを中心とした会場のコーディネーション、Hot エリアの医療対応、立入りの住民の被ばく線量の確認、および救護所対応であった。当初は、最大時、1 日に 3 カ所の中継基地、バス 50 台を使い、1000 人の住民の一時立入りを行っており、これらの活動のためには、多くの人員が必要であったため、様々な機関に支援を要請した。

中継会場 1 カ所当たり、会場のコーディネーション、Hot エリアの医療対応要員として 5 名程度、救護班として 3〜5 名程度、スクリーニングチームとして 40〜50 人程度の人員が必要であった。会場のコーディネーション、Hot エリアの医療対応は政府現地対策本部医療班と放医研、広島大学、弘前大学、災害医療センターといたった被ばく医療機関等が担い、立入り前と汚染検査後の医療対応としての救護班は日本赤十字社、国立病院機構が担い、スクリーニングチームは、電気事業者連合会、国立大学、自治体からの派遣チームが担当した。DMAT は救護班として活動しつつ、時には会場のコーディネーションも実施した。また、災害医療センターと同じ会場での活動であった場合は、Hot エリアでの医療対応にもあたることになっていた。

DMAT は、広野体育館，古道体育館におかれた中継基地で、立入り前住民問診と予防活動、スクリーニング会場管理、傷病者発生時の対応等の活動に従事した。（写真 2）活動期日は 5 月 3 日から 9 月 2 日のうち 60 日に及んだ。スクリーニング、健康管理の対象者は、14700 人以上（住民約 11000 人以上、関係者約 3700 人以上）に及んだ。救護所活動としては、131 名対応、4 名病院紹介（うち 3 名救急搬送）した。主な傷病は、熱中症，頭痛，釘刺傷，動物咬傷であった。これらの活動を通じて、重篤な傷病の発生、スクリーニングレベルを上回る汚染は、ともになかった。

【考察】

緊急被ばく医療における DMAT 活動の意義

患者の搬送には医療の管理下で行う必要がある。DMAT の教育においては、患者の救命のためには、間断なき医療を実施しながら搬送する医療搬送を行う必要があり、それが大きな役割であるとされている。[3) 4) 5)] 20 キロ圏内の避難においては、当初状態が安定している入院患者であっても、このような医療搬送がなされなかった場合、多くの防ぎえた死亡が発生することが明らかとされた。[6)] このような中で、DMAT が医療搬送を行うことにより、454 名の患者を安全に搬送したことは、この医療搬送の有用性

が確認されたとともに、DMAT の活動の意義は深かったものと考察される。

DMAT の緊急被ばく医療体制への支援は、政府現地対策本部医療班と日本救急医学会を中心とした J ビレッジの初期被ばく医療、福島県立医大における二次被ばく医療、放医研における三次被ばく医療を強化する目的で行われた。幸いなことに、重篤な傷病者、多数の傷病者の発生はなかったが、多数傷病者の発生を想定した場合、DMAT による準備が必須であったことは自明である。

住民一時立入り対応においては、DMAT は被ばく医療の管理、医療の双方においてその役割を発揮した。これらの人員確保が決して容易ではない中で、その双方の役割を果たしたことは、活動の安定的な実施体制の確立に十分に寄与したものと考えられる。また、事前の健康チェックにより、一時立入りの健康リスクの軽減には貢献しえたものと考えられる。更に、避難している住民の方々は、必ずしも国や東電に良い感情を抱いているわけでもない状態で、DMAT 等医療班が中立的な役割を担っていいたことは、この活動全体を支える上で、大きな意義があったものと考えられる。

今後の課題

今回、このように DMAT が東京電力福島第一原発事故に対する緊急被ばく医療に対応したが、これはあらかじめ計画されていたことではなかった。DMAT は主に自然災害に出ることになっており、過去には、北海道洞爺湖サミットや横浜 APEC において、十分に訓練した DMAT に対して、国が直接派遣を要請し、会場にて待機するという活動を行った経験はあったものの [7)-10)]、原子力災害や NBC 災害への出動については整理されていないのが現状である。

そこで、今回、このような派遣を行う上で、その枠組み作りが問題となった。20〜30 キロ圏内の入院患者の移送対応については、これが大きな問題となった。DMAT の活動は終了したばかりであり、都道府県に救護班を依頼して行うというアイディアも出たが、DMAT 以外に緊急に動員でき、現場で組織的な医療搬送をできるものはいなかった。福島県緊急被ばく医療調整本部、DMAT 事務局、厚労省で、2 日かけて議論した結果、地震・津波とは異なる新たな原子力災害の発生に対して、安全を確保できた地域で活動することを前提とした DMAT 派遣要請が行われた。しかし、結果的には入院患者の生命には影響はなかったと考えられはするものの、入院患者避難の猶予がほとんどない中で、このような枠組み作りの議論に 2 日を要してしまったことは、大きな課題である。

また、一時立入りについては、発災後約 2 カ月たってからの開始であった。このころは、サーベイチームや救護班の支援がいったん落ち着いた時期になっていたため、要員の確保は大きな課題となった。原子力災害の特殊性もあり、国直轄の事業となったため、福島県の関与が不十分となった結果、資源の動員の仕組みがなく、新たな枠組み作りが必要となった。その一方で、開始の決定から実施まで十分な時間がない中で、国が声を

かけやすい資源、すでに現地に展開している資源（DMAT、電事連）を動員し、枠組み、依頼は後付けとなった。このような現地のボランティア精神にのみ負担が行くような運営は、問題があるものと考えられる。

現在、本邦において、組織的かつ迅速に活動できる災害の専門家集団は、DMAT しかない。危機に際しては、対応可能な人・組織が活動することになる。今回は、平時には活動しないこととなっていた原子力災害に対応するかの枠組みを決める議論に多大な時間を空費した。やらなければならないことが想定される事項に関しては、平時から体制整備が必要であることが改めて認識された。

本邦の緊急被ばく医療体制は、文部科学省がその所管となっているため、他の災害との連携、整合性に問題があるとはたびたび指摘されていた。[11] 今回の対応から、緊急被ばく医療も災害医療の一つであり、災害医療体制との整合性は必須であることが示唆された。今後は、やはり厚生労働省を中心とした災害医療体制の中で、緊急被ばく医療もしっかりと位置付けられることが必要である。そのような観点からの緊急被ばく医療体制のあり方について検討していくことが必要であると考えられる。

【文献】

1） Kondo H, Yuichi Koido, Kazuma Morino, Masato Homma, Yasuhiro Otomo, Yasuhiro Yamamoto, Hiroshi Henmi. Establishing Disaster Medical Assistance Teams (DMAT) in Japan. Prehosp Disaster Med. Nov-Dec; 24(6):556-564, 2009

2） 原子力安全委員会　原子力発電所等周辺防災対策専門部会：緊急被ばく医療のあり方について．平成 23 年 5 月 6 日

3） 日本集団災害医学会監、日本集団災害医学会 DMAT 編集員会編．DMAT 標準テキスト：へるす出版，2011.2

4） 判田乾一．大規模震災発生時の広域医療搬送計画について．日本集団災害医学会誌．2006．11 巻 1 号：1-6

5） 判田乾一．東南海・南海地震発生時の広域医療搬送計画について．日本集団災害医学会誌．2007．12 巻 2 号：137-143

6） 谷川攻一ら．福島原子力発電所事故災害に学ぶ－震災後 5 日間の医療活動から－．日本救急医学会雑誌．2011．第 22 巻第 9 号：782 - 791

7） 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）研究報告書. 北海道洞爺湖サミットに向けての、救急・災害医療体制の構築に関する研究．主任研究者浅井康文．平成 20 年 3 月

8） 本間正人ら．災害医療体制の構築．日本集団災害医学会誌．第 13 巻第 2 号．2008．158-162

9） 近藤久禎ら．サミットにおける現地対策本部活動．日本集団災害医学会誌．第

13 巻第 2 号. 2008. 172-176
１０） 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）平成 22 年度総括研究報告書. CBRNE テロ対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究. 研究代表者近藤久禎. 平成 23 年 3 月
１１） 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合研究事業）平成 18 年度研究報告書. テロに対する医療体制の充実及び評価に関する研究. 主任研究者大友康裕. 平成 19 年 3 月

表 1

	活動記録	
0:00	いわき光洋高校到着	【128名、うち死亡者2名】
	歩行可能患者・・・教室で待機中	※患者は約24時間以上飲食してなく、オムツも交換していない
	重症患者・・・自衛隊バスで待機中	4月21日
3:00	体育館への搬入完了	5月 5日
5:30	小高赤坂病院精神科患者66名搬入	5月12日
(6:14)	(福島第1原発4号機で爆発)	
6:20	双葉厚生病院のバス到着(47名)	
8:00	人足がいないため、ラジオでボランティアを募ることとして、ラジオ局に連絡	
9:00	いわき市民のボランティア、支援物資が続々と集	
10:00	会津4病院で計80名の精神科病棟での受け入れが決定	
11:30	患者を搬出開始。	
11:30	南会津病院救急車にて老健施設サンライフ湯本へ患者2名を搬送	
14:00	会津総合病院と会津西病院に向け、38名出発	
16:00	バス2台到着→竹田病院、医大、会津西病院への患者のバス搬入開始	
	鹿島病院看護師(ボランティア)2名到着、申し送り	
16:30	いわき光洋高校出発	【最終死亡者 計10名】

表 2

3月15日

22:00	搬送先未定のバス1台発見される。
23:00	県対策本部救援班と調整し、老健施設での受入、当直医師を派遣(2名の死亡を確認)

3月16日

11:00	男女共生センター(二本松)で双葉からの避難患者35名発見。あづま運動公園に日赤救護所設置依頼
12:45	福井県立病院、収容のため出発
13:48	共生センターで患者発見できず。
14:25	35人が二本松城の駐車場で発見。
14:30	福井県立病院、再度出発
15:50	患者のあづま総合体育館への搬送準備完了
16:52	現状報告。2名死亡、3名搬送(内CPA1名)
18:45	あづま運動公園へ搬送された方のうち1名が

表 3

原発事故対応DMAT研修会

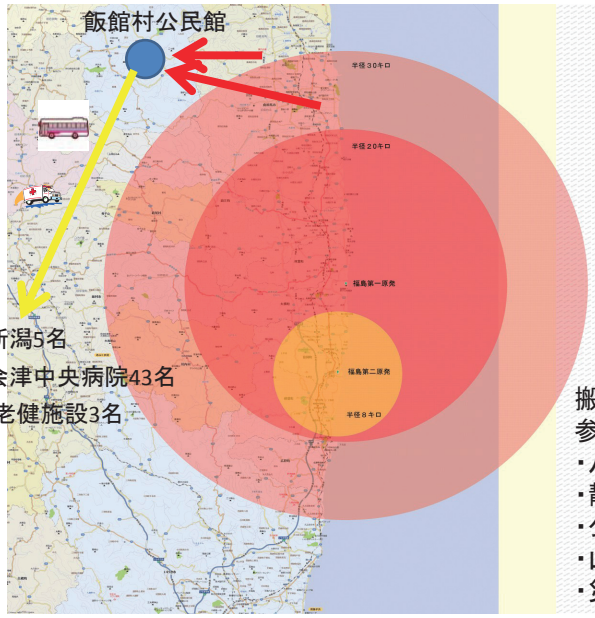
回数	場所	開催日	施設数	人数
1	災害医療センター(東京)	4月21日	27	102
2	福島県立医科大学(福島)	5月 5日	4	18
3	水戸医療センター/茨城県立中央病院(茨城)	5月12日	7	12
合計	3カ所	3日	38	132

表 4

搬送患者

月日	搬出基病院	中継地点	搬送先病院・拠点	搬送手段	搬送人数	計
3月18日	南相馬市病院A	4月21日	総合会津中央病院	バス	43	
	南相馬市老健施設A	5月 5日	福島県内老健施設	バス	3	
	南相馬市病院B	5月12日	7	緊急消防援助隊	5	51
3月19日	広野町病院A	いわき光洋高校	埼玉県内5カ所の医療機関	バス	32	
	南相馬市病院B	川俣高校	新潟県消防学校	緊急消防援助隊	20	
	南相馬市病院B	川俣高校	新潟県消防学校	バス	29	
	南相馬市病院B	川俣高校	福島県立医科大学	緊急消防援助隊	8	
	南相馬市病院C	川俣高校	自治医科大学	バス	28	
	南相馬市病院C	川俣高校	とちぎリハビリテーションセンタ-	バス	32	
	南相馬市病院C	川俣高校	福島県内老健施設	バス	18	
	南相馬市病院C	川俣高校	福島県立医科大学	緊急消防援助隊	1	
	南相馬市病院D	川俣高校	前橋赤十字病院	バス	61	
	南相馬市病院D	川俣高校	前橋赤十字病院	緊急消防援助隊	1	230
3月20日	南相馬市病院B	相馬港	新潟市民病院	ヘリ	8	
	福島県立医科大学	ー	新潟市民病院	ヘリ	6	
	福島県立医科大学	ー	新潟？	緊急消防援助隊		
	南相馬市病院D	サテライトかしま	福島県立医科大学	ヘリ	9	
	南相馬市病院D	サテライトかしま	福島県立医科大学	自衛隊救急車	4	
		サテライトかしま	新潟？	緊急消防援助隊	22	
		サテライトかしま	栃木	自衛隊救急車	31	80
3月21日	広野町病院A	いわき光洋高校	茨城県内医療機関	自衛隊救急車	20	
	広野町病院A	いわき光洋高校	茨城県内医療機関	DMAT車両	2	
	南相馬市病院D	サテライト鹿島	群馬県立産業技術センター	自衛隊救急車	21	
	南相馬市病院D	サテライト鹿島	群馬県立産業技術センター	緊急消防援助隊	8	
	南相馬市病院D	サテライト鹿島	群馬県内医療機関	緊急消防援助隊	20	
	南相馬市病院D	サテライト鹿島	福島県立医科大学	緊急消防援助隊	1	
	福島県立医科大学	ー	群馬県立産業技術センター	緊急消防援助隊	13	85
3月22日	南相馬市老健施設B	サテライト鹿島	栃木県小山市内老健施設	緊急消防援助隊	20	
	南相馬市老健施設B	サテライト鹿島	福島県内医療機関	緊急消防援助隊	4	
	南相馬市老健施設C	サテライト鹿島	福島県内医療機関	緊急消防援助隊	2	
	南相馬市老健施設C	サテライト鹿島	新潟県長岡市内老健施設	福祉車両	35	61
						507

図1－1



3月18日

搬送患者数　51名
参加DMAT
・八戸市立市民病院
・静岡医療センター
・公立昭和病院
・山梨赤十字病院
・災害医療センター

図1－2

3月19日

搬送患者数：230名
参加DMAT
川俣高校
・八戸市立市民病院
・静岡医療センター
・公立昭和病院
・山梨赤十字病院
・筑波メディカルセンター
いわき光洋高校
・災害医療センター

図1－3

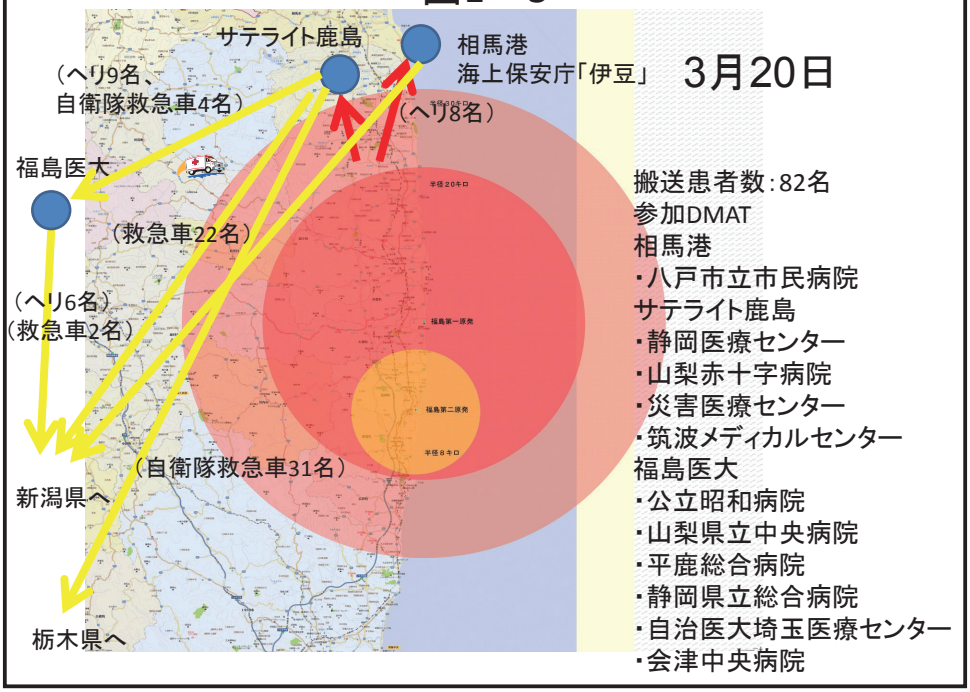

サテライト鹿島
相馬港
海上保安庁「伊豆」
3月20日
（ヘリ9名、
自衛隊救急車4名）
（ヘリ8名）
福島医大
（救急車22名）
（ヘリ6名）
（救急車2名）
（自衛隊救急車31名）
新潟県へ
栃木県へ
搬送患者数：82名
参加DMAT
相馬港
・八戸市立市民病院
サテライト鹿島
・静岡医療センター
・山梨赤十字病院
・災害医療センター
・筑波メディカルセンター
福島医大
・公立昭和病院
・山梨県立中央病院
・平鹿総合病院
・静岡県立総合病院
・自治医大埼玉医療センター
・会津中央病院

図1－4

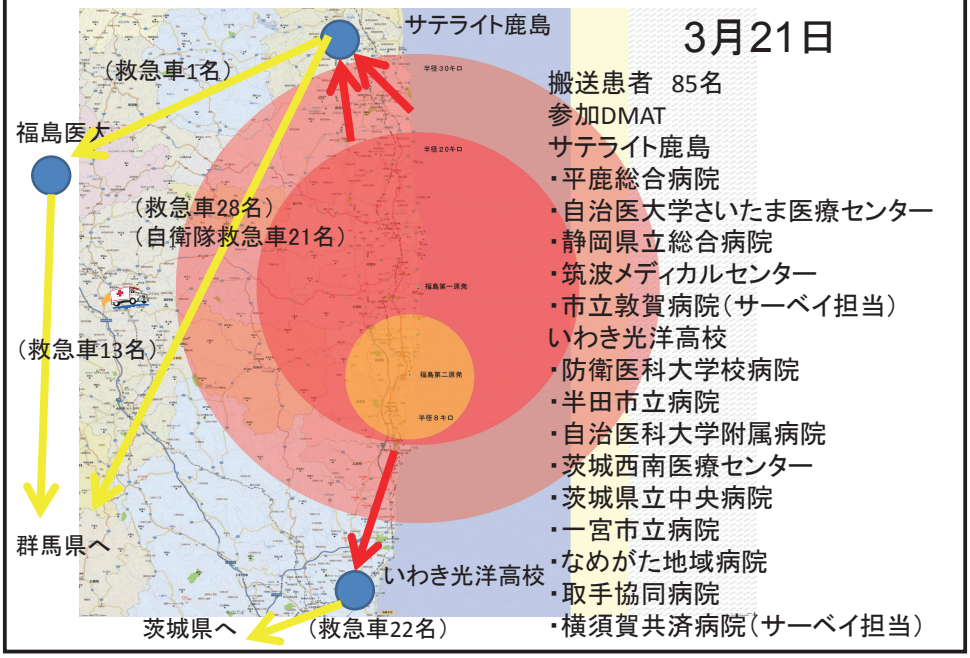
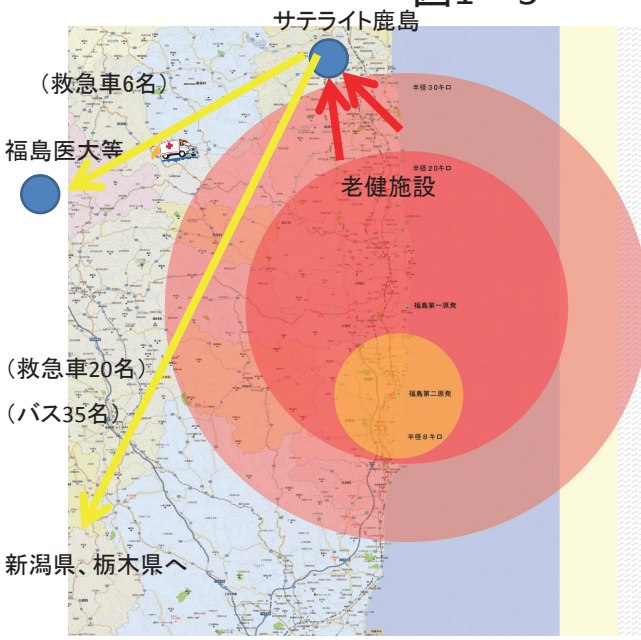

サテライト鹿島
3月21日
（救急車1名）
福島医大
（救急車28名）
（自衛隊救急車21名）
（救急車13名）
群馬県へ
いわき光洋高校
茨城県へ
（救急車22名）
搬送患者　85名
参加DMAT
サテライト鹿島
・平鹿総合病院
・自治医大学さいたま医療センター
・静岡県立総合病院
・筑波メディカルセンター
・市立敦賀病院（サーベイ担当）
いわき光洋高校
・防衛医科大学校病院
・半田市立病院
・自治医科大学附属病院
・茨城西南医療センター
・茨城県立中央病院
・一宮市立病院
・なめがた地域病院
・取手協同病院
・横須賀共済病院（サーベイ担当）

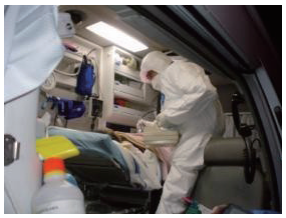
図1－5



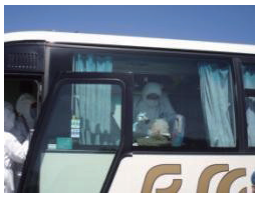
3月22日

搬送患者　61名
参加DMAT
サテライト鹿島
・防衛医科大学校病院
・半田市立病院
・茨城西南医療センター

写真1：入院患者移送


救急車内でのサーベイ

自衛隊救急車からの乗り換え


バス車内でのサーベイ

救急車による搬送

待機する救急車

海上保安庁ヘリによる搬送

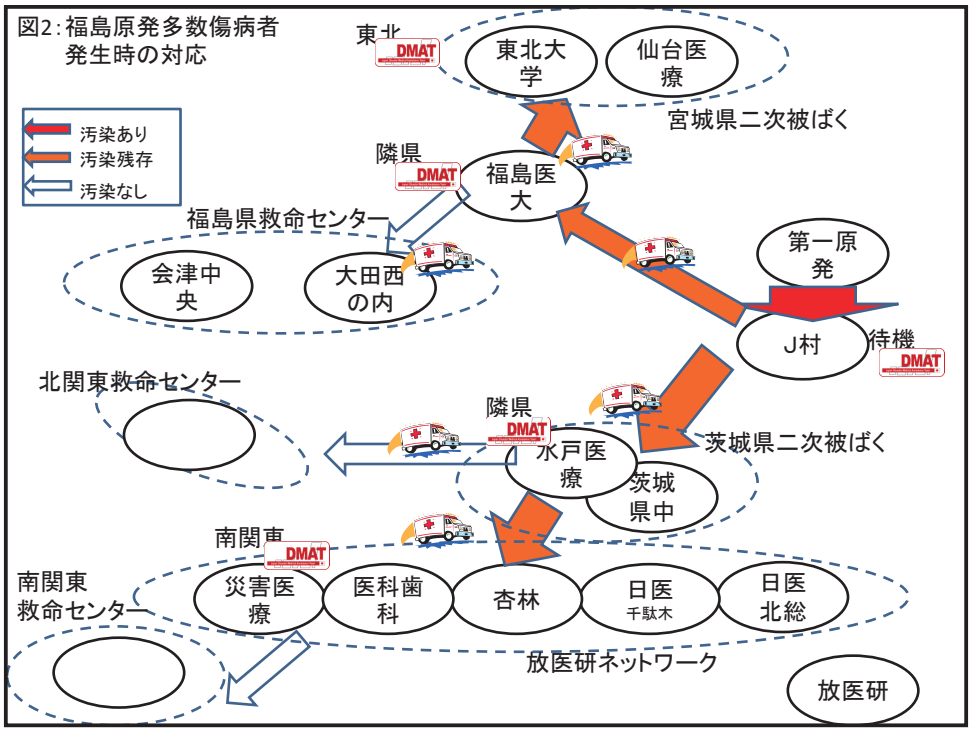


図2:福島原発多数傷病者
発生時の対応
東北
DMAT
東北大学
仙台医療
宮城県二次被ばく
汚染あり
汚染残存
汚染なし
隣県
DMAT
福島医大
福島県救命センター
会津中央
大田西の内
第一原発
J村
待機
DMAT
北関東救命センター
隣県
DMAT
水戸医療
茨城県二次被ばく
茨城県中
南関東
DMAT
南関東
救命センター
災害医療
医科歯科
杏林
日医
千駄木
日医
北総
放医研ネットワーク
放医研

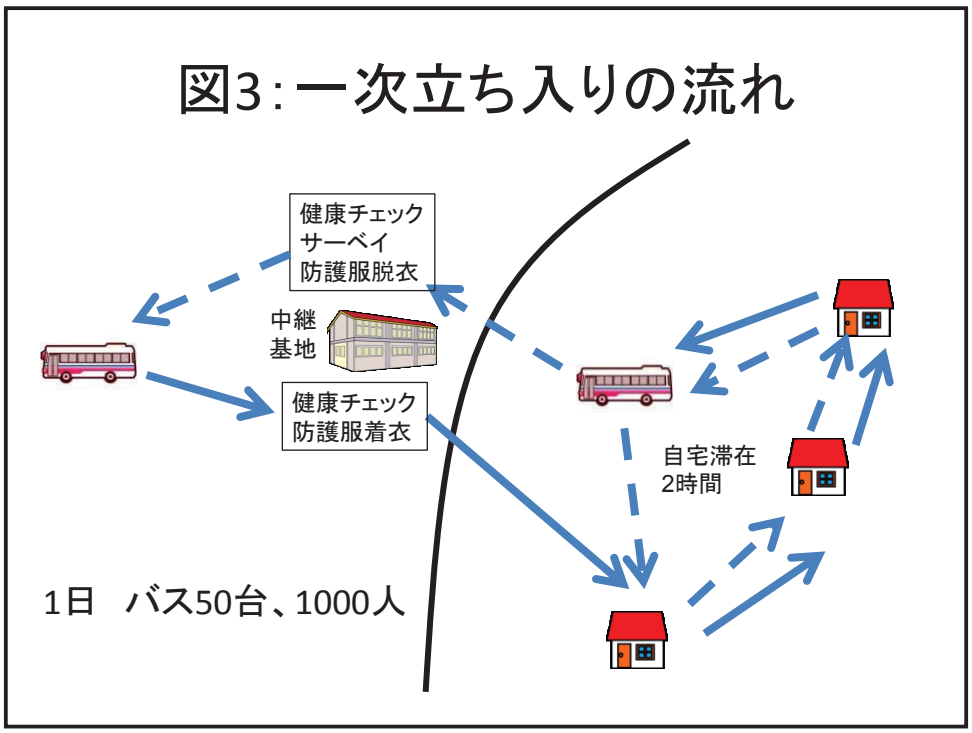


図3:一次立ち入りの流れ
健康チェック
サーベイ
防護服脱衣
中継
基地
健康チェック
防護服着衣
自宅滞在
2時間
1日　バス50台、1000人

写真2

資料

DMAT いわき派遣活動報告

いわき待機DMAT派遣スケジュール

隊次	日程	都道府県	派遣DMAT
先遣隊	4月22日（金） ～ 4月25日（月）	東京都	国立病院機構災害医療センター
第1次隊	4月25日（月） ～ 5月1日（日）	愛媛県	愛媛県立中央病院
第2次隊	5月1日（日） ～ 5月7日（土）	佐賀県	佐賀DMAT（佐賀大学医学部附属病院、佐賀県立病院好生館）
第3次隊	5月7日（土） ～ 5月13日（金）	東京都	国立病院機構災害医療センター
第4次隊	5月13日（金） ～ 5月19日（木）	神奈川県	みなと赤十字病院
第5次隊	5月19日（木） ～ 5月25日（水）	混成	混成チーム(平鹿総合病院、済生会宇都宮病院、川崎市立川崎病院、愛知医科大、京都第一赤十字病院)
第6次隊	5月25日（水） ～ 5月31日（火）	東京都	東京医科歯科大学
第7次隊	5月31日（火） ～ 6月6日（月）	茨城県	JAとりで総合医療センター
第8次隊	6月6日（月） ～ 6月12日（日）	東京都	日本医科大学付属病院
第9次隊	6月12日（日） ～ 6月18日（土）	神奈川県	横浜労災病院
第10次隊	6月18日（土） ～ 6月24日（金）	神奈川県	横浜市立大学附属市民総合医療センター
第11次隊	6月24日（金） ～ 6月30日（木）	埼玉県	川口市立医療センター
第12次隊	6月30日（木） ～ 7月6日（水）	神奈川県	秦野赤十字病院
第13次隊	7月6日（水） ～ 7月12日（火）	群馬県	前橋赤十字病院
第14次隊	7月12日（火） ～ 7月18日（月）	神奈川県	藤沢市民病院
第15次隊	7月18日（月） ～ 7月24日（日）	愛知県	愛知医科大学
第16次隊	7月24日（日） ～ 7月30日（土）	大阪府	大阪府済生会千里病院
第17次隊	7月30日（土） ～ 8月5日（金）	滋賀県	草津総合病院
第18次隊	8月5日（金） ～ 8月11日（木）	兵庫県	兵庫医科大学
第19次隊	8月11日（木） ～ 8月17日（水）	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院
第20次隊	8月17日（水） ～ 8月23日（火）	長野県	相澤病院
第21次隊	8月23日（火） ～ 8月29日（月）	兵庫県	兵庫県災害医療センター
第22次隊	8月29日（月） ～ 9月4日（日）	千葉県	日本医科大学千葉北総病院
撤収隊	9月4日（日） ～ 9月7日（水）	東京都	国立病院機構災害医療センター

先遣隊　国立病院機構災害医療センター

2011 年 4 月 22 日

いわき待機 DMAT 先遣隊日報

参加者：田邉、大野

11:15　災害医療センター発いわきに向かう
15:15　いわき市総合磐城共立病院　到着
15:30　病院長との面会
　　今後ＤＭＡＴに入る理由や意味について説明
　　院長先生から現状の説明後、部屋の提供を受ける。

　　提供された部屋　旧泌尿器病棟　2 階　南向き　人間ドックＡ室
　　部屋　約 4 畳半のベットルーム 2 つに前控室１２畳
　　ベランダに直接出られるドア有、
　　インターネット可（エアー）　テレビ、電気ポット、

16:30　仮事務所　設営
18:00　関係機関への連絡
　　J ヴィレッジ医療班（郡山先生)、
　　オフサイトセンター（岩崎先生)、
　　福島医大（島田先生）
19:00　田邉先生は当直室に向かう

明日の予定
　朝　J ヴィレッジ訪問、朝ミーティングに参加予定
　午後　福島県庁　オフサイトセンター　表敬

2011年4月23日

いわき待機 DMAT 先遣隊日報

出張者：田邉、大野

０８：００　磐城共立病院　ホテル探し
０８：４０　病院出発
００：２５　J ヴィレッジ到着
１０：００　J ヴィレッジ医療班のミーティングにオブザーバー参加
　　先日行った緊急対応の反省（特に搬送前除染について）
　　要員交代の連絡
　　参加機関：救急医学会　統括医師
　　広島大学、放医研、自衛隊、東電医師、東電事務
　　１３時に東電保安班を交えて除染能力準備について確認
１１：００　J ヴィレッジ内視察
　　一次隊の宿泊先予約
１３：００　東電保安班との意見交換
　　除染設備の能力、
　　消防の建てた除染テント2張り（立ち４、寝１）※ノルメカテント
　　日赤除染テント１（立ち４）　※アキレスエアーテント型
　　自衛隊除染テント及び除染車両
１４：００　J ヴィレッジ出発
１６：００　福島県庁到着　OFC 到着
　　医療班と打合せ
　　DMAT の立ち位置に着いて調整
　　自治会館にて地震対策本部医療班訪問
１９：２０　県庁発
２１：１５　いわき着

明日の予定
　午前　　J ヴィレッジの医療班ミーティングに参加
　午後　　福島医大　島田先生と打合せ

懸案事項
　2次隊以降の宿舎の手配
　レンタカーの手配／緊急車両の登録

2011年4月24 日

いわき待機 DMAT 先遣隊日報

出張者：田邉、大野

０８：００　磐城共立病院　事務作業
０８：３０　病院出発
００：１５　J ヴィレッジ到着
１０：００　J ヴィレッジ医療班のミーティングにオブザーバー参加
　　要員交代の連絡
　　参加機関：救急医学会　統括医師
　　広島大学、放医研、自衛隊、東電医師、東電事務

　　MCA 無線テスト（DMAT 事務局と交信）窓際でアンテナⅡ
　　放医研から個人線量計5台借りる。(PDγ-182,186,189,190,191）
　　※電離箱式サーベーメーターについては専門家の見地から必要なく、これで計れる様な高放出量であれば、個人線量計がみるみる上がるので必要ない。
１２：００　J ヴィレッジ　発　J ヴィレッジから福島医大　１４０km　約２時間
１４：２０　福島医大　着
　　島田先生と南相馬の救急搬送業務について意見交換
　　福島医大の受け入れ態勢の視察
１６：００　福島県庁到着　オフサイトセンター　医療班と打合せ
　　谷川先生と J ヴィレッジにおける DMAT 地位の確立の為の周知方法
　　自治会館にて地震対策本部医療班訪問　大竹氏　小谷氏
　　MCA 無線テスト　窓際であればアンテナⅠor　Ⅱ
１７：００　県庁発
１９：３０　ホテルの確認
　　一次隊　湯本　ホテル美里
　　5月１日　ー　一ヶ月　平ビューホテル　5部屋　予約済み

明日の予定
　午前　　J ヴィレッジの医療班ミーティングに参加
　午後　　一次隊受入れ準備

個人線量：　　田邉４μSv　　大野４μSv

懸案事項
　注意事項／マニュアルの作成等
　レンタカーの手配／緊急車両の登録

2011年4月25 日

いわき待機 DMAT 先遣隊日報

出張者：田邉、大野

０８：００　磐城共立病院　事務作業
０８：４５　病院出発
００：３０　J ヴィレッジ到着
１０：００　J ヴィレッジ医療班のミーティングに参加
　　要員交代の連絡
　　参加機関：救急医学会　統括医師　寺澤先生　福井大
　　　　広島大学、放医研、自衛隊、東電医師、東電事務、原子力保安
　　除染訓練について明日午後行う予定
　　昨日の患者数8名　（感冒・花粉症他）
　　広野火力発電所稼働の為作業員が入るがその際に第一原発での作業と混同されないように注意（搬送の際拒否される可能性が多い）
１０：２５　愛媛県立中央病院　森實先生から東京を出発するとの報告有

１２：００　J ヴィレッジ　発　一般道にて広野町、四倉を視察をしながらいわきに戻る
１３：４５　いわき共立病院　着
１４：４５　愛媛県立中央 DMAT チーム　到着
　　病院内待機所にてブリーフィング
　　病院関係者に挨拶
　　防護服装着訓練
　　個人線量計配布、管理
　　明日以降の打ち合わせ
１９：００　愛媛県 DMAT　ホテルへ移動

明日の予定
　午前　　J ヴィレッジの医療班ミーティングに参加
　午後　　一次隊受入れ準備

個人線量：　　田邉６μSv　　大野５μSv

レンタカーの手配懸案
　いわき市内のレンタカーに問い合わせをしたが、J ヴィレッジに使う車両は貸し出さないと言われた。この為、DMAT 事務局に依頼、月単位でのレンタカーを東京で借り上げ、緊急車両等協力車両登録をし、2次隊の佐賀チームに東京から乗ってきてもらうことが可能か確認依頼

第１次隊　愛媛県立中央病院

2011年4月25 日

福島オペレーション

出張者：愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

１０：２５　都内のホテルを福島へ向けて出発

１４：４０　磐城共立病院に到着

１４：２５　磐城共立病院内にて救命救急東京研修所の田邉医師と厚生労働省 DMAT 事務局の大野調整員から、今後の活動についての説明と業務引継ぎを受ける。

磐城共立病院の院長、救命救急センター長、事務長、看護師長等にあいさつまわり

ミーティング

１９：０５　本日の磐城共立病院での業務を終了

2011年4月26日

福島オペレーション

出張者：田邉、大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：００　磐城共立病院　打ち合わせ
０８：３０　磐城消防本部経由でＪヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（田邉・濱見・武田）
０８：３５　災害医療センターＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線通信テスト
０８：４０　磐城消防本部着
　　櫛田いわき市平消防署参事兼平消防署長と佐藤救急第一係長とあいさつ
０８：４５　磐城共立病院出発（大野・森實）
０９：０５　愛媛県庁県立病院課へ定時連絡
０９：３０　災害医療センターＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線連絡（田邉先生の所在確認）
０９：３５　Ｊヴィレッジ到着（大野・森實）
　　ＭＣ無線の通信テスト
１０：００　Ｊヴィレッジでの合同会議に出席（大野・濱見・森實・武田）
１０：４５　Ｊヴィレッジ診療所内からＭＣ無線通信テスト
１０：５５　Ｊヴィレッジ診療所内にＭＣ無線設置、通信テスト良好
１２：２２　Ｊヴィレッジ内の森實Ｄｒよりｍｃ無線連絡
　　・訓練開始
　　・オフサイトセンターに向けて、大野・濱見の両名がＪヴィレッジを出発
１４：５０　オフサイトセンター着（大野・濱見）
　　針田オフサイトセンター医療班班長（厚生労働省社会・援護局室長）にあいさつ
　　谷川オフサイトセンター災害医療アドバイザー（広島大学）にあいさつ
　　東京電力桜木副長にあいさつ
　　放射線医学研究所立﨑医師（オフサイトセンターアドバイザー）にあいさつ
　　福島県災害対策本部医療支援班の竹村医師と厚生労働省老健局老人保健課大竹課長補佐にあいさつ
１６：５０　オフサイトセンター出発（大野・濱見）
１７：２５　Ｊヴィレッジ出発（森實・武田）
１７：４５　磐城共立病院着（大野・濱見）
１８：１０　磐城共立病院着（森實・武田）
　　ミーティング
２０：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
　　―本日の共有情報―
　　・Ｊヴィレッジへの移動ルートは２ルート確保することを第２次隊への申し送り事項に加える
　　・Ｊヴィレッジの訓練時のホットゾーン（本日の訓練では２名）は４名程度いるのでは・・・という意見あり
　　・有事の際には、濱見Drが参集場所となる可能性があるいわき共立病院にて統括を行い、残り３名は現場へ
　　・Ｊヴィレッジで医療にあたる方々にはレムネットのＤＶＤを見てもらう
　　・ホットゾーンコールドゾーンの取り扱い方はその状況により、考え臨機応変に対応しなければならない

2011年4月27日

福島オペレーション

出張者：大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：３５　災害医療センターＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線通信テスト
０８：５０　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（森實・武田・渡辺）
０９：１５　愛媛県庁県立病院課へ定時連絡
０９：３０　Ｊヴィレッジ到着（森實・武田・渡辺）
　　ＭＣ無線の通信テスト
１０：００　Ｊヴィレッジでの合同会議に出席（森實・武田・渡辺）
　　会議内容：　別添資料参照
１０：４０　Ｊヴィレッジ診療所の資器材・物品・薬品について東電病院スタッフと共に、整理
１１：０５　広島大学オフサイトセンター谷川先生到着
　　院長、救急小山先生と面会
１２：３５　Ｊヴィレッジ内の森實Ｄｒよりｍｃ無線連絡

１３：００　Ｊヴィレッジ診療所内の追加養生等を放医研のスタッフと共に行う
１４：００　テレビ会議参加のための濱見Ｄｒパソコン設定。アドレス取得など行う。
１５：００　オフサイトセンター、福島県立医大、放医研、Ｊヴィレッジ、広島大学医学部、いわき共立待機ＤＭＡＴ（浜見）　の合同テレビ会議にはじめて参加。

１５：５０　テレビ会議終了
１５：５５　ＭＣ無線でＤＭＡＴ事務局へテレビ会議参加終了の報告をした。
１７：００　Ｊヴィレッジ出発（森實・武田・渡辺）
１８：３０　磐城共立病院着（森實・武田・渡辺）
　　ミーティング
２０：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
　　―本日の共有情報及び懸案事項―
　　・Ｊヴィレッジへの移動ルートは２ルート確保
　　　―　高速道路を通る経路
　　　―　国道６号線を通る経路
　　・愛媛県立中央病院より持参した薬品（テルモ生食（10）・ドルミカム（10）・アドレナリン（10）・リドカイン（20））をＪヴィレッジ診療所に提供
　　・Ｊヴィレッジ診療所内はスリッパでの活動のため、除染を要する患者の診療のためには室内履きのシューズがあったほうがベター
　　・鼻腔スワブの用の綿棒（インフルエンザ検査用の太くて長い綿棒）が必要

2011年4月28日

福島オペレーション

出張者：大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：２０　磐城共立病院　打ち合わせ
大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）にて
森實・武田・渡辺は、Ｊヴィレッジで活動
濱見、大野は双葉消防訪問および有事の搬送依頼
０８：４５　災害医療センターＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線通信テスト
０９：１０　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（森實・武田・渡辺）
大野、浜見　磐城共立病院を双葉消防署に向けて出発
０９：３０　愛媛県庁県立病院課へ定時連絡
０９：４５　Jヴィレッジ到着（森實・武田・渡辺）
MCA無線の通信テスト
東電診療所スタッフより、２０：００頃にMCA無線通信テストを定期的に行いたい旨の申し出があり、今後定期通信を行うこととする。
１０：００　Jヴィレッジでの合同会議に出席（森實・武田・渡辺）
会議内容：　別添資料参照
・4月30日に合同訓練予定
・この訓練時には、傷病者が出てからヘリポートまで搬送するまでの一連の流れを訓練
・バックボード使用した患者搬送を行うことを予定
１０：２０　双葉消防　到着
双葉地方広域市町村圏組合消防本部総務課長　岡田　雄一
双葉地方広域市町村圏組合消防本部次長兼浪江消防庁　吉田　繁雄
上記2人と面談

磐城共立病院から双葉消防までの距離　約45㎞（399号）
時間　約70分
双葉消防からの情報
双葉消防からＪヴィレッジまで　約60分
20㎞圏内を通過するため、救急隊はタイベック装着し活動
１０：５０　Jヴィレッジ内の自衛隊診療所の見学
１３：００　Jヴィレッジ診療所内前に除染用のエアテントの設置を開始
１３：１０　濱見、大野はいわき市内へ到着。昼食。
１３：３０　診療所看護師 さんより診療所に血糖値の高い作業員の方の受診があり、磐城共立病院の内科は午後も診療しているのかどうかを尋ねられるも把握しておらず、磐城共立病院待機中の濱見Drに連絡したが、糖尿内科の診療時間はわからないため小山先生へ問い合わせをしてみたらとのアドバイスをいただき、小山先生まで連絡
小山先生に連絡すると、受け入れていただけるということで、電話で診療所の有川Drと小山Drとで患者さんの申し送りをしていただく
１３：５０　濱見、大野磐城共立病院へ帰還
１４：３０　磐城共立病院の大野さんとMCA無線通信
先程の患者さんは磐城共立病院での受診可能ということで紹介状を持って受診していただくようになったことを報告
１５：００　テレビ会議濱見Ｄｒ出席
いわき待機ＤＭＡＴからの報告
「双葉消防からＪヴィレッジまでの所要時間は　約60分
（20㎞圏内を通過するため、タイベック装着）」

１５：２５　テレビ会議終了
１６：１２　Ｊヴィレッジチーム（森實・武田・渡辺）は、いわき共立病院での打ち合わせのためＪヴィレッジを離脱。
１６：１５　Ｊヴィレッジ出発（森實・武田・渡辺）
１７：００　磐城共立病院着（森實・武田・渡辺）
ミーティング
１９：１０　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の共有情報―

・広島大学がされていた業務について、今後はDMATにあった活動の仕方でＪヴィレッジ統括と相談しながら進めていっていただく旨、広島大学からの引き継ぎ書あり。
・Ｊヴィレッジ医療班の患者発生時連絡網の作成を行い、緊急医療班総括補佐の部分を放医研チームに受けていただき、総括医師からの連絡医療チームに磐城共立病院待機 DMAT を加える。

2011年4月29日

福島オペレーション

出張者：大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：２０　磐城共立病院着
　　打ち合わせ
　　愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）はＪヴィレッジで活動
　　大野さんはオフサイトセンターにMCA無線を設置予定
０８：４５　Ｊヴィレッジ診療所及び災害医療センターＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線通信テスト
０９：００　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（濱見・森實・武田・渡辺）
０９：４５　Ｊヴィレッジ到着（濱見・森實・武田・渡辺）
１０：００　Ｊヴィレッジでの合同会議に出席（濱見・森實・武田・渡辺）
　　会議内容：　別添資料参照
　　明日4月30日の訓練の打ち合わせ
１０：４５　Ｊヴィレッジ診療所屋外に除染テントが29日に設置されたため、その使用方法についての説明を受ける
１１：１５　愛媛県庁県立病院課へ定時連絡
１１：５５　オフサイトセンター到着（大野）
１２：０５　オフサイトセンター内にMCA無線を設置
　　Ｊヴィレッジ及び磐城共立病院のMCA無線と通信テスト良好
１３：２０　Ｊヴィレッジ診療所の東電医療スタッフにMCA無線の指導
１３：４５　Ｊヴィレッジ（濱見・森實・武田・渡辺）
１４：３５　磐城共立病院着（濱見・森實・武田・渡辺）
１５：００　テレビ会議
１５：３０　テレビ会議終了
１６：１０　必要物品の買い出し
１７：００　チームミーティング
１８：３０　ＤＭＡＴ事務局とＭＣ無線通信
１８：４５　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の共有情報―
・MCA無線；　オフサイトセンター医療班　０１
　　磐城共立病院　０３
　　災害医療センターＤＭＡＴ本部　０４
　　Ｊヴィレッジ診療所　０５
　　福島県立医大　０６
・MCA通信テスト；　毎日9時に実施

―愛媛県中ＤＭＡＴ隊員の健康状態―
全員健康状態良好です

2011年4月30日

福島オペレーション

出張者：大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：１５　磐城共立病院到着
　　打ち合わせ
　　愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）はＪヴィレッジで活動
０８：４５　Ｊヴィレッジ診療所及び災害医療センターＤＭＡＴ事務局と MCA 無線通信テスト
０８：５５　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（濱見・渡辺・大野）
０９：００　オフサイトセンター及び福島医大と MCA 無線通信テスト
０９：１０　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（森實・武田）
０９：４０　Ｊヴィレッジ到着（濱見・渡辺・大野）
０９：４２　愛媛県庁県立病院課へ定時連絡
１０：００　Ｊヴィレッジ到着（森實・武田）
　　Ｊヴィレッジでの合同会議に出席（濱見・森實・武田・渡辺）
１０：４５　磐城共立病院へ向けてＪヴィレッジを出発（濱見・森實・武田・渡辺）
１２：００　Ｊヴィレッジ合同訓練開始
１２：０３　Ｊヴィレッジ総括の小山医師より訓練 MCA 無線連絡
　　50代男性　F1内での事故　現在搬送中　13：00頃Ｊヴィレッジ到着予定
１２：１３　磐城共立病院出発
１２：４５　Ｊヴィレッジと MCA 無線通信連絡
　　傷病者1名　汚染（＋）
　　診療室内の養生と除染テントのボイラーのスイッチ ON を依頼
１２：５０　Ｊヴィレッジ到着（濱見・森實・武田・渡辺）
１３：００　訓練患者Ｊヴィレッジ到着
　　傷病者の除染及び診療
１４：２０　訓練終了
１４：３０　Ｊヴィレッジ合同訓練反省会
１５：００　テレビ会議
１６：００　テレビ会議終了
１６：１０　Ｊヴィレッジ内の物品整理
１７：１０　Ｊヴィレッジ出発
１８：００　磐城共立病院到着
　　磐城共立病院待機 DMAT 本部の整理
１８：２０　ＤＭＡＴ事務局と MCA 無線通信
１９：３０　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の共有情報―
・シーネ、ゴムバンド、長靴、日用品はＪヴィレッジに提供
・プリンタ、USB コード、プリンタの机は磐城共立病院待機 DMAT 本部に提供
→磐城共立病院での DMAT 待機業務終了後、当院まで配送いただくこととする

2011年5月1日

福島オペレーション

出張者：大野、愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ（濱見・森實・武田・渡辺）

０８：３０　ホテル出発
０９：１５　J ヴィレッジ到着（濱見・森實・武田・渡辺）
０９：３５　磐城共立病院待機 DMAT・DMAT 本部・オフサイトセンターと MCA 無線通信テスト
１０：００　J ヴィレッジでの合同会議に出席（濱見・森實・武田・渡辺）
１０：５５　磐城共立病院へ向けて J ヴィレッジを出発（濱見・森實・武田・渡辺）
１２：００　磐城共立病院到着
　　佐賀 DMAT 隊磐城共立病院到着
　　昼食
１２：３０　愛媛県立中央病院 DMAT 及び佐賀 DMAT 隊と申しおくり
　　磐城共立病院にて（濱見・渡辺）
　　J ヴィレッジにて（森實・武田）
１４：５５　J ヴィレッジにおける申し送り終了し、帰還（森實・武田）
１５：００　テレビ会議
１５：４０　テレビ会議終了
１５：５０　磐城共立病院到着（森實・武田）
１５：５２　磐城共立病院救命救急センターにお礼のご挨拶
１６：００　ＤＭＡＴ事務局と MCA 無線通信
１６：１０　磐城共立病院での業務を終了撤収

―本日の共有情報―
磐城共立病院内及び J ヴィレッジにて愛媛県立中央病院 DMAT と佐賀 DMAT と申し送り実施
愛媛県立中央病院 DMAT 隊、無事、事故もなく、全員体調面も問題なく任務終了。
いろいろとお世話になりました皆様方に感謝いたします。ありがとうございました。

第２次隊　佐賀大学医学部附属病院
佐賀県立病院好生館

2011年5月1日

福島オペレーション

出張者：楠、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

１２：００　磐城共立病院到着
　　愛媛県立中央病院ＤＭＡＴと合流
　　昼食
１２：３０　愛媛県立中央病院ＤＭＡＴより申し送り
　　磐城共立病院にて（山下・馬場）
　　Ｊヴィレッジにて（小山・田本）
１４：５５　Ｊヴィレッジにおける申し送り終了（小山・田本）
１５：００　テレビ会議
１５：４０　テレビ会議終了
１５：５０　磐城共立病院到着（小山・田本）
１５：５２　磐城共立病院救命救急センターにご挨拶
１６：００　ＤＭＡＴ事務局とＭＣＡ無線通信
１６：１０　愛媛県立中央病院ＤＭＡＴ撤収
１６：４０　ＤＭＡＴ事務局とＭＣＡ無線通信
１６：５０　防護装備装着確認
１７：５０　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の共有情報―
磐城共立病院内及びＪヴィレッジにて愛媛県立中央病院 DMAT と佐賀 DMAT と申し送り実施

2011年5月2日

福島オペレーション

出張者：楠、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０８：１５　磐城共立病院着
　　打ち合わせ
０８：３０　磐城共立病院長へ DMAT 交代の挨拶
０８：４５　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（小山・田本・馬場）
０９：３０　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（山下・楠・大野）
０９：４０　Ｊヴィレッジ到着（小山・田本・馬場）
１０：００　Ｊヴィレッジでの合同会議に出席（小山・田本・馬場）
　　会議内容：　別添資料参照
１０：３０　Ｊヴィレッジ到着（山下・楠・大野）
　　Ｊヴィレッジ内の確認（山下・楠・大野・馬場）
１１：３０　磐城共立病院へ向けてＪヴィレッジ出発（山下・楠・大野）
１２：３０　磐城合同庁舎着、災害派遣等支援車両申請（山下・楠・大野）
１３：４０　Ｊヴィレッジ内トランシーバーテスト
　　磐城共立病院到着（山下・楠・大野）
１４：００　大野さん出発
　　Ｊヴィレッジにて浅利先生と除染コンテナ関連のミーティング
　　（小山・田本・馬場）
１５：００　ＷＥＢ会議（山下）
１５：３０　Ｊヴィレッジ医療班と MCA 無線訓練
１６：１０　磐城共立病院へ向けてＪヴィレッジ出発（小山・田本・馬場）
１７：１５　磐城共立病院到着（小山・田本・馬場）
１７：３０　大野さん立川到着
１８：００　Ｊヴィレッジ医療班と MCA 無線通信確認
１９：００　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の検討項目―
・Ｊヴィレッジに多数傷病者（10名）搬入された際のベッド10台の配置について
　（どこで診療するか？ジム？雨天練習場？メディカルセンター？
　　メディカルセンター内しか使えないのであればどのように配置するか？動線は？）
・多数傷病者搬入時の訓練（机上で5／3に予定　吉野先生シナリオ作成）
・待機ＤＭＡＴが使用する車両について
　　9時の無線チェック、10時Ｊヴィレッジ会議、15時Ｗｅｂ会議にそれぞれ参加するためには
　　2台必要かも？
・資機材は移動車両の積載能力があるのであればＪヴィレッジに保管せず、チームとともに移動するほうがよい
・震度4以上の余震のため高速が止まった際に、海沿いを通らないルートを明日以降に検索

－申し送り事項－
・災害派遣等従事車両証明書受理　６月１日まで　（レンタカーに常備）
・磐城共立病院配置備品リスト作成

―佐賀県ＤＭＡＴ隊員の健康状態―
　全員健康状態良好です

2011年5月3日

福島オペレーション

出張者：楠、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０７：４０　磐城共立病院着
０７：４５　Ｊヴィレッジ・川内村（一時帰宅）へ向けて磐城共立病院出発

～小山・田本・馬場～
０８：２５　Ｊヴィレッジ到着（小山・田本・馬場）
１０：００　Ｊヴィレッジでの定例会議に出席（小山・田本・馬場）
１０：４５　Ｊヴィレッジ内トランシーバーテスト
１１：４０　広野火力発電所で外傷患者発生の一報
（東電本部より東電医療班を通じて吉野Ｄｒ．へ）
１１：５８　吉野Ｄｒ．よりＯＦＣへＤＭＡＴの出動について要請
ＯＦＣ森村Ｄｒ．より厚労省浅沼Ｄｒ．へ確認の後、
ＪヴィレッジよりＤＭＡＴ出動の容認
１２：００　東電の車にて広野火力発電所へ出発（小山・田本・馬場）
１２：０８　現着　治療開始
１２：３８　双葉消防救急隊現着
１２：５１　救急車に同乗して磐城共立病院へ現発（小山・田本）
１３：００　Ｊヴィレッジ帰還（馬場）
１３：３０　磐城共立病院病着・患者引継ぎ（小山・田本）

～山下・楠～
８：４０　Ｊヴィレッジ発
１０：００　川内村到着
１０：５５　一時帰宅開始
（ストレッチャー、ＡＥＤ貸出、重症者発生時の連絡網確認）
１３：００　汚染訓練開始
１４：２５　訓練終了
１４：５５　一時帰宅より帰還
サーベイランス、トリアージ開始
１５：５０　全員帰還、汚染者なし
１６：１０　川内村出発
１８：００　Ｊヴィレッジ到着　吉野Ｄｒ．とブリーフィング

馬場調整員を乗せて
１８：３０　Ｊヴィレッジ出発
１９：１０　磐城共立病院到着

―本日の検討項目―
たくさんあるので明日書きます

2011年5月4日

福島オペレーション

出張者：楠、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０８：００　ホテル発
０８：１３　磐城共立病院着
０８：５０　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発
　　ＭＣＡ無線のバッテリーが40分で切れる
０９：４５　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　Ｊヴィレッジでの定例会議に出席
　　吉野Ｄｒ．本日まで　本日より寺沢Ｄｒ．へ交代
１０：３０　Ｊヴィレッジ内医療資機材の確認
１１：３５　Ｊヴィレッジ出発
　　高速道路・６号線が使えない場合の磐城共立病院←→Ｊヴィレッジの経路を同定
１３：５０　磐城共立病院到着
　　資機材リスト、第３隊への申し送り作成
１６：００　国立いわき病院視察（楠・馬場）
１８：１５　ＪヴィレッジとＭＣＡ無線テスト
　　無線通じず、電話にて確認。
　　Ｊヴィレッジ側の電源が落ちており、電源を入れ直して再度テスト。
　　数時間たつと電源が落ちている模様。

―昨日の検討項目―
Command & Control
・待機ＤＭＡＴの役割再確認
　3日の業務には外傷患者の現場派遣（ドクターカー的役割)、一時立ち入りの医療（救護所的役割）もあったが、今後このような業務が発生する可能性は？
　多数傷病者発生時の想定で、ＤＭＡＴはＪヴィレッジ医療班とみなされているような、いないような
　→　臨機応変に対応できるよう携行資機材の調整、見直しが必要
・Ｊヴィレッジ総括責任者としては立ち入り人数を極力制限するのが大前提であるので、10時の定例会議へＤＭＡＴがどうしても参加するのであれば、派遣中に1回、１～２名にしたいとの要望あり

―本日の検討項目―
Command & Control
・本日の Web 会議にて、OFC より昨日のような現場派遣については今後想定していないとのこと
Safety
・高速が使えないとき、６号線は危険（津波の恐れあり）県道３５号線を通るルートで行き来するのが望ましい
Communication
・ＭＣＡ無線
　バッテリーの劣化　当面は車にもＡＣ電源搭載し対処。
　（事務局へ報告済、次チームへＡＣ電源持参を依頼　バッテリーも交換予定？）
　一時立ち入りの際、中継地点でＭＣＡ無線を使いたいとの要望がＯＦＣ本部より医療班に入ったとのこと。今後ＭＣＡ無線の配置が変更になる可能性有り。
Assessment,　Treatment?
・携行資機材の見直しについて、事務局市原さんと電話連絡
　明日の福島医大研修で近藤先生に相談、次派遣チームとも調整の必要あり

2011年5月5日

福島オペレーション

出張者：楠、大野、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０８：００　ホテル発
０８：１３　磐城共立病院着
０９：３０　ＯＦＣよりＭＣＡ無線テスト
１１：３５　大野さん磐城共立病院到着
１８：００　ＪヴィレッジとＭＣＡ無線テスト
１８：１５　本日の磐城共立病院での業務を終了

～小山・田本～
０８：４５　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発
０９：３０　Ｊヴィレッジ到着
　　総括寺澤医師に挨拶
１０：００　Ｊヴィレッジでの定例会議に出席
１０：５０　自衛隊救護所見学
１１：００　明日の訓練について総括医師と打ち合わせ
１１：２０　福島第一原発で傷病者発生の連絡を受け、総括寺澤医師よりＪヴィレッジ内に待機してほしいとの要請あり。
１２：２５　Ｊヴィレッジへ傷病者到着
　　Ｊヴィレッジ医療班と協力し対応
１３：３２　Ｊヴィレッジより傷病者搬送される
１３：４０　Ｊヴィレッジ医療班と今回の傷病者対応についての反省会
１４：３０　磐城共立病院へ向けてＪヴィレッジ出発
１５：１０　磐城共立病院着

～山下・楠・大野～
１１：５０　福島県立医大へ向けて磐城共立病院出発
１３：１０　福島県立医大到着
１４：００　ＤＭＡＴ研修
１７：２０　ＤＭＡＴ研修終了　楠さんはそのまま帰宅
１７：５０　福島県庁
２０：２０　ホテル到着

―本日の検討項目―
・Ｊヴィレッジ傷病者受入ブリーフィング
　当初の待機態勢は診療所の内外で医療者をあらかじめ分けた方がよい
　その他は当初予定していた手順通りスムーズに搬送できた
・5／6に汚染のある傷病者の受入れ訓練を行う予定
　（Ｊヴィレッジからの通報後に出動）

2011年5月6日

福島オペレーション

出張者：大野、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０８：００　ホテル発
０８：１３　磐城共立病院到着
０８：１５　ＤＭＡＴ事務局とＭＣＡ無線テスト
～Ｊヴィレッジ合同訓練開始～
１２：０３　Ｊヴィレッジ総括寺澤医師より訓練第一報
１２：０８　Ｊヴィレッジへ向けて磐城共立病院出発（山下・田本・馬場）
１２：４０　Ｊヴィレッジ到着（山下・田本・馬場）
１３：００　模擬傷病者Ｊヴィレッジへ到着
　　模擬傷病者の除染および診療
１３：４０　模擬傷病者をヘリポートへ搬送
～Ｊヴィレッジ合同訓練終了～
１４：００　Ｊヴィレッジ合同訓練ブリーフィング（山下・田本・馬場）
１４：４５　磐城共立病院へ向けてＪヴィレッジ出発（山下・田本・馬場）
１５：００　定例Ｗｅｂ会議（小山）
１６：２５　磐城共立病院到着（山下・田本・馬場）
：　本日の磐城共立病院での業務を終了

―本日の検討項目―
・寺澤Ｄｒ．と相談
　・今後、Ｊヴィレッジの輸液や薬剤、医療資器材の補充は東電よりなされる
　・配置される予定のバックボードやターポリン担架、ノルホスストレッチャーは除染や搬送に活用できそう
　・ＤＭＡＴは自前で帯同している少人数対応資機材もあることをお知らせした

・Ｊヴィレッジ合同訓練ブリーフィング
　・汚染があっても、重症者の場合は１Ｆでサーベイランスやタイベック除去がなされずにタイベックのまま布担架で搬送されてくる可能性あり。時間的猶予のない重症者の場合は搬送用シートにそのままくるんで処置室へ搬入し、サーベイランスと同時進行で治療が行われる可能性を考えるべき
　・時間的猶予がある汚染者の場合、患者を布担架からバックボードやストレッチャーに移し替える手段を考える（昨日の外傷患者は痛みが強く、とても担架から動かすことができなかった）
　・医療情報、放射線情報、搬送情報に分けて情報の把握が必要
　（特にタイベックの破損の有無やマスクの有無など、内部汚染の可能性については重要）
　・ヘリポートまでの道順が、夜、道に慣れていない人だと分かりにくいかも。
　→訓練の際ヘリポートまで行き、道に慣れておくようにしたほうがよい。
　・処置室ではホットゾーンに看護師に２名入ってもらう必要あり。処置室の配置に慣れた看護師に資機材受渡しをお願いしたいので、役割分担案としては以下

　ホットゾーン
　　東電医師　汚染部位の確認と局所観察
　　ＤＭＡＴ医師　ＪＡＴＥＣ手技を用いた全身観察、ＦＡＳＴ
　　東電看護師、自衛隊看護師　①バイタル測定、輸液など
　　②外傷処置、除染手伝いなど

　コールドゾーン
　　東電看護師　必要資器材受渡し
　　ＤＭＡＴ看護師、自衛隊看護師、自衛隊医師
　　処置経過記録、除染状況記録、搬送準備など

2011年5月7日

福島オペレーション

出張者：大野、佐賀県ＤＭＡＴ（山下・田本・小山・馬場）

０８：００　ホテル発
０８：１５　磐城共立病院到着
１０：３０　災害医療センターＤＭＡＴチーム磐城共立病院到着
　　災害医療センターＤＭＡＴチームと申し送り
１２：３０　磐城共立病院救命救急センター小山先生にご挨拶
１２：４５　本日の磐城共立病院での業務を終了

無事、事故もなく、全員体調面も問題なく任務終了しました。
ありがとうございました。

第３次隊　国立病院機構災害医療センター

2011年5月7日

福島オペレーション

出張者：大野、吉川、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

１０：２２　磐城共立病院到着
　　佐賀ＤＭＡＴ、大野氏と合流
１０：３５　佐賀ＤＭＡＴより申し送り
１１：４５　申し送り終了
　　昼食
１２：３０　磐城共立病院　救命センター長小山 Dr.へ交代挨拶
　　山下 Dr.（佐賀 DMAT）
　　小笠原　熊倉　斉藤　武田　松村
１３：００　佐賀 DMAT 撤収
１３：０５　資機材　積み下ろし
　　熊倉　武田　松村
　　災害派遣車両登録（福島県いわき合同庁舎）
　　小笠原　斉藤　吉川
１３：４０　資機材　整備
１５：００　WEB 会議
　　小笠原
　　OFC　山口 Dr.（杏林大学）　浅沼氏（厚労省）
　　救急医学　坂本 Dr.（帝京大学）
　　福島県立医大病院
　　谷川 Dr.（広島大学）　放医研
１５：３０　会議終了
１６：００　Ｊヴィレッジへ向け磐城共立病院出発
　　小笠原　大野　吉川
１７：００　磐城共立病院業務終了
１８：４０　小笠原　大野　吉川　帰着（宿泊先）
１８：４５　ＪヴィレッジとのMCA無線通信確認
　　Ｊヴィレッジの電源が落ちており通信不可
　　Ｊヴィレッジへ電話連絡　Ｊヴィレッジより無線通信確認

―本日の共有情報―
・磐城共立病院内にて佐賀 DMAT と申し送り実施
・Ｊヴィレッジへ交代挨拶（小笠原）

2011年5月8日

福島オペレーション

出張者：大野、吉川、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０８：１０　磐城共立病院到着
０８：３５　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　DMAT 本部：菊池班長　感度良好
０８：４０　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　本日も電源が落ちていたとのこと（７：３０電源 ON）

（Ｊヴィレッジミーティング）小笠原　斉藤　大野
０８：５０　磐城共立病院出発
　　常磐道（いわき中央 - 広野）
０９：３５　大野Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング
１０：１５　ミーティング終了
１１：０５　Ｊヴィレッジ出発
　　常磐道（広野－いわき中央）
１１：４５　磐城共立病院到着

（OFC　福島県立医大挨拶）小笠原　大野
１２：００　磐城共立病院出発
　　磐越道　東北道
１４：０５　OFC 到着（MCA 無線により連絡）
　　OFC 挨拶
１４：１５　OFC と MCA 無線通信確認
　　OFC：大野　いわき：吉川
１４：３０　小井土 Dr.からのメール確認
　　小笠原（OFC）へメール内容伝達（吉川より専用携帯へ）
　　いわき待機 DMAT の件について話し合い
　　山口 Dr.（杏林大学）　甲斐 Dr.（済生会千葉）
　　小井土 Dr.へ連絡
　　吉川撤収確認
１５：００　福島災害対策本部（福島自治会館）へ
１５：３０　OFC と MCA 無線通信確認
　　OFC：大野　いわき：武田
　　福島県立医大へ
１６：１０　福島県立医大出発
　　東北道　磐越道
１７：４０　磐城共立病院到着

１５：００　小笠原不在のため WEB 会議不参加
１５：１５　吉川撤収

１８：００　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　Ｊヴィレッジ MCA 電源 OK　　感度良好
１８：３０　磐城共立病院業務終了

―本日の共有情報―
（ＪＶミーティング）
本日夕方から第一原発１号機入り口開放予定（線量確認しながら８時間かけて）
⇒２０：００開始（TV より）

いわき待機 DMAT の活動について
5月9日の WEB 会議にて発言する

2011年5月9日

福島オペレーション

出張者：大野、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０８：２０　磐城共立病院到着
０８：３０　DMAT 本部から MCA 無線通信確認
　　DMAT 本部：市原　いわき：大野
　　昨夜充電切れにて通信不可
　　通信の確認　感度良好
０８：３５　磐城共立病院樋渡先生に挨拶
　　隊員全員
　　看護部長不在
０８：５０　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　感度良好

（Ｊヴィレッジミーティング）小笠原　武田　大野
０９：００　磐城共立病院出発
　　磐越道（いわき中央 - 広野）
０９：４３　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング
１０：３０　ミーティング終了
　　武田：松藤氏　佐島氏（放医研）と意見交換
１０：５５　Ｊヴィレッジ出発
　　国道6号線
１１：５３　磐城共立病院到着

（国道6号線調査）　熊倉　武田
１４：００　磐城共立病院出発
　　国道6号線　タイベック着替え場所の調査（JV まで往復）
１７：００　磐城共立病院到着
　　着替え場所地図作成

１５：００　WEB 会議：小笠原

１８：３０　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　感度良好
１８：３０　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　いわき：武田　　DMAT 本部：藤井　　感度良好

１９：００　磐城共立病院業務終了

―本日の共有情報―
（ＪＶミーティング）
・５月８日２０:００より第一原発原子炉建屋とタービン建屋間の二重扉開放開始
　５月９日４：００完全開放　作業員建屋内に入る
　環境中放射能濃度ほとんど変化なし（放医研）
・５月１０日搬送訓練実施
　１１:００発災　通報・受入れ・対応・搬送（ヘリポートまで）訓練予定
・傷病者発生時の連絡体制について

今後の DMAT 活動について
　WEB 会議にて発言
　詳細別紙

2011年5月10日

福島オペレーション

出張者：大野、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０８：２０　磐城共立病院到着
０８：４０　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　いわき：熊倉　DMAT 本部：藤井
　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　いわき：松村

（Ｊヴィレッジミーティング）小笠原　大野
０９：００　磐城共立病院出発
０９：４３　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング
　　ミーティング後終了訓練のため待機
１０：４０　指示連絡
　　着替え場所：国道6号線　二ツ沼総合公園

（Ｊヴィレッジ訓練）
１１：１１　出動要請
　　JV 平原 Dr.→斉藤（携帯）
１１：２５　磐城共立病院出発
　　斉藤→小笠原　連絡
　　“高速下５分前に連絡を”との指示
１１：３５　常磐道　いわき中央 IC
　JV より MCA 無線
　　JV：大野　DMAT：熊倉　　感度良好
１１：４３　四倉 PA 通過
１１：４８　斉藤→小笠原　連絡
　　“6号線との交差点で待て”との指示
１１：５５　広野 IC
１２：００　合流ポイント：二ツ沼総合公園
　　防護装備準備：タイベックスーツ、長靴、ゴーグル、マスク、手袋
１２：２２　二ツ沼総合公園出発
１２：３０　JV 着

１３：００　訓練開始
　　屋外テント：搬入　サーベイ　除染　搬出
　　メディカルセンター診療所
　　：サーベイ　処置　パッケージング　搬出
１３：５０　訓練終了
１３：５５　訓練反省会
１４：１５　反省会終了

１５：００　WEB 会議：小笠原
　　JV にて
１５：２０　WEB 会議終了

１５：３８　JV 出発
　　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１６：１５　磐城共立病院着

１７：４０　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　DMAT 本部：山崎　いわき：熊倉　　感度良好
１７：４０　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　感度良好
１８：００　磐城共立病院業務終了

―本日の共有情報―
（JV 訓練）
・テント前、中、出口　それぞれに責任者が必要
・除染テント内の情報が伝わっていない
・除染後バックボードでの搬送が不安定
　⇒ストレッチャーをテント出口までつけるのは OK
・DMAT 資機材の使用について
　⇒診療所にあるものを使用し不足分を DMAT 資機材から
・DMAT 資機材の置き場所
　⇒トレーニングルームに置くことに決定
・搬出時　付添医師はタイベックスーツをどこで脱衣する？
　⇒診療室内が妥当
・ヘリ搬送
　自衛隊担架が必要　⇒　確認する
　搭乗者名簿が必要　⇒　準備する

（JV）
・総括医師　平原 Dr.→西山 Dr.（愛媛大学）に交代
・放医研　　松藤氏　佐島氏→佐賀氏　齋藤氏に交代

2011年5月11日

福島オペレーション

出張者：大野、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０８：２０　磐城共立病院到着
０８：３０　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　いわき：大野　DMAT 本部：山崎　　感度良好
０８：３５　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　いわき：大野
　　感度良好　電源落ちなし

（Ｊヴィレッジミーティング）小笠原　斉藤　松村
０９：００　磐城共立病院出発
　　常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
０９：３７　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング
１１：２０　ミーティング終了
１１：３５　Ｊヴィレッジ出発
　　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）　途中昼食
１３：０２　磐城共立病院着

（県立医大・OFC・川内町）大野　熊倉　武田
０９：２０　磐城共立病院出発
　　磐越道・東北道（いわき中央 IC→二本松 IC）
１０：５８　福島県立医大着
　　MCA 無線設定確認・DMAT 本部との通信確認
　　感度良好　通信 OK
　　除染施設見学　救急車両養生見学
１１：３８　福島県立医大出発
１２：００　福島県庁着
　　小笠原　大野　市原　確認連絡
１２：３０　OFC
　　近藤 Dr.⇒熊倉　武田
　　５月１２日一時立入り中継ポイントでの DMAT 活動について簡単な説明
　　甲斐 Dr.⇔大野　意見調整
１３：００　ブリーフィング
　　武田 Dr.（OFC 医療班班長：厚労省指導課）
　　大野　熊倉　武田
１４：００　ブリーフィング終了
１４：１０　県庁出発
１４：３５　大野→小笠原連絡
　　車椅子の調達の件
１７：１５　川内村着
　　村民体育センター視察
　　携帯：OK　WiFi：OK
１７：４０　川内村出発
１８：５０　磐城共立病院着

（県道３５号線調査）斉藤　松村
１３：２５　磐城共立病院出発
　　県道３５号線　タイベック着替え場所の調査
１６：１５　磐城共立病院着
　　着替え場所地図作成

１５：００　WEB 会議：小笠原

１９：００　Ｊヴィレッジとの MCA 無線通信確認
　　感度良好

　　申し送り資料等作成
２３：３０　磐城共立病院業務終了

―本日の共有情報―
（Ｊヴィレッジミーティング）
・５月１０日訓練の反省から
　　⇒再度同じ状況で訓練を実施した方がよい：５月１３日予定
・車両駐車場所の変更：地図あり

（５月１２日　一時立入り中継ポイントでの DMAT 活動）
・中継ポイント：川内村村民体育センター
・川内村：２９世帯・４５名　葛尾村：１８世帯・２８名　　計７３名
・８：３０集合（６：３０出発予定）　昼食は持参
・機材は放医研が準備　常備薬は OFC が準備
・ストレッチャーはあるが車椅子がない
　　準備依頼しているが１２日には間に合わない
　　⇒磐城共立病院から３台借用（小笠原→樋渡院長）
・活動はタイベックなしで OK　サージカルマスクのみ　土足で可
・一時立入り中止の場合（荒天）　DMAT 専用携帯に連絡有（５：３０頃）
・OFC 医療班班長連絡先：０８０－２２９２－３９３５
・詳細は別紙

2011 年 5 月 12 日

福島オペレーション

出張者：大野、災害医療 DMAT（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０６：３０　ホテル　ロビー集合

０６：３６　ホテル出発

食料調達

磐越道（いわき中央 IC→船引三春 IC)、国道 288 号、国道 399 号

０８：３２　川内村役場・川内村村民体育センター

「かわうちの湯」（隣接）駐車場

OFC 医療班班長・武田 Dr.に DMAT 資機材搬入のため車両を入口へ付けてよいか確認（武田）

⇒一時立入り住民がいらっしゃっているので無理か・・

車両を入口横に付け資機材搬入

０８：５５　医療班ミーティング

OFC 医療班班長（武田 Dr.）厚労省（後藤氏）放医研（富永氏）

富永氏から体育館内の説明　放医研資機材使用可

富永氏がフロア責任者

０９：０５　DMAT 資機材車両へ積み込み

０９：１５　Dr.car 体育館横へ移動（小笠原の指示により）

０９：２５　放医研資機材確認：斉藤　熊倉

救護スペースで待機

１０：１２　救護スペースへ養生済ストレッチャー搬入（双葉消防）

１２：１０　放医研担当者より連絡

川内村 2 名２０～３０分で到着

１２：２７　５号車着

１３：０５　放医研担当者より連絡

３０分程度で到着予定

大野合流

１３：１８　放医研担当者より連絡

１０分程度で到着

１３：２５　1 号車着

１３：４０　2 号車着

１３：５０　川内村村民体育センター：空間線量率 0.5μSv/h

１４：００　本部より連絡

後続は１５：００～１６：００になると思われる

１４：１７　放医研担当者より連絡

後続は１５：３０ころ

１５：００　WEB 会議：小笠原

川内村村民体育センターにて

電波状況不良

１５：２０　WEB 会議終了

ＯＦＣ溝端 Dr.へ携帯にて連絡：小笠原
１６：４３　双葉消防撤収
１６：４５　全員終了
汚染なし　傷病者なし
１７：００　撤収
１７：１５　川内村村民体育センター出発
国道 399 号、国道 288 号、磐越道（船引三春 IC→いわき中央 IC）
１９：１０　磐城共立病院着
車いすサーベイ：すべてＢＧ
１９：３０　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
２０：２５　Ｊヴィレッジ　ＭＣＡ無線定期連絡
２０：３０　磐城共立病院業務終了

（一時立入り）
川内村住民
０９：００　説明開始
０９：３５　軽食後１０：１５出発予定　先導パトカー未着
０９：５６　１０：１５出発決定
１０：２５　1 号車 OK　2 号車 OK
１０：２６　５号車 OK
１０：２８　全員（住民　ドライバー　引率者）OK
出発指示待ち
１０：２９　５号車通信確認・・OK
１０：３１　出発
１２：０８　５号車警戒区域を出る
１２：２２　５号車あと５分で到着
１２：２７　５号車着
住民２名　引率者３名　問題なし
１３：１６　1 号車　警戒区域通過　医療班準備
１３：２５　1 号車着
１３：３０　2 号車　警戒区域通過
１３：４０　2 号車着
１３：５８　1 号車　2 号車　人・物 13000cpm 超えなし

葛尾村住民
０９：３５　バス到着　バス内待機
０９：４８　受付開始
１０：０５　２名キャンセル（道に迷い中継ポイント到着できず）
１０：２４　4 号車１名キャンセル
１０：３０　説明開始
１１：００　１１：３０出発予定

１１：１０　タイベックスーツ装着開始
１１：３５　通信確認
１１：４３　出発指示
１１：４５　出発
１５：３７　３号車　４号車　警戒区域通過
１６：０５　３号車　あと１０分で到着
１６：１５　３号車着　６号車着
　　４号車　あと５分　着後コミュニティー前で待機
１６：３０　４号車降車
　　３号車　全員ＯＫ　13000cpm 超えなし
１６：４０　4 号車　全員ＯＫ　13000cpm 超えなし

－本日の共有情報－
（J ヴィレッジミーティング）
・F2 から JV へ１名搬送（昨日から体調不良　点滴にて様子をみていた）
　　０７：００　一度 JV へ　その後　救急車にて磐城共立病院へ搬送
・5 月 13 日訓練実施
　　5 月 10 日と同じ状況設定にて搬送訓練実施
・東電・遠藤氏　１週間帰宅

2011年5月13日

福島オペレーション

出張者：大野、災害医療ＤＭＡＴ（小笠原・熊倉・斉藤・武田・松村）

０８：２０　磐城共立病院到着
　　資機材積み替え
０８：２５　OFC 武田 Dr.→大野
　　情報提供　5/22　一時立ち入りあり（未確定）
０８：３５　DMAT 本部との MCA 無線通信確認
　　いわき：大野　DMAT 本部：藤井
０８：４０　ＪＶより DMAT 専用携帯へ連絡
　　ＪＶ：西山 Dr.　ＤＭＡＴ：小笠原
　　本日の訓練について
　　間もなくＪＶへ出発（小笠原　熊倉）
０８：４０　OFC より MCA 無線呼出し
　　こちらから呼びかけるが応答なし
１０：４８　熊倉→斉藤
　　みなと日赤 DMAT　１１：００すぎに到着予定
１１：０５　みなと日赤 DMAT 到着
１１：１０　熊倉→斉藤
　　訓練には伊藤 Dr.小尾 Dr.参加（小笠原不参加）
１１：４０　大野撤収

（Ｊヴィレッジミーティング）小笠原　熊倉
０９：００　磐城共立病院出発
　　常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
０９：４３　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング
　　ミーティング後終了訓練のため待機
　　着替え場所：二ツ沼総合公園

（Ｊヴィレッジ訓練）
１１：３０　出動要請
　　JV 西山 Dr.→斉藤（携帯）
１１：４０　磐城共立病院出発
　　みなと日赤 DMAT 同行
　　２台に分乗し出発
　　常磐道　いわき中央 IC→広野 IC
１１：４８　四倉 PA 通過
１２：１０　広野 IC
１２：１５　合流ポイント：二ツ沼総合公園
　　防護装備準備：タイベックスーツ、長靴、ゴーグル、マスク、手袋
１２：３８　二ツ沼総合公園出発
１２：４５　JV 着
　　診療所まで通行可能

１３：１８　訓練開始
　　屋外テント：搬入　サーベイ　除染　搬出
　　メディカルセンター診療所
　　：サーベイ　処置　パッケージング　搬出
　　途中止めて確認しながら進行
１４：１５　訓練終了

１４：２５　訓練反省会
１４：４５　反省会終了

１４：５５　斉藤　松村
高野 log（みなと日赤）JV 出発
常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
DMAT 資機材積み込み
１５：００　WEB 会議
JV にて
みなと日赤 DMAT　伊藤 Dr
１５：１０　熊倉
宮田 Ns.（みなと日赤）JV 出発
常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１５：３０　斉藤隊　磐城共立病院到着
１５：３２　WEB 会議終了
１５：４５　小笠原　武田
伊藤 Dr.　小尾 Dr.　多賀 log（みなと日赤）
常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１５：５０　熊倉隊　磐城共立病院到着
１６：００　みなと日赤 DMAT 車両登録
斉藤　松村　同行
１６：２５　小笠原隊　磐城共立病院到着
１６：５８　みなと日赤 DMAT　申し送り
小笠原→みなと日赤 DMAT
１７：３５　申し送り終了

１７：５０　J ヴィレッジとの MCA 無線通信確認
感度良好
１８：００　DMAT 本部から MCA 無線通信確認
DMAT 本部：藤井　いわき：武田　　感度良好
現状報告
帰院時のサーベイ：武田が連絡
１８：１５　救命救急センター長小山 Dr.へ交代挨拶

１９：００　磐城共立病院業務終了

―本日の共有情報―
（JV ミーティング）
・５月１７日　日中２時間程度 NTTdocomo 通信不可
（JV 訓練）
・訓練実施
・途中ひとつずつ確認しながら実施
・役割分担の明確化
・クロノロの取り方
・担架、ストレッチャー、バックボード等の使い方
・サーベイの記録の取り方：誰が？どこで？

・みなと日赤 DMAT との申し送り実施

第４次隊　みなと赤十字病院

2011 年 5 月 13 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

１１：０５　磐城共立病院着
　　災害医療センターＤＭＡＴチームと合流
１１：３７　Ｊヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発
１２：４４　Ｊヴィレッジでの合同訓練に参加　参加者（伊藤、小尾）
　　見学者（宮内、高野、多賀）
１４：５５　災害派遣等従事車両証明の申請手続きに出発（宮内、高野）
　　※災害医療センターチームに同乗
１５：００　ＷＥＢ会議に出席（伊藤）
１５：３０　磐城共立病院着（宮内、高野）
１５：５０　磐城共立病院に向けて、Ｊヴィレッジを出発（伊藤、小尾、多賀）
１６：２５　磐城共立病院着（伊藤、小尾、多賀）
１７：００　災害医療センターからの引き継ぎ開始
１８：００　Ｊヴィレッジに、定時ＭＣＡ無線交信
１９：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
　　ＤＭＡＴ事務局へのＭＣＡ無線交信（撤収の連絡）

2011 年 5 月 14 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

８：００　平ビューホテル出発
８：１３　磐城共立病院到着
８：２０　OFC から１F で CPA が発生し、総括医師が救急車に同乗して磐城共立病院へ向かうため、総括医師不在の間 JV で待機するよう電話で指示あり
８：２５　磐城共立病院出発（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀は待機）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
８：４５　MCA 無線定期連絡
９：１０　JV 到着
１０：２０　JV 西山医師帰還、ミーティング開始
ミーティング中に東電会長が来訪、挨拶
１１：２５　JV 出発　途中で昼食
常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１３：１０　JV から帰着
１５：００　WEB 会議開始
１５：３５　WEB 会議終了
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV、ＤＭＡＴ事務局へのＭＣＡ無線交信（撤収の連絡）

■１F で発生した CPA 事例
６：５０　１F で資材搬送作業中に６０歳男性が突然倒れた。
７：００　１F の医療班が対応（CPR 実施、AED 装着）
７：２０　２F から搬送用の車両が到着（１F には搬送用車両の待機がないため）
７：３５　１F から JV に向け出発
８：０５　JV に到着　サーベイ実施　頭髪から４０００ｃｐｍ、その他の部位からは検知無し、濡れた布で頭部を清拭し処置室へ
８：２２　双葉消防救急車到着
８：３５　救急車出発
９：０７　磐城共立病院到着
９：３３　死亡確認

2011 年 5 月 15 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

７：５５　平ビューホテル出発
８：０５　磐城共立病院到着
８：３０　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：２５　JV に向けて、磐城共立病院出発（小尾、多賀）
　　常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：００　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：２５　JV 到着
１０：００　ミーティング開始
１１：１５　ミーティング終了
１１：２５　磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１２：００　JV から帰着
１５：１０　WEB 会議開始
１５：４０　WEB 会議終了
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
　　JV への MCA 定期無線連絡
　　DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 16 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

７：５５　平ビューホテル出発
８：１０　磐城共立病院到着
８：３０　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
　　磐城共立病院長、事務局長に挨拶
８：５０　JV に向けて、磐城共立病院出発（伊藤、高野）
　　常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：００　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：４０　JV 到着
１０：００　ミーティング開始
１０：４０　ミーティング終了
　　磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１１：３０　JV から帰着
１１：４５　福島県庁（OFC）、日赤福島県支部に向けて磐城共立病院出発
　　（小尾、多賀）　常磐道→磐越道→東北道（いわき中央 IC→福島西 IC）
１３：４０　福島県庁（OFC）到着
１５：００　WEB 会議開始
１５：２０　日赤福島県支部到着
１５：４０　福島県庁（OFC）、日赤福島県支部訪問終了、磐城共立病院に向けて出発
１５：４３　WEB 会議終了
１７：３０　福島県庁、日赤福島県支部から帰着
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
　　JV への MCA 定期無線連絡
　　DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 17 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

７：５５　平ビューホテル出発
８：１０　磐城共立病院到着
８：３０　JV に向けて、磐城共立病院出発（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）
※車回収（冨岡町、楢葉町）トライアル中の傷病者対応待機（１０：００～１６：００予定）
MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：１０　JV 到着　MCA 無線定期連絡（OFC）
１０：００　ミーティング開始
車回収トライアル開始
１０：４０　ミーティング終了
１０：５０　JV 内で、けが人発生（２８歳、男性）
作業中、フォークリフト爪の接触による、左足首内側の負傷
JV 処置室にて、常駐医師（又野医師）による応急処置後、業者の車両で磐城共立病院へ搬送
１１：４５　1F にて、釘の踏み抜きによる負傷者（６０歳、男性作業員）発生の連絡
1F 常駐医師による創部洗浄、パッド貼付にて治療完了

通信訓練
１２：２９　Ｆ１にて傷病者発生の連絡（訓練：ＯＦＣより）
１２：５０　消防現着
１３：００　傷病者、JV 着
１３：１５　磐城共立病院に連絡後、搬送

１３：３０　合同訓練開始
１４：０５　合同訓練終了
１４：５４　車回収トライアル終了
１５：００　WEB 会議開始
１５：３０　WEB 会議終了
１５：３５　磐城共立病院に向けて JV 出発（国道６号線経由）
１７：００　病院帰着
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 18 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

７：５５　平ビューホテル出発
８：１０　磐城共立病院到着
８：３０　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：５０　JV に向けて、磐城共立病院出発（小尾、高野）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：１２　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：４０　JV 到着
１０：００　ミーティング開始
１０：３０　ミーティング終了
１０：３５　磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１１：０５　JV から帰着
１４：１６　OFC より出動の連絡（けが人発生）
１４：３０　JV へ向けて、磐城共立病院出発（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
１５：１０　JV 到着
救急車にて磐城共立病院へ患者搬送（伊藤同乗）
磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１５：４９　救急車、磐城共立病院着
１５：５５　JV から帰着（小尾、宮内、高野、多賀）
１７：００　伊藤医師、JV から患者搬送後の磐城共立病院での処置（３３歳、男性　F1 からの帰路、交通事故による右橈骨骨折により入院）より DMAT 待機に戻る
１８：１０　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 19 日

福島オペレーション

出張者：横浜市立みなと赤十字病院ＤＭＡＴ（伊藤、小尾、宮内、高野、多賀）

８：００　平ビューホテル出発
８：１０　磐城共立病院到着
８：３０　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：５０　JV に向けて、磐城共立病院出発（伊藤、小尾、高野）
　　常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：００　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：４０　JV 到着
１０：００　ミーティング開始
１０：３０　ミーティング終了
１０：４０　磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１０：５０　福島５次チーム順次到着
１１：２５　JV から帰着
１１：３０　福島５次チームへの引き継ぎ開始
１３：００　磐城共立病院救急小山先生に引継ぎの挨拶
１３：３０　福島５次チームを JV へ案内するため出発
　　JV で引継ぎ完了し福島待機 DMAT（第４次）オペレーション終了

第５次隊　川崎市立川崎病院　京都第一赤十字病院
済生会宇都宮病院　平鹿総合病院　愛知医科大学

2011 年 5 月 19 日

福島オペレーション

出張者：混成ＤＭＡＴ

川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

１０：３０　レンタカー1 台レンタル（小野）
１０：３０~　磐城共立病院到着
横浜みなと赤十字ＤＭＡＴチームと合流
（13:00 頃全員参集）
１２：３０　横浜みなと赤十字 DMAT チームから引き継ぎ
１４：００　Ｊヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（全員）
１４：４０　Ｊヴィレッジ到着（統括医師：福井大学徳永先生に交代）
１５：００　Web 会議に参加　参加者（鈴木貴、高階、小澤）
１５：３０　鈴木新、小野、磐城共立病院に向けて出発
１６：１０　鈴木新、小野、磐城共立病院に到着
１６：３０　診療機材チェック（鈴木新）
１６：２０　鈴木貴、高階、小澤、磐城共立病院に向けて出発
１７：００　鈴木貴、高階、小澤、磐城共立病院に到着
１７：２０　車両積載分（HIACE）診療機材チェック（鈴木新、水谷）
１８：１６　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 20 日

福島オペレーション

出張者：混成ＤＭＡＴ
川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

８：００　平ビューホテル出発
８：３０　磐城共立病院到着
８：４５　Ｊヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（鈴木貴、小澤）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
８：５５　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：００　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
９：４５　Ｊヴィレッジ到着
１０：００　ミーティング開始
１０：３０　ミーティング終了
１０：４０　磐城共立病院に向けて、JV 出発　常磐道（広野 IC→いわき中央 IC）
１１：４０　磐城共立病院到着（途中、緊急派遣車両登録）
１２：１０　Ｊヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発
１３：００　Ｊヴィレッジ到着
１３：２０　訓練開始：傷病者(小澤)　付添者（その他）
屋外テント：搬入、脱衣除染、部分水除染、搬出
メディカルセンター診療所：処置
１３：４０　訓練終了
１３：５０　訓練反省会
１４：０５　反省会終了
１４：３０　高階、鈴木新　水谷、小澤、磐城共立病院に向けて、JV 出発
１５：００　Web 会議：鈴木（JV にて）
１５：３４　Web 会議終了
１５：４５　鈴木貴、小野、磐城共立病院に向けて、JV 出発
１６：００　高階、鈴木新　水谷、小澤、磐城共立病院に到着（途中給油）
１６：４０　鈴木貴、小野、磐城共立病院に到着
１７：４５　DMAT 事務局市原さんより待機 DMAT の現状と今後に関する概要説明
１８：４０　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 21 日

福島オペレーション

出張者：混成ＤＭＡＴ

川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

８：００　平ビューホテル出発
８：２０　磐城共立病院到着
８：３７　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：５１　Ｊヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（鈴木貴、小澤）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
８：５２　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：４０　JVMC 到着（鈴木貴、小澤）
９：５０　自民党小泉議員、佐藤議員、吉野議員が JVMC 訪問のため、DMAT 隊員も立ち会ってほしい旨の依頼が統括徳永医師よりあったため、待機中の４名が JV へ出向
１０:００　JVMC 定例会議開始（出席　鈴木貴、小澤）
１０:１０　JVMC に鎌で手掌部を受傷した５６歳男性が東電職員に連れられ JVMC で来所
１１:１０　JVMC に小泉議員、佐藤議員、吉野議員来所。
対応（JVMC 職員＋第５次隊）
１２:００　JVMC から磐城共立へ帰途（全員）
１２:３０　帰路途上、JVMC 徳永医師より縫合セットがなくなったため DMAT 隊の借用を依頼される。
１２:５１　DMAT 事務局近藤先生に貸し出す旨承諾を得、昼食後に届け出ることを決定
１４:０７　平ビューホテル駐車場で貸出資機材確認のうえ、JVMC 再出向（高階、鈴木新、小野）。磐城共立病院へ帰途（鈴木貴、水谷、小澤）
１４:２０　磐城共立病院到着　（鈴木貴、水谷、小澤）
１４:３９　JVMC 到着（高階、鈴木新、小野）

１４:４５　JVMC 徳永医師より広野火力発電所（２０ｋｍ圏外）で２８歳男性がのこぎりで受傷した事案に DMAT 隊対応する旨依頼
１４:４６　広野火力発電所へ出動（高階、鈴木新、小野）
１４:５０　広野火力発電所で傷病者に接触（高階、鈴木新、小野）
１５㎝大の細いのこぎりが刃先から３ｃｍささるもバイタル安定。緊急性のない旨 JVMC 徳永医師に報告（小野）
１５:００　徳永医師 OFC に広野火力の救急患者の対応を報告、OFC から磐城共立へ収容依頼される
１５:１０　Web 会議開始
１５:２６　東電の車両に高階医師同乗で磐城共立へ向かうため、磐城共立へ連絡するも連絡つかないため、待機 DMAT から連絡するよう依頼（小野）
１５:２７　広野火力から活動報告のため JVMC へ向かう（鈴木新、小野）
１５:３５　鈴木貴医師、　JVMC 徳永医師にいわき共立へ東電の車で搬送することの確認。徳永医師 OFC、磐城共立とも了解済の件を伝える。
１５:４０　鈴木貴医師磐城共立病院 ER 医師に２０Km圏外でバイタル安定などの患者情報を連絡
１５:４３　鈴木貴医師、高階医師に磐城共立へ患者情報伝達したことを伝える。
１５:５６　小澤広野火力発電所の対応内容を DMAT 事務局に報告
１６:２８　縫合セットの貸出終了し JVMC を退所（鈴木新、小野）
１６:２９　高梨医師、東電の車両で磐城共立病院到着
１７:１５　鈴木新、小野、磐城共立病院に到着
１７:２０　チームブリーフィング

○ 医療器材の補充について、切開縫合セットを JVMC に１セット貸出。JVMC への補充は東電病院が行う。補充を受けたのち返却してもらうこととする。
○ 20km 圏外での対応に関しては感染対策が必要。ガウンを JVMC から借りる。以降の隊に関しては持参が望ましい。
○ 医療廃棄物の処理について、メディカルセンターに依頼してもよいのではないか。明朝の会議後に徳永統括医師と調整する。

１８:００　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 22 日

福島オペレーション

出張者：混成ＤＭＡＴ

川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

個人線量計（PDM-112）について、昨夜線量計の値が急に上昇しているとの報告有。行動を共にしていたため、誤作動であると理解する。水谷９９９９、小澤２７５、夕食時、両名の座席は隣同士であり、携帯電話の電磁波の影響ではないか。本日朝、リセットし､念のため小野が持参した線量計 DOSE CUBE N も装着し､検証することとした。

８：００　平ビューホテル出発
８：２０　磐城共立病院到着
８：２５　チームブリーフィング
８：３７　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：４８　JVMC ヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（鈴木貴、小澤）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
８：５２　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：４０　JVMC 到着（鈴木貴、小澤）
１０：００　JVMC 定例会議開始（出席　鈴木貴、小澤）
１０：４５　磐城共立病院に向けて、JVMC 出発（鈴木貴、小澤）
１１：５０　磐城共立病院到着
（この間、各自備品の確認、及び、マニュアルの修正など行う。）
１５：００　Web 会議
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 23 日

福島オペレーション

出張者：選抜ＤＭＡＴ
川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

午前中は、JVMC 全体会議参加チーム（鈴木貴、水谷、小澤）と川内村一時帰宅準備チーム（高階、鈴木新、小野）の 2 隊に分かれて活動

＜JVMC チーム＞
８：００　平ビューホテル出発
８：２０　磐城共立病院到着
８：３７　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：５２　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：００　JVMC ヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（鈴木貴、小澤）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：５０　JVMC 到着（鈴木貴、小澤）
１０：００　JVMC 定例会議開始（出席　鈴木貴、小澤）
１０：５６　磐城共立病院に向けて、JVMC 出発（鈴木貴、小澤）
１１：３８　ホテルに到着。その後、川内村チームと合流
＜川内村チーム＞
７：３０　平ビューホテル出発（国道 399 号線）川崎病院でレンタルした車両（TOYOTA　IST）を使用。
国道 399 号線は、道幅が狭く、斜度のきつい、曲がりくねった道。
HIACE では通行困難と考える。
８：４５　川内村富岡消防署川内出張所に到着
８：５０　双葉消防隊に現状確認
９：２８　川内村の体育館に移動し準備状況と 25 日の予定、レイアウトを確認
１０：４０　川内村を出発（県道 36 号線小野方面、県道 287 号線、県道 41 号線）
県道 287 号線が一部 5 月 31 日まで通行止め。3km 程度迂回する。
迂回路は 399 号線と同様に、非常に狭く、勾配のきつい曲がりくねった道。カーブでは見通しがきかないため注意が必要。
危険なためできれば通りたくない。（明日、磐越道経由を検証する。）
6 月 1 日以降は問題ないと考える。
１１：５０　ホテルにて JVMC チームと合流
１３：３０　内郷消防署を訪問（遠山署長と面会）
１５：０４　Web 会議
１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了
JV への MCA 定期無線連絡
DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 24 日

福島オペレーション

出張者：選抜ＤＭＡＴ

川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

午前中は、JVMC 全体会議参加チーム（鈴木貴、鈴木新、小澤）と川内村一時帰宅準備チーム（高階、水谷、小野）の 2 隊に分かれて活動

＜JVMC チーム＞

８：００　平ビューホテル出発
８：２０　磐城共立病院到着
８：３７　MCA 無線定期連絡（DMAT 事務局、JV）
８：５２　MCA 無線定期連絡（OFC）
９：００　JVMC ヴィレッジに向けて、磐城共立病院出発（鈴木貴、小澤）
常磐道（いわき中央 IC→広野 IC）
９：５０　JVMC 到着（鈴木貴、小澤）
１０：００　JVMC 定例会議開始（出席　鈴木貴、小澤）
１１：１０　磐城共立病院に向けて、JVMC 出発（鈴木貴、小澤）
１３：００　昼食後共立病院到着

＜川内村チーム＞

磐越自動車道経由のルート確認のため川内村に移動

８：２０　ホテル出発：国道 49 号線（途中道路にうねりあり。補修工事中）
８：４５　磐越道いわき三和ＩＣ（コンビニ多数あり。高速道路合流直後、車線規制。差塩 SA 直前うねり有。差塩小野間数ヶ所うねり。
９：０５　小野ＩＣ（850 円）国道 349 号線右折→左折県道 19 号へ→右折県道 145 号へ急に道が狭くなる。道が狭く、カーブが多いが退避個所もあり走行は楽。途中道路拡張工事中で砂利道有
９：４０　川内村役場到着

川内村～田村市古道間のルート確認のため古道に移動（距離 13km）

１０：１０　川内村役場出発

国道 399 号線（役場を出てすぐ、古道への看板有。いわき方面は地元の方でもあまり通らないが、古道方面は安全とのこと。信じてみることにする。）1 ケ所工事中（片側交互通行）

１０：３０　古道到着：古道体育館の状況を確認（田村市都路公民館横）。すでに養生済み。ビデオ参照（DVD に保存し、東京医科歯科チームに引き継ぐ。）。トイレは臨時トイレを設置。水の使用は？自動販売機は使用可なので電気 OK、携帯 OK

古道～いわき間の磐越道のルート確認のため、磐越道経由でいわきに移動

１０：５０　出発

国道 288 号線：非常に快適。問題なし。船引はかなり大きな町。飲食店多数あり。（小野 IC へショートカットしても時間的には変わらない？）

１１：３０　磐越自動車道、船引三春 IC：船引三春ＩＣ、小野ＩＣ間は、上下線とも路面のうねりが大きいため走行注意。下りは車線規制の上、工事中。

１２：１０　いわきＪＣＴより常磐道へ

１２：１３　いわき中央ＩＣ（1700 円）

１３：０５　昼食後いわき共立病院到着、JVMC チームと合流

１５：００　Web 会議

１８：００　本日の磐城共立病院での業務を終了

JV への MCA 定期無線連絡

DMAT 事務局への MCA 無線連絡（撤収の連絡）

2011 年 5 月 25 日

福島オペレーション

出張者：選抜ＤＭＡＴ
川崎市立川崎病院　鈴木　貴博（Dr）
京都第一赤十字病院　高階　謙一郎（Dr）
済生会宇都宮病院　鈴木　新（Ns）
平鹿総合病院　水谷　健（Ns）
愛知医科大学　小澤　和弘（ロジ）
川崎市立川崎病院　小野　欽也（ロジ）

５：４０　震度 5 弱の地震発生。全員平ビューホテルにて待機中。異常なし。
６：００　平ビューホテル出発（磐越自動車道、いわき三和 IC→小野 IC→川内村体育館）いわき三和 IC から水戸方面は地震により通行止め。小野方面は通行可。
７：４０　川内村体育館到着
８：５０　医療班ブリーフィング
９：００　住民受付終了。MAC 無線電波取れず
９：１０　住民に対し説明開始。携帯電話にて OSC に定時連絡
１０：００　住民防護服に着替え
１０：２０　一時帰宅バス出発
１０：３０　サーベイ班＆医療班ブリーフィング
電事連リーダー：出野
汚染エリア：小野、鈴木新
コールドエリア：高階、小澤
１０：４０　鈴木貴、水谷、磐城共催病院に向け、引き継ぎのため出発。
＜一時帰宅班＞
１１：００　自衛隊除染班と打ち合わせ

富岡町１号車12世帯／20名　２号車13世帯／２０名

	出発	降車開始	降車終了	乗車開始	乗車終了	警戒区域通過	到着/降車
一号車	10:21	11:08	11:22	12:31	13:23	14:04	14:12/25
二号車	10:23	11:09	11:21	12:17	13:20	13:53	14:00/08

１３：５２　ペット回収トラック運転手到着　サーベイ開始
１４：１１　２号車受付終了
１４：１５　１号車受付開始
１４：２２　２号車スクリーニング終了
漢方薬の持ち込みあり対応中　健康食品（廃棄）１－２－８

１４：３２　１号車ドライバー以外終了
１４：３５　１号車住民スクリーニング終了
１４：４４　スクリーニングすべての予定者　終了
　　積算　確定　5ー12μSv
１５：２５　川内村出発
１７：００　磐城共立病院到着。引き継ぎ班と合流

＜以下引き継ぎ班＞
１２：００　磐城共立病院到着
１２：３０　第6隊東京医科歯科病院チームと引き継ぎ
１３：４５　第6隊との引き継ぎ挨拶のため JVMC へ移動
１４：３０　JVMC 到着
１５：００　Web 会議
１５：４０　JVMC から磐城共立病院に向け出発（途中、第6隊の災害派遣車輌登録）
１６：４０　磐城共立病院到着
１７：００　一時帰宅班と合流

任務終了

明日の予定
　午前　　J ヴィレッジの医療班ミーティングに参加
　午後　　福島医大　島田先生と打合せ

懸案事項
　2次隊以降の宿舎の手配
　レンタカーの手配／緊急車両の登録

ブリーフィング
・保冷パックの回収方法の検討
・袋の外部、問い合わせのスクリーニングして、相手の前で中を行うなど便利
・車で行かせてほしい
・動線が入り組んでいたので整理してほしい
・次はポールをたてる。
・受け入れのコントロールを明確にしてほしい。
・受付看護師でコントロールは難しい。

第６次隊　東京医科歯科大学病院

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　登坂直規（医師）、森山典晃（医師）、工藤　晃（調整員）

5/25(水)

6:30　医科歯科へ集合（磯谷医師、登坂医師、森山医師、工藤調整員）
7:00　医科歯科出発（レクサス：磯谷、森山、アルファード：登坂、工藤）
7:07　神田橋 IC より首都高～6 号～三郷より常磐自動車道へ入る
8:45　日立中央 SA にて休憩
9:45　いわき中央 IC より一般道へ入る（国道 6 号）
10:00　平ビューホテル着～チェックイン～資器材、ユニフォーム等の個人装備確認
11:15　先遣隊の川崎市立病院鈴木医師より電話連絡あり
　　→いわき共立病院での駐車場について、DMAT 控室について等
11:25　平ビューホテル発
11:40　いわき共立病院着
12:00　鈴木先生、水谷看護師と引き継ぎ
（J ビレッジ（以下「JV」。）における留意事項）
・JV 内での写真撮影は禁止
・大声、笑い声、長時間の滞在は厳禁であること
・東電医師、看護師、自衛隊、法医研、DMAT 等のミーティング後、速やかに撤退いただくこと
（いわき共立病院において）
・MCA 無線による定時連絡を忘れずに行うこと（毎日 8:00）
・9:00 から OFC より MCA 無線連絡があること（10 分くらい前にスタンバイを）
・毎日 10:00 からの JV におけるミーティングへの出席について（リーダー+1 名）
・15:00 からの web 会議に参加することについて
（看護師への引き継ぎについて）
・赤、青、黄バック資器材管理について～使用した場合、数量を添付されているノートに記入すること（使用したものの補充を行うため）
・DMAT 待機室の整理整頓について
・Brother のプリンタは愛媛県立中央病院の所有物のため、最後の DMAT 隊は梱包して郵送願いたい
・各隊の最後のメンバーは、次隊の昼食、飲み物を用意し 12:00 の引き継ぎを行うこと
12:20　昼食（鈴木医師、水谷看護師、磯谷医師、登坂医師、森山医師、工藤調整員）

12:40　gmail や共有フォルダについて説明（水谷看護師→工藤調整員）、議事要旨のプリントアウト、共有フォルダへのクロノロ UP について等

13:00　いわき共立病院樋渡院長に挨拶

13:20　いわき共立病院出発～JV へ

14:00　JV 着　ミーティング、引き継ぎ等実施

島根大学救急医学橋口教授と打ち合わせを行う

14:25　登坂医師、森山医師福島県の合同庁舎に有料道路の料金免除許可証発行申請のため、いわき市内に移動

15:00　Web 会議（JV にて）

（おおまかな内容）

・南相馬への一時帰宅が実施されたこと

・8:50 頃、1F でめまいの方があり、JV に搬送し点滴し帰宅したこと

・5/24 17:24 覚知の浪江町ツシマの患者 1 名発生し、福島医大へ

・JV 林医師から、患者 3 名において、救急要請から JV まで平均 77 分かかっているとの報告→30 分は連絡体制の問題が考えられ､実質 30～40 分が平均といえよう。

・福島医大からの質問　JV 内に救急隊常駐は可能か？　→検討中

・その他、ボリュームがありすぎ省略させていただきます（医科歯科 Log 工藤）

15:29　JV のミーティング及び引き継ぎ終了

15:35　JV 出発

15:40　常磐自動車道

16:30　福島県合同庁舎着

16:35　許可証申請～5 分くらいで発行、受理できた

16:45　いわき共立病院着

18:00　JV に MCA 無線連絡（定時連絡）

18:20　解散　いわき共立病院から平ビューホテルに移動

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／２６）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　登坂直規（医師）、植木穣（医師）、森山典晃（医師）、
　　工藤　晃（調整員）

5/26(木)

4:45　起床
6:25　平ビューホテル出発
6:32　いわき中央 IC より常磐自動車道～磐越自動車道
7:03　阿武隈高原 SA にてガソリン補給、朝食、昼食類を調達
7:30　阿武隈高原 SA 出発
7:45　船引三春 IC より一般道へ(国道 288)
　　道路舗装状態あまりよくなく、HIACE では少々腰痛し･･･。
8:15　古道体育館着
8:45　一時帰宅者による問診票記入、回収、健康チェック実施、名簿との照合作業
9:15　東電関係者、放射線安全委員会等からの諸説明
9:25　タイベックの装着方法のデモ
9:32　厚労省（近藤先生)、警察からの諸連絡
9:40～　タイベック等の装着開始～管理番号確認、背中の番号テープ確認
10:10　第１班からタイベックの背中に付けたシールと名簿の確認、線量計を掛け、バスに移動
10:30　バス３台乗車完了し出発
10:33～　全体ミーティング
10:40～　古道体育館内において、一時帰宅後のサーベイチェック等の会場設営開始
11:00～　会場設営変更、立ち位置確認等、昼食、休憩　～13:00 頃まで
13:58　一時帰宅者バス２号車到着
14:05　降車終了
14:21　２号車サーベイ終了
14:24　一時帰宅者バス３号車降車終了
14:30 頃　歯磨き粉を持ち出そうとした方がいた。封が切られていないものであったため、持ち出し OK とした。
14:34　３号車サーベイ終了
14:36　１号車降車終了
14:45 頃　防御服のポケット内に鍵を忘れてしまった方がおられたが、無事発見された。
14:55 頃　２号車に乗車していた放射線管理要員１名がサーベイをせず通過したとの報告

があったが、自分でサーベイを行っていたことのことであった。

15:00　１号車サーベイ終了　　･･･　体調不良を訴えられた方は０人であった

15:12　全員終了

15:15～　全体ミーティング

15:22　終了～後片付け、忘れ物チェック

15:45　古道体育館出発

16:28　船引三春 IC より磐越自動車道へ

17:05　いわき JCT 経由で常磐自動車道に入り、いわき中央 IC 着

17:15　いわき共立病院着

17:20　DMAT 事務局よりいわき待機 DMAT 名簿について問い合わせあり
本日中に各隊員の名簿及び携帯番号を入力し dropbox に up との指示

18:00　MCA 無線定時連絡

18:25　医科歯科 DMAT 隊員名簿及び携帯番号登録完了～dropbox へ

18:45　いわき病院発･･･本日の任務完了

19:00　平ビューホテル着

5/25 のクロノロについては、メモと照合して翌日(5/27)に 5/26 と併せて UP 予定。

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／２７）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　登坂直規（医師）、植木穣（医師）、森山典晃（医師）、
　　工藤　晃（調整員）

5/27(金)

4:45　起床
5:35　平ビューホテル出発
5:43　いわき共立病院にて一部物品積み込み
6:35　阿武隈高原 SA にてガソリン補給(HIACE)
6:50　阿武隈高原 SA 出発
7:00　船引三春 IC より一般道へ(国道 288)
　　昨日と同様 HIACE では少々腰痛し･･･。
7:15　国道 288 号途中で朝食と昼食を調達
7:45　古道体育館着
7:55　資器材を体育館内に配置、救護所の配置調整、その他
　　昨日改善したほうがよいと思われた事項を各担当者に説明
　　・管理番号は胸からさげているものと名簿と違うことが多く、ご夫婦で逆になっているため、1 人 1 人に渡していただきたいこと
　　・クロークのあと、簡単な医師の問診があることをお伝えいただきたいこと
　　・問診票の質問内容について･･･分からない人が多かったこと
　　・その他
8:30　一時帰宅者による問診票記入、回収、健康チェック実施、名簿との照合作業
9:10　問診票回収終了～名簿チェック
9:10　東電関係者、放射線安全委員会等からの諸説明
9:17　タイベックの装着方法のデモ～厚労省（近藤先生)、警察からの諸連絡
9:35～　DM、喘息等の既往患者の有無や体調について、双葉消防署職員に申し送り
　　2 号車乗車予定のうち 2 名が欠席。計 58 名が一時帰宅となる。
9:55～　一時帰宅者の所持品一時預かり開始
10:10　バス乗車完了（第 3 班、第 2 班、第 1 班の順）
10:16　管理者関係で 1 名血圧測定の依頼あり（40 代男性）
　　→　問診、血圧測定を実施→問題なし
10:20　南会津救急隊とのミーティング
10:26～10:29　全体ミーティング（進行：近藤先生）
10:40～10:55　入口誘導、サーベイの部門ミーティング

13:18　電話連絡　2 号車 14:00 着とのこと
　　乗車完了時間報告：1 号車 13:32、2 号車 13:12、3 号車 13:22
13:57　2 号車　警戒区域外に出たとの連絡あり
14:00　2 号車到着～サーベイ開始
14:14　3 号車　警戒区域外に出たとの連絡あり
14:16　2 号車到着～サーベイ開始
14:32　2 号車サーベイ終了
14:31　1 号車警戒区域検問付近でエンジントラブルのため停止～予備のバスを向かわせた。
14:36　1 号車の到着まで 30 分くらいを要するとの情報が入る
14:40　3 号車サーベイ終了
14:25　50 歳男性腰痛を訴え、問診及び湿布剤を処方
14:55　1 号車乗車中の 50 歳女性気分が悪い（頭痛、眩暈）との訴えあり、救急車要請となる（南会津救急隊)。
15:16　救急車古道体育館着　バイタル：脈拍 71、血圧 132/81、Spo2：99%
　　救急車内での必要処置なしと判断し、体育館内の救護所に移動と決定
15:18　1 号車到着
15:21　救急搬送者のサーベイを行い、救護所にストレチャ搬送(15:26 搬送完了)
15:26　問診、南会津救急隊から DMAT 医師への状況等の申し送り
15:28　1 号車サーベイ開始
15:47　1 号車終了
15:50　14:25 に腰痛を訴えられた男性が頭痛を主訴に再度救護所へ～問診、処方
16:00　ミーティング（進行：近藤先生）
　・ホットエリアの対応がスムースに行えたこと（広島大）
　・荷物入れとしてトレーを使う方法を採用したことがよかった（広島大）
　・サーベイ等の机配置は随時見直しでいい流れを考えていきたい（電力支援側）
　・待機 DMAT から、本日救護所にて診察を行った事例報告があった
16:50　古道体育館撤収
18:15　いわき共立病院着
18:20～　記録 up 作業
19:35　いわき共立病院での業務終了～平ビューホテルへ移動

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／２８）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　庄古知久（医師）、植木 穣（医師）、漆畑　直（医師）、
　　工藤　晃（調整員）

5/28(土)

6:30　起床
7:00　朝食
7:30～　医療器材、一時帰宅者基地（広野町）設営準備用資材積み込み確認
8:00　MCA 無線連絡
8:03　JV より、午前中 JV に国の職員訪問のため、10 時の会議を 13 時に変更との連絡
8:45　平ビューホテル発
9:00　いわき共立病院着
9:05　災害医療センター大野さんより、設営のため 10:30 広野公民館集合との連絡あり
9:29　いわき中央 IC より常磐自動車道
9:50　四倉 SA にて昼食調達、災害医療センター大野さんと合流
10:14　広野 IC から一般道へ
10:23　広野体育館着
10:30～　広野体育館内（公民館）に診療所設営（～11:30 まで）
　　ピンクシート養生、診察用椅子、パーテーション設置、案内板作成（土足可、診療所入口）
11:30　昼食
11:45　東電職員 30 名に対し AED 講習を実施（講師：庄古医師，漆畑医師）
12:05　東電担当者、原安委職員等の全体ミーティング
12:25　災害医療センター大野さんとミーティング
　　JV に 2 名（磯谷医師、漆畑医師）いわき共立に 3 名（庄古医師、植木医師、工藤調整員）の 2 隊に分かれての行動とした
12:40　JV 班移動開始
12:41　自衛隊第 6 師団特殊武器防援隊から除染テントや設備について説明を受ける
12:50　いわき共立班 広野公民館出発
12:50　JV 着
13:00　JV 医療班会議（各部署報告及び交代メンバー紹介）
13:25　JV 班 いわき共立病院に移動開始
14:00　いわき共立班、JV 班 いわき共立病院にて合流
14:10　再度、15 時の Web 会議参加のため、JV に移動開始（磯谷医師、工藤調整員）

14:50　JV 着

15:00　JV にて Web 会議（かなり抜粋しております）

（OFC より）

・明日、明後日の一時立ち入りは天候不良につき中止となったこと

・5/28 に JV から 1F に向かう途中で具合が悪くなった 1 名について

・OFC 医療班顧問が本間先生から大友先生に変更になること

（1F から）

・昨日までは下痢や頭痛を訴える人が 10 名くらいいたが、今日は 2～3 名くらいであること

（JV から）

・5/27 に 1F で作業中に気分が悪くなった人について、JV に搬送し東電医師が対応し、点滴して回復したこと

・1 名転んで Tyvek、ズボンも破け、擦過傷を負ったこと

・2F でボルトを踏み抜いた人が発生し、２F 医務室で対処したこと

・天候不良でヘリが使用できないが、どうしても必要なときは JV まで連絡をいただきたいこと

・橋口先生より質問

JV 内の XP 装置はいつから使用できるのか？

→　業者にチェックを依頼中であり、そんなに遠くない時期に使えると思います（東電）

（いわき待機 DMAT より）

・5/27 古道体育館での救急対応についての報告（磯谷医師）

・　〃　のゾーニングについての状況説明（　〃　）

（その他）

・これ以上は内容が複雑のため、Web 会議議事要旨を参照ください

15:45　Ｗｅｂ会議終了

15:55　JV 出発

16:29　いわき市内にて給油

16:45　いわき共立病院着～待機

18:00　MCA 無線による定時連絡

18:20～　記録 up 作業

19:35　いわき共立病院での業務終了～平ビューホテルへ移動

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／２９）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　庄古知久（医師）、植木 穣（医師）、関　聡志（医師）、
　　柴田智志（調整員）

5/29(日)

7:10　起床
7:40　朝食
8:00　MCA 無線連絡（通信不可：災害医療センターへ連絡済み）
8:45　平ビューホテル発（磯谷・庄古医師／JV、植木・関医師・柴田／いわき共立病院）
9:00　いわき共立病院着（植木・関医師、柴田調整員）
10:00　JV 着（磯谷・庄古医師）定例会議出席
～～病院内にて待機～～
10:20　JV での会議終了
10:30　OFC 熊田氏より磯谷医師へ電話(29,30 日の一時帰宅の振替 6 月 2.6 日となった)
～後日確定とのこと～
10:57　磯谷・庄古医師いわき共立病院着
12:00　昼食
14:00　15 時の Web 会議参加のため、JV に移動開始（磯谷・関医師、柴田調整員）
14:35　JV 着
15:00　JV にて Web 会議参加
15:20　インターネット環境悪く、会議参加不能
15:25　JV 出発
16:00　いわき共立病院救命救急センターにおいて，JV 近郊で足部に外傷を負った作業員の診療を同病院の当直医とともに行った。（庄古医師）
診断は「右第 2 第 3 趾基節骨開放骨折」
16:25　JV 担当班（磯谷・関医師、柴田調整員）いわき共立病院着
16:40　庄古医師任務終了　いわき駅へ送迎後、植木・関医師　帰宿
16:50　記録 UP 作業　本日の任務終了　磯谷医師・柴田調整員　帰宿
18:00　MCA 無線による定時連絡

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／３０）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　世良俊樹（医師）、植木穣（医師）、関　聡志（医師）
　　柴田智志（調整員）

5/30(月)

7:00　起床
7:30　朝食
8:00　MCA 無線連絡
〃　平ビューホテル発　いわき共立病院へ
8:20　いわき共立病院着
8:40　ハイエース車内・控室内の整理整頓
10:04　第 7 隊 JA 取手総合病院内藤先生宛に本院現在までの日報・資料等をメール送信
12:00　昼食
12:30　いわき共立病院発 JV へ　途中より天候悪化横殴りの雨でハンドルとられる
13:15　JV 着　駐車場は混雑
13:25　定例会議開始　昨日の状況を再説明　守本大臣官房参事官来所予定キャンセル
　交代メンバーの紹介・発言求められるが特段無し
13:30　定例会議終了　風雨強いため WEB 会議まで JVMC 内ステイ
15:00　JV にて Web 会議（会議議事録参照）
15:25　Ｗｅｂ会議終了
15:40　JV 出発変わらず風雨強く駐車場まで戻るまでに DMAT スーツはビショビショ
16:25　四倉港等市街地を回りいわき共立病院着
16:35　関医師任務終了　いわき駅へ送迎
17:30　いわき共立病院での業務終了～平ビューホテルへ移動
18:00　MCA 無線による定時連絡

医科歯科 DMAT いわき派遣活動記録（５／３１）

メンバー　リーダー　磯谷栄二（医師）
　　メンバー　世良俊樹（医師）、植木穣（医師）、関谷宏祐（医師）、
　　柴田智志（調整員）

5/31(火)

6:00　起床
7:00　朝食
8:00　平ビューホテル発　いわき共立病院へ　（世良医師本日夜勤のため打合せ後帰院）
8:20　いわき共立病院着
8:40　MCA 無線による定時連絡
8:45　JV へ出発　定例会議参加（磯谷・植木・関谷医師）
9:10　給油（アルファード満タン)
9:30　OFC 医療班熊田氏より 6 月 2 日車立入プロジェクト関係資料の FAX 受信
10:20　給油（ハイエース満タン)、次隊引継ぎの際の昼食・飲料購入
10:53　定例会議終了　JV 発
11:25　いわき共立病院着
11:45　次隊とりで総合医療センターと顔合わせ・前後の引継／説明　~12:30
12:30　昼食（DMAT 詰所付近に食堂があり、冷蔵庫・電子レンジ使用可）
13:10　県内高速道路無料申請手続き及び JV へ(磯谷医師･内藤医師･菊地ﾛｼﾞ（とりで))
14:40　JV 着
15:05　JV にて Web 会議　(内容は会議議事録参照)
15:25　Web 会議終了
16:10　JV 出発～広野体育館等視察し、いわき共立病院へ
17:05　いわき共立病院着
17:20　いわき共立病院小山医師に挨拶
17:30　医科歯科チーム任務終了　JA とりで総合医療センターへバトンタッチ　帰路へ
17:40　いわき共立病院での業務終了～平ビューホテルへ移動
18:00　MCA 無線による定時連絡

第７次隊　ＪＡとりで総合医療センター

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第１日目　5 月 31 日（火）　晴れ
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

８：００　救急外来前集合し荷物搬入作業
８：４０　板倉看護部長・中庭事務長へ挨拶
８：４５　新谷院長へ挨拶
８：５０　病院出発
９：１５　谷田部 IC 到着し、常磐道　いわき方面へ向かう
　→友部 SA 付近で道路復旧作業などあり
９：４５　水戸 IC 通過
１０：２０　中郷 SA 到着　トイレ休憩
１０：３０　中郷 SA 出発
１０：４０　いわき勿来通過
１０：５０　いわき市へ入る（いわき JCT 通過）
１０：５２　いわき中央 IC を出て一般道へ（R49→R6）
１１：１０　平ビューホテル到着
　→私物搬出
１１：２０　いわき共立病院へ向け出発
１１：２５　待機 DMAT リーダー（医科歯科　磯谷医師）へ連絡
１１：３０　いわき共立病院到着
１１：３５　医科歯科 DMAT と合流し申し送り開始
１２：３０　昼食
１３：００　いわき共立病院　樋渡院長へ挨拶
１３：０５　申し送り続き。放射線線量計の受渡し
１３：０５　医科歯科　磯谷医師、とりで　内藤医師　菊地調整員
　高速券の発券のために福島県合同庁舎へ向かう
１３：１５　医科歯科 DMAT 隊員より久保ノ谷看護師、脇田看護師が災害医療センターから
　の車両・車内資機材・薬剤の申し送りを受ける
１３：３５　菊地調整員より連絡あり
　内容：いわき共立病院には戻らずこのまま J 村へ向かう
１４：１５　後方支援　染谷看護師へ状況報告
１４：３０　医科歯科　磯谷医師、とりで内藤医師、菊地調整員が J 村へ到着
１４：５０　WEB 会議　　１５：３０へ変更
１４：５５　東電へ電話　１４：４０１F4 号機爆発音有　原因・けが人不明

１５：００　指挫滅患者　到着
34 歳男性　右第 2 指挫創（骨折疑い）
洗浄・消毒後福島労災病院へ　サーベイ問題なし
ただし、バックグラウンド↑（放医サーベイ０．２４→０．７５）
１Ｆ２５００ｂｐｍ
１５：０４　J 村の内藤医師より連絡あり
内容：傷病者発生（右手挫滅創）のため１５：００~の WEB 会議が３０分遅れる
１５：１０　久保ノ谷看護師、脇田看護師　待機 DMAT 室　環境整備
１５：０８　福島労災病院へ救急搬送決定
１５：２３　東電へ連絡　１F 傷病者無
１５：３０　WEB 会議開始
救急車到着
１５：３４　救急車出発
１５：５５　WEB 会議終了
１６：１０　J 村出発
１６：１５　広野町立体育館へ現地視察
１７：１０　内藤・菊地　共立病院到着
１７：１５　OFC へ連絡(熊田さんより)
（ミッションの再確認６/2/・６広野体育館　４・５古道体育館）
１７：３０　医科歯科 DMAT 撤収
１７：３７　Ｄｒ小山に電話で挨拶
１８:００　JV と定時連絡
１８:１１　DMAT 事務局より連絡（MCA）無線依頼

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第２日目　６月１日（水）　曇り
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

7:55　集合
8:00　JV 定時連絡
8:20　共立病院到着
　　DMAT 事務局定時連絡
8:30　JA 取手 HP へ定時連絡
8:48　OFC から定時連絡
9:00　内藤医師・菊地調整員　J 村へ出発（10:00 より定例会議）
　　久保ノ谷看護師、脇田看護師　車両資器材の整備、点検及び
　　翌日ミッションの準備開始
9:47　内藤医師、菊地調整員　J 村到着
9:56　内藤医師、菊地調整員　J 村定例会議開始
10:10　内藤医師、菊地調整員　J 村出発し広野体育館へ向かう
10:18　内藤医師より連絡あり
　　内容：J 村での活動状況など
10:25 内藤医師、菊地調整員　広野体育館へ到着
　　→翌日ミッションのため担当者へ挨拶
11:15 内藤医師より連絡あり
　　内容：災害医療センターDMAT 車両　高速券更新のため合同庁舎へ向かう
11:42 内藤医師より連絡あり
　　内容：間もなく共立病院到着する
11:45 内藤医師、菊地調整員　共立病院到着
11:50 小山医師へ連絡し救急センターへ向かい挨拶
12:00 昼食
14:00 内藤医師、久保ノ谷看護師　WEB 会議のため J 村へ出発
14:39 内藤医師、久保ノ谷看護師　J 村到着との連絡あり
15:00 JV　WEB 会議開始
15:25 JV　WEB 会議終了
15:37 JV の内藤医師より連絡あり
　　内容：JV　15:25WEB 会議終了し共立病院へ向かう
16:12 宮本看護師長へ明日のミッション報告
16:30 内藤医師、久保ノ谷看護師　共立病院到着
17:24 災害医療センター大熊さんより連絡
　　明日のミッション申し送り
17:44 JV DMAT 事務局へ定時連絡
17:50 小山医師へ連絡
　　活動終了

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第１日目　６月２日（木）　雨
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

6:50 ホテルロビーへ集合
7:00 広野町体育館へ出発
　車両事故発生（DMAT 車両）　内藤医師・脇田看護師・菊地調整員３名にて出発
7:08 DMAT 事務局大熊さんへ電話にて事故報告
7:10 染谷看護師・佐藤 RM 連絡できず
7:24 OFC へ電話
　３名にて活動すると報告
7:25 いわき中央 IC 通過
7:30 警察へ連絡
7:32 染谷看護師へ連絡　事故報告
7:36 DMAT 事務局市原へ電話連絡　事故報告
7:41 久保ノ谷看護師より連絡あり　被害車両：味の素会社員　会社の車両
7:47 染谷看護師より連絡　RM 等院内への報告はするとのこと
7:49 久保ノ谷看護師より連絡：警察へ連絡事故対応処理 18:30 いわき中央警察署にて調整
7:50 広野 IC 通過
8:00 広野体育館到着
8:02 JV へ定時連絡　DMAT 事務局連絡とれず
体育館にて到着挨拶　活動準備開始
8:30 OFC へ定時連絡
8:37 久保ノ谷看護師 RM 佐藤へ連絡
8:40 DMAT 事務局定時連絡
　OFC へ連絡　傷病者発生　FXS/O(L)：受傷場所は OFC にて
8:45 診察室へ移動　処置
8:50 久保ノ谷看護師より連絡：手続き終了にて合流するとのこと
9:15 OFC 森村 Dr へ連絡：傷病者病状報告
9:20 DMAT 事務局市原より連絡：車両手続きのこと
9:30 久保ノ谷看護師合流
9:50 OFC 森村 Dr より連絡：JV から傷病者迎えがくる
10:00 住民から常備薬の質問あり（HT 薬の昼の投薬をどうするか）
10:25 JV より傷病者迎え到着
10:30 傷病者搬送終了

問診票チェック開始 1 号車 18 名 2 号車 20 名

10:48 一次帰宅者バス乗車

OFC へ傷病者搬送完了連絡

10:54 バス出発

11:33 新潟中越にて地震（震度 5 弱）覚知

11:45 病院へ連絡：佐藤医師より病院被災なし

12:00 昼食

12:53 災害医療センターDMAT 合流

13:17 第一陣広野体育館到着　活動開始

田村市 6 名　双葉町 38 名

大熊町 44 名　葛尾町 1 名　浪江町 49 名

15:49 厚労省　熊田医師接触：今後の活動について

15:53 住民帰宅完了：汚染・傷病者無

16:00 森川医師へ任務終了挨拶

16:15 広野体育館より撤収

16:17 病院・OFC へ撤収ならびに共立病院へ移動することを連絡

17:17 共立病院到着

17:50 久保ノ谷・脇田看護師いわき中央警察署にて事故証明処理するため出発

18:00 JV・DMAT 事務局へ定時連絡

18:05 活動終了

18:25 事故処理終

18:45 合流し帰宅

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第４日目　６月３日（金）　晴れ
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

7:55 集合
8:00 JV 定時連絡
8:23 共立病院到着
8:24 JA 取手 HP へ定時連絡
8:25 OFC より定時連絡
8:30 DMAT 事務局へ定時連絡
9:03 JV 出発：内藤医師　菊地調整員
9:53 JV 到着
9:58 会議　JV 受診患者 28 名感冒・外傷・腹痛・虫刺され etc
10:10 会議終了
　　共立病院へ出発
11:00 共立病院へ到着：内藤医師　菊地調整員
11:30 茨城県医療対策課　野口さんへ DMAT]活動内容を報告
12:00 昼食
14:02 JV 出発：内藤医師　脇田看護師
14:39 JV 到着
15:00 web 会議
15:30 会議終了
15:40 JV 出発
16:44 共立病院到着：内藤医師　脇田看護師
17:40 JV・DMAT 事務局へ定時連絡
17:50 活動終了

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第 5 日目　6 月 4 日（土）　晴れ
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

6:15 集合
6:20 共立病院へ出発
6:28 共立病院到着：携行機材準備
6:36 古道体育館へ出発
6:45 いわき中央 IC
7:21 船引三春 IC 到着
8:10 古道体育館到着
8:19 JV・OFC・DMAT 事務局へ定時連絡：無線は県外
8:20 病院へ連絡
8:25 DMAT 事務局と合流
8:33 広島大学と合流
8:40 活動開始
　問診表配布・救護所の設営・問診表回収/集計
　1 号車 20＋6 2 号車 20＋6 3 号車 15＋6 4 号車 20＋6 5 号車 22＋6
　マスコミ 262 警察 2 名消防 3 名ペット回収 4 名公用車 2 名　合計 166 名
9:08 4-12-2 ムコスタ処方
9:10 富山大（サーベイ）擦過傷：消毒
9:35 2-5-2　ロキソニン処方
9:45 双葉消防へ一時帰宅者リスト申し送り
10:10 一時帰宅開始
10:45 帰宅者への打ち合わせ
11:40 昼食
12:50 追加立ち入り作業員帰還：サーベイ
14:02 最初の 3 号車到着
14:41 72 歳女性　1 週間前の左第 2 指の打撲の絆創膏交換
14:50 最後の 4 号車予備車到着
15:05 Web 会議参加
15:35 Web 会議終了
15:37 一時立ち入り参加者最終者降車（マスコミ）
　住民 97 名　その他　76 名　計 173 名　の一時立ち入り
16:05 反省会
16:20 反省会終了
16:30 撤収：いわき共立病院へ
17:26 船引三春 IC
17:30 JV･DMAT 事務局定時連絡
17:46 病院へ活動終了報告
18:03 いわき中央 IC
18:13 共立病院到着
18:20 活動終了

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第 6 日目　6 月 5 日（日）　晴れ
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

6:30 集合
6:33 古道体育館へ出発
6:45 いわき中央 IC
7:24 船引三春 IC 到着
8:00 JV 連絡：無線は圏外
8:10 古道体育館到着
8:15 活動開始：救護所設営
8:25 問診表配布
9:00 問診表チェック　メディカルチェック２名
（57 歳　男性　脳梗塞既往　朝バイアス内服未）
（58 歳　男性　気管支喘息　SPO2　88%）
9:45 病院（取手）佐藤医師へ定時連絡
10:01 DMAT 事務局連絡つながらず
OFC（森村医師）へ電話にて定時連絡（無線は圏外）
10:03 住民乗車開始
10:15 乗車終了：一時帰宅開始
11:00 全体ミーティング
11:20 全体ミーティング終了
11:30 昼食
11:51 DMAT 事務局より連絡（引継ぎの件）
13:10 帰宅者受け入れ準備開始
13:40 帰宅受け入れ開始
1 号車 19 名 2 号車 19 名 3 号車 19 名 4 号車 17 名 5 号車 13 名
消防・警察・運転手 etc　計 131 名
14:40 基礎疾患　喘息患者：サーベイ後 Spo2 測定
脳梗塞患者：頓服忘れ患者チェック
15:00 53 歳 F　頭がボートするのでバファリンが欲しいとの事
ロキソニン 1T で対応
帰宅者サーベイ終了
WEB 会議：古道体育館より
15:15 サーベイ関係者任務完了：安全宣言
15:30 反省会
15:55 WEB 会議終了
16:01 撤収：共立病院へ
16:03 病院へ連絡
16:44 船引三春 IC 通過
17:40 いわき中央 IC
17:55 共立病院到着
18:00 JV･OFC 連絡
18:15 活動終了

JA とりで DMAT いわき派遣活動報告

第 7 日目　6 月 6 日（月）　晴れ
メンバー：内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師　菊地調整員

7:20 集合
7:30 共立病院着
7:38 広野体育館へ出発:車両 2 台にて移動（内藤医師　菊地調整員：DMAT 車両） 1
7:45　（久保ノ谷看護師　脇田看護師：病院車両） 2
7:50 いわき中央 IC:1
8:00 JV へ定時連絡
8:07 広野 IC:1
8:13 広野体育館着
8:15 病院へ連絡
8:30 チーム合流
8:35 救護所設営
9:00 OFC より定時連絡
9:05 活動開始
9:40 問診終了：1 号車 22 名 2 号車 19 名 3 号車 17 名 5 号車 21 名 6 号車 19 名 計 98 名
10:00 29 歳男性　頭痛　ロキソニン１T 処方
10:10 広野体育館出発：内藤医師、菊地調整員（以下医師班）いわき共立病院へ出発
　　久保ノ谷看護師、脇田看護師（以下看護師班）広野で活動継続
10:45 住民乗車開始
11:00 乗車終了：一時帰宅開始
11:05 医師班　共立病院到着
11:10 医師班　日本医大 DMAT（医師１、看護師 1、調整員（薬剤師））と合流し申し送り）
11:30 看護師班　病院へ状況報告
　　看護師班　昼食
11:51 DMAT 事務局より連絡（引継ぎの件）

11:30 日本医大と接触：申し送り開始
12:25 JV 経由で広野体育館へ：内藤医師・日本医大（医師・看護師）出発
13:10 看護師班　帰宅者受け入れ準備開始
13:15 医師班 JV で挨拶
13:20 医師班広野体育館へ向け JV 出発
13:26 帰宅者広野体育間へ到着しサーベイ開始

13:30 合同庁舎へ：菊地調整員
13:30 医師班広野体育館到着し看護師班と合流
13:40 脇田看護師、日医看護師へ申し送り
13:45 午前中にロキソニンを処方した 29 歳男性
自宅で作業中にめまい出現したとの報告あり
血糖 80 ㎎/dl　飲食進めるも拒否
救護室で経過観察
14:10 本人より体調回復したので戻ると訴えあり。メディカルチェックを行い帰宅とした
14:10 共立病院着:菊地調整員
14:33 帰宅者サーベイ終了　住民 99 名　関係者 29 名
14:45 同男性バス内で再び体調不良。
軽い熱中症　クーリングで帰宅
14:40 避難所での活動終了
15:00 WEB 会議
15:50 撤収：共立病院へ：内藤医師・久保ノ谷看護師　脇田看護師
16:20 共立病院到着: 内藤医師　久保ノ谷看護師　脇田看護師
17:00 活動終了

第８次隊　日本医科大学付属病院

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目　６月６日（月）　晴れ
メンバー：増野医師　榊看護師　加藤調整員

8:00 病院出発
　　錦糸町 IC　→　首都高速　→　常磐道　→　いわき中央イ IC
10:45 いわき市立総合磐城共立病院着
11:30 前任者 JA とりで総合医療センター　内藤医師、菊地調整員とのミーティング
12:30 広野体育館へ出発:車両 1 台にて移動（内藤医師　増野医師　榊看護師：DMAT 車両）
　　ロジ部分の引継ぎ、緊急車両申請（合同庁舎）　加藤調整員
13:30 医師班広野体育館到着し看護師班と合流
13:40 脇田看護師、日医看護師へ申し送り
13:45 午前中にロキソニンを処方した 29 歳男性
　　自宅で作業中にめまい出現したとの報告あり
　　血糖 80 ㎎/dl　飲食進めるも拒否
　　救護室で経過観察
14:10 本人より体調回復したので戻ると訴えあり。メディカルチェックを行い帰宅とした
14:10 共立病院着:加藤調整員
14:33 帰宅者サーベイ終了　住民 99 名　関係者 29 名
14:45 同男性バス内で再び体調不良。
　　軽い熱中症　クーリングで帰宅
14:40 避難所での活動終了
　　バス 5 台、住民 99 名、関係者 29 名　計 129 名をスクリーニング
　　軽度熱中症患者 1 名
15:00 WEB 会議
15:50 撤収：共立病院へ：増野医師・榊看護師
16:20 共立病院到着:増野医師　榊看護師
17:00 活動終了

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月７日（火）　晴れ
メンバー：増野医師　榊看護師　加藤調整員

7:20 ホテル出発（いわき市内渋滞あり）
　　8：10 いわき中央 IC 入
　→　8：35 広野 IC 出
　→　8：35 広野公民館着
8：00 車中より定時連絡（J ビレッジ、DMAT 事務局）
9：00 広野公民館にて活動開始（バス 11 台にて立ち入り予定）
9：30 立ち入り住民受け付け開始
　　問診票回収し、体調・既往歴・内服薬より要観察者の抽出・記録
　　バス 11 台　1 号車 ― 18 名　　7 号車 ― 20 名
　　2 号車 ― 20 名　　8 号車 ― 20 名
　　3 号車 ― 21 名　　9 号車 ― 20 名
　　4 号車 ― 16 名　　10 号車 ― 18 名
　　5 号車 ― 20 名　　11 号車 ― 20 名
　　6 号車 ― 20 名　　住民 計 213 名
　　関係者：ドライバー12 名、引率者 11 名、安全管理者 12 名、放射線管理者 22 名、
　　ペット回収 4 名、警察 3 台 6 名、消防 1 台 3 名
10：45 バス乗車開始
11：40 バス 11 台出発完了
11：50 医療班ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）
12：00 昼食
12：30 医療室準備
13：30 スクリーニングエリア準備、帰還開始
　　救護所（増野、榊）、スクリーニングエリア受付（加藤）
　　受診者計 6 名
① 67 歳　男性　サボテンによる刺創
　　消毒＋ゲンタシン塗布
② 37 歳　女性　頭痛、気分不快
　　バイタル安定。　15 分ほど臥床し軽快→帰宅
③ 38 歳　女性　頭痛
　　バイタル安定。10 分臥床し軽快→帰宅

④ 57歳　女性　頭痛
　　バイタル安定。15分臥床し軽快→帰宅
⑤ 66歳　男性　頭痛、悪寒
　　バイタル安定。15分臥床し軽快→帰宅
⑥ 59歳　男性　犬を回収しようとして右手をかまれた
　　生食洗浄、ゲンタシン軟膏。破トキ筋注、抗生剤処方

15：30　住民全員帰還。
15：45　線量サーベイ終了。
16：00　医療班ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電 等）
・全体的にスムーズな運営ができた
・6－7割の住民が2時間の滞在時間で十分と感じていた
・荷物の線量チェックの人員を増やしたことでスムーズに進めることができた
・問診の受付用紙は、ホットゾーン、コールドゾーンに一部づつあるとよい→翌日からコピーして使用することとなる
16：30　広野公民館出発
17：45　磐城共立病院着
17：45　先着の田中医師と合流。引き継ぎ

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月８日（水）　晴れ
メンバー：田中医師　榊看護師　加藤調整員

7:20 ホテル出発（いわき市内渋滞あり）
8：00 いわき中央 IC 入
8：30 広野 IC 出
　　朝の線量　田中医師０　榊看護師５　加藤薬剤師４
8：00 車中より定時連絡（J ビレッジ）
8：30 車中より定時連絡（DMAT 事務局）
8：40 広野公民館着
9：00 広野公民館にて活動開始（ミーティング）
9：05 立ち入り住民受け付け開始
　　問診票回収し、体調・既往歴・内服薬より要観察者の抽出・記録
　　バス 11 台　1 号車 ― 21 名　　7 号車 ― 18 名
　　2 号車 ― 19 名　　8 号車 ― 19 名
　　3 号車 ― 21 名　　9 号車 ― 18 名
　　4 号車 ― 19 名　　10 号車 ― 19 名
　　5 号車 ― 19 名　　11 号車 ― 20 名
　　6 号車 ― 19 名　　住民 計 212 名
　　関係者：ドライバー11 名、引率者 11 名、安全管理者 13 名、放射線管理者 22 名、
　　ペット回収 5 名 2 台、警察４名 2 台、消防 3 名１台、公用車１名１台
　　計 70 名　　全体合計 282 名
9：15　説明と問診票回収
9：50　防護服説明と着替え
10：25 バス乗車開始
11：20 バス 11 台出発完了、
11：25 ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）
12：15 昼食
12：30 医療室準備
13：00 スクリーニングエリア準備（加藤タイベックス装備完了）
13:25　受付開始
　　救護所（増野、榊）、スクリーニングエリア受付（加藤）
　　受診者計　名
①　36 歳　女性　頭痛

バイタル安定。もともと頭痛もち。カロナール処方し帰宅

② 75歳　男性　全身倦怠感

既往歴に不安神経症あり。バイタル安定。休憩し食料・水分補給し、症状改善。役場職員とともに帰宅。

③ 67歳　女性　　ひざの痛み。歩行可能

変形性膝関節症と診断。湿布貼付し帰宅。

④ 70代　女性　　しりもちをついておしりが痛い

バイタル安定。歩行可能。診察のみ行い経過観察とする。帰宅。

⑤ 70代　女性　　倦怠感。血圧が心配。

Bp140/82　HR83　Sat96　症状改善し帰宅。

15：00　住民全員帰還。

15：10　線量サーベイ終了。

16：15　医療班ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電 等）

・昨日にましてスムーズな運営ができた

・みんなが見られる時計がない→設置を検討

・扇風機を設置し、効果があった模様

16：00　広野公民館出発

16：45　磐城共立病院着

17：15　業務終了

夕方の線量　田中医師１　榊看護師６　加藤薬剤師５

18：00　定期連絡

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月９日（木）　晴れ
メンバー：田中医師　榊看護師　加藤調整員

7：35 ホテル出発（いわき市内渋滞あり）
8：00 いわき中央 IC 入
8：30 車中より定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ不通）
8：35 広野 IC 出
　　朝の線量　田中医師２　榊看護師７　加藤薬剤師６
8：40 広野公民館着
9：00 立ち入り住民受け付け開始、問診票配布・回収開始
9：45 問診票回収終了、体調・既往歴・内服薬より要観察者の抽出・記録
　　バス 11 台　1 号車 ― 20 名
　　2 号車 ― 18 名
　　3 号車 ― 17 名
　　5 号車 ― 16 名
　　6 号車 ― 19 名　　住民 計 90 名
　　関係者：ドライバー6 名、引率者 5 名、安全管理者 5 名、放射線管理者 10 名、
　　ペット回収 2 名 1 台、警察４名台、消防 6 名１台
9：15　説明と問診票回収
9：50　防護服説明と着替え
10：00 バス乗車開始
10：10 バス 11 台出発完了、
11：00 ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）
11：10 昼食
12：00 医療室準備、スクリーニングエリア準備（加藤タイベックス装備完了）
12：25 受付開始
　　救護所（田中、榊）、スクリーニングエリア受付（加藤）
　　受診者計　名
①　57 歳　女性　頭痛
　　頭痛がもともとあった。バイタル安定。休憩し帰宅。
14：05　住民全員帰還。
14：15　線量サーベイ終了、ホットゾーン解除
14：40　ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電 等）
・今回の広野町ミッションの業務をマニュアル化して今後につなぐ
・表面被ばくなし
・重症傷病者なし
15：00　広野公民館出発
15：45　磐城共立病院着
16：00　業務終了
　　夕方の線量　田中医師２　榊看護師９　加藤薬剤師７
18：00　定期連絡

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月１０日（金）　晴れ
メンバー：布施医師　榊看護師　加藤調整員

8：00 定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ）
8：10 ホテル出発
8：35 共立病院入
　　朝の線量　布施医師１　榊看護師 10　加藤薬剤師 9
8：40 共立病院出発　布施医師、加藤調整員：JV 定例会議
　　榊看護師：薬剤・医療材料リスト作成（共立病院にて）
9：40 ＪＶメディカルセンター着
10：00 ＪＶ緊急医療チーム定例会議開始
　　参加者(13 名)
　　統括医師：徳永医師
　　陸上自衛隊：山田航空担当、水口医師、和泉看護師
　　原子力安全保安院：黒澤検査官、和泉検査官
　　放医研：佐島放管
　　東電病院：西川医師、中澤看護師、森看護師、大森事務員
　　東京電力：遠藤責任者
　　いわき待機ＤＭＡＴ：布施医師、加藤調整員
　　昨日の来院者は 21 名（患者 21 名、検診 9 名）
　　楢葉町分署」には 6 月 10 日から救急車が配備されることになった
　　昨日の重症患者：47 歳男性不安定狭心症、ヘリで共立病院へ
　　本日の重症患者：40 歳男性意識障害、ヘリで共立病院へ
10：00 ＪＶ緊急医療チーム定例会議終了
10：25 ＪＶ出発
11：00 共立病院着
11：25 共立病院出発：明日からの派遣施設である古道地区視察
15：30 共立病院着
　　夕方の線量　布施医師２　榊看護師 11　加藤薬剤師 10
18：00 定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ）

8：40 広野公民館着

9：00 立ち入り住民受け付け開始、問診票配布・回収開始

9：45 問診票回収終了、体調・既往歴・内服薬より要観察者の抽出・記録

バス 11 台　1 号車 ― 20 名

2 号車 ― 18 名

3 号車 ― 17 名

5 号車 ― 16 名

6 号車 ― 19 名　　住民 計 90 名

関係者：ドライバー6 名、引率者 5 名、安全管理者 5 名、放射線管理者 10 名、

ペット回収 2 名 1 台、警察 4 名台、消防 6 名 1 台

9：15　説明と問診票回収

9：50　防護服説明と着替え

10：00 バス乗車開始

10：10 バス 11 台出発完了、

11：00 ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）

11：10 昼食

12：00 医療室準備、スクリーニングエリア準備（加藤タイベックス装備完了）

12：25 受付開始

救護所（田中、榊）、スクリーニングエリア受付（加藤）

受診者計 1 名

① 57 歳　女性　頭痛

頭痛がもともとあった。バイタル安定。休憩し帰宅。

14：05　住民全員帰還。

14：15　線量サーベイ終了、ホットゾーン解除

14：40　ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電 等）

・今回の広野町ミッションの業務をマニュアル化して今後につなぐ

・表面被ばくなし

・重症傷病者なし

15：00　広野公民館出発

15：45　磐城共立病院着

16：00　業務終了

夕方の線量　田中医師２　榊看護師９　加藤薬剤師７

18：00　定期連絡

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月１１日（土）　雨のち曇り
メンバー：萩原医師　榊看護師　加藤調整員

6：40 ホテル出発
6：50 いわき中央 IC 入
8：30 車中より定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ不通）
7：55 船引三春 IC 出
8：40 古道体育館着
　　朝の線量　萩原医師１　榊看護師 12　加藤薬剤師 11
8：45 立ち入り住民問診回収開始
9：50 問診票回収終了
9：55 防護服説明
10：16 双葉地区住民乗車開始
　バス 5 台　1 号車 ― 18 名
　　2 号車 ― 18 名
　　3 号車 ― 20 名
　　4 号車 ― 20 名
　　5 号車 ― 23 名　　住民 計 99 名
　関係者：ドライバー5 名、引率者 5 名、安全管理者 5 名、放射線管理者 10 名、
　　ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、消防 0 名、広報４名　計 33 名
　　全合計　132 名
10：30　乗車終了、出発
10：45　大熊地区住民乗車開始
11：35　防護服説明
12：00　大熊地区住民乗車開始
　バス 8 台　1 号車 ― 20 名　　6 号車 ― 14 名
　　2 号車 ― 17 名　　7 号車 ― 17 名
　　3 号車 ― 17 名　　8 号車 ― 17 名
　　4 号車 ― 17 名
　　5 号車 ― 13 名　　住民 計 132 名
　関係者：ドライバー8 名（予備 1 名）、引率者 8 名、
　安全管理者 8 名（予備 1 名）、放射線管理者 16 名、
　ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、消防 3 名 1 台　計 47 名　全合計 179 名
12：08　バス乗車開始

12：10　ミーティング（医療統括、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）

12：15　昼食

13：00　リハーサル

13：30 医療室準備、スクリーニングエリア準備（スクリーニング途中より加藤ホットゾーンにてシューズカバー外し業務）

14：25 受付開始

救護所準備

受診者計　2 名

① 74 歳　女性　頭痛、寒気、嘔気

診断：不安神経症、感冒

帰りのバスに乗った頃から寒気と嘔気。

家を見てがっかりしてしまったためストレスを感じたとのこと。

診療所にて安静時、BT 36.4℃から 37℃に上昇傾向認めたため

PL 4 包処方

② 25 歳　男性　咽頭痛、頭痛：朝から調子悪かった

既往症：気管支喘息

診断：感冒

安静後、PL4ｇ4×　処方

14：46　黙祷

16：13　住民全員帰還

16：25　線量サーベイ終了、ホットゾーン解除

16：45　ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電等）

・表面被ばくなし

・重症傷病者なし

・本日の住民線量：双葉　3～31　大熊　6～26

・今回の広野町ミッションの業務をマニュアル化して今後につなぐ

17：10　古道体育館出発

夕方の線量　萩原医師 2　榊看護師 14　加藤薬剤師 13

18：00　定期連絡

18：50　磐城共立病院着

19：50　業務終了

日本医科大学付属病院 DMAT いわき派遣活動報告

第１日目６月１２日（日）　晴れ
メンバー：萩原医師　榊看護師　加藤調整員

6：25 ホテル出発
6：35 いわき中央 IC 入
7：10 船引三春 IC 出
8：30 車中より定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ）
8：15 古道体育館着
　　朝の線量　萩原医師 4　榊看護師 15　加藤薬剤師 14
8：40 立ち入り住民受付開始、問診票回収開始
9：10 説明開始
9：35 問診票回収終了
9：45 防護服説明
10：13 双葉地区住民乗車開始
　バス 5 台　1 号車 ― 18 名
　　2 号車 ― 20 名
　　3 号車 ― 20 名
　　4 号車 ― 21 名
　　5 号車 ― 18 名　　住民 計 97 名
　関係者：ドライバー5 名、引率者 5 名、安全管理者 5 名、放射線管理者 10 名、
　　ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、消防 3 名　計 32 名　全合計 129 名
10：30　乗車終了、出発完了
10：33　大熊地区住民受付開始、問診票回収開始
11：10　問診票回収終了
11：15　説明開始
11：25　防護服説明
11：50　大熊地区住民乗車開始
　バス 8 台　1 号車 ― 19 名　　6 号車 ― 19 名
　　2 号車 ― 19 名　　7 号車 ― 19 名
　　3 号車 ― 17 名　　8 号車 ― 18 名
　　4 号車 ― 17 名
　　5 号車 ― 19 名　　住民 計 147 名
　関係者：ドライバー8 名（予備 1 名）、引率者 8 名、
　安全管理者 10 名、放射線管理者 16 名、

ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、消防 0 名 0 台　計 46 名　全合計 193 名

11：56　乗車完了、出発完了

12：15　ミーティング（医療統括、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、東電 等）

12：15　昼食

13：15　リハーサル

13：40　スクリーニングエリア準備（萩原、榊タイベックス装備完了）

13：45　受付開始

受診者計　2 名（横浜労災病院 DMAT 診療）

①　68 歳　女性　熱中症、脱水症　生食点滴

②　ペット回収　犬による咬傷　フロモックス処方

16：35　受付終了

16：40　線量サーベイ終了、ホットゾーン解除

17：00　ミーティング（医療統括近藤、厚労省、放医研 REMAT、DMAT、消防（救急隊）東電等）

・1 名、体育館まで救急搬送されるも重症には至らず

・本日の住民線量：双葉　3～31　大熊　6～26

17：15　業務終了

17：40　古道体育館出発

夕方の線量　萩原医師 5　榊看護師 16　加藤薬剤師 15

21：35　付属病院着

日本DMATいわき待機日医チーム診療記録

ID	活動場所	年齢	性別	主訴	既往歴	バイタルサイン	診療内容	診断名	診療医師	帰宅時指示	転帰
60701	広野	67	男	左第3指をサボテンで刺した	不明	測定せず	イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、カットバン	左第3指刺創	増野	経過観察	帰宅
60702	広野	37	女	頭痛、気分不'	高血圧	Bp178/100→172/100、HR71,BT36.7、Sat100、RR16、瞳孔2×2(++)清明	安静臥床	軽度熱中症	増野	帰宅後かかりつけ医の指示を仰ぐ	帰宅
60703	広野	38	女	頭痛	頭痛	Bp108/60、HR71,BT36.3、Sat99、RR16、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60704	広野	57	女	頭痛	なし	Bp160/84、HR78,BT36.0、Sat97、RR16、瞳孔2×2(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60705	広野	66	男	頭痛、悪寒	なし	Bp136/70、HR68,BT36.3、Sat98、RR15、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60706	広野	59	男	右手を犬に噛まれた	なし	測定せず	生食洗浄、イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、破トキim、フロモックス処方	右手咬傷	増野	近医受診のこと	帰宅
60807	広野	36	女	頭痛	なし	Bp110/68、HR76,BT36.5、Sat97、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明,神経学的所見なし	カロナール処方	頭痛	田中	経過観察	帰宅
60808	広野	75	男	倦怠感	不安神経症、高血圧	Bp142/78、HR90,BT36.3、Sat98、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	倦怠感	田中	経過観察	帰宅
60809	広野	67	女	左膝の痛み	関節鏡手術後フォロー中	測定せず	ロキソニンパップ処方	変形性膝関節症	田中	経過観察	帰宅
60810	広野	70代	女	しりもちをついておしりを打った	なし	測定せず	診察のみ	臀部打撲	田中	経過観察	帰宅
60811	広野	70代	女	倦怠感	高血圧	Bp140/82、HR83,BT36.5、Sat96、意識清明	診察のみ	高血圧	田中	経過観察	帰宅
60912	広野	57	女	頭痛	psy(安定剤内服中)頭痛で昨日CT→問題なし	Bp154/80、HR67、BT35.6、	診察のみ	頭痛	田中	経過観察	帰宅
61113	古道	25	男、原子力保安院職員、ホットゾーン侵入なし	喉頭痛、頭痛	アストマ	BT38.8、HR84、Sat100,RR16,Bp104/60	PL処方	感冒	萩原	経過観察	帰宅
		74	女	寒気,嘔気、頭痛	SAH,不整脈	BT36.4→37.0 HR76(不整) Sat96,RR16,Bp158/80	持参薬内服、PL処方	不安神経症	萩原	近医受診のこと	帰宅

第９次隊　横浜労災病院

横浜労災病院DMATいわき派遣活動報告

第1日目6月12日（日曜日）
メンバー　中森医師、村上看護師、乙川調整員

2011.6. 12.

6:25　横浜労災病院を出発（乙川さんのエスティマ）
　　中森，村上，乙川

7:30　常磐自動車道　守谷 SA にて休息，朝食摂食.
　　喪服姿の人が目に付く

9:45　広野 IC でおりたところ，個人線量計が 6000μｼｰﾍﾞﾙﾄを示し，パニックに．また，広野から通行止めとなり，道に迷う.
DMAT 事務局大野さんに連絡し，国道 399 で福島県田村市古道（ふるみち）体育館をめざす.

11:50　到着

12:15 - 16:30
12 日までの，第 8 次隊いわき待機 DMAT の日本医大チームとともに，一時帰宅者の帰宅前後の健康チェックと帰宅後の放射線被爆チェックにたずさわる.

12:15　ミーティング

13:15　シミュレーション

14:00　45 歳女性，隣人の飼い犬の捕獲をたのまれ，こころみて右手に咬傷受傷.　発赤，腫脹，痛みあり.
切開，洗浄が望ましいと判断したが，器具なく，
生理食塩液にて洗浄，リンデロン VG 塗布，ガーゼ保護，
破トキ IM，フロモックス投与し，紹介状を書いて，近医（2 時間の距離に帰るという）フォローを依頼.

15:30　68 歳女性，気分不快，嘔吐で救急車搬送されて戻ってくる
発汗著明，バイタル安定．軽度の熱中症と判断，ラクテック
を点滴．改善認め，息子さんと帰宅.
最終的に，20 Km　危険圏内　への立ち入り者は，
古道体育館から，25 人乗りの小型バス 13 台で，322 名の対応.
大熊地区行き　　バス 8 台
1 号車 ― 19 名，2 号車 ― 19 名，3 号車 ― 17 名，
4 号車 ― 17 名，5 号車 ― 19 名，6 号車 ― 19 名
7 号車 ― 19 名，8 号車 ― 18 名，　　住民 計 147 名
関係者：ドライバー8 名（予備 1 名）、引率者 8 名、

安全管理者 10 名、放射線管理者 16 名、ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、
消防 0 名 0 台　計 46 名　全合計 193 名

双葉地区行き，バス 5 台
1 号車 ― 18 名，2 号車 ― 20 名，3 号車 ― 20 名
4 号車 ― 21 名　　5 号車 ― 18 名　　住民 計 97 名
関係者：ドライバー5 名、引率者 5 名、安全管理者 5 名、放射
線管理者 10 名、ペット回収 2 名 1 台、警察 2 名 1 台、消防 3
名　計 32 名　全合計 129 名

たずさわった関係者は，
医療班として，当院 DMAT，日本医大 DMAT，
DMAT 本部から，近藤先生，大野さん
災害医療センターから放射線技師
文科省，経産省，放医研，電事連（電気事業連合会，九州電力など）
警察，消防，など多数.

17:00　いわき市に向けて出発
19:30　OFC に定時連絡.
19:30　いわき市立磐城共立病院にもどり，DMAT 待機室へ.
　　同院救命救急センターセンター長　小山　敦先生に挨拶
20:15　平ビューホテルへ．ここで，田口医師と合流.

横浜労災病院DMATいわき派遣活動報告

第2日目6月13日（月曜日）
メンバー　中森医師、田口医師、村上看護師、乙川調整員

2011.6. 13.
8:30　　共立病院院長　樋渡　信夫先生に挨拶.

10:00　　J Village で, 緊急医療チーム定例会議に出席.
　　J Village の統括医師　郡山一明先生に挨拶.
　　J Village 見学（東電職員に案内していただいた）

11:00　　明日の一時帰宅拠点となる広野の体育館を下見.

12:00　　昼食

14:00　　いわき共立病院にもどり, 待機.

15:00　　医療班 Web 会議.

17:00　　ホテルにもどる.

横浜労災病院DMATいわき派遣活動報告

第３日目6月14日（火曜日）　晴れ
メンバー　中森医師、田口医師、村上看護師、乙川調整員

０７；３０　平ビューホテル出発
０８：３０　広野体育館到着
０９：００　楢葉（１１７名）、富岡（７７名）住民受付開始
０９：３０　住民説明開始
０９：４２　説明終了
０９：５０　問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
１０：００　防護服説明開始
１０：１５　防護服装着完了
１０：２０　乗車開始
１０：２８　１号車出発開始

楢葉町　１号車２２名　２号車１８名　３号車１６名　４号車１９名
　　５号車２１名　６号車　２１名　　住民合計１１７名
富岡町　８号車１９名　９号車１９名　１０号車１９名　１１号車２０名
　　住民合計７７名
関係者　引率者１０名　安全管理１２名　放射線管理２０名　警察２名
　　消防３名　ペット回収３名　運転手１１名　　合計６１名

	出発	降車開始	降車終了	乗車開始	乗車終了	警戒区域通過	到着/降車
一号車	10:28	10:46	10:52	11:22	12:50	13:00	13:17
二号車	10:29	10:45	10:53	12:05	12:50	13:00	13:28
三号車	10:30	10:45	10:53	12:03	12:46	12:55	13:08
四号車	10:35	10:47	10:57	12:28	13:03	13:10	13:43
五号車	10:37	10:50	11:00	12:28	12:55	13:12	13:48
六号車	10:37	10:51	11:02	12:40	13:16	13:22	13:58
八号車	10:41	11:07	11:18	12:30	13:08	13:31	14:07
九号車	10:45	11:11	11:25	12:14	13:37	13:56	14:30
十号車	10:45	11:13	11:25	12:49	13:28	13:53	14:19
十一号車	10:48	11:17	11:27	12:20	13:36	13:58	14:46

１２：４０　富岡役場に救急車出動
　　気分不良サーベイ後バイタル安定のため救護所で休息
１３：５６　頭痛を訴える住民、サーベイ後救護所で休憩
１５：１０　安全宣言
　　汚染0名、0μSv～14μSv（富岡）
　　体調不良申し出2名（1名救急車出動）
１５：２０　反省会
１５：３０　終了
１６：２０　共立病院着
　　病院にて待機

明日の予定
　　広野体育館にて業務予定

ＤＭＡＴ隊員の被ばく線量
６／１３　隊員全員　朝　１μＳｖ　夕　１μＳｖ
６／１４　隊員全員　朝　２μＳｖ　夕　３μＳｖ

横浜労災病院DMATいわき派遣活動報告

第３日目6月15日（水曜日）　晴れ
メンバー　中森医師、田口医師、村上看護師、乙川調整員

０７；３０　平ビューホテル出発
０８：３０　広野体育館到着
０８　４０　問診受付開始
０９：００　楢葉（１１８名）、富岡（７３名）住民受付開始
０９：１８　住民説明開始
０９：３０　説明終了
０９：３８　問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
１０：００　防護服説明開始
１０：１５　防護服装着完了
１０：０５　乗車開始
１０：１２　１号車出発開始

楢葉町　１号車20名　２号車23名　３号車20名　４号車21名
５号車17名　６号車　17名　住民合計118名
富岡町　８号車17名　９号車19名　１０号車19名　１１号車18名
住民合計 73名
関係者　引率者10名　安全管理11名　放射線管理20名　警察2名
消防3名　ペット回収4名　運転手11名　合計　61名

	出発	降車開始	降車終了	乗車開始	乗車終了	警戒区域通過	到着/降車
一号車	10:12	10:29	10:39	12:15	12:47	12:57	13:03 /13:11
二号車	10:15	10:26	10:31	11:51	12:30	12:39	12:45 /12:54
三号車	10:15	10:24	10:45	12:13	12:59	13:08	13:15 /13:36
四号車	10:20	10:32	10:47	12:18	12:51	12:59	13:04 /13:20
五号車	10:21	10:32	10:37	12:17	12:40	12:47	12:51 /13:00
六号車	10:23	10:35	10:40	12:22	12:57	13:01	13:07 /13:30
八号車	10:29	11:03	11:15	12:17	13:08	13:33	13:39 /13:54
九号車	10:29	11:00	11:10	12:04	13:15	13:37	13:44 /14:01
十号車	10:30	11:03	11:23	12:51	13:36	14:01	14:10 /14:15
十一号車	10:32	11:00	11:13	12:00	13:07	13:30	13:36 /13:45

※住民及び関係者に傷病者等なし
１４：２０　サーベイ終了
　　汚染0名、0μSv～1μSv（楢葉）、7μSv～16μSv
　　体調不良申し出０名
１４：３０　安全宣言
１４：４５　反省会
１５：００　終了・解散
１６：００　共立病院着
　　病院にて待機
１８：００　ＤＭＡＴ事務局及びＪビレッジへ定期連絡
　　共立病院からホテル待機へ

明日の予定　Ｊビレッジにて定例会議出席、共立病院にて待機

横浜労災病院 DMAT いわき派遣活動報告

第 5 日目６月１６日（木）　晴れ
メンバー：田口医師　村上看護師　乙川調整員

8：45 ホテル出発
9：45 ＪＶメディカルセンター着
10：00 ＪＶ緊急医療チーム定例会議開始
　　参加者(16 名)
10：20 ＪＶ緊急医療チーム定例会議終了
10：25 ＪＶ出発
12：15 共立病院着
15：00 ウェブ会議出席　田口医師
15：25 ウェブ会議終了
18：00 定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ）終了

横浜労災病院 DMAT いわき派遣活動報告

第 6 日目 6 月 17 日（金）　曇り／雨
メンバー：中森医師　村上看護師　乙川調整員

8：45 ホテル出発
9：35 ＪＶメディカルセンター着
10：00 ＪＶ緊急医療チーム定例会議開始
参加者(15 名)
10：45 ＪＶ緊急医療チーム定例会議終了
11：00 ＪＶ出発
13：00 共立病院着
15：00 ウェブ会議出席　中森医師
15：35 ウェブ会議終了
17：00 定時連絡（DMAT 事務局）（J ヴィレッジ）終了
次隊への引継書等作成業務終了後、ホテル待機

活動記録　６月１７日いわき待機ＤＭＡＴ活動報告　別添資料①　差替版

第９次隊　いわき待機 DMAT　中森　知毅

１０：００　ＪＶ緊急医療チーム定例会議開始

議題として，20Km 圏内で，かつ福島第一原発の外で，傷病者がでたとき，サーベイ，スクリーニングが終わってないと，EMT のみの判断では病院がうけいれてもらえない．これを（特に夜間）だれがサーベイ，スクリーニングをするのかを決めてもらいたいとの意見あり．Web 会議で諮ることになった．

また，１５日から富岡町で屋根の補修（１０００棟分）がはじまった．これに関しての傷病者対応を DMAT に依頼したいとの報告が，双葉消防署楢葉分署からあげられてきた．これは 20Km 圏内の作業であり，これのサーベイや除染を誰が行うか，どのように決まっているのか，が不明確．また，DMAT は 20Km 圏内には入らないということで招集がかかっている．さらに一時立ち入りに係わっている最中には，その対応は困難である．本日 DMAT 事務局にはこのような事案があることを伝えておくが，これは町から郡，県を通して DMAT 事務局に依頼を通していただく事項であろうと考える，と説明した．

１５：００　定例 Web 会議

#「20Km 圏内で，かつ福島第一原発の外で，傷病者がでたとき，（特に夜間）だれがサーベイ，スクリーニングをするのか」→　日中も夜間も，ＪVillage で対応，ただし，病院選定については，オフサイトセンターが関与するということになった．

（いわき共立総合病院は，スクリーニングと除染後でないと受けられないとの要望あり．　福島県立医大は，汚染の有無にかかわらず受け入れ可と確認した．）

#6 月 15 日から富岡町で屋根の補修（1000 棟分，3000 棟分）がはじまった．

放管も同行しての業務で，ブルーシートをかけて，保護，養生することが目的とのこと．転落・滑落，熱中症などの危険をともなう業務であるが，多数傷病者発生時に DMAT にも対応を依頼したいとのこと（オフサイトセンター統括医師より）．これに対し，できるだけのことはするが，正式な申し入れを DMAT 本部にしていただきたい．また，一時立ち入りのメディカルチェック，被爆チェックにかかわっていると，対応は難しくなる旨を告げた（中森）．

横浜労災病院DMATいわき派遣活動報告

第7日目6月18日（土曜日）
メンバー　中森医師、村上看護師、乙川調整員

2011.6.18.

７：１５　ホテル出発（チェックアウト）
８：０６　広野町体育館に到着.
９：１０　一時立ち入り市民への問診受付開始.
１１：００問診票回収終了. メディカルチェック.
１１：２０バス出発.
１２：３０市民帰還スクリーニングのリハーサル開始.
１３：００ミーティング.

バス番号	市町村名			
		楢葉町	1 号 ～	6 号
		富岡町	9 号 ～	11 号

住民集計

	①住民数	②確認数〔本部数〕	誤差②－①
1	22	22	0
2	20	20	0
3	22	22	0
4	17	17	0
5	18	18	0
6	20	20	0
7			0
8			0
9	20	20	0
10	20	20	0
11	20	20	0

住民合計 179 人

関係者

関係者計	安全管理	放射線管理	引率者	運転手	消防	警察	ペット回収	その他
53	10	18	9	9	3	0	4	0

バス番号　　予備　1

関係者合計 53 人

立ち入り総合計　232 人

バス番号	乗車開始	乗車終了	警戒区域通過	到着	降車開始	降車終了
1	13 : 21	13 : 56	14 : 6	14 : 12	14 : 15	14 : 22
2	12 : 59	13 : 46	13 : 50	14 : 1	14 : 8	14 : 14
3	12 : 54	13 : 47	14 : 7	14 : 15	14 : 29	14 : 35
4	12 : 48	13 : 37	13 : 51	13 : 58	13 : 58	14 : 7
5	12 : 58	14 : 6	14 : 19	14 : 38	14 : 43	14 : 47
6	12 : 47	13 : 57	14 : 6	14 : 15	14 : 22	14 : 29
9	13 : 12	13 : 59	14 : 16	14 : 30	14 : 36	14 : 41
10	12 : 25	14 : 7	14 : 26	14 : 34	14 : 49	14 : 52
11	13 : 16	14 : 12	14 : 33	14 : 50	14 : 54	15 : 0

１５：３５　立ち入り者全員の収容終了.

（１２：００横浜市大 DMAT，第十次隊，到着）

１６：００　広野町体育館出発

１６：１０　J Village に市大 DMAT 案内し紹介.

１７：００　いわき共立病院到着，申し送り.

１８：００　車両に荷物積み替え終了．いわき出発.

２２：３０　横浜労災病院到着.

6	月	18	日	土	曜 日	天 気	くもり	警戒区域への一時立入り実施

広野体育館　　中継基地〔活動場所〕

横浜労災病院DMAT　リーダー中森医師・村上看護師・乙川調整員

帰宅先市町村名	楢葉町	バス	1	号	～	6	号
帰宅先市町村名	富岡町	バス	9	号	～	11	号

7	時	15	分	ホテル発
7	時	40	分	インターチェンジ〔入〕　いわき中央IC
7	時	59	分	インターチェンジ〔出〕　広野IC
8	時	6	分	到着　広野体育館
9	時	10	分	問診受付開始
10	時	5	分	住民説明開始
10	時	35	分	説明終了
11	時	0	分	問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
10	時	47	分	防護服説明開始
11	時	5	分	防護服着用完了
11	時	10	分	乗車開始
11	時	20	分	1号車出発開始　楢葉町
11	時	30	分	9号車出発開始　富岡町
12	時	30	分	リハーサル
13	時	0	分	ミーティング・顔あわせ(受け入れ前)

15	時	35	分	最終ペット班終了　すべて終了
15	時	35	分	安全宣言
				汚染者　0 名

被ばく線量測定記録

帰宅先名		最低			最高	
楢葉町	→	0	μSv	～	4	μSv
富岡町	→	2	μSv	～	7	μSv

15	時	36	分	反省会
15	時	41	分	解散
16	時	0	分	広野発
16	時	10	分	Jビレッジ　横浜市大案内
16		25		広野発
16	時	44	分	いわき中央
17	時	0	分	共立病院着　　横浜市大に病院案内、引継
				※引継ぎ終了後帰還します。お疲れ様でした。

※傷病者等まとめ・特記事項

1 名　　※詳細別記

ID	活動場所	年齢	性別	主訴	既往歴	バイタルサイン	診療内容	診断名	診療医師	帰宅時指示	転帰
60701	広野	67	男	左第3指をサボテンで刺した	不明	測定せず	イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、カットバン	左第3指刺創	増野	経過観察	帰宅
60702	広野	37	女	頭痛、気分不快	高血圧	Bp178/100→172/100、HR71,BT36.7、Sat100、RR16、瞳孔2×2(++)清明	安静臥床	軽度熱中症	増野	帰宅後かかりつけ医の指示を仰ぐ	帰宅
60703	広野	38	女	頭痛	頭痛	Bp108/60、HR71,BT36.3、Sat99、RR16、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60704	広野	57	女	頭痛	なし	Bp160/84、HR78,BT36.0、Sat97、RR16、瞳孔2×2(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60705	広野	66	男	頭痛、悪寒	なし	Bp136/70、HR68,BT36.3、Sat98、RR15、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60706	広野	59	男	右手を犬に噛まれた	なし	測定せず	生食洗浄、イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、破トキim、フロモックス処方	右手咬傷	増野	近医受診のこと	帰宅
60807	広野	36	女	頭痛	なし	Bp110/68、HR76,BT36.5、Sat97、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明,神経学的所見なし	カロナール処方	頭痛	田中	経過観察	帰宅
60808	広野	75	男	倦怠感	不安神経症、高血圧	Bp142/78、HR90,BT36.3、Sat98、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	倦怠感	田中	経過観察	帰宅
60809	広野	67	女	左膝の痛み	関節鏡手術後フォロー中	測定せず	ロキソニンパップ処方	変形性膝関節症	田中	経過観察	帰宅
60810	広野	70代	女	しりもちをついておしりを打った	なし	測定せず	診察のみ	臀部打撲	田中	経過観察	帰宅
60811	広野	70代	女	倦怠感	高血圧	Bp140/82、HR83,BT36.5、Sat96、意識清明	診察のみ	高血圧	田中	経過観察	帰宅
60912	広野	57	女	頭痛	psy(安定剤内服中)頭痛で昨日CT→問題なし	Bp154/80、HR67、BT35.6、	診察のみ	頭痛	田中	経過観察	帰宅
61113	古道	25	男、原子力保安院職員、ホットゾーン侵入なし	喉頭痛、頭痛	アストマ	BT38.8、HR84、Sat100,RR16,Bp 104/60	PL処方	感冒	萩原	経過観察	帰宅
611114	古道	74	女	寒気，嘔気、頭痛	SAH,不整脈	BT36.4→37.0 HR76(不整) Sat96,RR16,Bp 158/80	持参薬内服、PL処方	不安神経症	萩原	近医受診のこと	帰宅
611215	古道	48	女、バス運転手の会社職員	鼻汁、咳、痰	なし	BT36.5、Sat99、HR76	PL処方	感冒	萩原	近医受診のこと	帰宅
61216	古道	68	女	嘔吐、発汗	HT,心疾患、リウマチ	HR76、Bp159/91、Sat94、BT36.0、BS144、15μsv	血糖チェック、ラクテック500ml点滴	熱中症疑い	萩原、中森(横浜労災)	帰宅しかかりつけ医受診のこと	自家用車で帰宅
61217	古道	45	女、ペット回収班スタッフ	右手首を犬にかまれた	なし		生食60ml洗浄、リンデロンVG、破トキ1Aim、フロモックス処方、紹介状	犬咬症	中森(横浜労災)	医療機関受診指示	帰宅
61418	広野	62	女性	悪心	なし	BP 125/92, HR 95 SpO2 99 BT35.3	休息のみ	精神的緊張、疲労	中森(横浜労災)	軽快	帰宅
61419	広野	62	女性	頭痛	HT	BP 196/117, HR 91 SpO2 98 BT 36.2	アダラート10mg	精神的緊張	中森【横浜労災)	軽快	帰宅

第１０次隊　横浜市立大学附属市民総合医療センター

DMAT活動記録

6月18日 土

活動内容	一時帰宅支援(広野町体育館)
活動場所	広野町体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー

医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

行き先市町村	台数
広野町	6台
	3台

時刻	内容
7:30	センター病院に隊員集合、積み込みなど開始
8:00	病院出発、定時連絡
11:40	途中休憩をはさみ広野体育館に到着
11:45	荷物降ろす。各職種引継ぎ開始
12:20	引継ぎ終了、昼食
12:30	一時帰宅帰還後のリハーサル、医療統括後藤さんへ挨拶
13:00	帰宅者対応スタッフ顔合わせ、各代表挨拶
13:37	帰宅バス出発の連絡現地から本部・テントへ
14:03	帰宅者体育館到着、住民降車、サーベイ開始
15:00	帰宅者サーベイ終了、患者1名もすぐ回復
15:35	片付け終了、反省会、撤収準備
15:45	活動場所撤収、Jビレッジへ移動
16:15	Jビレッジで寺沢医師挨拶、総合磐城共立病院へ移動
17:00	総合磐城共立病院へ到着、待機場所、駐車場所、設備など説明
17:35	病院出発、DMAT車両給油後引渡しへ
17:45	ホテル到着、荷物詰め替え、定時連絡。横浜労災病院DMAT撤収
20:35	夕食、翌日分買出し、ミッションと集合時間の確認
21:30	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量夕のみ春成1、三浦、庄司、荻田、各0

特記事項など	横浜労災病院DMATと共同のため乗降記録や住民情報は横浜労災病院の記録参照

DMAT活動記録

6月19日 日

活動内容	一時帰宅支援(広野町体育館)
活動場所	広野町体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー

医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

行き先市町村	台数
広野町	6台
	4台

時刻	内容
6:50	ホテルロビー集合、準備
7:20	活動場所へ出発
8:05	活動場所到着、体育館診療所準備開始
9:00	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
10:40	住民説明会(概要、防護服など)開始。住民受付完了、問診票回収
10:45	問診票回収終了、メディカルチェック
11:25	説明会終了、防護服着用、乗車開始
11:28	帰宅バス出発
13:00	昼食、帰還時テントのスタッフ顔合わせ、リハーサル
14:02	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
15:00	バルプロ酸服用患者に服用の必要性など説明
15:30	一時帰宅者サーベイ終了、スタッフ健康確認、片付け開始
15:39	安全宣言、汚染者0名
15:50	反省会、片付け開始
16:15	片付け終了、活動場所撤収
17:05	ホテル着、片付け
18:30	翌日のミッション、集合時間確認
23:00	記録、メールでの依頼
	線量朝春成2、三浦0、庄司、荻田各1、夕春成3、三浦、庄司、荻田各2

特記事項など	患者は0名、てんかん既往患者への対応

一時帰宅住民情報

6月19日　日　　実施場所　広野町体育館

行き先市町村　　広野町　1 号車　～　6 号車

0　8 号車　～　11 号車

住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	12	12	0
2	19	19	0
3	5	5	0
4	21	21	0
5	21	21	0
6	19	19	0
			0
8	21	21	0
9	17	17	0
10	18	18	0
11	19	19	0
			0
			0
			0
			0
計①	172	172	0

被ばく線量　単位μ SV

広野町　1 ～　2

0　3 ～　14

関係者　～　15

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	11
消防	3
警察	2
ペット回収	4
その他	3
計②	63

総数（①+②）　235

一時帰宅バス情報一覧

6月19日 日　　活動場所　広野町体育館

バス番号	住民出発	住民降車開始	住民降車終了	住民乗車開始	乗車終了	警戒区域通過	体育館到着	降車開始	降車終了	傷病者
1	11:27	11:48	11:58	13:30	14:00	14:07	14:13	14:18	14:22	0
2	11:32	11:50	12:12	13:04	13:55	14:08	14:14	14:25	14:30	0
3	11:32	12:09	12:18	12:50	13:55	14:21	14:25	14:38	14:39	0
4	11:44	12:02	12:17	13:25	14:16	14:25	14:28	14:40	14:44	0
5	11:40	11:54	12:05	13:36	13:47	14:03	14:10	14:12	14:17	0
6	11:40	11:53	12:10	13:05	13:52	13:59	14:02	14:03	14:07	0
8	11:46	12:11	12:35	12:52	13:53	14:14	14:19	14:31	14:37	0
9	11:49	12:14	12:30	13:34	14:37	14:57	15:02	15:06	15:08	0
10	11:50	12:15	12:40	14:06	14:45	15:02	15:08	15:10	15:14	0
11	11:54	12:22	12:46	13:00	14:45	15:08	15:13	15:16	15:20	0

DMAT活動記録

6月20日 月

活動内容	待機業務(いわき共立病院)
活動場所	広野町体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー	
医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

行き先市町村	台数
楢葉町	台
	台

時刻	内容
	ホテルロビー集合、準備
	活動場所へ出発
	活動場所到着、体育館診療所準備開始
	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
	住民説明会(概要、防護服など)開始
	問診票回収終了、メディカルチェック
	説明会終了、防護服着用、乗車開始
	帰宅バス出発
	昼食、帰還時テントのスタッフ顔合わせ、リハーサル
	バスもうすぐ帰還の連絡
	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
	サーベイ終了
	安全宣言、汚染者　名
	反省会、片付け開始
	解散、体育館診療所片付け開始
	片付け終了、活動場所撤収
	共立病院着
	ホテル着、片付け
	翌日のミッション、集合時間確認
	記録、メールでの依頼

特記事項など	

DMAT活動記録

6月20日 月

活動内容	待機（総合磐城共立病院/Jビレッジ）
活動場所	総合磐城共立病院/Jビレッジ
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー

医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

時刻	内容
8:00	ホテルロビー集合、準備
8:20	総合磐城共立病院に到着、環境準備
8:50	記録入力、定時連絡など。薬品捜索
9:07	Jビレッジへ向け春成医師、荻田調整員出発
9:53	Jビレッジ到着、会議まで待機。途中工事あり。
10:00	会議、連絡事項など確認
10:35	会議終了、病院待機者へ連絡。総合磐城共立病院へ出発
11:10	病院到着、樋渡院長、小山救命センター長、坂元看護部長、鈴木
11:45	昼食、待機中の為2人ずつ交代で休憩
12:45	待機業務、引継ぎ、問題点検討、記録作成
15:00	Web会議開始
15:25	Web会議終了、各隊員へ連絡事項
17:15	撤収、定時連絡
17:30	ホテル到着、片付け。翌日ミッション、集合時間確認
20:00	夕食、翌日の買出し。ミッション、集合時間確認。
22:00	記録、翌日のルート検索、メールでの依頼、一時帰宅者の準備、 金銭出納
	線量朝春成5、三浦、庄司、荻田各3、夕春成6、三浦5、庄司、荻田各4

特記事項など	

DMAT活動記録

6月21日 火

活動内容	ー帰宅支援(古道体育館)
活動場所	古道体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー

医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

行き先市町村	台数
双葉町	5 台
大熊町	8 台

時刻	内容
7:00	ホテルロビー集合、準備
7:05	活動場所へ出発、いわき中央から磐越道船引三春国道288経由
8:40	活動場所到着、体育館診療所準備開始
8:50	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
9:10	双葉町住民説明会(概要、防護服など)開始
9:20	インスリン使用者に帰宅中は投与しないこと、低血糖など 春成医師指導
9:35	コピー機なし、医療統括に相談しプリンターを借用(診療所に設置)
9:40	双葉町説明会終了、防護服着用、乗車開始
10:00	双葉町問診票回収終了、メディカルチェック広野と違い入れ替え制
10:30	双葉町帰宅バス出発開始
10:50	大熊町住民説明会(概要、防護服など)開始
11:25	大熊説明会終了、防護服着用、乗車開始
11:30	大熊問診票回収終了、メディカルチェック
11:50	大熊帰宅バス出発開始
12:05	予定のバス全て出発
12:30	昼食、帰還時テントのスタッフ顔合わせ、リハーサル
13:02	双葉バス乗車終了の連絡
13:45	双葉最初のバス到着、バス降車、サーベイ開始
15:22	動物のひっかかれ傷対応
15:25	スタッフに低血糖症状(軽度、歩行可能)者、糖分のある軽食譲渡
16:35	サーベイ終了、片付け開始
16:45	安全宣言なし、汚染者　0名
17:00	クレーン車帰還しないため待機を検討
17:10	OFCと相談しDMATは撤収、放医研チームで対応
17:20	片付け終了、活動場所撤収
19:00	ホテル付近到着、夕食、翌日分買出し、ホテル着、片付け
20:00	翌日のミッション、集合時間確認
21:00	記録、メールでの依頼
	線量朝春成7、三浦、庄司、荻田各5夕春成8、三浦、庄司各7、 荻田6

特記事項など	糖尿病患者相談1名、喘息患者、めまい対応1名、 動物の引っかき傷対応1名、スタッフ低血糖対応1名

通し番号(日付	患者名	性別	年齢	症状	対応	転機
06211	双葉1-9-2	女性		高血圧、喘息既往		帰宅
06212	双葉4-4-2	男性		動物の擦過傷		帰宅

一時帰宅住民情報

6月21日　火

実施場所	古道体育館		
行き先市町村			
双葉町	1 号車	～	5 号車
大熊町	1 号車	～	8 号車

住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
双葉町			
1	21	21	0
2	21	21	0
3	18	18	0
4	22	22	0
5	21	21	0
大熊町			
1	19	19	0
2	17	17	0
3	19	19	0
4	22	22	0
5	15	15	0
6	17	17	0
7	19	19	0
8	19	19	0
計①	250	250	0

被ばく線量	単位μ SV	
双葉町	3 ～	23
大熊町	4 ～	27
関係者	3 ～	23

関係者

職種	人数
安全管理	15
放射線管理	26
引率者	13
ドライバー	14
消防	6
警察	4
ペット回収	4
その他	0
計②	82
総数（①+②）	332

双葉町	大熊町
5	10
10	16
5	8
6	8
3	3
2	2
2	2
0	0

一時帰宅バス情報一覧

6月21日 火　　活動場所 古道体育館

バス番号	体育館 出発時間	住民 降車開始	住民 降車終了	住民 乗車開始	乗車終了	警戒区域 通過	体育館 到着	降車開始	降車終了	傷病者
双葉町										
1	10:30	11:13	11:18	12:22	13:02	13:43	13:45	13:45	13:53	1
2	10:30	11:15	11:26	12:28	13:47	14:31	14:33	14:42	14:49	0
3	10:30	11:20	11:33	12:09	13:26	14:13	14:15	14:17	14:23	0
4	10:35	11:20	11:28	12:29	13:29	14:59	15:04	15:22	15:29	1
5	10:35	11:18	11:33	12:33	13:36	14:29	14:32	14:34	14:38	0
大熊町										
1	11:50	12:23	12:27	13:56	15:04	15:04	15:06	15:31	15:39	0
2	11:50	12:20	12:28	13:26	14:11	14:42	14:45	14:52	14:59	0
3	11:53	12:25	12:30	13:13	14:13	14:45	14:49	15:02	15:08	0
4	11:55	12:30	12:35	13:43	14:18	14:54	15:04	15:10	15:19	0
5	11:57	12:27	12:30	13:55	14:43	15:16	15:18	15:51	15:58	0
6	12:03	12:36	12:37	12:56	14:35	15:09	15:11	15:41	15:49	0
7	12:06	12:40	12:43	13:54	14:46	15:22	15:25	15:59	16:07	0
8	12:06	12:42	12:56	14:08	14:52	15:18	15:24	16:09	16:18	0

DMAT活動記録

6月22日 水

活動内容	一帰宅支援(古道体育館)
活動場所	古道体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー

医師	春成
看護師	三浦
看護師	庄司
調整員	荻田

行き先市町村	台数
双葉町	5台
大熊町	8台

時刻	内容
6:18	ホテルロビー集合、準備
6:24	活動場所へ出発、途中朝食
8:26	活動場所到着、体育館診療所準備開始
8:40	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
8:45	問診票回収、メディカルチェック開始
9:45	双葉町説明会終了、防護服着用、乗車開始
10:05	双葉町帰宅バス出発開始
10:23	双葉町帰宅バス出発終了
10:25	大熊町、住民説明会(概要、防護服など)開始
10:35	大熊町説明会終了、防護服着用、乗車開始
11:50	大熊町帰宅バス出発開始
12:15	大熊町帰宅バス出発終了
12:30	昼食、帰還時テントのスタッフ顔合わせ、リハーサル
13:30	バスもうすぐ帰還の連絡
13:42	双葉バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
14:35	東電職員刺傷対応
14:50	大熊バス同時帰還の可能性アナウンス
14:52	双葉バス住民サーベイ終了
14:56	大熊バスもうすぐ帰還の連絡
14:58	大熊バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
14:35	東電職員刺傷対応
16:00	めまい(軽度)、水分補給で対応
16:14	8号車出発直前で1→2台にしたので放射線管理者足らず。 東電コマンダーに増員依頼。
16:19	大熊バス住民サーベイ終了
16:45	全員サーベイ終了、片付け開始
20:15	ホテル着、片付け翌日のミッション、集合時間確認
	記録、メールでの依頼
	線量朝春成9、庄司8、三浦、荻田各7夕春成10、三浦、庄司、荻田各9

特記事項など	

一時帰宅住民情報

6月22日　水

実施場所	古道体育館		
行き先市町村	双葉町　1 号車	～	5 号車
	大熊町　1 号車	～	8 号車

住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
双葉町			
1	22	22	0
2	20	20	0
3	19	19	0
4	20	20	0
5	20	20	0
大熊町			
1	19	19	0
2	19	19	0
3	19	19	0
4	22	22	0
7	23	23	0
8	21	21	0
計①	224	224	0

被ばく線量	単位 μSV	
双葉町	4 ～	26
大熊町	6 ～	31
関係者	5 ～	29

関係者

職種	人数
安全管理	15
放射線管理	26
引率者	13
ドライバー	14
消防	3
その他	0
計②	71

総数（①+②）　295

双葉町	大熊町
5	10
10	16
5	8
6	8
3	0
0	0

一時帰宅バス情報一覧

6月22日 水　　活動場所 古道体育館

バス番号	体育館 出発時間	住民 降車開始	住民 降車終了	住民 乗車開始	乗車終了	警戒区域 通過	体育館 到着	降車開始	降車終了	傷病者
双葉町										
1	10:17	11:00	11:20	11:50	13:24	14:08	14:11	14:12	14:18	0
2	10:18	11:00	11:10	12:08	13:06	13:42	13:45	13:52	13:59	0
3	10:20	11:10	11:39	12:04	13:23	14:14	14:16	14:21	14:28	1
4	10:24	11:11	11:30	12:36	13:29	14:32	14:33	14:35	14:40	0
5	10:25	11:06	11:15	12:10	12:57	13:41	13:42	13:45	13:49	0
大熊町										
1	11:49	12:23	12:31	13:13	14:26	14:56	14:58	15:17	15:27	0
2	11:49	12:25	12:37	13:05	14:27	15:04	15:09	15:49	15:56	1
3	11:51	12:25	12:35	13:25	14:38	15:15	15:19	15:59	16:08	0
4	11:54	12:30	12:35	13:02	14:25	14:57	14:59	15:09	15:14	0
5	11:57	12:29	12:41	13:28	14:25	14:56	14:57	14:59	15:05	0
6	11:59	12:35	12:40	13:42	14:27	15:02	15:04	15:41	15:47	0
7	12:03	12:38	12:44	13:00	14:28	14:58	15:01	15:28	15:37	0
8	12:14	12:47	12:53	13:44	14:42	15:20	15:23	16:10	16:19	0

DMAT活動記録

6月23日 木

活動内容	待機業務(総合磐城共立病院)
活動場所	広野町体育館
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー
看護師 三浦
看護師 庄司

行き先市町村	台数
楢葉町	台
	台

時刻	内容
	ホテルロビー集合、準備
	活動場所へ出発
	活動場所到着、体育館診療所準備開始
	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
	住民説明会(概要、防護服など)開始
	問診票回収終了、メディカルチェック
	説明会終了、防護服着用、乗車開始
	帰宅バス出発
	昼食、帰還時テントのスタッフ顔合わせ、リハーサル
	バスもうすぐ帰還の連絡
	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
	サーベイ終了
	安全宣言、汚染者　名
	反省会、片付け開始
	解散、体育館診療所片付け開始
	片付け終了、活動場所撤収
	共立病院着
	ホテル着、片付け
	翌日のミッション、集合時間確認
	記録、メールでの依頼

特記事項など	

DMAT活動記録

6月23日 木

活動内容	待機（総合磐城共立病院/Jビレッジ）
活動場所	総合磐城共立病院/Jビレッジ
活動DMAT	横浜市立大学市民総合医療センター

DMATメンバー
医師　春成
調整員　荻田

時刻	内容
6:51	緊急地震速報、福島県いわき市は震度2、最大震度5弱、津波注意報あり。無線にて隊員安全確認。被害状況確認、テレビなどで被害情報少ないこと確認。
8:00	ホテルロビー集合、準備。線量春成、三浦、庄司、荻田
	総合磐城共立病院に到着、環境準備
	記録入力、定時連絡など
9:00	Jビレッジへ向け春成医師、荻田調整員出発
	Jビレッジ到着、会議まで待機
	会議、連絡事項など確認
	会議終了、病院待機者へ連絡。総合磐城共立病院へ出発
	病院到着、連絡事項など確認
	昼食、
	待機業務
	Web会議開始
	Web会議終了、各隊員へ連絡事項
	撤収、定時連絡
	ホテル到着、片付け。翌日ミッション、集合時間確認
	解散、夕食
	記録、メールでの依頼

特記事項など	

日本DMATいわき待機日医チーム診療記録

ID	活動場所	年齢	性別	主訴	既往歴	バイタルサイン	診療内容	診断名	診療医師	帰宅時指示	転帰
60701	広野	67	男	左第3指をサボテンで刺した	不明	測定せず	イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、カットバン	左第3指刺創	増野	経過観察	帰宅
60702	広野	37	女	頭痛、気分不快	高血圧	Bp178/100→172/100、HR71,BT36.7、Sat100、RR16、瞳孔2×2(++)清明	安静臥床	軽度熱中症	増野	帰宅後かかりつけ医の指示を仰ぐ	帰宅
60703	広野	38	女	頭痛	頭痛	Bp108/60、HR71,BT36.3、Sat99、RR16、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60704	広野	57	女	頭痛	なし	Bp160/84、HR78,BT36.0、Sat97、RR16、瞳孔2×2(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60705	広野	66	男	頭痛、悪寒	なし	Bp136/70、HR68,BT36.3、Sat98、RR15、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	頭痛	増野	経過観察	帰宅
60706	広野	59	男	右手を犬に噛まれた	なし	測定せず	生食洗浄、イソジン消毒、ゲンタシン軟膏、破トキim、フロモックス処方	右手咬傷	増野	近医受診のこと	帰宅
60807	広野	36	女	頭痛	なし	Bp110/68、HR76,BT36.5、Sat97、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明,神経学的所見なし	カロナール処方	頭痛	田中	経過観察	帰宅
60808	広野	75	男	倦怠感	不安神経症、高血圧	Bp142/78、HR90,BT36.3、Sat98、瞳孔2.5×2.5(++)意識清明	安静臥床	倦怠感	田中	経過観察	帰宅
60809	広野	67	女	左膝の痛み	関節鏡手術後フォロー中	測定せず	ロキソニンパップ処方	変形性膝関節症	田中	経過観察	帰宅
60810	広野	70代	女	しりもちをついておしりを打った	なし	測定せず	診察のみ	臀部打撲	田中	経過観察	帰宅
60811	広野	70代	女	倦怠感	高血圧	Bp140/82、HR83,BT36.5、Sat96、意識清明	診察のみ	高血圧	田中	経過観察	帰宅
60912	広野	57	女	頭痛	psy(安定剤内服中)頭痛で昨日CT→問題なし	Bp154/80、HR67、BT35.6、	診察のみ	頭痛	田中	経過観察	帰宅
61113	古道	25	男、原子力保安院職員、ホットゾーン侵入なし	喉頭痛、頭痛	アストマ	BT38.8、HR84、Sat100,RR16,Bp 104/60	PL処方	感冒	萩原	経過観察	帰宅
611114	古道	74	女	寒気, 嘔気、頭痛	SAH,不整脈	BT36.4→37.0 HR76(不整)Sat96,RR16,Bp158/80	持参薬内服、PL処方	不安神経症	萩原	近医受診のこと	帰宅
611215	古道	48	女、バス運転手の会社職員	鼻汁、咳、痰	なし	BT36.5、Sat99、HR76	PL処方	感冒	萩原	近医受診のこと	帰宅
61216	古道	68	女	嘔吐、発汗	HT,心疾患、リウマチ	HR76、Bp159/91、Sat94、BT36.0、BS144、15μsv	血糖チェック、ラクテック500ml点滴	熱中症疑い	萩原、中森(横浜労災)	帰宅しかかりつけ医受診のこと	自家用車で帰宅
61217	古道	45	女、ペット回収班スタッフ	右手首を犬にかまれた	なし		生食60ml洗浄、リンデロンVG、破トキ1Aim、フロモックス処方、紹介状	犬咬症	中森(横浜労災)	医療機関受診指示	帰宅
61418	広野	62	女性	悪心	なし	BP 125/92, HR 95 SpO2 99 BT35.3	休息のみ	精神的緊張、疲労	中森(横浜労災)	軽快	帰宅

61419 広野	62	女性	頭痛	HT	BP 196/117, HR 91 SpO2 98 BT 36.2	アダラート10mg	精神的緊張	中森【横浜労災）	軽快	帰宅
61820 広野	60歳代	女性	頭痛・吐き気	高血圧	BP158/68 PR90 RR18 SPO2　100%	経過観察のち BP138/60 気分不快改善	疲労	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62121 古道	78	女性	めまい	喘息	BP124/78 SPO2 98% PR77　BT35.9	経過観察にてめまい改善	疲労	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62122 古道	48	男性	両手擦過傷	なし		流水で両手洗浄した後、ゲンタシン軟膏塗布し、絆創膏貼用。 紹介状渡し、近医受診勧める	両手擦過傷	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62123 古道	42 （スタッフ）	女性	冷汗	糖尿病	BP138/82 PR78 SPO2　99% BT36.2	血糖測定し、55mg/dlだったため、50%ブドウ糖液40ml摂取。30分後再検し、血糖155mg/dl　症状改善みられる。	低血糖	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62424 古道	40歳代 （スタッフ）	女性	頭痛	偏頭痛	BP118/62	吐き気無　ロキソプロフェンナトリウム1錠渡す。 偏頭痛時折みられるが市販薬内服し受診はしていなかったとのこと。近医受診するように勧める。	偏頭痛	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62425 古道	30歳代 （東電職員）	女性	左前腕内側より少量出血	なし		流水にて洗浄の上、ポピヨドンで消毒し、シルキーポア貼用。 東電診療所を受診し、破傷風トキソイドの投与うけるよう説明。	左前腕小刺創	春成(横浜市大）	軽快	帰宅
62426 広野	69	男性	嘔吐	高血圧	BP120/60 HR97 BT37.1 SPO2　91% ⇒酸素5L97%	警戒区域内で嘔吐有 自力で車両を持ち出したのち救護所へ ソルアセト500ml輸液する。	中等症熱中症疑い」	小川（川口市立医療センター）		転院
62427 広野	59	女性	頭痛	偏頭痛	BP120/60 HR78 BT36.4 spo2　100	神経症状なく診察のみ	偏頭痛	小川（川口市立医療センター）	軽快	帰宅
広野	34	女性	頭痛	パニック障害	BP124/ 70 PR86	診察のみ	頭痛	小川（川口市立医療センター）	軽快	帰宅

第１１次隊　川口市立医療センター

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

No.	月日	時間		項目	詳細内容	備考欄
1	6月24日	7時15分	移動	病院発	【派遣隊員】 医師:小川太志 看護師:大塚栄美・緑川恵美 業務調整員:中島　誠	公用車届出済 医師：小川太志 看護師：大塚栄美 業務調整員：中島　誠 運転手：中島　誠
2		7時30分		川口東IC入口	外環自動車道（三郷方面）	
3		7時45分		三郷IC入口	常磐自動車道（下り線）	（走行距離：18.0km）
4		9時20分		中郷SA	SA内にて朝食（もしくは、早めの昼食）	（走行距離：148.0km）
5		10時15分		中郷SA発		運転手：中島　誠
6		11時05分		広野IC出口		
7		11時15分		現着	広野中央体育館	（走行距離：216.4km）
8			引継	現着報告	救命救急センター看護師長（福原）へ電話報告 ・現着	
9		11時20分		現着報告・挨拶・引継	医療班・横浜市立大学付属病院 【統括】伊藤俊之 【横浜市立大学付属病院】 医師：春成 看護師：三浦 業務調整員：荻田（薬剤師）	
10		11時40分	医療支援	活動開始	問診・問診票回収	
11		13時30分		傷病者対応	69歳・男性　熱中症疑い	いわき市立総合磐城共立病院転院搬送（陸路：救急車）
12		16時00分		活動報告	救命救急センター看護師長（福原）へ電話報告 ・活動場所：広野中央体育館 ・活動内容：問診・傷病者対応（中等症1名）	
13		17時20分		傷病者対応	59歳・女性　片頭痛	
14		17時25分		傷病者対応	34歳・女性　頭痛症	
15		18時30分		救護所撤収開始		
16		18時50分		撤収	広野中央体育館撤収	
17			移動	現発	J Village：JFAメディカルセンターへ移動（横浜市立大学付属病院と共に）	
18		19時00分		J Village到着	J Village：JFAメディカルセンター到着	
19			Meeting	挨拶・活動報告	J Village：JFAメディカルセンター統括医師へ 【場所】JFAメディカルセンター内 【参加者】統括医師・横浜市立大学付属病院DMAT 川口市立医療センターDMAT 【内容】 ・統括医師：3日間　線量計20μSv ・J Village内、写真撮影禁止：東京電力職員の疲弊 ・熱中症に留意：交代・休憩しながら活動すること	
20		19時15分	移動	J Village発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
21		19時20分		広野IC入口	常磐自動車道（上り線）	
22		19時45分		いわき中央IC出口	常磐自動車道	
23		20時00分		待機病院着	いわき市立総合磐城共立病院へ到着	（走行距離：258.1km）
24			引継	引継	いわき市立総合磐城共立病院内、人間ドック用病棟A ・Web会議 ・各種電子ファイル ・各紙面ファイル（傷病者カルテ・Web会議綴り）	
25		20時35分	移動	待機病院発	宿泊先：平ビューホテルへ移動	
26		20時45分		ホテル着	宿泊先：平ビューホテル・チェックイン ・ハイエース（DMAT事務局レンタカー車輌（以降、DMATハイエース）へ荷物積み込み	
27		21時15分		買い物	スーパー：ヨークベニマル（夕食・翌朝分）	
28		21時50分		ホテル着	車内ミーティング ・翌朝6時25分　ホテルロビー集合 ・翌朝6時30分　ホテル出発（田村市古道体育館へ移動） 各自室内にて食事・就寝	（走行距離：）

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

29	6月25日	6時25分	移動	ホテル発	田村市古道体育館へ移動 DMATハイエース使用	運転手:中島　誠 DMATハイエース：走行距離0km）
30		6時30分	他	買い物	コンビニエンスストア：昼食	
31		6時35分	移動	再出発		
32		6時50分		いわき中央IC入口	常磐自動車道（上り線）	（走行距離：9km）
33		7時30分		船引三春IC出口	磐越自動車道	（走行距離：69.9km）
34		8時10分		現着	田村市古道体育館へ到着	（走行距離：96.6km）
35		8時20分	医療支援	救護所設営		
36		9時00分		受付開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
37		9時20分		受付終了	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
38		9時25分		問診票回収・集計	回収担当者：大学連 集計担当者：DMAT（医師：小川、看護師：大塚・緑川、 放医研看護師：安東）	
39		10時20分		バス乗車開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
40		10時45分		バス乗車終了・全車出発	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
41		10時50分		受付開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
42				問診票回収・集計	回収担当者：大学連 集計担当者：DMAT（医師：小川、看護師：大塚・緑川、 放医研看護師：安東）	
43		11時20分		問診票回収終了		
44		11時30分		問診票集計終了		
45		11時55分		バス乗車開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
46		12時20分		バス乗車終了・全車出発	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
47				昼食・休憩		
48		13時00分		ミーティング	スクリーニングの方法について 【説明者】放医研 【注意事項】 ・Zoning：Hot Zone,Cold Zone ・目的：住民への安心感へと繋げる ・住人の体調不良への対応 ・食品の持出は厳禁 ・薬品：処方薬は持出可・市販薬は持出禁止 【その他】 自衛隊より ・要除染対象者への対応 ・要除染対象者が女性の場合は、女性看護師の要派遣	
49		13時15分		スクリーニング準備開始		
50		13時45分		スクリーニング準備完了		
51		14時00分		バス降車開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
52				スクリーニング開始		
53		14時25分		傷病者発生（情報入）	【情報発信】本部 【情報内容】 ・傷病者：大熊5-1-1 ・状態：野良猫による猫咬傷	
54		15時15分		バス降車開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
55		16時24分		傷病者対応	歳・女性　猫咬傷	
56		16時40分		撤収準備		
57		17時15分		撤収		
58			移動	現出	ホテルへ移動	運転手：中島　誠
59		18時20分		船引三春IC入口	磐越自動車道→常磐自動車道	
60		19時15分		いわき中央IC出口		（走行距離：199.5km）
61		19時30分		夕食・ミーティング	”暖や”	
62		21時00分		ホテル着		

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

63	6月26日	6時55分	移動	ホテル発		運転手：中島　誠 （走行距離：208.0km）
64		7時05分		いわき中央IC入口	常磐自動車道（下り線）	
65		7時25分		いわき四倉IC出口	国道399号線より古道体育館へ移動	
66		8時40分		現着	古道体育館へ到着	
67			医療支援	資機材搬入・救護所設営		
68		9時00分		受付開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
69		9時05分		問診票回収開始	回収担当者：大学連	
70		9時20分		問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
71		9時45分		問診票集計終了		
72		10時15分		バス乗車開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
73		10時47分		受付開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
74		10時48分		バス出発完了	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
75		11時00分		問診票回収開始	回収担当者：大学連	
76		11時20分		問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
77		11時45分		問診票集計終了		
78		12時15分		バス乗車開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
79		12時55分		バス出発完了	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
80		13時00分		ミーティング	スクリーニングについて 【説明者】放医研	
81		13時40分		バス降車開始	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
82				スクリーニング開始		
83		15時06分		バス降車完了	双葉町（警戒区域一時立入）住民	
84		15時25分		バス降車開始	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
85		15時50分		傷病者対応		
86		16時33分		バス降車完了	大熊町（警戒区域一時立入）住民	
87		16時50分		スクリーニング終了		
88				撤収開始		
89		17時05分		撤収完了		
90		17時10分	移動	現発	ホテルへ移動	運転手：中島　誠 （走行距離：325.2km）
91		18時00分		船引三春IC入口	磐越自動車道→常磐自動車道	（走行距離：356.8km）
92		19時15分		いわき中央IC出口		（走行距離：416.0km）
93		19時35分		ホテル着		（走行距離：423.7km）

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

94	6月27日	8時15分	他	食事	ホテル朝食	
95		8時50分	移動	ホテル発	J villageへ移動：医師小川、業務調整員：中島 いわき市立総合磐城共立病院へ移動：看護師：大塚、緑川	J Village運転手：中島　誠 （DMATハイエース） 磐城共立病院運転手：大塚　栄美 （PRADO）
96		9時05分		いわき中央IC入口	常磐自動車道（下り線）J villageへ移動（DMATハイエース）	
97		9時35分		広野IC出口		（走行距離：459.3km）
98		9時45分		J Village着	JFA Medical Center内へ	（走行距離：463.0km）
99		10時00分	Meeting	定例会議	J Village緊急医療チーム定例会議 ・1F：熱中症1名　医務室で休養中 ・1F（5～6号棟）：医務室（新設） 6月28日　改装完了 6月29日以降　資機材搬入 運用方法について、文科省と厚労省が調整中	定例会議参加者 ・医師：小川　太志 ・業務調整員：中島　誠
100		10時35分		J Village発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
101		10時55分	移動	広野IC入口	常磐自動車道（上り線）	
102		11時20分		いわき中央IC出口		（走行距離：495.4km）
103		11時30分		待機病院着		（走行距離：501.0km）
104		15時00分	待機	Web会議	医師小川にてWeb会議参加 【報告内容】 ・6月24日　熱中症1名　病院搬送 以降、気候の変化から熱中症発生0件	
105		16時30分		撤収	ホテルへ移動	
106			移動	待機病院発		運転手：中島　誠
107		16時45分		ホテル着		
108		18時00分	他	食事・ブリーフィング	いわき市内：飲食店	

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

109	6月28日	7時00分	他	食事	ホテル朝食	
110		7時35分		ホテル発	活動場所：広野中央体育館へ移動	運転手：中島　誠 （走行距離：505.5km）
111		7時40分	移	買い物	セブンイレブンにて昼食買い出し	
112		8時00分	動	いわき中央IC入口	常磐自動車道（下り線）	
113		8時25分		広野IC出口		（走行距離：541.0km）
114		8時35分		現着	広野中央体育館へ到着	（走行距離：545.6km）
115				資機材搬入・救護所設営	救護所：広野公民館　1階へ	
116		8時45分		ミーティング	医療班ミーティング ・問診票について ・回収担当者：大学連 ・集計担当者：DMAT	
117		9時00分		受付開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
118				問診票回収開始	回収担当者：大学連	
119		9時20分		活動報告	救命救急センター看護師長（福原）へ電話報告 ・広野中央体育館にて救護活動開始	
120		9時40分		問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
121		10時05分		受付終了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
122		10時20分		問診票集計終了		
123		10時50分		バス乗車開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
124		11時05分		バス乗車完了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
125				受付開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
126		11時08分	医	バス出発完了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
127		11時15分	療	問診票回収開始	回収担当者：大学連	
128		11時35分	支	問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
129		11時40分	援	問診票回収終了		
130		11時45分		問診票集計終了		
131		12時20分		バス乗車開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
132		12時41分		バス出発完了	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
133		13時00分		ミーティング	スクリーニングについて 【説明者】広島大学	
134		13時25分		バス降車開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
135				スクリーニング開始		
136		15時00分		傷病者対応	37歳・女　右第2指切創	
137		15時05分		バス降車完了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
138		15時07分		傷病者対応	48歳・女　右前腕挫創	
139		15時25分		バス降車開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
140		17時00分		バス降車完了	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
141		17時10分		スクリーニング終了		
142		17時40分		撤収		
143				現発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
144		17時50分		広野IC入口	常磐自動車道（上り線）	
145		18時15分	移	いわき中央IC出口		（走行距離：578.7km）
146		18時30分	動	待機病院着	いわき市立総合磐城共立病院（ドア開錠不能）	（走行距離：584.0km）
147		18時50分		待機病院発	ホテルへ移動	
148		19時00分		ホテル着		（走行距離：587.0km）
149		19時30分	他	食事・ミーティング		

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

150	6月29日	7時00分	他	食事	ホテル朝食	
151		7時30分		ホテル発	活動場所：広野中央体育館へ移動	運転手：中島　誠
152		7時35分		買い物	ファミリーマートへ昼食買い出し	
153		8時00分	移	給油	DMATハイエース：軽油（¥5,000分）	（走行距離：591.2km）
154		8時08分	動	いわき中央IC入口	常磐自動車道（下り線）	
155		8時32分		広野IC出口		
156		8時40分		現着	広野中央体育館へ到着	（走行距離：627.0km）
157				資機材搬入・救護所設営		
158				ミーティング		
159		9時00分		受付開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
160		9時10分		問診票回収開始	回収担当者：大学連	
161		9時25分		問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
162		9時30分		活動報告	救命救急センター副看護師長（高野）へ電話報告 ・広野中央体育館にて救護活動開始	
163		9時50分		受付終了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
164		10時05分		問診票集計終了		
165		10時40分		バス乗車開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
166		10時50分		バス出発完了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
167		10時58分		受付開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
168		11時05分		問診票回収開始	回収担当者：大学連	
169		11時15分		問診票集計開始	集計担当者：DMAT	
170		11時30分		傷病者対応	78歳・男　HT/Ap/不整脈　昨日から動悸出現 医師小川診察・病状説明後、本人・家族（配偶者）の希望にて 一時立入実施へ	統括医師へ報告 本部へ報告後、救急車と 同乗する安全管理者・引率者へ報
171		11時45分	医	問診票集計終了		
172		11時50分	療	傷病者対応	62歳・女　慢性下痢症（内服：ブスコパン・ラックビー） 服用後、一時立入実施へ	
173		12時15分	支	バス乗車開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
174		12時30分	援	バス出発完了	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
175		13時00分		ミーティング	医療班ミーティング スクリーニングについて 【説明者】広島大学	
176		13時10分		バス降車開始	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
177				スクリーニング開始		
178		14時00分		傷病者対応	46歳・女　熱中症（軽症）	
179		14時15分		バス降車完了	楢葉町（警戒区域一時立入）住民	
180		15時10分		バス降車開始	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
181		16時00分		傷病者対応	51歳・男　左下腿虫刺症	
182		16時10分		傷病者対応	53歳・女　脱水症	
183		16時39分		バス降車完了	富岡町（警戒区域一時立入）住民	
184		16時40分		傷病者対応	【169】同様 78歳・男：帰館・スクリーニング後、診察	
185		16時43分		スクリーニング終了		
186		16時50分		撤収準備		
187		17時35分		撤収		
188				現発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
189		18時00分	移	広野IC入口	常磐自動車道（上り線）	
190		18時20分	動	いわき中央IC出口		
191		18時35分		待機病院着		（走行距離：668.3km）
192			他	活動報告	Web会議・DMAT活動記録アップデート	運転手：中島　誠
193		19時05分	移	待機病院発	ホテルへ移動	
194		19時15分	動	ホテル着		（走行距離：671.4km）
195			他	荷物積み替え開始	荷物の積み替え（DMATハイエースよりPRADOへ）	
196		19時30分		荷物積み替え終了		

東日本大震災における川口市立医療センターDMAT（第2陣）の活動報告（時系列）

197	6月30日	8時00分	移動	ホテル発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
198		8時15分		待機病院着		（走行距離：674.5km）
199		8時40分	他	挨拶	いわき市立総合磐城共立病院院長へ挨拶・活動報告	
200		9時05分	移動	待機病院発	J Village：JFAメディカルセンターへ移動	運転手：中島　誠
201		9時15分		いわき中央IC入口	常磐自動車道（下り線）	
202		9時40分		広野IC出口		（走行距離：708.0km）
203		9時45分		J Village着	JFA Medical Center内へ	（走行距離：711.4km）
204		10時00分	Meeting	定例会議	J Village緊急医療チーム定例会議 ・1F：37歳　男性（東芝職員）　熱中症 ・1F：2,532名（東電：289名・他：2,243名） ・2F：2,902名（東電：363名・他：1,539名） ・広野中央体育館の傷病者数：5名（住民：4名・スタッフ：1名） 熱中症（1°）：1名 脱水症：1名 住民は点滴治療を拒む傾向にある：「バスの方々を待たせ、迷惑をかける」「バスの乗車しないと帰宅できない」などの理由	定例会議参加者 ・医師：小川　太志 ・業務調整員：中島　誠
205		10時30分	他	活動報告	救命救急センター副看護師長（高野）へ電話報告 ・待機病院：いわき市立総合磐城共立病院 ・JFAメディカルセンター：定例会議	
206		10時45分	移動	J Village発	いわき市立総合磐城共立病院へ移動	運転手：中島　誠
207		10時50分		広野IC入口	常磐自動車道（下り線）	
208		11時15分		いわき中央IC出口		
209		11時18分		給油	DMATハイエース：軽油（¥3,932）	（走行距離：745.8km）
210		11時35分		待機病院着		（走行距離：749.5km）
211		11時40分	引継	引継	【秦野赤十字病院】 医師：2名　看護師：1名　業務調整員：1名	
212		13時30分		引継終了		
213		13時40分	移動	待機病院発	川口市立医療センター帰院へ	運転手：中島　誠
214				いわき中央IC入口	常磐自動車道（上り線）	
				三郷IC入口	外環自動車道	

いわき待機DMAT
川口市立医療センター

No.	ID	活動場所	年齢	性別	主訴	既往歴	バイタルサイン	診療内容	診断名	診療医師	帰宅時指示	転帰	備考欄
1	62426	広野中央体育館	69	男	嘔吐	HT	Bp:120/60mmHg HR:97bpm BT:37.1℃ SpO2:91% (O2:5L/min97%)	警戒区域内にて嘔吐 自力で車両を持ち出したのち救護所へ 末梢静脈路確保術 DIV:ソルアセト500ml	熱中症疑い(中等症)	小川		転院	いわき市立総合磐城共立病院 (救急車)
2	62427	広野中央体育館	59	女	頭痛	片頭痛	Bp:120/60mmHg HR:78bpm BT:36.4℃ SpO2:100%	診察	片頭痛	小川	軽快	帰宅	
3	62428	広野中央体育館	34	女	頭痛	パニック障害	Bp:124/70mmHg PR:86bpm	診察	頭痛症	小川	軽快	帰宅	
4	62529	古道体育館	41	女	咬傷		野良猫による咬傷 (右母指2カ所)	創部放射線量測定:320cpm 石鹸洗浄後、180cpm イソジン消毒・ゲンタシン軟膏塗布 ガーゼ被覆	猫咬傷	小川		帰宅	会津中央病院へ紹介 (救命救急センター:坂本・木戸医師)
5	62630	古道体育館	75	女	眩暈 発汗	HT	Bp:180/100mmHg HR:77bpm BT:35.7℃ SpO2:99%	診察 安静・経過観察	高血圧症	小川	軽快	帰宅	
6	62831	広野中央体育館	37	女	切創	十二指腸潰瘍	ガラス片による切創	イソジン消毒・ゲンタシン軟膏塗布 絆創膏	右第2指切創	小川		帰宅	
7	62832	広野中央体育館	48	女	挫創		猫に引っかかれた	イソジン消毒・流水洗浄 ゲンタシン軟膏塗布	右前腕挫創	小川		帰宅	
8	62933	広野中央体育館	78	男	動悸	Ap/HT 不整脈	Bp:160/100mmHg PR:107bpm(整) BT:36.8℃ SpO2:92%	診察	高血圧症 洞性頻脈	小川		帰宅	経過観察するが症状改善なし 状態悪化の可能性を説明後も一時立入希望(配偶者付き添い) 帰館後、再診(16:20) 動悸改善 Bp:160/100mmHg PR:100bpm(整) BT:36.8℃ SpO2:94%
9	62934	広野中央体育館	62	女	下痢 腹痛		一ヶ月前から下痢4～5回/日	診察・内服(ブスコパン・ラックビー)	慢性下痢症	小川		帰宅	
10	62935	広野中央体育館	46	女	頭痛 眩暈 嘔吐	気管支喘息	Bp:128/80mmHg PR:74bpm(整) BT:36.2℃ SpO2:99%	安静・冷却 水分補給 内服(カロナール)	熱中症 (Ⅰ°)	小川		帰宅	点滴治療を勧めるが、本人「早く帰りたい」との希望、配偶者に病状悪化の可能性と受診を勧め、バスにて帰宅となった。
11	62936	広野中央体育館	51	男	虫さされ		左下腿腫脹・ぴりぴり	ゲンタシン軟膏塗布	左下腿虫刺症	小川		帰宅	
12	62937	広野中央体育館	53	女	悪心	HT	Bp:160/90mmHg PR:73bpm(整) BT:36.6℃ SpO2:98%	安静・冷却	脱水症	小川		帰宅	

双葉町

双葉町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	17	1-3-1：DM 1-5-1：DM 1-12-1：心疾患	6	9
2	20	2-1-1：DM/HT 2-7-1：DM/HT	4	7
3	20	3-3-1：心疾患 3-6-2：DM 3-12-1：87歳	5	6
4	20	4-11-1：Epilepsy 4-4-2：甲状腺機能低下症	4	7
5	20	5-2-2：胃潰瘍/大動脈炎	3	7
6	20	6-1-2：LK 6-3-2：甲状腺腫 6-7-1：鬱病	4	7
7	17	7-6-1：心疾患/82歳 7-4-1：82歳	7	18
8	20		5	12
計	154		3	18

大熊町

大熊町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	19	1-5-2：バセドウ氏病	5	10
2	21	2-8-1：気管支喘息	5	9
3	18	3-12-1：Ap/不整脈 3-12-2：HT/不整脈	6	10
4	18	4-8-1：81歳 4-5-1：DM	6	9
5	22		4	7
6	18	6-9-1：DM 6-11-1：DM	5	10
7	20		4	6
8	20		4	7
計	156		4	10

総人数　***310***

双葉町

双葉町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	18	1-5-2：メニエール病 1-8-1：DM	3	5
2	18	2-6-2：HT/DM 2-1-1：83歳	5	8
3	21	3-2-1：鬱病 3-8-1：HT/88歳 3-10-1：HT/DM 3-10-2：HT/DM	8	15
4	20	4-4-1：緑内障 4-6-1：AMI/68歳	4	12
5	20	5-10-2：DM/不整脈	6	23
6	19	6-10-1：DM/不整脈	6	13
7	20	7-5-1：Ap 7-3-1：不整脈	5	16
8	20		6	13
計	156		3	23

大熊町

大熊町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	18	1-3-1：DM/HT 1-1-2：88歳 1-12-1：緑内障	6	13
2	20	2-7-1：HT/84歳 2-8-1：DM/HT/82歳 2-11-1：Ap	4	13
3	20	3-9-1：DM	7	10
4	21	4-1-1：DM 4-8-2：HT/79歳 4-3-1：MI/63歳	5	12
5	20	5-5-2：腎疾患/HT 5-13-1：緑内障	3	7
6	17	6-7-1：Ap/Rp：デパス 6-9-2：DM/HT/39歳	3	7
7	18	7-3-1：HT/LK 7-4-2：HT/自律神経失調	4	7
8	21	8-6-2：HT/Ap/不整脈 8-8-1：DM 8-9-1：歩行障害/67歳	5	9
計	155		3	13

総人数　***311***

楢葉町

楢葉町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	**20**	1-2-2：Psy 1-3-1：心疾患 1-10-2：DM/HT	**1**	**2**
2	**20**	2-6-1：DM/失禁 2-4-2：HT/不整脈 2-7-1：HD 2-8-2：CI/HT	**1**	**2**
3	**14**	3-1-1：気管支喘息 3-11-1：HT/Ap	**1**	**2**
4	**21**	4-4-1：CVD 4-12-1：HT/84歳	**2**	**3**
5	**23**	5-3-1：HT/不整脈 5-7-1：甲状腺機能亢進症	**2**	**3**
6	**22**	6-4-1：HT/潰瘍性大腸炎 6-5-1：自律神経失調症 6-5-2：自律神経失調症	**2**	**3**
7	**23**	7-11-1：HT	**1**	**3**
8	**18**	8-3-2：DM/HT	**1**	**2**
9	**20**	9-2-1：DM 9-12-1：DM	**1**	**3**
計	**181**		**1**	**3**

富岡町

富岡町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
9	**17**	9-5-1：OMI/DM 9-8-2：HT/DM/80歳 9-2-1：AAA	**3**	**5**
10	**19**	10-2-1：OMI/Ap 10-6-1：HT/不整脈 10-7-1：Ap/HT	**2**	**4**
11	**17**	11-8-1：MMK	**3**	**5**
12	**15**	12-3-1：DM/眩暈	**2**	**4**
13	**18**		**3**	**5**
14	**19**	14-8-1：HT/LK 14-8-2：パーキンソン氏病	**6**	**21**
15	**20**	15-11-1：橋本病 15-11-2：尿路結石	**7**	**16**
16	**20**	16-4-2：気管支喘息 16-6-1：Epilepsy 16-6-2：DM/HT 16-8-2：Psy	**7**	**15**
17	**16**		**7**	**15**
18	**17**	18-7-1：甲状腺機能低下症	**3**	**7**
19	**19**	19-7-1：HT（服薬未） 19-10-1：Psy	**5**	**11**
計	**197**		**2**	**21**

総人数　***378***

楢葉町

楢葉町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
1	**23**	1-2-1：DM/HT 1-3-1：ホルモン剤	**1**	**1**
2	**19**	2-4-2：MMK 2-9-1：股関節形成不全	**0**	**1**
3	**14**	3-1-2：AMI/HT 3-3-1：DM/HT/82歳 3-11-2：DM/HT	**1**	**1**
4	**16**	4-1-1：パーキンソン氏病 4-2-1：Psy 4-8-1：DM/82歳	**1**	**1**
5	**13**	5-3-1：AMI/HT/DM 5-6-1：Psy 5-7-1：Psy 5-9-1：Psy	**1**	**1**
6	**18**	6-2-1：AMI 6-6-2：HT/不整脈/82歳	**0**	**1**
7	**21**	7-9-1：Af/81歳 7-11-1：HT/腰痛/80歳 7-11-2：HT/Ap/不整脈	**1**	**1**
8	**22**	8-2-2：悪性リンパ腫 8-3-1：HT/RA 8-4-1：BA 8-4-2：AMI 8-9-1：甲状腺機能亢進症 8-9-2：BA 8-10-1：HT/84歳	**0**	**1**
9	**17**	9-4-1：HT/寝不足 9-12-2：気管支喘息	**0**	**1**
計	**163**		**0**	**1**

富岡町

富岡町（警戒区域一時立入）

車輌№（号車）	住民数（人）	要注意	放射線量 最小値	放射線量 最大値
6	**15**	6-5-1：Ap/44歳	**5**	**8**
7	**18**	7-10-1：HD	**4**	**7**
8	**18**	8-1-1：アレルギー	**4**	**7**
9	**20**	9-6-2：不整脈/関節炎	**4**	**7**
10	**21**	10-3-2：MI/HT 10-9-1：CI/82歳 10-9-2：Ap/HT	**4**	**6**
11	**18**	11-6-1：DM（インシュリン） 11-9-1：DM/86歳 11-9-2：HT/86歳	**3**	**9**
12	**21**	12-7-1：RA 12-10-2：気管支喘息	**4**	**6**
13	**19**	13-3-1：HT/不整脈 13-4-2：DM（インシュリン） 13-6-1：気管支喘息（吸入） 13-8-1：HT/AP/不整脈	**3**	**5**
14	**17**	14-1-1：HT（服用忘れ） 14-1-2：RBBB 14-8-1：気管支喘息/DM 14-6-1：CI/HT	**2**	**4**
計	**167**		**2**	**9**

総人数　***330***

活動中の天候

月日	時間	活動場所	天気	気温(℃)	湿度(%)	降水量(mm/h)	風向き	風速(m)
6月24日	12時	双葉郡広野町（広野中央体育館）	晴れ	30	58	0	南	3
	15時		晴れ	30	56	0		2
6月25日	9時	田村市都路町（古道体育館）	雨	18	98	1	東北東	1
	12時		雨	16	96	2	東北東	1
	15時		雨	16	96	3	北東	1
	18時		雨	15	96	1	東南東	1
6月26日	9時	田村市都路町（古道体育館）	雨	17	100	1	東	1
	12時		雨	18	96	1	南東	1
	15時		雨	19	98	0	南東	1
	18時		雨	19	98	0	東南東	2
6月28日	9時	双葉郡広野町（広野中央体育館）	晴れ	26	82	0	南東	1
	12時		晴れ	25	78	0	東	2
	15時		晴れ	26	80	0	南南東	2
	18時		雨	25	88	0	南	1
6月29日	9時	双葉郡広野町（広野中央体育館）	晴れ	27	68	0	南	1
	12時		晴れ	27	64	0	南南東	1
	15時		晴れ	28	66	0	南南東	1
	18時		晴れ	27	76	0	南南西	1

第１２次隊　秦野赤十字病院

DMAT活動記録

6月30日 土

活動内容	待機(いわき市立総合磐城共立病院)
活動場所	(いわき市立総合磐城共立病院)
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー	
医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

行き先市町村	台数

時刻	内容
5:00	秦野赤十字病院に隊員集合、個人の荷物の積み込みなど開始
5:30	病院出発
7:30	常磐自動車道　守谷SA着
8:00	常磐自動車道　守谷SA発
9:50	ガソリン給油
10:30	ガスト着昼食開始
11:00	ガスト発昼食終了
11:40	いわき市立総合磐城共立病院着
13:40	川口市立医療センターDMATにあいさつ及び引き継ぎ
12:20	引継ぎ終了
14:30	Web会議設定
15:00	Web会議開始
15:45	Web会議終了
17:20	いわき市立総合磐城共立病院発
17:50	ホテル着
18:20	夕食開始
18:20	夕食終了
	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量夕のみ大林0、瀧沢0、村井0、相原0
特記事項など	①いわき市立総合磐城共立病院院長へのあいさつのアポをとった。　7月5日(火)8:40 ②緊急車両許可証を災害医療センター庶務課熊沢様宛に郵送した。

DMAT活動記録

7月1日 土

活動内容	一帰宅支援(古道体育館)
活動場所	古道体育館
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー	
医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

行き先市町村	台数
双葉町	10
大熊町	10

時刻	内容
6:15	ホテル発
6:25	いわき市立総合磐城共立病院着
7:30	車両を変更し一部荷物を積み替え、いわき市立総合磐城共立病院発
8:20	古道体育館着、体育館診療所準備開始
8:30	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
9:00	問診票回収、メディカルチェック開始
9:18	双葉町、住民説明会(概要、防護服など)開始
9:45	双葉町説明会終了、防護服着用、乗車開始
10:05	双葉町帰宅バス出発開始
10:40	双葉町帰宅バス出発終了
11:00	大熊町、住民説明会(概要、防護服など)開始
11:30	大熊町説明会終了、防護服着用、乗車開始
12:00	大熊町帰宅バス出発開始
12:30	大熊町帰宅バス出発終了
13:00	昼食開始
13:30	昼食終了
13:30	双葉バス同時帰還の可能性アナウンス
13:42	双葉バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
14:50	大熊バス同時帰還の可能性アナウンス
14:52	双葉バス住民サーベイ終了
14:58	大熊バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
17:15	大熊サーベイ終了、片付け開始
17:30	古道体育館発
19:15	ホテル着、片付け.翌日のミッション、集合時間確認
	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量朝大林0、瀧沢0、村井0、相原0　夕大林3、瀧沢2村井2、相原2
特記事項など	厚生労働省医療班より7月2日は広野中央体育館にいってほしいと依頼があったため広野中央体育館に変更した。。

通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	対応	転機
不明	不明	不明	吐き気	ナウゼリン1ケ	帰宅
不明	不明	不明	吐き気	ナウゼリン1ケ	帰宅
不明	女性	不明	胸部不快	問診確認し、血圧測定。ﾆﾄﾛﾍﾟﾝ内服し様子見た。	帰宅
双葉3－5－1	女性	不明	めまい症状あり。その後呼吸苦。	すでに内服薬は持っていた。症状強いため前倒しで内服したが軽快しなかった。軽い熱中症もあるようなので脇と首を冷却しメイロン点滴を行った。その後呼吸苦の訴えがあったためSPo2を計測。酸素量は十分のため、ｻｰｼﾞｶﾙﾏｽｸをして様子をみた。	帰宅

一時帰宅住民情報

7月1日　水

行き先市町村			実施場所	古道体育館	
双葉町	1	号車	～	10	号車
大熊町	1	号車	～	10	号車

被ばく線量	単位μ SV
双葉町	4 ～
大熊町	6 ～
関係者	5 ～

双葉町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20	20	0
2	21	21	0
3	19	19	0
4	20	20	0
5	22	22	0
6	20	20	0
7	20	20	0
8	20	20	0
9	20	20	0
10	19	19	0
合計	201	201	

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	10
消防	3
警察	2
ペット回収	4
その他	
計②	59

総数（①+②）　260

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	16	16	0
2	17	17	0
3	19	19	0
4	20	20	0
5	17	17	0
6	18	18	0
7	18	18	0
8	18	18	0
9	19	19	
10	12	12	
計①	174	174	0

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	10
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	52

総数（①+②）　226

DMAT活動記録

7月2日 土

活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー	
医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
7:40	ホテル発
8:20	広野町中央体育館着、体育館診療所準備開始
9:00	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
10:40	住民説明会(概要、防護服など)開始。住民受付完了、問診票回収
10:45	問診票回収終了、メディカルチェック
11:25	説明会終了、防護服着用、乗車開始
11:28	帰宅バス出発
12:30	昼食開始
13:00	昼食終了
14:00	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
15:00	一時帰宅者サーベイ終了、スタッフミーティング
15:45	広野町中央体育館発
15:55	JFAメディカルセンター着、あいさつ
16:10	JFAメディカルセンター発
17:10	ホテル着
17:20	翌日のミッション、集合時間確認
18:00	記録
	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量朝大林4、瀧沢3、村井3、相原4　夕大林5、瀧沢5、村井6、相原5
特記事項など	①住民の個人線量計の受付を行った。(最少は3μシーベルト。最大は16μシーベルト) ②災害医療センターの大野先生にJFAメディカルセンターをご案内いただいた。その際にいわき市立総合磐城共立病院待機DMAT用の個人線量計用ボタン電池をいただいた。

時間	通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	対応	転機
14:26	11-2-2	男	不明	頭痛	ロキソニン1T処方	帰宅
14:55	14-6-2	女	58	咳、痰の症状あり。気管支炎と診断。	クラビット(250)2T、PL3.0/2T	帰宅
15:00	14-7-2	女	42	頭がボーとする。だるい感じ。	OS-1にて対応。	帰宅
15:05	14-6-1	男	60	咳症状あり。感冒、気管支炎の診	クラビット(250)2T、PL3.0/2T	帰宅

一時帰宅住民情報

7月2日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　単位μSV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
11	17	17	0
12	17	17	0
13	19	19	0
14	18	18	0
15	18	18	0
16	15	15	0
合計①	104	104	0

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	2
ペット回収	2
その他	
計②	38

総数（①+②）　142

DMAT活動記録

7月3日 日

活動内容	待機(いわき市立総合磐城共立病院/Jビレッジ)
活動場所	いわき市立総合磐城共立病院/Jビレッジ
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー	
医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

時刻	内容
8:20	ホテル発
8:40	いわき市立総合磐城共立病院着
8:50	いわき市立総合磐城共立病院発
9:50	JFAメディカルセンター着
10:00	会議、連絡事項など
10:30	JFAメディカルセンター発
11:30	いわき市立総合磐城共立病院着
11:40	記録、資料整理
13:00	昼食開始
13:30	昼食終了
14:30	記録、資料整理
15:00	Web会議開始
15:45	Web会議終了
17:00	いわき市立総合磐城共立病院発
17:10	ホテル着
17:50	夕食開始
18:50	夕食終了
19:00	翌日のミッション、集合時間確認
20:00	記録
	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量朝大林7、瀧沢6、村井7、相原7　夕大林8、瀧沢7、村井7、相原8
特記事項など	

DMAT活動記録

7月4日 月

活動内容	車持ち出し一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー

医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

行き先市町村	台数
楢葉町、富岡町、双葉町、大熊町	15

時刻	内容
7:40	ホテル発
8:20	広野町中央体育館着、体育館診療所準備開始
9:00	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
10:40	住民説明会(概要、防護服など)開始。住民受付完了、問診票回収
10:45	問診票回収終了、メディカルチェック
11:25	説明会終了、防護服着用、乗車開始
11:28	帰宅バス出発
12:20	昼食開始
12:40	昼食終了
12:40	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
17:50	一時帰宅者サーベイ終了、片付け
18:00	広野町中央体育館発
18:45	ホテル着
19:10	夕食開始
20:00	夕食終了
20:10	翌日のミッション、集合時間確認
21:00	記録
	本日の記録、金銭出納など確認。
	線量朝大林9、瀧沢8、村井8、相原9　夕大林11、瀧沢10、村井10、相原11
特記事項など	

時間	通し番号(日付+通し番)　性別　年齢　症状　対応　転機
13:40	不明　男　35　虫刺症　リンデロンVG1本軟膏処方　帰宅
14:03	不明　男　74　蜂刺され　リンデロンVG軟膏塗布　帰宅
14:10	不明　男　不明　虫刺症　リンデロンVG1本、セレスタミン4T(1日3回)3T　帰宅
16:25	不明　男　25　熱中症　OS1　2本　帰宅
16:30	不明　男　58　脱水症　OS1　2本　帰宅

DMAT活動記録

7月5日 火

活動内容	待機(いわき市立総合磐城共立病院/Jビレッジ)
活動場所	いわき市立総合磐城共立病院/Jビレッジ
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー	
医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

時刻	内容
8:15	ホテル発
8:30	いわき市立総合磐城共立病院着
8:40	いわき市立総合磐城共立病院長、看護部長あいさつ
9:10	いわき市立総合磐城共立病院発
9:55	JFAメディカルセンター着
10:00	会議、連絡事項など
10:30	JFAメディカルセンター発
11:30	いわき市立総合磐城共立病院着
11:40	記録、資料整理
13:00	昼食開始
13:30	昼食終了
14:30	記録、資料整理
15:00	Web会議開始
15:45	Web会議終了
17:00	いわき市立総合磐城共立病院発
17:10	ホテル着
17:20	記録
18:30	夕食開始
19:20	夕食終了
19:40	翌日のミッション、集合時間確認
21:30	記録
	解散、本日の記録、金銭出納など確認。
	線量朝大林12、瀧沢11、村井11、相原13　夕大林13、瀧沢11、村井12、相原15
特記事項など	次の前橋赤十字病院DMAT太田様と電話連絡をして、現地の様子と細かい注意事項を伝えた。

DMAT活動記録

7月6日 水

活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	秦野赤十字病院

DMATメンバー

医師	大林
医師	瀧沢
看護師	村井
調整員	相原

行き先市町村	台数
富岡町、楢葉町	21

時刻	内容
7:40	ホテル発
8:20	広野町中央体育館着、体育館診療所準備開始
9:00	スタッフ間打ち合わせ、問診票流れ確認
9:30	楢葉町住民説明会(概要、防護服など)開始。住民受付完了、問診票回収
10:45	問診票回収終了、メディカルチェック
11:25	説明会終了、防護服着用、乗車開始、帰宅バス出発
11:00	富岡町住民説明会(概要、防護服など)開始。住民受付完了、問診票回収
11:30	問診票回収終了、メディカルチェック
12:00	説明会終了、防護服着用、乗車開始、帰宅バス出発
12:30	昼食開始
13:00	昼食終了
13:37	バス帰還、一時帰宅後のサーベイ開始
16:57	一時帰宅者サーベイ終了、スタッフミーティング
17:30	広野町中央体育館発
17:45	JFAメディカルセンター着、あいさつ
18:00	JFAメディカルセンター発
19:00	いわき市立総合磐城共立病院着
19:10	前橋赤十字病院DMATと最終申し送り
19:20	いわき市立総合磐城共立病院発
23:10	秦野赤十字病院着
23:30	片付け後解散
	線量朝大林15、瀧沢13、村井14、相原16　夕大林16、瀧沢14、村井15、相原17
特記事項など	

時間	通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	対応	転機
11:50		男	49	頭痛	ロキソニン1T×2日分処方	帰宅
14:40		男	46	左前腕切傷	イソジン消毒。カットバン保護	帰宅
15:40		男	48	屋外の土埃が右眼に入った。 結膜炎	生食40mlで洗浄し、クラビット点眼液1本処方	帰宅

一時帰宅住民情報

7月6日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村

楢葉町　1 号車　～　11 号車

富岡町　14　23

被ばく線量　単位μSV

楢葉町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20	20	0
2	20	20	0
3	17	17	0
4	20	20	0
5	24	24	0
6	18	18	0
7	15	15	0
8	22	22	0
9	19	19	0
10	21	21	0
11	16	16	0
①合計	192	192	0

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	24
引率者	11
ドライバー	12
消防	
警察	
ペット回収	4
その他	
計②	62

総数（①+②）　254

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
14	15	15	0
15	16	16	0
16	14	14	0
17	18	18	0
18	18	18	0
19	19	19	0
20	20	20	0
21	19	19	0
22	19	19	0
23	18	18	0
①合計	176	176	0

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	21
引率者	11
ドライバー	11
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	55

総数（①+②）　231

第１３次隊　前橋赤十字病院

DMAT活動記録

活動日	7月6日(水)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー	
医師	中村　光伸
医師	高寺　由美子
看護師	鈴木　繁
調整員	太田　吉保

行き先市町村		台数
楢葉町	11	
富岡町	10	21

時刻	内容
6:05	病院出発
9:10	広野IC　降車
9:50	病院(奈良さん)へ広野体育館(10:20)到着予定と報告
10:20	広野町体育館へ到着
10:20	秦野赤十字病院チームと合流
10:48	現地DMAT調整本部(近藤)へ報告
11:50	スタッフ救護所診療　→　処方帰宅(秦野対応)
12:55	スクリーニングエリアで打ち合わせおよびサーベイシミュレーション
13:20	休憩
13:38	バス号数1～11に一時帰宅者のサーベイおよび健康チェック
15:31	バス号数14～23に一時帰宅者のサーベイおよび健康チェック
14:40	住民救護所診療　→　外傷処置、帰宅
15:40	住民救護所診療　→　眼洗浄、点眼帰宅
17:00	定時連絡（DMAT事務局，J-Village統括医師（又野先生））
17:00	全体デブリーフィング，傷病者報告
17:17	前橋赤十字病院へ定時連絡
17:30	広野体育館出発
17:40	J-Village到着，統括医師に挨拶，メディカルセンター内見学
17:55	J-Village出発
18:30	磐城共立病院着，待機室確認
19:10	磐城共立病院出発
19:20	平ビューホテル着
20:30	いわき市内にて夕食

傷病者情報

日付	時間		通し番号 (日付+通し番)	患者名	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月6日	11:50	スタッフ			M		頭痛	筋緊張型頭痛	ロキソニン1T2回分	帰宅
7月6日	14:40	住民	11－5－1		M		階段ですべって落ちた	左前腕擦過傷	イソジン消毒、カットバン保護	帰宅
7月6日	15:40	住民	14－6－1		M		右目に屋外の土埃が入った	右眼結膜炎	生食で洗浄、クラビット点眼	帰宅

一時帰宅住民情報

7月6日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村

楢葉町	1	号車	～	11	号車
富岡町	14	号車	～	23	号車

被ばく線量　単位μ SV

楢葉町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20	20	
2	20	20	
3	17	17	
4	20	20	
5	24	24	
6	18	18	
7	15	15	
8	22	22	
9	19	19	
10	21	21	
11	16	16	
合計①	212	212	0

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	24
引率者	11
ドライバー	12
消防	0
警察	0
ペット回収	4
その他	
計②	62

総数（①+②）　274

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
14	15	15	
15	16	16	
16	14	14	
17	18	18	
18	18	18	
19	19	19	
20	20	20	
21	19	19	
22	19	19	
23	18	18	
合計①	176	176	0

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	21
引率者	11
ドライバー	11
消防	0
警察	0
ペット回収	2
その他	
計②	55

総数（①+②）　231

楢葉町 + 富岡町

計	住民計	486
	関係者計	176
	計	662

DMAT活動記録

活動日	7月7日(木)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー	
医師	中村　光伸
看護師	高寺　由美子
調整員	鈴木　繁
調整員	太田　吉保

行き先市町村		台数
楢葉町	11	
富岡町	10	21

時刻	内容
6:50	ブリーフィング
6:55	ブリーフィング終了／ホテル出発
8:02	広野町体育館到着
8:24	定時連絡　J-village:DMAT事務局
8:30	活動開始
9:00	病院へ定時報告
9:10	楢葉町住民受付開始
9:55	問診票回収・説明開始
10:00	スタッフ診療→頭痛→喘息有り　カロナール2錠×3→帰宅
10:36	楢葉町住民乗車開始
11:00	富岡町住民受付開始
11:25	問診票回収終了・説明開始
11:50	住民診療→頭部打撲→診察のみ→帰宅
12:00	昼食
12:17	富岡町住民乗車開始
12:45	ミーティング・シュミレーション
13:25	楢葉町受け入れ開始
13:42	住民診療→熱中症→OS-1→帰宅
13:44	住民診療→脱水・睡眠不足→OS-1×2→帰宅
14:31	楢葉町受け入れ終了
15:17	富岡町受け入れ開始
16:00	住民診療→過呼吸・腹痛→OS-1→いわき共立HPへ救急搬送
16:27	富岡町受け入れ終了
16:30	全体デブリーフィング開始
16:35	全体デブリーフィング終了
17:08	OFC/DMAT事務局報告
17:11	病院へ定時報告
17:30	広野町体育館発
18:30	ホテル着

傷病者情報

日付	時間		通し番号 (日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月7日	10:00	スタッフ		女性	49	頭痛	頭痛	喘息有り カロナール2錠×３	帰宅
	11:50	住民	21－7－1	女性	67	転倒し頭を打った	頭部打撲	診察のみ	帰宅
	13:42	住民	9－5－2	女性	56	転倒し頭を打った	熱中症	OS-1	帰宅
	13:44	住民	2－2－2	男性	41	めまい	脱水・睡眠不足	OS-1×２	帰宅
	16:00	住民	17－11－1	女性	46	過呼吸	過呼吸・腹痛	OS-1	救急車搬送

一時帰宅住民情報

7月7日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村

楢葉町　1 号車　～　11 号車
富岡町　14 号車　～　23 号車

被ばく線量　単位 μSV

楢葉町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20	20	
2	16	16	
3	21	21	
4	20	20	
5	17	17	
6	17	17	
7	16	16	
8	20	20	
9	21	21	
10	18	18	
11	20	20	
合計①	206	206	0
	予定	最終	

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	11
消防	4
警察	0
ペット回収	3
その他	
計②	62

総数（①+②）　268

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
14	20	20	
15	20	20	
16	13	15	2
17	21	21	
18	19	19	
19	14	14	
20	15	15	
21	16	16	
22	18	18	
23	17	17	
合計①	173	175	
	予定	最終	

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	10
消防	0
警察	0
ペット回収	2
その他	
計②	52

総数（①+②）　225

楢葉町 + 富岡町

計	住民計	474
	関係者計	173
	計	647

DMAT活動記録

活動日	7月8日(金)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	いわき共立病院待機
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー	
医師	中村　光伸
看護師	高寺　由美子 → 小池　伸享
調整員	鈴木　繁
調整員	太田　吉保

行き先市町村	台数
	11
	10
	21

時刻	内容
8:20	ホテル発
8:38	いわき共立病院着
8:45	いわき共立病院小山救命センター長へ挨拶
8:50	JVミーティング開始
9:00	JVミーティング終了
9:00	JVミーティング参加のためいわき共立病院発(中村・太田・小早川)
9:48	JV到着
9:59	JV 医療ミーティング開始
10:10	JV 医療ミーティング終了
10:10	合同庁舎へ出発(高寺・鈴木・大野)
10:30	合同庁舎着
10:45	合同庁舎発→いわき共立病院へ
10:50	いわき共立病院着(合同庁舎班)
10:50	JV出発(医療ミーティング参加者)
11:45	チーム合流し昼食
12:50	災害医療センター　大野・小早川と解散
13:00	いわき共立病院　着　待機
14:00	副院長(兼)看護部長　様へ挨拶
14:20	鈴木・太田　看護師交代要員(小池) いわき駅へ迎え出発
14:33	いわき駅着　小池看護師と合流　→　いわき共立病院へ出発
14:45	鈴木・太田・小池　いわき共立病院到着　→　待機及び看護師引き継ぎ開始
14:55	Web会議開始(中村リーダー参加)
15:15	Web会議終了
17:00	鈴木・小池、 高寺をいわき駅へ送りにいわき共立病院発
17:05	DMAT事務局へ定時報告(MCA無線)
17:08	Jヴィレッジへ定時報告(MCA無線)
17:35	鈴木・小池　いわき共立病院着
18:00	病院へ定時連絡
18:40	いわき共立病院発
18:53	ホテル着
19:20	夕食

DMAT活動記録

活動日	7月9日(土)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	いわき共立病院待機
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー

医師	中村	光伸	→	高橋栄治
看護師	小池	伸享		
調整員	鈴木	繁	→	佐藤 良祐
調整員	太田	吉保	→	関根 晃

行き先市町村		台数
大熊町	6	6

時刻	内容
7:58	ホテル出発
8:06	コンビニで昼食等調達
8:17	コンビニ発
8:28	OFCよりMCA無線の感度確認連絡
8:32	高橋医師より(9:30)到着予定と連絡あり
8:34	定時連絡　JV・DMAT事務局にMCA無線で連絡するも圏外　→　中村医師より携帯にて報告
8:56	広野町中央体育館へ到着
9:15	交替チーム到着(高橋医師・関根調整員・佐藤放射線技師)
9:20	前橋赤十字病院に交替チーム到着報告
10:45	問診票回収
10:51	住民を乗せたバスが体育館より順次出発(11号車より)
11:30	ミーティング・シミュレーション開始
13:20	現地より住民を乗せたバスが11号車より体育館に向け出発
13:30	スクリーニングの準備
13:55	HOT宣言
13:59	住民を乗せたバスが現地より到着(11号車より)
14:00	スクリーニングを開始
15:09	安全宣言にて終了
15:14	デブリーフィング
15:20	デブリーフィング終了
15:44	広野町中央体育館を撤収
16:02	携帯にてJ-Village本部へ定時報告
16:15	J-Villageに到着し、統括医師(山内先生)に交替要員の挨拶及び報告
16:39	J-Villageを出発し磐城共立病院に向かう
16:50	磐城共立病院に到着。待機場所等を確認。
16:52	DMAT事務局へ定時報告→土日は事務局が休みなので、携帯にて直接、市原さんに報告することとした。
17:45	磐城共立病院にを出発し、前橋へ帰還組とホテルへ向かう組と分かれる。
17:56	前橋赤十字病院に帰還組が向かうと連絡
18:20	平ビューホテルに到着

一時帰宅住民情報

7月9日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　　11 号車 ～ 号車　　16 号車 ～ 号車

被ばく線量　単位μ SV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
11	13	13	
12	12	12	
13	20	20	
14	20	20	
15	22	22	
16	20	20	
合計①	107	107	0

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	13
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	0
ペット回収	2
その他	0
計②	37

総数（①+②）　144

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
合計①	0	0	

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　0

大熊町

計	住民計	107
	関係者計	37
	計	144

DMAT活動記録

活動日	7月10日(日)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	いわき共立病院待機
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー

医師	中村 光伸	→	高橋栄治
看護師	小池 伸享	→	城田 智之
調整員	鈴木 繁	→	佐藤 良祐
調整員	太田 吉保	→	関根 晃

行き先市町村		台数
大熊町	6	6

時刻	内容
8:02	平ﾋﾞｭｰﾎﾃﾙ出発
8:05	チームの昼食調達のためセブンイレブン到着
8:15	セブンイレブン出発
8:17	当チーム持参の「デリカ」給油のためGSに到着
8:20	GS出発
8:44	交替要員(城田看護師)と四倉PAにて合流
8:54	リーダ高橋医師により、市原さんに携帯により定時連絡
8:55	リーダ高橋医師により、J-Villageへ携帯により定時連絡
9:00	広野町体育館に到着
9:10	住民の受付開始
9:15	前橋赤十字病院(管理日直者)へ定時報告
9:25	問診票回収開始
9:57	震度4(ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ7.3)の地震発生　津波注意報発令
10:00	広野町体育館運営責任者により住民に対して説明開始
	地震発生により、津波・原発の安全状況を確認してから出発となる
10:05	原発が問題ないことを確認
10:37	前橋赤十字病院(管理日直者)へ地震により影響ない旨を報告
11:01	住民を乗せたバスが順次出発
11:15	小池看護師が前橋赤十字病院に向け帰還
12:30	ミーティング及びシミュレーション開始
14:05	HOT宣言
14:24	住民を乗せたバスがサーベイエリアに順次到着　スクリーニング開始
15:02	住民スクリーニング終了　体調不良・傷病者等なし
15:06	安全宣言
15:11	デブリーフィング開始
15:20	デブリーフィング終了
15:47	DMATチーム体育館を出発
17:05	平ﾋﾞｭｰﾎﾃﾙ到着
17:06	J-Village・DMAT事務局(市原さん)に定時報告
17:08	前橋赤十字病院(管理日直者)へ定時報告

一時帰宅住民情報

7月10日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　　11 号車 ～ 号車　　16 号車 ～ 号車

被ばく線量　単位μ SV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
11	19	19	
12	20	20	
13	16	16	
14	19	19	
15	20	20	
16	15	15	
合計①	109	109	0

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	0
ペット回収	2
その他	
計②	36

（3名、問診票なし）

総数（①+②）　145

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
合計①	0	0	

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　0

大熊町

計	住民計	109
	関係者計	36
	計	145

DMAT活動記録

活動日	7月11日(月)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	磐城共立病院待機
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー
医師　高橋　栄治
看護師　城田智之
調整員　佐藤　良祐
調整員　関根　晃

行き先市町村	台数

時刻	内容
8:30	平ビューホテルを出発
8:35	チームの昼食調達のため、セブンイレブンに到着
8:45	J-Villade組(高橋医師・城田看護師)と磐城共立病院組(佐藤放射線技師・関根業務調整員)で分かれてセブンイレブンを出発
8:54	J-Village本部へ定時報告
8:55	DMAT事務局へ定時報告
9:05	佐藤・関根　磐城共立病院へ到着(救命センター長　小山先生を訪ねたが、まだ未来院。高橋リーダーが到着後改めて挨拶へ)
9:07	前橋赤十字病院へ定時報告
9:08	磐城共立病院での待機開始
9:09	震度4の地震あり(磐城共立病院もかなり揺れたが損害なし)
9:10	前橋赤十字病院へ地震の影響ない旨を報告
9:30	J-Village定例会議出席者(高橋医師・城田看護師)到着報告あり
10:00	J-Village定例会議
10:17	J-Village定例会議終了
11:10	J-Village会議出席者(高橋医師・城田看護師)磐城共立病院に到着
11:35	高橋リーダー、小山救命センター長に挨拶
12:04	昼食
12:45	OFCへMCA無線通信テスト(磐城共立病院で窓際ならば、何とか通信可能)
14:02	web会議への参加要請がGmailに入る
14:06	DMAT事務局よりMCA無線あり。(災害医療センター大野さんがこれから帰るとのこと。)
14:11	wed会議参加(高橋リーダー)
15:40	web会議終了
17:00	OFC・DMAT事務局・J-Village本部へ定時報告(問題なし)
17:05	前橋赤十字病院へ定時報告
17:10	平ビューホテルに向かい撤収

DMAT活動記録

活動日	7月12日(火)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	いわき共立病院待機
活動DMAT	前橋赤十字病院

DMATメンバー	
職種	
医師	高橋栄治
看護師	城田智之
調整員	佐藤良祐
調整員	関根晃

行き先市町村		台数
双葉町	3	3
富岡町	5	5
大熊町	4	4
楢葉町	3	3

時刻	内容
7:30	平ビューホテル出発
7:35	セブンイレブン到着(隊員水分補給)
7:41	セブンイレブン出発
7:49	GSに到着(DMAT車、デリカ給油)
8:00	GSを出発
8:42	広野町体育館到着
8:38	DMAT事務局、OFCに携帯にて定時報告(J-Vはつながらず)
9:30	一時立入住民前半受付及び説明開始
9:40	問診票回収開始
10:14	J-Vより電話あり。統括医師が変更となり電話番号も変更となった
10:34	前半順次出発
10:55	一時立入住民後半受付及び説明開始
10:59	後半問診票回収開始
12:00	藤沢市民病院DMAT広野体育館に到着
12:02	後半バス順次出発
12:20	藤沢市民病院DMATと引き継ぎ開始
13:20	引き継ぎ終了

一時帰宅住民情報

7月12日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村						
大熊町	1	号車	～	4	号車
富岡町	1	号車	～	5	号車
楢葉町	1	号車	～	3	号車
双葉町	1	号車	～	3	号車

被ばく線量　単位μ SV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	17		
2	21		
3	14		
4	13		
合計①	65	0	65

予定　最終

関係者(楢葉町、富岡町)

職種	人数	
安全管理	16	
放射線管理	8	
引率者	8	
ドライバー	8	
消防	3	
警察	0	
ペット回収	0	
その他	36	(道の駅、JAF等含む)
計②	79	

総数(①+②)　144

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20		
2	20		
3	20		
4	20		
5	20		
合計①	100	0	

予定　最終

関係者(大熊町、双葉町)

職種	人数	
安全管理	14	
放射線管理	7	
引率者	7	
ドライバー	7	
消防	3	
警察	0	
ペット回収	0	
その他	37	(同上)
計②	75	

総数(①+②)　175

楢葉町

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	15		
2	12		
3	19		
合計①	46	0	

予定　　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　46

双葉町

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	19		
2	20		
3	20		
合計①	59	0	

予定　　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　59

大熊町

計	住民計	205
	関係者計	154
	計	359

第１４次隊　藤沢市民病院

DMAT活動記録

活動日	7月12日(火)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
職種	
医師	阿南　英明
看護師	佐藤　弘章
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数	
双葉町	3	3
富岡町	5	5
大熊町	4	4
楢葉町	3	3

時刻	内容
5:37	藤沢市民病院出発
9:03	つくば駅にて阿南医師と合流
12:03	広野町体育館到着　前橋日赤チームと合流
12:10	前橋日赤チームから引継ぎ実施
13:20	DMAT事務局・OFCにチーム交代報告。 電話番号違いのためJV統括医師に連絡つかず(J村医師の携帯故障のため新たに知らされた番号が違った)
13:30	前橋日赤チームとともにロジ西ノ宮JVへ　駐車場所等確認 統括医師会議中のため携帯番号確認取れず
14:00	前橋日赤チーム撤収
14:15	ロジ西ノ宮帰着
14:55	住民救護所診療　熱中症Ⅰ度→OS-1×1→帰宅
16:10	住民救護所診療　熱中症Ⅰ度→OS-1×1→帰宅
16:55	住民の受け入れ全て完了を確認(フロア担当医師から連絡あり)
17:00	DMAT事務局、OFCに定時連絡。OFCにJV統括医師の携帯番号を確認(携帯故障ではなく忘れのため、本日のみ別番号とのこと)
17:10	JV統括医師に定時連絡
17:30	広野町体育館撤収
18:30	ホテル到着

傷病者情報

日付	時間		通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月12日	14:55	住民	12+1-14-1	M	80	気分不快・立位困難	熱中症Ⅰ度	OS-1×1 頸部クーリング	帰宅
7月12日	16:10	住民	12+1-4-1	M	26	足しびれ	熱中症Ⅰ度	OS-1×2 クーリング	帰宅

一時帰宅住民情報

7月12日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村						
大熊町	1	号車	～	4	号車
富岡町	1	号車	～	5	号車
楢葉町	1	号車	～	3	号車
双葉町	1	号車	～	3	号車

被ばく線量　単位μ SV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	17		
2	21		
3	14		
4	13		
合計①	65	0	65

予定　最終

関係者(楢葉町、富岡町)

職種	人数	
安全管理	16	
放射線管理	8	
引率者	8	
ドライバー	8	
消防	3	
警察	0	
ペット回収	0	
その他	36	(道の駅、JAF等含む)
計②	79	

総数(①+②)　144

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	20		
2	20		
3	20		
4	20		
5	20		
合計①	100	0	

予定　最終

関係者(大熊町、双葉町)

職種	人数	
安全管理	14	
放射線管理	7	
引率者	7	
ドライバー	7	
消防	3	
警察	0	
ペット回収	0	
その他	37	(同上)
計②	75	

総数(①+②)　175

楢葉町

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	15		
2	12		
3	19		
合計①	46	0	

予定　　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　46

双葉町

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	19		
2	20		
3	20		
合計①	59	0	

予定　　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

総数（①+②）　59

計	住民計	205
	関係者計	154
	計	359

※前橋日赤DMATから受け継いだデータです。

DMAT活動記録

活動日	7月13日(水)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
医師	阿南　英明
看護師	佐藤　弘章
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数

時刻	内容
8:30	JV、DMAT事務局、に定時報告
8:50	ホテル発（阿南、澤畑　JVへ・佐藤、西ノ宮　いわき共立病院へ）
9:00	OFCへ定時報告
9:20	佐藤、西ノ宮　いわき共立病院到着
9:55	阿南、澤畑　JV到着
10:00	JV 医療ミーティング開始(阿南、澤畑 出席）
10:10	JV 医療ミーティング終了
10:15	阿南、澤畑　JV出発
11:00	阿南、澤畑　いわき共立病院到着
11:30	いわき共立病院院長および救命センター長（小山医師）に挨拶
13:40	佐藤、西ノ宮　災害派遣車両証明取得のため合同庁舎へ出発
15:10	佐藤、西ノ宮　合同庁舎よりいわき共立病院へ帰着
15:00	Web会議開始(阿南医師参加)
15:48	Web会議終了
17:00	DMAT事務局、OFC、JVへ定時報告
18:30	いわき共立病院院出発
19:00	ホテル到着

DMAT活動記録

活動日	7月14日(木)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
医師	阿南　英明
看護師	佐藤　弘章
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	11

時刻	内容
7:00	ホテル出発
8:30	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:40	広野町中央体育館到着
8:50	問診票配布開始（1～11号車）
9:50	問診票回収・チェック完了（1～11号車）
10:15	1～11号車乗車開始
10:43	問診票配布開始（13～23号車）
11:28	問診票回収・チェック完了（13～23号車）
12:40	サーベイフロアミーティング
12:30	サーベイフロア準備開始
12:40	HOTエリア設定
12:47	1～11号サーベイ開始
13:30	住民救護対応(9-9-1)
14:02	1～11号サーベイ終了
14:15	HOTエリア解除
14:50	HOTエリア設定
14:52	13～23号サーベイ開始
15:59	13～23号サーベイ終了
16:05	HOTエリア解除
16:05	サーベイフロア反省会
16:50	住民1名20Km圏内に忘れ物のため、屋外にてサーベイ実施
17:00	広野町中央体育館出発
17:00	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
18:00	ホテル着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター近藤医師・小早川医師・小野放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月14日	13:30	住民	14+9-9-1	F	48	疲れた	右足捻挫のため疲労高度	休憩	帰宅

一時帰宅住民情報

7月14日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　楢葉町　1 号車 ～ 11 号車
富岡町　13 号車 ～ 23 号車

被ばく線量　1～15 単位μ SV

楢葉町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
1	18	17	−1
2	18	18	0
3	19	19	0
4	18	17	−1
5	20	18	−2
6	21	20	−1
7	22	19	−3
8	19	18	−1
9	18	15	−3
10	19	20	1
11	21	21	0
合計①	213	202	−11

予定　最終

関係者(楢葉町・富岡町)

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	50
引率者	22
ドライバー	24
消防	3
警察	
ペット回収	6
その他	
計②	127

11

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
13	17	17	0
14	19	18	−1
15	17	17	0
16	20	20	0
17	20	19	−1
18	17	16	−1
19	19	19	0
20	20	21	1
21	18	18	0
22	17	17	0
23	19	19	0
合計①	203	201	−2

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

楢葉町 + 富岡町

計	住民計	403
	関係者計	127
	計	530

※楢葉町202名中、タイベックズボン着用者11名

DMAT活動記録

活動日	7月15日(金)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
医師	阿南　英明/赤坂　理
看護師	佐藤　弘章/光井　裕之
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	11

時刻	内容
7:00	ホテル出発
8:30	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:40	広野町中央体育館到着
8:45	問診票配布開始(1～11号車)
9:00	住民救護所対応事案(虫ささされ)(9-9-1)
9:20	住民救護所対応事案(頭痛)(7-11-3)
9:34	受付終了
10:02	問診票回収・チェック完了(1～11号車)
10:15	1～11号車乗車開始
10:15	交代隊員(赤坂・光井)ピックアップのため、ロジ西ノ宮　いわき駅に出発
10:30	1～11号車出発
10:45	受付・問診票配布開始(13～23号車)
11:10	住民救護所対応事案(めまい)(17-3-2)
11:38	問診票回収・チェック完了(11～23号車)
12:00	医療班ミーティング
12:30	1～11号車受け入れ準備開始
12:40	HOTエリア設置宣言
12:43	スクリーニング開始(1～11号車)
12:45	交代隊員(赤坂・光井)、ロジ西ノ宮　広野町中央体育館到着
13:52	スクリーニング終了(1～11号車)
13:54	HOTエリア解除
14:33	HOTエリア設置宣言
14:37	後半(13～23号車)1車両目到着
14:38	スクリーニング開始(13～23号車)
14:38	交代隊員(阿南・佐藤)を送るため、ロジ西ノ宮　いわき駅に出発
15:21	全車両到着
15:28	子供が病気との連絡を受けた女性を緊急サーベイ
15:55	スクリーニング終了(13～23号車)
16:00	HOTエリア解除
16:07	ロジ西ノ宮　いわき駅より広野町中央体育館に帰着
16:10	医療班ミーティング
17:00	広野町中央体育館出発
17:00	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
17:40	いわき共立病院到着　救命センター長(小山医師)に挨拶
17:55	いわき共立病院出発
18:00	ホテル着

※1次立ち入りマネジメントチーム(災害医療センター近藤医師・小早川医師・小野放射線技師)と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月15日	9:00	住民	15+7-11-2	F	21	両下肢かゆみ	虫刺症		帰宅・立ち入り可
7月15日	9:20	住民	15+9-9-1	M	54	頭痛・浮遊感	慢性頭痛	ロキソニン処方	帰宅・立ち入り可
7月15日	11:10	住民	15+17-3-2	F	55	浮遊感	眩暈症		帰宅・立ち入り可

一時帰宅住民情報

7月15日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　楢葉町　1 号車 ～ 11 号車
富岡町　13 号車 ～ 23 号車

被ばく線量　1～11 単位μ SV

楢葉町住民

バス番号	住民数（各問診）	住民数（本部）	差分
1	19	19	0
2	18	19	1
3	20	19	−1
4	20	20	0
5	20	19	−1
6	14	12	−2
7	21	19	−2
8	20	17	−3
9	20	19	−1
10	17	15	−2
11	22	22	0
合計①	211	200	−11

予定　最終

関係者(楢葉町・富岡町)

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	46
引率者	22
ドライバー	22
消防	3
警察	
ペット回収	6
その他	
計②	121

富岡町住民

バス番号	住民数（各問診）	住民数（本部）	差分
13	18	16	−2
14	18	19	1
15	20	20	0
16	18	18	0
17	18	20	2
18	18	20	2
19	18	18	0
20	20	19	−1
21	20	20	0
22	19	17	−2
23	17	16	−1
合計①	204	203	−1

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	0

楢葉町 + 富岡町

計	住民計	403
	関係者計	121
	計	524

DMAT活動記録

活動日	7月16日(土)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
医師	赤坂　理
看護師	光井　裕之
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:30	DMAT事務局、JVに携帯にて定時連絡
9:00	OFCに携帯にて定時連絡
9:00	住民受付開始
9:15	広野町中央体育館到着
9:25	災害医療センターDMAT広野町中央体育館到着
9:53	住民受付終了
10:10	引率者（14号車）救護所事案対応
10:26	問診票回収・チェック完了（11～16号車）
10:37	乗車開始
10:47	全車出発完了
11:00	医療班ミーティング
13:20	受け入れ準備開始
13:34	HOTエリア設置宣言
13:38	スクリーニング開始
14:08	14号車住民の線量計のスイッチ入れ忘れあり（4名分）。ご本人に事情説明し、ご納得いただいた
14:20	ペット回収スタッフ救護所事案対応
14:44	スクリーニング終了・HOTエリア解除
14:50	医療班ミーティング
15:20	広野町中央体育館出発
15:30	海岸部被害状況視察
16:20	ホテル着
17:00	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センターDMAT　近藤医師・小早川医師・小野放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号（日付+通し番）	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月16日	10:15	スタッフ	14号車引率者	M	32	心窩部痛	急性胃炎	ナウゼリン1T処方	帰宅・立ち入り可
7月16日	14:20	スタッフ	ペット回収班	M	44	両前腕猫咬傷	咬傷	消毒	帰宅・立ち入り可

一時帰宅住民情報

7月16日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村 大熊町　　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　5～17 単位μ SV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
11	20	19	−1
12	21	21	0
13	21	21	0
14	21	19	−2
15	18	20	2
16	19	20	1
合計①	120	120	0

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	36

大熊町

計	住民計	120
	関係者計	36
	計	156

※住民120名中、タイベックズボン着用者97名

DMAT活動記録

活動日	7月17日(日)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー
医師　赤坂　理
看護師　光井　裕之
調整員　西ノ宮　茂
調整員　澤畑　良一

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:30	DMAT事務局、JVに携帯にて定時連絡
8:55	広野町中央体育館到着
9:00	OFCに携帯にて定時連絡
9:05	住民受付開始
9:15	住民救護所対応事案(頭痛)(15-11-2)
9:20	災害医療センターDMAT広野町中央体育館到着
10:07	住民受付終了
10:26	問診票回収・チェック完了(11～16号車)
10:45	乗車開始
10:55	全車出発完了
12:30	医療班ミーティング
13:20	受け入れ準備開始
13:34	HOTエリア設置宣言
13:40	スクリーニング開始
13:40	13号車帰路途中で自損接触事故→負傷者なしを確認
13:49	住民(15-7-2)体調不良のためクイックサーベイ実施　同伴者(15-7-1)あり
13:53	住民(15-7-2)救護所へ収容(熱中症)
14:10	住民救護所対応事案(眼内異物後)(15-2-1)
14:25	全車到着完了
14:40	スクリーニング終了・HOTエリア解除
14:42	住民救護所対応事案(熱中症)(14-2-1)
14:45	医療班ミーティング
15:10	住民(14-2-1)救護所内に収容中にも関わらず本部が撤収 DMATのみ取り残される(本部から事前の報告なし)(近藤先生OFCに事例報告)
15:30	住民(14-2-1)帰宅
15:40	広野町中央体育館出発
16:40	ホテル着
17:00	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡

※1次立ち入りマネジメントチーム(災害医療センターDMAT　近藤医師・小早川医師・小野放射線技師)と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号 (日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月17日	9:15	住民	17+15-11-2	F	40	頭痛	機能性頭痛	ロキソニン1T処方	帰宅・ 立ち入り可
7月17日	14:42	住民	17+14-2-1	F	37	悪心	熱中症Ⅰ度	Cooling　0S-1経口摂取	帰宅・ 立ち入り可
7月17日	13:55	住民	17+15-7-2	F	42	悪心	熱中症Ⅰ度	Cooling　0S-2経口摂取 NSMDS→ロキソニン処方	帰宅・ 立ち入り可
7月17日	14:10	住民	17+15-2-1	M	17	右眼に保冷剤が入った	右眼異物後		帰宅・ 立ち入り可

一時帰宅住民情報

7月17日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　5～11 単位μSV

大熊町住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
11	22	20	−2
12	21	20	−1
13	21	21	0
14	22	23	1
15	22	22	0
16	21	22	1
合計①	129	128	−1

予定　最終

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	36

大熊町

計	住民計	128
	関係者計	36
	計	164

※住民120名中、タイベックスズボン着用者81名

DMAT活動記録

活動日	7月18日(月)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	藤沢市民病院

DMATメンバー	
医師	赤坂　理
看護師	光井　裕之
調整員	西ノ宮　茂
調整員	澤畑　良一

行き先市町村	台数

時刻	内容
8:30	JV、DMAT事務局に定時報告
9:00	OFCへ定時報告
9:05	ホテル発(赤坂、澤畑　JVへ・光井、西ノ宮　いわき共立病院へ)
9:20	佐藤、西ノ宮　いわき共立病院到着
9:50	赤坂、澤畑　JV到着
10:00	JV 医療ミーティング開始(赤坂、澤畑 出席)
10:15	JV 医療ミーティング終了
10:20	阿南、澤畑　JV出発
11:10	阿南、澤畑　いわき共立病院到着
11:10	愛知医大DMAT　いわき共立病院到着
11:20	業務引継ぎ開始
12:30	業務引継ぎ完了　撤収準備開始
12:40	いわき共立病院院出発
13:00	いわき湯本温泉にてデブリィーフィング・食事
14:10	いわき湯本温泉出発
18:05	藤沢市民病院到着
18:50	全てのミッション終了・解散

第１５次隊　愛知医科大学病院

DMAT活動記録

活動日	7月18日(月)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	愛知医科大学病院

DMATメンバー	
医師	中川　隆
看護師	夏目恵美子
調整員	小澤和弘
調整員	小谷　修

時刻	内容
11:30～12:30	藤沢市民病院DMATと引継ぎ
12:30	待機開始
15:00～16:12	ウェブ会議
16:22	Jヴィレッジ業務連絡(中川)
16:25	MCA DMAT事務局業務終了報告(小澤)
17:00	Jヴィレッジ業務終了連絡(中川)
17:00	OFC業務業務連絡(中川)
17:03	DMAT事務局業務終了報告(中川)　不通

DMAT活動記録

活動日	7月19日(火)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	愛知医科大学病院

DMATメンバー	
医師	中川　隆
看護師	夏目恵美子
調整員	小澤和弘
調整員	小谷　修

時刻	内容
8:30	いわき共立病院待機開始
8:30	MCA DMAT事務局業務報告(小澤)
8:40	病院長・看護部長あいさつ
8:45	Jヴィレッジ移動開始
10:00～10:12	Jヴィレッジミーティング
10:50	Jヴィレッジ撤収
11:15	広野体育館下見　気温26.2℃　湿度90.4% 輻射熱28.2℃　体感26.0℃
13:10	いわき共立病院待機再開
13:25	MCA DMAT事務局業務報告(小澤)
15:00～15:55	ウェブ会議
17:01	MCA DMAT事務局業務終了報告(小澤)
17:04	Jヴィレッジ業務終了連絡(小澤)
17:10	いわき共立病院撤収

DMAT活動記録

活動日	7月20日(水)
活動内容	車両持出支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	愛知医科大学病院

DMATメンバー	
医師	中川　隆
看護師	夏目恵美子
調整員	小澤和弘
調整員	小谷修

行き先市町村	台数
双葉町(後半)	3
大熊町(後半)	4
楢葉町(前半)	3
富岡町(前半)	5

時刻	内容
7:30	ホテル出発
8:25	広野町中央体育館到着
8:30	DMAT事務局、JVに携帯にて定時連絡
9:00	OFCに携帯にて定時連絡
9:14	前半住民　楢葉(45名)、富岡(89名)　受付開始
9:40	前半住民説明開始
9:58	前半説明終了
9:50	問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
10:00	36歳男性、双葉2号車出発前に体育館外で転倒受傷、救護所で洗浄、ガーゼ被服後出発
10:00	前半防護服説明開始
10:15	前半防護服装着完了
10:18	前半乗車開始
10:21	前半先発便(楢葉1号車)出発開始
10:35	後半住民　双葉(57名)、大熊(74名)受付開始
10:36	前半最終便(富岡2号)出発開始
11:05	後半住民説明開始
11:15	後半住民説明終了
11:15	問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
11:15	後半住民防護服説明開始
11:40	後半住民防護服装着完了
11:48	後半先発便(大熊1号車)出発開始
12:03	後半最終便(大熊4号車)出発開始
12:10	昼食・救護室へ移動
12:42	前半　楢葉2号車到着
14:20	前半最終　富岡2号車到着
14:44	後半　大熊1号車到着
17:25	後半最終　双葉2号到着
空間線量	双葉町　1～23.720μSv/hr、　大熊町　5.16～32.51μSv/hr、 楢葉町　0.30～1.46μSv/hr　富岡町　0.88～8.14μSv/hr
未回収車数	双葉町1、大熊町4、楢葉町1、富岡町6
17:30	撤収
17:40	広野町中央体育館出発
17:45	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
18:30	ホテル着

傷病者情報

日付	時間	通し番号 (日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月20日	10:00	2001	男	36	出発前体育館外で転倒受傷	右手掌部挫傷	洗浄(1mm大の石除去)、ガーゼ被服	立ち入り参加

一時帰宅住民情報

7月20日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村							
双葉町	1	号車	5～24	3	号車		
大熊町	1	号車	9～34	4	号車		
楢葉町	1	号車	0～2	3	号車		
富岡町	1	号車	0～9	5	号車		
			被ばく線量			単位μSV	

住民

バス番号	住民数（各問診	住民数（本部）	差分
双葉1号	19	19	0
双葉2号	19	19	0
双葉3号	19	19	0
大熊1号	12	12	0
大熊2号	17	16	−1
大熊3号	18	18	0
大熊4号	16	16	0
楢葉1号	16	16	0
楢葉2号	13	13	0
楢葉3号	16	16	0
富岡1号	17	17	0
富岡2号	18	19	1
富岡3号	20	20	0
富岡4号	18	18	0
富岡5号	17	17	0
合計①	255	255	0

	予定	最終
双葉町住民	57	57
大熊町住民	63	62
楢葉町住民	45	45
富岡町住民	90	91

関係者

職種	人数
安全管理	30
放射線管理	15
引率者	26
ドライバー	17
消防	6
警察	
ペット回収	
車列	14
計②	108

DMAT活動記録

活動日	7月21日(木)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	愛知医科大学病院

DMATメンバー	
医師	中川　隆
看護師	夏目恵美子
調整員	小澤和弘
調整員	小谷　修

行き先市町村	台数
	1

時刻	内容
8:30	いわき共立病院待機開始
8:30	MCA発信不良のため DMAT事務局業務携帯電話報告（小澤）
8:35	MCA発信不良のため Jビレッジ業務携帯電話報告（小澤）
8:45	Jヴィレッジ移動開始(中川、夏目、小澤、小谷）
9:00	OFCよりMCA無線業務連絡受信
10:00	Jヴィレッジミーティング
10:50	Jヴィレッジ撤収
11:30	いわき共立病院待機再開
13:25	MCA 無線試験送信　ゾーン設定変更により発信可能（小澤）
15:00～15:55	ウェブ会議
17:01	MCA DMAT事務局業務終了報告（小澤）
17:04	Jヴィレッジ業務終了連絡（小澤）
17:10	いわき共立病院撤収

第１６次隊　大阪府済生会千里病院

DMAT活動記録

活動日	7月24日(日)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	寺澤　ゆかり

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
7:45	ホテル出発
8:30	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:30	広野町中央体育館到着
9:00	住民（109名）受付開始
10:00	住民説明開始
10:15	住民説明終了
10:15	問診票回収終了（関係者38名、住民109名　計　147名）、
10:17	防護服説明開始
10:18	メディカルチェック完了
10:17	防護服装着完了
10:40	乗車開始
10:41	1車両目（大熊11号車）出発開始
10:56	最終車両（大熊18号車）出発開始
12:30	環境測定（屋外一気温26.6℃、湿度62.6%、屋内気温25.7℃、湿度63.5%）
13:45	HOTエリア設置宣言
13:48	1車両目（大熊1号）帰着
14:35	最終車両（大熊16号）帰着
14:36	サーベイ終了
14:40	安全宣言
14:50	反省会
15:30	広野町体育館出発
15:40	JVメディカルセンター挨拶
17:00	磐城共立病院待機場所到着　待機終了報告
17:30	ホテル着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター大野調整員・大棒放射線技師）と合同で活動

一時帰宅住民情報

7月24日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　大熊町　　0～1 μ SV

大熊町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
11	18	18	0
12	19	18	−1
13	19	19	0
14	18	18	0
15	19	18	−1
16	21	18	−3
			0
			0
			0
			0
			0
合計①	114	109	−5

関係者(大熊町)

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	2
ペット回収	2
その他	
計②	38

大熊町

計	住民計	109
	関係者計	121
	計	230

DMAT活動記録

活動日	7月25日(月)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	寺澤　ゆかり

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:40	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:40	広野町中央体育館到着
8:50	住民（109名）受付開始
9:00	環境測定（屋外一気温25.9℃、湿度78.2%）
10:00	JV会議参加（大津谷Dr）
10:15	JV会議参加終了
10:20	住民説明開始
10:30	住民説明終了
10:33	問診票回収終了（関係者38名、住民109名　計　147名）、
10:38	防護服説明開始
10:41	メディカルチェック完了
10:45	消防申し送り終了
10:55	防護服装着完了
11:00	乗車開始
11:06	1車両目（11号車）出発開始
11:11	最終車両（16号車）出発開始
12:00	除染エリア説明開始
12:10	除染エリア説明終了
12:20	昼休憩
12:30	環境測定（屋外一気温31.3℃、湿度64.0%、屋内気温30.3℃、湿度69.1%）
14:10	HOTエリア設置宣言
14:11	1車両目（14号車）帰着
14:46	最終車両（大熊16号）帰着
14:54	サーベイ終了
15:00	安全宣言
15:30	広野町体育館出発
17:05	待機終了報告
17:10	ホテル着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター大野調整員・小澤調整員・大棒放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号（日付+通し番）	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月25日	10:00	スタッフ	725-3-1	男	36	喘息既往あり 毎日吸入している	本日吸入剤持っていない	予防的にメプチンエアー1本渡す	帰宅
7月25日	14:33	住民	725-3-2	男	42	左前腕熱傷創からの出血	感染所見なし 大部分上皮形成	水道水で洗浄 デルマポアでの創処置	帰宅
7月25日	14:53	住民	725-3-3	女	64	頭が重い感じがする	脱水症　緊張性頭痛	ロキソニン1T ムコスタ1T　2回分 OS－1　1本	帰宅
7月25日	15:01	住民	725-3-4	女	30歳ぐらい	両下肢のむくみ 腰から下がだるい 普段からむくみあり 利尿剤がほしい 水分とってない	静脈瘤（－）	OS-1　1本 弾性包帯で圧迫 帰宅後下肢を上げるよう説明	帰宅

一時帰宅住民情報

7月25日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　大熊町　　0～1 μ SV

大熊町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
11	21	22	1
12	22	22	0
13	21	19	−2
14	22	18	−4
15	19	18	−1
16	21	21	0
			0
			0
			0
			0
			0
合計①	126	120	−6

関係者(大熊町)

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	2
ペット回収	2
その他	
計②	38

大熊町

計	住民計	120
	関係者計	38
	計	158

DMAT活動記録

活動日	7月26日(火)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	寺澤　ゆかり

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:40	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:40	広野町中央体育館到着
9:00	環境測定（屋外一気温26.8℃、湿度71.1%）
9:00	住民（110名）受付開始
10:00	JV会議参加（金原Dr）
10:20	JV会議参加終了
10:00	住民説明開始
10:14	住民説明終了
10:25	問診票回収終了（関係者38名、住民109名　計　147名）、
10:20	防護服説明開始
10:30	メディカルチェック完了
10:40	消防申し送り終了
10:40	防護服装着完了
10:40	乗車開始
10:49	1車両目（11号車）出発開始
10:52	最終車両（16号車）出発開始
11:00	環境測定（屋外一気温29.0℃、湿度62.4%、屋内気温28.4℃、湿度63.5%）
12:00	除染エリア説明開始
12:15	除染エリア説明終了
13:00	環境測定（屋外一気温27.0℃、湿度64.5%、屋内気温28.4℃、湿度65.8%）
13:30	昼休憩
13:40	HOTエリア設置宣言
13:51	1車両目（12号車）帰着
14:20	最終車両（14号）帰着
14:25	サーベイ終了
14:30	安全宣言
14:50	広野町体育館出発
17:10	待機終了報告
17:10	ホテル着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター大野調整員・小澤調整員・大棒放射線技師）と合同で活動

一時帰宅住民情報

7月26日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11 号車　～　16 号車

被ばく線量　大熊町　　0～1 μ SV

大熊町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
11	19	18	−1
12	19	19	0
13	18	18	0
14	18	18	0
15	17	15	−2
16	19	17	−2
			0
			0
			0
			0
			0
合計①	110	105	−5

関係者(大熊町)

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	2
ペット回収	2
その他	
計②	38

大熊町

計	住民計	105
	関係者計	38
	計	143

DMAT活動記録

活動日	7月27日(水)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	土井　明

時刻	内容
8:30	いわき共立病院待機開始
8:31	DMAT事務局へ定時連絡
8:32	JV統括医師へ定時連絡
9:00	JVへ移動開始
9:45	JV到着
9:50	OFCへ定時報告
9:57	JV定例会議参加（隊員４名）
10:14	JV定例会議終了
10:20	いわき共立病院へ移動開始
11:00	いわき共立病院へ到着
11:20	病院長へご挨拶
13:00	昼食
14:10	web会議への参加要請mail
15:10	web会議参加（大津谷Dr）
15:40	web会議終了
16:08	近藤先生へ連絡（web会議にて今後の医療体制に関しての議論：本部の方針表明の時期？）
17:10	DMAT事務局・JV・OFCへ定時連絡
17:15	いわき共立病院撤収（駐車場にてMCA無線テスト）
18:00	ホテル着

DMAT活動記録

活動日	7月28日(木)
活動内容	車両持出支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	土井　明

行き先市町村	台数
富岡町(前半)	5
楢葉町(前半)	3
大熊町(後半)	4
双葉町(後半)	3

時刻	内容
7:30	ホテル出発
8:15	広野町中央体育館到着
9:00	DMAT事務局、JV、OFCに定時連絡
9:14	前半住民　富岡町・楢葉町　受付開始
9:20	前半住民　説明開始
	問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
9:50	60歳男性　体調不良(妻曰く、低血糖発作の軽い症状)を訴える
	血糖測定(204)　→　様子見
10:30	前半住民　移動開始
10:45	後半住民　大熊町・双葉町　受付開始
11:00	後半住民　説明開始
	問診票回収終了、必要に応じメディカルチェック
11:30	60歳男性の妻から、ご主人の調子改善せず、車で休んでいると医療ブースに来られる
	駐車場までご主人を迎えにいく(BP170/80、PR80、T36.3)
11:45	救護室へ搬送し、診察開始($SpO_2$100、PR60、ECG:PVCあり)
11:50	後半住民　移動開始
12:18	虚血性心疾患の除外目的で医療班を通じて救急要請
12:30	救急車到着(末梢ルート挿入22G　左)
12:40	患者搬送
12:45	救急車出発(金原先生同伴)
13:00	昼食
13:30	いわき共立病院へ搬送(金原先生より)
13:45	1車両目帰着(1号車)
14:00	頭痛患者の診察
14:20	救護所へ帰還(金原先生)
16:22	医師派遣要請 「道の駅ならは(20km圏内)」で、蜂に刺されて気分不良の患者発生
16:30	パトカー先導　マイクロバスにて出発(金原先生・岡野看護師の2名派遣)
16:45	患者のもとに到着後、問診開始
16:51	患者はバスにて帰着対応の指示、車搬送は医療管轄外のため本部対応へ
17:06	患者(蜂刺され)とともにDMAT派遣2名帰着
17:09	救護所にて改めて診察開始
17:13	最終車両帰着(号車)
空間線量	富岡町　1.46～14.06μ Sv/hr　楢葉町　0.27～1.3μ Sv/hr 大熊町　5.68～43.96μ Sv/hr　双葉町　0.98～20.33μ Sv/hr
17:52	撤収開始
18:00	DMAT事務局、JVに定時連絡
18:30	広野町中央体育館撤収
19:10	ホテル着

傷病者情報

日付	時間	通し番号（日付+通し番）	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月28日	11:45	2801	男	60	腹部ムカムカ感（低血糖発作の軽い感じ）	虚血性心疾患疑い	虚血性心疾患除外目的で救急要請	いわき共立病院へ搬送
7月28日	14:00	2802	男	26	左肩痛、頭重感	緊張型頭痛	ﾛｷｿﾆﾝﾊﾟｯｸ　1袋処方	帰宅
7月28日	16:45	2803	男	50	蜂刺され右下顎1ヶ所腫れあり	蜂刺され	ｶﾞｽﾀｰ20mg、ｸﾗﾘﾁﾝ10mg経口投与、ﾘﾝﾃﾞﾛﾝVG軟膏処方	帰宅

一時帰宅住民情報

7月28日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村					
富岡町	1	号車	5	号車
楢葉町	6	号車	8	号車
大熊町	9	号車	12	号車
双葉町	13	号車	15	号車

被ばく線量　0～25　　単位μ SV

住民

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
富岡町1号	20	18	−2
富岡町2号	20	19	−1
富岡町3号	19	18	−1
富岡町4号	20	18	−2
富岡町5号	20	19	−1
楢葉町1号	16	15	−1
楢葉町2号	16	15	−1
楢葉町3号	18	18	0
大熊町1号	19	18	−1
大熊町2号	19	18	−1
大熊町3号	18	17	−1
大熊町4号	15	15	0
双葉町1号	20	20	0
双葉町2号	23	18	−5
双葉町3号	20	18	−2
合計①	283	264	−19

	予定	最終
双葉町住民	99	92
大熊町住民	50	48
楢葉町住民	71	68
富岡町住民	63	56

関係者

職種	人数
安全管理	30
放射線管理	15
引率者	30
ドライバー	39
消防	6
警察	
ペット回収	
車列	15
計②	135

DMAT活動記録

活動日	7月29日(金)
活動内容	いわき共立病院待機
活動場所	いわき共立病院
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	土井　明

時刻	内容
8:30	いわき共立病院待機開始
8:31	DMAT事務局・JVへ定時連絡
9:00	OFCへ定時連絡、JVへ移動開始
9:40	JV到着
10:02	JV定例会議参加（隊員４名）
10:25	JV定例会議終了
10:30	いわき共立病院へ移動開始
11:20	いわき共立病院へ到着
12:45	昼食
14:44	web会議への参加要請mail
15:00	web会議参加（大津谷Dr）
15:20	web会議終了
15:35	小山先生へご挨拶
17:00	DMAT事務局・JV・OFCへ定時連絡
17:05	いわき共立病院撤収
17:35	ホテル着

DMAT活動記録

活動日	7月30日(土)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	済生会千里病院

DMATメンバー	
医師	大津谷　耕一
医師	金原　太
看護師	岡野　由美
調整員	土井　明

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	11

時刻	内容
7:37	ホテル出発
8:20	広野町中央体育館到着
8:25	災害医療センター着
8:40	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:55	草津DMAT着
9:35	楢葉町住民（193名）受付終了
9:55	住民説明開始
10:00	問診票回収終了（関係者73名、住民193名　計　266名）
10:08	7号車1名　ｷｬﾝｾﾙ連絡あり
10:13	住民説明終了
10:33	全車出発
11:25	説明開始
11:45	説明終了
12:00	全車出発
12:03	撤収
12:20	広野町中央体育館出発
14:00	福島空港着
14:50	昼食
15:50	福島空港発
17:05	大阪空港着
17:45	済生会千里病院着

一時帰宅住民情報

7月30日　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　楢葉町　1 号車 ～ 11 号車
富岡町　13 号車 ～ 23 号車

被ばく線量　　μ SV

楢葉町・富岡町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
楢葉町1号	17	18	1
楢葉町2号	14	12	−2
楢葉町3号	17	16	−1
楢葉町4号	18	17	−1
楢葉町5号	23	21	−2
楢葉町6号	18	18	0
楢葉町7号	22	21	−1
楢葉町8号	11	12	1
楢葉町9号	21	21	0
楢葉町10号	16	17	1
楢葉町11号	21	19	−2
富岡町13号		18	18
富岡町14号		16	16
富岡町15号		18	18
富岡町16号		16	16
富岡町17号		18	18
富岡町18号		19	19
富岡町19号		20	20
富岡町20号		19	19
富岡町21号		16	16
富岡町22号		16	16
富岡町23号		19	19
合計①	198	387	189
	0	195	

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
計②	63

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	58

楢葉町・富岡町

計	住民計	387
	関係者計	63
	計	450

第１７次隊　草津総合病院

DMAT活動記録

活動日	7月30日(土)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	11

時刻	内容
7:37	ホテル出発
8:20	広野町中央体育館到着
8:25	災害医療センター着
8:40	DMAT事務局、JV、OFCに携帯にて定時連絡
8:55	草津DMAT着
9:35	楢葉町住民（193名）受付終了
9:55	住民説明開始
10:00	問診票回収終了（関係者73名、住民193名　計　266名）
10:08	7号車1名　ｷｬﾝｾﾙ連絡あり
10:13	住民説明終了
10:33	全車出発
11:25	説明開始
11:45	説明終了
12:00	全車出発
12:03	済生会千里病院撤収
12:32	楢葉2号車到着（1238降車完了）
12:32	HOTエリア設置宣言
12:37	楢葉7号車到着（1242降車開始1252降車完了）
12:38	楢葉8号車到着（1242降車完了）
12:45	楢葉3号車到着（1259降車開始1304降車完了）
12:52	楢葉5号車到着（1305降車開始1311降車完了）
12:58	HOTゾーン受付2レーンから3レーンへ
13:00	楢葉10号車到着（1311降車開始1316降車完了）
13:04	楢葉11号車到着（1316降車開始1322降車完了）
13:11	楢葉6号車到着（1323降車開始1329降車完了）
13:17	楢葉4号車到着（1327降車開始1333降車完了）
13:22	楢葉9号車到着（1333降車開始1338降車完了）
13:22	楢葉全車両到着
13:38	楢葉全車両降車完了
13:42	HOTエリア解除宣言
14:37	ペット2名対応
14:53	HOTエリア設置宣言
14:53	富岡13号車到着（1353降車開始1500降車完了）
15:06	富岡23号車到着（1506降車開始1512降車完了）
15:07	富岡町バス全車出発
15:19	富岡18号車到着（1519降車開始1525降車完了）
15:19	富岡22号車到着（1525降車開始1531降車完了）
15:19	富岡15号車到着（1531降車開始1537降車完了）

15:19	富岡21号車到着（1537降車開始1543降車完了）
15:32	富岡19号車到着（1544降車開始1548降車完了）
15:34	立ち眩みで救護所対応（22－9－1）1550救護所行かず帰宅
15:37	富岡17号車到着（1548降車開始1554降車完了）
15:44	全車検問所通過
15:44	富岡20号車到着（1554降車開始1559降車完了）
15:49	富岡16号車到着（1559降車開始1605降車完了）
15:55	富岡14号車到着（1605降車開始1611降車完了）
15:55	富岡町バス全車到着
16:11	全車降車完了
16:15	HOTエリア解除宣言
16:30	Jビレッジ定時報告（MCA無線にて）
16:53	広野体育館出発
16:53	DMAT事務局、OFCに携帯にて定時連絡
17:35	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号（日付+通し番）	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月30日	9:04	スタッフ	3001	M	55	左足首腫脹	左足首捻挫	セルタッチ1袋処方	帰宅
7月30日	11:27	住民	3002	M	69	低血糖既往あり	糖尿病	50%ブドウ糖液20ml×2本	立入可
7月30日	15:45	住民	3003	F	68	立ち眩み	眩暈	安静指示	帰宅

一時帰宅住民情報

7月30日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　楢葉町　1 号車 ～ 11 号車
富岡町　13 号車 ～ 23 号車

被ばく線量　楢葉町　0～13 μ SV
富岡町　0～14

楢葉町・富岡町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
楢葉町1号	17	18	1
楢葉町2号	14	12	−2
楢葉町3号	17	16	−1
楢葉町4号	18	17	−1
楢葉町5号	23	21	−2
楢葉町6号	18	18	0
楢葉町7号	22	21	−1
楢葉町8号	11	12	1
楢葉町9号	21	21	0
楢葉町10号	16	17	1
楢葉町11号	21	19	−2
富岡町13号		18	18
富岡町14号		16	16
富岡町15号		18	18
富岡町16号		16	16
富岡町17号		18	18
富岡町18号		19	19
富岡町19号		20	20
富岡町20号		19	19
富岡町21号		16	16
富岡町22号		16	16
富岡町23号		19	19
合計①	198	387	189
	0	195	

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
計②	63

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	58

楢葉町・富岡町

計	住民計	387
	関係者計	63
	計	450

DMAT活動記録

活動日	7月31日(日)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:くもり　気温:22．4度　湿度:72%(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	11

時刻	内容
7:31	ホテル出発
8:15	広野町中央体育館到着
8:15	災害医療センター　草津総合病院DMAT着
8:27	DMAT事務局、JV、に携帯にて定時連絡
8:45	楢葉住民受付開始
8:57	OFCに定時連絡(携帯より)
9:03	医療班住民説明
9:41	住民受付完了
9:41	住民説明開始
9:45	医療班住民説明
9:50	住民説明終了
9:52	住民(2-5-1)頭痛訴え救護所対応⇒問診結果立入許可(10:14)
10:00	住民一次立ち入り説明開始
10:03	問診票回収チェック完了
10:22	住民説明終了
10:25	住民バス乗車開始
10:40	楢葉町バス全車出発完了
10:47	富岡町住民受付開始
11:06	富岡町住民説明開始
11:13	医療班住民説明
11:49	富岡町住民説明終了
11:49	富岡町住民バス乗車開始
12:06	富岡町バス全車出発
12:55	HOTゾーン設置宣言
12:55	災害医療センター(大野、小西、金森)草津総合(奥野Ns)HOTゾーン活動開始
12:58	楢葉7号車到着(1258降車開始1304降車完了)
13:00	楢葉2号車到着(1304降車開始1310降車完了)
13:02	楢葉1号車到着(1310降車開始1315降車完了)
13:04	楢葉4号車到着(1316降車開始1321降車完了)
13:05	楢葉10号車到着(1321降車開始1325降車完了)
13:05	楢葉3号車到着(1325降車開始1329降車完了)
13:07	楢葉住民2－5－1救護所へ
13:11	楢葉ペット班到着
13:13	楢葉8号車到着(1332降車開始1336降車完了)
13:15	楢葉6号車到着(1336降車開始1340降車完了)
13:16	楢葉バス全車現地出発
13:23	楢葉9号車到着(1340降車開始1346降車完了)
13:29	楢葉住民(9-12-1)指刺創→救護所対応1340帰宅
13:29	楢葉5号車到着(1346降車開始1350降車完了)

13:32	楢葉11号車到着（1350降車開始1355降車完了）
13:32	楢葉バス全車到着
13:55	楢葉バス全車降車完了
14:00	HOTゾーン設置解除
14:53	HOTゾーン設置宣言
14:53	災害医療センター（大野、小西、金森）草津総合（奥野Ns）HOTゾーン活動開始
14:58	富岡17号車到着（1458降車開始1502降車完了）
14:58	富岡19号車到着（1502降車開始1507降車完了）
15:04	富岡16号車到着（1507降車開始1514降車完了）
15:04	富岡13号車到着（1514降車開始1519降車完了）
15:07	富岡14号車到着（1519降車開始1526降車完了）
15:11	富岡23号車到着（1526降車開始1531降車完了）
15:12	富岡18号車到着（1531降車開始1536降車完了）
15:22	富岡22号車到着（1536降車開始1541降車完了）
15:22	富岡15号車到着（1541降車開始1547降車完了）
15:22	富岡20号車到着（1547降車開始1552降車完了）
15:48	富岡21号車到着（1552降車開始1558降車完了）
15:48	富岡町バス全車到着
15:58	富岡町バス全車降車完了
16:01	HOTゾーン解除宣言
16:29	広野町中央体育館撤収
16:39	Jビレッジ挨拶（災害医、草津総合）
17:00	Jビレッジ出発
17:33	DMAT事務局（市原）に携帯にて定時連絡
18:20	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号（日付+通し番）	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
7月31日	9:52	住民	3101	F	50	頭痛を訴える	頭痛	問診 引率者が付き添うことで立入	立入許可
	10:28	住民	3102	F	81	気分不快　嘔気	急性胃炎	救護所にて休憩	帰宅
	13:30	住民	3103	M	62	痛み　出血	右第3指 ガラス刺傷	消毒、絆創膏貼布	帰宅

一時帰宅住民情報

7月31日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村						
楢葉町	1	号車	～	11	号車
富岡町	13	号車	～	23	号車

被ばく線量	楢葉町	1～2 μ SV
	富岡町	2～14 μ SV
空間線量	楢葉町	.44～1.48 μ SV
		2.26～9.79 μ SV

楢葉町・富岡町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
楢葉町1号	18	17	−1
楢葉町2号	15	14	−1
楢葉町3号	19	18	−1
楢葉町4号	17	15	−2
楢葉町5号	23	21	−2
楢葉町6号	19	20	1
楢葉町7号	21	21	0
楢葉町8号	19	19	0
楢葉町9号	21	21	0
楢葉町10号	22	19	−3
楢葉町11号	21	22	1
富岡町13号	20	18	−2
富岡町14号	19	19	0
富岡町15号	17	19	2
富岡町16号	20	20	0
富岡町17号	18	15	−3
富岡町18号	20	20	0
富岡町19号	19	17	−2
富岡町20号	19	18	−1
富岡町21号	18	18	0
富岡町22号	19	19	0
富岡町23号	17	17	0
合計①	421	407	−14
	206	200	

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
計②	63

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	58

楢葉町・富岡町

計	住民計	407
	関係者計	63
	計	470

DMAT活動記録

活動日	8月1日(月)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:　曇り　気温:　20.8度　湿度:77%(13:00　現在)

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久
調整員	山本　哲也

行き先市町村	台数
楢葉町	11
富岡町	12

時刻	内容
	ホテル出発
8:17	広野町中央体育館到着
8:17	災害医療センター　草津総合病院DMAT着
8:30	DMAT事務局、JV、にMCA無線にて定時連絡
8:43	OFCに定時連絡(MCA無線より)
8:53	楢葉住民受付開始
9:05	医療班による楢葉住民説明開始
9:50	医療班による楢葉住民説明終了
9:59	楢葉住民問診票回収チェック完了
10:03	東電による楢葉住民一次立ち入り説明開始
10:22	東電による楢葉住民一次立ち入り説明終了
10:30	楢葉住民バス乗車開始
10:43	楢葉住民バス全車出発完了
10:52	富岡町住民受付開始
11:09	医療班による富岡住民説明開始
11:30	東電による富岡住民説明開始
11:32	富岡住民問診票回収チェック完了
11:49	東電による富岡住民説明終了
11:51	富岡住民バス乗車開始
12:10	富岡町住民バス全車出発完了
13:04	HOTゾーン設置宣言
	災害医療センター(金森、小早川、中田)草津総合(奥野Ns　鈴木ﾛｼﾞ)HOTゾーン活動開始
13:09	楢葉10号車到着(1309降車開始1312降車完了)
13:09	楢葉7号車到着(1309降車開始1317降車完了)
13:13	楢葉9号車到着(1313降車開始1321降車完了)
13:14	楢葉2号車到着(1314降車開始1328降車完了)
13:20	楢葉8号車到着(1320降車開始1331降車完了)
13:24	楢葉3号車到着(1324降車開始1335降車完了)
13:24	楢葉6号車到着(1324降車開始1343降車完了)
13:29	楢葉5号車到着(1329降車開始1348降車完了)
13:36	楢葉4号車到着(1336降車開始1353降車完了)
13:36	楢葉1号車到着(1336降車開始1359降車完了)
13:44	楢葉11号車到着(1400降車開始1405降車完了)
13:44	楢葉バス全車到着
14:05	楢葉バス全車降車完了
14:15	HOTゾーン解除宣言
14:59	HOTゾーン設置宣言
15:04	富岡21号車到着(1504降車開始1508降車完了)
15:06	富岡14号車到着(1506降車開始1514降車完了)
15:11	富岡15号車到着(1511降車開始1518降車完了)
15:11	富岡13号車到着(1511降車開始1523降車完了)

15:13	富岡１２号車到着（1513降車開始1529降車完了）
15:13	富岡１６号車到着（1529降車開始1534降車完了）
15:13	富岡２０号車到着（1534降車開始1539降車完了）
15:16	富岡１７号車到着（1539降車開始1544降車完了）
15:16	富岡２３号車到着（1544降車開始1547降車完了）
15:18	富岡１８号車到着（1547降車開始1552降車完了）
15:25	富岡２２号車到着（1552降車開始1556降車完了）
15:25	富岡１９号車到着（1557降車開始降車完了）
15:25	富岡バス全車到着
15:56	富岡住民救護所対応(腰痛1名、足首捻挫1名）
16:02	全車降車完了
16:09	HOT解除宣言
16:40	広野町中央体育館撤収
17:00	OFC、JV、DMAT事務局へ定時連絡
17:25	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間	通し番号 (日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月1日	9:50	0801	男	79	腰の痛み訴え	腰痛症	ﾛｷｿﾆﾝﾊﾟｯﾌﾟ１００mg　1枚	帰宅
8月1日	16:00	0802	男	38	左足背外側の痛み	左足捻挫	シップ1枚	帰宅

一時帰宅住民情報

8月1日

実施場所	広野町中央体育館

行き先市町村					
楢葉町	1	号車	～	11	号車
富岡町	13	号車	～	23	号車

被ばく線量		
楢葉町	0～3	μ SV
富岡町	1～8	μ SV
空間線量		
楢葉町	0.26～1.97	μ SV
富岡町	1.40～8.68	μ SV

楢葉町・富岡町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
楢葉町1号	20	20	0
楢葉町2号	16	15	−1
楢葉町3号	18	18	0
楢葉町4号	22	22	0
楢葉町5号	18	16	−2
楢葉町6号	23	23	0
楢葉町7号	16	16	0
楢葉町8号	13	13	0
楢葉町9号	16	14	−2
楢葉町10号	12	11	−1
楢葉町11号	17	14	−3
富岡町12号	21	19	−2
富岡町13号	18	17	−1
富岡町14号	19	18	−1
富岡町15号	17	17	0
富岡町16号	20	20	0
富岡町17号	19	18	−1
富岡町18号	17	16	−1
富岡町19号	20	21	1
富岡町20号	20	20	0
富岡町21号	18	15	−3
富岡町22号	21	21	0
富岡町23号	20	17	−3
合計①	421	401	−20

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	56

職種	人数
安全管理	12
放射線管理	24
引率者	12
ドライバー	13
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
計②	63

楢葉町・富岡町

計	住民計	401
	関係者計	119
	計	520

DMAT活動記録

活動日	8月2日(火)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:くもり　気温:21.9度　湿度:　　77%(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久
調整員	山本　哲也

行き先市町村	台数
大熊町	6

時刻	内容
8:03	ホテル出発
8:28	DMAT事務局、JV、にMCA無線にて定時連絡
8:52	草津総合病院DMAT 広野町中央体育館到着
9:07	住民受付開始
9:11	OFCに定時連絡(携帯より)
9:40	川瀬Dr,鈴木ﾛｼﾞ　JVにて会議のため、広野町中央体育館出発
9:52	JV到着
10:00	JV定例会議開始
10:04	東電による説明開始
10:09	JV定例会議終了
10:09	医療班による説明開始
10:11	JV出発
10:18	川瀬Dr,鈴木ﾛｼﾞ　広野町中央体育館到着
10:15	草津総合DMATの放射線測定器交換の為、累計値リセット
10:22	東電による立入に関しての説明開始
10:27	放射線測定器交換の為、鈴木ﾛｼﾞ、山本ﾛｼﾞ、中田ﾛｼﾞJVへ出発
10:38	JV到着
10:40	放射線測定器交換対応
10:42	JV出発
10:52	鈴木ﾛｼﾞ、山本ﾛｼﾞ、中田ﾛｼﾞ　広野中央体育館到着
10:54	大熊町住民バス全車出発完了
11:25	遅刻者2名到着
11:50	公用車にて遅刻者2名出発
12:25	一時帰宅者　スクリーニング　デモ説明
13:45	HOTゾーン設置宣言
13:45	大熊町バス15号車到着
13:45	公用車到着
13:49	大熊町バス14号車到着
14:02	大熊町バス11号車到着
14:09	大熊町バス13号車到着
14:11	大熊町バス12号車到着
14:21	大熊町バス16号車到着
14:21	全車バス到着
14:23	16－8－2頭痛訴え
14:29	16－8－2、16－8－1　クイック退室
14:32	16－8－2救護所対応
14:41	全車バス降車完了

14:46	ホット宣言解除
15:00	川瀬Dr,Web会議参加
15:45	Web会議終了
15:49	広野町中央体育館撤収、いわき市立総合磐城共立病院へ出発
16:33	いわき市立総合磐城共立病院到着
16:43	救命救急センター長　小山敦Drへ挨拶
17:00	OFC1、DMAT事務局、JVへ定時連絡
17:20	いわき市立総合磐城共立病院出発
17:31	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

一時帰宅住民情報

8月2日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　11 号車 ～ 16 号車
号車 ～ 号車

被ばく線量　大熊町　6～18 μ SV
μ SV

空間線量　大熊町　5.30～13.06 μ SV
μ SV

楢葉町・富岡町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
大熊町11号	20	19	−1
大熊町12号	21	21	
大熊町13号	21	21	
大熊町14号	21	21	
大熊町15号	20	19	−1
大熊町16号	21	19	−2
公用車（16号）		2	2
	124	122	−2

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	6
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ	1
公用車放射線管理	1
計②	37

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	

楢葉町・富岡町

計	住民計	122
	関係者計	37
	計	159

DMAT活動記録

活動日	8月3日(水)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:くもり　気温:25度　湿度:　83%(13:00現在)
	行き先市町村

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久
調整員	山本　哲也
台数	

時刻	内容
8:02	ホテル出発
8:29	DMAT事務局、J-ヴィレッジ、にMCA無線にて定時連絡
8:40	医療班到着
8:42	草津総合病院DMAT 広野町中央体育館到着
8:57	大熊町住民受付開始
9:05	OFCより携帯にて定時連絡あり
9:42	Jーヴィレッジ定例会議出席にて広野体育館出発(草津総合　川瀬Dr、山本ﾛｼﾞ)
9:55	J- ヴィレッジ到着
10:00	Jーヴィレッジ定例会議開始
10:09	Jーヴィレッジ定例会議終了
10:21	広野体育館到着(草津総合　川瀬Dr、山本ﾛｼﾞ)
10:25	説明終了
10:30	東電説明開始
10:50	東電説明終了
10:52	バス乗車開始
11:01	バス全車出発
12:30	スクリーニングデモ説明開始
12:48	スクリーニングデモ説明終了
13:38	HOTゾーン設置宣言
13:44	大熊15号車到着(13:45降車開始13:51降車完了)
13:55	大熊町バス全車現地出発
14:00	環境測定　HOTゾーンテント内30．1℃　外部24．3℃
14:15	大熊16号車到着(14:17降車開始14:24降車完了)
14:15	大熊12号車到着(14:24降車開始14:32降車完了)
14:15	大熊11号車到着(14:32降車開始14:37降車完了)
14:24	大熊14号車到着(14:39降車開始14:44降車完了)
不明	大熊13号車到着(14:45降車開始14:53降車完了)
14:30	住民(11ー4ー1)腰部痛、左大腿裏面痺れ訴えクイック退室→問診のみで帰宅
14:53	大熊町バス全車降車完了
14:54	ペット回収班降車完了
14:59	HOTゾーン解除宣言
15:00	草津総合　川瀬Dr　Web定例会議参加
15:04	総評・反省会
	＊放射線管理官のサーベイが途中でホットドーンが解除になってしまった
	＊サーベイメーター値をサーベイ時に住民から聞かれた⇒返答可
15:43	Web定例会議終了
15:49	広野町中央体育館撤収、いわき市立総合磐城共立病院へ出発
16:08	DMAT事務局へ、ﾗｲﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ・50%TZの確認

16:45	いわき市立総合磐城共立病院到着
16:55	草津総合病院DMAT隊、樋渡信夫病院長へ挨拶
17:09	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯にて定時連絡す
17:15	OFCへ携帯にて定時連絡す
17:55	いわき市立総合磐城共立病院出発
18:06	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月3日	14:30		0301	男	32	腰痛の訴え	腰椎間板ヘルニア増悪	無処置	帰宅

一時帰宅住民情報

8月3日

実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11 号車 ～ 号車　　16 号車 号車

被ばく線量　大熊町　4～50 μ SV　μ SV

空間線量　大熊町　5.49～42.84 μ SV　μ SV

大熊町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
大熊町11号	20	19	−1
大熊町12号	20	20	
大熊町13号	22	20	−2
大熊町14号	17	17	
大熊町15号	18	17	−1
大熊町16号	21	18	−3
	118	111	−7

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	6
消防	3
警察	0
ペット回収	2
その他	
計②	35

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
計②	

大熊町

計	住民計	111
	関係者計	35
	計	146

DMAT活動記録

活動日	8月4日(木)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:晴れ　気温: 27.6度　湿度:80 %(13:00現在)
行き先市町村	

DMATメンバー		
医師	川瀬	鉄典
看護師	松田	昌子
看護師	奥野	淑子
調整員	鈴木	教久
調整員	山本	哲也
台数		

時刻	内容
7:57	ホテル出発
8:35	DMAT事務局、J-ヴィレッジ、にMCA無線にて定時連絡
8:35	草津総合病院DMAT 広野町中央体育館到着
8:45	医療班到着
8:50	OFCより携帯にて定時連絡あり
8:58	大熊町住民受付開始
9:37	Jーヴィレッジ定例会議出席にて広野体育館出発(草津総合　川瀬Dr、山本Logi)
9:48	J- ヴィレッジ到着
10:00	Jーヴィレッジ定例会議開始
10:06	Jーヴィレッジ定例会議終了
10:06	大熊町住民説明開始
10:15	大熊町住民説明終了
10:21	広野体育館到着(草津総合　川瀬Dr、山本Logi)
10:35	東電、大熊町住民説明開始
10:44	東電、大熊町住民説明開始
10:45	バス乗車開始
10:51	全車両バス発車
12:30	ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞﾃﾞﾓ説明開始
12:48	ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞﾃﾞﾓ説明終了
13:34	HOTゾーン設置宣言
13:34	大熊16号車到着(13:35降車開始13:37降車完了)
13:35	環境測定　HOTゾーンテント内30．6℃　外部27．6℃
13:40	大熊町バス全車現地出発
13:44	大熊13号車到着(13:44降車開始13:49降車完了)
13:55	大熊11号車到着(13:56降車開始14:02降車完了)
14:06	大熊14号車到着(14:08降車開始14:12降車完了)
14:08	大熊15号車到着(14:12降車開始14:16降車完了)
14:12	大熊12号車到着(14:18降車開始14:53降車完了)
14:12	住民(14ー7ー2)虫刺され→問診のみで帰宅
14:21	大熊町バス全車降車完了
14:21	ペット回収班降車完了
14:28	HOTゾーン解除宣言
14:35	消防隊スクリーニング(中田、金森対応)
14:39	総評・反省会
15:00	川瀬Dr、Web定例会議参加
15:45	Web定例会議終了
15:57	広野町中央体育館撤収、いわき市立総合磐城共立病院へ出発
17:01	いわき市立総合磐城共立病院到着

17:05	DMAT事務局、J-ヴィレッジへMCA無線にて定時連絡す
17:08	OFCより携帯にて定時連絡あり
17:10	活動記録入力業務
18:15	いわき市立総合磐城共立病院出発
18:30	ホテル到着

※1次立ち入りマネジメントチーム（災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師）と合同で活動

傷病者情報

日付	時間		通し番号(日付+通し番)	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月4日	14:16	住民	080401	F	49	左膝虫刺され	虫刺	問診のみ	帰宅

一時帰宅住民情報

2011/8/4(木)　　実施場所　広野町中央体育館

行き先市町村　大熊町　　11　号車　～　16　号車
号車　～　号車

被ばく線量　大熊町　5～21 μ SV
μ SV

空間線量　大熊町　2.16～28.08 μ SV
μ SV

大熊町

バス番号	住民数（予定数）	住民数（確定数）	差分
大熊町11号	16	15	−1
大熊町12号	13	10	−3
大熊町13号	16	15	−1
大熊町14号	14	11	−3
大熊町15号	11	11	0
大熊町16号	7	5	−2
	77	67	−10

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	12
引率者	6
ドライバー	7
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	2
計	38

大熊町

計	住民計	67
	関係者計	38
	計	105

DMAT活動記録

活動日	8月5日(金)
活動内容	いわき市立総合磐城共立病院待機、引継ぎ業務
活動場所	いわき市立総合磐城共立病院/Jヴィレッジ
活動DMAT	草津総合病院
	広野町　天候:くもり　気温: 度　湿度: %(現在)
	た

DMATメンバー	
医師	川瀬　鉄典
看護師	松田　昌子
看護師	奥野　淑子
調整員	鈴木　教久
調整員	山本　哲也
台数	

時刻	内容
7:59	ホテル出発
8:15	草津総合病院DMAT いわき市立総合磐城共立病院到着
8:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジへMCA無線にて定時連絡
8:35	活動記録入力業務
9:02	川瀬Dr,松田Ns,鈴木Logi Jヴィレッジへ出発
9:17	携帯にてOFCへ定時連絡
9:50	OFCよりMCA無線より定時連絡済との連絡あり
9:48	川瀬Dr,松田Ns,鈴木Logi Jヴィレッジへ到着
10:00	川瀬DrJヴィレッジにて定例会議出席
10:08	Jヴィレッジにて定例会議終了
10:08	Jヴィレッジから広野中央体育館へ出発
10:17	広野中央体育館到着
12:12	広野中央体育館にて兵庫医科大学DMAT隊と合流
	兵庫医科大学DMAT隊へ引継ぎ業務
12:48	広野中央体育館からいわき市立総合磐城共立病院出発
13:30	川瀬Dr,松田Ns,鈴木Logi　兵庫医科大学DMAT隊　いわき市立総合磐城共立病院到着
	いわき市立総合磐城共立病院にて引継ぎ業務
14:30	草津総合病院DMAT隊　いわき市立総合磐城共立病院　撤収

※1次立ち入りマネジメントチーム(災害医療センター小早川医師、大野調整員・金森放射線技師・小西放射線技師)と合同で活動

第１８次隊　兵庫医科大学病院

DMAT活動記録

活動日	8月5日(金)
活動内容	現場参集　引継ぎ
活動場所	広野町中央体育館　いわき市立総合磐城共立病院
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温: 28度　湿度: %(現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男

行き先市町村	台数

時刻	内容
8:40	伊丹空港発
10:00	福島空港着
12:10	広野町体育館着　引継ぎ開始
13:00	引継ぎ終了　広野町体育館発
13:30	いわき市立総合磐城共立病院着　引継ぎ
14:30	院長および救命センター長に挨拶
15:00	web会議
15:15	web会議終了
17:00	DMAT事務局、JV、OFCに定時連絡し、現場撤収
19:00	活動記録入力業務終了

DMAT活動記録

活動日	8月6日(土)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温: 28度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数
楢葉　11台
富岡　12台

時刻	内容
7:00	ホテル出発
7:50	広野町体育館到着
8:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジにMCA無線にて定時連絡
8:20	医療班到着
8:45	楢葉町住民受付開始
9:10	OFCに携帯より定時連絡するもつながらず
9:30	楢葉町住民説明会開始
9:55	問診チェック終了
10:29	楢葉町一時帰宅バス出発
10:35	富岡町住民受付開始
10:53	富岡町住民怪我(転倒)対応
11:23	富岡町住民説明開始
11:40	問診チェック終了
11:50	富岡町一時帰宅バス出発
12:15	HOTゾーン設置宣言
12:16	楢葉町一時帰宅バス4号車到着
12:29	楢葉町一時帰宅バス7号車到着
12:44	楢葉町一時帰宅バス1.5号車到着
12:51	楢葉町一時帰宅バス3号車到着
12:57	楢葉町一時帰宅バス9号車到着
12:58	楢葉町一時帰宅バス8号車到着
12:59	楢葉町一時帰宅バス11号車到着
13:01	楢葉町一時帰宅バス2,6号車到着
13:05	楢葉町一時帰宅バス10号車到着(全車到着)
13:06	ペット回収班①降車完了
13:20	全車受付終了
13:23	ペット回収班②降車完了
13:26	HOTゾーン解除宣言
14:34	HOTゾーン設置宣言
14:37	富岡町一時帰宅バス12号車到着
14:40	富岡町一時帰宅バス10,15号車到着
14:46	富岡町一時帰宅バス14号車到着
14:59	富岡町一時帰宅バス13,17号車到着
15:00	富岡町一時帰宅バス11号車到着
15:06	富岡町一時帰宅バス19号車到着
15:12	富岡町一時帰宅バス8号車到着
15:13	富岡町一時帰宅バス16号車到着
15:18	富岡町一時帰宅バス9号車到着
15:22	富岡町一時帰宅バス18号車到着(全車到着)
15:45	全車受付終了
15:49	HOTゾーン解除宣言
16:30	広野町中央体育館撤収
17:05	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて定時連絡(DMAT事務局にはつながらず)
17:15	平ビューホテル到着
18:30	活動記録入力業務完了

DMAT活動記録

活動日	8月7日(日)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温: 31.5度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数	
楢葉	11台
富岡	12台

時刻	内容
7:30	ホテル出発
8:15	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT・災害医療センターDMAT)
8:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジにMCA無線にて定時連絡
8:39	楢葉町住民受付開始
9:37	楢葉町住民説明会開始
9:57	2号車住民(2-5-2)脱水症状　診療(山田医師)
10:09	2号車住民(2-5-2)症状回復し一時帰宅参加
10:20	楢葉町住民説明会終了
10:25	楢葉町一時帰宅バス出発
10:27	11号車キャンセル予定の2名到着、問診
10:35	富岡町住民受付開始
11:21	富岡町住民説明開始
12:02	富岡町住民説明終了
12:05	富岡町一時帰宅バス出発
12:15	HOTゾーン設置宣言
12:18	楢葉町一時帰宅バス3号車到着(12:21降車開始　12:23受付終了)
12:34	楢葉町一時帰宅バス2号車到着(12:35降車開始　12:38受付終了)
12:44	楢葉町一時帰宅バス6号車到着(12:44降車開始　12:47受付終了)
12:46	楢葉町一時帰宅バス11号車到着(12:49降車開始　12:52受付終了)
12:54	楢葉町一時帰宅バス1号車到着(12:55降車開始　12:59受付終了)
12:55	楢葉町一時帰宅バス8号車到着(12:59降車開始　13:03受付終了)
12:57	富岡町一時帰宅バス9号車乗車の9-8-1住民傷病との情報
13:01	楢葉町一時帰宅バス10号車到着(13:04降車開始　13:07受付終了)
13:02	楢葉町一時帰宅バス7号車到着(13:09降車開始　13:13受付終了)
13:09	ペット回収班降車完了
13:12	楢葉町一時帰宅バス4号車到着(13:14降車開始　13:18受付終了)
13:17	楢葉町一時帰宅バス9号車到着(13:19降車開始　13:22受付終了)
13:30	富岡町一時帰宅バス20号車乗車の20-6-1住民傷病との情報
13:34	楢葉町一時帰宅バス5号車到着(13:35降車開始　13:40受付終了)
13:43	HOTゾーン解除宣言
13:59	計
14:13	救急車到着(20-6-1搭乗)
14:40	HOTゾーン設置宣言
14:44	富岡町一時帰宅バス13号車到着(14:44降車開始　14:48:受付終了)
14:46	富岡町一時帰宅バス18号車到着(14:49降車開始　14:53受付終了)
14:55	富岡町一時帰宅バス12号車到着(14:56降車開始　15:03受付終了)
15:00	富岡町一時帰宅バス15号車到着(15:03降車開始　15:07受付終了)
15:01	富岡町一時帰宅バス14号車到着(15:08降車開始　15:11受付終了)
15:08	富岡町一時帰宅バス9号車到着(15:12降車開始　115:15受付終了)
15:12	富岡町一時帰宅バス20号車到着(15:15降車開始　15:19受付終了)
15:12	富岡町一時帰宅バス17号車到着(15:20降車開始　15:24受付終了)
15:17	富岡町一時帰宅バス10号車到着(15:25降車開始　15:28受付終了)
15:19	富岡町一時帰宅バス19号車到着(15:29降車開始　15:33受付終了)
15:20	富岡町一時帰宅バス16号車到着(15:34降車開始　15:38受付終了)
15:38	ペット回収班降車完了
15:23	富岡町一時帰宅バス11号車到着(15:39降車開始　15:44受付終了)
15:44	全車受付終了
15:47	HOTゾーン解除宣言
16:30	広野町中央体育館撤収
17:05	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて定時連絡
17:50	平ビューホテル到着
19:00	活動記録入力業務完了

一時帰宅住民情報

2011/8/7(土)　　実施場所　広野町体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町

号車　1～11
号車　9～20

被ばく線量　楢葉町　9～0 μSV
富岡町　5～0 μSV
空間線量　μSV
μSV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		10	
2		9	
3		5	
4		15	
5		13	
6		11	
7		14	
8		10	
9		12	
10		14	
11		10	
	計	123	

関係者

職種	人数
安全管理	11
放射線管理	22
引率者	11
ドライバー	12
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
公用車	
計	63

富岡町

計	住民計	123
	関係者計	63
	計	186

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
9		12	
10		13	
11		14	
12		17	
13		15	
14		14	
15		14	
16		14	
17		14	
18		16	
19		17	
20		13	
	計	173	

関係者

職種	人数
安全管理	12
放射線管理	24
引率者	12
ドライバー	13
消防	
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	63

富岡町

計	住民計	173
	関係者計	63
	計	236

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月7日	9:54	楢葉町	(2-5-2)	女	33	下痢、脱水	脱水症	OS-1(500ml)1本処方 vital sign check BP134/82 HR93	改善し、 一時帰宅参加
8月7日	10:40	クローク係		男	47	軽度腰痛	腰痛症	湿布（モーラス　7枚入り1袋）処方	
8月7日	14:05	富岡町	(9-8-1)	女	76	左眼部外傷	左眼部外傷	生食洗浄　イソジン消毒	帰宅
8月7日	14:17	富岡町	(20-8-1)	男	46	蜂咬傷	蜂刺傷	イソジン消毒 リンデロンVG軟膏塗布	帰宅

DMAT活動記録

活動日	8月8日(月)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:曇りのち晴れ　気温:28度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数
富岡　12台

時刻	内容
8:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジにMCA無線にて定時連絡
9:00	ホテル出発
9:40	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT・災害医療センターDMAT)
9:45	Jヴィレッジ到着(近藤医師・久保山医師・小野ロジ・冨加見ロジ)
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議開始
10:12	富岡町住民受付開始
10:15	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議終了
10:40	Jヴィレッジ組、広野町体育館に到着
10:58	富岡町住民説明開始
11:25	問診票チェック終了
11:47	富岡町一時帰宅バス出発
11:57	富岡町一時帰宅バス全車出発完了
14:10	HOTゾーン設置宣言
14:15	富岡町一時帰宅バス13号車到着(14:15降車開始 14:20受付終了)
14:17	富岡町一時帰宅バス11号車到着(14:20降車開始　14:25受付終了)
14:28	富岡町一時帰宅バス12号車到着(14:29降車開始　14:33受付終了)
14:39	富岡町一時帰宅バス14号車到着(14:39降車開始　14:44受付終了)
14:40	14号車乗車の傷病者(14-1-1)対応(山田医師、清水看護師)
14:45	富岡町一時帰宅バス10号車到着(14:45降車開始　14:49受付終了)
14:45	富岡町一時帰宅バス21号車到着(14:49降車開始　14:53受付終了)
14:49	富岡町一時帰宅バス17号車到着(14:53降車開始　14:58受付終了)
14:49	富岡町一時帰宅バス18号車到着(14:58降車開始　15:03受付終了)
14:56	富岡町一時帰宅バス20号車到着(15:03降車開始　15:09受付終了)
15:00	富岡町一時帰宅バス19号車到着(15:09降車開始　15:12受付終了)
15:04	富岡町一時帰宅バス15号車到着(15:12降車開始　15:16受付終了)
15:12	富岡町一時帰宅バス16号車到着(15:16降車開始　15:21受付終了)
15:15	ペット班到着
15:22	ペット班、消防スクリーニング受付
15:26	HOTゾーン解除宣言
15:27	16号車乗車の傷病者(16-9-2)対応(山田医師、清水看護師)
15:50	広野町中央体育館撤収
16:50	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて定時連絡
17:30	平ビューホテル到着
18:30	活動記録入力業務完了

一時帰宅住民情報

2011/8/8(日)　　実施場所　広野町体育館

行き先市町村　富岡町

号車　10～21
号車

被ばく線量　富岡町　1～10 μ SV
μ SV
空間線量　μ SV
μ SV

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
10		12	
11		15	
12		18	
13		10	
14		9	
15		14	
16		16	
17		16	
18		15	
19		12	
20		15	
21		18	
	計	170	

関係者

職種	人数
放射線管理	24
安全管理者	12
引率者	12
ドライバー	14
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	67

富岡町

計	住民計	173
	関係者計	63
	計	236

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
2011/8/8	14:44	富岡町	(14-1-1)	男	63	下肢冷感	パニック症候群	バイタルサインチェックのみ	帰宅
2011/8/8	15:27	富岡町	(16-9-2)	女	49	ふらつき 上肢しびれ	熱中症	バイタルサインチェックのみ BP172/108 HR94 BT36.1 OS-1(500ml)2B処方	帰宅

DMAT活動記録

活動日	8月9日(火)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温:31.2度　湿度: %(11:00現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数	
大熊	4台
富岡	5台

時刻	内容	
8:00	ホテル出発	
8:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジにMCA無線にて定時連絡	
8:40	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT・災害医療センターDMAT)	
9:20	大熊町住民受付開始	
10:00	大熊町住民説明開始	
10:11	問診票チェック終了	大熊町住民説明終了
10:36	大熊町住民説明終了	
10:37	大熊町一時帰宅バス出発	
10:45	大熊町一時帰宅バス全車出発完了	
10:48	富岡町住民受付開始	
10:58	富岡町住民説明開始	
11:14	問診票チェック終了	
11:36	富岡町住民説明終了	
11:42	富岡町一時帰宅バス出発	
11:48	富岡町一時帰宅バス全車出発完了	
13:47	HOTゾーン設置宣言	
13:51	大熊町一時帰宅バス１３号車到着(　13:52降車開始 13:57受付終了)	
13:58	大熊町一時帰宅バス１２号車到着(　13:59降車開始 14:02受付終了)	
13:58	大熊町一時帰宅バス１１号車到着(　14:03降車開始 14:06受付終了)	
14:14	大熊町一時帰宅バス１４号車到着(　14:15降車開始 14:20受付終了)	
14:25	富岡町一時帰宅バス5号車到着(　14:26降車開始　14:28受付終了)	
14:30	富岡町一時帰宅バス3号車到着(　14:31降車開始　14:35受付終了)	
14:32	富岡町一時帰宅バス2号車到着(　14:35降車開始　14:41受付終了)	
14:39	富岡町一時帰宅バス1号車到着(　14:41降車開始　14:45受付終了)	
15:01	富岡町一時帰宅バス4号車到着(　15:02降車開始　15:06受付終了)	
15:15	ペット回収班 受付終了	
15:16	HOTゾーン解除宣言	
15:50	広野町中央体育館撤収	
16:30	平ビューホテル到着	
17:00	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて定時連絡	
19:00	活動記録入力業務完了	

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月9日	14:35	富岡町	2003/8/1	男	32	ネコ創傷	両手ネコ創傷	イソジン消毒	帰宅
8月9日	14:37	大熊町	2013/9/1	女	24	肩こり	肩こり症	レンナノンテープ20mg7枚入り1袋	帰宅

一時帰宅住民情報

2011/8/9(火)

実施場所　広野町体育館

行き先市町村　大熊町
富岡町

号車　11～14
号車　1～5

被ばく線量　大熊町　4～87 μ SV
富岡町　1～5 μ SV
空間線量　μ SV
μ SV

大熊町

バス番号		住民数(確定数)	
11		6	
12		12	
13		11	
14		16	
	計	45	

関係者

職種	人数
放射線管理	10
安全管理者	4
引率者	4
ドライバー	5
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	28

大熊町

計	住民計	45
	関係者計	28
	計	73

富岡町

バス番号		住民数(確定数)	
1		9	
2		13	
3		15	
4		15	
5		6	
	計	58	

関係者

職種	人数
放射線管理	11
安全管理者	5
引率者	5
ドライバー	5
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	26

富岡町

計	住民計	58
	関係者計	26
	計	84

DMAT活動記録

活動日	8月10日(水)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温:34.3度　湿度: %(11:30現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美
台数	
富岡	9台

時刻	内容
9:00	ホテル出発
9:40	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT・災害医療センターDMAT)
10:10	DMAT事務局へ携帯電話にて定時連絡
10:10	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT・災害医療センターDMAT)
10:10	富岡町住民受付開始
10:57	富岡町住民説明開始
11:15	問診票チェック終了
11:40	富岡町住民説明終了
11:41	富岡町一時帰宅バス出発
11:43	富岡町一時帰宅バス全車出発完了
14:16	HOTゾーン設置宣言
14:18	ペット班受付
14:21	富岡町一時帰宅バス7号車到着(　14:21降車開始　14:28受付終了)
14:21	富岡町一時帰宅バス6号車到着(　14:27降車開始　14:30受付終了)
14:29	富岡町一時帰宅バス1号車到着(　14:32降車開始　14:36受付終了)
14:30	富岡町一時帰宅バス9号車到着(　14:36降車開始　14:40受付終了)
14:32	富岡町一時帰宅バス4号車到着(　14:40降車開始　14:45受付終了)
14:44	富岡町一時帰宅バス8号車到着(　14:45降車開始　14:51受付終了)
14:50	富岡町一時帰宅バス3号車到着(　14:52降車開始　14:56受付終了)
14:56	富岡町一時帰宅バス2号車到着(　14:57降車開始　15:01受付終了)
14:57	富岡町一時帰宅バス5号車到着(　15:02降車開始　15:06受付終了)
15:06	住民受付終了
15:07	消防受付終了
15:10	HOTゾーン解除宣言
15:50	広野町中央体育館撤収
16:50	平ビューホテル到着
18:10	活動記録入力業務完了
17:00	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて定時連絡
20:30	活動記録入力業務完了

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月10日	11:16	富岡町	8ー1ー2	女	39	頭痛	頭痛	ロキソニン1錠　ムコスタ1錠	一時帰宅へ参加
8月10日	11:16	富岡町	8ー2ー2	女	37	腹痛	生理痛	ロキソニン1錠　ムコスタ1錠	一時帰宅へ参加
8月10日	14:34	広野	スタッフ	女	42	蜂交傷	蜂交傷	洗浄、リンデロン軟膏塗布	一時帰宅へ参加
8月10日	15:00	広野	スタッフ	男	42	脱水 ふらつき	熱中症	Vital sign check BP134/74	帰宅
								HR144 SpO296%(room air)	
								OS-1(500ml)2B 処方	
								BT 37.6℃	

一時帰宅住民情報

2011/8/10(水)　　実施場所　広野町体育館

行き先市町村　富岡町　　号車　1～9

被ばく線量　富岡町　1～10 μ SV
μ SV
空間線量　μ SV
μ SV

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
1		14	
2		14	
3		14	
4		16	
5		12	
6		12	
7		17	
8		19	
9		6	
	計	124	

関係者

職種	
放射線管理	21
安全管理者	9
	9
ドライバー	10
消防	3
警察	2
ペット回収	
その他	
公用車	
計	54

富岡町

計	住民計	124
	関係者計	54
	計	178

DMAT活動記録

活動日	8月11日(木)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	兵庫医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温: 31.5度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー	
医師	久保山一敏
医師	山田太平
看護師	清水真幸
看護師	千島佳也子
調整員	冨加見教男
マネージメントチーム	
医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数
楢葉　6台
富岡　15台

時刻	内容
7:30	ホテル出発
8:10	広野町体育館到着(兵庫医大DMAT)
8:25	広野町体育館到着(災害医療センターDMAT)
8:46	楢葉町、富岡町住民受付開始
9:00	DMAT事務局、J-ヴィレッジに携帯電話にて定時連絡
9:32	楢葉町、富岡町住民説明会開始
10:15	楢葉町、富岡町住民説明会終了
10:16	楢葉町、富岡町一時帰宅バス出発
10:27	楢葉町、富岡町一時帰宅バス全車出発完了
10:34	富岡町(12:00出発)住民受付開始
11:00	富岡町住民説明開始
11:30	富岡住民(20-5-1)より暑さのため立ち入り自己キャンセルとの申し出 救護所にて千島看護師対応
11:45	楢葉町1号車乗車住民(1-5-1)傷病者発生の一報あり
11:45	聖マリアンナ医科大学DMAT到着
11:46	富岡町住民説明終了
11:47	富岡町一時帰宅バス出発
12:12	救急車到着(1-5-1)救護所にて対応
12:43	HOTゾーン設置宣言
12:47	楢葉町一時帰宅バス10号車到着(12:47降車開始　12:49受付終了)
12:50	楢葉町一時帰宅バス号12車到着(12:51降車開始　12:55受付終了)
12:54	楢葉町一時帰宅バス号4車到着(12:54降車開始　12:57受付終了)
12:58	楢葉町一時帰宅バス号11車到着(12:58降車開始　13:01受付終了)
13:11	楢葉町一時帰宅バス5号車到着(13:11降車開始　13:14受付終了)
13:16	楢葉町一時帰宅バス6号車到着(13:17 降車開始　13:22受付終了)
13:18	楢葉町6号車乗車住民(6-3-1)降車後体調不良訴え有り。救護所にて対応
13:20	楢葉町1号車乗車住民(1-5-1)軽快　帰宅
13:25	楢葉町6号車乗車住民(6-3-1)軽快　帰宅
13:22	富岡町一時帰宅バス3号車到着(13:23降車開始　13:26受付終了)
13:24	富岡町一時帰宅バス1号車到着(13:27降車開始　13:29受付終了)
13:31	富岡町一時帰宅バス2号車到着(13:32降車開始　13:34受付終了)
13:31	富岡町一時帰宅バス9号車到着(13:34降車開始　13:39受付終了)
13:43	HOTゾーン解除宣言
14:20	HOTゾーン設置宣言
14:25	富岡町一時帰宅バス16号車到着(14:25降車開始　14:32受付終了)
14:33	富岡町一時帰宅バス13号車到着(14:33降車開始　14:40受付終了)
14:40	楢葉町13号車乗車住民(13-3-1)降車後体調不良訴え有り。救護所にて対応
14:55	楢葉町13号車乗車住民(13-3-1)軽快　帰宅
14:57	富岡町一時帰宅バス21号車到着(14:58降車開始　15:03受付終了)
14:58	富岡町一時帰宅バス15号車到着(15:03降車開始　15:08受付終了)
14:59	富岡町一時帰宅バス18号車到着(15:08降車開始　15:14受付終了)
15:04	富岡町一時帰宅バス22号車到着(15:13降車開始　受付終了)
15:05	楢葉町15号車乗車住民(15-3-2)降車後体調不良訴え有り。救護所にて対応
15:13	富岡町一時帰宅バス14号車到着(15:18降車開始　15:23受付終了)
15:19	富岡町一時帰宅バス17号車到着(15:23降車開始　15:27受付終了)
15:20	富岡町一時帰宅バス20号車到着(15:27降車開始　15:32受付終了)
15:26	楢葉町15号車乗車住民(15-1-1)降車後足負傷発覚。救護所にて対応
15:27	富岡町一時帰宅バス19号車到着(15:32降車開始　15:36受付終了)
15:37	富岡町一時帰宅バス23号車到着(15:39降車開始　受付終了)
15:39	救急車到着
15:43	楢葉町15号車乗車住民(15-1-1)いわき共立HPへ紹介
15:47	HOTゾーン解除宣言
16:20	広野町中央体育館撤収
17:00	DMAT事務局、J-ヴィレッジへ携帯電話にて聖マリアンナ医科大学より定時連絡
18:40	福島空港着
19:05	福島空港発
20:40	伊丹空港着　兵庫医大DMAT解散
22:00	活動記録入力業務完了

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月11日	11:30	富岡	(20-5-1)	71	男	暑さのため立ち入りを自己キャンセル		OS-1(500ml) 1B　処方	立ち入りキャンセル
8月11日	12:18	楢葉	(1-5-1)	60	女	ふらつき　嘔気	Ⅰ度熱中症	ソルアセトF(500ml)2B OS-1(500ml)1B	帰宅
8月11日	14:05		スタッフ	54	男	右足首の違和感	右足関節捻挫	セルタッチパップ7O 1袋(6枚入り)処方	帰宅
8月11日	14:39	富岡	(13-3-1)	54	女	ふらつき	熱中症	OS-1(500ml)1B　処方	帰宅
8月11日	15:07	富岡	(15-3-2)	46	女	頭痛、吐気	熱中症、上気道炎	ソルアセトF(500ml)1B PL3g×3	帰宅
8月11日	15:30	富岡	(15-1-1)	62	男	切創(右第3趾))	切創(右第3趾))	生食20mlで洗浄、消毒。 ドレッシング保護のみ DM有り。縫合必要	磐城共立HP受診 (自家用車にて)

一時帰宅住民情報

2011/8/11(木)

実施場所　広野町体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町(10:30発)
富岡町(12:00発)

号車	1～6	
号車	9～12	
号車	13～23	
被ばく線量	楢葉町、富岡町	1～11 μ SV
		μ SV
		μ SV
空間線量		μ SV
		μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		11	
2		10	
3		12	
4		7	
5		6	
6		14	
	計	60	

関係者

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	10
引率者	10
ドライバー	10
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	57

富岡町(10:30発)

バス番号		住民数（確定数）	
9		19	
10		8	
11		11	
12		7	
	計	45	

楢葉町＋富岡町(10:30発)

計	住民計	105
	関係者計	57
	計	162

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
13		16	
14		15	
15		14	
16		11	
17		12	
18		19	
19		15	
20		13	
21		15	
22		16	
23		17	
	計	163	

関係者

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	11
引率者	11
ドライバー	11
消防	
警察	
ペット回収	4
その他	
公用車	
計	59

富岡町(12:00発)

計	住民計	163
	関係者計	59
	計	222

第１９次隊　聖マリアンナ医科大学病院

DMAT活動記録

活動日	8月11日(木)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学
	広野町　天候:晴れ　気温: 36.5度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー

医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之

マネージメントチーム

医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数

楢葉　11台
富岡　12台

時刻	内容
7:00	聖マリアンナ医科大学病院出発
12:00	広野町体育館到着
12:00～14:30	昼食及び兵庫医科大学から引継ぎ
14:20	HOTゾーン設置宣言
14:22	富岡町一時帰宅バス16号車到着(14:25降車開始　14:32:受付終了)
14:32	富岡町一時帰宅バス13号車到着(14:33降車開始　14:40受付終了)
14:56	富岡町一時帰宅バス21号車到着(14:57降車開始　15:03受付終了)
14:57	富岡町一時帰宅バス15号車到着(14:58降車開始　15:08受付終了)
14:58	富岡町一時帰宅バス18号車到着(14:59降車開始　15:14受付終了)
15:03	富岡町一時帰宅バス22号車到着(15:04降車開始　15:18受付終了)
15:12	富岡町一時帰宅バス14号車到着(15:13降車開始　15:23受付終了)
15:18	富岡町一時帰宅バス17号車到着(15:19降車開始　15:27受付終了)
15:19	富岡町一時帰宅バス20号車到着(15:20降車開始　15:32受付終了)
15:26	富岡町一時帰宅バス19号車到着(15:27降車開始　15:36受付終了)
15:36	富岡町一時帰宅バス23号車到着(15:37降車開始　15:46受付終了)
15:38	ペット回収班降車完了
15:46	全車受付終了
15:50	HOTゾーン解除宣言
16:30	広野町中央体育館撤収
17:20	磐城共立病院到着(災害医療センター近藤先生他から引継ぎ説明)
18:20	平ビューホテル到着
22:00	活動記録入力業務完了

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月11日	11:30	富岡	(20-5-1)	71	男	暑さのため 立ち入りを 自己キャンセル		OS-1(500ml) 1B　処方	立ち入り キャンセル
8月11日	12:18	楢葉	(1-5-1)	60	女	ふらつき　嘔気	Ⅰ度熱中症	ソルアセトF(500ml)2B OS-1(500ml)1B	帰宅
8月11日	14:05	東京電力	スタッフ	54	男	右足首違和感	右足関節捻挫	セルタッチパップ 6枚入1袋	帰宅
8月11日	14:39	富岡	(13-3-1)	54	女	ふらつき	熱中症(Ⅰ度)	OS-1(500ml)2B　処方	帰宅
8月11日	15:07	富岡	(15-3-2)	46	女	頭痛、吐き気、咳	熱中症、 上気道炎	ソルアセトF(500ml)2B PL3g　3×処方	帰宅
8月11日	15:30	富岡	(15-1-1)	62	男	右足をガラスで 切った	右第3足切創	生食20mlで洗浄、消毒、 ドレッシング保護	転院 (磐城共立 HP)

一時帰宅住民情報

2011/8/11(木)　　実施場所　広野町体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町(10:30発)
富岡町(12:00発)

号車　1～11
号車　9～20

被ばく線量　楢葉町　μ SV
富岡町(10:30発)　μ SV
空間線量　富岡町(12:00発)　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		11	
2		10	
3		12	
4		7	
5		6	
6		14	
11		10	
	計	70	

関係者

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	10
引率者	10
ドライバー	10
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	57

富岡町(10:30発)

バス番号		住民数（確定数）	
9		19	
10		8	
11		11	
12		7	
	計	45	

楢葉町＋富岡町(10:30発)

計	住民計	105
	関係者計	57
	計	162

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
13		16	
14		15	
15		14	
16		11	
17		12	
18		19	
19		15	
20		13	
21		15	
22		16	
23		17	
	計	163	

関係者

職種	人数
安全管理	22
放射線管理	11
引率者	11
ドライバー	11
消防	
警察	
ペット回収	4
その他	
公用車	
計	59

富岡町(12:00発)

計	住民計	163
	関係者計	59
	計	222

DMAT活動記録

活動日	8月12日(金)
活動内容	一時帰宅支援(広野町中央体育館)
活動場所	広野町中央体育館
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院
	広野町　天候:晴れ　気温: 31.5度　湿度: %(13:00現在)

DMATメンバー

医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之

マネージメントチーム

医師	近藤久禎
調整員	小野欽也
調整員	渡辺真由美

台数

楢葉　公用車1台(前半)
富岡　12台(4台前半・8台後半)

時刻	内容
7:30	ホテル出発
8:30	広野町体育館到着(聖マリアンナ医科大学DMAT・災害医療センターDMAT)
8:50	DMAT事務局、J-ヴィレッジ、OFCへMCA無線にて定時連絡
9:07	住民受付開始　(前半)
9:30	住民説明会開始(前半)
9:54	問診票チェック終了(前半)
10:14	住民バス順次乗車開始(前半)
10:16	住民バス順次出発(前半)
10:34	住民受付開始(後半)
10:39	楢葉公用車到着
10:55	楢葉公用車サーベイ終了
11:05	住民説明開始(後半)
11:20	問診票チェック終了(後半)
11:55	住民バス順次乗車開始(後半)
11:59	住民バス順次出発(後半)
12:40	HOTゾーン設置宣言
12:41	富岡町一時帰宅バス9号車到着(12:41降車開始　12:45受付終了)
13:26	富岡町一時帰宅バス8号車到着(13:26降車開始　13:31受付終了)
13:30	富岡町一時帰宅バス6号車到着(13:32降車開始　13:38受付終了)
13:37	富岡町一時帰宅バス7号車到着(13:38降車開始　13:42受付終了)
13:45	HOTゾーン解除宣言
14:18	ペット回収班降車完了
14:30	HOTゾーン設置宣言
14:31	富岡町一時帰宅バス16号車到着(14:33降車開始　14:37:受付終了)
14:48	富岡町一時帰宅バス14号車到着(14:49降車開始　14:54受付終了)
14:50	富岡町一時帰宅バス17号車到着(14:54降車開始　15:00受付終了)
14:50	富岡町一時帰宅バス10号車到着(15:02降車開始　15:06受付終了)
14:54	富岡町一時帰宅バス12号車到着(15:08降車開始　15:13受付終了)
15:02	富岡町一時帰宅バス11号車到着(15:14降車開始　15:18受付終了)
15:10	富岡町一時帰宅バス15号車到着(15:18降車開始　15:23受付終了)
15:15	富岡町一時帰宅バス13号車到着(15:24降車開始　15:26受付終了)
15:27	ペット回収班降車完了
15:28	全車受付終了
15:32	HOTゾーン解除宣言
16:00	広野町中央体育館撤収
16:40	磐城共立病院到着(センター長小山先生へ挨拶及び院内紹介)
17:30	DMAT事務局、J-ヴィレッジ、OFCへMCA無線にて定時連絡
18:15	平ビューホテル到着
22:00	活動記録入力業務完了

一時帰宅住民情報

2011/8/12(金)

実施場所　広野町体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町

号車　公用車
号車　6～17

被ばく線量　楢葉町　μ SV
富岡町　μ SV
空間線量　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
公用車		1	
	計	1	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	4
計	4

楢葉町

計	住民計	1
	関係者計	4
	計	5

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
6		8	
7		9	
8		16	
9		16	
10		15	
11		10	
12		19	
13		9	
14		9	
15		17	
16		10	
17		16	
	計	154	

関係者

職種	人数
安全管理	16
放射線管理	33
引率者	12
ドライバー	14
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
公用車	
計	82

富岡町

計	住民計	154
	関係者計	82
	計	236

DMAT活動記録

活動日	8月13日(土)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院

DMATメンバー	
医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:25	磐城共立病院到着
8:30	Jヴィレッジ、DMAT事務局へ定時連絡(MCA無線)
8:35	OFCより定時連絡あり(引継ぎ携帯電話)
8:50	磐城共立病院出発(児玉医師、塩澤調整員の2名)
9:55	Jヴィレッジ到着
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議参加
10:15	Jヴィレッジ出発
11:15	磐城共立病院到着
14:20	WEB会議参加メール受信
15:00	WEB会議開始
15:52	WEB会議終了
17:00	Jヴィレッジ、DMAT事務局、OFCへ定時連絡(MCA無線)
17:10	磐城共立病院撤収

DMAT活動記録

活動日	8月14日(日)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院

DMATメンバー	
医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:20	磐城共立病院到着
8:30	Jヴィレッジ、DMAT事務局へ定時連絡(MCA無線)
8:50	OFCへ定時連絡(MCA無線)
9:00	磐城共立病院出発(児玉医師、塩澤調整員の2名)
9:55	Jヴィレッジ到着
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議参加
10:20	Jヴィレッジ出発
11:30	磐城共立病院到着
14:55	WEB会議参加メール受信
15:00	WEB会議開始
15:30	WEB会議終了
17:00	Jヴィレッジ、DMAT事務局、OFCへ定時連絡(MCA無線)
17:10	磐城共立病院撤収

DMAT活動記録

活動日	8月15日(月)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院

DMATメンバー	
医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:20	磐城共立病院到着
8:30	Jヴィレッジ、DMAT事務局へ定時連絡(MCA無線)
8:55	OFCへ定時連絡(MCA無線)
9:00	磐城共立病院出発(児玉医師、塩澤調整員の2名)
9:50	Jヴィレッジ到着
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議参加
10:15	Jヴィレッジ出発
11:45	磐城共立病院到着
12:10	磐城共立病院長へ挨拶
14:30	WEB会議参加メール受信
15:00	WEB会議開始
15:25	WEB会議終了
17:00	Jヴィレッジ、DMAT事務局、OFCへ定時連絡(MCA無線)
17:10	磐城共立病院撤収

DMAT活動記録

活動日	8月16日(火)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院

DMATメンバー	
医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:20	磐城共立病院到着
8:30	Jヴィレッジ、DMAT事務局へ定時連絡(MCA無線)
8:50	OFCへ定時連絡(MCA無線)
9:00	磐城共立病院出発(児玉医師、塩澤調整員の2名)
9:45	Jヴィレッジ到着
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議参加
10:30	Jヴィレッジ出発
11:45	磐城共立病院到着
14:30	WEB会議参加メール受信
15:00	WEB会議開始
15:20	WEB会議終了
17:00	Jヴィレッジ、DMAT事務局、OFCへ定時連絡(MCA無線)
17:10	磐城共立病院撤収

DMAT活動記録

活動日	8月17日(水)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	聖マリアンナ医科大学病院

DMATメンバー	
医師	児玉　貴光
医師	小林　慎二郎
看護師	神保　大士
看護師	小原　秀樹
調整員	塩澤　裕之
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:20	磐城共立病院到着
8:30	Jヴィレッジ、DMAT事務局へ定時連絡(MCA無線)
8:50	OFCへ定時連絡(MCA無線)
9:00	磐城共立病院出発(児玉医師、塩澤調整員の2名)
9:45	Jヴィレッジ到着
10:00	Jヴィレッジ緊急医療チーム定例会議参加
10:30	Jヴィレッジ出発
11:30	磐城共立病院到着
11:45	相澤病院、磐城共立病院到着
11:50	相澤病院へ業務引継ぎ
12:40	聖マリアンナ医科大学病院任務終了(撤収)

第２０次隊　相澤病院

DMAT活動記録

活動日	8月17日(水)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠
調整員	竹内　純子

マネージメントチーム

時刻	内容
11:40	磐城共立病院へ到着
11:45	聖マリアンナ医科大学との引継ぎ開始
12:40	引継ぎ終了
15:00	Web会議開始
15:35	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月18日(木)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠
調整員	竹内　純子

マネージメントチーム

時刻	内容
8:14	磐城共立病院到着
8:30	待機開始
8:50	ERへ挨拶
9:00	Jビレッジに向け出発
9:40	Jビレッジ到着
10:00	Jビレッジでの会議開始
10:12	会議終了
10:20	Jビレッジ出発
11:40	磐城共立病院到着
15:00	Web会議開始
15:15	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月19日(金)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠
調整員	竹内　純子

マネージメントチーム

時刻	内容
8:14	磐城共立病院到着
8:30	待機開始
9:00	ERへ挨拶、Jビレッジへ向け出発
9:50	Jビレッジに到着
10:00	会議開始
10:20	会議終了
11:20	磐城共立病院到着
14:36	福島県沖を震源とするM6.8の地震発生。最大震度5弱(いわき市は4)
14:38	DMAT事務局へ連絡
14:48	磐城共立病院は特に被害はないとのこと。
15:00	Web会議開始
15:45	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月20日(土)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー

医師	上條 剛志
医師	丹下 大祐
看護師	小坂 晶巳
調整員	中込 悠
調整員	星野 淳一

マネージメントチーム

医師	近藤 久禎
医師	小早川 義貴
看護師	阿部 喜子

住民最大線量　11μ Sv
富岡町(平均)　0～1μ Sv
楢葉町(平均)　2～11μ Sv

時刻	内容
7:05	ホテル出発
8:03	広野体育館到着
8:30	ミーティング開始
8:40	役割分担決定
8:45	一時立ち入り個別詳細計画表配布
9:00	受付開始
9:45	メディカルチェック終了
10:05	東電職員の説明終了
10:10	順に出発
10:35	受付開始
10:40	東電職員の説明開始
11:20	メディカルチェック終了
11:45	乗車開始
12:30	ブリーフィング開始
12:55	受入準備完了
12:57	管理区域設定の宣言
13:52	管理区域解除の宣言
14:00	警察官3名警戒区域から戻る(問診無し)
14:21	管理区域設定の宣言
15:30	スクリーニング終了
15:32	管理区域解除の宣言
15:35	ミーティング終了
16:00	広野体育館出発
16:50	ホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月20日	14:30	スタッフ		女		とげが刺さった	右手棘傷	消毒、18Gで除去	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村
楢葉町　1台
富岡町　7台

号車
号車

被ばく線量　μ SV
μ SV

空間線量　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		21	
	計	21	

関係者

職種	人数
安全管理	8
放射線管理	17
引率者	8
ドライバー	8
消防	3
警察	
ペット回収	4
その他	
公用車	
計	48

計	住民計	120
	関係者計	48
	計	168

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
7		11	
8		10	
9		13	
10		17	
11		11	
12		16	
13		21	
	計	99	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	
	関係者計	
	計	0

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
富岡町　　10台

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
14		15	
15		11	
16		10	
17		15	
18		12	
19		19	
20		15	
21		14	
22		11	
23		5	
	計	127	

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	10
消防	3
警察	
ペット回収	2
その他	
公用車	
計	55

計	住民計	127
	関係者計	55
	計	182

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
	計	0	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	
	関係者計	
	計	0

DMAT活動記録

活動日	8月21日(日)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
医師	丹下　大祐
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠
調整員	星野　淳一
マネージメントチーム	
医師	近藤　久禎
医師	小早川　義貴

時刻	内容
7:35	ホテル出発
8:14	広野体育館到着
8:35	受付作業開始
10:15	メディカルチェック終了
10:15	車両乗車開始
10:40	受付作業開始
11:10	メディカルチェック終了
11:35	乗車開始
14:25	大熊町、富岡町終了
17:30	双葉町終了
17:50	撤収
18:15	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月21日	10:58		3－17－1	女	46	嘔気・下痢	胃腸炎	ロペシン処方	帰宅
8月21日	15:35	双葉町		女	26	紙で指を切った	右示指切創	洗浄、テープ固定	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
楢葉1		9	
楢葉2		8	
楢葉3		11	
	計	28	

関係者

職種	人数
安全管理	30
放射線管理	15
引率者	16
ドライバー	19
消防	6
JAF	16
誘導	17
車両編成	20
公用車	
計	139

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
富岡1		20	
富岡2		20	
富岡3		18	
富岡4		19	
富岡5		16	
	計	93	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	121
	関係者計	139
	計	260

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
双葉町
大熊町

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		17	
2		16	
3		20	
	計	53	

関係者

職種	人数
JAF	14
引率者	14
計	28

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
大熊1		17	
大熊2		19	
大熊3		15	
大熊4		15	
	計	66	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	119
	関係者計	28
	計	147

DMAT活動記録

活動日	8月22日(月)
活動内容	車両持ちだし
活動場所	広野体育館
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
医師	丹下　大祐
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠
調整員	星野　淳一
マネージメントチーム	
医師	近藤　久禎
医師	小早川　義貴

時刻	内容
7:35	ホテル出発
8:32	広野体育館到着
9:05	受付開始
10:15	メディカルチェック終了
10:25	東電の説明終了、バス乗車開始
10:55	受付開始
11:25	メディカルチェック終了
11:35	東電の説明終了、バス乗車開始
16:55	車両持ち出し終了
17:25	広野体育館出発
18:10	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月22日	14:00	[2-6-1]	男	45	腹痛	尿管結石	US施行。ボルサポ25mg×2使用。 カロナール2T処方	帰宅
8月22日	9:40	富岡5－16－1	女	62	下痢	胃腸炎	ロペミン処方	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村
楢葉町
富岡町

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
楢葉1		6	
楢葉2		9	
楢葉3		7	
	計	22	

関係者

職種	人数
安全管理	30
放射線管理	15
引率者	18
ドライバー	20
消防	6
JAF	16
誘導	15
車両編成	20
公用車	
計	140

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
富岡1		17	
富岡2		12	
富岡3		15	
富岡4		17	
富岡5		16	
	計	77	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	99
	関係者計	140
	計	239

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
双葉町
大熊町

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
双葉1		18	
双葉2		19	
双葉3		20	
	計	57	

関係者

職種	人数
JAF	14
引率者	14
計	28

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
大熊1		20	
大熊2		21	
大熊3		21	
大熊4		20	
	計	82	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	139
	関係者計	28
	計	167

DMAT活動記録

活動日	8月23日(火)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	相澤病院DMAT

DMATメンバー	
医師	上條　剛志
看護師	小坂　晶巳
調整員	中込　悠

マネージメントチーム

時刻	内容
8:00	ホテル出発
8:15	病院到着
8:30	引継ぎ終了
9:00	Jビレッジ出発
10:00	会議開始
11:35	HEMCと引継ぎ開始
12:32	引き継ぎ終了。磐城協立病院出発。
0:00	相澤病院到着

第２１次隊　兵庫県災害医療センター

DMAT活動記録

活動日	8月23日(火)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー

医師	松山　重成
看護師	境　加奈子
看護師	森岡　宏幸
調整員	宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
11:25	磐城共立病院へ到着
11:30	相澤病院との引継ぎ開始
12:40	引継ぎ終了
15:00	Web会議開始(宮安のみ)、他は磐城共立病院院内災害訓練見学
15:45	Web会議終了
16:10	院内災害訓練終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月24日(水)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー

医師　松山　重成
看護師　境　加奈子
看護師　森岡　宏幸
調整員　宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
7:35	ホテル出発
8:20	広野体育館到着
9:30	楢葉町、富岡町受付作業開始
10:20	楢葉町、富岡町メディカルチェック終了
10:30	車両乗車開始
10:40	双葉町、大熊町受付作業開始
11:10	双葉町、大熊町メディカルチェック終了
11:35	乗車開始
15:15	楢葉町、富岡町終了
17:40	双葉町、大熊町終了
18:00	撤収
18:50	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月24日	14:20	楢葉町	1-12-1 の付添い	男	31	意識消失	失神発作、 脱水症の疑い	HR48、BP120/触、SPO297。症状改善してきたためOS-1を飲んで頂き経過観察、帰宅前に再度診察	帰宅
8月24日	15:30	大熊町	2-2-1	男	56	気分不良、熱発	熱中症、脱水	HR87、BP80/触診、BT38.1℃、OS-1経口摂取とソルデム500ml2本点滴静注。クーリングにより36.0台へ下降する。下肢筋硬直あり、歩行は可能だが2時間の運転には耐えがたいため、磐城市内のホテルを手配して頂き、本日はそちらに宿泊	帰宅 （本日は磐城市内のホテルに。）
8月24日	17:10	JAEA		男	57	頭痛		カロナール200mg×1錠	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
楢葉1		20	
楢葉2		4	
楢葉3		16	
	計	40	

関係者

職種	人数
安全管理	30
放射線管理	15
引率者	16
ドライバー	18
消防	6
JAF	19
誘導	17
車両編成	17
OFC職員	3
公用車	
計	141

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
富岡1		8	
富岡2		17	
富岡3		11	
富岡4		7	
富岡5		12	
	計	55	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	95
	関係者計	141
	計	236

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
双葉町
大熊町

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		16	
2		19	
3		21	
	計	56	

関係者

職種	人数
JAF	14
引率者	14
計	28

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
大熊1		15	
大熊2		20	
大熊3		19	
大熊4		18	
	計	72	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	128
	関係者計	28
	計	156

DMAT活動記録

活動日	8月25日(木)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー

医師　松山　重成
看護師　境　加奈子
看護師　森岡　宏幸
調整員　宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
7:35	ホテル出発
8:20	広野体育館到着
9:20	楢葉町、富岡町受付作業開始
9:50	楢葉町、富岡町メディカルチェック終了
10:25	車両乗車開始
10:30	双葉町、大熊町受付作業開始
11:10	双葉町、大熊町メディカルチェック終了
11:40	乗車開始
13:30	楢葉町、富岡町終了
17:10	双葉町、大熊町終了
17:30	撤収
18:30	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月25日	12:15		JAEA スタッフ	男	60	頭痛		本日、朝から頭痛持続。その他症状なし。カロナール(200)1錠処方する。	職務復帰
8月25日	15:15	大熊	1-14-1	女	24	頭痛		頭痛あり、鎮痛剤希望。3時間運転して帰宅するため、カロナール(200)2錠処方。	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
楢葉1		4	
	計	4	

関係者

職種	人数
安全管理	23
放射線管理	15
引率者	9
ドライバー	17
消防	6
JAF	12
誘導	15
車両編成	20
OFC職員	
公用車	
計	117

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
富岡1		5	
富岡2		13	
富岡3		7	
富岡4		9	
	計	34	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	38
	関係者計	117
	計	155

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
双葉町
大熊町

号車
号車

被ばく線量　　μ SV
μ SV

空間線量　　μ SV
μ SV

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		12	
2		17	
3		17	
	計	46	

関係者

職種	人数
JAF	14
引率者	14
計	28

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
大熊1		19	
大熊2		13	
大熊3		18	
大熊4		16	
	計	66	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

富岡町

計	住民計	112
	関係者計	28
	計	140

DMAT活動記録

活動日	8月26日(金)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー	
医師	松山　重成
看護師	境　加奈子
看護師	森岡　宏幸(午前まで)
看護師	秋武　友和(午後から)
調整員	宮安　孝行
マネージメントチーム	

住民最大線量　26μSv
双葉町(平均)　3～23μSv
大熊町(平均)　4～26μSv

時刻	内容
7:35	ホテル出発
8:20	広野体育館到着
8:40	双葉町、受付作業開始
10:00	双葉町メディカルチェック終了
10:25	車両乗車開始
10:40	大熊町受付作業開始
11:20	大熊町メディカルチェック終了
11:30	ブリーフィング開始
11:45	乗車開始
13:40	管理区域設定の宣言
13:41	双葉町サーベイ開始
14:21	大熊町サーベイ開始
14:50	双葉町サーベイ終了
15:21	大熊町サーベイ終了
15:41	サーベイ終了
15:43	管理区域解除の設定
16:10	撤収
17:10	ホテルに到着

傷病者情報

日付	時間	通し番号	性別	年齢	症状	対応	転機
8月26日	8:40	TEPCOスタッフ	女	25	生理痛	カロナール(200)1錠処方する。	職務復帰

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村

号車
号車

被ばく線量　3～23 μ SV
μ SV

空間線量　μ SV
μ SV

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
双葉1		7	
双葉2		8	
双葉3		16	
双葉4		13	
双葉5		14	
双葉6		14	
双葉7		15	
双葉8		16	
双葉9		13	
双葉10		16	
	計	132	

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	11
消防	3
警察	2
マスコミ	5
計	61

バス番号		住民数（確定数）	
	計	0	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	132
	関係者計	61
	計	193

一時帰宅住民情報

実施場所

行き先市町村
大熊町

号車
号車

被ばく線量　4～26 μ SV
μ SV

空間線量　μ SV
μ SV

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
大熊1		5	
大熊2		3	
大熊3		7	
大熊4			
大熊5		10	
大熊6		8	
大熊7		7	
大熊8		5	
大熊9		14	
大熊10			
	計	59	

関係者

職種	人数
安全管理	10
放射線管理	20
引率者	10
ドライバー	11
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	51

バス番号		住民数（確定数）	
	計	0	

関係者

職種	人数
安全管理	
放射線管理	
引率者	
ドライバー	
消防	
警察	
ペット回収	
その他	
公用車	
計	0

計	住民計	59
	関係者計	51
	計	110

DMAT活動記録

活動日	8月27日(土)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー

医師　松山　重成
看護師　境　加奈子
看護師　秋武　友和
調整員　宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
8:15	磐城共立病院到着
8:20	ERへ挨拶
8:30	待機開始
9:00	Jビレッジに向け出発
9:40	Jビレッジ到着
10:00	Jビレッジでの会議開始
10:20	会議終了
11:30	Jビレッジ出発
11:40	磐城共立病院到着
15:00	Web会議開始
15:30	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月28日(日)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー	
医師	松山　重成
看護師	境　加奈子
看護師	秋武　友和
調整員	宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
8:20	磐城共立病院到着
8:25	ERへ挨拶
8:30	待機開始
9:00	Jビレッジに向け出発
9:40	Jビレッジ到着
10:00	Jビレッジでの会議開始
10:20	会議終了
10:30	Jビレッジ出発
11:40	磐城共立病院到着
13:00	DMAT借上げ車緊急車両申請延長の為、いわき合同庁舎へ
13:15	合同庁舎到着、申請
13:40	申請完了、磐城共立病院へ
14:00	病院到着
15:00	Web会議開始
15:30	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月29日(月)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	兵庫県災害医療センターDMAT

DMATメンバー	
医師	松山　重成
看護師	境　加奈子
看護師	秋武　友和
調整員	宮安　孝行

マネージメントチーム

時刻	内容
8:20	磐城共立病院到着
8:25	ERへ挨拶
8:30	待機開始
9:00	Jビレッジに向け出発
9:40	Jビレッジ到着
10:00	Jビレッジでの会議開始
10:30	会議終了
10:40	Jビレッジ出発
11:30	磐城共立病院到着
12:00	日本医科大学千葉北総病院チーム到着、引継ぎ
13:00	引継ぎ終了。帰路へ

第２２次隊　日本医科大学千葉北総病院

DMAT活動記録

活動日	8月29日(月)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院DMAT

DMATメンバー	
医師	松本　尚
医師	本村　友一
看護師	水野　憲宏
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
12:00	磐城共立病院へ到着
12:05	相澤病院との引継ぎ開始
12:50	引継ぎ終了
15:00	Web会議開始(松本医師出席)、他は傍聴
15:45	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	8月30日(火)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院

DMATメンバー	
医師	松本　尚
医師	本村　友一
看護師	水野　憲宏
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴

マネージメントチーム

時刻	内容
7:45	平ビューホテル出発
8:30	広野体育館到着
8:45	ヴィレッジへ挨拶のため移動(松本医師，渡邉ロジ)
8:50	関係者スクリーニング開始
9:00	一時立入住民受付(楢葉町・富岡町)開始
9:35	一時立入住民受付(楢葉町・富岡町)終了，東電による説明開始
10:15	説明終了，乗車開始
10:17	富岡町1号出発
10:19	富岡町2号出発
10:21	富岡町3号出発
10:23	楢葉町1号出発
10:30	一時立入住民受付(大熊町・双葉町)開始
10:50	一時立入住民受付(大熊町・双葉町)終了，東電による説明開始
11:30	説明終了，乗車開始
11:37	大熊町1号出発
11:39	大熊町3号，双葉1号出発
11:40	大熊町2号出発
11:41	大熊町4号出発
11:45	双葉町2号出発
13:24	富岡町1号到着(自家用車7台回収)
13:43	富岡町2号到着(自家用車9台回収)
13:47	楢葉町1号到着(自家用車10台回収)
13:58	富岡町3号到着(自家用車11台回収)
14:50	大熊町3号到着(自家用車14台回収)
14:57	大熊町2号到着(自家用車16台回収)
15:23	大熊町4号到着(自家用車14台回収)
15:36	大熊町1号到着(自家用車16台回収)
16:37	双葉町2号到着(自家用車18台回収)
16:48	双葉町1号到着(自家用車18台回収)
17:20	撤収
18:00	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月30日	10:25	大熊町	一時帰宅非希望者	女	46	左上顎挫創	顔面挫創	生食洗浄，カットバン	帰宅
8月30日	15:23	双葉町	2-15-1	女	63	気分不良	熱中症・脱水症	OS-1経口摂取，病床上安静	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町

号車		1
号車		1～3

被ばく線量	楢葉町	1～2	μSV
	富岡町	4～8	μSV
空間線量	楢葉町	0.26～2.08	μSV
	富岡町	.39～15.63	μSV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		10	
	計	10	

関係者

職種	人数	
安全管理	2	
放射線管理	1	
引率者	1	
ドライバー	15	※担当不明のため当日の全数
消防	6	※担当不明のため当日の全数
公用車	2	
その他	21	「道の駅ならは」職員
JAF	6	
誘導	15	
計	69	

計	住民計	0
	関係者計	69
	計	79

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
1		7	
2		10	
3		12	
	計	29	

関係者

職種	人数
安全管理	6
放射線管理	3
引率者	
ドライバー	※
消防	※
計	9

※担当者不明のため楢葉町にて全数換算

計	住民計	29
	関係者計	9
	計	38

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　大熊町
双葉町

号車		1～4
号車		1～2

被ばく線量	大熊町	4～32 μSV
	双葉町	6～22 μSV
空間線量	大熊町	2.87～30.37 μSV
	双葉町	0.66～31.59 μSV

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
1		16	
2		16	
3		14	
4		17	
	計	63	

関係者

職種	人数
安全管理	8
放射線管理	4
引率者	7
JAF	9
ドライバー	※
消防	※
計	28

※担当者不明のため、全数にて楢葉町で換算

計	住民計	63
	関係者計	28
	計	91

双葉町

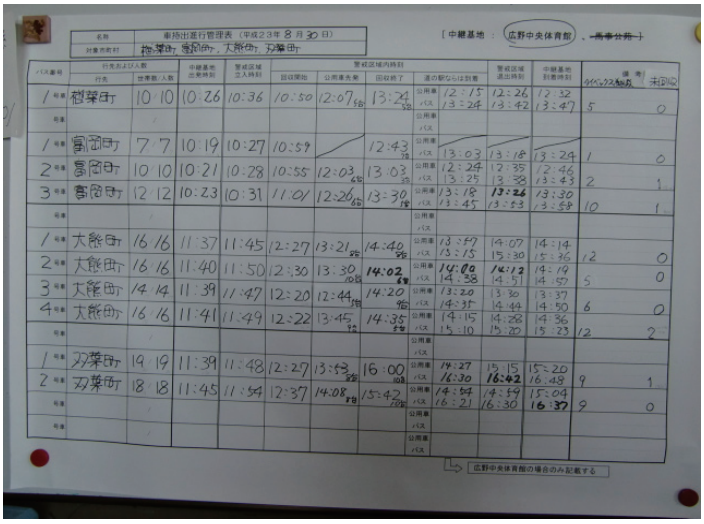
バス番号		住民数（確定数）	
1		19	
2		18	
	計	37	

関係者

職種	人数
安全管理	4
放射線管理	2
引率者	
JAF	6
ドライバー	※
消防	※
計	12

※担当者不明のため、全数にて楢葉町で換算

計	住民計	37
	関係者計	12
	計	49

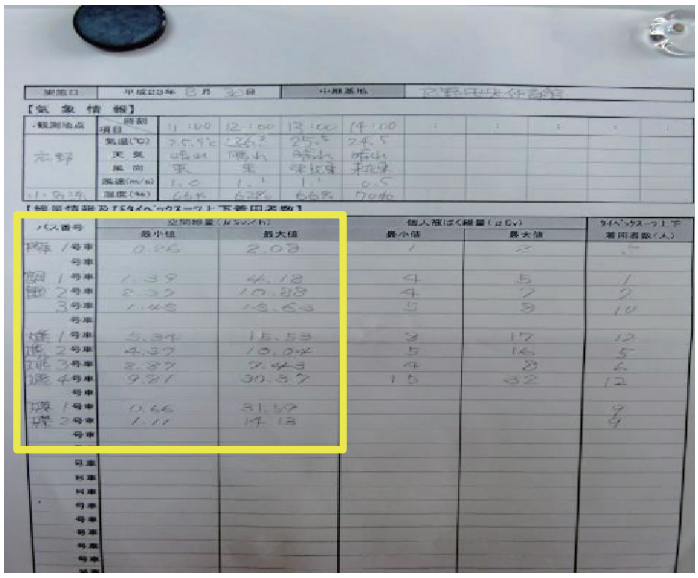


名称 車両出進行管理表（平成23年8月30日）
対象市町村 楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町

［中継基地：広野中央体育館、~~馬事公苑~~］

バス番号	行先	行先および人数	中継基地出発時刻	警戒区域立入時刻	警戒区域内時刻			道の駅ならは到着	警戒区域退出時刻	中継基地到着時刻	備考	
		世帯数/人数			回収開始	公用車先発	回収終了				タイベックス組数	未回収
1号車	楢葉町	10/10	10:26	10:36	10:50	12:07 5台	13:24 5台	公用車 12:15 バス 13:24	12:26 13:42	12:32 13:47	5	0
号車								公用車 バス				
1号車	富岡町	7/7	10:19	10:27	10:59		12:43 7台	公用車 バス 13:03	13:18	13:24	1	0
2号車	富岡町	10/10	10:21	10:28	10:55	12:03 6台	13:03 3台	公用車 バス 12:24 13:25	12:35 13:38	12:46 13:43	2	1
3号車	富岡町	12/12	10:23	10:31	11:01	12:26 6台	13:30 5台	公用車 バス 13:18 13:45	13:26 13:53	13:30 13:58	10	1
号車								公用車 バス				
1号車	大熊町	16/16	11:37	11:45	12:27	13:21 8台	14:40 8台	公用車 バス 13:57 13:15	14:07 15:30	14:14 15:36	12	0
2号車	大熊町	16/16	11:40	11:50	12:30	13:30 10台	14:02 6台	公用車 バス 14:00 14:38	14:12 14:51	14:19 14:57	5	0
3号車	大熊町	14/14	11:39	11:47	12:20	12:44 5台	14:20 9台	公用車 バス 13:20 14:35	13:30 14:44	13:37 14:50	6	0
4号車	大熊町	16/16	11:41	11:49	12:22	13:45 9台	14:35 5台	公用車 バス 14:15 15:10	14:28 15:20	14:36 15:23	12	2
号車								公用車 バス				
1号車	双葉町	19/19	11:39	11:48	12:27	13:53 8台	16:00 10台	公用車 バス 14:27 16:30	15:15 16:42	15:20 16:48	9	1
2号車	双葉町	18/18	11:45	11:54	12:37	14:08 8台	15:42 10台	公用車 バス 14:54 16:21	14:59 16:30	15:04 16:37	9	0
号車								公用車 バス				
号車								公用車 バス				

広野中央体育館の場合のみ記載する



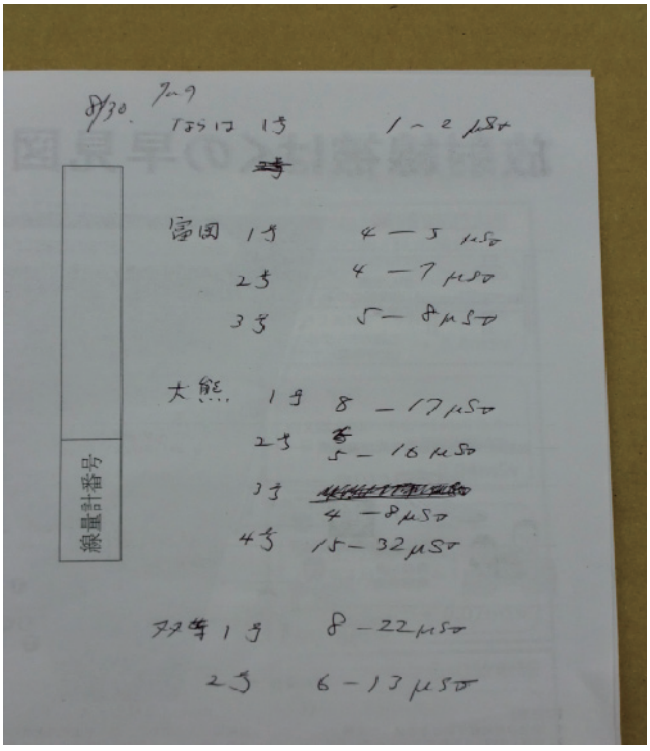
調査日 平成23年8月30日 中継基地 広野中央体育館

【気象情報】

観測地点	時刻 / 項目	11:00	12:00	13:00	14:00	:	:	:	:	:
広野	気温(℃)	25.9℃	26.2	25.5	24.5					
	天気	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ					
	風向	東	東	東北東	東北東					
	風速(m/s)	1.0	1.1	1.1	0.5					
	湿度(%)	66%	62%	66%	70%					

【線量情報及びタイベックスーツ上下着用者数】

バス番号	空間線量（μSv/h） 最小値	最大値	個人被ばく線量（μSv） 最小値	最大値	タイベックスーツ上下着用者数（人）
楢1号車	0.26	2.03	1	2	5
号車					
富岡1号車	1.39	4.18	4	5	1
富岡2号車	2.32	10.88	4	7	2
3号車	1.45	15.63	5	8	10
号車					
大熊1号車	5.34	15.53	8	17	12
大熊2号車	4.37	10.04	5	16	5
大熊3号車	2.87	7.43	4	8	6
大熊4号車	9.81	30.37	15	32	12
号車					
双葉1号車	0.66	31.59			9
双葉2号車	1.11	14.13			9
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					



8/30. 7~9

ならは 1号 1~2 μSv

~~2号~~

富岡 1号 4—5 μSv

2号 4—7 μSv

3号 5—8 μSv

大熊 1号 8—17 μSv

2号 5—16 μSv

3号 4—8 μSv

4号 15—32 μSv

双葉 1号 8—22 μSv

2号 6—13 μSv

線量計番号

DMAT活動記録

活動日	8月31日(水)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院

DMATメンバー	
医師	松本　尚
医師	本村　友一
看護師	水野　憲宏
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
7:30	平ビューホテル出発
8:15	広野体育館到着
8:34	ヴィレッジへ挨拶のため移動(本村医師，水野看護師)
8:40	関係者スクリーニング開始
8:50	一時立入住民受付(楢葉町・富岡町)開始
9:30	一時立入住民受付(楢葉町・富岡町)終了，東電による説明開始
10:20	説明終了，乗車開始
10:22	楢葉町1号出発
10:24	富岡町1号出発
10:30	一時立入住民受付(大熊町・双葉町)開始
10:40	一時立入住民受付(大熊町・双葉町)終了，東電による説明開始
11:35	説明終了，乗車開始(大熊町1号バス故障)
11:36	大熊町1号乗車可能
11:41	双葉町1号出発
11:43	大熊町3号出発
11:44	大熊町2号出発
11:45	大熊町1号，同4号出発
12:45	楢葉町1号到着(自家用車9台回収)
14:53	双葉町1号到着(自家用車7台回収)
15:04	富岡町1号到着(自家用車12台回収)
15:07	大熊町2号到着(自家用車16台回収)
15:20	大熊町4号到着(自家用車18台回収)
15:52	大熊町1号到着(自家用車16台回収)
16:10	大熊町3号到着(自家用車17台回収)
17:10	撤収
17:50	平ビューホテル到着

傷病者情報

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転機
8月31日	12:13	スタッフ	東電	男	58	右Ⅱ指，右手背の腫脹・刺し口有	虫刺傷	リンデロンVG－O塗布	帰宅
8月31日	15:17	双葉町	1－3－1	女	69	椅子に引っかかり転倒	両膝打撲	冷却・安静指示	帰宅

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　楢葉町
富岡町

号車		1
号車		1

被ばく線量	楢葉町	1～1 μ SV
	富岡町	6～9 μ SV
空間線量	楢葉町	0.51～1.89 μ SV
	富岡町	0.50～9.36 μ SV

楢葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		9	
	計	9	

関係者

職種	人数	
安全管理	2	
放射線管理	1	
引率者	1	
ドライバー	6	運転手1・巡回バス運転手3・予備2
消防	6	担当不明のため全数
その他	22	「道の駅ならは」職員
JAF	4	楢葉町2・広野待機2
誘導	15	
計	57	

計	住民計	9
	関係者計	57
	計	66

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
1		13	
	計	13	

関係者

職種	人数
安全管理	2
放射線管理	1
引率者	2
ドライバー	1
公用車	1
JAF	
計	7

計	住民計	13
	関係者計	7
	計	20

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　大熊町
双葉町

号車		1～4
号車		1

被ばく線量	大熊町	6～31 μ SV
	双葉町	9～16 μ SV
空間線量	大熊町	5.42～29.03 μ SV
	双葉町	0.71～26.47 μ SV

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
1		17	
2		16	
3		17	
4		18	
	計	68	

関係者

職種	人数
安全管理	8
放射線管理	4
引率者	8
JAF	8
ドライバー	4
計	32

計	住民計	68
	関係者計	32
	計	100

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		7	
	計	7	

関係者

職種	人数
安全管理	2
放射線管理	1
引率者	1
JAF	2
ドライバー	1
計	7

計	住民計	7
	関係者計	7
	計	14

名称	車両出発運行管理表（平成23年8月31日）
対象市町村	楢葉町 富岡町 大熊町 双葉町

［中継基地：広野中央体育館、馬事公苑］

バス番号	行先	世帯数/人数	中継基地出発時刻	警戒区域立入時刻	回収開始	公用車去発	回収終了		道の駅ならは到着	警戒区域退出時刻	中継基地到着時刻	備考 タイベックス着用	一時帰宅
1号車	楢葉	9/9 9	10:22	10:29	10:39		12:15 9	公用車 バス	12:24	12:35	12:45	0	0
号車								公用車 バス					
1号車	富岡	13/13	10:24	10:32	11:01	12:36 8	14:15 4	公用車 バス	13:02 14:40	13:14 14:56	13:23 15:04	3	1
号車								公用車 バス					
1号車	大熊	17/17	11:45	11:53	12:23	14:00 9	15:05 7	公用車 バス	14:33 15:30	14:52 15:44	14:59 15:52	15	1
2号車	大熊	16/16	11:44	11:52	12:32	13:27 7	14:17 9	公用車 バス	13:57 14:48	14:08 15:00	14:15 15:07	7	0
3号車	大熊	17/17	11:43	11:51	12:22	13:57 10	15:27 7	公用車 バス	14:30 15:52	14:45 16:03	14:55 16:10	7	0
4号車	大熊	18/18	11:45	11:53	12:30	13:29 8	14:10 10	公用車 バス	14:03 14:52	14:14 15:10	14:24 15:20	8	0
号車								公用車 バス					
1号車	双葉	7/7	11:41	11:48	12:29	13:39 5	14:00 2	公用車 バス	14:12 14:46	14:25 14:48	14:35 14:53	- 6	0
号車								公用車 バス					
号車	合計	97/97						公用車 バス					
号車								公用車 バス					
号車								公用車 バス					
号車								公用車 バス					

広野中央体育館の場合のみ記載する

実施日	平成23年8月31日	中継基地	広野中央体育館

【気象情報】

観測地点	時刻 / 項目	10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		:	:	:
広野 浪江	気温(℃)	25.7	25.7	26.6	26.4	26.4	26.9	26.5	26.1	27.0	28.6	27.5	29.0			
	天気	曇	曇	晴	曇	晴	晴	くもり	くもり	晴	晴	晴	晴			
	風向	東	東	南東	東南東	東南東	東	南東	東南東	南南東	東南東	[illegible]	南東			
	風速(m/s)	0.9	1.6	1.5	1.6	2.1	2.3	1.8	3.0	2.1	2.4	2.6	3.1			
小名浜	湿度(%)	84		81		77		75		80		78				

【線量情報及びタイベックスーツ上下着用者数】

	バス番号	空間線量（μSv/h） 最小値	空間線量（μSv/h） 最大値	個人被ばく線量（μSv） 最小値	個人被ばく線量（μSv） 最大値	タイベックスーツ上下着用者数（人）
楢	1 号車	0.51	1.89	1	1	0
	号車					
富	1 号車	0.50	9.36	6	9	3
	号車					
大熊	1 号車	9.04	25.32	11	23	15
	2 号車	5.42	15.97	7	18	7
	3 号車	15.11	29.03	13	31	7
	4 号車	8.75	16.92	6	12	8
	号車					
双	1 号車	0.71	26.47	9	16	6
	号車					
	号車					

DMAT活動記録

活動日	9月1日(木)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	広野体育館
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院

DMATメンバー	
医師	松本　尚
医師	亀山　大介
看護師	本庄　貴志
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
7:30	平ビューホテル出発
8:20	広野体育館到着
8:50	関係者スクリーニング開始
9:05	一時立入住民受付(富岡町・双葉町)開始
9:45	一時立入住民受付(楢葉町・富岡町)終了，東電による説明開始
10:28	説明終了，乗車開始
10:32	富岡町1号出発
10:33	双葉町3号出発
10:34	双葉町1号出発
10:37	双葉町2号出発
10:44	一時立入住民受付(大熊町)開始
11:10	一時立入住民受付(大熊町)終了，東電による説明開始
11:50	説明終了，乗車開始
11:54	大熊町7号出発
11:57	大熊町1号出発，同4号出発
11:58	大熊町5号出発
11:59	大熊町8号出発
12:00	大熊町11号出発
12:01	大熊町2号出発
12:02	大熊町9号出発
12:03	大熊町6号出発
12:05	大熊町3号出発，同12号出発
12:08	大熊町10号出発，同13号出発
13:10	富岡町1号到着・降車終了
13:54	双葉町1号到着・降車終了
13:55	双葉町3号到着・降車終了
14:40	双葉町2号到着・降車終了
15:06	大熊町11号到着・降車終了
15:13	大熊町1号到着・降車終了
15:21	大熊町5号到着・降車終了
15:28	大熊町7号到着・降車終了
15:33	大熊町9号到着・降車終了
15:38	大熊町6号到着・降車終了
15:47	大熊町10号到着・降車終了
15:50	大熊町12号到着・降車終了
15:59	大熊町8号到着・降車終了
16:07	大熊町3号到着・降車終了
16:18	大熊町13号到着・降車終了
16:24	大熊町2号到着・降車終了
16:32	大熊町4号到着・降車終了
16:47	スクリーニング終了
17:20	撤収
18:10	平ビューホテル到着

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　富岡町
双葉町

号車		1
号車		1～3
被ばく線量	富岡町	4～6 μ SV
	双葉町	5～25 μ SV
空間線量	富岡町	2.01～7.51 μ SV
	双葉町	0.34～16.15 μ SV

富岡町

バス番号		住民数（確定数）	
1		6	
	計	6	

関係者

職種	人数	
安全管理	1	
放射線管理	2	
引率者	1	
ドライバー	3	運転手1・予備2
消防	6	担当不明のため全数
計	13	

計	住民計	6
	関係者計	13
	計	19

双葉町

バス番号		住民数（確定数）	
1		14	
2		15	
3		8	
	計	37	

関係者

職種	人数
安全管理	3
放射線管理	7
引率者	3
ドライバー	
計	13

計	住民計	37
	関係者計	13
	計	50

一時帰宅住民情報

実施場所　広野体育館

行き先市町村　大熊町

号車　1～13
号車

被ばく線量　大熊町　12～95 μ SV

空間線量　大熊町　3.75～87.86 μ SV

大熊町

バス番号		住民数（確定数）	
1		19	
2		19	
3		21	
4		19	
5		16	
6		19	
7		16	
8		19	
9		16	
10		17	
11		19	
12		19	
13		19	
	計	238	

関係者

職種	人数
安全管理	13
放射線管理	26
引率者	9
ドライバー	13
計	61

	住民計	238
傷病者情報	関係者計	61
	計	299

日付	時間	市町村	通し番号	性別	年齢	症状	診断	対応	転帰
9月1日	15:35	大熊町	7－1－2	女	69	右膝擦過傷	右膝擦過傷	生食20ml洗浄， バンドエイドで保護	帰宅
9月1日	15:35	大熊町	9－6－1	女	59	脱水症状	脱水症状	OS-1 500ml×2本を飲んでもらう	帰宅
9月1日	16:11	大熊町	3－10－1	男	81	左手の痺れ	筋肉痛， 脱水症	脱水予防のためOS-1(500ml)×1 を飲んでもらう	帰宅
9月1日	16:34	大熊町	10－8－1	男	63	頭痛・脱水	脱水症・頭痛	飲水を促す，OS-1(500ml)1本， カロナール2T (処方)カロナール2T×2回分	帰宅
9月1日	16:46	報道関係者		男	46	虫刺され	虫刺傷	ムヒ2本処方	帰宅

実施日	平成23年9月1日
対象市町村	富岡町・大熊町・双葉町

［中継基地：広野体育館］

バス番号	行先および人数		中継基地発		警戒区域立入			警戒区域退出			中継基地着		備考	
	行先	世帯数/人数	乗車完了時刻	出発時刻	進入時刻	降車開始時刻	降車終了時刻	乗車開始時刻	乗車終了時刻	退出時刻	到着時刻	降車終了時刻	タイベックス着用数	待機場所
富岡1号車		4/6	10:33	10:33	10:42	10:59	11:13	11:30	12:41	13:01	13:07	13:10	2	巡回待機
号車		/												
大熊1号車		12/19	11:56	11:57	12:05	12:38	12:49	13:38	14:30	14:59	15:04	15:13	18	1-4付近
大熊2号車		11/19	12:01	12:01	12:07	12:38	13:03	13:25	14:53	15:26	15:30	16:29	19	2-4〃
大熊3号車		12/21	12:05	12:05	12:11	12:38	12:54	13:27	14:52	15:22	15:28	16:07	21	3-10
大熊4号車		12/19	11:57	11:57	12:05	12:36	12:52	14:17	15:05	15:39	15:45	16:32	18	4-12
大熊5号車		9/16	11:58	11:58	12:06	12:38	12:44	13:40	14:30	15:02	15:04	15:21	8	老人ホーム [illegible]
大熊6号車		10/19	12:03	12:03	12:11	12:39	12:51	13:20	14:32	15:10	15:16	15:38	19	6-3付近
大熊7号車		9/16	11:55	11:55	12:03	12:37	12:52	13:16	14:32	15:08	15:14	15:28	16	7-6〃
大熊8号車		11/19	11:59	11:59	12:06	12:40	13:00	14:00	14:46	15:18	15:23	15:59	18	8-1〃
大熊9号車		9/16	12:02	12:02	12:08	12:35	13:00	13:11	14:37	15:09	15:14	15:33	16	10-9〃
大熊10号車		11/17	12:08	12:08	12:17	12:47	13:01	13:23	14:43	15:16	15:21	15:47	16	10-9〃
大熊11号車		12/19	12:00	12:00	12:06	12:35	12:42	14:10	14:31	14:55	15:01	15:06	19	11-1付近
大熊12号車		10/19	12:05	12:05	12:12	12:37	12:55	13:30	14:45	15:18	15:23	15:50	15	12-9〃
大熊13号車		12/19	12:08	12:08	12:17	12:46	13:07	14:25	14:55	15:25	15:30	16:18	19	熊川地区集会所
号車	小計	140/238												
双葉1号車		9/14	10:34	10:34	10:46	11:18	11:34	12:13	13:09	13:41	13:48	13:56	13	1-4の近く
双葉2号車		8/15	10:37	10:37	10:45	11:23	11:43	12:35	13:55	14:28	14:34	14:40	15	2-5前
双葉3号車		4/8	10:33	10:33	10:42	11:17	11:37	12:05	13:05	13:46	13:52	13:55	6	3-2付近
号車	小計（3km圏内）	21/37 17/29												
号車	合計	165/281												
号車	（内3km圏内	157/267）												
号車		/												
号車		/												

実施日	平成23年9月1日	中継基地	広野体育館

【気象情報】

観測地点	項目＼時刻	8:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	:	:
広野・浪江・小名浜	気温(℃)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
	天気	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
	風向	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
	風速(m/s)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
	湿度(%)	87	82	79	78	81	79	82		

【線量情報及びタイベックスーツ上下着用者数】

バス番号	空間線量（μSv/h）		個人被ばく線量（μSv）		タイベックスーツ上下着用者数（人）
	最小値	最大値	最小値	最大値	
富岡1号車	2.01	7.51	4	6	2
号車					
大熊1号車	4.10	6.84	6	14	18
〃2号車	3.75	67.16	12	53	19
〃3号車	18.02	41.23	21	38	21
〃4号車	22.75	49.55	33	66	18
〃5号車	13.10	87.86	32	68	8
〃6号車	32.44	75.90	38	63	19
〃7号車	42.80	71.75	34	55	16
〃8号車	37.61	77.98	48	69	18
〃9号車	7.56	58.94	12	40	16
〃10号車	16.72	57.94	30	52	16
〃11号車	23.45	31.58	21	43	19
〃12号車	33.91	67.38	34	60	15
〃13号車	8.32	77.82	38	95	19
号車					
双葉1号車	1.48	5.45	6	15	13
〃2号車	1.03	16.15	8	25	15
〃3号車	0.34	13.26	5	13	6
号車					
号車					
号車					
号車					
号車					

《スクリーニング終了時刻》 :

DMAT活動記録

活動日	9月2日(金)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院DMAT

DMATメンバー	
医師	飯田　浩章
医師	亀山　大介
看護師	本庄　貴志
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:10	平ビューホテル出発
8:30	磐城共立病院到着，定時連絡（OFC医療班，DMAT事務局）
9:05	Jヴィレッジへ出発（全員）
10:00	到着，ミーティングへ参加
10:22	ミーテイング終了，Jヴィレッジを出発
11:25	磐城共立病院到着
15:00	MCA無線にてOFC医療班へウェブ会議の有無を確認
15:07	OFC医療班よりシステム不良のメールが有り
15:23	ウェブ会議の中止メールが有り
17:05	撤収

DMAT活動記録

活動日	9月3日(土)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院DMAT

DMATメンバー	
医師	飯田　浩章
医師	亀山　大介
看護師	本庄　貴志
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:10	平ビューホテル出発
8:28	磐城共立病院到着
8:45	定時連絡(OFC医療班，DMAT事務局)
15:00	Web会議開始(飯田医師出席)
15:40	Web会議終了
17:00	撤収

DMAT活動記録

活動日	9月4日(日)
活動内容	磐城共立病院待機
活動場所	磐城共立病院
活動DMAT	日本医科大学千葉北総病院DMAT

DMATメンバー	
医師	飯田　浩章
医師	亀山　大介
看護師	本庄　貴志
調整員	渡邉　暁洋
調整員	山内　延貴
マネージメントチーム	

時刻	内容
8:15	平ビューホテル出発
8:30	磐城共立病院到着，定時連絡(OFC医療班，DMAT事務局)
14:00	災害医療センターDMAT事務局到着，引継ぎ開始
14:20	引継ぎ完了・撤収

撤収隊　国立病院機構災害医療センター

福島待機ＤＭＡＴ活動記録

撤収隊（国立病院機構災害医療センター）

１　活動期間

平成２３年９月４日（日）～９月７日（水）

２　派遣人員

近藤　久禎（医師）

小早川　義貴（医師）

矢島　徳和（放射線技師）

大野　龍男（業務調整員）

市原　正行（業務調整員）

３　活動内容

・ 福島第一原発での多数傷病者発生に備えたＤＭＡＴの福島待機活動終了に伴い、福島関係機関への活動終了報告・謝意表明・意見交換
・ 待機ＤＭＡＴが使用した当院所有機材（ＰＣ、ＭＣＡ無線機等）の回収
・ 一時立入中継基地での医療班としての対応（９月７日、広野中央体育館）

４　時系列活動記録

９月４日（日）

１０：００　災害医療センター出発

１２：５０　いわき市内到着

１３：５５　いわき市立総合磐城共立病院到着

第２２次隊の日本医科大学千葉北総病院ＤＭＡＴから業務引き継ぎ

１４：３０　日本医科大学千葉北総病院ＤＭＡＴ活動終了、離任

１５：００　オフサイトセンター医療班ウェブ会議出席、ＤＭＡＴの活動終了を報告

１５：１５　ウェブ会議終了

１５：３０　いわき市立総合磐城共立病院長、救命救急センター長に活動報告

１５：４５　いわき市立総合磐城共立病院出発、宿舎にて資料整理

９月５日（月）

９：００　いわき市内の宿舎出発

１０：００　Ｊヴィレッジ到着、医療班ミーティングに参加。

ＤＭＡＴの活動終了を報告。

１０：３０　Ｊヴィレッジ出発、福島市へ移動、資料整理

９月６日（火）

１０：３０　福島市内の宿舎出発

１０：５０　福島県立医科大学附属病院到着。関係者へ活動報告。

１２：００　福島県立医科大学附属病院出発。

１３：００　福島県庁到着。
馬場地域医療課長への活動報告と意見交換。

１４：００　オフサイトセンター（福島県庁舎内）訪問
医療班への活動報告。

１４：３０　福島県庁にて、佐藤保健福祉部長と面談。活動報告。

１６：００　日本赤十字社福島県支部到着。
事務局長、事業推進課長、組織振興課社員係長と面談。活動報告。

１７：００　日本赤十字社福島県支部出発。

９月７日（水）

８：００　矢島放射線技師合流、福島市内の宿舎出発

９：４５　広野中央体育館到着

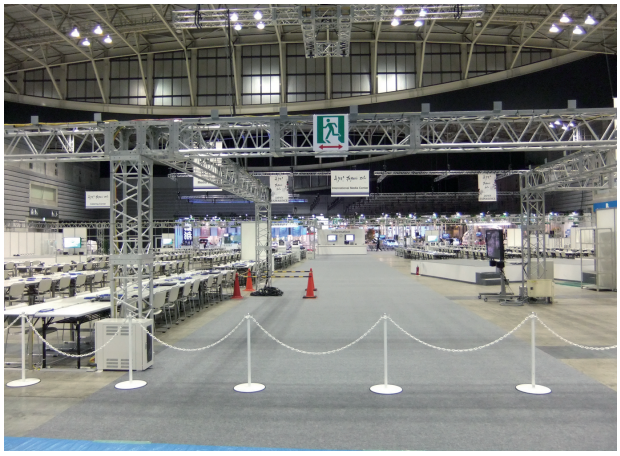
・体制：現地医療班統括（医療班長）：後藤謙和（厚労省）
医療班（マネージメントチーム）：災害医療センター
医療班（救護エリア担当）：坂下厚生総合病院医療班

・一時立入者：双葉町（対象者数８０世帯／１４１名）※全世帯３ｋｍ圏

・利用バス等：専用バス１０台

１６：２０　活動終了。広野体育館出発。

APEC 報告書



EXCEL HOTEL TOKYU

APEC
JAPAN 2010
DMAT本部
LEADERS' WEEK IN YOKOHAMA
DMAT

救急
入口

DMAT

救命救急センター

倉庫
業務用無線局
DMAT

ANA
ANA CATERING SERVICE
医師

DMAT本部
LEDERS' WEEK IN YOKOHAMA

ＡＰＥＣ報告書　目次

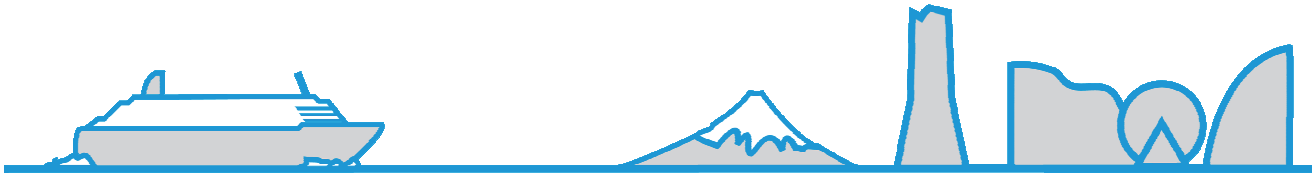
1. 横浜市保健部局の対応	横浜市健康福祉局	山田裕之	p. 331
2. 横浜市消防局の対応	横浜市消防局西消防署	松原正之	p. 359
3. 神奈川県の対応	神奈川県保健福祉局	金井信高	p. 363
4. 集団災害対応			
1)　災害医療対応計画（DMAT APEC 対応マニュアル）			
	国立病院機構災害医療センター	近藤久禎	p. 368
2)　本部活動	国立病院機構災害医療センター	市原正行	p. 479
3)　横浜配備ＤＭＡＴの活動	前橋赤十字病院	中村光伸	p. 498
	東京医科歯科大学大学院	大友康裕	
4)　羽田配備ＤＭＡＴの活動	山形県立中央病院	森野一真	p. 517
	国立病院機構災害医療センター	井上潤一	
5)　成田配備ＤＭＡＴの活動	東北大学大学院	山内　聡	p. 530
	愛知医科大学	中川　隆	
6)　横浜市内の病院の準備			
	神奈川県警友会けいゆう病院	湯浅洋司	p. 537
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	森村尚登	p. 539
	横浜市立みなと赤十字病院	伊藤敏孝	p. 544
	済生会横浜市東部病院	船曳知弘	p. 548
	労働者健康福祉機構横浜労災病院	中森知毅	p. 551
7)　現場医療活動マニュアル	藤沢市民病院	阿南英明	p. 554
8)　無線について			
日赤無線の活用について	武蔵野赤十字病院	高桑大介	p. 561
ＭＣＡ無線の活用について	国立病院機構災害医療センター	大野龍男	p. 573

1.横浜市保健部局の対応

横浜市健康福祉局　山田　裕之

2010APEC
2010APEC
2010APEC
2010APEC

2010 年日本APEC横浜開催



救急･災害医療体制
運営結果報告書

APEC JAPAN 2010 in YOKOHAMA
7th-14th November

平成 22 年 12 月

横浜市健康福祉局

開催地として運営を支援した横浜市健康福祉局（衛生担当部局）の取組みは、以下のとおり。

1　任　務

(1) 会議参加者等の体調急変に迅速的確に対応する救急医療体制と搬送先医療機関の確保

(2) テロ災害等の危機事案発生時の災害医療体制の確立と搬送先医療機関の確保

2　救急･災害医療体制の検討

(1) 医療班及び同班ワーキンググループによる検討

平成 21 年 12 月に外務省から要請された「会場内にメディカルオフィス 2 か所の設置運営（開催国の義務)」のほか、本市の独自対応を加味した医療体制をＡＰＥＣ開催支援チーム医療班（ＡＰＥＣ開催推進課、消防局緊急対策課及び救急課、健康福祉局医療政策課、病院経営局総務課、都市経営局大学調整課から構成。班長は医療政策課救急･災害医療担当課長）において検討した。

また、医療班に市内救命センター勤務医師や病院事務職員を加えたワーキンググループを設け、協力医療機関の連携体制を強固にしながら、より実務的な検討を重ねた。

(2) 厚生労働省との協働による検討

本市における検討途上において、首脳会議期間は厚生労働省による医療チームが対応するとの情報が届いたため（外務省からの事前情報はなし)、急きょ厚労省との協議により、双方の棲み分けを行った。以後、厚労省のＡＰＥＣ救急医療体制に係る有識者会議等に横浜市も出席するなど協働して検討を重ねた。

3　厚労省との協働

本市では平成 21 年 10 月から検討を開始していたが、平成 22 年 5 月に「首脳会議期間中は厚労省による医療チームが対応する」「厚労省による首脳対応は洞爺湖サミットの前例を基本とする」ことが厚労省から伝わり、急きょ厚労省と協議を行った。

協議では、本市から「首脳会議前となる会期前半は横浜市が主体となり厚労省が支援」「首脳会議期間を含む会期後半は厚労省が主体となり横浜市が支援」との位置づけを提案し、合意を得た。

厚労省との協議に当たり、本市は厚労省に対し、「首脳等ＶＩＰ用に整備する診療機器は、会期前半から整備し、横浜市の医療チームにも使用させてほしい」「ＶＩＰ用診療機器の整備費用（主にレンタル経費）は全額厚労省で負担してほしい」旨を申し入れ、いずれも了承を得た。

また、災害医療体制の強化策としては、会期前半にＤＭＡＴ等の事前協力を申し入れ、「可能な限り対応する」との回答を得た。

4　今回の救急･災害医療体制の特徴

(1) 厚労省との協働による現地医療本部の運営

会場内に現地医療本部に設置し、本市及び厚労省が一体となって救急･災害医療体制を運営指揮した。

現地医療本部

会期前半：インターコンチネンタルホテル客室に横浜市が設置し、厚労省連絡員が参加。

会期後半：けいゆう病院に厚労省が現地医療対策本部を設置し、会期前半の医療本部を第２本部として運営。それぞれの本部に本市連絡員を派遣し、本市と厚労省が一体となり運営指揮した。

なお、けいゆう病院の会議室は本市が交渉し借上げたが、室料は全額、厚労省が負担した。

(2) 「救急チーム横浜」の編成

本市が関与した国際会議等の救急医療に関する運営は、これまで市大センター病院に業務負担が集中していたが、今回は市大センター病院のほか、市民病院、みなと赤十字病院、東部病院、けいゆう病院による共同チーム（以下「救急チーム横浜」）を編成し負担の分散を図った。

また、メディカルオフィスへの医師派遣については、市医師会にも協力を要請した。

「救急チーム横浜」による運営は、当初目的を円滑かつ的確に遂行しただけでなく、市内医療機関の一体感を生み出し、けいゆう病院にあっては立地条件を生かした役割が明確に位置づけられた。

今回の取り組みは、今後の運営スタイルの基盤形成の観点からも意義があった。

(3) メディカルオフィス・ＶＩＰ用救護室など重層的な医療提供体制を整備

従来は救護室（今回のメディカルオフィスに相当）を設置し、会議参加者に一律の初期救急医療をサービスしていたが、今回は開催国に義務付けられたメディカルオフィス（会議センター及びメディアセンター（展示ホール）の２か所に設置。外務省の指示により初期診療及び投薬を無償サービス）のほか、首脳等のＶＩＰ用救護室を設置するなど重層的な医療提供体制を整え、万全を期した。

ＶＩＰ用救護室は、沖縄サミットや洞爺湖サミットの例に倣い、設置したものである。設置場所は、外務省によりインターコンチネンタルホテル７階のジュニアスイートルームが割り当てられた。

客室内に配備した医療資機材は厚労省によるレンタルのほか、首脳等対応医師チーム（都内大学病院）や本市市民病院から持ち出し、施設的には申し分ないものであったが、医療資源が沖縄や洞爺湖とは異なる本市にあって、過去に倣った救護室の必要性については意見が分かれるところでもあった。一方、アメリカやカナダが救護室を確認に来るなど、対外的に要素も多分にあり、国の判断に従うべきところと考える。

なお、終了後の反省会では、実際に整備したＶＩＰ用救護室について「厚労省と本市の運営コンセプト（厚労省はＶＩＰ限定、本市はＶＩＰ以外であっても症状によっては診療）は同一にするべきであった」「部屋の機能は良かったが、患者動線が悪すぎた。搬送を考慮すべきであった」との意見が出された。また、メディカルオフィスについては「外務省の判断とはいえ、あまりにも診療機能が貧弱であった」との意見が寄せられた。

ＶＩＰ用救護室

メディカルオフィス
（メディアセンター）

(4) 医療従事者を統括するメディカルディレクターを配置

会場内の複数の場所で医療サービスが提供されることから、初めての試みとして、これら医療従事者を統括する立場であるメディカルディレクターを配置した。

メディカルディレクターは、会場内の医療活動を統括するほか、搬送先医療機関の調整を任務としたため、市内の医療機関の事情に精通している市内の救命救急センター長をもって充てた。

なお、会期後半についても、その役割が不可欠であることを本市から厚労省に進言し、会期前半と同様に配置した。(12 時間交替による 24 時間体制)

(5) 首脳等宿泊ホテルへの支援として医療コンシェルジュを実施

首脳等宿泊ホテルで生じた救急案件へのサポートを行う医療コンシェルジュを実施した。

厚労省がホテルへの往診態勢を確保した会期後半とは異なり、会期前半は現地医療本部に電話連絡があれば、メディカルディレクターが電話相談に応じ、必要に応じて救急車の手配や搬送先医療機関の調整等を行う医療コンシェルジュを実施することとした。(結果、取扱件数はゼロ)

なお、終了後の反省会では、首脳等宿泊ホテルへの往診態勢や、夜間だけでも医師を配置すべきであった等の意見が寄せられた。

(6) 搬送先病院を事前指定

ＡＰＥＣ関連の救急搬送事案については、傷病者の区分ごとに搬送先を振り分ける方式とした。

特に首脳については、厚生労働省により市大センター病院と済生会横浜市東部病院が指定された。

検討当初は、メディカルオフィスへの出務病院（当初は市大センター病院、みなと赤十字病院、市民病院の３病院を予定）が、出務当番日と連動させて、ＡＰＥＣ関連の搬送患者を受け入れる計画としていた。しかし、厚労省により首脳等搬送先医療機関が指定されたことに伴い、当初計画を見直し、傷病者の区分ごとに搬送先病院を振り分ける方式に改めたものである。

なお、市大センター病院及び済生会横浜市東部病院は、会期後半の４日間、ＩＣＵ２床、手術室１室を確保した。(空床確保経費は厚労省が負担)

(7) 災害医療体制強化策及び広域搬送計画の策定

ＮＢＣテロ災害等の発生に備え、厚労省・ＤＭＡＴ事務局とも協議を重ね、会期後半については、ＤＭＡＴやＮＢＣ専門家チーム等を事前配備するとともに、周辺自治体を含めた多数傷病者発生時の搬送計画を策定した。

また、各災害拠点病院に対しては、二度の集合研修（説明会）を行い、災害発生時の運用態勢を確認したほか、事前訓練の実施や期間中の院内体制の強化等について協力要請を行った。

リーダーズウィーク中はＤＭＡＴ事務局が現地医療本部に常駐し、本市との連携を確保した。また、会期後半はＤＭＡＴ８隊、ＮＢＣ専門家医師チーム２隊が会場内に待機した。広域搬送計画の策定では、市内災害拠点病院の１時間以内に応需できる重症患者数等を調査し、その数値（25 人）を参考に市内災害拠点病院のキャパシティを設定した。傷病者数が上限値を超えた場合は、安定化が図られた患者を市外応援救急隊や消防ヘリ、ドクターヘリにより市外及び県外の災害拠点病院に転院搬送する計画を策定。本計画の策定にあたり東京都、千葉県、静岡県、埼玉県に協力要請を行った。

5　診療実績等

(1) 会場内

区　分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
救護室受診等	ｲﾝﾀｰｺﾝﾁﾈﾝﾀﾙ(VIP対応)	0	0	0	0	0	0	1 (※1)	0	1
	会議ｾﾝﾀｰ・ﾒﾃﾞｨｶﾙｵﾌｨｽ	0	4	4	1	1	0	2	1	13
	ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ・ﾒﾃﾞｨｶﾙｵﾌｨｽ	0	1	1	2	4	2	4	5	19
	計	0	5	5	3	5	2	7	6	33
(内数)救急隊搬送患者数		0	0	0	0	0	0	0	1 (※2)	1

※1 宿泊ホテルに首脳対応医師等チームを往診したもの(処方のみ)

※2 ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｶﾙｵﾌｨｽ受診者(展示場通訳)を、けいゆう病院に搬送したもの

【会場内限定】APEC救急取扱事案一覧

(パシフィコ横浜)

No.	月日	受診時間	受診方法(独歩の有無)	年齢	性別	国籍	APECとの関係(首脳、閣僚、政府代表者、プレス、警察、警備等)	転記(帰宅、入院)	診断名	対応場所(インタコ、会議C、メディアC)	備考
1	11月8日	9:50	独歩	不明	男性	日本	外務省	復職	足底部水泡両足	会議C	相談、ガーゼ渡す
2	11月8日	12:35	独歩	53	女性	日本	外務省	帰宅(けいゆう病院へ通院)	嘔気	メディアC	病院にて点滴、下痢止めを処方
3	11月8日	13:10	独歩	55	男性	日本	外務省	復職	上気道炎	会議C	処方(ベンザブロック)
4	11月8日	15:30	独歩	28	女性	日本	経産省	帰宅(けいゆう病院へ通院)	膀胱炎の服薬相談	会議C	
5	11月8日	17:25	独歩	30	女性	日本	外務省	復職	感冒	会議C	処方(ベンザブロック)
6	11月9日	12:58	独歩	30	男性	インドネシア	政府関係者	復職	腰痛症	会議C	処方(湿布)
7	11月9日	13:58	独歩	48	男性	日本	神奈川県警	復職	腹痛	会議C	処方(湿布)
8	11月9日	14:08	独歩	20	女性	日本	外務省	休息	ふらつき、嘔気	会議C	休息、16時職場復帰
9	11月9日	14:52	独歩	32	女性	日本	外務省	復職	右足首痛	会議C	処方(湿布)
10	11月9日	17:35	独歩	44	男性	日本	警備員	復職	上気道炎	メディアC	処方(ベンザブロック)
11	11月10日	9:45	独歩	47	男性	日本	外務省(シンガポール大使館)	復職	上気道炎	会議C	処方(ベンザブロック)
12	11月10日	11:37	独歩	35	女性	日本	外務省	復職	感冒	メディアC	本人持参薬対応
13	11月10日	15:42	独歩	39	女性	日本	その他	復職	頭痛、吐気	メディアC	MD対応、1時間ほど横になり、その後復職
14	11月11日	9:10	独歩	20代	男性	日本	警察官	復職	湿疹、あかぎれ	会議C	軟膏、絆創膏
15	11月11日	10:00	独歩	29	女性	香港	プレス	復職	顔面湿疹	メディアC	軟膏
16	11月11日	15:45	独歩	26	女性	日本	外務省	復職	腰部打撲	メディアC	処方(湿布)
17	11月11日	17:00	独歩	53	女性	日本	外務省	復職	感冒	メディアC	処方(ベンザブロック)
18	11月11日	17:55	独歩	37	男性	日本	プレス	復職	頭痛	メディアC	処方(ベンザブロック)
19	11月12日	12:35	独歩	28	男性	アメリカ	プレス	復職	感冒	メディアC	処方(バファリン)
20	11月12日	13:26	独歩	26	女性	日本	プレス	復職	頚肩腕症候群疑い	メディアC	処方(バファリン)
21	11月13日	8:18	独歩	39	男性	日本	プレス	復職	左手第一指切傷	メディアC	圧迫止血(ﾃｰﾌﾟ固定) けいゆう受診
22	11月13日	13:31	独歩	42	女性	チリ	政府関係者	復職	頭痛	会議C	処方(セデス)
23	11月13日	13:57	独歩	48	女性	日本	警備員	復職	感冒	メディアC	処方(ベンザブロック)
24	11月13日	15:40	独歩	42	女性	チリ	政府関係者	復職	頭痛(再受診)	会議C	血圧再測定、休息
25	11月13日	16:00	独歩	43	男性	ブルネイ	政府関係者	復職	捻挫(左足首)	メディアC	処方(湿布)
26	11月13日	17:00	独歩	29	男性	韓国	プレス	復職	頭痛	メディアC	処方(セデス)
27	11月13日	20:03	往診	56	男性	マレーシア	高級実務者(駐日大使)	復職	胃腸炎	首脳対応チーム往診	処方
28	11月14日	10:35	徒歩	30	男性	日本	外務省	復職	左小趾水疱	メディアC	消毒、ガーゼ保護
29	11月14日	11:34	徒歩	49	男性	フィリピン	プレス	復職	歯痛	メディアC	処方
30	11月14日	12:26	徒歩	29	男性	アメリカ	政府関係者	復職	肋間神経痛疑い	会議C	内服、湿布
31	11月14日	13:10	徒歩	24	男性	日本	警察官	復職	上気道炎	メディアC	処方(ベンザブロック)
32	11月14日	13:30	徒歩	42	男性	ロシア	プレス	復職	胃酸過多	メディアC	処方
33	11月14日	16:55	徒歩	22	女性	日本	その他	救急搬送 診療後帰宅	虫垂炎の疑い	メディアC	会場内専任救急隊搬送

会場内取扱傷病者 分類表

区 分	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計	%
首 脳									0	0.0%
閣僚・高級実務者							1		1	3.0%
外国政府関係者			1				3	1	5	15.2%
外務省職員		4	2	2	2			1	11	33.3%
経産省職員		1							1	3.0%
警察官			1		1			1	3	9.1%
警備員			1				1		2	6.1%
プレス					2	1	2	2	7	21.2%
その他				1		1		1	3	9.1%
計	0	5	5	3	5	2	7	6	33	100.0%

現地医療対策本部取扱事案一覧

No.	月日	相談時間	発生現場	年齢	性別	国籍	APECとの関係（首脳、閣僚、政府代表、プレス、警察、警備等）	相談内容	対応	対応病院	転帰（帰宅、入院）	備考
1	11月12日	17:03	ロイパ	女	53	（不明）	（不明）	膀胱炎。アレルギーのためマクロライド抗生剤希望（ホテル職員からの電話）	けいゆう病院への受診勧奨	（不明）	（不明）	けいゆう病院への受診は確認できず
2	11月13日	18:50	パンパシ	男	61	ペルー	首脳（大統領）	県警から救急課に「ペルー大統領が体調が悪いので入院させたいとの情報があるが、承知しているか」との照会あり。救急課から医療対策本部に対応依頼あり。	ホテル2階で休憩中。首脳対応医師等チーム・救急車に出場待機を指示。19:25独歩で自室に戻る。	なし	なし	適正な情報ルートを徹底
3	11月13日	20:03	インタコ	男	56	マレーシア	高級実務者（駐日大使）	腹痛・下痢。夕食会終了後に宿泊先（ベイシャラ）まで往診してほしい。	夕食会終了に合わせ、首脳対応医師等チームをベイシェラに派遣。診察の結果、胃腸炎（処方のみ）で終了。	なし	処方	第一報は、宿泊先であるベイシェラトンから
4	11月14日	16:55	メディアC	女	22	日本	展示ホール通訳	腹痛でメディアCメディカルオフィスを受診。	虫垂炎の疑い。会場専任救急隊がけいゆう病院に搬送（メディカルディレクターが病院調整）	けいゆう	帰宅	17:24 指令 17:25 出場 17:27 現着

＜補足＞

①首脳会議にあわせ 12 日～14 日は、首脳等宿泊ホテルへの往診体制も用意

②ＶＩＰ対応の１件（13 日）は、宿泊ホテル（横浜ベイシェラトン）へ往診し処方したもの

③メディアセンターのメディカルオフィスは、メディアの入りに比例して利用者が増加

④会期前半のメディカルオフィス利用者の大半は中央省庁職員

⑤メディアセンター側から救急隊が１人を搬送（虫垂炎の疑い）。検査後、帰宅

⑥全員軽症

(2) ホテルからの照会･要請件数

区　分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
会場･ホテルからの要請等	ｲﾝﾀｰｺﾝﾁﾈﾝﾀﾙ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ﾛｲﾔﾙﾊﾟｰｸ	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	ﾊﾟﾝﾊﾟｼﾌｨｯｸ	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ﾎﾃﾙﾆｭｰｸﾞﾗﾝﾄﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横浜ﾍﾞｲｼｪﾗﾄﾝ	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	0	0	0	0	0	1	2	0	3
(内数)救急隊搬送患者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜補足＞

３件の概要は以下のとおり

①12 日　ロイヤルパークホテル

体調不良の要人情報　→医師に往診準備を指示　→自室に戻ったとの情報で準備待機解除

②13 日　パンパシフィックホテル

持病に伴う薬（マクロライド抗生剤）の要求　→現地医療本部がけいゆう病院を紹介

③13 日　横浜ベイシェラトンホテル

体調不良で診察を希望している政府高官がいるとの情報連絡 →公務終了後に往診･処方

(3) 指定病院ごとの診療実績

区　分		7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	計
病院受診(walk in 含む)	市大センター病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	済生会東部病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	みなと赤十字病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市民病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	けいゆう病院	3	6	2	5	5	5	7	3(※3)	36
	計	3	6	2	5	5	5	7	3	36

※3 ※2によりﾒﾃﾞｨｶﾙｵﾌｨｽから救急搬送された1件を含む。

＜補足＞

①ＡＰＥＣ関係者と判明できた受診者は、けいゆう病院のみ

②けいゆう病院受診者の７割は警察官

③警察官に急性胃腸炎が続いていたことから、健康安全課を通じて県警にノロウイルス等の注意喚起を実施

指定病院取扱事案一覧

No.	月日	受診時間	搬送方法(救急車、その他)	年齢	性別	国籍	APECとの関係	転帰	診断名	指定病院	備考
1	11月7日	10:25	他	27	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	熊本県警
2	11月7日	10:45	他	25	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	長野県警
3	11月7日	13:20	他	31	男	日本	警察	帰宅	感染性腸炎	けいゆう	鹿児島県警
4	11月8日	9:30	他	26	女	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	大阪府警
5	11月8日	10:14	他	59	男	日本	警察	帰宅	背部粉瘤	けいゆう	神奈川県警
6	11月8日	13:15	他	53	女	日本	国	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	外務省
7	11月8日	16:18	他	28	女	日本	国	帰宅	膀胱炎	けいゆう	経済産業省
8	11月8日	19:55	他	26	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	群馬県警
9	11月8日	22:58	他	22	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	熊本県警
10	11月9日	11:34	他	58	男	日本	警察	帰宅	捻挫疑い(1ヶ月前から)	けいゆう	神奈川県警
11	11月9日	20:45	他	22	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	熊本県警
12	11月10日	9:16	他	29	女	日本	警察	帰宅	膀胱炎疑い	けいゆう	埼玉県警
13	11月10日	13:25	他	24	男	日本	警察	帰宅	左足首捻挫	けいゆう	神奈川県警
14	11月10日	13:45	他	22	男	日本	警察	帰宅	上軌道炎	けいゆう	北海道警
15	11月10日	15:20	他	64	男	日本	国関係機関	帰宅	右第二趾挫創	けいゆう	救急医療財団
16	11月10日	17:15	他	34	男	日本	警察	帰宅	急性胃腸炎	けいゆう	静岡県警
17	11月11日	9:40	他	33	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	広島県警
18	11月11日	9:43	他	56	男	台湾	その他	帰宅	上気道炎	けいゆう	台北駐日経済文化代表
19	11月11日	10:35	他	27	男	日本	警察	帰宅	抜歯牙治癒不全	けいゆう	滋賀県警
20	11月11日	14:17	他	26	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	群馬県警
21	11月11日	18:25	他	21	男	日本	警察	帰宅	上気道炎	けいゆう	岩手県警
22	11月12日	8:20	他	33	男	日本	警察	帰宅	頭部割創	けいゆう	静岡県警
23	11月12日	10:00	他	31	男	日本	警察	帰宅	帯状疱疹	けいゆう	兵庫県警
24	11月12日	11:10	他	24	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	長崎県警
25	11月12日	13:07	他	47	男	日本	警察	帰宅	感冒	けいゆう	静岡県警
26	11月12日	15:50	他	40	男	日本	その他	帰宅	気管支炎	けいゆう	DMAT
27	11月13日	11:54	他	47	男	日本	警察	帰宅	胃痛	けいゆう	山梨県警
28	11月13日	12:01	他	27	男	日本	警察	帰宅	急性腸炎	けいゆう	熊本県警
29	11月13日	12:40	他	27	男	日本	警察	帰宅	急性腸炎	けいゆう	北海道警
30	11月13日	14:33	他	39	男	日本	プレス	帰宅	左第1指切創	けいゆう	日経新聞
31	11月13日	18:27	他	22	男	日本	警察	帰宅	発熱	けいゆう	北海道警
32	11月13日	20:10	他	32	男	日本	警察	帰宅	胃腸炎	けいゆう	長野県警
33	11月13日	20:45	他	26	男	日本	警察	帰宅	左肩痛	けいゆう	大阪府警
34	11月14日	8:00	他	26	男	日本	警察	帰宅	左肩脱臼	けいゆう	岐阜県警
35	11月14日	8:50	他	37	男	日本	警察	帰宅	急性胃炎	けいゆう	神奈川県警
36	11月14日	16:55	救急車	22	女	日本	その他	帰宅	虫垂炎	けいゆう	医療本部調整案件

６　経　費

救急･災害医療体制確保に係る本市負担額は、外務省及び厚生労働省との協議、さらには指定医療機関等の御理解により、最小限に抑えることができた。

＜主な負担区分＞

区　分	救 護 室 整 備 費			医師･看護師への報償費		空床確保
	ｲﾝﾀｰｺﾝﾁ 723	会議センター	ﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ	会期前半	会期後半	
外務省	①・②	①・③	①・③	④		⑤
厚生労働省	⑥・⑦・⑧	⑥	⑥		⑨	⑩
横浜市	⑪			⑫		

外務省　①消耗品（文房具、シーツ等）
②客室料（会期前半分）
③診療器具・医薬品
④会場内医師及び看護師への報償費（医師会・みなと赤十字病院のみ）、医師保険
※他院は、病院業務（出張）として取り扱ったため支弁なし。
⑤みなと赤十字病院への空床確保経費（閣僚の搬送先指定病院）

厚労省　⑥備品（パソコン、通信機器等）
⑦客室料（会期後半分）
⑧人工呼吸器、各種モニター装置、診療ベッド等（医薬品は出務病院から搬入）
⑨会場内医師及び看護師への報償費等（会期後半のＤＭＡＴ・ＮＢＣ専門家医師等を含む）
⑩市大センター病院及び済生会横浜市東部病院への空床確保経費（首脳搬送先指定病院）

横浜市　⑪会期前半使用分の消耗品費
⑫メディカルディレクター
※みなと赤十字病院のみ（メディカルディレクターは市独自の対応とされ、外務省の支弁対象外と判定）

７　終了後反省会でのメディカルディレクター等の感想

終了後に行った反省会では、以下の意見が寄せられた。（一部の声は前記において引用）

・インターコンチネンタルに設けた救護室は必要。ただし、国と市とのコンセプトは同じにするべきである。ＶＩＰしか診ないのはどうか。また、部屋はよかったが、動線が悪すぎる。患者搬送をもっと考えて配置するべきだ。
・メディカルオフィスはあまりにも貧弱だった。
・夜間だけでもホテルに医師を配置すべきだったのではないか。
・けいゆう病院に負担がかかりすぎたのではないか。（けいゆう：「普通です」との返答）
・国・県・市内医療機関と調整が大変だったようだが、もっと横浜市がどんどん決めて良かったのではないか。
・市内の災害医療拠点病院が集まることができてよかった。今後も定期的に会議を持てるとよい。
・院内の説明書等を英語対応にすることに最も苦労した。
・災害用の薬の調達が大変だった。特に普段使わない薬の購入は大変であった。
・脳外科、心臓外科、麻酔科など特定の診療科が配置強化できず困った。

・当院も麻酔科は足りなかった。ＤＭＡＴの手を借りる場面もあった。ＤＭＡＴの配置もいろいろと考えてもいいかもしれない。
・外務省の対応がよくわからなかった。
・外国の大使館等からの問合せがあった。エコノミーへの情報提供が不十分だったのではないか。
・アフリカ会議のときに比べれば、情報がたくさん入ってきてよかった。
・ロジ室に１名派遣できたのは良かった。情報の収集は大変だったが、多くの情報を得られた。過分な情報もあったかもしれないが、医療現場で必要と思われるものは提供できたと思う。
・消防局のＦネットが実際役に立ったのか検証が必要。（救急課→今回の経験を活かし、Ｆネット、ＥＭＩＳを活用できるように検討していきたい。）
・横浜市ももっと予算を取るべきだ。

８　今後の課題

(1) ＶＩＰ対応の救護室の在り方

厚生労働省の発案により整備したＶＩＰ対応の救護室（インターコンチネンタルホテル客室に整備）は、過去の洞爺湖サミットに倣ったものであるが、前述したように今後のＶＩＰ対応の救護室の在り方については、今回の実績を踏まえ厚労省（場合によっては外務省も含め）とよく協議する必要がある。

(2) メディカルオフィスの機能強化

２か所のメディカルオフィスの診療機能は強化すべきである（今回のレベルは学校の保健室程度であり、いずれにしても診療機能の強化は不可欠）。メディカルオフィスの医療機器と医薬品は、今回、医薬品の拠出を一手に担っていただいた市民病院のほか、市大センター病院の協力を仰ぐことで十分に対応できる。

(3) 首脳等宿泊ホテルへの往診態勢の確保

横浜市が担当した会期前半は、往診ではなく電話相談（医療コンシェルジュ）としたが、会期後半の厚労省にように往診態勢を準備する、あるいはホテルに医師を配置することが望ましい。

今回の経験を踏まえたことで、市内の救命救急センター長等の理解は得られやすくなった。

(4) 外務省との協議の在り方

医療分野の検討は、医療従事者抜きには検討が深まらない。厚労省との協議は、医療政策課が窓口となったため迅速な対応が図れたが、外務省との協議では、（外務省の意向により）ＡＰＥＣ開催推進課のみが窓口となり、医療政策課が関与できなかった。この弊害は再三にわたって申し入れたが、不合理・非効率的であるだけでなく、ＡＰＥＣ開催推進課に過度の負担が生じかねない。事実、終盤になって外務省の思い込みにより事実と異なる医療体制が表面化したこともあった。

今後の協議･交渉にあっては、必ず医療政策課を交えるよう強く要望するべきである。

(5) 災害医薬品の確保

本市が市内９病院に備蓄している災害医薬品の種類及び確保量（必要量）について、再度検討することが必要である。

９　総　括

(1) 従来の国際会議等の会場内救急医療体制は、市大センター病院に全面的な協力を仰ぎ確保してきたが、今回は救命救急センターを有するみなと赤十字病院、市民病院、済生会横浜市東部病院に協力を求め、さらにＹＭＡＴ編成病院や会場直近のけいゆう病院までも加えた「救急チーム横浜」を編成し体制を確保した。

(2) 今回の「救急チーム横浜」による取り組みは、会場内の医療体制を合理的かつ円滑に運用しただけでなく、今後の横浜市救急医療体制の充実強化に繋がる効果も期待できるなど、非常に有意義であった。

(3) 今回の災害救急医療体制の検討及び各種訓練等により、市内災害拠点病院における災害医療対策への認識が大幅に向上したとの声が挙がっている。今回の取り組みをこの場限りにせず、継続的に推し進めていくことが重要である。

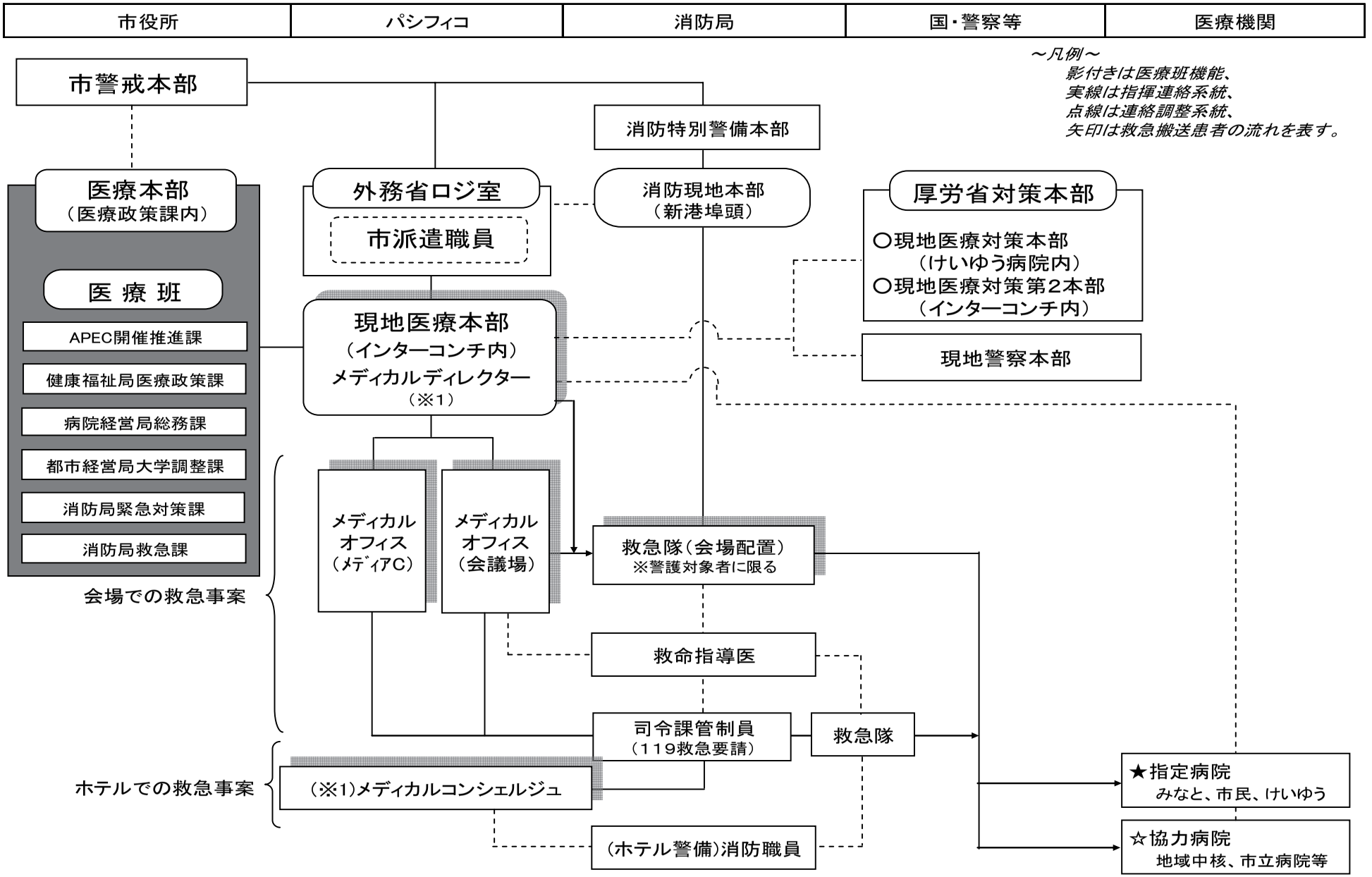
(4) 今回、厚生労働省・DMAT（災害医療チーム）等と協働して態勢確保に取り組めたことは、横浜市にとって大きな財産になった。今後の通常業務においても、今回の協力関係を有効に活用していきたい。

(5) 今回の取組みにより、市内の救命センターを有する病院をはじめ、各災害拠点病院から「災害医療への院内意識が向上した」との声が多く届けられた。こうした意識高揚を風化させないための継続的な取組みを進めたい。例えば、リーダーズウィークを記念して、毎年の同期間を「ＡＰＥＣメモリアルウィーク」に設定し、災害拠点病院を中心とした災害対策訓練を行うことも一案である。

10　参考資料

(1) 資料１　ＡＰＥＣ 災害救急医療体制組織体系図
(2) 資料２　現地救急医療体制部屋割り計画
(3) 資料３　ＡＰＥＣ 救急・災害医療体制計画表
(4) 資料４　ＡＰＥＣ 救急医療体制救急搬送フロー
(5) 資料５　インターコンチネンタル救護室の診療機器及び医薬品一覧
(6) 資料６　メディカルオフィスの設置場所並びに診療機器及び医薬品
(7) 資料７　ＡＰＥＣ 災害時救急搬送及び医療機関受入れの概念図
(8) 資料８　多数傷病者発生時の災害拠点病院を中心とした救急搬送フロー

資料１　APEC 災害救急医療体制組織体系図



資料2　現地救急医療体制　部屋割り計画

場所	展示ホール	インターコンチ	会議センター
使用形態	メディアセンター	宿　泊	会　議
市現地警戒本部			外務省ロジ室内 消防局緊急対策課(1)
現地医療本部 （会期後半は厚労省現地医療対策第2本部と合同使用） 救急対応 （会期後半は厚労省首脳対応チームが対応）		722・723号室 ★本部機能（24H体制） 医療政策課責任職(1) メディカルディレクター(1) 厚労省連絡員(1) ☆救護室～首脳等対応 8:00～会議等終了 医師(1) ※市民、みなと 看護師(1) 通訳(1) 事務（医療政策課）(1) 救急課職員(1)	
メディカルオフィス （会期後半はDMATが対応）	1階の既設救護所 11/9～11 8:00～18:00 横浜市医師会(1) 看護師(1)、通訳(1) 事務（医療政策課）(1)		1階の既設救護所 11/7～11 8:00～18:00 YMAT(1) 看護師(1)、通訳(1) 事務（医療政策課）(1)
救急隊待機	B14 救急隊員(3)		
関係機関調整所 （会期後半はDMATが使用）	BM3（中2階） 医療政策課責任職 DMAT事務局 神奈川県		

※会期後半は、けいゆう病院13階会議室に厚労省医療対策本部が設置され、医療政策課責任職がリエゾンとして加わる予定。

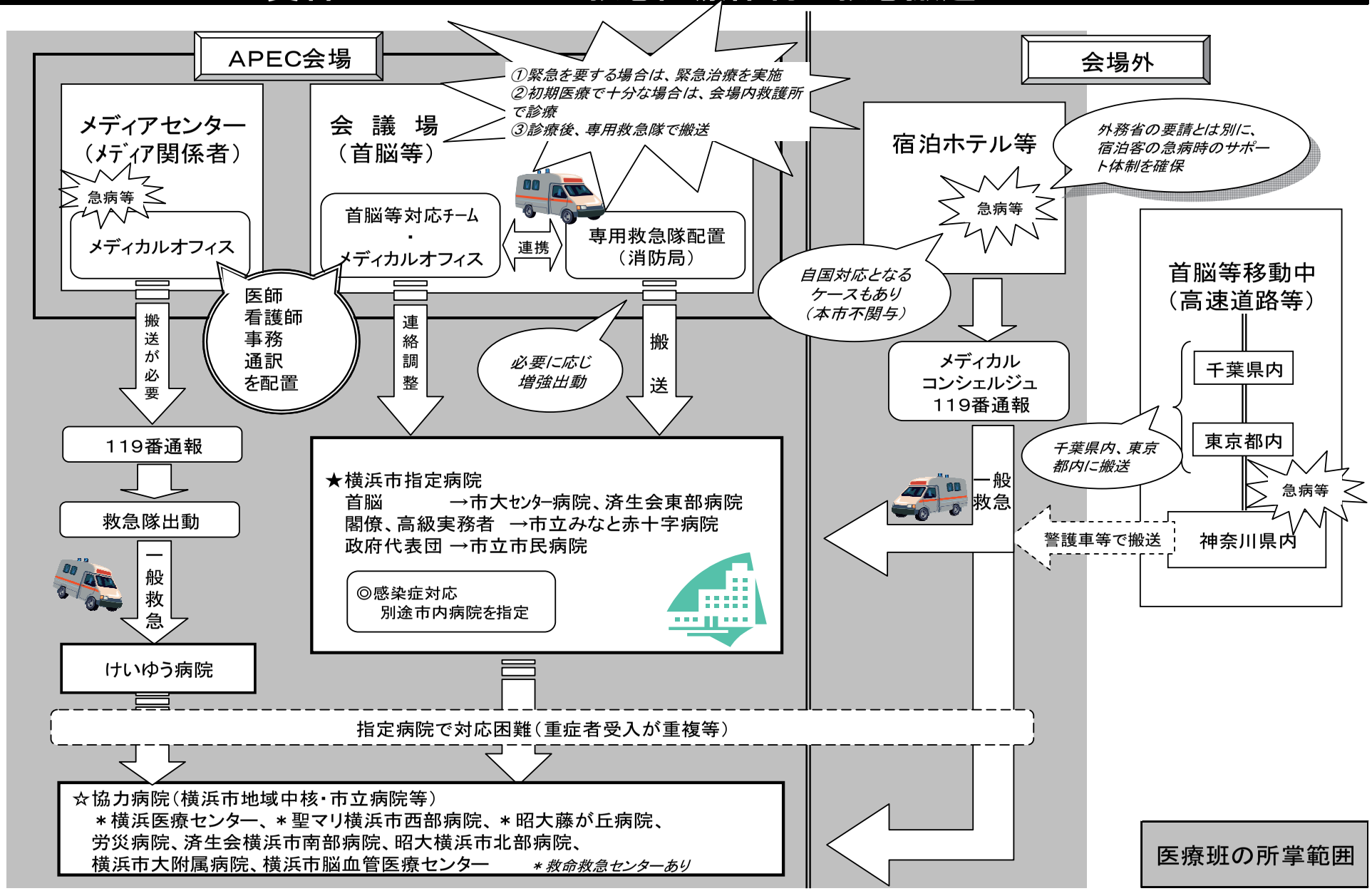
※太枠部分が医療行為が行われる場所

資料３　　ＡＰＥＣ 救急・災害医療体制計画表

日			7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜　日			日	月	火	水	木	金	土	日	月
会　合		政　府	実務者会合			閣僚会議			首脳会議		
		経済界		ABAC会議			SMEサミット	CEOサミット			
主　体			横　浜　市					厚　労　省			
協　力			厚　労　省					横　浜　市			
メディカルディレクター（現地医療本部内：24時間体制）			伊巻Dr	鈴木Dr	八木Dr	伊巻Dr	八木Dr	鈴木Dr 伊巻Dr	北野Dr 八木Dr	鈴木Dr 伊巻Dr	伊巻Dr —
首脳等救護室（現地医療本部内　8:00～行事終了まで）			横浜市立市民病院		横浜市立みなと赤十字病院			首脳対応医師等チーム （慶応、日本医科、杏林、帝京）			
救急医療	メディカルオフィス（8:00～18:00）	会議センター救護所	YMAT（横医C）	YMAT（昭大藤が丘）		YMAT（聖マリ西部）		DMAT			
		メディアセンター救護所	—	—	横 浜 市 医 師 会			DMAT			
	首脳等宿泊ホテル	夜間の急病対応	メディカルディレクターによるコンシェルジュ					首脳対応医師等チーム			
	搬送先	APEC参加国首脳、首脳夫人	—	—	—	—	—	横浜市大センター病院 済生会横浜市東部病院			
		閣僚・高級実務者等	横浜市立みなと赤十字病院								
		各国政府代表団	横浜市立市民病院					横浜市立市民病院・みなと赤十字病院			
		マスコミ関係者	けいゆう病院					けいゆう病院			
		警察・警備関係者	けいゆう病院					けいゆう病院			
		警護対象者以外（上記病院で対応不可時を含む）	横浜市地域中核・市立病院等（＊横浜医療センター、＊聖マリ横浜市西部病院、＊昭大藤が丘病院、労災病院、済生会横浜市南部病院、昭大横浜市北部病院、横浜市大附属病院、横浜市脳血管医療センター） ＊救命救急センターあり								
災害医療	搬送先	警護対象者	災害現場救護所（トリアージ） ※警護対象者はセンター病院、東部病院 ※その他は区分せずに傷者人数に応じて搬送先を拡大 ※重症者は救命Ｃ					→ 市大センター病院、済生会東部病院			
		各国政府代表団	→ 市内指定病院（センター病院、みなと赤十字病院、市民病院）								
		マスコミ関係者	→ 市内災害医療拠点病院（横浜市地域中核病院・市立病院等）								
		警察・警備関係者	→ 災害拠点病院（神奈川20、東京69、千葉19、埼玉13、静岡19等）								
		その他一般									
	出動医師	爆弾テロ災害	YMAT及びDMAT					DMAT			
		NBC災害	YMAT及びDMAT					DMAT及びNBC対応班			

※　消防の現地警戒本部は11月7日～14日までの間。会場配置の専用救急隊は11月7日～15日までの間。

資料４　　ＡＰＥＣ救急医療体制　救急搬送フロー



資料5

現地医療本部（救護室）の診療機器及び医薬品一覧

◆現地医療本部内救護室

インターコンチネンタルホテル用				個数
1.	医療機器・資器材			
	1）	人工呼吸		
		（1）	蘇生用バッグ・バルブ・マスク	3
	2）	酸素吸入用		
		（1）	ボンベ	
			2L	2
			5L	1
		（4）	減圧弁（流量計付）	3
	（3）	人工呼吸器		
			搬送用人工呼吸器(パラパック 200D相当)	1
			人工呼吸器（ハミルトン相当）	1
	（4）	患者監視装置		
			BSM-2301（心電図・呼吸・酸素飽和度・血圧測定）	2
	（5）	除細動器		
			TEC-7700	2
	（6）	胸骨圧迫装置		
			オートパルス（自動胸骨圧迫装置）	1
	（7）	心電計		
			ECG-1350	1
	（8）	パルスオキシメーター		
			SAT-2100（小型酸素飽和度測定装置）	1
	（9）	携帯用超音波診断機器		
			SonoSite 180 PLUS相当	1
	（10）	点滴台		1
	（11）	輸液ポンプ		1
	（12）	シリンジポンプ		0
	（13）	車椅子		1
	（14）	自動体外式除細動器		
			AED-2100（ガイドライン2005対応）	2
2.	備品			
		（1）	絨毯の上に敷くマット	1
3.	消耗品			
		（1）	感染対策キット（マスク・帽子、手袋、ガウン入り）	3
		（2）	医療用廃棄物含むゴミ箱	0

現地医療本部（救護室）の診療機器及び医薬品一覧（市民病院からの借用）

分類	物品名		規格	払出部署			
				救急カート	中央材料	その他	
呼吸系	酸素関連	カヌラ			5		
呼吸系	酸素関連	酸素マスク		○	3		
呼吸系	酸素関連	リザーバー付き酸素マスク		○	3		
呼吸系	酸素関連	鼻咽頭エアウェイ		○	3		
呼吸系	酸素関連	口咽頭エアウェイ		○			
呼吸系	酸素関連	リザーバー付きBVM		○			
呼吸系	酸素関連	ジャクソンリース		○			
呼吸系	気管内挿管	喉頭鏡ハンドル		○			
呼吸系	気管内挿管	ブレード	大	○	2		
呼吸系	気管内挿管	ブレード	中	○	2		
呼吸系	気管内挿管	ブレード	小	○	2		
呼吸系	気管内挿管	気管チューブ	6.5		2		
呼吸系	気管内挿管	気管チューブ	7.0	○	2		
呼吸系	気管内挿管	気管チューブ	7.5	○	2		
呼吸系	気管内挿管	気管チューブ	8.0	○	2		
呼吸系	気管内挿管	気管チューブ	8.5	○	2		
呼吸系	気管内挿管	スタイレット		○	2		
呼吸系	気管内挿管	バイトブロック		○			
呼吸系	気管内挿管	開口器		○			
呼吸系	気管内挿管	マギール鉗子	大	○			
呼吸系	気管内挿管	単2電池	ｱﾙｶﾘ/ﾏﾝｶﾞﾝ		各2		
呼吸系	気管内挿管	キシロカインゼリー（医薬品だけどすぐ使えるように置く）				1	薬剤部
呼吸系	気管内挿管	キシロカインスプレー				1	薬剤部
呼吸系	気管内挿管	10CCシリンジ			1		
呼吸系	気管内挿管	ニチバン（⇒本固定テープはテープ類の中）			1巻		
呼吸系	気管内挿管	エアウェイスコープ				1	救急外来
呼吸系	気管内挿管	エアウェイスコープカートリッチ			3本		
呼吸系	輪状甲状靭帯切開	トラヘルパー			2本		
呼吸系	輪状甲状靭帯切開	気管カニューレ	7mm		1		
呼吸系	輪状甲状靭帯切開	カニューレ固定ホルダー			2		
呼吸系	吸引物品	吸引カテーテル	10Fr	○	1箱		
呼吸系	吸引物品	吸引カテーテル	12Fr	○	1箱		
呼吸系	吸引物品	吸引用コネクター			10		
呼吸系	吸引物品	ニプロスネークチューブ			1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	成人用輸液セット		○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	小児用輸液セット		○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	輸血用点滴セット			5		
輸液系	輸液・シリンジ関連	輸液ポンプ用セット		○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	エクステンションチューブ		○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	三方活栓		○	30		
輸液系	輸液・シリンジ関連	駆血帯		○			
輸液系	輸液・シリンジ関連	注射針	18G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	注射針	21G		1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	注射針	22G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	注射針	23G		1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	留置針	18G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	留置針	20G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	留置針	22G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	留置針	24G	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	エラスター針（18G×130mm）			5		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	2ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	5ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	10ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	20ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	30ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	ディスポシリンジ	50ml	○	1箱		
輸液系	輸液・シリンジ関連	針ポイ		○	3		
輸液系	輸液・シリンジ関連	テガダーム	小		1箱		

分類	物品名		規格	払出部署			
				救急カート	中央材料	その他	
輸液系	輸液・シリンジ関連	サージカルテープ(⇒あらかじめカットして入れる)			20		
輸液系	輸液・シリンジ関連	アルコール綿(単包のもの)			2箱		
その他	診療に必要なセットその他	血圧計				1	HCU
その他	診療に必要なセットその他	聴診器				1	HCU
その他	診療に必要なセットその他	体温計				1	HCU
その他	診療に必要なセットその他	ペンライト		○			
その他	診療に必要なセットその他	ペンライト用の乾電池(単3)			2		
その他	診療に必要なセットその他	打腱器				1	看護部
その他	診療に必要なセットその他	たちばさみ			1		
その他	診療に必要なセットその他	普通のはさみ			2		
その他	診療に必要なセットその他	血糖測定用の針			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	血糖測定器(グルテストNEO)			1		
その他	診療に必要なセットその他	グルテストNEOセンサー			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	プラスチックグローブ			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	エプロン(エプロン)			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	マスク(ピンク)			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	帽子			1箱		
その他	診療に必要なセットその他	ビニール袋	青		2袋		
その他	診療に必要なセットその他	ビニール袋	透明		1袋		
その他	診療に必要なセットその他	トリアージタッグ				50	救急外来
その他	診療に必要なセットその他	筆記ボード(紙とはさむ板をイメージでOK)				2	物品管理
胃管バルドレーン系	胃管	セイラムサンプチューブ	14	○	2		
胃管バルドレーン系	胃管	セイラムサンプチューブ	16	○	2		
胃管バルドレーン系	胃管	セイラムサンプチューブ	18		2		
胃管バルドレーン系	胃管	排液パック		○	2		
胃管バルドレーン系	胃管	カテーテルチップ	50ml	○	2		
胃管バルドレーン系	バルン	バルン	14Fr		2		
胃管バルドレーン系	バルン	バルン	16Fr		2		
胃管バルドレーン系	バルン	バルン	18Fr		2		
胃管バルドレーン系	バルン	ウロガード			2		
胃管バルドレーン系	バルン	滅菌蒸留水	20ml			2	薬剤部
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	チェストドレーン	28		2		
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	チェストドレーン	20		2		
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	チェストドレーン　シングルタイプ	16		2		
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	Qイン1			2		
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	ニプロスネークチューブ			1		
胃管バルドレーン系	胸腔ドレーン系	ハイムリッヒバルブ			1		
包交	包交・整形物品他	滅菌ガーゼ	2枚入り		30		
包交	包交・整形物品他	滅菌ガーゼ	5枚入り		30		
包交	包交・整形物品他	滅菌ガーゼ	10枚入り		30		
包交	包交・整形物品他	ハイアミン綿			1箱		
包交	包交・整形物品他	イシジン消毒入りの綿棒(スワブスティックM)			10		
包交	包交・整形物品他	イソジン液	50ml			5	薬剤部
包交	包交・整形物品他	滅菌手袋	6.5	○	1箱		
包交	包交・整形物品他	滅菌手袋	7.0	○	1箱		
包交	包交・整形物品他	滅菌手袋	7.5	○	1箱		
包交	包交・整形物品他	滅菌手袋	8.0		1箱		
包交	包交・整形物品他	マイクロポア	12.5mm		2巻		
包交	包交・整形物品他	マイクロポア	25.0mm		2巻		
包交	包交・整形物品他	マルチポア	50mm		3巻		
包交	包交・整形物品他	トランスポア	12.5mm		2巻		
包交	包交・整形物品他	トランスポア	25.0mm		2巻		
包交	包交・整形物品他	テガダーム	大		1箱		
包交	包交・整形物品他	テガダーム	小		1箱		
包交	包交・整形物品他	ニチバン			2巻		
包交	包交・整形物品他	舌圧子			20		
包交	包交・整形物品他	伸縮包帯(レポSS)	5cm		3巻		
包交	包交・整形物品他	伸縮包帯(レポSS)	10cm		3巻		

分類	物品名		規格	払出部署			
				救急カート	中央材料	その他	
包交	包交・整形物品他	エラスコット	3号		3巻		
包交	包交・整形物品他	エラスコット	4号		3巻		
包交	包交・整形物品他	ストッキネット	2		1箱		
包交	包交・整形物品他	ストッキネット	3		1箱		
包交	包交・整形物品他	ストッキネット	5		1箱		
包交	包交・整形物品他	デルマポア	4×6		5		
包交	包交・整形物品他	デルマポア	6×10		5		
包交	包交・整形物品他	オーキューバン			1箱		
包交	包交・整形物品他	綿棒	大		20本		
包交	包交・整形物品他	綿棒	小		20本		
包交	包交・整形物品他	三角布			2		
包交	包交・整形物品他	綿球(綿球の入った消毒容器)			30		
包交	包交・整形物品他	綿球のみ	5個入り		20		
包交	包交・整形物品他	セッシ			10		
包交	包交・整形物品他	穴あき			20		
包交	包交・整形物品他	滅菌シーツ(90×90)			30		
包交	包交・整形物品他	おむつ			20		
包交	包交・整形物品他	使い捨てガーゼ			2箱		
包交	包交・整形物品他	エタプラス				3	薬剤部
包交	包交・整形物品他	シーネ	大		2		
包交	包交・整形物品他	シーネ	中		2		
包交	包交・整形物品他	シーネ	小		2		
包交	包交・整形物品他	頚椎カラー(カラーキーパー)	S		2		
包交	包交・整形物品他	頚椎カラー(カラーキーパー)	M		2		
包交	包交・整形物品他	頚椎カラー(カラーキーパー)	L		2		
包交	包交・整形物品他	頚椎カラー(スティクネックセレクト)	L		1		
中材系	中材滅菌物品	縫合セット			3		
中材系	中材滅菌物品	コッヘル			4		
中材系	中材滅菌物品	ペアン	大		4		
中材系	中材滅菌物品	ペアン	小		4		
中材系	中材滅菌物品	モスキートペアン			4		
中材系	中材滅菌物品	持針器 (ヘガール)			2		
中材系	中材滅菌物品	刃つきのメス	9		1箱		
中材系	中材滅菌物品	刃つきのメス	11		1箱		
中材系	中材滅菌物品	針付き糸	3		5		
中材系	中材滅菌物品	針付き糸	4		5		
中材系	中材滅菌物品	針付き糸	5		5		
中材系	中材滅菌物品	針付き糸	6		5		
中材系	中材滅菌物品	小せっし			5		
中材系	中材滅菌物品	眼科用せっし			5		
中材系	中材滅菌物品	ピンセット有鉤			2		
中材系	中材滅菌物品	ピンセット無鉤			2		
中材系	中材滅菌物品	ゾンデ			1		
中材系	中材滅菌物品	縫合針			9		
中材系	中材滅菌物品	絹糸	1-0		5		
中材系	中材滅菌物品	絹糸	2-0		5		
中材系	中材滅菌物品	絹糸	3-0		5		
中材系	中材滅菌物品	ステープラ			1箱		
中材系	中材滅菌物品	鉤	大		2		
中材系	中材滅菌物品	鉤	小		2		
中材系	中材滅菌物品	扁平鉤			1		
中材系	中材滅菌物品	直鉗子 18cm			1		

No	管理形態					薬品名	規格	定数	備考
	冷	向	毒	劇	普				
1					●	アタラックスP	25mg/ml	5	2015.2 1027815
2					●	ガスター	20mg/2ml	5	2011.9 C064Y01
3					●	カルチコール8．5%	850mg/10ml	2	2013.2 BT0210
4					●	セファゾリンNaバッグ（セフェム系）	1g	5	2012.7 M0G76V
5					●	ソル・メルコート（＝プリドール）	40mg	2	2013.7 BG10A
6					●	ソル・メルコート（＝プリドール）	500mg	1	2013.7 AG10A
7					●	ネオフィリン	250mg/10ml	2	2012.10 9YA20M
8					●	50%ブドウ糖	20ml	2	2012.7 M0G76
9					●	プリンペラン	10mg/2ml	5	2015.4 0E185B
10					●	ヘパリン	5000U/5ml	2	2013.2 A410
11					●	ヘパリンNaロック	50U/5ml	5	2013.8 10H73
12					●	ペントシリン（ペニシリン系）	1g	5	2013.5 QE3761
13					●	メイロン7%	20ml	2	2012.3 M0C95
14					●	ラシックス	20mg/2ml	5	2013.4 0F816B
15				●		アドレナリンシリンジ0．1%	1mg/ml	5	2012.12 100114PA
16				●		カコージン（＝イノバン）	100mg/5ml	2	2012.4 S144
17				●		1%キシロカイポリアンプ	100mg/10ml	5	2013.5 309833
18				●		ノルアドリナリン	1mg/ml	5	2013.4 PDA0180
19				●		ニカルピン（＝サリペックス）	10mg/10ml	5	2013.5 10404
20				●		ブスコパン	20mg/ml	5	2013.7 090023
21				●		プレドパ	600mg/200ml	1	2013.5 612S6
22				●		ヘルベッサー	50mg	5	2012.11 96017
23				●		ミリスロール	5mg/10m	5	2013.2 207200
24				●		リスモダンP	50mg/5ml	2	2012.2 9F017A
25				●		リドカインシリンジ2%	100mg/5ml	2	2012.1 090217VA
26				●		硫酸アトロピン	0.5mg/ml	10	2012.10 9X030
27				●		ワソラン	5mg/2ml	2	2013.6 07A78M
28	●					アデホスLコーワ	10mg/2ml	2	2011.12 F10K
29	●					ディプリバンキット	500mg/50ml	1	2011.11 SJ281
30					●	生食（オーツカ）	500ml	10	2013.6 M0F83

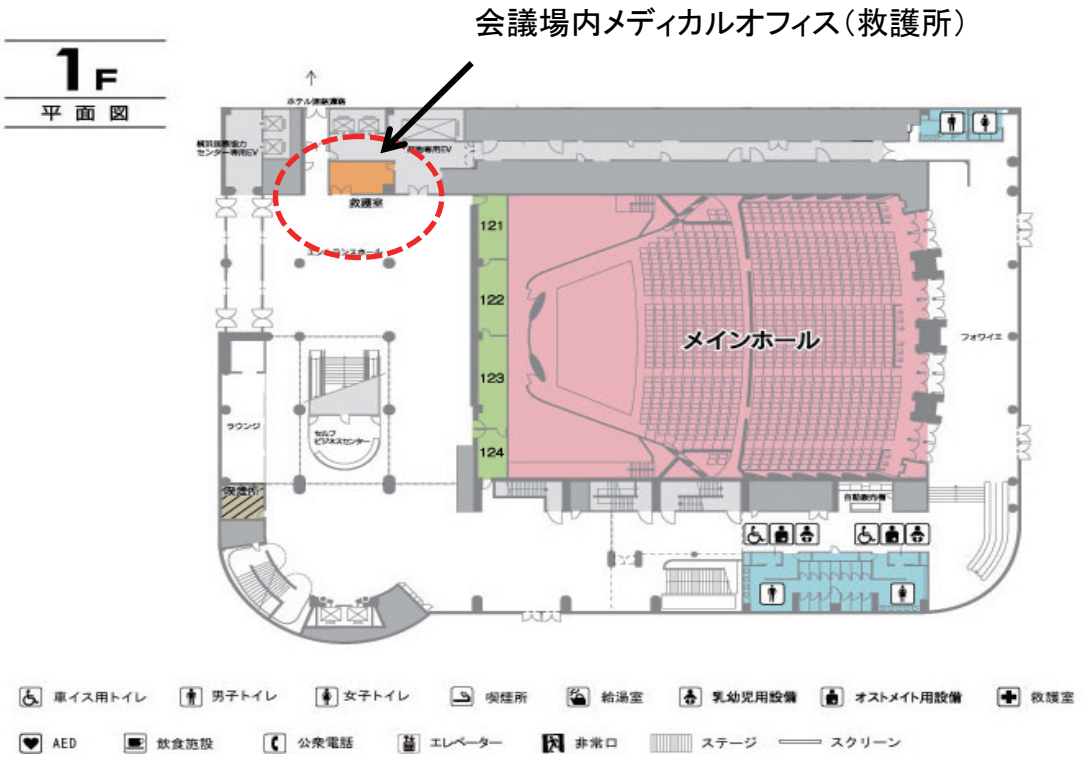
No	管理形態					薬品名	規格	定数	備考
	冷	向	毒	劇	普				
31					●	生食キット(フソー)	100ml	10	2013.9 10I02C
32					●	ソルデム3A	200ml	10	2013.9 100925KA
33					●	ヘスパンダー	500ml	10	2013.7 90DGH522
34					●	マンニゲン	200ml	3	2015.5 S190
35					●	ラクテック	500ml	10	2013.7 M0G97
36		●		●		ソセゴン	15mg/ml	5	2015.5 C029G01
37		●				ドルミカム	10mg/2ml	5	2014.3 B025A01
38		●				ホリゾン	10mg/2ml	5	2013.6 C004Y01
39			●			マスキュレート	10mg	10	2013.7 AG10A
40	●		●			アンカロン	150mg/3ml	10	2011.6 0A016A
41					●	PL顆粒	1g	45	2015.6 7189
42					●	メジコン錠	15mg	90	2015.3 5221
43					●	ムコソルバン錠	15mg	45	2013.4 2050
44					●	ポララミン錠	2mg	45	2012.11 K023R
45					●	ガスターD錠	10mg	30	2012.12 CO14Y01
46					●	アルサルミン細粒	1g	45	2014.11 C9K02
47					●	ラックビー(代替ﾋﾞｵﾌｪﾙﾐﾝ)	1g	45	2013.6 16507A
48					●	ロペミンカプセル	2mg	30	2014.7 041AJG
49					●	酸化マグネシウム	0.5g	45	2013.4 510820
50					●	プルゼニド錠		30	2013.5 P1022
51					●	ロキソプロフェン(=ﾛｷｿﾆﾝ)	60mg	10	2013.8 09L07S
52					●	ブルフェン顆粒	200mg/g	10	2012.4 D93620
53					●	カロナール錠	200mg	40	2013.3 0550M
54					●	デパス錠	0.5mg	10	2013.5 S172
55		●			●	レンドルミンD錠	0.25mg	5	2013.6 089046
56					●	ニトロールRカプセル	20mg	30	2012.11 03A56K
57				●		セパミットR(=ｱﾀﾞﾗｰﾄL)	10mg	30	2012.11 1XL9Y
58					●	バナン錠	100mg	30	2013.2 0208
59					●	クラリス錠	200mg	30	2013.2 510N1
60					●	タミフルカプセル	75mg	50	2013.7 K1288X1

No	管理形態					薬品名	規格	定数	備考
	冷	向	毒	劇	普				
61					●	サルタノールインヘラー		2	2011.10 F1146
62				●		ミオコールスプレー		1	2012.7 JL074
63					●	キシロカインゼリー		1	2013.3 18700
64					●	リンデロンVG軟膏	5g	2	2013.5 5945
65					●	アンダーム軟膏		2	2010.11 Y7151
66					●	ゲンタシン軟膏（代替ﾃﾗﾏｲｼﾝ）		2	2012.7 K040G
67					●	タリビット眼軟膏		2	2012.11 TRN1073
68					●	ヒアレイン点眼液		2	2013.4 1HT3624
69					●	ナウゼリン坐薬	60mg	5	2012.7 732AIG
70	●				●	アンヒバ坐薬（=ｱｾﾄｱﾐﾉﾌｪﾝ）	200mg	5	2015.5 90031YQ1
71	●			●		ボルタレン坐剤	25mg	5	2013.11 PO942
72	●			●		ボルタレン坐剤	50mg	5	2013.11 PO780
73					●	0.025%ﾍﾞｾﾞﾄﾝ液(代替ﾍｷｻﾞｯｸ)	500mL	1	2013.7 OK42
74					●	MS温シップ		1袋	2012.3 0077E
75					●	カトレップ（代替セルタッチ）		1袋	2013.6 70233
76				●		キシロカインスプレー		1	2013.6 37500
77					●	ポピヨドン	50mL	5	2012.10 A09185
78					●	滅菌蒸留水	20mL	5	
79						エタプラス	500mL	3	
80					●	ベネトリン		1	ネブライザー用
81					●	ムコフィリン		10	ネブライザー用
82					●	生理食塩液	20mL	10	ネブライザー用

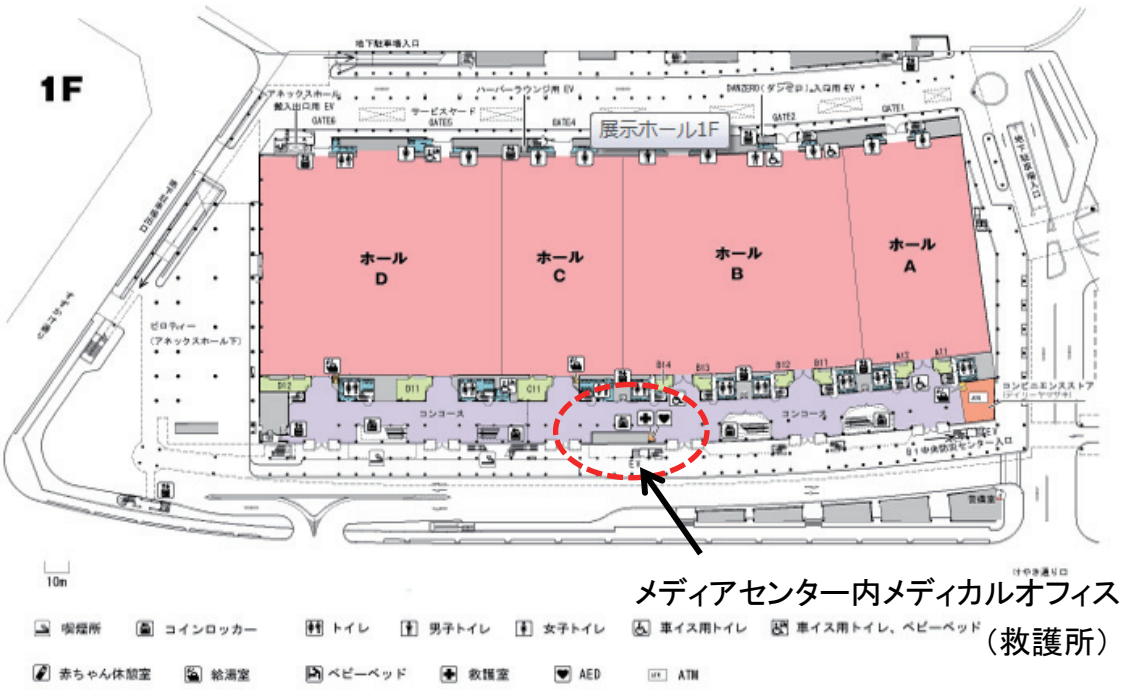
資料６

メディカルオフィスの設置場所

会議センター 1F 平面図



展示ホール 1F 平面図

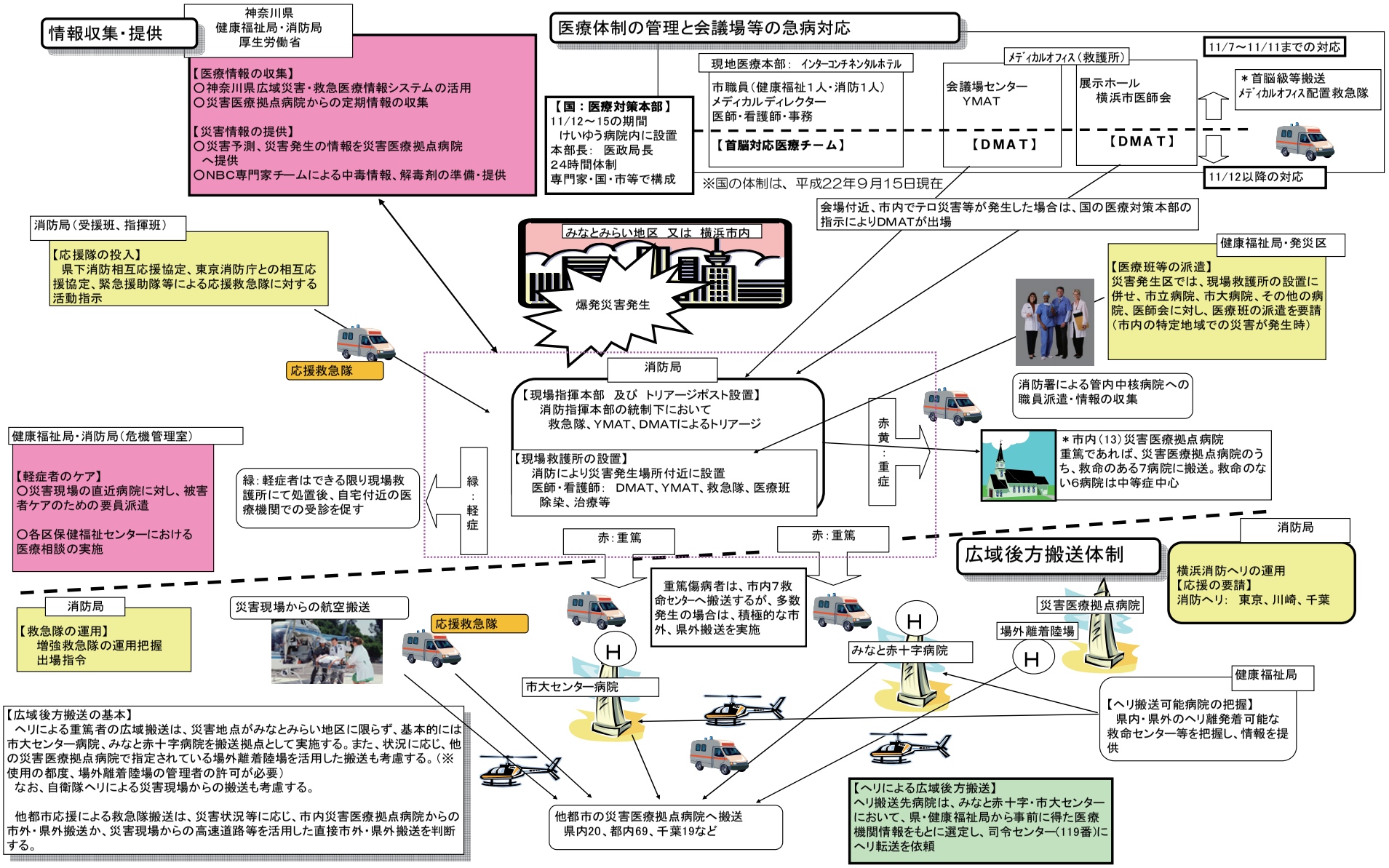


メディカルオフィスの診療機器及び医薬品一覧

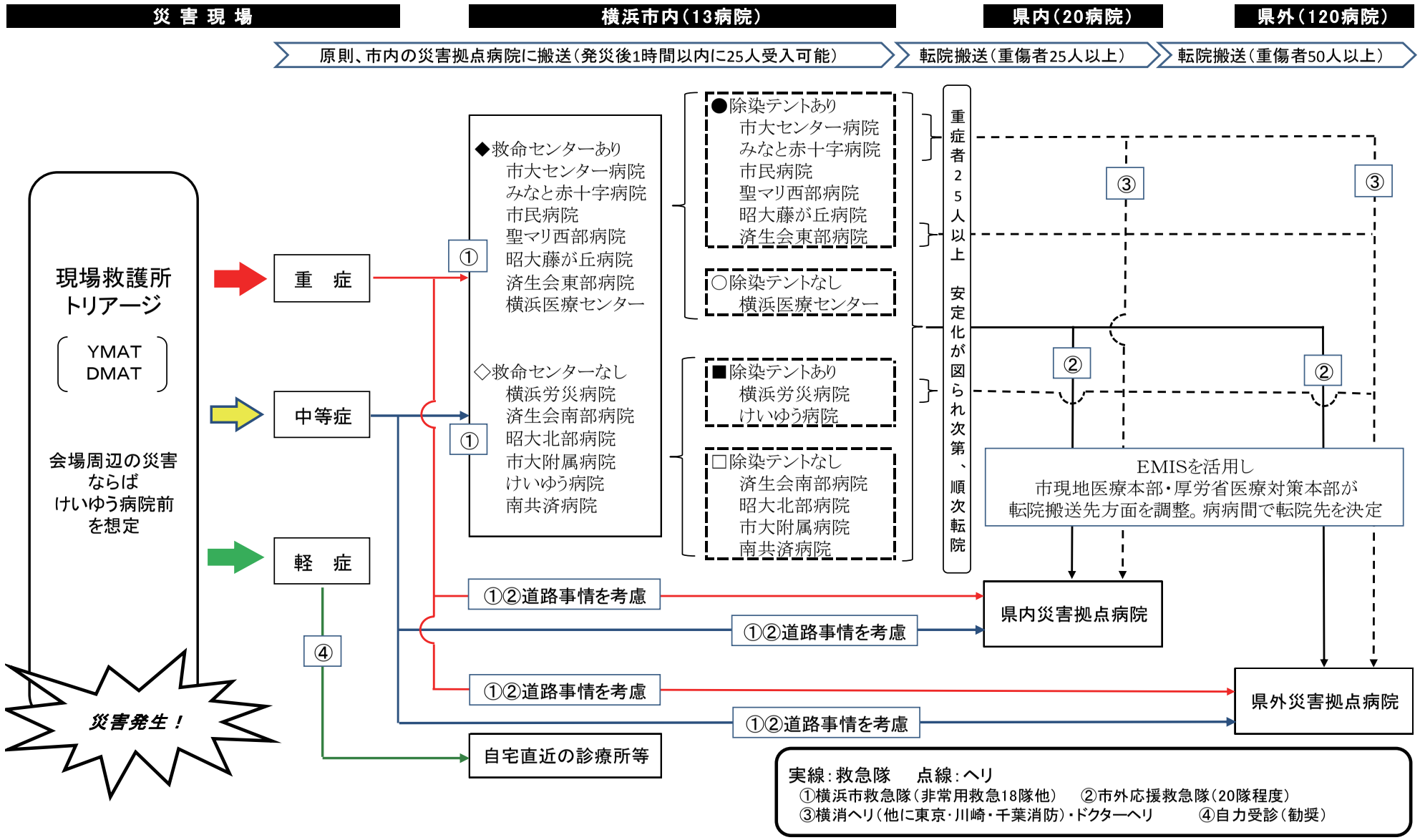
◆会議センター・展示ホール共通

No.	器具名・医薬品名	数量	単位	備考
1	血圧計	1	台	リース
2	聴診器	2	本	リース
3	体温計	1	本	リース
4	簡易血糖測定器(本体)	1	個	購入商品
5	簡易血糖測定器(センサー)	1	セット	30枚入り
6	穿刺器(針)	1	セット	30本入り
7	穿刺器(本体)	1	本	※複数用意の必要性あり。
8	アルコール綿	1	セット	
9	サチュレーションモニター	1	台	購入商品
10	カットバン	2	箱	バンドエイド25枚入り
11	パッド付きドレッシング	1	箱	20枚入り
12	三角巾	1	枚	Mサイズ
13	解熱剤	1	箱	バファリン60錠入り
14	鎮痛剤	1	箱	セデス60錠入り
15	風邪薬	4	箱	ベンザブロック30カプセル
16	胃腸薬	1	箱	太田胃散40包
17	目薬(コンタクト用)	1	箱	30本入り
18	目薬	1	箱	15ml
19	シップ薬	1	箱	24枚入り
20	舌圧子	1	箱	200枚入り(木製)
21	ペンライト	1	本	
22	使い捨て手袋	1	箱	
23	サージカルマスク	1	箱	
24	ウエルパス	2	本	
25	包帯	1	箱	10本入り
26	冷えピタシート	1	箱	12枚入り

資料7　APEC 災害時救急搬送及び医療機関受入れの概念図



資料8　多数傷病者発生時の災害拠点病院を中心とした救急搬送フロー



2.横浜市消防局の対応

横浜市消防局西消防署　松原　正之

横浜市消防局における APEC 警備・救急体制について

横浜市消防局　西消防署長　松原正之

横浜市消防局では、「2010 年日本 APEC」の開催期間中において、あらゆる災害等から会議参加関係国の要人はもとより、市民及び横浜を訪れる人々の安全を確保するため、関係機関と連携・調整のうえで、主として次のような警備・救急体制の強化・充実を図った。

１　消防特別警備本部等の設置

消防局に消防局長を本部長、副局長、予防部長及び警防部長を副本部長とする消防特別警備本部を設置するとともに、APEC会場となったパシフィコ横浜会議センターを管轄する西消防署の署長を本部長とする消防特別警備現地本部をAPEC会場の直近に設置した。

また、市内18区のうち、大規模集客施設や要人等の宿泊施設の存する神奈川区、西区、中区、港北区の４区に消防特別警備地区本部（以下「特定地区本部」という。）を、その他の区では、APEC関連の催事開催時に消防特別警備現地地区本部を設置することとした。

２　消防特別警備実施期間中の警備区分

消防特別警備本部は、平成22年5月10日に設置し、その後、警備体制を次のとおり区分した。

警備区分	期 間 等	内容
C区分	平成22年５月10日（月）から同10月31日（日）まで	警備体制強化
B区分	平成22年11月1日（月）から同11月6日（土）まで	警備体制強化と連絡動員体制の確保
A区分	リーダーズウィーク並びに閣僚及び首脳の市内滞在日	24時間体制による警備体制

※リーダーズウィーク：平成22年11月7日（日）から同11月14日（日）

３ 想定災害等

警備計画や訓練にあたっては、テロ等に起因する次の災害等を想定した。

(1) 関連施設及び周辺地域

ア 火災及びＡＰＥＣに関連する救急・救助事案

イ 海上災害

ウ 交通機関（鉄道、道路）災害

エ 大規模広域停電、断水

オ 地震、風水害等の自然災害

(2) 市内全域

上記(1)に掲げる災害でＡＰＥＣの運営に影響を及ぼすおそれのあるもの。

4　テロ災害等を想定した訓練等の実施

国内外で発生した過去のテロ災害等の事案を基に、最悪の危機事象を想定した、図上訓練、現場訓練及び各種災害対応訓練等を市・区役所・神奈川県警察、その他関係機関等と連携して実施し、その結果を検証することとした。

5　警防査察の実施

APEC会場はもとより、大規模集客施設や要人等の宿泊施設などに対し、施設関係者等と事前調整を行い、災害発生時の消防戦術を現場で確認するため、消防隊等による査察（警防査察）を実施した。

6　消防特別警備現地本部への部隊配置

警備区分Ａ、Ｂの期間において、パシフィコ横浜会議センターの存する西区みなとみらい地区における大規模災害発生に備え、消防特別警備現地本部に、指揮隊、消防隊(3)、救助隊(2)、特殊災害対応隊、大型除染隊、救急隊(2)　計10隊を配置し、24時間体制で当該地区の警備の強化を図った。

7　特定地区本部等での増強消防隊・救急隊の編成

警備区分Ａの期間において、特定地区本部（４区）及びその他の地区本部において、大規模災害の発生に備え、課長級以上の職員を夜間にも常時配置するとともに、増強消防隊及び増強救急隊を各１隊、増強編成した。

編成にあっては、特定地区本部は24時間体制での編成、その他の区ではAPEC関連会議等が開催される時間帯を見据え、原則として7時から19時までの間の編成とした。

8　増強救急隊の任務

警備区分Ａの期間における増強救急隊は、みなとみらい地区での大規模災害発生に備えて配置するもので、災害現場と医療機関をピストン運行し、迅速かつ効率的に負傷者を搬送することを任務として定めた。

なお、運用にあっては、大規模災害発生直後は、直近にある通常運用の救急隊を一時的に災害現場に投入するも、その後は、18消防署で編成した増強救急隊を適宜投入していくこととした。

このため、増強救急隊にあっては、円滑な災害活動が出来るようあらかじめ西区周辺の医療機関や搬送路を把握することとした。

9　救急医療体制に係る調整

要人等の急病及び大規模災害発生時の負傷者の救急搬送や受入医療機関、開催支援チーム医療班が設置する会場救護所（以下、「メディカルオフィス」という。）の運営について、国、県及び横浜市健康福祉局等関係機関と連携し、救急医療体制を構築した。

10　メディカルオフィスへの配置救急隊等

メディカルオフィスについては、横浜市消防局から要員（係長職：１人）及び救急隊１隊を配置し、 要人等の急病や負傷への迅速な対応を確保することとした。

また、メディカルオフィスに配置した救急隊が、要人等を医療機関へ搬送した場合は、その間の救急搬送体制を確保するため、会議場付近の消防特別警備現地本部に配置した救急隊が順次補完することとし、更に当該現地本部には、直近の消防署から増強隊を派遣するといった補完策も定めた。

11　重傷者多数発生時の広域救急搬送

テロ災害を含めた大規模災害により、重傷者を含む多数の傷病者が同時に発生した場合の搬送にあっては、神奈川県下消防相互応援協定や東京消防庁との相互応援協定等に基づく救急隊の応援要請、更には緊急消防援助隊による応援救急隊をもって対応することとした。

また、重傷者多数の場合は、横浜市内の医療機関のみでの受入れは困難であるため、健康福祉局が市外、県外の受入れ医療機関を確保するとともに、市内のヘリポートを備えた災害医療拠点病院からの消防ヘリや防災ヘリを活用した航空機による広域後方搬送、市内の特定の災害医療拠点病院をキーステーションとし、ここに一旦重症者を集め、応急処置を施した後の応援救急隊による市外搬送、更には災害現場から高速道路等を活用した川崎市や東京都の医療機関への直接搬送についても事前計画として定めた。

こうした多種多様な広域搬送方法を準備し、災害規模に応じてより効果的な搬送方法を選択していく体制は、かつて他都市などでは例を見ない方法であり、今後、大規模な会議や催物等における救急搬送構築における一つの参考例となると考える。

12　ＹＭＡＴ及びＤＭＡＴとの連携

大規模災害はもとより、テロ災害発生時の多数負傷者の発生に対し、迅速で的確な救命救急処置を行うためには、救急隊員や救助隊員と医師、看護師など医療従事者との現場活動での連携が不可欠である。

このため、ＹＭＡＴ（横浜救急医療チーム）を編成する市内医療機関はもとより、厚生労働省、消防庁、神奈川県及び健康福祉局との協議を経て、大規模災害発生時にはＹＭＡＴ及びＤＭＡＴが災害現場へ派遣され、負傷者のトリアージ、現場治療など消防機関と密接に連携した救命救急活動を行うこととした。

なお、ＤＭＡＴは、原則として医師等の安全管理面からテロ災害には派遣しないとされていた中で、今回は、要人等の安全、救命を図るうえでの限定的かつ特例措置としてなされたものであるが、今後のＤＭＡＴのより効果的な災害医療活動を検討するための有意義な協議、そして措置であったと考える。

13　健康危機事象の探知

国立感染症研究所と連携し、同研究所の「救急搬送サーベイランスデータベース」を活用し、横浜市内でのバイオテロを含む感染症の発生など、健康危機事象の早期探知に努めた。

具体的には、平成22年10月27日から同年11月28日までの間、当局の救急隊が取り扱った傷病者において、予め指定された症状が認められた場合には、当該データベースに必要事項を入力し、これを同研究所が分析した。

14　ＡＰＥＣ関連警防活動事案

⑴　11 月９日　会場入口付近における硫化水素検出事案１件　（消防隊等 11 隊 46 人等により対応）

⑵　11 月 14 日　救急事案１件　（メディカルオフィス配置救急隊により対応）

3.神奈川県の対応

神奈川県保健福祉局　金井　信高

日本ＡＰＥＣにおける神奈川県の対応について

神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課長
金井　信高

１　日本ＡＰＥＣの概要

平成２２年に開催された日本ＡＰＥＣの概要は、次のとおりである。

会議名　　日本ＡＰＥＣ（首脳会議等を開催）

開催期間　平成２２年１１月７日（日）～平成２２年１１月１４日（日）

ア　最終高級実務者会合　　７～８日

イ　閣僚会費　　１０～１１日

ウ　首脳会議　　１３～１４日

開催場所　　横浜市みなとみらい地区

参加国等　　中国、アメリカ等のアジア太平洋地域にある２１の国・地域

ア　首脳　　２１名

イ　首脳夫人、閣僚等　　約３００名

ウ　各国政府代表団、プレス等　　約５千～８千名

エ　警察・警備関係者　　約２．１万人

開催目的　　アジア太平洋地域の持続的な経済発展及び地域協力

２　本県の救急・災害医療体制の取組

【基本】横浜市、厚生労働省の取組に協力し、開催期間中に広域での自然災害や人為的な災害の発生に備えて、救急・災害医療体制の強化を図った。

【取組】

（１）県内災害医療拠点病院の整備状況の調査

平成２２年８月に県内の災害医療拠点病院（３３病院）の整備状況に関する調査を行った。

（調査項目の概要）

ア　施設に関する調査

・施設の開設者、指定内容、ＤＭＡＴチームの有無

イ　災害医療拠点病院としての設備整備状況に関する調査

・病床数、ライフライン、通信設備の整備状況

・備蓄物資、ＮＢＣ災害等への対応状況

ウ　ソフト面の充実度に関する調査

・平常時の診療能力等

・災害時の院内体制、訓練

（調査項目のポイント）

・災害発生後１時間で受入可能な生命の危機のある患者数

・平時に、同時に受け入れることができる多発外傷患者数

・平時に、同時に受け入れることができる広範囲熱傷患者数

・平時に、同時に受け入れることができる圧座症候群患者数

（調査結果）

これら災害発生後１時間で受入可能な生命の危機のある患者数及び平時に同時に受入可能な多発外傷等の重症患者の数が、当初の想定よりも少ないことが分かった。

（２）重症患者の搬送経路や手段についての再検討

（主な検討結果と対応）

・搬送手段の一つとして、ヘリコプターによる搬送のためにＤＭＡＴ事務局による横浜市内の災害医療拠点病院の現地調査が行われたところ、災害医療拠点病院のヘリポートの管理者との認識に相違があることが判明したことから、両者に対して事前説明を行い、災害時に迅速な対応を図ることができるよう依頼した。

（３）災害医療拠点病院における空床数の把握

ＥＭＩＳを活用して効率的、効果的な搬送体制の構築を図った。

（４）災害医療拠点病院に対して協力を依頼

ＡＰＥＣ会期中における災害・テロ等の発生時の医療体制の確保について、災害医療拠点病院に対して、文書により協力を依頼した。

また、横浜市健康福祉局と共催で「ＡＰＥＣ救急・災害医療体制の説明会」を開催し、会期中のＥＭＩＳの定時入力（１日２回）による患者受け入れ情報提供の徹底やＮＢＣ災害等の発生時における対応を依頼した。

（５）災害医療拠点病院等との通信手段の確保

会期中、みなとみらい地区に設置された現地医療対策本部に、移動用のＭＣＡ無線を設置した。

（６）現地連絡員の派遣

会期中、健康危機管理課員が交替で現地医療対策本部に常駐し、関係機関と連絡を密にし、災害の発生に備えた。

３　成果と課題

日本ＡＰＥＣの開催にあたって得た成果と課題は、次のとおりである。

ア　成果

・ ＭＣＡ無線による通信やＥＭＩＳを活用した患者受入情報の把握により、災害発生時の連絡体制の確認を行うことができた。

・ ヘリコプターによる後方支援のために調査を行ったことにより、ヘリポ

ートの実態が把握することができた。

・ 災害医療拠点病院への事前調査により、災害時に対応できる受け入れ患者数の実態を把握し、これに基づいた搬送計画やＤＭＡＴ配置計画を立てることができた。

・ ＡＰＥＣ対応のため、神奈川ＤＭＡＴにおけるＮＢＣ訓練の受講者が増加し、ＮＢＣ対応のための設備整備を行った病院もあった。

・ 横浜市消防によるＥＭＩＳが活用された。

イ　課題

・ ＭＣＡ無線が使用できない災害医療拠点病院の解消

（２３年１月に現地調査（３病院）を実施した結果、アンテナの方向等を調整することによって、通信障害等は解消された。）

・ 災害医療拠点病院とヘリポート管理者との間の災害時の対応確認

（関係機関との会議等を通じて、引き続き連携を密にすることとしたい。）

4.集団災害対応

1)災害医療対応計画（DMAT APEC 対応マニュアル）

国立病院機構災害医療センター　　近藤久禎

DMAT
APEC 対応マニュアル

DMAT 隊員用 APEC 対応マニュアル（目次）

1. 災害医療体制について
  1.1　APEC における災害医療・NBC テロ対応の体制について
  1.2　DMAT の配置、活動
  1.3　災害拠点病院からの後方搬送の手順
  1.4　DMAT シフト表(今回は掲載せず)

2. 標準診療手順

3. 災害拠点病院、後方搬送関連資料
  3.1　後方搬送リスト
  3.2　近隣都県拠点病院等キャパシティー
  3.3　神奈川、近隣都県病院へリポート情報

4. 横浜市内災害医療体制
  4.1　横浜市内病院災害対応
  4.2　横浜市病院の災害対応計画

5. DMAT の通信体制について
  5.1　通信体制
  5.2　日赤無線通信配置運用要領
  5.3　日赤無線教育スライド
  5.4　主要連絡先リスト(今回は掲載せず)

6. 資器材
  6.1　ＤＭＡＴ持参ＮＢＣ資器材
  6.2　横浜市災害拠点病院 NBC 対応拮抗薬情報(今回は掲載せず)

7. 救急医療
  7.1　救護所診療報告定型
  7.2　空港において傷病者が発生した場合の手順等について

日程概要

11 日
- 12:00　本部運用開始、羽田チーム参集
- 13:00～　羽田空港首脳受け入れ活動
- 午後～　横浜チーム順次参集
- 17:00～　成田チーム参集
- 19:00～　成田空港首脳受け入れ活動
- 21:00 メド　11 日活動終了

12 日
- 7:00　横浜チーム参集、ミーティング
- 8:00　横浜チーム活動開始（救護所、待機）
- 16:00 メド　成田空港首脳受け入れ活動終了、成田チーム横浜へ移動

13 日
- 9:00～12:00 同伴者プログラム鎌倉
- 14:00　首脳会議開始
- 14:00 メド　羽田空港首脳受け入れ活動終了
- 16:00～　首脳会議終了、ABAC 会話
- 19:00～　歌舞伎観劇
- 20:20～　レセプション
- 22:00　レセプション終了、首脳ホテルへ移動

14 日
- 9:00～12:00 同伴者プログラム三渓園
- 日中　成田チーム成田へ移動
- 10:00　首脳会議開始
- 12:00　首脳会議終了、ランチ
- 13:30　首脳宣言
- 14:00～　羽田空港首脳送り出し活動
- 18:00～　成田空港首脳送り出し活動

15 日
- 9:00～　救護所撤収開始
- 10:00　成田空港首脳送り出し活動終了
- 11:00　羽田空港首脳送り出し活動終了
- 12:00　全活動終了

シフトの時間帯

午前　　８：００～１２：３０
午後　　１２：００～１８：００
当直　　１８：００～８：００

定期連絡事項

活動開始時
- 本部へ全チーム配置完了を連絡
- 無線連絡の感度の確認

活動中
- 定時無線連絡

活動終了時
- 本部へ活動終了報告
- 活動報告レポート
  - 活動チームとメンバー
  - 活動クロノロ
- 救護所（会議センター、メディアセンター）における診療情報
  - 救急医療：定期報告（資料 7.1）

DMAT
APEC 対応マニュアル

1. 災害医療体制について

資料 1.1

２０１０年日本 APEC における災害医療・NBC テロ対応の体制について

平成２２年１１月

１．首脳会議の概要

（１）日時：平成２２年１１月１３日（土）～１４日（日）（２日間）

（２）関連場所：

パシフィコ横浜
インターコンチネンタルホテル
展示ホール（国際国際メディアセンター）
羽田空港・成田空港

（３）参加者：

APEC 参加エコノミー首脳	２１名
首脳夫人、閣僚、高級実務者	約３００名
各国政府代表団、プレス等	約５千～８千名
警察・警備関係者	

（４）主な行事：（１０～１１日）閣僚会議
（１３～１４日）首脳会議
（１３～１４日）各エコノミー首脳夫人の視察

２．災害医療・NBC テロ対応に係る基本方針

（１）基本的な考え方

① 洞爺湖サミットと同レベルの体制を整備する。
② 横浜市における医療資源、人口密度が洞爺湖の場合と異なることに留意する。
③ テロ対応を踏まえた集団災害対策という視点とする。
④ 首脳等への対応を最優先とする。
⑤ ＤＭＡＴが初動支援、指揮支援を行うことで現地の災害対策を充実・強化するという考え方で行う。
⑥ 爆弾テロを主に想定する。
⑦ NBC 災害時は、NBC テロ専門家チームの助言を受ける。
⑧ APEC 救急医療体制とも連携した体制を構築する。

（２）想定

テロの発生場所、エリアとして、パシフィコ横浜・国際メディアセンター、横浜市内・移動行程・首都圏都市部、空港、その他の都市部等が想定される。これらの場所では、テロが行われることが想定される。テロは、主に爆弾テロが想定されるが、NBC テロが発生することも想定する必要がある。パシフィコ横浜・国際メディアセンター、横浜市内・移動行程、空港においては、首脳等が巻き込まれる可能性がある。

（３）厚生労働省直轄ＤＭＡＴの配置

汚染患者の受け入れを行うためには防護具を装着したＤＭＡＴ最低 5 チームは必要であることを基に算定すると以下のようである。

① 本部　2 チーム（ＤＭＡＴ事務局、神奈川ＤＭＡＴ他）

② 会議センター　4 チーム（救護所と兼任）

③ 国際メディアセンター　4 チーム（救護所と兼任）

◎東京医科歯科大学医学部附属病院、〇前橋赤十字病院、
愛媛県立中央病院、新潟市民病院、草津総合病院、平鹿総合病院、
徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院

④ 羽田空港　5 チーム（東京・神奈川をカバー）

◎山形県立中央病院、〇災害医療センター、近森病院、大津赤十字病院、相澤病院

羽田空港内に 3 か所に待機、首脳の到着に応じて移動、警戒

⑤ 成田空港　5 チーム（千葉をカバー）

◎東北大学病院、〇愛知医科大学病院、京都第一赤十字病院、大阪府済生会千里病院、済生会滋賀県病院

成田空港内に待機、首脳の到着に応じてターミナルを移動して警戒

※成田空港担当の 5 チームは、12 日夜～13 日まで横浜に移動

⑥ 関東ブロック・静岡県　警戒、発災後派遣（主に病院支援活動）

⑦ 全国　警戒

※警戒体制：機材の確認、テロ発生時の派遣メンバーの事前の選定など、できるだけ早く出動できる準備を整えること。

３．対応の例

① パシフィコ横浜・国際メディアセンターにおいてテロが発生した場合

【爆弾テロ・一般災害】

現場救護所：けいゆう病院

現場における消防と医療の連携

・ 指揮命令系統
  - 会場周辺及び横浜市内での災害現場では、派遣されたＤＭＡＴは消防の現場統制下に入る。
  - ＤＭＡＴリーダーは、現地調整所・現場指揮所で消防との調整を行う。
・ 危険区域での活動
  - 危険区域での医療活動は基本的に行わない。
・ 救護所前のトリアージ
  - 基本的には最初に現着した救急隊員が行う。ＤＭＡＴが相当数到着し、救護所が十分機能始めたのちは、救急隊員を搬送にまわせるようにする。
・ 救護所における医療活動
  - ＤＭＡＴが初期治療、安定化等の行為を行う。ＤＭＡＴはまず治療から行う。
・ 搬送順位の確定、搬送先の選定
  - 搬送の順位はＤＭＡＴが決定する。
  - 搬送先の選定は現場指揮所が行う。
  - 警防本部・指令室や医療本部は、受入先の病院リストを現場指揮所に提示し、搬送業務をサポートする。
  - 救急指揮所については、立ち上がる場合と立ち上がらない場合が想定される。立ち上がった場合、ＤＭＡＴと連携し、救護所の情報をまとめる。

受け入れ病院（重症患者）

25 人まで　横浜市内災害拠点病院
50 人まで　神奈川県内災害拠点病院
50 人以上　東京都、千葉県の災害拠点病院

搬送経路と手段

・ 現場→横浜市内の災害拠点病院
  - 横浜市の救急隊
・ 横浜市内の災害拠点病院→神奈川県内災害拠点病院
  - 市外の救急隊、消防防災ヘリ、ドクターヘリ
・ 横浜市内の災害拠点病院→東京都、千葉県の災害拠点病院
  - 県外の救急隊、消防防災ヘリ、ドクターヘリ

※詳細は別項資料

首脳等対応

・ 救急医療班による対応
・ 首脳等対応医療機関は、首脳等が巻き込まれるテロの場合、首脳等のみの対応とする。首脳等が巻き込まれたか不明な場合、安否が確実になるまで一般傷病者対応を行わない。

※首脳等の範囲については、その都度、医療対策本部から指示

ＤＭＡＴ活動

・ 会場で警戒していたＤＭＡＴによるけいゆう病院におけるＴＴＴの活動
・ 必要に応じた神奈川ＤＭＡＴ、隣都県のＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は安全の確保されている病院支援、搬送活動を想定。
・ 神奈川ＤＭＡＴ、隣都県のＤＭＡＴの出動、活動は以下のように想定される。
  - 独自の移動手段（ドクヘリ、ドクターカーなど）移動した場合、被災地内の病院支援、独自の移動手段による患者搬送、消防防災ヘリによる患者搬送を行う。
  - 地元消防本部と連携して移動した場合、当該車両による搬送活動を行う。

【ＮＢＣテロ】

自助・共助で向かう医療機関：けいゆう病院

現場除染（消防・警察・自衛隊など）：けいゆう病院前

現場における消防と医療の連携

・ 指揮命令系統：爆弾テロ・一般災害想定と同様
・ 危険区域での活動
  - 危険区域での医療活動は基本的に行わない。しかし安全性、必要性、有効性が確認できる場合、レベルＣの防護を施した後処置に入る可能性は否定しない。活動の可否の判断は、現場ＤＭＡＴリーダーが行う。
・ 救護所前のトリアージ：爆弾テロ・一般災害想定と同様
・ 救護所における医療活動
  - ＤＭＡＴが初期治療、安定化、解毒剤投与等の行為を行う。ＤＭＡＴはまず治療から行う。
・ 搬送順位の確定、搬送先の選定：爆弾テロ・一般災害想定と同様

病院前除染：けいゆう病院前

除染後の受け入れ病院：

汚染なし：爆弾テロ・一般災害と同様

汚染残存：放医研の助言、支援を得て、防護を行った上、爆弾テロ・一般災害と同様に受け入れる

※汚染残存は主に放射性物質汚染が想定される。
汚染は危険なレベルにないことが想定される。
危険なレベルにあった場合、放医研の助言により計画を変更する。

首脳等対応：爆弾テロ・一般災害想定と同様

ＤＭＡＴ活動

・ 会場で警戒していたＤＭＡＴによる病院前除染、搬送トリアージなどのけいゆう病院の支援活動

・ 必要に応じて神奈川ＤＭＡＴ、隣都県のＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は、爆弾テロ・一般災害想定と同様。

② 横浜市内・移動行程・首都圏都市部（首脳等滞在ホテルも含む）においてテロが発生した場合

【爆弾テロ・一般災害】

現場救護所：現場直近

現場における消防と医療の連携：想定①と同様、準用

受け入れ病院（重症患者）

25 人まで　被災市内災害拠点病院

50 人まで　被災都県内災害拠点病院

50 人以上　隣都県の災害拠点病院

搬送経路と手段

・ 現場→被災市内の災害拠点病院
  - ➢ 被災市の救急隊
・ 被災市内の災害拠点病院→被災県内災害拠点病院
  - ➢ 市外の救急隊、消防防災ヘリ、ドクターヘリ
・ 被災市内の災害拠点病院→隣都県の災害拠点病院
  - ➢ 県外の救急隊、消防防災ヘリ、ドクターヘリ

※詳細は別項参照

首脳等対応

・ 横浜市の場合、救急医療班による対応
・ その他の地域の場合、ＤＭＡＴによる対応
・ 首脳等対応医療機関は、首脳等が巻き込まれるテロの場合、首脳等のみの対応とする。首脳等が巻き込まれたか不明な場合、安否が確実になるまで一般傷病者対応を原則行わない。

※首脳等の範囲については、その都度、医療対策本部から指示

ＤＭＡＴ活動

・ 会場で警戒していたＤＭＡＴによる現場救護所におけるＴＴＴ活動
・ 会場警戒のＤＭＡＴの一部（4 チーム程度）は第二次攻撃に備え待機
・ 必要に応じた関東地方、静岡県のＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は想定①と同様、準用。

【ＮＢＣテロ】

自助・共助で向かう医療機関：直近の被災市内の病院

現場除染（消防・警察・自衛隊など）：テロ現場近傍

現場における消防と医療の連携：想定①と同様、準用

病院前除染

直近の災害拠点病院のある病院前（複数の可能性あり）

除染設備のない病院の場合

ＮＢＣテロの恐れがある場合、病院をまず閉鎖

除染が不必要と判明した場合、受け入れ再開

除染が必要な場合、

対応要員にスタンダードプレコーション＋呼吸防護

歩行可能な患者の脱衣を指示、除染可能な病院へ誘導

歩行不能な患者がいる場合、医療対策本部へ支援を要請。本部の指示により方針を決定。

※適正な除染の方法は、本部で原因物質などの情報を収集し、ＮＢＣテロ対応班の助言を受け、その都度方針を修正。

除染後の受け入れ病院：想定①と同様、準用

ＤＭＡＴ活動

・ 国際メディアセンター、空港で活動しているＤＭＡＴによる病院前除染、搬送トリアージなどの直近災害拠点病院の支援活動
・ 会議センターで活動していたＤＭＡＴは第二次攻撃に備え待機
・ 必要に応じ関東地方、静岡県ＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は想定①と同様、準用

③ 空港においてテロが発生した場合

【爆弾テロ・一般災害】

現場救護所：現場直近

現場における消防と医療の連携：想定①と同様、準用

受け入れ病院（重症患者）

25 人まで（成田の場合は 5-6 名） 被災市内・近郊災害拠点病院

50 人まで 被災都県内災害拠点病院

50 人以上 隣都県の災害拠点病院

搬送経路と手段：想定①、②と同様、準用

首脳等対応

・ ＤＭＡＴによる対応
・ 首脳等対応医療機関は、首脳等が巻き込まれるテロの場合、首脳等のみの対応とする。首脳等が巻き込まれたか不明な場合、安否が確実になるまで一般傷病者対応を行わない。

※首脳等の範囲については、その都度、医療対策本部から指示

ＤＭＡＴ活動

- 空港内待機ＤＭＡＴによる現場救護所におけるＴＴＴ活動
- 会議センターで活動していたＤＭＡＴは第二次攻撃に備え待機
- 羽田空港の場合、国際メディアセンターのＤＭＡＴは、投入可能
- 必要に応じ関東地方、静岡県ＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は想定①と同様、準用

【ＮＢＣテロ】

自助・共助で向かう医療機関：空港内のクリニック

現場除染（消防・警察・自衛隊など）：空港内

現場における消防と医療の連携：想定①と同様、準用

病院前除染：空港内現場除染で対応

除染後の受け入れ病院：想定①と同様、準用

ＤＭＡＴ活動

- 空港待機ＤＭＡＴによる空港内現場除染、救護所診療、搬送トリアージなどの支援。
- 会議センターで活動していたＤＭＡＴは第二次攻撃に備え待機
- 羽田空港の場合、国際メディアセンターのＤＭＡＴは、投入可能
- 必要に応じ関東地方、静岡県ＤＭＡＴの支援を要請。活動内容は想定①と同様、準用。

④ その他の都市部においてテロが発生した場合

警戒態勢

ＤＭＡＴの事前待機のための投入は現実的ではない。

4．患者搬送方針

① 現場から災害拠点病院への搬送

- 市内の災害拠点病院への搬送を基本とし、重症者が 25 人以上と見込まれる場合は県内の市外災害拠点病院に、重症者が 50 人以上と見込まれる場合には、県外の災害拠点病院にそれぞれ搬送先を拡大する。但し、市外消防機関の救急車が現場から直接市外に搬送する可能性もありうる。
- まずは、ＥＭＩＳの「多発外傷の受入可能人数」を目安に搬送
- 次に、ＥＭＩＳの「１時間以内の重症者受入可能人数」を満たすまで、各病院の了解を取ることなく搬送
- その数を超えた場合、市大センター病院、みなと赤十字病院、横浜労災病院、横浜東部病院に重点的に搬送
- 災害拠点病院は受け入れて患者数をＥＭＩＳ詳細情報に入力

・ 消防指令室、現地医療本部（厚労省現地医療対策本部）は災害拠点病院の状況をＥＭＩＳや電話などで把握、適宜現場へ情報提供
・ 同時多発災害が発生した場合は、災害発生場所に応じて、消防指令室、現地医療本部が搬送先病院を振り分ける。

② 災害拠点病院間の転院搬送の原則

・ 市内の災害拠点病院は、被災地内のキャパシティーを超えた患者の根本治療を行うため、新たな重症患者の受け入れに対応するため、処置により安定化が図られた患者を順次、後方病院（市外の災害拠点病院）へ転院搬送する。
・ 現地医療本部は、ＥＭＩＳを活用し、病院ごとに転院搬送方面の病院群を選定する。
・ 市内の医療機関は、その病院群との病院間にて搬送先病院を決定する。
・ 県外の病院との調整が困難な場合には、東京都では災害医療センター、東京医科歯科大学、千葉県では君津中央病院を当面の搬送先の候補とする。
・ 転院先後方病院が決定した場合、消防（救急車、消防防災ヘリ）やドクターヘリに転送を依頼する。
・ 災害拠点病院が陸路により後方病院に転院搬送させようとする場合は、消防に依頼する。各災害拠点病院に県内応援救急隊が待機している場合は、直接、搬送を依頼する。
・ 市大センター病院、みなと赤十字病院、横浜労災病院は、消防ヘリ（横浜市消防局、東京消防庁、川崎市消防局、千葉市消防局航空隊を予定）やドクターヘリ（東京ヘリポートを拠点として 10 隊程度が応援飛来の予定）を用いて後方病院に転院搬送することができる。
・ 消防防災ヘリにより転院搬送させようとする病院は、消防局司令課（１１９番）に航空隊（消防ヘリ）の出動を要請する。
・ ドクターヘリの要請については、現地医療本部へ行う。
・ 消防ヘリとドクターヘリの航空管制は、消防局航空管制科が調整を図る。
・ 病院は、航空隊から病院到着予想時刻が伝えられたならば、転院搬送のための準備に取り掛かる。なお、気象条件により転院先後方病院への飛行が困難である旨が伝えられた場合は、再度、病院間において転院先後方病院を調整する。
・ 消防ヘリが着陸したならば、患者の他、医師又は看護師が医療資器材を携行し搭乗する。なお、転院搬送実施後、医師及び看護師及び必要な資器材は消防ヘリにより帰還する。
・ ドクヘリの使用計画については次項に詳述する。

５．APEC　後方搬送　ドクターヘリ使用計画

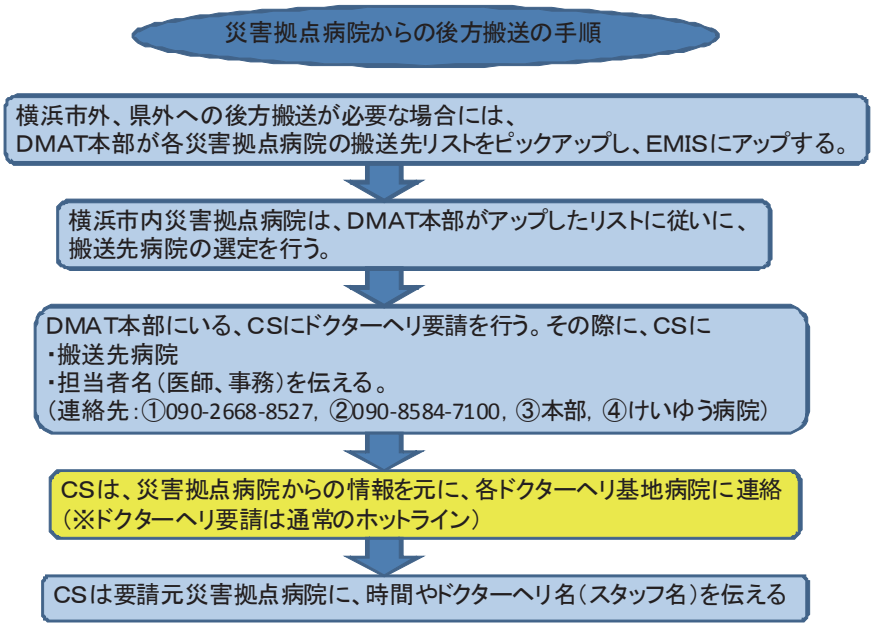
① ドクターヘリの使用目的

APEC で災害が発生した時には，横浜消防が傷病者を横浜市内の病院に分散搬送を行う予定です．傷病者が 25 名を超えるようであれば，神奈川県内または，県外の病院に後方搬送を行わなければならないと考えています．その際には，横浜市内の病院（DMAT としては，横浜市立みなと赤十字病院，横浜労災病院，横浜市立大学附属市民総合医療センター，済生会横浜東部病院を考えている）からヘリ搬送を考慮しています．消防防災ヘリを使用するか，ドクターヘリを使用するかは，各病院の判断としています．**現時点ではドクターヘリの使用は横浜市内の病院から県内，県外病院への転院搬送を考えています**．

② ドクターヘリの要請方法（下記　図を参照）

横浜市内の病院（DMAT としては，横浜市立みなと赤十字病院，横浜労災病院，横浜市立大学附属市民総合医療センター，済生会横浜東部病院を考えていますが，必要時にはその限りではありません）が，傷病者の状態を考慮し，DMAT 本部のリストアップした病院から転院搬送先を決定して頂きます．その内容を DMAT 本部ＣＳ（けいゆう病院常駐）に連絡します．

ＣＳは，**各ドクターヘリ基地病院のホットライン（各基地病院の通常の要請方法）**に連絡．出動可能であれば，ＣＳは要請のあった病院に再度，調整内容を連絡します．

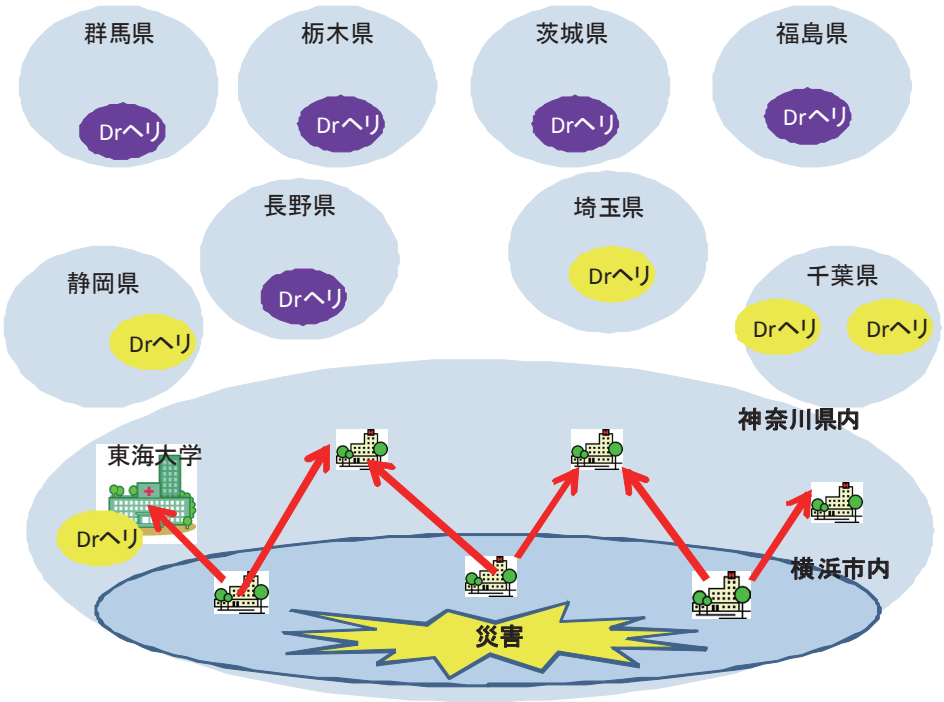


③ 各搬送元病院の使用予定のヘリポート情報

・横浜市立みなと赤十字病院　　：屋上ヘリポート

・横浜労災病院　　：院外（小机競技場）
・横浜市立大学附属市民総合医療センター：屋上ヘリポート
・済生会横浜東部病院　　：院外（東芝工場）
その他の病院に関しては，随時，ＣＳから連絡をします．

④　ドクターヘリ要請の範囲
まずは，
・神奈川県：東海大学医学部附属病院
・静岡県東部：順天堂大学医学部附属静岡病院
・千葉県：千葉北総病院，君津中央病院
・埼玉県：埼玉医科大学総合医療センター
へ要請を検討しています．それでも，機体が足りない場合には範囲を広げて，
・静岡県西部：聖隷三方原病院
・長野県：佐久総合病院
・群馬県：前橋赤十字病院
・栃木県：獨協医科大学病院
・茨城県：水戸済生会総合病院，水戸医療センター
・福島県：福島県立医科大学附属病院に要請を検討します．
原則として，ドクターヘリの給油拠点および参集場所に関しては**東京ヘリポート**を予定していますが，基地病院より直接，搬送元病院に出動となる可能性もあり得ます．



６．体制を確保する期間

①	本部	リーダーズウィーク（11 月 7 日～15 日）
②	パシフィコ横浜・国際メディアセンター	首脳来訪期間のみ
③	横浜市内・移動行程・首都圏都市部	首脳来訪期間のみ
④	空港	首脳来訪期間のみ
⑤	その他の都市部	警戒のみ

DMATの配置と発災時の展開

待機DMATの配置（12、14、15日）

待機DMATの配置（13日）

待機DMATの配置（会場近辺日中）
MMTOWERS ザ・イースト
けいゆう病院前
MMTOWERS ザ・サウス
臨港パーク
パシフィコ横浜
DMAT
救護所
けいゆう病院
みなとみらい交番入口
けいゆう病院
（待機・訓練）
パシフィコ横浜国立横浜国際会議場
パシフィコ横浜前
海上旅客ターミナル
ホテル待機
横浜国際
救護所
横浜みなとみらいホール
みなとみらいホール
パンパシフィック横浜ベイホテル東急
ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
国際橋
クイーンモール
13日は7チーム
ホテル待機

待機DMATの配置（会場近辺夜間）
MMTOWERS ザ・イースト
けいゆう病院前
MMTOWERS ザ・サウス
臨港パーク
パシフィコ横浜
救護所
けいゆう病院
みなとみらい交番入口
けいゆう病院
（待機・訓練）
パシフィコ横浜国立横浜国際会議場
パシフィコ横浜前
海上旅客ターミナル
ホテル待機
横浜国際協力
救護所
横浜みなとみらいホール
みなとみらいホール
パンパシフィック横浜ベイホテル東急
ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
国際橋
クイーンモール
みなとみらい駅前

会場でのテロ発生時
MMTOWERS ザ・イースト
けいゆう病院前
MMTOWERS ザ・サウス
臨港パーク
パシフィコ横浜
現場支援
救護所
病院支援
けいゆう病院
パシフィコ横浜国立横浜国際会議場
海上旅客ターミナル
救護所
横浜みなとみらいホール
みなとみらいホール
パンパシフィック横浜ベイホテル東急
ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
国際橋
クイーンモール
ホテル
※現場支援は、NBCテロの場合、病院前除染支援となる

会場近辺でのテロ発生時（初動）
救護所
けいゆう病院
ホテル
現場支援
救護所
DMAT

会場近辺でのテロ発生時（NBC以外）
病院支援
救護所
けいゆう病院
ホテル
現場支援
救護所
DMAT

会場近辺でのテロ発生時（NBC）
病院支援
救護所
けいゆう病院
病院前除染
ホテル
現場支援
救護所
DMAT

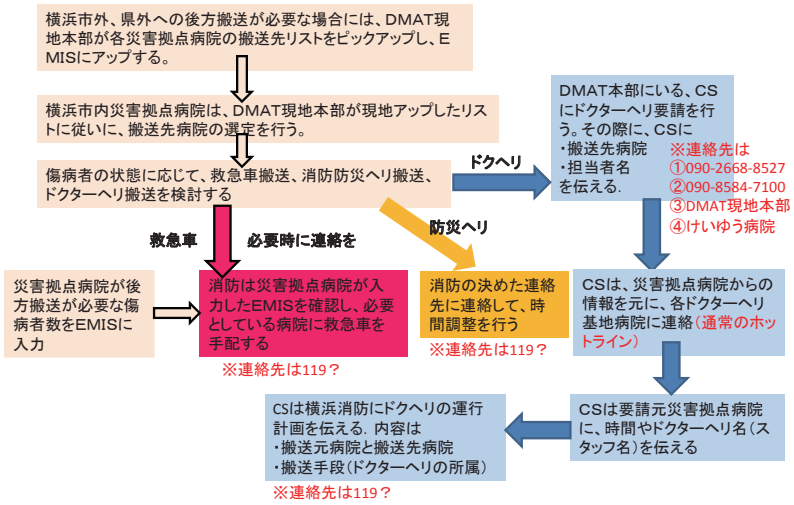
横浜・川崎・大田区でのテロ発生時

東京都内でのテロ発生時

千葉県内でのテロ発生時

資料1.3

災害拠点病院からの後方搬送の手順



DMAT
APEC 対応マニュアル

2.標準診療手順について

APECにおける
CBRNE（NBC）テロに対する
標準的初期対応手順
―災害現場対応―

目標

災害現場においてCBRNE（NBC）テロ災害傷病者に対する医療活動

1. 現場医療の要否・可否（安全、装備、他機関との連携）が判断できる。
2. テロ発生種別による行動の違いを理解し実行できる。
3. 原因物質毎の特異的対処法を理解し実行できる。

Ⅰ．事象評価（疑う）と準備（Sense and Size up）

- テロ予告
- 爆発事案
- 原因不明の**同一場所、同一時期**の**多数傷病者**発生
- 原因不明のショック、意識障害、神経症状、嘔吐、下痢、皮膚症状の発生。
- 原子力関連施設内の事象。など

→先ずは***疑う***ことから

→情報収集（METHANE）と準備（**CSCATTT**）

＊Bは散布直後には無症状で気がつかれないことが多い。多様な形で発症後判明することも多い。

CBRNE-DMATの派遣の判断

（やみくもに出動しない！）

- 現場情報からCBRNE災害の蓋然性が高いか？
- 現場医療の必要性が高いか？
- 現場の安全性が確保できるか？
- 医療継続性は確保されるか？

十分な知識・装備はあるか？

装備

- DMATとしての基本装備
- 防護具（レベルC）、気道防護具（N95マスク）
- 放射線検知器
- 個人線量計
- C剤対応

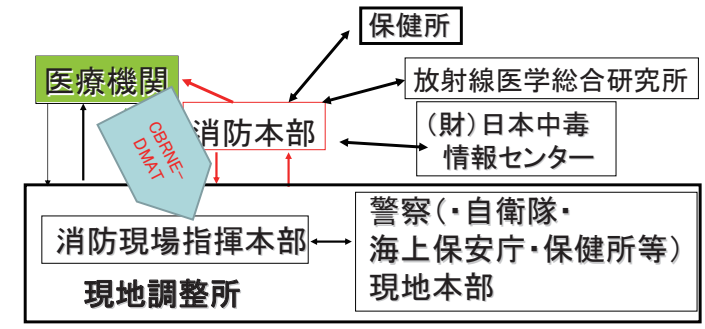
（アトロピン、PAM、シアノキット、ジアゼパム）

Command and Control Communication

（Incident Command System）

- 現場情報の把握（指揮命令系統確立）
- 情報の共有
- 関係機関（消防、警察、自衛隊）と密に情報交換

「NBCテロ対処現地関係機関連携モデル」



救急救命活動
搬送医療機関決定
医療機関への搬送

被害者の救出救助
被害者の一次除染

ゾーニング
避難誘導
物質検知

情報収集

【関係機関と医療チームが必要な情報交換】
- 傷病者数・症状、疑われる物質
- 現場の安全確保(第2、3攻撃？)
- 放射性物質、化学物質など原因物質

推定・検知結果(現地・中毒情報センター)
⇔臨床情報との比較

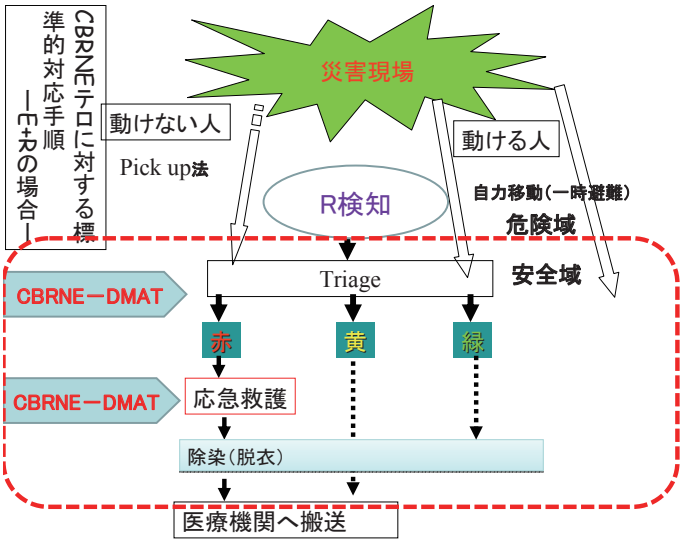
CBRNE災害対処
⇒2種に分けて対応

①大規模爆発(E):多数死傷者発生爆発

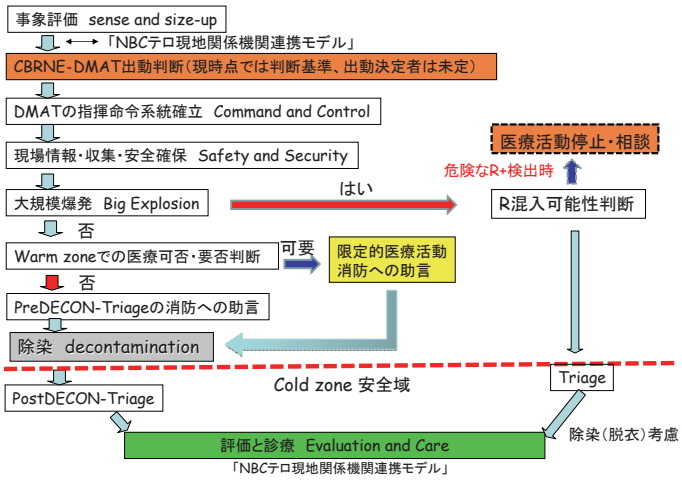
②CBRN:不明の原因暴露による多数傷病者発生
⇒物質拡散のための小規模爆発を含む

① E（爆発災害）対処

- テロ原因としては最も多い
- 第2，第3の爆発あり
  異所同時、同所異時
- Rの混入はあり得るが、活動にあたって危険なレベルのRは想定しにくい



CBRNE（NBC）災害現場の医療対応



安全確保（Safty and Security）

- 安全な場所への出動確認！
- 安全確保のための装備確認
- 個人防護衣装着＝標準防護策+気道防護
  （放射線核種や粉じん吸入に対するPPE）
  N95 レベル以上の呼吸防護
  （現場で活動できる放射線防護衣はない）
- ポケット線量計装着（アラーム付きが望ましい）
- エリア設定
  →現場活動は***安全域***を基本とする

- 第二第三の攻撃の可能性を念頭に置く

連携と評価

①R剤混入に関する情報確認
⇒外部被曝だけでなく内部被曝（吸入）に注意！
呼吸防護
α核種：皮膚に付着しても無害だが吸入は危険

②次の爆発の危険性に関する情報

R混入の判断

危険なR+とは
- 患者体表から50cmで50mSy/hを超えるR検出時

2mで3mSy/h

↓

放射線医学総合研究所に相談する。
緊急被ばく医療ダイアル043－206－3189（さひばく）

まず、危険レベルの被曝は想定できない。

もしR+のとき被曝・汚染対策

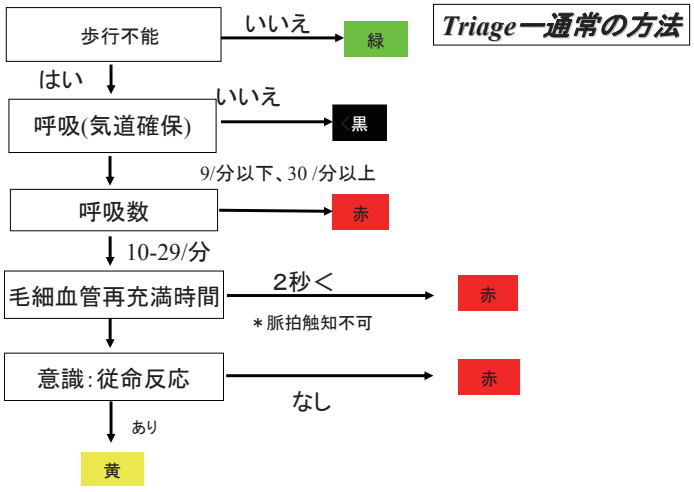
危険でないR+とは

定常レベル～50mSy/h以下の検出

①個人線量測定はしておく

②可能な範囲で脱衣（ビニール袋に入れる）

＊現場活動に有用な放射線防護衣はない!!



現場での医療の要否判断

①重篤な外傷患者対応
②緊急搬送のための判断、アドバイス

有効かつ可能な医療行為とは？

ABC確保のための緊急処置

- 気道確保、呼吸管理
- 静脈路確保・骨髄輸液（Bone Injection Gun）
- 重篤外傷に対する救命処置

Ⅲ　Evaluation and Care

目標：搬送できるまでの間、生理学的危機を探知し蘇生する。
（バイタルサインの安定化）

JATECのPSに準じた外傷対応をするが、
爆傷特有の損傷や対応を知る。

爆傷の特徴！
①第一印象：鼓膜損傷患者の注意
②遅発性の重症外傷ある
③四肢轢断多い

爆傷特有の病態

1次損傷：衝撃波＋爆風による圧外傷

- 鼓膜損傷　SS
  ⇒傷病者が聴力を失って身体所見を判断しにくくなる
- 肺損傷・空気塞栓　B
- 腸管損傷　SS
- 中枢神経損傷　D
- 眼球破裂　SS

2次損傷：飛散物による損傷

- 穿通外傷　B・C
- 体内異物　SS
- 眼損傷　SS

3次損傷：爆風によって飛ばされ、叩きつけられる。重量物の下敷きになる

- 鈍的損傷　B･C
- 穿通外傷　B･C
- 骨折　SS
- 四肢離断　C
- 脳損傷　D
- 圧挫症候群　C

4次損傷

- 熱傷　A･SS
- 窒息　A
- 有毒ガス吸引　A･B

爆発外傷に伴うPS･SS対応

	1次損傷	2次損傷	3次損傷	4次損傷
A			気道熱傷 窒息	
B	肺損傷 空気塞栓	開放性気胸	気胸 血胸	
C		穿通損傷	四肢離断	熱傷 圧挫症候群
D	中枢神経損傷		中枢神経損傷	
SS	眼球損傷 腸管損傷	眼球損傷 体内異物	骨折 腹部臓器損傷	熱傷

C（循環）異常の特性

全身に爆圧を受ける

⇩

末梢血管抵抗減弱、心拍出量低下

⇩

抵抗性の低血圧

Cの蘇生

①ターニケット止血

【四肢離断に対して】

阻血のリスクや神経損傷

⇒病院到着後早期に解除

⇒時間管理

Cの蘇生

②Hypotensive resusitation rule低血圧蘇生

【頭部外傷を伴わない成人外傷】

初期輸液：低容量の輸液

圧迫できない出血、コントロールできない出血⇒目標血圧
80～90mmHg（低血圧蘇生）

早期搬出不可能の場合

⇒受傷1時間後から目標血圧110mmHg

【高齢者、頭部外傷】

当初より目標血圧110mmHg

【現場での大量輸液の弊害】
・肺水腫、脳損傷、凝固異常が悪化
・資源の制限

除染

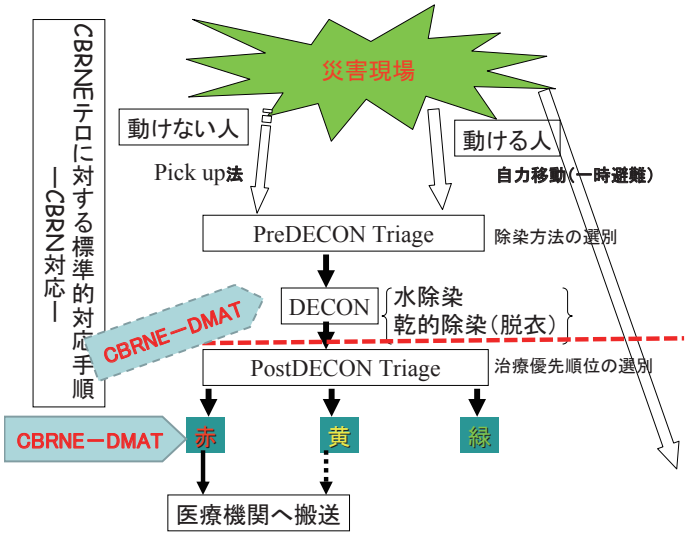
目的;汚染拡大防止

- 重症患者(赤)は緊急救命処置を優先
- 中等症(黄)軽症(緑)は判定後搬送前に脱衣させる
- 脱衣後衣類はビニール袋に入れて汚染拡大を防ぐ

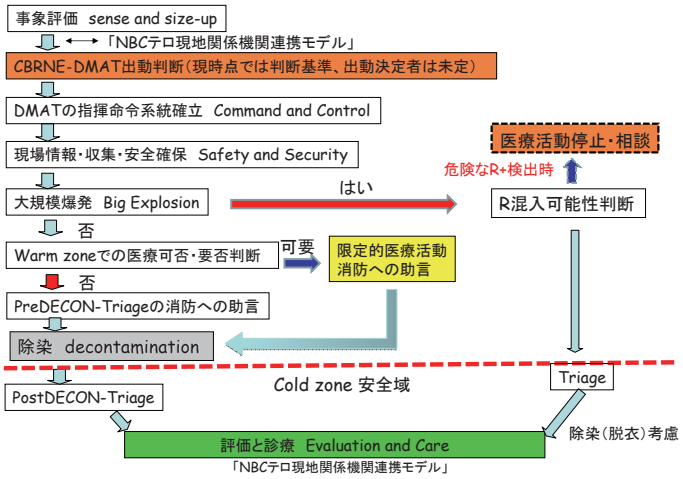
②CBRN対処(E以外)

- 原因不明の多数傷病者発生時積極的に疑う
- 早期症状出現するものと遅発性のものがある
- 様々な暴露原因物質を念頭におく

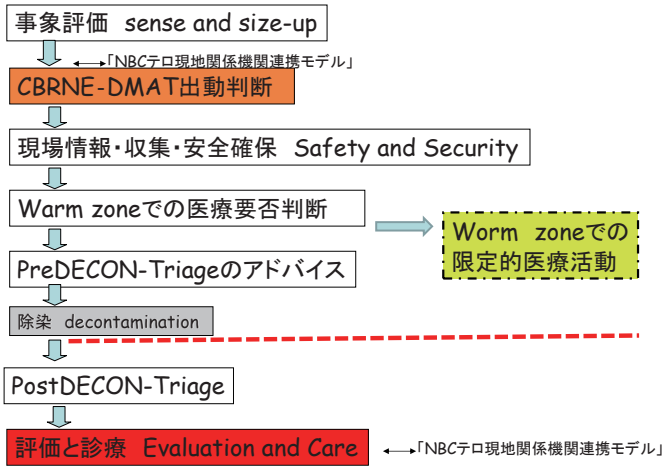
・除染活動中の医療活動支援
・除染後の特有の医療活動
・危険領域での活動の要否を検討



CBRNE（NBC）災害現場の医療対応



CBRNE（NBC）災害現場の医療対応



安全確保（Safty and Security）

- 安全な場所への出動確認！
- 安全確保のための装備確認
- 個人防護衣装着

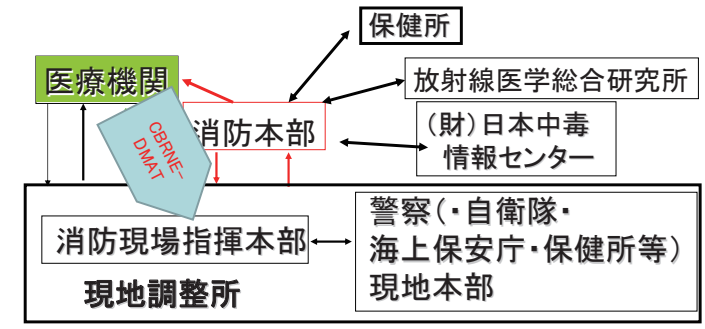
（PPEのレベルは、ウォームゾーンではレベルC以上の防護衣が基本）

- アラーム付きポケット線量計装着
- エリア設定

→現場活動は***コールドゾーン***を基本とするが必要時に限ってウオームゾーンで活動

- 余裕があれば傷病者用簡易呼吸防護具の使用を考慮
- 第二第三の攻撃の可能性を念頭に置く

「NBCテロ対処現地関係機関連携モデル」



救急救命活動
搬送医療機関決定
医療機関への搬送

被害者の救出救助
被害者の一次除染

ゾーニング
避難誘導
物質検知

情報収集

医療チームの現場投入要否判断

Cold Zone（安全域）の医療が基本

Warm zone（危険域 ）での活動？

Warm Zoneでの医療の要否判断

・ Cold Zoneでの活動が基本である
限定的にWarm Zoneでの活動を考慮する。

・除染まで待てずに大量の重症者が発生している
・けいれん
・早期拮抗薬投与が有用なC剤暴露
（神経剤、シアン）

Warm Zoneでの限定的医療

Warm Zoneで有効かつ可能な医療行為とは？
かなり限定的!!
・ 気道確保・呼吸管理
・ 骨髄輸液（Bone Injection Gunなど）
・ 早期の薬剤投与
（CN・Nの検索とけいれん対処）
→神経剤曝露の判断（縮瞳、分泌亢進、線維束攣縮）

Warm zoneでの具体的医療行為

①気道確保・呼吸管理

気管挿管等：神経剤暴露の際は気道確保だけでなく頻回の吸引と高気道圧に耐えられる方法

②抗けいれん薬：ジアゼパム10mg筋注

③抗神経剤薬：MARK－Ⅰkit（アトロピン＋PAM）筋注

④抗シアン薬：

ヒドロキソコバラミン5g＋蒸留水100ml点滴

＊⑤（確定時のみ）抗ルイサイト薬：BAL100～300mg筋注

＊これらの医療行為は継続的に実施の要否を判断する

気道確保

Warm zoneで活動する際の注意

①レベルCの防護具（可能な限り高度な吸収缶が望ましい）は万全ではない！

・防護具の破損に注意（肘当て、膝当てなど）

・原因化学物質の種類によっては不十分な防護

・放射線の種類によっては被曝防護できない

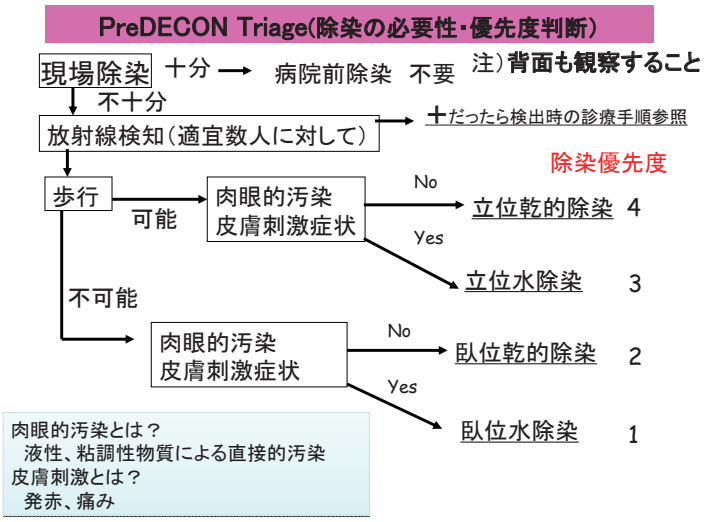
②生殖可能女性は活動人員に選定しない

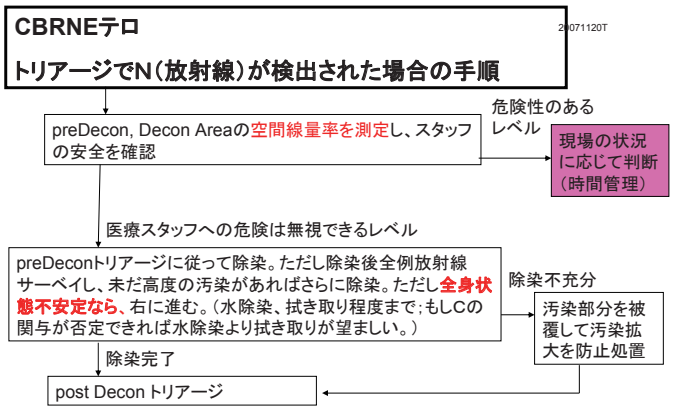
③1人の継続活動時間を30分に制限、必要に応じて交代

Ⅱ－1　PreDECON Triage

- 除染の優先順位・方法の判断
  軽症者（自力移動可能）と中等症、重症者（自力移動不可）を分離
- 肉眼的曝露有・爆発テロが疑われる場合、放射線測定を数名に対して適宜行う

肉眼的汚染とは？
　液性、粘調性物質による直接的汚染
皮膚刺激とは？
　発赤、痛み





Ⅱ－2除染

除染方法
（消防機関等が実施する活動への協力）

- 乾的除染（脱衣＋露出部拭き取り）
- 水除染（乾的除染＋汚染部洗浄シャワー）
- ふき取り除染

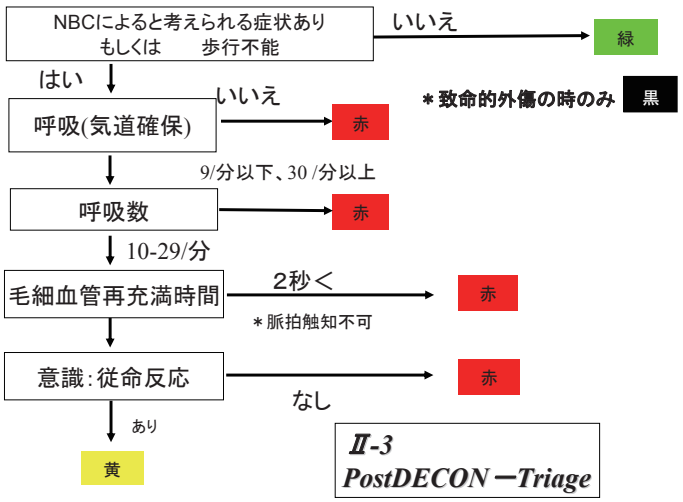
除染中の緊急処置

(1)気道確保（気管挿管など）、呼吸管理
(2)痙攣時にはジアゼパム10mg筋注・5mg静注
(3)神経剤曝露が疑われる際のアトロピン1～2mg筋注

注）(2)(3)については必要に応じて繰り返し投与

Ⅱ－3　PostDECON－Triage

- 傷病者の除染後の治療の優先順位を判断
- 致命的外傷患者でない限り、蘇生の可能性があるので安易に黒に判定しない。



Ⅲ　Evaluation and Care
Ⅲ－1　primary survey

目標：搬送できるまでの間、生理学的危機を探知し蘇生する。
（バイタルサインの安定化）
・***CN・N(シアン、神経剤)***の拾い上げを特に意識する。

第一印象

・＊CN・N（シアン、神経剤）を素早く探す
・ABCDの評価
・***PSPS＊***の評価

＊
縮瞳（P）
鼻汁・唾液などの分泌亢進（S）
肺・呼吸（P）
皮膚・筋所見（S）

＊詳細なABCDEアプローチ(1)

＊CN・N（シアン、神経剤）を探せ！

Airway 気道管理
必要に応じ気管挿管。
分泌が多い→N→**吸引・アトロピン1~2mg筋注**

Breathing　呼吸の評価と安定化
頸部・胸部の観察、酸素投与
SpO2低下の無い呼吸困難
→CN？ →シアノキット点滴と気管挿管と100%酸素投与

Circulation　循環の評価と安定化
皮膚所見、脈の触知、輸液路確保・輸液

＊詳細なABCDEアプローチ(2)

Dysfunction of CNS　中枢神経の評価と安定化

意識レベル確認、瞳孔所見、

痙攣コントロール

→**ジアゼパム10mg筋注 or 5mg静注**

＊瞳孔正常、分泌亢進なし、線維束攣縮なしの痙攣
→***CN***を疑う

Exposure and Environmental control

除染後の衣類除去と環境管理

外傷の合併、皮膚病変評価、保温

→皮膚の痛み、発赤・腫脹・水疱などから

ルイサイトを疑う

Ⅲ−2　secondary survey

目的:

繰り返し状態観察して搬送に備える

手順:CBRNEの各原因の特性を念頭に、発災状況把握と身体観察から原因物質の特定と状態変化に備える

【重要】
「NBCテロ現地関係機関連携モデル」に基づき
現地本部での各情報の共有に努める。
日本中毒情報センターや放射線医学総合研究所の情報を総合して評価・診療をする。
現場での物質簡易検知結果と身体所見が合致するか否かを常に考え、***相互連絡と搬送医療機関への情報提供***を。

物質特定と観察

①　状況から曝露が疑われる

（不特定多数の傷病者が急に発生、動物、鳥、魚、植物の死や変化、水滴や油滴の付着）

②瞳孔（P）、分泌（S）、呼吸･肺（P）、皮膚・筋（S）をcheck

いずれかの物質に合致しない場合、PSPSの陽性所見を重視して、複数の物質曝露を考慮する。

チェックリストを利用

詳細な身体観察

NBC診療セカンダリーサーベイチェックリスト

		診療結果	神経剤	シアン	窒息剤	びらん剤	催涙剤	N	ボツリヌス
瞳孔(P)	縮瞳		○			(○)			
	散瞳			(○)					
	結膜炎、充血				○	○	○		
分泌(S)	亢進		○			(○)			
	流涙				○		○		
呼吸(P)	頻呼吸		(○)	○	○		○		
肺	呼吸数減少			(○)					○
	SpO2低下		○	×	○				○
皮膚(S)	多汗		○			(○)			
筋	びらん・水疱					○			
	発赤、紅斑					○		○	
	鮮紅色			○					
	露出部灼熱感						○		
	線維束攣縮		○						

【特異的治療】

・神経剤
　アトロピン1～2mg im　（条件が許せばivも）
　分泌が落ち着くまで 3～5分毎に繰り返す
　PAM　1ｇ　20分以上かけて静注
・シアン化合物
　①ヒドロキソコバラミン5g+注射用蒸留水100ml静注
　②亜硝酸アミル吸入5分毎に5～6回
　→3%亜硝酸ナトリウム（院内調剤）10ml　5～15分かけて
　③②の後10%チオ硫酸ナトリウム　125ml10分以上かけて
・びらん剤
　ルイサイトならBAL2～4mg/kg4～12時間毎筋注
　　BAL軟膏（国内に無）
・窒息剤
　気管支拡張薬

CBRNE毎の対応

C:2剤3剤の複数の化学剤を混ぜて散布される可能性を常に念頭に置く。この場合、チェックリストの表の陽性所見を重視して、複数の範疇に当てはまる可能性を考慮する。

B:Nと同様に曝露直後に発病することはまれであり、発症後は通常の感染症対応になる。例外的にボツリヌス毒素の曝露によって呼吸不全が生じた場合にPrimary Surveyにおいて気道確保と人工呼吸対応をすることで生命維持可能である。

バイタルサイン(ABCD)、全身状態の安定化に努めながらすすめる。

R：被曝による初期症状はないことが多いので、放射性物質散布の予告がないとなかなか気付きにくい。放射性物質を広く散布することを目的に爆発物に混入させる所謂dirty bombがある。小規模な爆発の際に想起する必要がある。数種の放射性物質に関しては体外へ排出するためのキレート剤が存在するが、通常C剤に対する拮抗薬に比べて一刻を争うほど緊急性が高いものではない。

N：放射性物質曝露と同様に直後は無症状であり、判別困難なことが多い。核兵器の場合爆発エネルギーと熱エネルギーが大きく、重篤な外傷や熱傷を負うことが多いので、被曝レベルの検知結果によっては除染よりJATECに準じた外傷処置が優先されることがある。

E：爆発による重篤な多発外傷を受傷することが多い。C剤やRの混入に注意しながらJATECに準じた外傷対応が求められる。

DMAT
APEC 対応マニュアル

3.災害拠点病院、後方搬送関連資料

	病院名	部署	電話番号	災害後1時間	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	ヘリポート
1	昭和大学藤が丘病院	救命センター受付	045-974-6357	2	2	0	△
2	横浜労災病院	救急センター直通	045-474-8888	2	1	1	○
3	昭和大学横浜市北部病院	電話交換(24H体制)	045-949-7000	1	1	0	
4	済生会横浜市東部病院	医事室	045-576-3000	5	2	2	△
5	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	救命センター	045-366-1111	3	2	0	△
6	けいゆう病院	救急外来	045-221-8181	1	0	0	×
7	横浜市立市民病院	救命救急センター	045-331-1000	2	1	0	△
8	国立病院機構横浜医療セン	企画課医事　飯田さん	045-851-2621	3	0	0	×
9	横浜市立大学附属市民総合医療センター	救命事務室	045-261-5656	2	2	2	◎
10	済生会横浜市南部病院	救急センター	045-832-1111	0	1	1	
11	横浜市立大学附属病院	救急外来	045-787-2828	2	1	0	
12	横浜南共済病院	救急センター師長	045-782-2101	1	1	0	
13	横浜市立みなと赤十字病院	救急外来	045-628-6100	4	2	1	◎
				28	16	7	

14	聖マリアンナ医科大学病院	救命センター　石上さん	044-977-8111 (内6417・5189)	4	2	0	
15	帝京大学医学部附属溝口病院	総務課	044-844-3333	4	2	0	
16	川崎市立多摩病院	救命受付	防災センター	0	0	0	
17	川崎市立川崎病院	看護部当直師長	044-233-5521(代)	5	3	3	◎
18	関東労災病院	防災センター	044-411-3131	5	2	0	○
19	日本医科大学武蔵小杉病院	村井　孝次	044-733-5181	1	1	1	○
20	横須賀共済病院	守衛室	046-822-0689	3	2	1	
21	横須賀市立市民病院	防災センター	046-856-3136	0	0	0	
22	藤沢市民病院	救命救急受付	0466-25-3111(代)	1	1	1	
23	茅ヶ崎市立病院	当直	0467-52-1111	1	0	0	○
24	東海大学医学部付属病院	救命センター受付(斉藤)	0463-93-1121	2	2	2	◎
25	平塚市民病院	救命センター医師(要確認)	0463-32-0015	2	1	0	
26	秦野赤十字病院	社会課(唐鎌)	0463-81-3721	3	0	0	
27	厚木市立病院	事務当直	046-221-1570	2	2	1	
28	大和市立病院	医事課(原田さん)	046-260-0111	0	0	0	
29	北里大学病院	救命センター	042-778-8128	3	2	1	○
30	相模原協同病院	防災センター	042-772-4291	3	1	0	
31	津久井赤十字病院	防災センター	042-784-1101	0	0	0	
32	神奈川県立足柄上病院	救急受付	0465-83-0351	0	0	0	○
33	小田原市立病院	防災センター	0465-34-3175	5	2	0	
				22	11	5	

県外搬送拠点

災害医療センター	救命センター医師リーダー	042-526-5511	5	3	2	◎
東京医科歯科大学	救命センターホットライン	03-5802-4517	5	2	0	◎
東邦大学大森病院	APEC関係	03-3762-4151		2	1	
君津中央病院	救命センター医師	0438-36-1071		1	1	◎
	ドクヘリホットライン	0438-36-9919				
日本医科大学北総病院	APEC関係	0476-99-1111	6	3	0	◎
成田赤十字病院	APEC関係	0476-22-2311	1	1	1	◎

都道府県名	病院名	救命救急センター	DMATチーム数	ICU病床数	手術室	年間受入れ救急車数	三次救急患者	救急科医師数	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	多数傷病者受入れ訓練	除染設備	個人防護具	NBC災害訓練
埼玉	川口市立医療センター	○	2	8	8	4,404	1,215	8	3	0	－		－	－
埼玉	済生会川口総合病院		0	4	6	2,603	-	0	3	0	実施		－	－
埼玉	北里大学北里研究所メディカルセンター		0	6	6	1,915	90	0	1	0	実施		－	－
埼玉	埼玉医科大学国際医療センター	○	2	108	16	3,351	752	18	2	2	－		－	－
埼玉	防衛医科大学校病院	○	1	6	14	2,722	781	4	3	1	実施		－	－
埼玉	深谷赤十字病院	○	1	10	8	2,583	1,639	2	1	1	実施	○	～20	－
埼玉	獨協医科大学越谷病院	○	2	10	12	2,635	704	11	2	1	－	○	～20	－
埼玉	済生会栗橋病院		0	8	5	1,963		0	0	0	－		－	－
埼玉	さいたま市立病院	○	2	6	11	2,780	2,201	9	2	2	実施	○	20～	実施
埼玉	さいたま赤十字病院	○	2	6	11	2,780	2,201	9	2	2	実施	○	20～	実施
埼玉	自治医科大学附属さいたま医療センター		1	14	12	3,584	-	3	1	0	－		－	－
埼玉	埼玉医科大学総合医療センター	○	3	6	11	4,463	1,027	17	2	1	－	○	～20	－
									22	10				
千葉	千葉大学医学部付属病院		3	8	14	2,136	503	14	2	2	実施	○	～20	－
千葉	千葉県救急医療センター	○	2		3	1,946	2,577	41	3	2	実施	○	～20	－
千葉	千葉市立海浜病院		0	14	4	1,922	0	0	1	0	実施		－	－
千葉	船橋市立医療センター	○	1	8	8	3,209	534	5	1	1	－		20～	－
千葉	東京歯科大学市川総合病院			4	13	4,064		0	3	2	実施		－	－
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院	○	1	6	9	5,344	946	12	3	2	実施		～20	－
千葉	東京女子医科大学附属八千代医療セン		0	12	6	3,974	93	2	1	1	実施		－	－
千葉	国保松戸市立病院	○	1	10	8	3,637	869	4	1	0	実施		－	－
千葉	東京慈恵会医科大学附属柏病院		0	14	11	2,793	512	12	2	0	実施		－	－
千葉	成田赤十字病院	○	2	8	8	7,693	1,085	4	2	1	実施	○	～20	－
千葉	日本医科大学千葉北総病院	○	2	16	12	3,273	963	17	2	1	実施	○	～20	－
千葉	千葉県立東金病院		0	0	2	527	71	0	0	0	－		－	－
千葉	総合病院国保旭中央病院	○	2	4	12	6,000	1,200	6	2	0	実施		－	－
千葉	千葉県立佐原病院		0	0	4	1,201	10	0	0	0	－		－	－
千葉	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院	○	2	8	17	3,112	2,578	12	3	3	実施		20～	－
千葉	安房地域医療センター		0	4	3	1,483	0	2	0	0	－		20～	－
千葉	国保直営総合病院　君津中央病院	○	2	34	9	4,292	2,903	7	3	0	－	○	－	－
千葉	千葉県循環器病センター		1	10	5	1,554	0	0	0	0	実施		－	－
千葉	帝京大学ちば総合医療センター			8	7	2,793		6	0	0	－		－	－
									29	15				

都道府県名	病院名	救命救急センター	DMATチーム数	ICU病床数	手術室	年間受入れ救急車数	三次救急患者	救急科医師数	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	多数傷病者受入れ訓練	除染設備	個人防護具	NBC災害訓練
東京	東京都済生会中央病院		0	12	7	3,000	約20	0（兼務にて対応）	0	0	実施		－	実施
東京	駿河台日本大学病院	○		3	7	2,285	515	21	1	1	－		－	－
東京	日本医科大学付属病院	○	―	34	15	5,279	1,912	23	3	2	実施	○	～20	実施
東京	東京慈恵会医科大学附属病院		0	20	23	5,759	0	6	1	0	実施		～20	－
東京	聖路加国際病院	○	0	20	11	8,799	927	13	2	2	実施	○	20～	－
東京	東京都立駒込病院		0	4	9	1,389	0	0	0	0	実施		－	－
東京	順天堂大学医学部附属　順天堂医院		0	28	15	5,000	20	6	2	0	実施		－	－
東京	北里大学北里研究病院		0	4	5	1,739	24	0	0	0	実施		－	－
東京	東京医科歯科大学医学部附属病院	○	2	12	16	6,732	175	17	1	0	－	○	～20	実施
東京	東京大学医学部附属病院		1	40	23	7,508	631	18	0	0	実施	○	～20	実施
東京	永寿総合病院		0	5	5	5,667		1	2	0	実施		－	－
東京	財団法人東京都保健医療公社荏原病院	○	0	6	5	3,046	0	0	0	0	－		20～	－
東京	東邦大学医療センター大森病院	○	4	10	14	6,002	308	9	2	1	実施	○	～20	実施
東京	昭和大学病院	○	3	14	13	4,834	919	26	2	1	実施		－	－
東京	東京都立広尾病院	○	10	8	7	5,901	1,238	8	3	1	実施	○	～20	実施
東京	日本赤十字社医療センター	○	1	6	8	6,153	424	6	2	1	実施	○	20～	実施
東京	社団法人　至誠会第二病院		0			2,521	0	0	0	0	－		－	－
東京	国立病院機構東京医療センター	○	2	5	12	6,720	313	8	2	1	実施	○	～20	－
東京	公立学校共済組合関東中央病院			6	6	2,335	188	0	0	0	－		20～	－
東京	東京都立松沢病院		0	0	3	0	0	0	0	0	－		－	－
東京	医療法人財団荻窪病院		1	0	5	1,724		0	1	1	実施		－	－
東京	立正佼成会付属佼成病院			4	6	1,910	0	0	3	2	－		～20	－
東京	慶應義塾大学病院			10	23	6,285	0	18	2	1	実施	○	－	－
東京	東京女子医科大学病院	○	0	88	22	3,986	649	11	2	1	実施	○	～20	－
東京	東京医科大学病院	○	14	16	16	5,586	1,202	11	2	2	実施	○	～20	－
東京	東京医療生活協同組合　中野総合病院			0	4	3,025	0	0	2	2	実施		～20	－
東京	財団法人東京都保健医療公社　大久保		0	4	1	3,021	0	0	1	0	－		－	－
東京	国立国際医療センター戸山病院	○	2	6	13	9,000	800	14	3	0	実施		－	－
東京	社会保険中央総合病院		0	6	10	2,652	0	0	0	0	－		－	－
東京	東京警察病院		0	8	10	5,447	0	4	2	1	実施	○	20～	実施
東京	日本大学医学部附属板橋病院	○	0	38	13	6,733	1,989	18	2	1	－		～20	－
東京	帝京大学医学部附属病院	○	14	30	15	7,791	1,087	29	2	2	実施		～20	－
東京	日本大学医学部付属練馬光が丘病院			6	5	1,853	0	0	1	1	実施		－	－
東京	東京都立大塚病院		0	6	8	2,827	0	0			実施		－	－
東京	順天堂大学医学部附属練馬病院			10	8	4,640	200	7	3	2	実施		20～	－
東京	財団法人東京都保健医療公社豊島病院		0	6	1	2,663	0	29	0	0	－		－	－
東京	東京北社会保険病院		0	4	6	3,984	36	3	1	1	－		－	－
東京	医療法人社団成和会　西新井病院		0	2	2	1,464	10	0	1	1	－		－	－
東京	博慈会記念総合病院		0	3	3	2,611	0	0	0	0	実施		－	－
東京	東京慈恵会医科大学付属青戸病院		0	0	6	2,274		2	2	0	実施		－	－

都道府県名	病院名	救命救急センター	DMATチーム数	ICU病床数	手術室	年間受入れ救急車数	三次救急患者	救急科医師数	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	多数傷病者受入れ訓練	除染設備	個人防護具	NBC災害訓練
東京	東部地域病院			6	4	3,041	0	0	0	0	－		～20	－
東京	東京女子医科大学東医療センター	○	4	37	8	4,148	1,195	13	2	2	実施		－	－
東京	医療法人社団順江会　江東病院				3	1,825		3	1	1	実施		－	－
東京	東京都立墨東病院	○	3	8	10	6,247	2,337	20			実施	○	20～	－
東京	社会福祉法人あそか会あそか病院			0	3	815	0	0	0	0	－		－	－
東京	医療法人社団　誠和会　白鬚橋病院		8	1	2	5,997	88	40	3	0	実施		～20	実施
東京	順天堂東京江東高齢者医療センター			0	4	1,474		0	0	0	－		－	－
東京	財団法人癌研究会　有明病院		0	0	14	429	?	1	1	0	実施		－	実施
東京	東京臨海病院			10	8	2,634	不明	2	1	0	－	○	20～	－
東京	社会福祉法人仁生社　江戸川病院		0	11	6	3,894		0	0	0	－		－	－
	23区小計								61	31				
東京	青梅市立総合病院	○	2	6	9	2,762	877	5	2	1	－		20～	－
東京	公立阿伎留医療センター		0	0	5	1,396	不明	2	1	0	－		－	－
東京	公立福生病院		0	0	6	1,535		0	0	0	－		－	－
東京	東京医科大学八王子医療センター	○	5	10	10	4,203	1,031	11	2	1	－	○	～20	－
東京	東海大学八王子病院		1	16	16	3,618	313	0	0	0	実施		－	－
東京	日本医科大学多摩永山病院	○		401	6	2,046	492	10	3	3	実施	○	20～	実施
東京	多摩南部地域病院		0	6	3	1,620	0		0	0	－		－	－
東京	稲城市立病院		1	0	5	1,051	0	1	0	0	実施		－	－
東京	町田市民病院		0	6	8	4,526	40		1	0	実施		－	－
東京	国立病院機構 災害医療センター	○	1	4	8	5,886	1,905	16	1	1	実施	○	20～	実施
東京	東大和病院		0	6	4	4,720	286	0	2	0	実施		－	－
東京	武蔵野赤十字病院	○	2	8	9	7,244	1,485	10	3	3	実施	○	～20	－
東京	東京都立府中病院	○	2	10	10	9,223	2	7	1	1	実施		～20	－
東京	杏林大学医学部付属病院	○	5	46	16	6,056	1,835	23	3	2	実施	○	20～	－
東京	東京慈恵会医科大学附属第三病院		0	6	10	3,505		2	?	0	実施		－	－
東京	公立昭和病院	○	1	6	9	6,555	不明	10	0	0	－	○	－	－
東京	特別医療法人社団　時正会　佐々総合病		0		3	1,621		1	1	0	実施		－	－
東京	都立清瀬小児病院		0	6	4	1,190	0	0	0	0	－		－	－
東京	多摩北部医療センター		0	8	4	2,037	0	0	1	0	実施	○	20～	－
	多摩小計								21	12				
	東京都合計								82	43				

都道府県名	病院名	救命救急センター	DMATチーム数	ICU病床数	手術室	年間受入れ救急車数	三次救急患者	救急科医師数	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	多数傷病者受入れ訓練	除染設備	個人防護具	NBC災害訓練
静岡	順天堂大学医学部附属静岡病院	○	2	16	8	5,448	-	2	0	0	実施	○	－	－
静岡	国立病院機構　静岡医療センター		2	10	7	2,318	459	0	2	0	実施		～20	－
静岡	三島社会保険病院			0	3	1,546	154	0	1	0	実施		－	－
静岡	沼津市立病院	○	2	4	10	2,993	534	1	1	1	実施		－	－
静岡	富士市立中央病院		0	6	9	1,345			2	0	実施		－	－
静岡	富士宮市立病院		0	0	5	3,133	28	0	0	0	実施		－	－
静岡	静岡市立清水病院		0	0	10	3,088	-	1	1	0	実施		－	－
静岡	静岡県立病院機構　静岡県立総合病院		3	14	12	3,645	-	0	3	0	実施		－	－
静岡	静岡赤十字病院	○	0	7	8	4,685	832	10	2	0	実施	○	～20	実施
静岡	静岡済生会総合病院	○	2	33	8	3,763	-	3	2	2	実施		～20	－
静岡	焼津市立総合病院	○	0	0	8	3,825	654	0	1	0	実施		－	－
静岡	藤枝市立総合病院		0	13	8	3,933	-	0	1	0	実施		20～	－
静岡	市立島田市民病院	○	0	10	9	3,505		1	3	1	実施		～20	－
静岡	掛川市立総合病院		0	0	7	3,002	124	0	2	0	実施		－	－
静岡	袋井市立袋井市民病院		0	8	7	1,923	137	0	1	1	実施		20～	－
静岡	磐田市立総合病院	○	0	6	7	4,972	71	2	2	2	実施		－	－
静岡	浜松医科大学医学部附属病院		1	9	10	2,193	434	7	1	1	－		～20	－
静岡	県西部浜松医療センター	○	2	20	10	5,100	1,143	3	2	0	－	○	～20	－
静岡	総合病院聖隷三方原病院	○	2	26	9	5,038	723	8	1	1	実施		～20	－
									28	9				

神奈川県内病院ヘリポート(横浜市を除く)

病院名	住所	場所
東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	病院敷地内地上
三浦市立病院	神奈川県三浦市岬陽町4-33	病院敷地内地上
神奈川県立足柄上病院	神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1	病院屋上
茅ヶ崎市立病院	神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1	病院屋上
川崎市立多摩病院	神奈川県横浜市中区新山下3-12-1	病院屋上
川崎市立川崎病院	神奈川県川崎市川崎区新川通12-1	病院屋上
日本医科大学武蔵小杉病院	神奈川県川崎市中原区小杉町1	病院敷地内地上
関東労災病院	神奈川県川崎市中原区木月住吉町1-1	病院屋上
湘南鎌倉病院屋上	神奈川県鎌倉市岡本字外耕地1370-1	病院屋上
北里大学病院	神奈川県相模原市南区北里2-15	病院敷地内地上

東京都内病院ヘリポート

病院名	住所	場所
順天堂大学医学部附属順天堂医院	文京区本郷3-1-3	病院屋上
東京大学医学部附属病院	文京区本郷7-3-1	病院屋上
東京医科歯科大学医学部附属病院	文京区湯島1-5-45	病院屋上
東京都立墨東病院	墨田区江東橋4-23-15	病院屋上
東京医科大学八王子医療センター	八王子市館町1163	病院屋上
独立行政法人国立病院機構災害医療センター	立川市緑町3256	病院屋上
東海大学医学部附属八王寺病院	東京都八王子市石川町1838	病院屋上
武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	病院屋上

※東京ヘリポート、調布飛行場、立川飛行場の活用も可能

千葉県内病院ヘリポート

病院名	住所	場所
千葉県救急医療センター	千葉市美浜区磯辺3丁目32-1	病院外(花見川処理場)地上
千葉大学医学部附属病院	千葉市中央区亥鼻1-8-1	病院屋上
東京歯科大学市川総合病院	市川市菅野5-11-13	病院屋上
成田赤十字病院	成田市飯田町90-1	病院屋上
日本医科大学千葉北総病院	印西市鎌苅1715	病院敷地内地上
総合病院国保旭中央病院	旭市イの1326	病院敷地内地上
安房地域医療センター	館山市山本1155	病院敷地内地上
亀田総合病院	鴨川市東町929	病院敷地内地上
君津中央病院	木更津市桜井1010	病院敷地内地上
千葉県循環器病センター	市原市鶴舞575	病院敷地内地上
帝京大学ちば総合医療センター	市原市姉崎3426-3	病院敷地内駐車場屋上

静岡県内(東部)病院ヘリポート

病院名	住所	場所
順天堂大学医学部附属静岡病院	伊豆の国市長岡1129番地	病院屋上
沼津市立病院	沼津市東椎路字春ノ木550	病院敷地内駐車場屋上
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東4丁目27番1号	病院屋上
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山860	病院屋上
静岡済生会病院	静岡市駿河区小鹿1丁目1番1号	病院屋上
フジ虎ノ門病院	御殿場市川島田字中原1067番1号	病院敷地内地上

DMAT
APEC 対応マニュアル

4.横浜市内災害医療体制

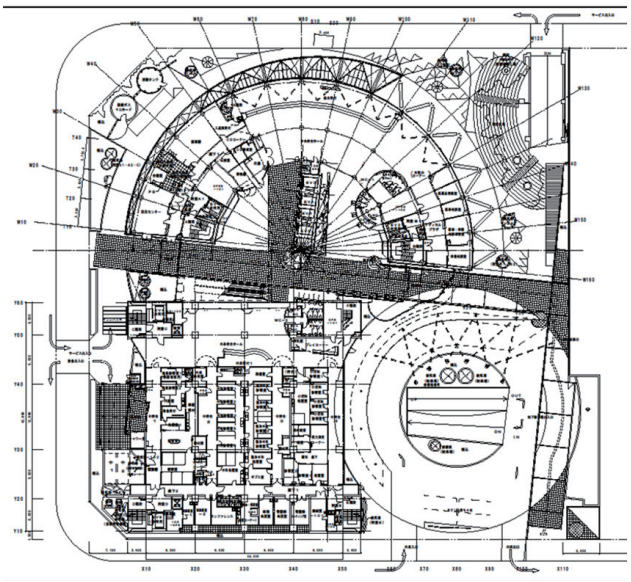
横浜市内の災害拠点病院の災害対応について

		会場近隣	救命救急センター	DMATチーム数	ICU病床数	手術室	年間受入れ救急車数	三次救急患者	救急科医師数	災害後1時間	多発外傷患者	広範囲熱傷患者	多数傷病者受入れ訓練	ヘリポート	除染設備	個人防護具	NBC災害訓練
1	昭和大学藤が丘病院		○	0	12	10	3466	1231	12	2	2	0	実施	△	○	2	テント立ち上げ確認
2	横浜労災病院			2	10	11	8000	90	18	2	1	1	実施	○	◎	18	10/25
3	昭和大学横浜市北部病院			0	14	9	2957	0	5	1	1	0	実施			－	－
4	済生会横浜市東部病院		○	1	10	10	6454	968	12	5	2	2	実施	△	◎	5	11/5
5	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院		○	0	10	6	1906	775	10	3	2	0	実施	△	◎	～20	－
6	けいゆう病院	○		0	6	7	3147	0	1	1	0	0	実施	×	◎	－	－
7	横浜市立市民病院	○	○	0	10	9	7358	493	4	2	1	0	－	△	○	6	実施
8	国立病院機構横浜医療セン		○	0	10	5	4698	484	8	3	0	0	－	×		－	－
9	横浜市立大学附属市民総合医療センター	○	○	2	18	12	3658	1483	22	2	2	2	実施	◎	◎	25	実施
10	済生会横浜市南部病院			0	8	6	5265	0	0	0	1	1	実施			－	－
11	横浜市立大学附属病院			0	8	12	2172	不明	8	2	1	0	－			20着～	－
12	横浜南共済病院			0	6	7	2750	425	0	1	1	0	－			－	－
13	横浜市立みなと赤十字病院	○	○	1	16	11	9580	913	9	4	2	1	実施	◎	◎	30	11/2

◎：事前立ち上げ
◎：病院内
○：訓練使用あり

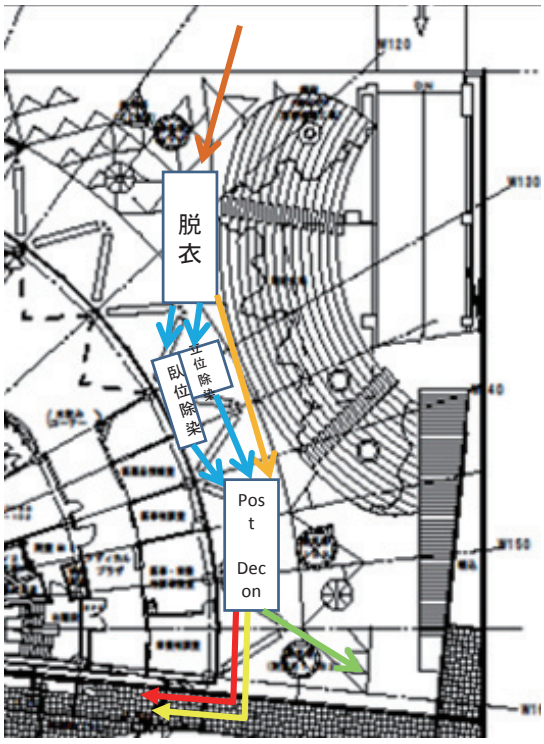
けいゆう病院

病院1階のレイアウト



多数傷病者受け入れ動線

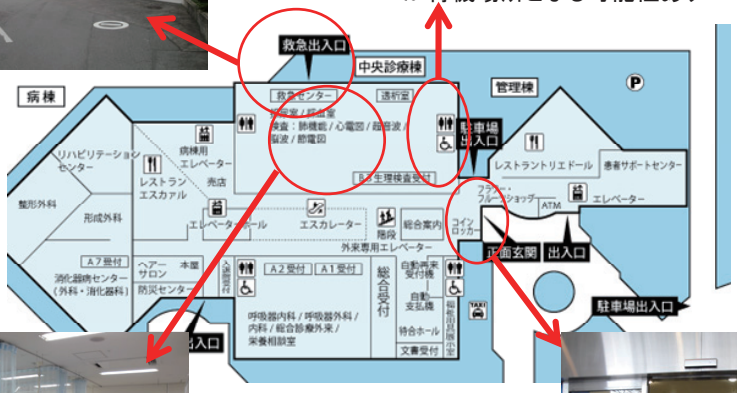
NBCテロ災害時の患者受け入れ動線

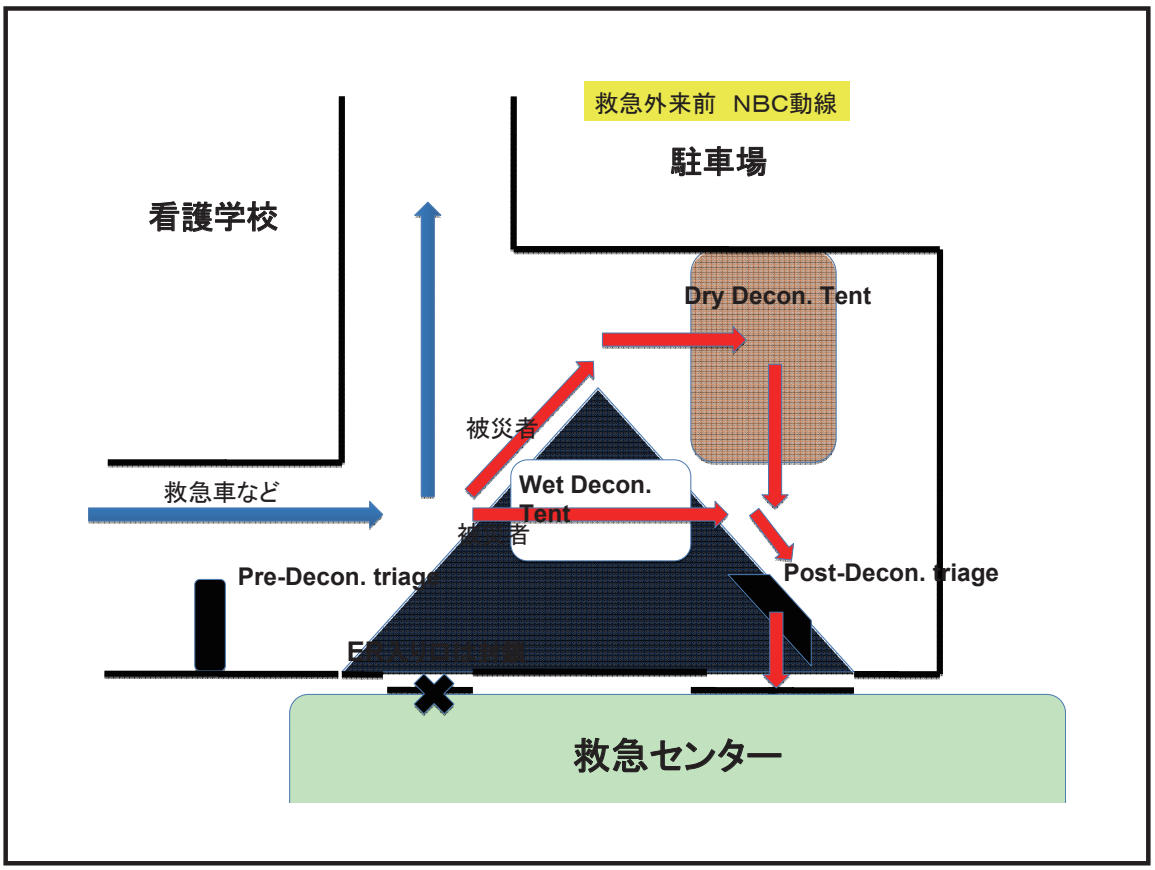


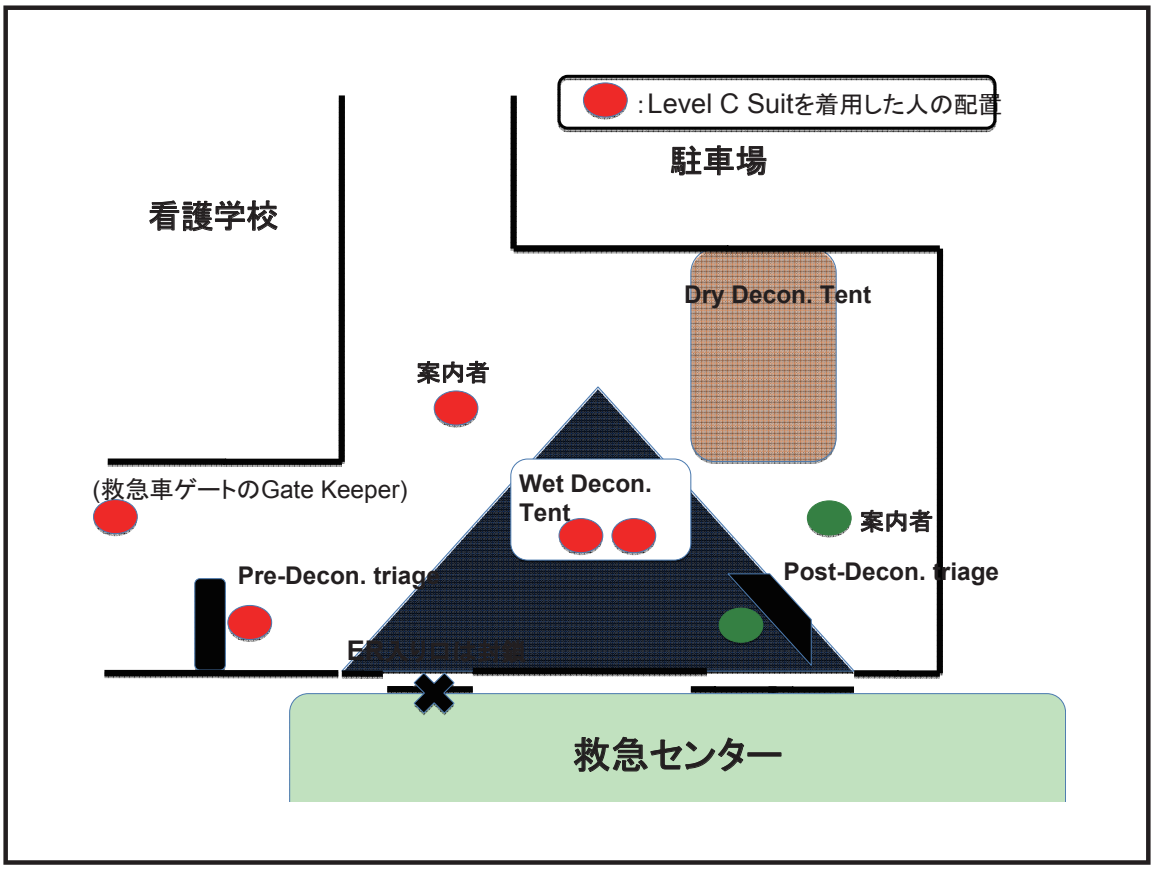
横浜労災病院

1階概要図

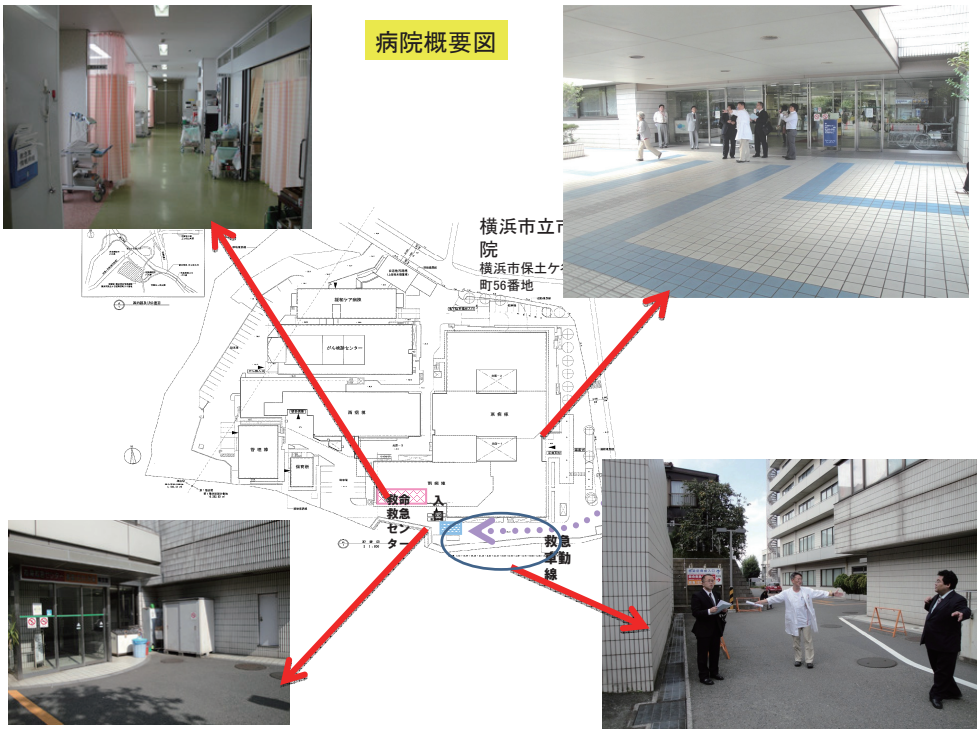
医師控え室あり:
ここが待機場所となる可能性あり



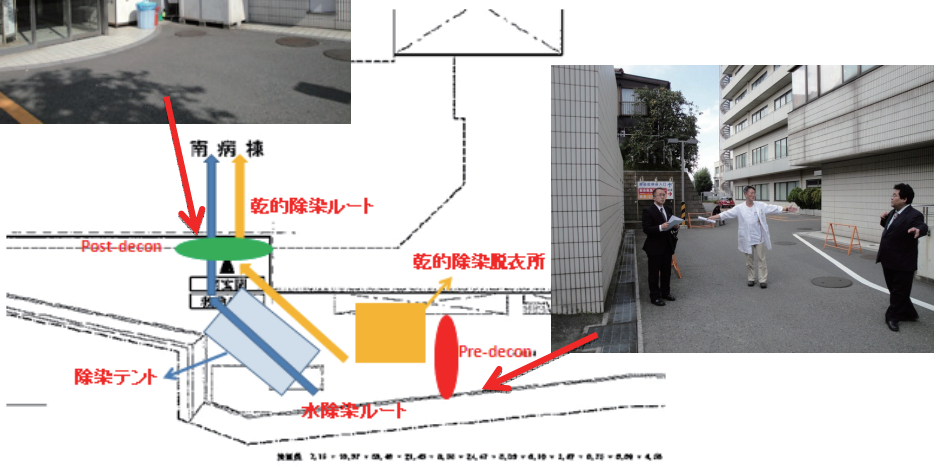

救急外来前　NBC動線
駐車場
看護学校
Dry Decon. Tent
被災者
救急車など
Wet Decon. Tent
Pre-Decon. triage
Post-Decon. triage
救急センター


:Level C Suitを着用した人の配置
駐車場
看護学校
Dry Decon. Tent
案内者
(救急車ゲートのGate Keeper)
Wet Decon. Tent
案内者
Pre-Decon. triage
Post-Decon. triage
救急センター

横浜市立市民病院

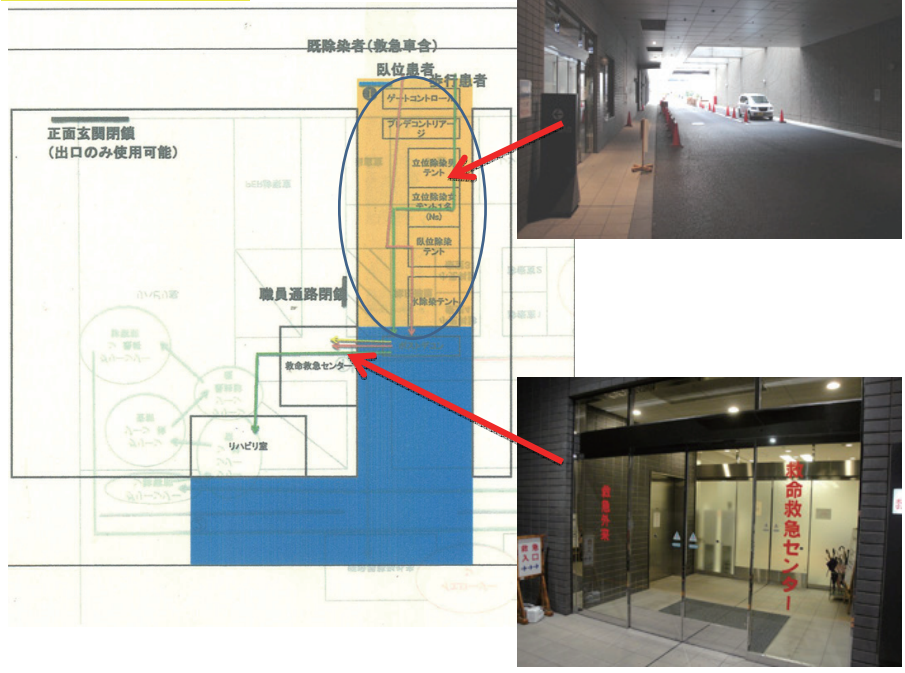


救急外来前NBC動線

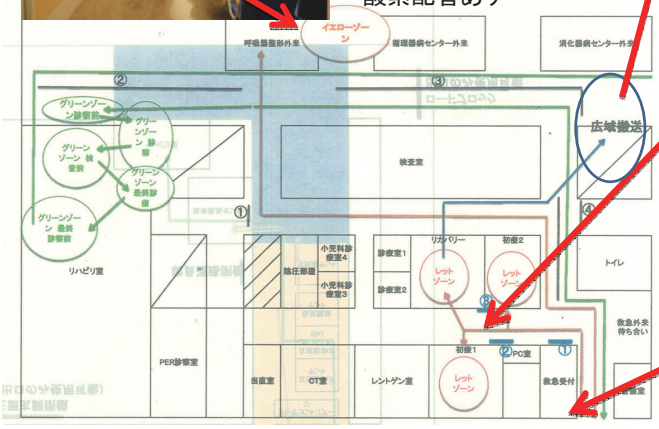


横浜市立みなと赤十字病院

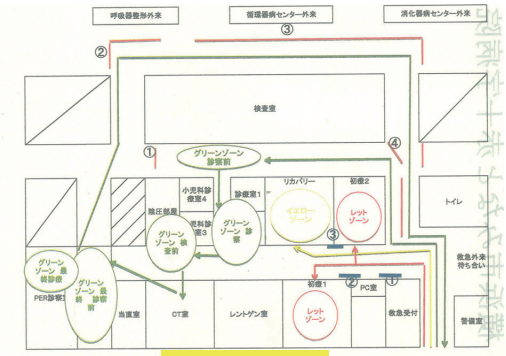
救急外来前NBC動線



NBC動線

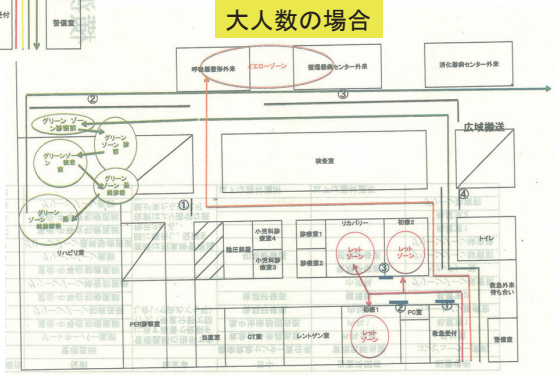


Non-NBC動線

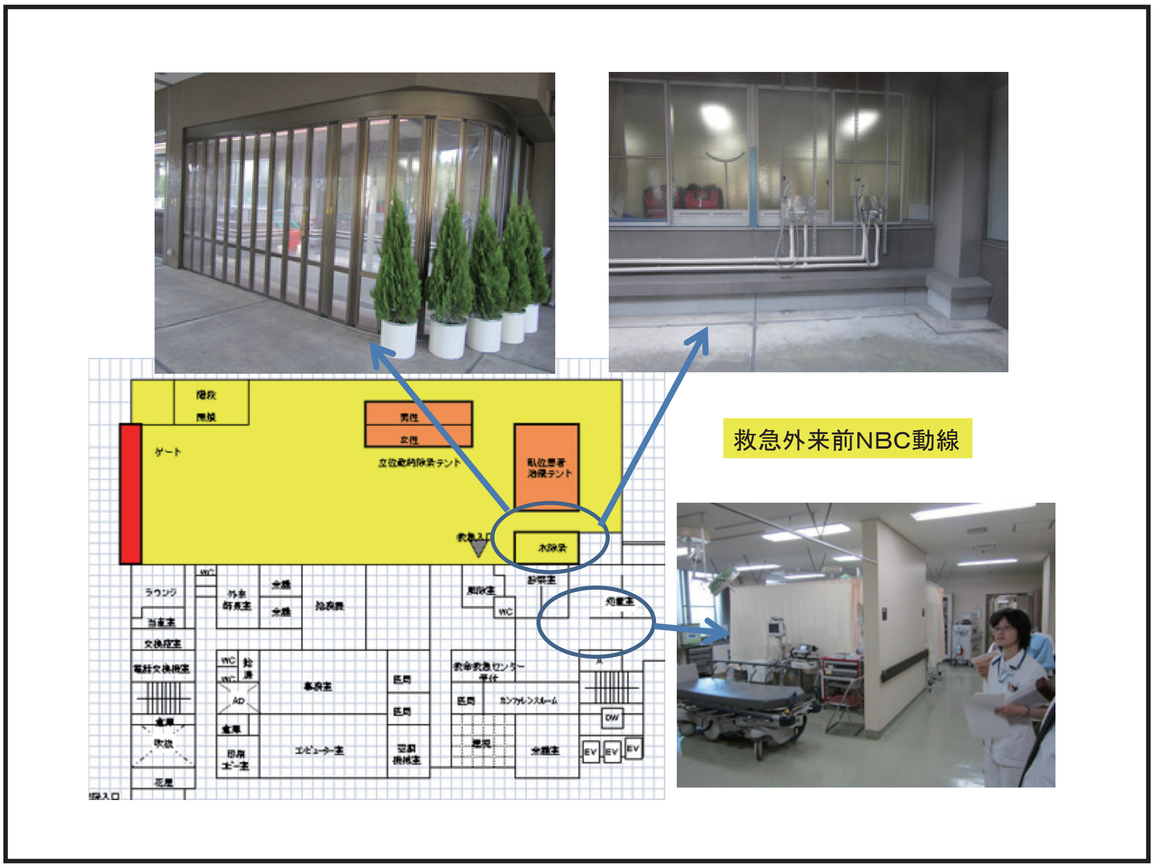


少人数の場合

大人数の場合

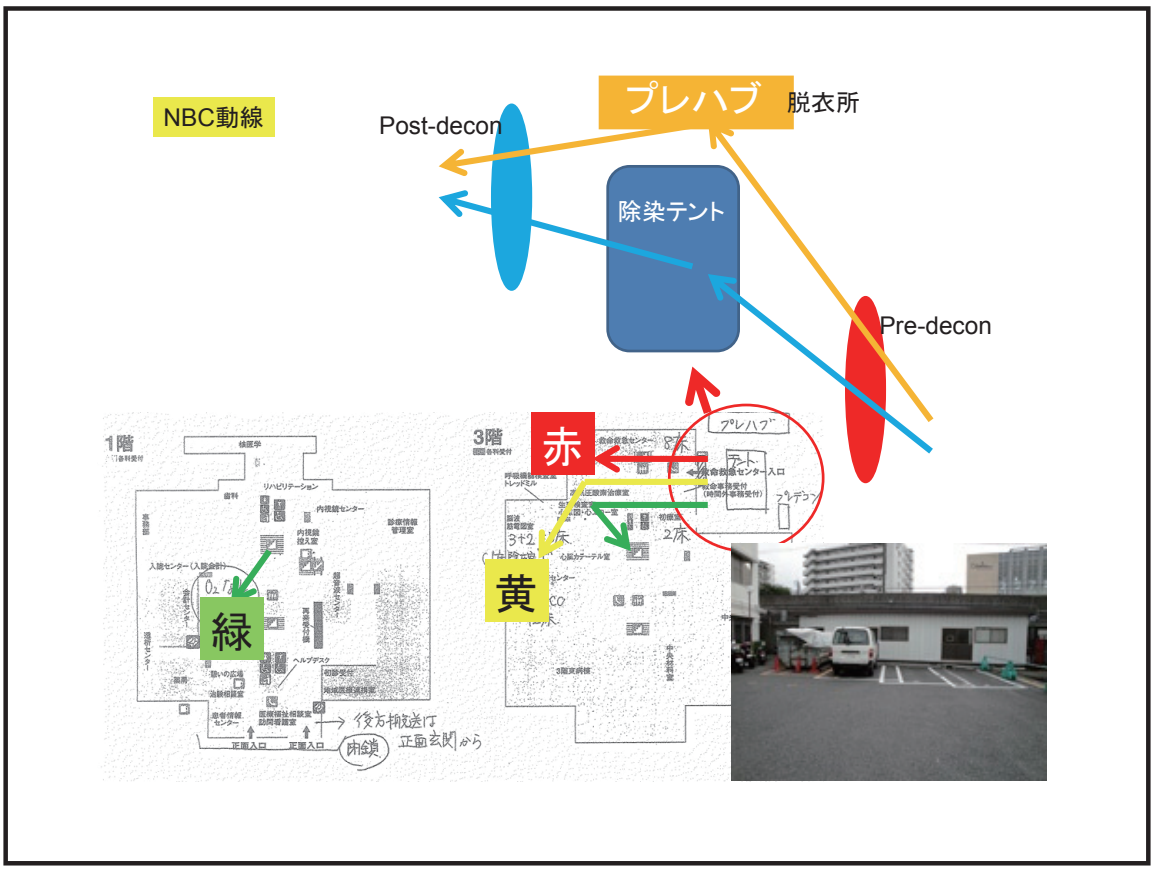


聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院

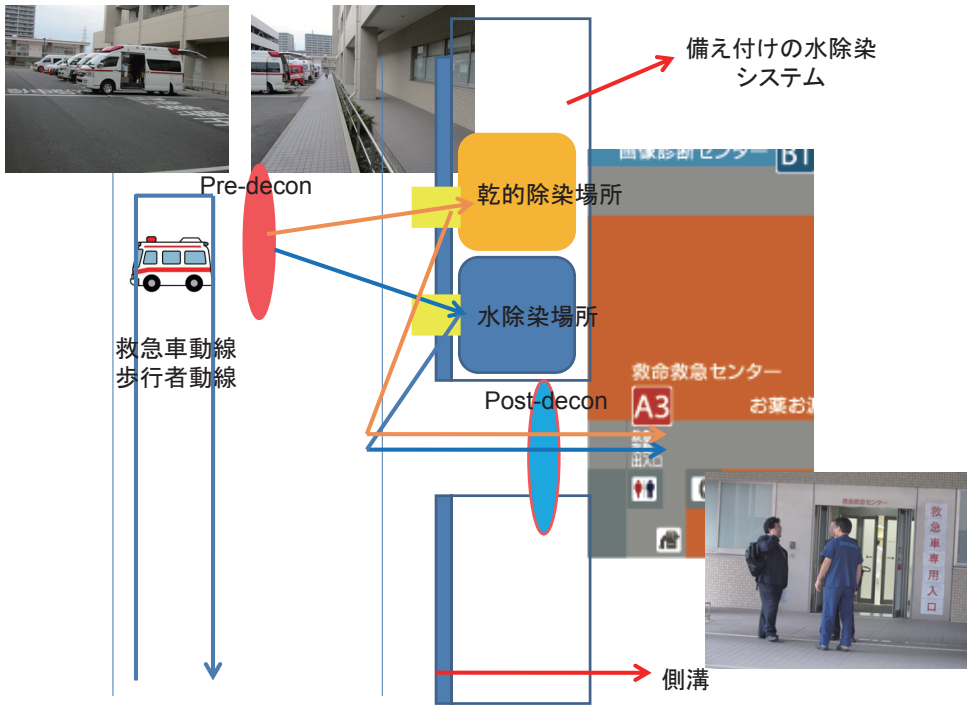

救急外来前NBC動線

昭和大学藤が丘病院

1階，3階概要図

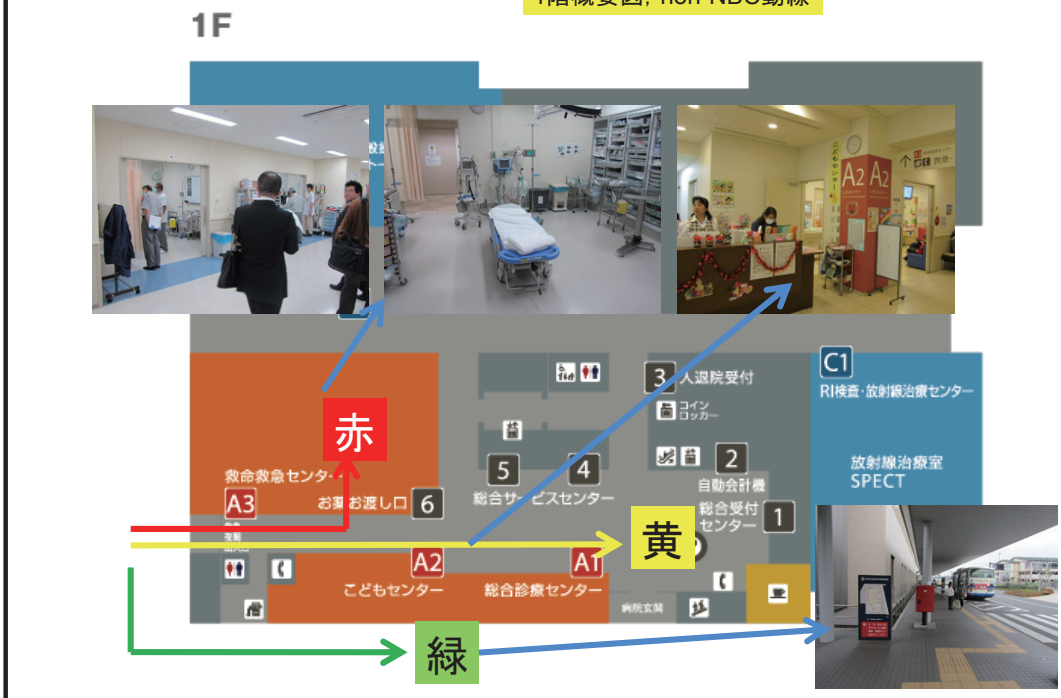

NBC動線
Post-decon
プレハブ
脱衣所
除染テント
Pre-decon
1階
3階
赤
黄
緑
後方搬送口
閉鎖
正面玄関から

済生会横浜東部病院

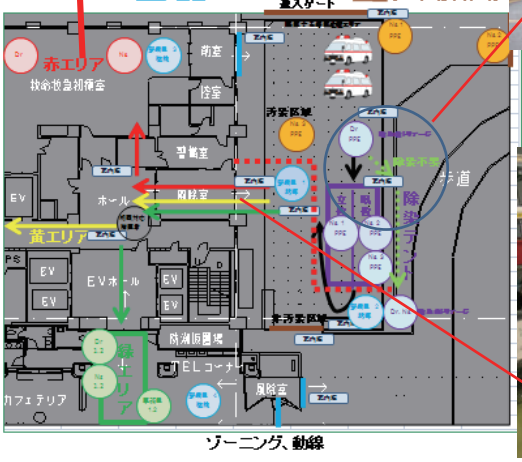

備え付けの水除染
システム
Pre-decon
乾的除染場所
水除染場所
救急車動線
歩行者動線
Post-decon
救命救急センター
A3
側溝

1階概要図，NBC動線

1階概要図，non-NBC動線



横浜市立大学附属
市民総合医療センター



ゾーニング、動線

救急外来前NBC動線

国立病院機構横浜医療センター

DMAT
APEC 対応マニュアル

5.DMAT の通信体制について

ＡＰＥＣ2010　DMAT通信体制　配置案　ver1.8

武蔵野赤十字病院　資料5.1

日赤:VHF　150MHz帯　アナログ
簡易:UHF　400MHz帯　デジタル/アナログ　35/65ch
MCA:UHF　800MHz帯　デジタル

エリアブロック　携帯電話	所在地	無線コールサイン等	空中線電力	機種	無線管理担当
DMAT本部	けいゆう病院 １３階会議室	にっせきかながわ31	25W	固定	統制局　※機材とうきょう18
		にっせきかながわ121	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ122	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ127	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ128	1W	ハンディー	高桑　唐鎌
		にっせきとうきょう101	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう102	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう103	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう18	10W	車載	武蔵野ハイエース
		にっせきぐんま3	25W	車載	前橋ドクターカー
		にっせきぐんま6	10W	車載	前橋プレサージュ
		MCA災医セ　01番	2W	ポータブル	
		MCA災医セ　09番（予備機）	2W	ハンディー	大野
		MCA災医セ　10番（予備機）	2W	ハンディー	
		簡易無線	5W	固定	高桑
メディアセンター／ DMAT待機場所	パシフィコ横浜 メディアセンター救護室／ けいゆう病院４F研修室	にっせきとうきょう6	25W	固定	
		にっせきとうきょう105	1W	ハンディー	太田
		にっせきとうきょう106	1W	ハンディー	
		にっせきぐんま115	10W	可搬	
		MCA災医セ　02番	2W	ポータブル	大野
		簡易無線	5W	ハンディー	
会議センター／ DMA待機場所	パシフィコ横浜 会議センター救護室／ けいゆう病院４F研修室	にっせきとうきょう7	25W	固定	
		にっせきぐんま116	5W	可搬	関口
		にっせきとうきょう107	1W	ハンディー	
		MCA災医セ　05番	2W	ポータブル	大野
		簡易無線	5W	ハンディー	
横浜市立みなと赤十字病院	横浜市中区	にっせきかながわ34	10W	固定	
		にっせきかながわ129	1W	ハンディー	八木
		にっせきかながわ130	1W	ハンディー	
		MCA　横浜市	2W	ハンディー	
羽田空港	羽田空港 エクセルホテル東急7136 国際線ターミナルCIQ棟会議室	にっせきとうきょう3	25W	固定	
		にっせきとうきょう108	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう109	1W	ハンディー	辻
		にっせきとうきょう110	1W	ハンディー	
		にっせきしが201	1W	ハンディー	
		にっせきしが202	1W	ハンディー	
		にっせきしが4	10W	車載	大津救急車
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA災医セ　03番	2W	ポータブル	木崎
		MCA災医セ　07番	2W	ハンディー	
成田空港	空港内救護所 NAA情報通信ビル３F研修室	にっせききょうと6	10W	車載	上門
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA災医セ　04番	2W	ポータブル	小澤
		MCA災医セ　08番	2W	ハンディー	
日赤神奈川県支部	横浜市中区	にっせきかながわ基地局	50W	基地	野口
		MCA　横浜市	2W	ハンディー	
日赤東京都支部	新宿区大久保	にっせきとうきょう基地局	25W	基地	
	豊島区駒込	にっせきこまごめ基地局	25W	基地	田中
	大田区中央	にっせきおおもり基地局	25W	基地	
日赤千葉県支部	千葉市中央区	にっせきちば基地局	50W	基地	増田
災害医療センター	立川市	MCA災医セ　11番	2W	ハンディー	DMAT事務局

担当チーム

シフトについては別途策定

病　院　名	都道府県	業務調整員		
東京医科歯科大学病院	東京	工藤	宮崎	
前橋赤十字病院	群馬	太田	関口	関根
愛媛県立中央病院	愛媛	是永		
新潟市民病院	新潟	浅野	伊藤	
草津総合病院	群馬	鈴木		
平鹿総合病院	秋田	佐藤	冨木	
徳島県立病院	徳島	吉岡		
兵庫医科大学病院	兵庫	冨加見		

病　院　名	都道府県	業務調整員	
山形県立中央病院	山形	萬年	
災害医療センター	東京	木崎	
近森病院	高知	宗石	竹崎
相澤病院	長野	中込	内山
大津赤十字病院	滋賀	辻	西島

病　院　名	都道府県	業務調整員	
京都第一赤十字病院	京都	上門	柿本
東北大学病院	宮城		
愛知医科大学病院	愛知	小澤	小谷
大阪府済生会千里病院	大阪	寺澤	
済生会滋賀病院	滋賀	奥野	坂本

緊急時【休日夜間はオンコール】

資料5.2

ＡＰＥＣ　JAPAN　２０１０　日赤無線通信配置運用要領

Ver　１．７

2010.11.12～15

DMAT日赤インスト　ロジスティック部会

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ＡＰＥＣ　ＪＡＰＡＮ　２０１０　日赤無線通信配置確認チェック表

エリア	機材		管理者	教育	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日	11月15日	返却	
横浜	にっせきかながわ31	1	高桑								1
	※にっせきとうきょう18	2									2
	にっせきかながわ121	3	唐鎌								3
	にっせきかながわ122	4									4
	にっせきかながわ127	5									5
	にっせきかながわ128	6									6
	にっせきとうきょう101	7	高桑								7
	にっせきとうきょう102	8									8
	にっせきとうきょう103	9									9
	にっせきとうきょう18	10									10
	にっせきぐんま3	11	太田								11
	にっせきぐんま6	12									12
	にっせきとうきょう6	13	高桑								13
	にっせきとうきょう105	14									14
	にっせきとうきょう106	15									15
	にっせきとうきょう7	16									16
	にっせきぐんま115	17	太田								17
	にっせきぐんま116	18									18
	にっせきとうきょう107	19	高桑								19
	にっせきかながわ34	20	八木								20
	にっせきかながわ129	21									21
	にっせきかながわ130	22									22
羽田	にっせきとうきょう3	23	辻								23
	にっせきとうきょう108	24									24
	にっせきとうきょう109	25									25
	にっせきとうきょう110	26									26
	にっせきしが201	27									27
	にっせきしが202	28									28
	にっせきしが4	29									29
成田	にっせききょうと6	30	上門								30

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤無線業務日誌

年　　月　　日　　コールサイン　：にっせき

時刻	相手方	内　　容	担当

○日本赤十字社業務用無線局取扱規程

(昭和55 年２月25 日本達丙第２号)

改正 昭和59 年５月本達丙第５号 昭和60 年４月本達丙第５号

平成４年３月 総務第50 号平成10 年10 月本達丙第28 号

平成13 年６月本達丙第６号平成16 年７月本達丙第27 号

日本赤十字社業務用無線局取扱規程を次のように定める。

日本赤十字社業務用無線局取扱規程

(目的)

第１条 この規程は、日本赤十字社業務用無線局(以下「無線局」という。)の取扱いに関する基本的事項を定め、電波法(昭和25 年５月２日法律第131 号)その他の関係法令(以下「関係法令」という。)に基づいて無線局を適正に管理、運用し、電波を能率的に使用することにより、災害救護活動等の赤十字事業における無線業務の円滑な遂行に資することを目的とする。

(定義)

第１条の２ この規程において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(１) 無線局 日本赤十字社業務用無線局の基地局、携帯基地局、陸上移動局又は携帯局をいう。

(２) 施設 日本赤十字社の本社、支部、病産院又は血液センターをいう。

(総括責任者)

第２条 無線局免許人である社長を全無線局についての総括責任者とする。

２ 総括責任者は、全無線局についての総括管理監督を行うほか、本社及び本社の所管する施設にかかる無線局に関する業務を総括して行うものとする。

(支部総括責任者)

第２条の２ 支部長の所管する施設にかかる無線局については、当該支部長を支部総括責任者とする。

２ 支部総括責任者は、支部及び支部の所管する施設にかかる無線局についての管理監督を行うほか、それらの無線局に関する業務を統轄して行うものとする。

３ 本社の所管する施設のうち、東京都以外の地域に所在する施設にかかる無線局の管理監督並びに業務については、前条第２項の規定にかかわらず、当該施設の所在する地域を管轄する支部の支部総括責任者がこれを行うものとする。

(開設及び変更)

第３条 支部総括責任者は、当該支部の管内に無線局を開設しようとするときは、総括責任者の承認を受けなければならない。

２ 支部総括責任者は、その管轄する無線局の無線設備又はその設置場所を変更しようとするときも、前項と同様とする。

(法令諸手続の委任)
第４条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、関係法令に基づいて、管轄する無線局の申請、届出及び報告等の手続を行うものとする。この場合、支部総括責任者は、総括責任者の委任状の交付をうけてこれを行わなければならない。
(管理責任者及び運用責任者)
第５条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、無線局を設置する各施設ごとにそれぞれ管理責任者及び運用責任者を置かなければならない。
２ 管理責任者及び運用責任者は、それぞれ別表第１に定める職員をもってこれにあてるものとする。
３ 管理責任者は、関係法令の定めるところにより、当該施設にかかる無線局の適正な管理を期するとともに運用責任者を指揮監督し、無線設備の維持及び保全に必要な措置をしなければならない。
４ 運用責任者は、関係法令の定めるところにより、当該施設にかかる無線局の適正な運用を期するとともに無線従事者を指揮監督し、関係書類の保管、管理並びに無線設備の保守、点検その他無線業務に必要な措置をしなければならない。
(管理組織)
第５条の２ 無線局の管理組織は別図のとおりとする。
(無線従事者)
第６条 管理責任者は、無線設備の規模、移動する無線局の数及び業務の内容に応じて、当該施設職員の中から必要な資格免許を有する無線従事者を選任しておかなければならない。
２ 前項の無線従事者の員数は、無線設備の規模に応じ、業務に支障をきたさない人員とする。
３ 総括責任者若しくは支部総括責任者は、第１項および第２項の規定が守られていない場合は、当該管理責任者に対して無線従事者の確保を命ずることができる。
４ 無線従事者は、運用責任者の指揮のもとに無線局の運用にあたるものとする。
(点検整備)
第７条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、管理責任者をして無線設備を常に完全な状態で機能させるため、管轄する無線局の電力及び電波の質等につき定期的に点検整備をさせなければならない。
(検査報告)
第８条 支部総括責任者は、管轄する無線局にかかる所轄の総合通信局の検査を受けた場合は、その結果を遅滞なく総括責任者に報告しなければならない。

(無線設備の操作)
第９条 無線設備の操作は、無線従事者が行うものとする。但し、非常通信業務を行う場合であって、無線従事者を無線設備の操作に充てることができないときならびにその技術操作が相手方の無線局の無線従事者によって管理されている場合は、この限りでない。
２ 管理責任者は、前項但し書きの規定により、無線従事者以外の者が、無線設備の操作及び通信業務に従事する場合を考慮し、関係職員等に対して必要な教育と訓練を行わなければならない。
(非常の場合の通信体制)
第10 条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、災害その他非常の場合における運用計画の作成、訓練の実施その他の必要な措置を講じておかなければならない。
(非常通信)
第11 条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、無線局を運用して非常通信を実施したときは、所轄の総合通信局に報告しなければならない。
２ 支部総括責任者は、前項の報告をしたときは、その旨を総括責任者に報告しなければならない。
３ 総括責任者若しくは支部総括責任者は、非常通信に関する訓練を実施する場合には、事前に所轄の総合通信局に計画書を添えて届けるとともに、実施後はその結果を報告するものとする。
４ 支部総括責任者は、前項の届出及び報告をしたときは、その旨を総括責任者に報告するものとする。
(基地局の通信)
第12 条 無線局設置の趣旨にかんがみ、基地局は常に開局しておかなければならない。
２ 非常通信以外に基地局間の通信を行ってはならない。但し、傍受に関しては、この限りでない。
(通信の統制)
第13 条 総括責任者は、必要に応じ無線局の通信を統制することができる。また、統制を行う無線局(以下「統制局」という。)を指定して、必要な時間を限り、統制をとらせることができる。
２ 支部総括責任者は、管轄する無線局に対し、その通信を統制することができる。また、当該無線局のうちの適当な無線局を指定して、必要な時間を限り、統制をとらせることができる。
３ 管轄する無線局の範囲を越えて、統制しようとする場合は、統制しようとする支部総括責任者は統制を受ける無線局が所属する総括責任者又は支部総括責任者の承認を受けなければならない。

４ 統制局が指定された場合、その管轄下にある無線局は、統制局の指示に従わなければならない。また、その管轄下にない無線局が、統制局の存在を知ったときは、これに協力しなければならない。

(一括呼出し)

第14 条 一括呼出しに関する応答順位は、特別に定めのある場合を除き、全国又はブロック規模では、別表第２の順位とし、総括責任者若しくは支部総括責任者の管轄する無線局の範囲にあっては、呼出名称番号の若い順とする。

(事故に対する処置)

第15 条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、管轄する無線局が通信を行うことができなくなったときは、直ちに必要な措置をとらなければならない。

２ 支部総括責任者は、管轄する無線局が無線通信を行うことができなくなったときの状態が非常の場合の通信体制に著しく影響を及ぼすと認められるときは、すみやかにその旨を総括責任者に報告しなければならない。

(無線局の整備状況の報告)

第16 条 支部総括責任者は、毎年４月末までに、前年度における無線設備及び無線従事者の整備状況その他必要な事項を総括責任者に報告しなければならない。

(管理、運用要領)

第17 条 総括責任者若しくは支部総括責任者は、本社若しくは支部又は本社若しくは支部の所管する施設にかかる無線局の適正な管理、運用及び保守、点検等に関して必要な事項を定めておかなければならない。

附 則(平成13 年６月本達丙第６号)

この規則は、平成13 年６月１日から施行し、改正後の規定は、平成13 年１月６日から適用する。

附 則(平成16 年７月本達丙第27 号)

この規則は、平成16 年10 月１日から施行する。

(別表第１)
責任者別
施設別
管理責任者 運用責任者
本社 救護・福祉部長 救護課長
支部 事務局長 救護担当課長
病産院 院長 無線業務を所掌する部課
血液センター 所長 長

(別表第２)
ブロック別 応答順位
第１
北海道支部、青森県支部、岩手県支部、宮城県支部、秋田県支部、
山形県支部、福島県支部
日赤秋田県支部
災害救護業務計画（平成21年５月） －43／94－
第２
本社、茨城県支部、栃木県支部、群馬県支部、埼玉県支部、千葉
県支部、東京都支部、神奈川県支部、新潟県支部、山梨県支部
第３
富山県支部、石川県支部、福井県支部、長野県支部、岐阜県支部、
静岡県支部、愛知県支部、三重県支部
第４
滋賀県支部、京都府支部、大阪府支部、兵庫県支部、奈良県支部、
和歌山県支部
第５
鳥取県支部、島根県支部、岡山県支部、広島県支部、山口県支部、
徳島県支部、香川県支部、愛媛県支部、高知県支部
第６
福岡県支部、佐賀県支部、長崎県支部、熊本県支部、大分県支部、
宮崎県支部、鹿児島県支部、沖縄県支部
(別図)

《災害救助に関する厚生省と日本赤十字社との協定》 昭和23年

１ 災害救助法による救助は、国の責任において行われるものであるから、救助の実施については都道府県知事が責任を負うのであって、日本赤十字社は、これに協力するという建前である。法第31条の２第1項の規定は、災害救助法による救助に対する日本赤十字社の協力義務を総括的宣言的に述べたものである。

２ 法第32条の規定による委託事項は、差し当って医療、助産及び死体の処理（一時保存を除く。）で都道府県知事が委託を適当と認める範囲のものとする。委託については次の各項による。

⑴ 委託の範囲について、都道府県知事は、日本赤十字社と協議して予め定めておき、厚生大臣の承認を得なければならないこと。

⑵ 都道府県知事から委託をうけた医療及び助産を行うため、日本赤十字社都道府県支部長は、日本赤十字社職員又は契約による医師等からなる救護班を５コ班以上編成しなければならないこと。日本赤十字社職員が不足するため日本赤十字社職員以外の医師を契約により上記の救護班に加える必要がある場合は、日本赤十字社職員と看做して差し支えないこと。

⑶ 日本赤十字社は、市（六大都市では特別区又は区とする。以下同じ）町村の区域毎に、医療関係者等を以て医療班を編成すること。

⑷ 日本赤十字社は、市町村の区域毎に、日本赤十字社奉仕団を編成し、第一救護に当る篤志救助員を設置すること。

⑸ 都道府県知事は、法第31条の規定に基く主任大臣の命令を実施するため必要があると認めたときは、救護班の活動について日本赤十字社都道府県支部長に対し命令することが出来ること。その際日本赤十字社社長及び日本赤十字社都道府県支部長は、緊密なる連絡に努めなければならないこと。

３ 日本赤十字社には、地方公共団体以外の団体又は個人と同等の位置で救助に関し協力をなす立場とこれらの協力の連絡調整を行う立場とがあるが、日本赤十字社が政府の指揮監督の下に救助に関し地方公共団体以外の団体又は個人がなす協力に方向づけを与える立場は、法第31条の２第２項によって日本赤十字社だけに認められたものである。

なお連絡調整については、次の各項による。

⑴ 日本赤十字社は連絡調整を行うため、委員会に諮問して必要な計画を作成し、都道府県知事の許可を受けなければならないこと。

⑵ 都道府県知事は、日本赤十字社の行う連絡調整に関する前項の計画に基いて日本赤十字社に対し必要な指揮監督を行い、民間の団体及び個人のなす協力活動の効果を収めることに努めなければならないこと。

⑶ 連絡調整事項は、例えば救助金品の募集、労力奉仕班の編成派遣、医療及び助産等であること。

日本赤十字社は、日本赤十字社法（昭和27年法律第305号）により設立された法人であり、同法及び日本赤十字社定款により次の事業を行うこととされている。

《日本赤十字社法（抄）》 昭和27年法律第305号

第１条 日本赤十字社は、赤十字に関する諸条約及び赤十字国際会議において決議された諸原則の精神にのっとり、赤十字の理想とする人道的任務を達成することを目的とする。

第27条 日本赤十字社は、第１条の目的を達成するため、左に掲げる業務を行う。

⑴ 赤十字に関する諸条約に基く業務に従事すること。

⑵ 非常災害時又は伝染病流行時において、傷病その他の災やくを受けた者の救護を行うこと。

⑶ 常時、健康の増進、疾病の予防、苦痛の軽減その他社会奉仕のために必要な事業を行うこと。

⑷ 前項各号に掲げる業務のほか、第１条の目的を達成するために必要な業務

２ 前第１号及び第２号に掲げる業務には、第３３条第１項の規定により国の委託を受けて行うものを含むものとする。

第28条 日本赤十字社は、前条第１項第１号及び第２号に掲げる業務（以下「救護業務」という。）に従事させるために必要な者（以下「救護員」という。）を常時確保しておかなければならない。

第29条 日本赤十字社は、前条の救護員を確保するために、必要があるときは、医師、看護師その他の特殊技能者を養成しなければならない。

第33条 国は、赤十字に関する諸条約に基く国の業務及び非常災害時における国の行う救護に関する業務を日本赤十字社に委託することができる。

２ 前項の場合において、国は、同項の規定により委託すべき業務の実施に必要な施設又は設備を、あらかじめ、整備すべきことを日本赤十字社に命ずることができる。

３ 国は、日本赤十字社が第１項の規定により委託された業務を実施するために支弁した費用を補償する。但し、他の法律に別段の定があるときは、その定に従う。

４ 国は、日本赤十字社が第１項の規定により委託された業務を実施するため必要な施設又は設備を整備する場合においては、その整備に要する費用の全部又は一部を負担する。

打合せ検討会次第　　平成22年10月13日

APEC2010開催に伴うDMAT配置と日本赤十字社の協力について　2.0

1 日時　　平成22年10月13日（水）　15:00～

2 場所　　日本赤十字社神奈川県支部　〒231-8536 横浜市中区山下町70-7
TEL 045(681)2123

3 出席者

厚生労働省 DMAT事務局		大野龍男 氏	
日本赤十字社神奈川県支部	事業部長	工藤孝志	
日本赤十字社神奈川県支部	救護課長	野口理恵子	
日本赤十字社東京都支部	救護課長	田中真人	
横浜みなと赤十字病院	救命救急センター長	八木啓一 （統括DMAT）	未定
秦野赤十字病院	社会課長	唐鎌宏明 （日本DMATスタッフ）	
武蔵野赤十字病院	施設課長	高桑大介 （日本DMATスタッフ）	

4 検討内容

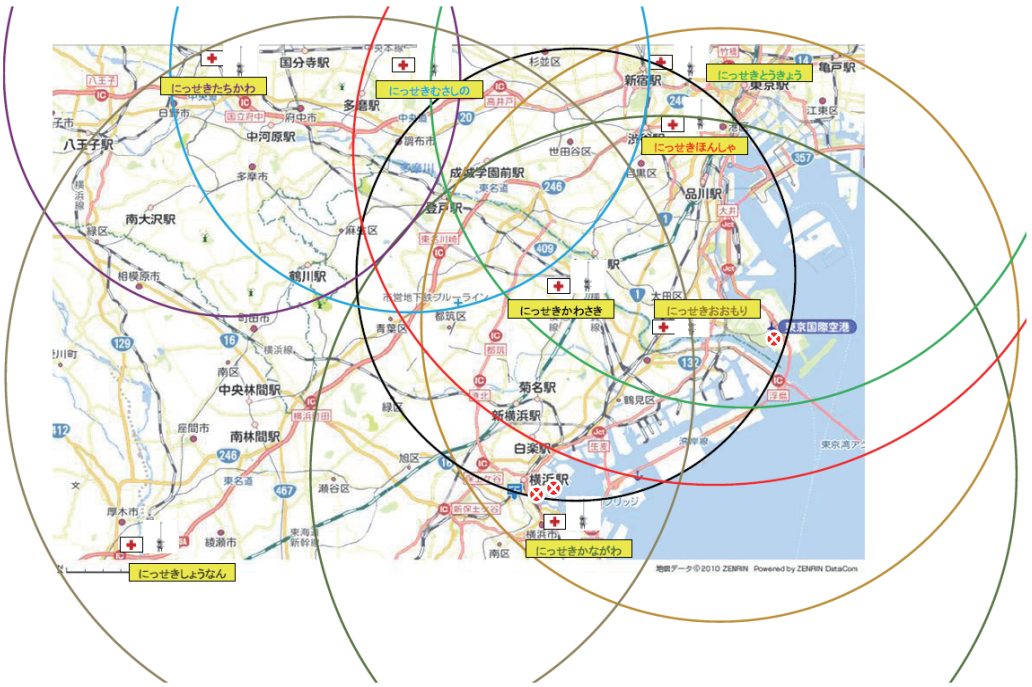
（1）　APEC開催に伴うDMAT配置と医療体制について　厚生労働省DMAT事務局
・各会場DMATの配置と体制について　大野
・警察・消防等の対応について
・災害拠点病院等後方受入れ医療機関の対応と搬送手段について
・警備、規制事項について

（2）　神奈川県　東京都からの日本赤十字社への協力依頼について　支部担当課長
・現時点までの依頼内容、打診等　野口　田中
・災害未発生、マスギャザリング、テロ対策、国民保護法活動等の赤十字側のスタンス

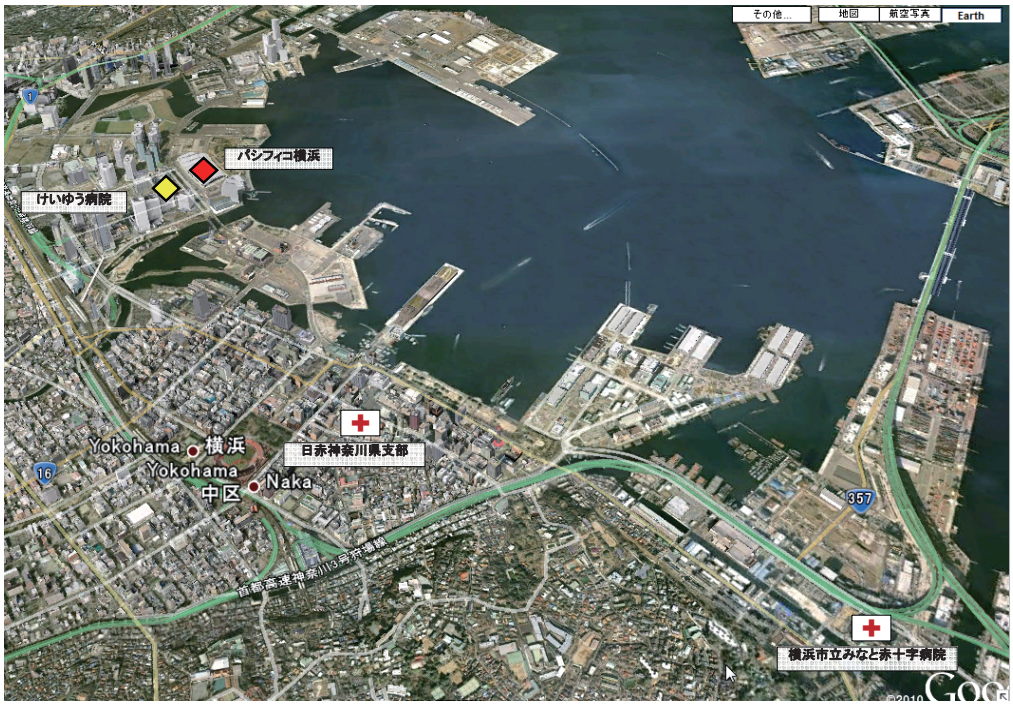
（3）　通信の確保と日本赤十字社支部及び日本赤十字社DMATの協力について　高桑　唐鎌
・通信　　簡易無線　防災行政無線　MCA　赤十字無線
・管理　　法的根拠・日本赤十字社業務用無線局取扱規程・運用方法および管理
・従事者　必要な教育と訓練　規程第9条関係
・基地局（支部）の通信統制と非常通信時の基地局間通信
・成田空港（千葉）の対応について
・諸規程遵守の確認と本社、千葉、大津、京都第一、前橋と所属支部のコンセンサスについて

（4）　本社・支部に対する厚生労働省からの依頼内容について
・依頼文書の内容・発送と経由

（5）　その他
・その他リソースの協力体制について


にっせきたちかわ
にっせきむさしの
にっせきとうきょう
にっせきほんしゃ
にっせきかわさき
にっせきおおもり
にっせきかながわ
にっせきしょうなん
国分寺駅
多磨駅
中河原駅
八王子駅
南大沢駅
相模原駅
鶴川駅
成城学園前駅
登戸駅
新宿駅
渋谷駅
品川駅
亀戸駅
中央林間駅
南林間駅
菊名駅
新横浜駅
白楽駅
横浜駅
東京国際空港

パシフィコ横浜
けいゆう病院
新港埠頭
大桟橋ふ頭
1.35 km
日赤神奈川県支部
© 2010 Geocentre Consulting
© 2010 ZENRIN


その他...
地図
航空写真
Earth
パシフィコ横浜
けいゆう病院
日赤神奈川県支部
Yokohama 横浜
Yokohama 中区 Naka
16
357
横浜市立みなと赤十字病院

羽田空港
大森赤十字病院
16.5 km
18.0 km
パシフィコ横浜
2.75 km
けいゆう病院
1.35 km
日赤神奈川県支部
横浜市立みなと赤十字病院

その他...
地図
航空写真
Earth
みなとみらい
高島町
桜木町
馬車道
日本大通り
関内
日ノ出町
伊勢佐木長者町
黄金町
石川町
元町中華街
山下埠頭
横浜港
©2010 Google - 地図データ ©2010 ZENRIN - 利用規約

無線従事者より運用者に対して教育を実施する

APEC JAPAN 2010 通信関係教育

災害時における
日赤無線通信の運用について

Information transmission means that can be put in a time of disaster

厚生労働省　統括DMAT研修　ロジスティックスグループ
武蔵野赤十字病院　事務部　施設課長　高　桑　大　介
Ministry of Health, Labour and Welfare
generalization DMAT training LOGISTICS group

日本赤十字社

日本赤十字社の災害救護リソース

- 職員　57,876名
- 病院　92病院（52災拠）
- 常備救護班　489班　5,194名
- 車両　590台
- 医療セット　265セット
- エアテント　156張
- テント　6,709張
- 発電機　1,531台
- 衛星電話　127台
- 無線局：3,529局150MHz帯が1波、400MHz帯が1波　専用波　（基地局・移動局＝全国）赤十字用
- その他

日本赤十字社

写

医政指発1020第1号
平成22年10月20日

日本赤十字社　事業局長　殿

厚生労働省医政局指導課長

2010年日本APEC開催における医療体制に対する協力について

日頃より厚生労働行政につきまして多大なご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、来る１１月１３日から１４日の間に開催される2010年日本APEC首脳会議に際し、現在、政府においては各種の準備、調整等を行っているところであり、厚生労働省といたしましても現地医療体制の確保に万全を期すべく全国のDMATの協力によるテロ、集団災害対策を講じているところであります。

つきましては、災害・テロ等発生時に迅速に対応するため、日本DMAT活動要領に基づく「通信、移動手段等の確保」について、日本赤十字社神奈川県支部、日本赤十字社東京都支部及び日本赤十字社千葉県支部のご協力を賜りますようお願いいたします。

記

１．期　間　　平成２２年１１月１２日（金）～１５日（月）

２．内　容　　横浜会場、羽田空港及び成田空港におけるDMAT活動に伴う通信関係の補填
（非常時における日赤無線等による連絡体制のご協力）
詳細につきましては、DMAT事務局から各支部担当者にご連絡をさせていただきます。

連絡先
厚生労働省医政局指導課
災害医療対策専門官　風間　和則
03-3595-2194
厚生労働省医政局DMAT事務局
国立病院機構災害医療センター
近藤久禎・市原正行
042-526-5506

資料5.3

DMAT活動における 日赤無線通信の運用について

Information transmission means that can be put in a time of disaster

厚生労働省　統括DMAT研修　ロジスティックスグループ
武蔵野赤十字病院　事務部　施設課長　高　桑　大　介
Ministry of Health, Labour and Welfare
generalization DMAT training LOGISTICS group

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

情報通信ツール

- 通信機器
  - 無線機　①業務用無線機150MHz
    ②業務用無線機400MHz
    ③簡易業務用無線機（トランシーバー）
    ④特定小電力無線機（免許不要レジャー用）
    ⑤MCA無線
    ⑥防災行政無線
  - 衛星携帯電話
  - 携帯電話（災害時優先携帯）
  - モバイルパソコン＆データ通信カード（EMISによる情報収集・発信に有用）
  - 電源（予備電源）の確保
- 記録機器
  - デジタルカメラ
  - ボイスレコーダー
  - コンタクトリスト
  - 電源（予備電源）の確保
- ラジオ等の情報収集ツール
- メガホン、笛、伝令用紙などの伝達ツール

APEC2010 Takakuwa Original

無線通信の利点

- 通信インフラに左右されない。
- 一定範囲内での通信が可能
- 他事業からの混信がない
- 一斉通信が可能
- 呼び出しに特定な番号入力は不要
- 建物内での使用が可能
- 移動中の通信が可能
- 通話料金がかからない

APEC2010 Takakuwa Original

災害医療活動での運用のために

- 操作に慣れること
- 簡易に通信できるよう訓練しておくこと
- 相互の認識が必要
- 相応の経費負担が発生
- 電波法遵守と運用
- 特殊無線技士等の資格
- 電源の確保（充電池）
- 通信担当者の選任

APEC2010 Takakuwa Original

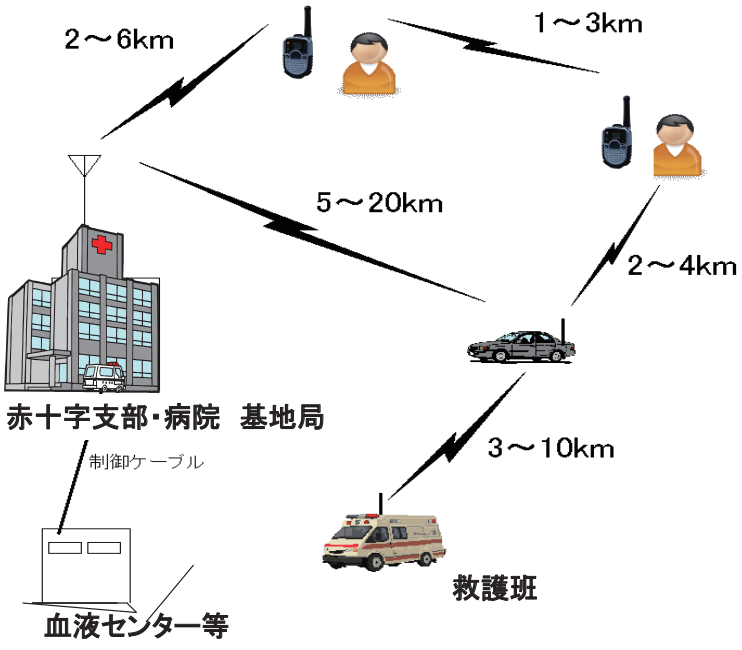
日本赤十字社の災害救護リソース

- 職員　57,876名
- 病院　92病院（52災拠）
- 常備救護班　489班　5,194名
- 車両　590台
- 医療セット　265セット
- エアテント　156張
- テント　6,709張
- 発電機　1,531台
- 衛星電話　127台
- 無線局：3,529局150MHz帯が1波、400MHz帯が1波　専用波　（基地局・移動局＝全国）赤十字用
- その他

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

APEC2010　Takakuwa　Original

業務用無線の通信イメージ



この無線通信教育では

【達成目標】

1．情報伝達のツールとしての無線通信の技術を習得する。

2．効果的な無線通信の運用方法を習得する。

3．情報収集の手法としてのインタビュー技術を習得する

4．収集した情報の記録・管理（分析）の手法を習得する。

5．情報の重要性を認識し、取得・伝達・管理（記録）
・活用のポイントと流れを理解する。

APEC2010 Takakuwa Original

無線機の事前チェック

1.電源を入れる

2.音量（ｽｹﾙﾁ）を確認する

3.電池の残量を確認する。

4.相互のチャンネル（周波数）を確認する。

5.相互のコールサイン
（個人・組織を識別する呼出し符号）を確認する。

APEC2010 Takakuwa Original

ハンディー機の使用法

Press
PTT（Push To Talk）スイッチ

- トランシーバは同時に送信か受信の一方しかできない単信式の通信だが、これを切り替えるのがPTT（Push To Talk）スイッチである。
- PTTスイッチを押すと送信、離すと受信となる。

APEC2010 Takakuwa Original

無線呼び出し方法

- 相手の呼出し符号　３回以内　（「〇〇各局」）
- 「こちらは」
- 自局の呼出し符号
- 「どうぞ」

省略型　50ワット以下業務用無線　厳密には届けが必要

- 自局の呼出し符号
- 「から」
- 相手の呼出し符号（「〇〇各局」）
- 「どうぞ」

APEC2010 Takakuwa Original

具体的な通話方法　※は省略型

●にっせきとうきょう、にっせきとうきょうこちらはにっせきむさしの５
　ですどうぞ　　※（にっせきむさしの５からにっせきとうきょう）

○にっせきむさしの５　にっせきむさしの５こちらはにっせきとうきょう
　ですどうぞ　　※（にっせきむさしの５どうぞ）

●「通話内容（用件・・○時○分到着予定）どうぞ」

○「用件・・・○時○分到着予定了解」
　　※（にっせきとうきょう了解）

●「以上、にっせきむさしの５」
　　※（省略）

APEC2010　Takakuwa　Original

無線機使用上のコツ

- 不要な通信を避け、一度に長く話さない。
- 高めの声で、語尾は明瞭に、ゆっくりと話す。
- 敬語／感動詞（間投詞・感嘆詞）は不要。
- PTTボタンを押してから一呼吸置いて話す。
- 回答に時間がかかりそうなら、「しばらく待て」 PTTを離す。
- 「どうぞ」「了解」「以上」「再度おくれ」「訂正」
- 漢字説明、和文通話表、英文通話表を用いる。
- コールサインはお互いに確認ができれば省略。（コールサインの連呼による周波数占拠防止）
- 無線統制に従う。（混信の防止）
- 狭いエリアでは拡声器等の代用も考える。
- 自分の通信が一番重要だと思うな！

APEC2010　Takakuwa　Original

感明試験（メリットチェック）

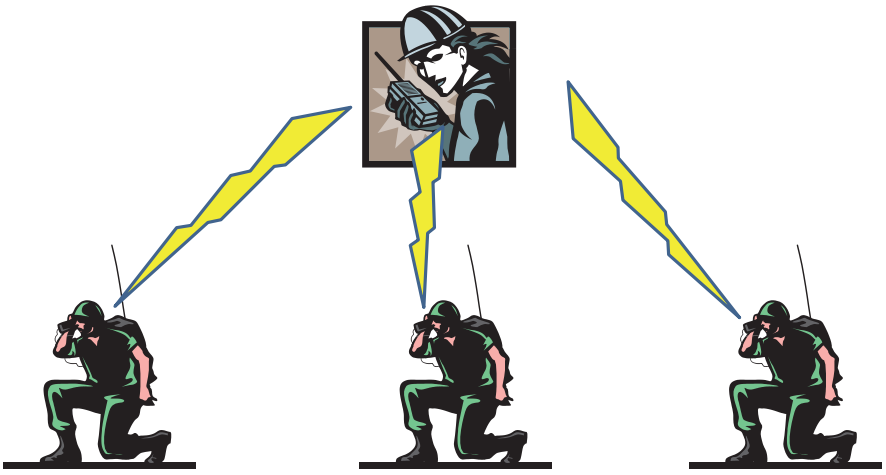
- 本日は晴天なり×３回
  メリット（感明）いかが

- ５　完全に了解できる
- ４　事実上困難なく了解できる
- ３　かなり困難だが了解できる
- ２　かろうじて了解できる
- １　了解できない

※感明：感度、明瞭度

APEC2010 Takakuwa Original

無線通信のポイント



情報の錯綜を防ぐため、統制局（通信コントロール）を介して交信することが基本。
情報が錯綜した場合には、統制指定局が統制を図る。

APEC2010 Takakuwa Original

災害時に伝えるべき情報

Major Incident Medical Management and Support：MIMMS

- M　Major incident ：大事故・災害の発生「待機」「宣言」
- E　Exact location：正確な発災場所　地図の座標
- T　Type of incident：事故・災害の種類
  自然災害・化学災害・交通事故
- H　Hazard：危険性、現状と拡大の可能性
- A　Access：到達経路、進入経路
- N　Number of casualties：負傷者数、重症度、種類
- E　Emergency services：緊急サービス機関
  ・・・現状と今後必要となるサービス

APEC2010　Takakuwa　Original

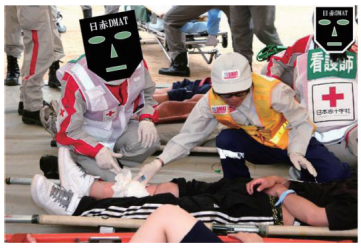
情報５W１H

- W　When　いつ
  何時何分・・
- W　Where　どこで
  現場　市、町、丁目、番地
- W　Who　誰が
  氏名、所属、傷病者、性別
- W　What　何を
  品名(薬品・資機材)、状況
- W　Why　なぜ
  原因、理由、目的
- H　How　どのように
  方法、アクセス、

APEC2010　Takakuwa　Original

では実際に・・・・

真剣にやってみましょう



APEC2010 Takakuwa Original

練習15分

APEC2010 Takakuwa Original

2010.1 Ver3.2

無線通信教育まとめ

Summary of training

APEC2010 Takakuwa Original

和文通話表（アクロニム：acronym：頭字語の逆）

ア	朝日のア	イ	いろはのイ	ウ	上野のウ	エ	英語のエ	オ	大阪のオ
カ	為替のカ	キ	切手のキ	ク	クラブのク	ケ	景色のケ	コ	子供のコ
サ	桜のサ	シ	新聞のシ	ス	雀のス	セ	世界のセ	ソ	そろばんのソ
タ	煙草のタ	チ	千鳥のチ	ツ	鶴亀のツ	テ	手紙のテ	ト	東京のト
ナ	名古屋のナ	ニ	日本のニ	ヌ	沼津のヌ	ネ	ねずみのネ	ノ	野原のノ
ハ	はがきのハ	ヒ	飛行機のヒ	フ	富士山のフ	ヘ	平和のヘ	ホ	保険のホ
マ	マッチのマ	ミ	三笠のミ	ム	無線のム	メ	明治のメ	モ	紅葉のモ
ヤ	大和のヤ	ヰ	井戸のヰ	ユ	弓矢のユ	ヱ	かぎのあるヱ	ヨ	吉野のヨ
ラ	ラジオのラ	リ	りんごのリ	ル	るすいのル	レ	れんげのレ	ロ	ローマのロ
ワ	わらびのワ	ヲ	尾張のヲ	ン	おしまいのン	゛	濁点	゜	半濁点
ー	長音	、	区切点	」	段落	（	下向括弧	）	上向括弧
1	数字のひと	2	数字のに	3	数字のさん	4	数字のよん	5	数字のご
6	数字のろく	7	数字のなな	8	数字のはち	9	数字のきゅう	0	数字のまる

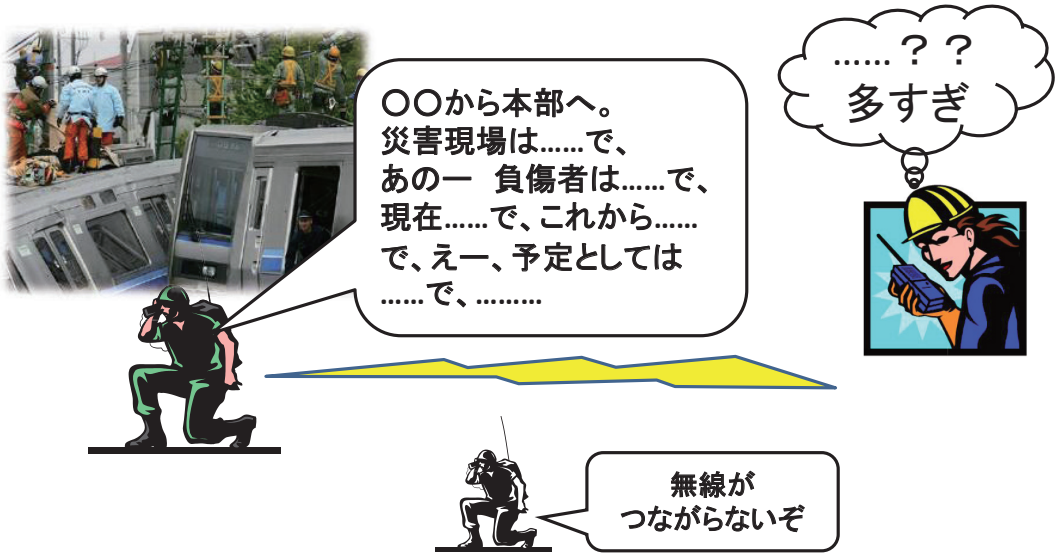
APEC2010 Takakuwa Original

欧文通話表

A	ALFA	B	BRAVO	C	CHARLIE	D	DELTA
E	ECHO	F	FOXTROT	G	GOLF	H	HOTEL
I	INDIA	J	JULIETT	K	KILO	L	LIMA
M	MIKE	N	NOVEMBER	O	OSCAR	P	PAPA
Q	QUEBEC	R	ROMEO	S	SIERRA	T	TANGO
U	UNIFORM	V	VICTOR	W	WHISKY	X	X-RAY
Y	YANKEE	Z	ZULU				

APEC2010 Takakuwa Original

無線通信のポイント



輻輳（無線の渋滞）を避けるため、必要な情報を簡潔に送る。情報の質・量・タイミング

APEC2010 Takakuwa Original

インタビューのポイント

インタビューには目的がありそれに沿って
コンパクトに聞き、必ずメモを取る。

情報の種類に留意して内容を整理する。
聞き取りたい情報は事前にﾋﾟｯｸｱｯﾌﾟしておく。

① 材料情報(information)
患者数・ﾗｲﾌﾗｲﾝ・ｽﾀｯﾌ数は・・・

② 判断・評価・提案情報(intelligence)
今後の見込み・支援重点ﾎﾟｲﾝﾄは・・・

データ化された答えやすい情報から聞き取り、
判断や評価を求めるｲﾝﾀﾋﾞｭｰは、必要に応じて
行うようにする。

APEC2010 Takakuwa Original

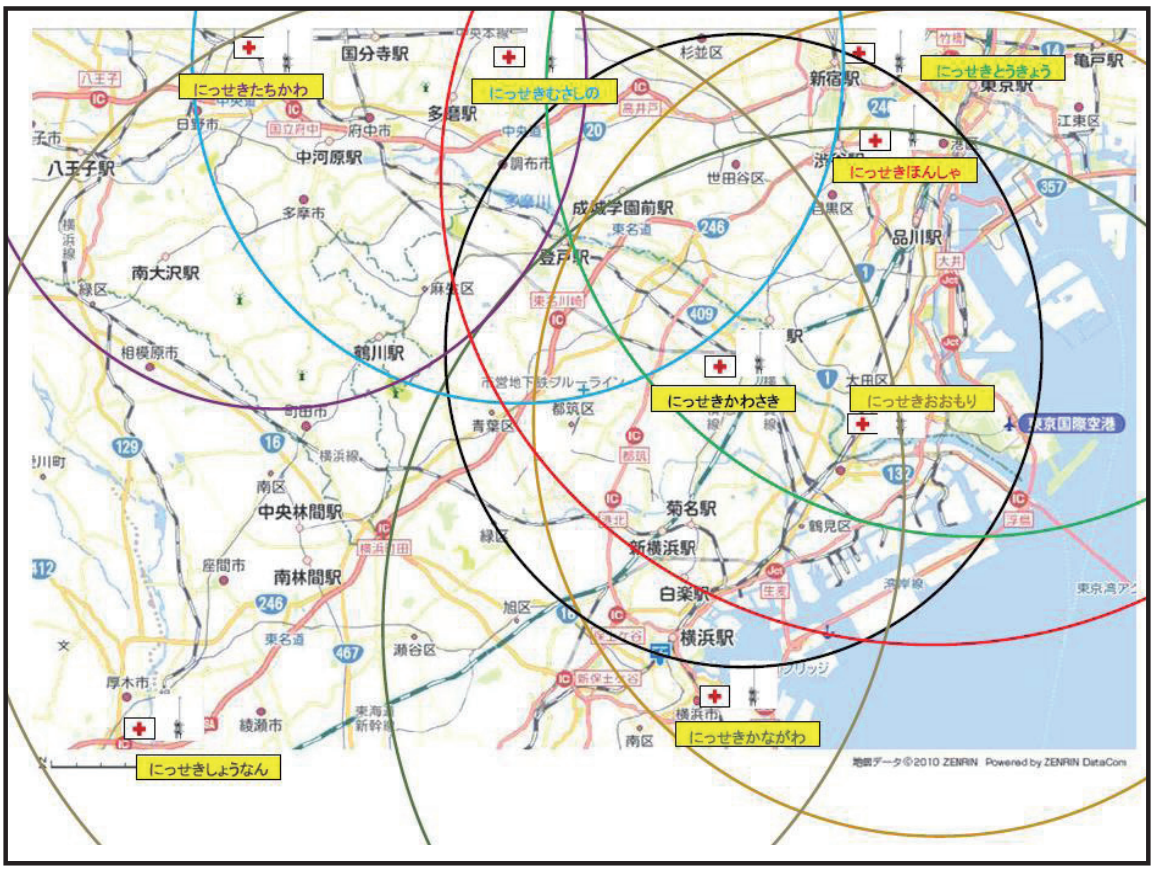
情報の記録・管理等について

チームとしてのとりまとめ
・無線業務日誌の記録
・本部機能としての記録・共有

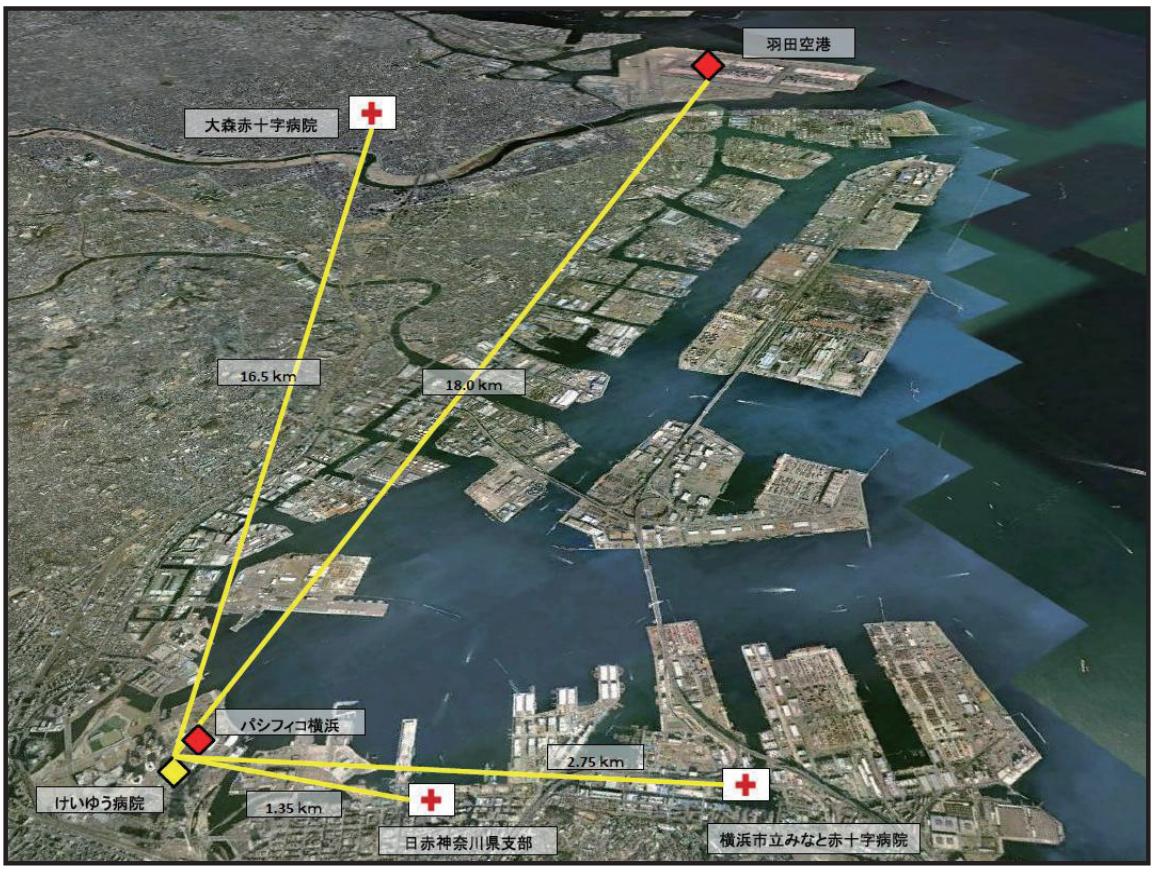
ツールとしては・・・
・ホワイトボードに記入
・PCに入力
・EMISへのフィードバック

情報の記録と共有

APEC2010 Takakuwa Original


にっせきたちかわ
にっせきむさしの
にっせきとうきょう
にっせきほんしゃ
にっせきかわさき
にっせきおおもり
にっせきかながわ
にっせきしょうなん
国分寺駅
八王子駅
中河原駅
多摩駅
新宿駅
東京駅
亀戸駅
品川駅
成城学園前駅
登戸駅
南大沢駅
鶴川駅
中央林間駅
南林間駅
菊名駅
新横浜駅
白楽駅
横浜駅
羽田空港
東京国際空港

パシフィコ横浜
けいゆう病院
新港埠頭
大桟橋ふ頭
1.35 km
日赤神奈川県支部



APEC2010　DMAT通信体制　配置案　ver1.7

武蔵野赤十字病院

日赤:VHF　150MHz帯　アナログ
簡易:UHF　400MHz帯　デジタル/アナログ　35/65ch
MCA:UHF　800MHz帯　デジタル

エリアブロック　携帯電話	所在地	無線コールサイン等	空中線電力	機種	無線管理担当
DMAT本部	けいゆう病院１３階	にっせきかながわ31	25W	固定	統制局　※横村とうきょう18
		にっせきかながわ121	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ122	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ127	1W	ハンディー	高桑　唐鎌
		にっせきかながわ128	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう101	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう102	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう103	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう18	10W	車載	武蔵野ハイエース
		にっせきぐんま3	25W	車載	前橋ドクターカー
		にっせきぐんま6	10W	車載	前橋プレサージュ
		MCA　災医セ	4W	ハンディー	大野
		簡易無線	5W	固定	吉川
メディアセンター	パシフィコ国際会議場	にっせきとうきょう6	25W	固定	太田
		にっせきとうきょう105	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう106	1W	ハンディー	
		にっせきぐんま115	10W	可搬	
		簡易無線	5W	ハンディー	
会議センター		にっせきとうきょう7	25W	固定	関口
		にっせきぐんま116	5W	可搬	
		にっせきとうきょう107	1W	ハンディー	
		簡易無線	5W	ハンディー	
横浜市立みなと赤十字病院	横浜市中区	にっせきかながわ34	10W	固定	八木
		にっせきかながわ129	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ130	1W	ハンディー	
		MCA　横浜市	4W	ハンディー	
羽田空港	空港内救護所 エクセルホテル東急 7136	にっせきとうきょう3	25W	固定	辻
		にっせきとうきょう108	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう109	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう110	1W	ハンディー	
		にっせきしが201	1W	ハンディー	
		にっせきしが202	1W	ハンディー	
		にっせきしが4	10W	車載	大津救急車
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA　災医セ	4W	ハンディー	
成田空港	空港内救護所	にっせききょうと6	10W	車載	上門
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA　災医セ	4W	ハンディー	
日赤神奈川県支部	横浜市中区	にっせきかながわ基地局	50W	基地	野口
		MCA　横浜市	5W	ハンディー	
日赤東京都支部	新宿区大久保	にっせきとうきょう基地局	25W	基地	田中
	豊島区駒込	にっせきこまごめ基地局	25W	基地	
	大田区中央	にっせきおおもり基地局	25W	基地	
日赤千葉県支部	千葉市中央区	にっせきちば基地局	50W	基地	増田
災害医療センター	立川市	MCA　災医セ	4W	ハンディー	DMAT事務局

担当チーム

シフトについては別途策定

病　院　名	都道府県	業務調整員	
東京医科歯科大学病院	東京	工藤	宮崎
前橋赤十字病院	群馬	太田	関口　関根
愛媛県立中央病院	愛媛	是永	
新潟市民病院	新潟	浅野	伊藤
華津綜合病院	群馬	鈴木	
平鹿綜合病院	秋田	佐藤	冨木
徳島県立病院	徳島	吉岡	
兵庫医科大学病院	兵庫	冨加見	

病　院　名	都道府県	業務調整員	
山形県立中央病院	山形	萬年	
災害医療センター	東京	木崎	
近森病院	高知	宗石	竹崎
相澤病院	長野	中込	内山
大津赤十字病院	滋賀	辻	西島

病　院　名	都道府県	業務調整員	
京都第一赤十字病院	京都	上門	栖本
東北大学病院	宮城		
愛知医科大学病院	愛知	小澤	小谷
大阪府済生会千里病院	大阪	寺澤	
済生会滋賀病院	滋賀	奥野	坂本

緊急時【休日夜間はオンコール】

APEC2010 Takakuwa Original

お疲れ様でした…

APEC2010 Takakuwa Original

DMAT
APEC 対応マニュアル

6.資器材について

	医療機関名		持参すべき薬剤			持参可能であれば持参する薬剤					防護具	放射線検知器		
								シアノキットの代替え			(レベルC)	汚染検知器	空間線量計	個人線量計
			アトロピン（0.5mg）	ジアゼパム（10mg）	PAM（500mg）	シアノキット	BAL	亜硝酸アミル	3%亜硝酸Na（院内製剤10ml）	チオ硫酸Na（デトキソール20ml）		（GMサーベイメータ）	（電離箱、NaIシンチレーションカウンタ）	
		推奨持参量	240A	20A	20A			60A	10A	70A	5	1	1	5
1	東京医科歯科大学医学部附属病院		240A	20A	20A		10A	60A	10A	70A	5	1	1	3
2	新潟市民病院		240A ※1プレフィルドは一部のみで多くはガラスアンプル	20A	20A	2セット（1箱）	2～3Aもっていけるが冷蔵庫なし				5	1	各1	5
3	社会医療法人誠光会 草津総合病院		200A	100A	10A	0	0	60A	0	70A	8	1	1	5
4	JA秋田厚生連　平鹿総合病院		240A	20A	20A	2セット	20A	0	0	0	6	1	1	6
5	前橋赤十字病院		240A	20A	20A	4V	10A	60A	10A	70A	6	1	1	6
6	愛媛県立中央病院		250A	20A	20A	0	10A	60A	10A	70A	25	1	1	5
7	徳島県立中央病院		240A	20A	20A	0	0	60A	0	0	5	1	1	5
8	兵庫医科大学病院		240	20	20	0	0	60	10	70	2	0	0	0
9	山形県立中央病院 県立救命救急センター		250A	20A	20A	1ｷｯﾄ	10A	20A	50A	70A	5	1	1	0
10	災害医療センター		240A	20A	20A	1	0	0	0	0	5	1	1	5
11	近森病院		240A	20A	20A			60A	10A	70A	5	1	1	5
12	大津赤十字病院		100	20A	10	0	0	10	10 注）※3%亜硝酸Na（院内製剤5ml）	10	6	1	1	1
13	相澤病院		240	20	20			60	10	70	5		1	7
14	東北大学病院		シリンジ製剤10本・アンプル製剤100A	20A	20A	1箱	50本	なし	なし	なし	5	なし	なし	なし
15	愛知医科大学病院		240A	20A	20A		10A	30A		30A	5	1	1	5
16	京都第一赤十字病院		240A	20A	20A		10A	20A	5A	30A	5	0	0	0
17	大阪府済生会千里病院		240	（セルシン5mg）20	20	1	0	0	0	70	5	0	0	0
18	済生会滋賀県病院		50A	10A	20A	0	0	0	0	0	5	1	1	2

※個人線量計の不足分は、放医研所有機材で対応

DMAT
APEC 対応マニュアル

7.救急医療

MEDICAL　RECORD

記載者名：

医療班名：

対応日時　１１月　____日　____時　____分

対応場所：

氏名　　年齢　　歳、　性別　男・女

生年月日　　年　　月　　日

国籍・所属：

連絡先：

主訴：

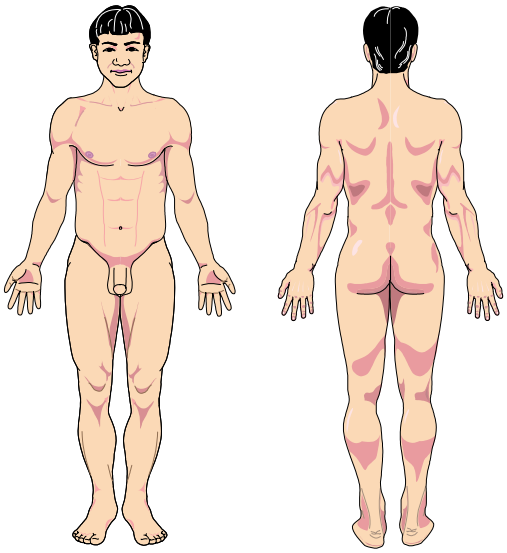
現病歴：

現症

呼吸　　回/分、SPO2　　%

脈拍　　回/分　整・不整

血圧　　/　　mHg



治療内容：

診断（又は症状名）：

転帰・方針：

患者別報告様式

１．**対応日・時間**

＿１１月 ＿＿日 ＿＿時 ＿＿分

２．**対象患者年齢・性別**

＿＿歳 （□男性 □女性）

３．**対象患者種別**

□首脳 □夫人・上級ｼｪﾙﾊﾟ □各国政府 □ﾏｽｺﾐ □警察・警備 □住民

□医療班 □その他（ ）

４．**対象患者国籍**

（ ）

５．**対象患者対応言語**

□日本 □英 □フランス □ロシア □中国

□その他（ ）

６．**受診経過**

□直接（Walk-in） □救急搬送 □ 別の医療機関からの転院搬送

□その他（ ）

７．**事象種別**

□内因性疾患 □外因性疾患 □その他（ ）

８．**病名**

（ ）

９．**急病種別（複数チェック可）**

□発熱 □消化器 □循環器 □呼吸器 □脳神経 □泌尿器 □整形 □皮膚

□眼科 □精神 □慢性疾患 □産婦人科 □外傷 □中毒 □その他（ ）

１０． **外傷種別**

□交通 □転落 □転倒 □自傷 □その他（ ）

１１． **処置・治療内容**

□診察のみ □投薬 □注射 □点滴 □手術 □その他（ ）

１２． **処置・治療の対応（診療医の種別）**

□一般的な救急事例で一般救急医による対応が可能 □専門医へのコンサルトを必要とした □専門医による治療を必要とした

１３． **傷病程度**

□外来 □入院（一般） □入院（ICU） □転院搬送（□うち別の APEC 関連医療機関へ転院搬送） □その他（ ）

１４． **保険支払方法** □保険証あり □個人負担 □トラブルあり（ ）

別紙3　APEC救急医療記録用紙（9時、18時に本部宛にFAX（〇〇〇-〇〇〇〇）して下さい）

資料7.1

施設の名称

月日	受診時間	搬送方法（救急車、その他）	年齢	性別	国籍	APECとの関係（首脳、閣僚、政府代表、プレス、警察、警備）	転帰（帰宅、入院）	診断名	備考

記載者の署名

空港において傷病者が発生した場合の手順等について

１　成田空港で傷病者が発生した場合

（１）【首脳会議中】（１１月１２日８時００分以降）

＜離発着時、DMAT、空港待機連絡員は、待機場所からスポット付近へ移動＞

①傷病者発生時、DMAT は現場へ往診。

※空港待機連絡員（厚生労働省）も DMAT に随行する。

※空港職員が待機場所から現場まで誘導する。

※外務省リエゾンは、外務省ロジ本部へ連絡する。

※飛行中に傷病者が発生した場合は、空港職員等から、空港待機連絡員（厚生労働省）へ第一報する。

②空港待機連絡員（厚生労働省）は、第一本部へ連絡する。

③現場到着後、DMAT は診療にあたり、

空港待機連絡員（厚生労働省）は、以下の事項を聴取する。

□　国籍、職名区分（首脳、配偶者、閣僚等）

④搬送が必要な場合は、空港待機連絡員（厚生労働省）は、１１９番通報。

※伝達事項

□　「APEC 案件です。」と明言する。

□　国籍、職名区分（首脳、配偶者、閣僚等）

□　傷病程度

□　発生場所

⑤診療にあたった医師は、第一本部へ連絡（協議）し、搬送先（成田赤十字病院もしくは日本医科大学千葉北総病院）を決定する。

⑥第一本部は、搬送先（成田赤十字病院もしくは日本医科大学千葉北総病院）へ連絡する。

⑦診療にあたった医師が、到着した救急隊に対し、搬送先を伝達する。

※第一本部は、成田市消防本部へ搬送先を伝達する。

※外務省リエゾンは、外務省ロジ本部に連絡する。

⑧第一本部は、搬送先病院から適宜、症状、経過等を聴取する。

（２）【首脳会議前】（１１月１２日８時００分以前）

注意：DMAT は、１１月１１日に成田入り次第、積極的に緊急時の対応に関与する。

（緊急搬送する場合）

①空港職員、外務省リエゾン等は、１１９番通報するとともに、外務省リエゾンは、外務省ロジ本部へ連絡する。

②救急車にて病院へ搬送。外務省リエゾンより外務省ロジ本部へ連絡し、外務省ロジ本部は、横浜医療本部内厚労省職員に連絡する。

③横浜医療本部内厚労省職員は、搬送受入病院から症状、経過等を収集する。

＜関係連絡先＞

成田赤十字病院	０４７６－２２－２３１１
日本医科大学千葉北総病院	０４７６－９９－１１１１
厚生労働省医療対策本部（第一本部）	０４５－２２８－３２０１
成田市消防本部	０４７６－２０－１５９３

＜成田空港での待機場所＞

NAA 情報通信ビル３階研修室

２　羽田空港で傷病者が発生した場合

（１）【首脳会議中】（１１月１２日８時００分以降）

＜離発着時、DMAT、NBC 班、空港待機連絡員は、①V ゲート付近の DMAT 車両内、②CIQ 棟（東京空港検疫所支所）会議室内で待機する。＞

①空港事務所は、空港待機連絡員（厚生労働省）へ連絡する。

※DMAT は、CAB 誘導のもと、DMAT 車両等で現場へ往診。

※国際線ターミナルの場合は、CIQ 棟（東京空港検疫所支所）会議室で待機している DMAT が徒歩で現場へ往診。

※空港待機連絡員（厚生労働省）は羽田空港本部（エクセル東急スイートルーム）に待機する。（検疫所待機連絡員（厚生労働省）が配置している場合は DMAT に随行する。）

※DMAT ロジ隊員は羽田空港本部で空港待機連絡員（厚生労働省）をサポートする。

※飛行中に傷病者が発生し、エアラインから東京消防庁に連絡があった場合は、東京消防庁職員から、空港待機連絡員（厚生労働省）へ連絡する。

※外務省リエゾンは、外務省ロジ本部へ連絡する。

②空港待機連絡員（厚生労働省）は、厚生労働省医療対策本部（以下、第一本部）へ連絡する。

③現場到着後、DMAT は診療にあたり、

DMAT ロジ隊員は、以下の事項を関係者に聴取し、羽田空港本部の DMAT ロジ隊員若しくは空港待機連絡員（厚生労働省）に連絡する。

□　国籍、職名区分（首脳、配偶者、閣僚等）

④搬送が必要な場合は、空港待機連絡員（厚生労働省）が、１１９番通報。

※伝達事項

□　「APEC 案件です。」と明言する。
□　国籍、職名区分（首脳、配偶者、閣僚等）
□　傷病程度
□　発生場所

⑤診療にあたった医師は、第一本部へ連絡（協議）し、搬送先（東邦大学医療センター大森病院もしくは川崎市立川崎病院）を決定する。

⑥第一本部は、搬送先（東邦大学医療センター大森病院もしくは川崎市立川崎病院）へ連絡する。

※第一本部から、東京消防庁へ搬送先病院名を伝達する。

※外務省リエゾンより外務省ロジ本部に連絡する。

⑦診療にあたった医師は、到着した救急隊に対し、搬送先病院名を伝達する。

⑧第一本部は、搬送先病院から適宜、症状、経過等を聴取する。

（２）【首脳会議前】（１１月１２日８時００分以前）

（緊急搬送する場合）

①空港職員、外務省リエゾン等は、１１９番通報するとともに、外務省リエゾンは外務省ロジ本部へ連絡する。

②救急車にて病院へ搬送。外務省リエゾンより外務省ロジ本部へ連絡し、外務省ロジ本部は、横浜医療本部内厚労省職員に連絡する。

③横浜医療本部内厚労省職員は搬送受入病院から症状、経過等を収集し、外務省ロジ本部に連絡する。

＜関係連絡先＞

東京消防庁	０３－３２１２－２１１１
日本医科大学付属病院	０３－３８２２－２１３１
慶應義塾大学病院	０３－３３５３－１２１１
東邦大学医療センター大森病院	０３－３７６２－４１５１
川崎市立川崎病院	０４４－２３３－５５２１
厚生労働省医療対策本部（第一本部）	０４５－２２８－３２０１

＜羽田空港での待機場所＞

①羽田エクセルホテル東急→V ゲート前車両内

②CIQ 棟　東京空港検疫所支所会議室

（了）

2)本部活動

国立病院機構災害医療センター　　市原　正行

平成２４年１月１８日

ＡＰＥＣ報告書
ＤＭＡＴ本部活動について

国立病院機構災害医療センター
市原正行

１．活動人員

氏　　名	施設名	職　種	６日	７日	８日	９日	１０日	１１日	１２日	１３日	１４日	１５日
			土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
小井土　雄一	DMAT事務局	医師				○			○	○	○	○
近藤　久禎	DMAT事務局	医師			○	○		○	◎	△	○	○
阿南　英明	藤沢市民病院	医師		○			○		△	○ (PM藤沢)	○	○
勝見　敦	武蔵野赤十字病院	医師								◎	△	△
吉川　敏	DMAT事務局	業務調整員			○		○	○	●	△	○	○
市原　正行	DMAT事務局	業務調整員	○	○ (朝のみ)	○	○			△	◎	△	○
大野　龍男	DMAT事務局	業務調整員	○	○				○	◎	△	○	○
澤畑　良一	藤沢市民病院	業務調整員	○	○			○		○	○ (PM藤沢)	○	○
高桑　大介	武蔵野赤十字病院	業務調整員							○	△	○	○
唐鎌　宏明	秦野赤十字病院	業務調整員							△	◎	△	○ (10時～)
小野寺貴史	朝日航洋㈱	ＣＳ							○	○		
島村　健一	朝日航洋㈱	ＣＳ									○	○
横田　英己	朝日航洋㈱	ＣＳ										
			3	3	3	3	3	3	6	7	7	9
※勤務時間	６日～１１日	９：００～１８：００				１２日		８：００～２１：００				
	１３日～１４日	９：００～２１：００				１５日		９：００～１２：００				
※１２日８時～１５日１２時迄は当番日以外はホテル待機												
◎２４時間		●夜勤のみ（２１：００～９：００）										

２．本部の業務と役割分担

日常業務

- 各チームの配置、交代確認（朝、夕、随時）
  - 首脳班：第二本部配置確認
  - ＮＢＣ首脳班：ＮＢＣ首脳対応チーム配置確認
  - ＤＭＡＴ：救護所、空港、待機配置確認
- 病院応需情報収集
  - 神奈川県（ＥＭＩＳ神奈川モードを通じて）
  - 厚生労働省、横浜市（定例報告を通じて）
- 診療報告
  - 首脳班：第二本部
  - 病院：厚生労働省、横浜市（定例報告を通じて）
  - ＤＭＡＴ：救護所
- 活動記録取りまとめ
  - 首脳班：第二本部配置確認

- ＤＭＡＴ：救護所、空港、けいゆう待機

・ 定例ミーティング（朝）

事案発生時

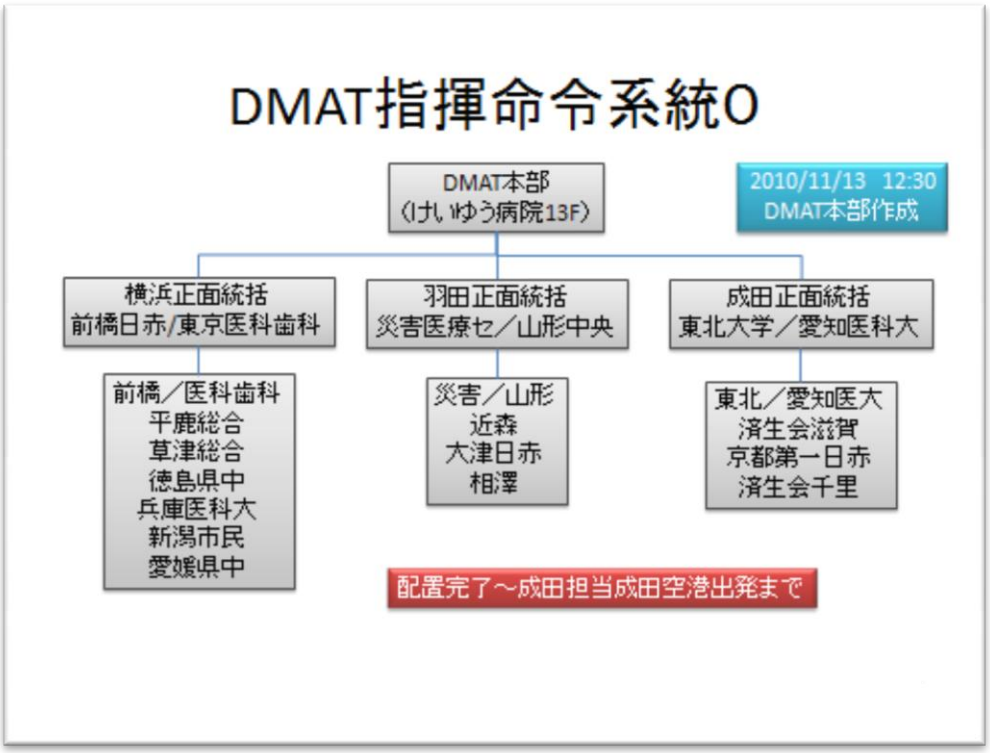
・ 指揮
  - 厚生労働省、山本先生

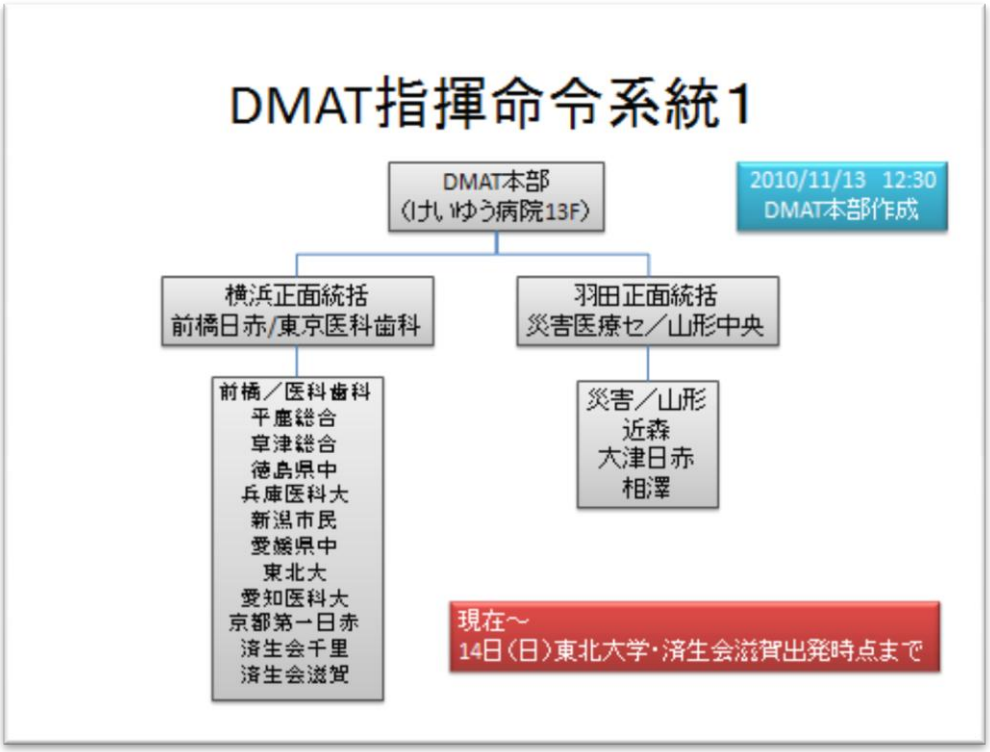
・ アドバイス
  - メディカルディレクター、首脳班リーダー
  - ＮＢＣ班

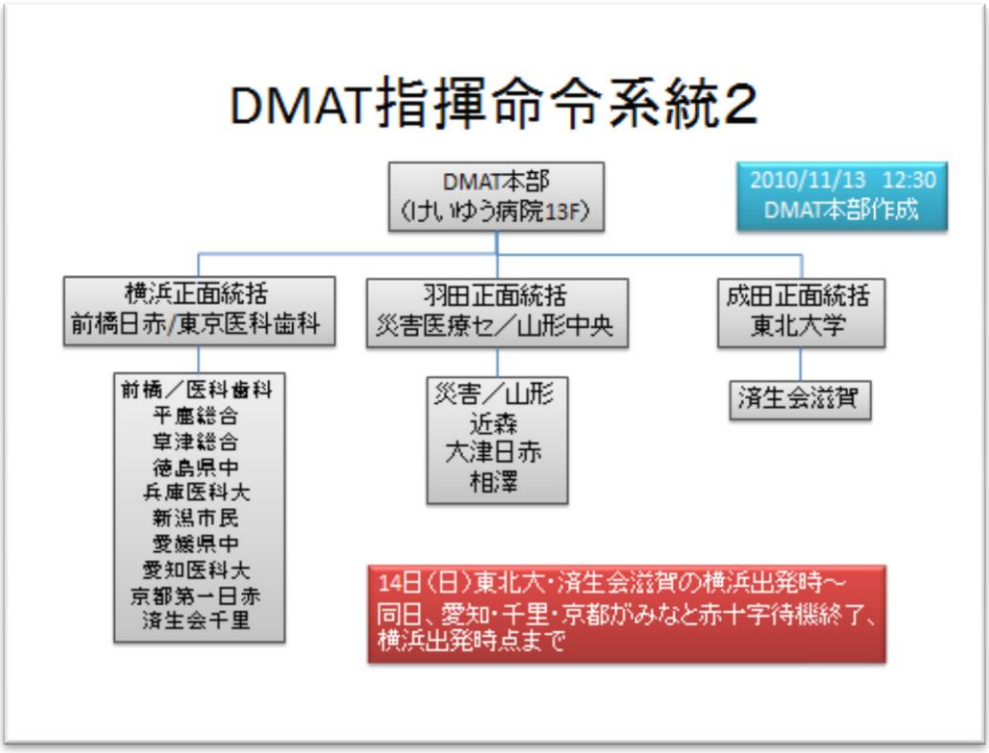
・ 情報収集、調整
  - 厚生労働省
  - 神奈川県
  - 横浜市
  - ＤＭＡＴ
  - リエゾン

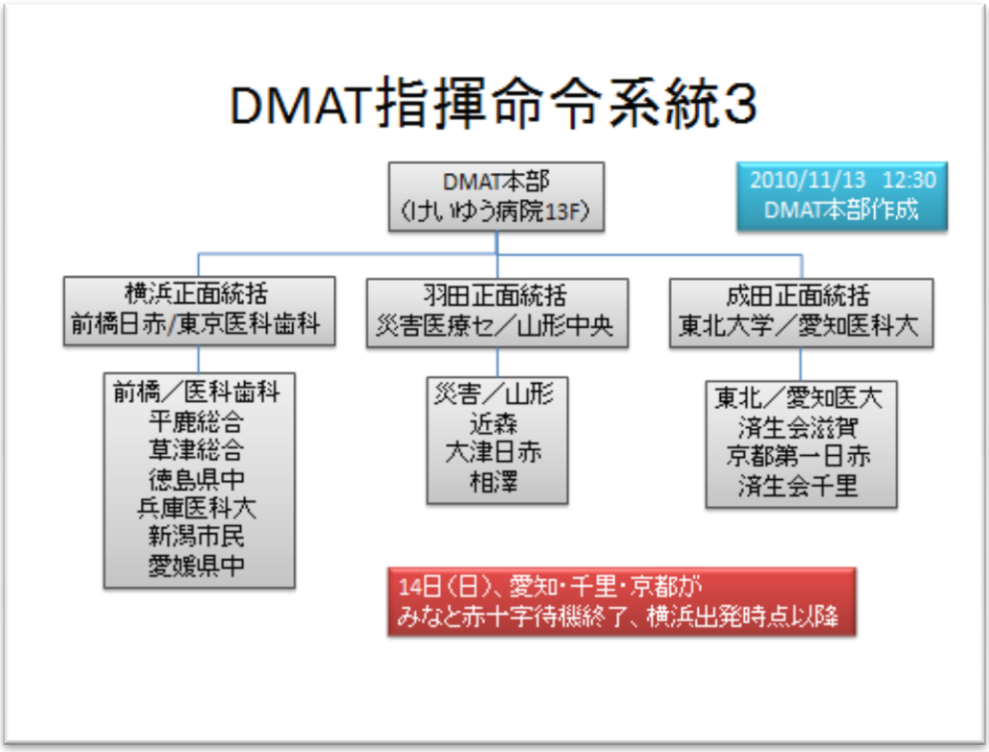
・ 活動各隊、各部署への指揮
  - 首脳班→首脳対応チーム
  - ＮＢＣ班→ＮＢＣ首脳対応チーム
  - ＤＭＡＴ本部→ＤＭＡＴ
  - 横浜市内医療機関→横浜市
  - 神奈川県内医療機関、神奈川ＤＭＡＴ→神奈川県

３．指揮系統図


DMAT指揮命令系統0
DMAT本部
(けいゆう病院13F)
2010/11/13 12:30
DMAT本部作成
横浜正面統括
前橋日赤/東京医科歯科
羽田正面統括
災害医療セ/山形中央
成田正面統括
東北大学/愛知医科大
前橋/医科歯科
平鹿総合
草津総合
徳島県中
兵庫医科大
新潟市民
愛媛県中
災害/山形
近森
大津日赤
相澤
東北/愛知医大
済生会滋賀
京都第一日赤
済生会千里
配置完了～成田担当成田空港出発まで


DMAT指揮命令系統1
DMAT本部
(けいゆう病院13F)
2010/11/13 12:30
DMAT本部作成
横浜正面統括
前橋日赤/東京医科歯科
羽田正面統括
災害医療セ/山形中央
前橋/医科歯科
平鹿総合
草津総合
徳島県中
兵庫医科大
新潟市民
愛媛県中
東北大
愛知医科大
京都第一日赤
済生会千里
済生会滋賀
災害/山形
近森
大津日赤
相澤
現在～
14日(日)東北大学・済生会滋賀出発時点まで


DMAT指揮命令系統2
DMAT本部
(けいゆう病院13F)
2010/11/13 12:30
DMAT本部作成
横浜正面統括
前橋日赤/東京医科歯科
羽田正面統括
災害医療セ/山形中央
成田正面統括
東北大学
前橋/医科歯科
平鹿総合
草津総合
徳島県中
兵庫医科大
新潟市民
愛媛県中
愛知医科大
京都第一日赤
済生会千里
災害/山形
近森
大津日赤
相澤
済生会滋賀
14日(日)東北大・済生会滋賀の横浜出発時～
同日、愛知・千里・京都がみなと赤十字待機終了、
横浜出発時点まで


DMAT指揮命令系統3
DMAT本部
(けいゆう病院13F)
2010/11/13 12:30
DMAT本部作成
横浜正面統括
前橋日赤/東京医科歯科
羽田正面統括
災害医療セ/山形中央
成田正面統括
東北大学/愛知医科大
前橋/医科歯科
平鹿総合
草津総合
徳島県中
兵庫医科大
新潟市民
愛媛県中
災害/山形
近森
大津日赤
相澤
東北/愛知医大
済生会滋賀
京都第一日赤
済生会千里
14日(日)、愛知・千里・京都が
みなと赤十字待機終了、横浜出発時点以降

４．活動状況

DMAT 活動報告（11 月 12 日（金）活動分）

１．活動報告

本部活動

・ 活動チーム
  - 午前：災害医療センター、藤沢市民病院、武蔵野赤十字病院、秦野赤十字病院
  - 午後：午前に同じ
  - 夜：災害医療センター
・ 活動概要
  - 7:00　けいゆう病院 13F 会議室に本部員集合
  - 7:00　横浜待機８チームに対しブリーフィング実施
  - 9:00　日赤無線を本部及び各正面に配備完了
  - 20:30　本部員、夜間シフトに移行

横浜正面

・ 活動チーム
  - 午前：東京医科歯科大学、前橋赤十字病院、平鹿総合病院、草津総合病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院、新潟市民病院、愛媛県立中央病院
  - 午後：午前に同じ
  - 夜：東京医科歯科大学、新潟市民病院、草津総合病院、平鹿総合病院
・ 活動概要
  - 7:00　けいゆう病院４FDMAT 待機場所に集合
  - 7:00　ブリーフィング実施
  - 8:00　会議センター救護所及び IMC 救護所に各１チーム配置
  - 8:00　横浜市大センター病院・みなと赤十字病院・横浜労災病院・済生会東部病院へのアクセスの確認（現地踏査）（新潟市民病院、前橋赤十字病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院が実施）
  - 12:00　２箇所の救護所のチームが交代
  - 13:30　上記４病院へのアクセスの確認（現地踏査）（東京医科歯科大学、草津総合病院、秋田平鹿総合病院、愛媛県立中央病院が実施）
  - 14:30　けいゆう病院外への出動要領を実地で確認
  - 18:00　救護所待機終了

羽田正面

・ 活動チーム
  - 午前：山形県立中央病院、災害医療センター、近森病院、大津赤十字病院、相澤病院
  - 午後：午前に同じ
  - 夜：午前に同じ
・ 活動概要
  - 8:00　待機場所（ホテルスイートルーム）集合

- 8:30　V ゲート至近の待機場所に２チーム待機
- 9:05　待機解除、ホテルスイートルームに医師１名、調整員１名で待機、他の隊員は休息
- 15:30　活動再開、2 チームが V ゲート至近に待機
- 首脳到着スケジュールに合わせ活動継続

<u>成田正面</u>

・ 活動チーム
- 午前：東北大学病院、愛知医科大学病院、京都第一赤十字病院、大阪府済生会千里病院、済生会滋賀県病院
- 午後：午前に同じ
- 夜：午前に同じ

・ 活動概要
- 11:30　NAA ビル待機場所に集合
- 15:15　２チームが第１ターミナルエプロン 40 に待機
- 16:03　待機解除。本日の成田での業務終了
- 16:52　成田空港から横浜へ向けて移動開始

翌日の予定

・ 鎌倉対応のため、藤沢市民病院へ DMAT3 チーム派遣

・ チームの配置
- 本部：災害医療センター、藤沢市民病院、武蔵野赤十字病院、秦野赤十字病院
- 横浜対応：東京医科歯科大学、前橋赤十字病院、平鹿総合病院、兵庫医科大学病院、新潟市民病院、東北大学病院、愛知医科大学病院、京都第一赤十字病院、大阪府済生会千里病院、済生会滋賀県病院
- 鎌倉対応：草津総合病院、徳島県立中央病院、愛媛県立中央病院
- 羽田対応：山形県立中央病院、災害医療センター、近森病院、大津赤十字病院、相澤病院

DMAT 活動報告（11 月 13 日（土）活動分）

１．活動報告

<u>本部活動</u>

・ 活動チーム
- 日中：災害医療、藤沢市民、武蔵野日赤、秦野日赤
- 夜：武蔵野日赤、秦野日赤、災害医療

・ 活動概要
- 3:20　羽田での到着便に合わせ活動開始
- 7:00　日中シフトの本部員合流
- 7:00　成田から移動・合流したチームに対しに対しブリーフィング実施
- 14:15　インドネシア副大統領到着時の対応につき調整
- 19:30　DMAT 車両の検問でのトラブル対応。神奈川県警との調整実施

<u>横浜正面</u>

・ 活動チーム
  - 午前：
    - （会議センター救護所）東北大学
    - （IMC 救護所）京都第一日赤
    - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、愛知医大、済生会千里、済生会滋賀
    - （配偶者プログラム対応）草津総合、徳島県中、愛媛県中
  - 午後：
    - （会議センター救護所）愛知医大
    - （IMC 救護所）済生会千里
    - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、東北大学、京都第一日赤、済生会滋賀
  - 夜：
    - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、新潟市民、平鹿総合、兵庫医大

・ 活動概要
  - 7:05　ブリーフィング開始
  - 8:00　３チーム、配偶者プログラム対応のため、藤沢市民病院へ出発
  - 8:15　会議センター・メディアセンター救護所での活動開始
  - 11:00　けいゆう病院での NBC 対応計画確認
  - 11:40　会議センター救護所午前の活動終了
  - 12:10　会議センター救護所午後の活動開始
  - 13:10　メディアセンター救護所午前の活動終了
  - 13:30　メディアセンター救護所午後の活動開始
  - 14:25　配偶者プログラム対応チーム、藤沢市民病院での待機解除
  - 18:00　救護所活動終了
  - 18:45　夜間の体制へ移行

羽田正面

・ 活動チーム
  - 午前：山形県中
  - 午後：相澤
  - 夜：活動休止

・ 活動概要
  - 3:10　活動開始
  - 4:28　山形県中、V ゲート待機完了
  - 5:11　山形県中、V ゲート待機解除
  - 9:00　山形県中、災害医療センター、近森病院、大津日赤、相澤病院の各チーム代表者ミーティング
  - 9:10　全チーム各自待機
  - 12:14　相澤、V ゲート待機完了
  - 13:10　相澤、V ゲート待機解除

- 16:36　相澤、V ゲート待機完了
- 17:55　相澤、V ゲート待機解除
- 18:30　全体ミーティング

成田正面

・ 活動なし（成田対応５チームは横浜にて活動）

２．本日（11/14）の予定

・ 活動予定
- 本部：各方面での活動終了・撤収についての調整実施、オバマ大統領鎌倉視察に対応するため、藤沢支援チームを派遣
- 横浜：２ヶ所の救護所活動（午前：2 チーム、午後：2 チーム）。配偶者プログラム（三溪園）対応のため、みなと日赤に 3 チーム待機
- 羽田：フライトに合わせて対応
- 成田：2 チーム午前中に横浜から成田空港に移動。配偶者プログラム対応の 3 チームは、対応終了後、成田に移動。フライトに合わせて対応

・ チームの配置
- 本部：災害医療、藤沢市民、武蔵野日赤、秦野日赤
- 横浜：医科歯科、前橋日赤、平鹿総合、兵庫医大、新潟市民、愛知医大、京都第一日赤、済生会千里
- 羽田：山形県中、災害医療、近森、大津日赤、相澤
- 成田：東北大学、愛知医大、京都第一日赤、済生会千里、済生会滋賀

DMAT 活動報告（11 月 14 日（日）活動分）

１．活動報告

本部活動

・ 活動チーム
- 日中：災害医療、藤沢市民、武蔵野日赤

・ 活動概要
- 8:00　日中シフト活動開始
- 8:00　配偶者プログラム（三溪園）に DMAT３チーム派遣
- 10:40　今後の予定及び撤収方針について調整
- 12:20　オバマ大統領鎌倉訪問に伴う藤沢市民病院への本部要員派遣
- 13:30　公式行事終了
- 13:45　各国首脳の出国対応開始

横浜正面

・ 活動チーム
- 午前：

- ✧ （会議センター救護所）徳島県中
- ✧ （IMC 救護所）兵庫医科大
- ✧ （けいゆう病院）東京医科歯科（統括)、新潟市民、草津総合、愛媛県立
- ✧ （配偶者プログラム対応）愛知医大、済生会千里、京都第一日赤
- ✧ 成田チーム成田へ移動

➢ 午後：

- ✧ （会議センター救護所）愛媛県立
- ✧ （IMC 救護所）平賀総合
- ✧ （けいゆう病院）東京医科歯科（統括)、新潟市民、徳島県中、兵庫医科大学

・ 活動概要

- ➢ 7:30 ブリーフィング開始
- ➢ 7:30 ３チーム、配偶者プログラム対応のため、みなと赤十字病院へ出発
- ➢ 8:00 会議センター・メディアセンター救護所での活動開始
- ➢ 9:53 東北大、済生会滋賀、成田へ出発
- ➢ 11:10 配偶者プログラム対応チーム、みなと赤十字病院での待機解除
- ➢ 11:35 愛知医大、済生会千里、京都第一赤十字、成田へ出発
- ➢ 12:00 会議センター救護所午前の活動終了
- ➢ 12:20 阿南、澤畑、オバマ大統領鎌倉視察対応のため藤沢市民病院へ出発
- ➢ 12:30 会議センター救護所午後の活動開始
- ➢ 13:00 メディアセンター救護所午前の活動終了
- ➢ 13:10 メディアセンター救護所午後の活動開始
- ➢ 15:20 オバマ大統領鎌倉視察対応解除
- ➢ 16:00 会議センター救護所活動終了
- ➢ 18:00 メディアセンター救護所活動終了
- ➢ 19:01 横浜解除、撤収

<u>羽田正面</u>

・ 活動チーム

- ➢ 午前：全チーム待機
- ➢ 午後：近森、大津（Ｖスポット）災害、山形（本部）
- ➢ 夜：災害、山形（Ｖスポット）相澤、災害（本部）

・ 活動概要

- ➢ 9:00 本部活動開始。ミーティング。
- ➢ 12:00 集合、全体写真撮影
- ➢ 12:35 近森、大津Ｖゲートに待機
- ➢ 首脳スケジュールに合わせ活動
- ➢ 16:17 近森、大津へ撤収
- ➢ 17:05 災害＋上条、山形Ｖゲートに待機
- ➢ 首脳スケジュールに合わせ活動継続
- ➢ 20:25 災害＋上条、山形本部へ撤収
- ➢ 20:30 活動終了、夜は待機

成田正面

・ 活動チーム
  - 成田正面統括（愛知医大）
  - 第一ターミナル班（◎済生会滋賀、京都第一赤十字）
    シンガポール（19：00 DP）対応
  - 第二ターミナル班（◎東北大学病院、済生会千里）
  - 午前：横浜から成田へ移動
  - 14:30　全チーム成田到着
  - 17:00　本部立ち上げ

・ 活動概要
  - 17:20 本部活動開始
  - 首脳スケジュールに合わせ活動
  - 19：34　活動終了

２．本日（11/15）の予定

・ 活動予定
  - 本部：全フライト（９：３０頃）確認後撤収
  - 羽田：９時目途に撤収
  - 成田：フライトに合わせて対応。終了後撤収。

・ チームの配置
  - 本部：災害医療、藤沢市民、武蔵野日赤、秦野日赤
  - 羽田：山形県中、災害医療、近森、大津日赤、相澤
  - 成田：東北大学、愛知医大、京都第一日赤、済生会千里、済生会滋賀

５．時系列活動記録

別紙のとおり

11月11日

	発	受	受信事項
9:00			定時ミーティング（IMC　BM3）
10:00			DMAT本部設営開始
11:45	森野	本部	羽田チーム参集報告
12:02	本部	全チーム	メールにて参集場所確認
12:55	森野	本部	本日羽田はPNG、ベトナム、マレーシアに対応予定 森野先生は13:00～18:30羽田離れる。 その間、井上先生がリーダー 香港、台湾対応なし 本部への報告事項につき要調整
13:21	井上	本部	羽田→本部の報告事項 Vゲート外で待機完了 Vゲートの車両通過は分かるが、複数来たら分からない
14:10	木崎	本部	羽田DMAT本部にMCA（5）設置
14:30			愛知医大DMAT本部到着。機材受け渡し及びブリーフィング
14:50			愛知医大DMAT出発
14:51	風間専門官	本部	PNG首脳到着遅れ。16:30～18:00着の予定
15:00			日赤無線、本部に設置開始
15:10			レイアウト再編
15:55			川崎鈴木医師へ羽田フライト、DMAT情報提供
16:10			新潟市民到着
16:16			前橋日赤到着
16:30	井上	本部	PNG16:16、ベトナム16:19オンタイムの模様 DMAT（相澤・大津）が15:00ホテル発でVゲート外で待機。現在も待機中
16:30	風間	本部（中野）	羽田空港　PNG、ベトナム到着。車列まだ出発（－） 本日はもう1カ国（マレーシア）→18:11羽田到着予定
16:39	木崎		Vゲート前2チーム派遣中
16:40			日赤無線設置完了
16:45	井上	本部	PNG首脳、羽田空港出発。DMAT待機中
	本部	木崎	EMISをDMAT事務局として入力するよう指示
16:51	井上	本部	ベトナム未着。マレーシア着18:11まで待機
17:15	山内	本部	東北大DMAT16:25着　京都第1日赤以外到着済
17:20	小澤	本部	成田隊5チーム参集完了
17:45			成田　インドネシア首脳対応　12日中であれば対応 13日になったら対応せず。
18:18			兵庫医大到着
18:27			草津総合到着
18:30	木崎	本部	羽田から報告　ベトナム17:10　Vゲート発 PNG16:45　Vゲート発、18:28マレーシア到着
18:45			愛媛県中央到着 MCA無線OK　フィリピン19:30到着予定
18:40	木崎	本部	マレーシア18:28　Vゲート出発。 羽田本日活動終了 本日夜は本部（ホテルスイート）に井上医師が泊まり 19:00よりミーティング（食事しながら） 明日8:00活動開始
19:21			徳島県立中央到着
19:26			会議場不審物発見→別クロノロ
19:56	小澤	本部	フィリピン到着を待機中
20:07			本部日赤無線開局
20:15	小澤	本部	フィリピン首脳到着　空港出発　活動終了
20:20			日赤車両の鍵は夜間警備室へ預ける
20:21	近藤	山内	チームのオン・オフは統括の判断で。 飛行機の発着に合わせて活動。また活動要領の確認等
20:23	小澤	本部	千葉北ICをフィリピン通過　活動終了。
20:30			本部活動終了

11月12日

発	受	受信事項
7:00		本部集合
8:00		病院見学ツアー出発
8:42 森野	本部	8:30にVゲート外に待機完了 チリ8:45到着予定
8:55 木崎	本部	8:45チリ首相着確認
9:00		日赤無線各所に配備完了　メリット試験OK
9:07 木崎	本部	9:05チリ首相Vゲート通過
9:21 森野	本部	羽田は各自ホテル待機 本部に森野・木崎・厚労省が待機 部隊は16:30活動再開
10:04 各救護所	本部	扱い患者はなし。→前橋に伝達
10:10 金井課長	本部	11月13日16:50より大桟橋停泊中のロイヤルウイングで結婚式あり。 風船（直径30cm）120個、祝笛を予定 →けいゆう　4F、メディアセンター、会議場に情報提供
10:28 本部	成田（山内先生）	上記結婚式情報提供
10:45 群馬日赤	本部	病院ツアー終了
10:47 本部	横浜市	DMAT出動時の地図情報提供医依頼 →承諾
11:06 本部	群馬日赤	午後の救護班準備指示　12時発予定
11:15 本部	井上	羽田の本日の到着時刻変更を連絡
11:30 本部	厚労省	同伴者プログラム 13日AM　藤沢市民HP　3チーム派遣 14日AM　みなと日赤　3チーム派遣
11:35 本部	山内	上記伝達
	みなと日赤	上記伝達
11:35 県	本部	横浜労連デモ情報　12:15～12:35　市庁舎～県庁舎
11:50		救護所チーム交代開始
11:58		メディアセンター　会議センター　扱い患者なし
11:59		メディアセンター　会議センター　救護所は8:00～18:00
12:23		フィリピン大統領会場到着
12:25 前橋	本部	米国事務官が会議場救護所受信依頼
12:40		横浜消防と無線MCA通信テストOK
13:17 福原	本部	AWC　反グローバリズム団体（5名）　22:45羽田到着予定
13:45 本部	前橋	現場救護所からの連絡は4F統括を通すこと。 本部・現場間の無線はメリット確認に限ること。 ただし緊急時は別 以上を確認。 救護所でのカルテは横浜市へ DMATは集計・報告等、一切不要
15:00 成田	本部	ペルー　15:15到着予定 15:00　準備の為、DMAT2隊エプロンへ
15:18 成田	本部	15:15に2隊（京都」・千里）が1タミ　エプロン40に待機完了
15:32 羽田	本部	ブルネイ到着　23:30→16:30に変更 災害・近森が待機
15:50 成田	本部	15:50　ペルー空港出発。富里IC通過後待機完了。
16:04 成田	本部	16:03　待機解除。本日の成田での活動終了。移動準備。 MCAハンディ08をと日赤京都6を開局のまま移動予定

16:20	本部	前橋	成田の活動終了を連絡。 成田チームの移動他、細かい調整は前橋が実施
16:40	羽田	本部	ブルネイ（16:30着予定）がまだ未着 到着予定時刻の情報収集中
16:46	羽田	本部	ブルネイ16:43到着
16:52	成田	本部	成田5チーム成田を撤収・出発
16:58	羽田	本部	ブルネイ16:58　Vゲート通過
17:00	阿南	本部	けいゆう1Fにその日の当番のDMATのDr.カー4台を駐車することとする。
17:33	本部	みなと日赤（伊藤Dr.	婦人プログラム配備チームの件、連絡 愛知医大・千里・京都第一
18:00	本部	中村	BM3、IMC救護所へ宿泊可能
18:08	羽田	本部	中国17:50到着
18:34	羽田	本部	18:31　中国Vゲート通過
18:20			オーバーパス5枚　救護所から本部に返却
18:45	前橋	本部	18:02会議センター　18:19メディアセンター　それぞれ救護所活動完了
19:00	愛知医大	本部	19:00うみほたる出発
19:08	横浜市	本部	明日13日から各救護所に横浜市・厚労省の配置なし。 カルテは救護所の簿冊にとじる。 明日13日は、午前救護所担当と統括（前橋）は7:30集合 残り3チームは8:00集合（4F）
19:15	前橋	本部	愛媛・徳島・草津の3チームが明日、藤沢市民病院
19:22	羽田	本部	19:05　日本到着
19:30	羽田	本部	19:30　総理羽田空港着
19:30	成田	本部	成田組5チームは前橋日赤の指示により、本日ホテル直行
19:35	前橋	本部	18:40に日中の体制→夜間の体制に移行
19:38	横浜市	本部	18:38　オバマ羽田着
19:40			明日13日は7:00に4F集合（横浜部隊）
19:45	山内	本部	成田5チーム　ワシントンH　着
19:48	中村	本部	11月12日夜間。13日出動体制提出
19:48	木崎	本部」」	米国　羽田到着
20:05	羽田	本部	米国　20:02Vゲート通過
20:23	羽田	本部	ロシア　Vゲート通過
20:25	インタコ	本部	米国　オバマ　ホテル到着
20:45	羽田	本部	オーストラリア羽田着
20:45	インタコ	本部	ロシア　ホテル到着
20:51	羽田	本部	オーストラリアVゲート通過
21:12	羽田	本部	メキシコ　20:45着、21:11　Vゲート通過
21:23	羽田	本部	インドネシア 21:05 到着（国際線ターミナル）
21:45	羽田	本部	インドネシア 21:45 Vゲート通過
21:50	鈴木(川崎)	本部	フライト状況の問い合わせ → 情報提供 →　明日フライト終了時に情報提供（大森HPへも）
22:07			草津総合HPメディアC・BM3へ移動開始
22:37	羽田	本部	22:15　カナダ・シンガポール到着 22:25　シンガポール北ゲート通過 22:35　カナダVゲート通過
22:43	草津	本部	メディアC・BM3へ到着報告
23:05	インタコ	本部	カナダホテル到着
23:27	羽田	本部	羽田チーム活動終了
23:30			本日の活動終了

11月13日

	発	受	内容
3:20	—	—	本部活動開始
3:40	本部	羽田	タイ到着時間を確認 → 羽田では 4:50 着
4:29	羽田	本部	4:28 山形チームVスポット配置
4:58	羽田	本部	タイ到着
5:13	羽田	本部	5:11 タイVゲート通過。山形チーム撤収。
5:36	ロジ本部	本部	タイ ホテル到着
7:00	—	—	日中対応に移行（本部）
7:00	本部	横浜T	ブリーフィング実施
7:50	前橋	本部	横浜日勤体制に移行
8:00	4F	本部	8:00藤沢派遣チーム出発予定
8:30	本部	4F	救護所の治療方針について調整
9:14	4F・草津	本部	藤沢市民病院派遣チーム　現地着
9:30	—	—	玄関前資材（藤沢チーム＋平賀）撤去→前橋Dr.カーへ
9:00	—	—	医療本部全体ミーティング
9:30	本部	前橋	本日の婦人プログラムの詳細伝達
9:55	横浜市	本部	インターコンチ、会議場、エレベーター断続的に規制あり
9:55	本部	前橋	上記情報を伝達
10:01	本部	横浜消防	MCA無線メリットチェック済
10:15	—	—	医政局長、医療本部視察
10:36	横浜市	本部	婦人プログラム一行　大仏前到着
	本部	前橋	上記情報を伝達
10:50	前橋	本部	本日の横浜正面の出場体制連絡
10:55	大津	本部	本日の統括は災害　1310韓国は相澤対応 他3チームは1800まで休息 1800全体ミーティング
	本部	大津	本日の体制をメールで送るように指示
11:00	前橋	本部	1100より除染の同線確認（成田からのチーム）実施
11:13	滋賀	本部	13日1900PNGは14日1900が正しい。 厚労省村井さんが空港事務所から得た
11:20	厚労省	本部	ロジ本部に確認14日1900が正しい
11:22	本部	滋賀	上記情報を伝達
11:40	厚労省	本部	14日最終便をもって本部・けいゆう病院の当直体制解除
11:43	本部	神奈川・横浜	上記体制を神奈川・横浜に連絡
	本部	4F	上記情報を伝達
12:37	本部	前橋	12:35全首相がウェルカムランチのためインターコンチ入り
12:55	羽田	本部	12:54韓国着
13:10	羽田	本部	13:09韓国Vゲート通過
13:17	羽田	本部	インドネシア　本日17:30に変更か？
	厚労省	本部	上記情報確認・確定
	本部	羽田・東北	上記情報伝達
	本部	愛知医大	撤収機材　MCA郵送　PD放医研へ届ける
13:30	厚労省	本部	韓国首脳横浜着
13:40			首脳ランチ終了
13:50	横浜	本部	建長寺出発→横浜にもどる
13:55	本部	前橋	1400　藤沢市民待機解除
14:05	横浜	本部	13日シフト表・夜間体制伝達
14:15	厚労省	本部	インドネシア　大統領→副大統領へ交代する 副大統領も首脳対応 副大統領　14日9:00成田着予定　帰路は未定
14:25	4F	本部	藤沢市民病院派遣チーム　現地撤収
14:30	厚労省	本部	14日9:00に2チーム派遣指示
	本部	厚労省	2チーム分の宿泊確保依頼
14:40	横浜市	本部	婦人プログラム着
14:50	横浜市	本部	反中デモ　反町公園付近1900人程集結
15:30	4F	本部	藤沢市民病院支援チーム 愛媛・徳島→4F 草津→ホテル 1525到着
15:45	4F	本部	本日夜の駐車車両変更あり チリ人のPtについてはBP平常につき帰宅
15:50	中村	本部	明朝の集合時間

		救護所担当　0730
		けいゆう待機　0800
		本部　0800
16:10 横浜市	本部	リトリート会合終了
16:15 4F	本部	徳島・愛媛　ホテルに帰す
16:30 4F	本部	13日昼夜シフト表・駐車車両再変更
17:10 羽田	本部	インドネシア大統領Vゲート進入
17:55 羽田	本部	インドネシア大統領航空機離陸
18:15 4F	本部	メディアセンター救護所担当千里DMAT　4Fに帰着
18:25 4F	本部	会議場救護所担当愛知医大DMAT　4Fに帰着
		ミーティングを開始
18:40 救急医療情報	本部	ペルー大統領入院したい？
18:55 救急医療情報	本部	外務省リエゾンに確認→不要
		様子みる（堀先生）
18:37 4F	本部	日勤シフト終了、夜勤シフト開始
19:30 横浜消防	本部	京一日赤、愛知医大DMAT検問で足止め
19:32 横浜消防	本部	京一日赤、愛知医大DMAT検問通過OK
19:40 横浜消防	本部	済生会千里病院検問で足止め
20:10 本部	県警本部	検問所におけるDMAT車両の扱いについて照会
20:18 県	本部	仙谷官房長官、11/14 AM7:55みなとみらいヘリポート着
		→陸自ヘリ 2機　10:10発
21:05 本部	県警本部	FAXにて車両番号等を連絡→県警本部→各検問所へ　でどうか？
21:25 本部	県警本部	県警本部と行った調整は以下のとおり。
		検問で止められたときは・・・
		・APEC　IDの提示
		・車両登録証の提示（交付されている車両のみ）
		・県警本部に届出をしている旨の説明
		・「DMAT活動」の説明
		以上をもって説明を行うこと！
		なお、緊急走行を行う場合は、
		神奈川県警APEC警備本部（直通045-212-2923）にTELして
		車両番号、目的、出発地および目的地を事前に連絡のこと
22:05 ★緊急事案		マレーシア駐日大使、腹痛によりけいゆう病院に搬送とのこと
		帝京チーム3名が診療にあたる
23:35 〃		同上、胃腸炎（ノロでは無い）の診断、搬送なし、処方のみの対応

11月14日

発		受	内容
8:00			日勤帯へ
7:00	本部	前橋	本日の予定（首脳会議・配偶者プログラム）
			救護所でのカルテ等の扱いについて共有、チームへの周知依頼
7:30			近藤Dr.が救護所担当チームを現地へ案内
8:40	京都		横浜市立みなと3チーム着
8:43	4F	本部	8:43　千里・愛媛・京都　みなと着
			8:20　徳島　会議場着
			8:03　兵庫　IMC着
8:50	本部	災害	フライトプランの最新を連絡
			羽田は9:00よりミーティング
			1600ぐらいまで山形がどうか？
			それ以降、災害がどうか？
8:52	本部	東北	フライトプランの最新を連絡
			東北・滋賀は1000にホテル出発予定
9:00			本部ミーティング開始
9:05	山形	本部	8時時点での風間さんからのフライト情報あり
			本部が情報を照合し連絡する
9:17	厚労省	本部	9:17　同伴者プログラム三渓園到着
9:25	羽田	本部	1200よりVゲート待機予定
9:53	4F	本部	東北・滋賀がホテル出発
10:10	横浜市	本部	リトリート会合開始
10:40			撤収方針・今後の予定
			本部　本日　フライト集合まで　当直なし
			15日　1200まで
			横浜　本日　前首脳出発まで　夜フリー
			15日　救護所活動（本部直営）～1200
			6チーム　900ﾒﾄﾞ、2チーム1200ﾒﾄﾞ
			羽田　フライト終了まで、夜は待機
			15日　900ﾒﾄﾞで撤収
			成田　本日　フライト終了まで、夜フリー
			15日　フライト終了まで、以降解除
10:51	厚労省	本部	同伴者プログラム三渓園視察終了出発
11:09	厚労省	本部	同伴者プログラム　パシィフィコ到着
11:10	本部	4F	上記情報伝達
11:10	4F	本部	15日の救護所担当は医科歯科+1チームで調整中
11:35	愛知医大	本部	みなと赤十字から成田へ移動開始
11:51	本部	各位	今後の予定を各拠点へ周知
11:52			藤沢派遣チームは本部直轄とする
12:20			阿南・澤畑藤沢市民病院へ出発
12:25			首脳宣言開始
12:30			首脳宣言終了
13:02			東北大チーム成田着。ホテル待機
13:06			兵庫チーム4階帰り。
13:07			ランチ終了
13:20			阿南・澤畑藤沢市民病院着
13:27	本部	阿南	オバマ？出発を報告
13:30			公式行事終了（中締め）
13:54	羽田	本部	11:51メキシコ出国
13:58	ロジ室	本部	ブルネイ、ホテル出発
14:00	横浜	本部	明日の救護所（IMC・会議ｾﾝﾀｰ）は不要
14:02	本部	4F	上記情報提供
14:05	本部	4F・羽・成	明日の予定変更、各方面へ情報提供
14:12	大津	本部	ロシア出国
14:18	大津	本部	中国胡錦濤羽田空港着
14:24	大津	本部	ベトナム、ホテル出発
14:30	ロジ室	本部	14:27オバマ鎌倉を出発　→　池子経由で横浜
14:40	大津	本部	オバマ、池子発
14:46	大津	本部	中国出国
14:50	大津	本部	オバマ、ヘリ横浜着（目視）
14:50	大津	本部	ブルネイ出国
15:00	大津	本部	韓国出国

15:10 大津	本部	マレーシア出国
15:10 本部	羽田	出発便情報提供
15:13 羽田	本部	15:13オバマみなとみらいから羽田へ移動中
15:20 阿南	本部	藤沢チーム病院発。1時間程度で到着予定。
15:43 成田	本部	成田チーム 14:30 成田参集。17時本部立ち上げ予定。
15:47 大津	本部	米国出国
15:48 横浜	本部	会議センター救護所撤収開始
15:50 厚労省	本部	会議センター救護所 16:00 撤収予定
15:50 羽田	本部	出国情報
		14:21 ロシア①
		14:46 中国①
		14:52 ブルネイ
		15:00 韓国
		15:10 マレーシア
		15:17 ロシア②
		15:47 アメリカ①
15:57 羽田	本部	大津・近森撤収 → 山形・災害 17:00 配置予定
16:05 羽田	本部	16:05 アメリカ②出国
16:26 放医	本部	羽田へPD回収、放医研が回収も可能
16:30 本部	羽田	上記、明日再調整
16:55 横浜	本部	1615 ニュージランド ホテル発
		1623 シンガポール ホテル発
17:00 本部	成田	上記情報を伝達
17:20 愛知医大	本部	成田統括開始
17:33 厚労省	本部	1733 オーストラリア・タイ 横浜発
17:45 厚労省	本部	17:45 総理大臣横浜発
		17:50 シンガポール成田着
17:55 厚労省	本部	17:42 ニュージーランド成田JC通過
		17:55 オーストラリア羽田着
18:00 厚労省	本部	第2本部閉鎖 on call 体制へ
18:03 成田	本部	15日成田は8:30活動開始
18:17 厚労省	本部	18:17 オーストラリア出国
18:20 横浜市	本部	PNG・ペルーのみ横浜在
18:25 横浜市	本部	PNGホテル発
18:46 成田	本部	ニュージーランド発
18:56 厚労省	本部	タイ成田着
19:00 厚労省	本部	ペルーホテル発
19:01 本部	4F	横浜4F解除、待機
19:10 成田	本部	19:10 タイ出国。京都赤十字及び滋賀県病院のみ待機
19:11 厚労省	本部	19:11 PNG 出国
19:11 本部	神奈川・横浜	災害拠点病院へ対応解除を提案 → 神奈川・横浜受託
19:35 成田	本部	19:34シンガポール出国。成田チーム活動終了。待機解除。
20:00 厚労省	本部	20:00 ペルー出国
20:11 成田	本部	成田本部撤収
20:15 羽田	本部	20:15 カナダ出国。羽田活動終了。

羽田は、明日8時ミーティング、9時目途に撤収

11月15日

発		受	内容
8:17	厚労省	本部	8:17 フィリピン ホテル発
8:10	山形	本部	羽田活動終了 災害医療を残し解散
8:20	東北	本部	成田活動開始
8:51	厚労省	本部	フィリピン 千葉北IC通過
8:55	成田	本部	愛知医大 京都第1 配備完了
9:00	本部	羽田	災害医療チームに本部に来るよう以来
9:05	羽田	本部	上記依頼を受諾
9:10	横浜市	本部	救護所医療廃棄物は救急医療財団が処理
9:16	厚労省・東北;	本部	フィリピン 成田64ゲート到着
9:29	成田	本部	フィリピン大統領搭乗
9:45	成田	本部	9:40 フィリピン出発
			成田待機解除
9:52	厚労省・東北;	本部	9:51フィリピン離陸
9:52			最終ミーティング
			写真撮影
			日赤無線本部閉局
10:05	成田	本部	1030 成田撤収・解散予定
10:13	成田	本部	成田本部解散・撤収開始
10:17	本部	全国	警戒解除
10:23	本部	活動18チーム	活動完了報告メール送信
			本部活動完了 撤収開始

3)横浜配備 DMAT の活動

東京医科歯科大学大学院　大友　康裕

前橋赤十字病院　中村　光伸

2010APEC　横浜部隊の活動報告

東京医科歯科大学大学院救急災害医学　　大友康裕
前橋赤十字病院　高度救命救急センター　　中村光伸

==========

【11 月 12 日（金)】

＜活動チーム＞

- 午前，午後：東京医科歯科大学（統括)、前橋赤十字病院、平鹿総合病院、草津総合病院
  徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院、新潟市民病院、愛媛県立中央病院
- 夜：東京医科歯科大学（統括)、新潟市民病院、草津総合病院、平鹿総合病院

＜活動概要＞

- 7:00　けいゆう病院４FDMAT 待機場所に集合
- 8:00　横浜市大センター病院・みなと赤十字病院・横浜労災病院・済生会東部病院へのアクセスの確認（現地踏査）
  （新潟市民病院、前橋赤十字病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学）
- 13:30　上記４病院へのアクセスの確認（現地踏査）
  （東京医科歯科大学、草津総合病院、平鹿総合病院、愛媛県立中央病院）
- 14:30　けいゆう病院外への出動要領を実地で確認
- 19:00　成田チーム（東北大学病院，愛知医科大学、京都第一日赤，済生会千里、済生会滋賀）横浜到着

＜救護所対応＞

午前（会議センター：草津総合病院，メディアセンター：愛媛県立中央病院）
午後（会議センター：新潟市民病院，メディアセンター：徳島県立中央病院）

==========

【11 月 13 日（土)】

＜活動チーム＞

- 午前，午後：前橋日赤（統括)、東北大学病院，愛知医科大学、京都第一日赤，済生会千里、済生会滋賀
- 夜：前橋日赤（統括)、新潟市民病院、平鹿総合病院、兵庫医大
  ※配偶者プログラムの終了が遅れた事により 13 日の当直チームの変更
  愛媛県立中央病院，徳島県立中央病院→秋田平鹿総合病院，新潟市民病院

＜活動概要＞

- 7:05　ブリーフィング開始
- 8:00　**配偶者プログラム対応**のため、藤沢市民病院へ出発（草津総合、徳島県立中央、愛媛県立中央）
- 14:25　配偶者プログラム対応チーム、藤沢市民病院での待機解除

＜救護所対応＞

午前（会議センター：東北大学病院，メディアセンター：京都第一日赤）
午後（会議センター：愛知医科大学，メディアセンター：済生会千里）

==========

【11 月 14 日（日)】

＜活動チーム＞

- 午前，午後：東京医科歯科大学（統括)、愛媛県立中央病院、徳島県立中央病院
  新潟市民病院、草津総合病院，兵庫医科大学，平鹿総合病院（午後から）

＜活動概要＞

- 8:00　ブリーフィング開始
- 8:21　**配偶者プログラム対応**のため、みなと赤十字病院へ出発
  （愛知医科大学病院、大阪府済生会千里病院、京都第一赤十字病院）
- 9:53　東北大学病院、済生会滋賀県病院　成田空港に向けて横浜発
- 19:04　横浜部隊撤収

＜救護所対応＞

午前（会議センター：徳島県立中央病院，メディアセンター：兵庫医科大学）

午後（会議センター：愛媛県立中央病院，メディアセンター：秋田平鹿総合病院）

==========

【救護所対応まとめ】

	会議センター	メディアセンター
11 月 12 日	0	2
11 月 13 日	2	3
11 月 14 日	1	2＋α
合計	3	7＋α

けいゆう病院前に並んだ出動待機しているドクターカー

横浜部隊　活動報告

日	時間	発信元	発信先	内容
2010/11/12（日勤）	7:00			集合　8チーム
	7:07			ミーティング開始
	7:30			ミーティング終了
	7:37			草津・愛媛中央救護所へ移動
	8:22			後方搬送病院位置確認出発（新潟、前橋、徳島、兵庫）
	8:33	会議センター（草津）より		草津総合病院配置完了
	10:00			会議センター⇔１３階本部　スカイプ画像通信開始
	10:00			除染設備・導線現場確認
	10:19	本部高桑さんより		13日16:30大桟橋ﾛｲﾔﾙｳｨﾝｸﾞにて風船120個、汽笛が鳴るとのこと 自粛要請したが決行するとのこと
	10:30			後方搬送病院位置確認戻り
	10:50			受入体制ミーティング
	11:03	本部高桑より		会議センター、メディアセンター傷病者なしの報告あり
	11:10	本部近藤先生より		救護所入替チーム12:00出発　近藤先生案内あり
	11:58	本部高桑より		会議センター、メディアセンター傷病者なしの報告あり
	12:00			徳島・新潟市民　救護所へ出発
	12:19	本部吉川より		メディアセンター、セキュリティ情報報告，オスカルパック必要性あれば持ち込み可能，ただしチェックリスト後にチェックするので時間の余裕が
	12:38	会議センター（草津）より		新潟市民HPと引き継ぎ完了の報告あり
	12:40			草津市民病院→けいゆう病院4Fに帰院
	12:55			メディアセンター救護所 徳島県中HPに引き継ぎ　13:30再開予定
	13:07			愛媛県立中央病院→けいゆう病院4Fに帰院
	13:32			後方搬送病院位置確認出発（医歯、草津、愛媛、平鹿）
	13:45			兵庫医科大→けいゆう病院4Fに帰院
	13:48			愛媛県立中央病院 NBC器材搬送（けいゆう1Fへ）
	14:05	本部(唐鎌)より		救護所からの定時報告は携帯で行うよう指示あり
	14:10	前橋より	救護所へ	定時報告を前橋携帯へするよう指示した
	14:30	前橋よりシミュレーション説明		災害発生参集シミュレーション（資料①参照）
	14:37	本部より		傷病者発生、2隊、前橋　草津要請
		熊谷医師より	新潟へ	新潟市民HP救命士に連絡、要請
	14:39	本部より		発災場所、情報（地図）報告あり
	14:39	熊谷医師より	本部へ	出動隊、準備状況報告
	14:40	4Fより		滋賀草津出発
	14:49			前橋日赤、病院隊到着
	14:50	草津より		現状確認、NBC、対応準備中とのこと
	14:52			愛媛県出発準備完了
	15:00	メディアセンター		定時報告傷病者なし
	15:05	シミュレーション終了		シミュレーション終了
	18:19	新潟市民病院		新潟市民病院任務終了、到着報告
	18:26	徳島県立中央病院		徳島県立中央病院任務終了、到着報告
	18:29			班員点呼
				ミーティング開始
	18:40			ミーティング終了、シフト交代
2010/11/12（夜勤）	19:50			東北医大ワシントンホテル到着
	23:00			消灯

横浜部隊　活動報告

日	時間	発信元	発信先	内容
	6:50			職種別申し送り
	6:59			済生会千里・京都第一・愛知医科到着報告
	7:03			済生会滋賀・東北大学到着報告
	7:05			ブリーフィング開始
	7:25			ブリーフィング終了
	7:33			京都第一・東北大学・済生会滋賀・愛知医科車両移動のため万国橋駐車場へ移動
	7:45			徳島到着
	7:48			愛媛中央到着
	7:48			シフト交代を13F本部へ打ち合わせ開始
	7:50			草津・愛媛中央・徳島、藤沢市民病院チームブリーフィング開始
	8:00			草津・愛媛中央・徳島、藤沢市民病院へ出発（配偶者プログラム）（資料②，③参
	8:15			東北大学会議センター到着
	8:16			けいゆう病院に緊急車両配備
	8:22	京都第一		メディアセンター内で手の切創患者対応
	8:28			京都第一・東北大学ロジ救護所へ出発
	9:14	愛媛中央	本部へ	愛媛中央藤沢市民到着
	9:15	前橋関口	平鹿佐藤氏へ	玄関横資器材前橋のドクターカーへ移動了承
	9:15	本部	愛媛中央へ	玄関横資器材前橋のドクターカーへ移動了承
	9:15	草津	草津へ	藤沢市民病院支援チーム3チーム到着報告
	9:30	前橋関口	高桑氏	玄関横資器材前橋のドクターカーへ移動報告
	9:52	草津	本部へ	診療スタンスの問い合わせ
	10:05	前橋中村	草津へ	診療スタンスは指示があるまで待機するよう指示
	10:06	草津	前橋中村へ	MCA環境整わず使用不可能、サブリーダー浜見医師
	10:30			厚生労働省医政局長訪問
	10:40	DMAT本部	本部へ	夫人鎌倉大仏に到着
	10:44	前橋関口	草津へ	極秘情報のため無線は使用しない
	11:00	湯浅センター長	各医師へ	けいゆう病院NBC対応の動き見学
	11:30	湯浅センター長	各医師へ	けいゆう病院NBC対応の動き確認終了
	11:33	会議センター(東北)	本部へ	救護所閉鎖するので引き継ぎ報告待機指示
	11:40	本部	DMAT本部へ	救護所閉鎖確認した
	11:50	DMAT本部	草津へ	建長寺到着
	11:55	DMAT本部		14日夜勤体制変更連絡、チームは当直無し、本部は要人帰国後解散
	12:10	千里		メディアセンター到着
	12:10	愛知	本部へ	東北より愛知へ引き継ぎ開始
	12:25	前橋中村		愛媛・徳島チームへ夜勤変更の体制を伝え了承する（資料④参照）
	12:40	藤沢市民病院支援チーム徳島		変更チーム編成をメールで送信してほしい
	12:49	DMAT本部	本部へ	12:35全首脳インターコンチネンタルホテル到着し、ウエルカムランチ開始
2010/11/13	12:55	東北大学	本部へ	けいゆう病院到着報告
（日勤帯）	13:10	メディアセンター	本部へ	千里と申し送りし撤収
	13:30	メディアセンター(千里)	本部へ	診療所開設
	13:40	会議センター(愛知)	本部へ	患者照会について確認、チリ人42才女性3時間前から頭痛、そのご嘔吐
	13:43	メディアセンター(千里)	本部へ	京都第一けいゆう病院到着報告
	13:54	DMAT本部	本部へ	13:50婦人P建長寺出発、横浜到着不明
	13:55	DMAT本部	本部へ	藤沢市民病院支援チーム3解除命令
	14:25	草津	本部へ	藤沢市民病院支援チーム病院へ撤収報告し現地解散とする
	14:25			ホテル到着時各班ごとに前橋携帯へ報告とする
	14:47	DMAT本部	本部へ	14:40婦人横浜到着
	15:00	本部	徳島へ	けいゆう病院到着予定30分後（15:30）
	15:00		愛媛中央へ	けいゆう病院到着予定30分後（15:30）
	15:15	DMAT本部	本部へ	体制変更の可能性あり、待機指示
	15:20	草津	本部へ	万国橋駐車場に到着報告あり。明日の車両は万国橋駐車場に待機徒歩で病院へ
	15:24	愛媛中央	本部へ	けいゆう病院到着
	15:25	徳島	本部へ	けいゆう病院到着
	15:43	会議センター(愛知)	本部へ	頭痛で対応したチリ人の女性がお礼にきました
	15:43	本部	DMAT本部へ	頭痛で対応したチリ人の女性がお礼にきました
	15:51	DMAT本部	本部へ	14日集合時間救護所担当7:30、そのた担当者8:00
	15:52	本部	草津へ	集合時間の連絡をする
	16:02	DMAT本部	本部へ	待機解除命令、各隊へ報告
	16:07	本部	DMAT本部へ	愛媛、徳島、ホテル待機の報告
	16:50			前橋赤十字病院、高寺到着
	16:57			前橋赤十字病院、関根到着
	17:06	前橋中村	大友先生へ	勤務交代14日集合時間等につき連絡
	17:12	メディアセンター(千里)	本部へ	29才女性韓国籍、頭痛、内服薬で帰る
	17:13		本部へ	前橋赤十字病院、城田到着
	17:22		本部へ	平鹿総合病院着
	17:24		本部へ	済生会滋賀県病院交代要員2名到着
	17:28		本部へ	兵庫医大到着
	17:45		本部へ	新潟市民病院車両なしで到着
	18:00	メディアセンター(千里)	本部へ	撤収報告
	18:15	メディアセンター(千里)	本部へ	けいゆう病院到着
	18:24	会議センター(愛知)	本部へ	けいゆう病院到着
	18:28	前橋・東北・愛知・京一日赤・千里・済生会滋賀・新潟市民・平鹿・兵庫医科		デブリフィング開始
	18:37	前橋・東北・愛知・京一日赤・千里・済生会滋賀・新潟市民・平鹿・兵庫医科		デブリフィング終了
	18:45	前橋・新潟市民・平鹿・兵庫		夜勤ブリーフィング開始
	18:50	前橋・新潟市民・平鹿・兵庫		夜勤ブリーフィング週終了
	18:58	本部中村より	DMAT本部へ	本部の解散・夜勤開始連絡
	20:05	警察川辺氏より	本部へ	救急車を出動させているのか?と問い合わせあり、勝見先生に報告し対処願う。
	20:40	DMAT本部	本部へ	車での移動を自粛するように指示あり
	21:20	新潟市民HP	本部へ	食事休憩より帰還
2010/11/13	21:40	新潟市民HP	本部へ	メディアセンターへ移動
（夜勤帯）	21:50	平鹿総合病院	本部へ	食事休憩より帰還
	22:08	DMAT本部	本部へ	マレーシア大使体調不良にて対応中
	22:10	DMAT本部	本部へ	東北大車両、けいゆう病院に翌朝移動するため現車両の移動要。14日8:00移動予定。
	23:30			消灯

横浜部隊　活動報告

日	時間	発信元	発信先	内容
2010/11/14（日勤帯）	6:00			起床
	7:29	徳島県立中央HP	本部へ	徳島県立中央HP、本部へ参集。
	7:30			救護所チームミーティング開始
	7:31			救護所チームミーティング終了
	7:34	DMAT本部		救護所チーム移動開始
	7:50	東京医科歯科大学	本部へ	東京医科歯科大学、本部へ参集。
	7:51	滋賀草津総合HP	本部へ	滋賀草津総合HP、本部へ参集。(Drのメンバーチェンジあり)
	7:59			前橋赤十字病院、中野Dr到着。
	8:00	愛媛HP	本部へ	愛媛県立中央HP参集。
	8:00	本部	各チーム	ブリーフィング開始。
	8:10	本部	各チーム	ブリーフィング終了。
	8:20	徳島県立中央HP	本部へ	会議センター到着。待機へ
	8:21	愛知大学HP	本部へ	これからみなと赤十字へ向かうとの連絡(配偶者プログラム)
	8:23			東北大学車両撤収、NBC資器材移動。
	8:36	本部	兵庫医科大学HP	メディアセンターに到着の確認→08:03に到着の旨を確認した。
	8:43	愛知大学HP	本部へ	愛知医大、千里救命、みなと赤十字病院へ到着。
	8;54	兵庫医科大学HP	各チーム	会議センター準備完了。
	9:04	徳島県立中央HP	各チーム	徳島県立中央HP定時報告。メディアセンター患者発生無。周辺異常なし。
	9:15	本部	各チーム	チームブリーディング(出動順番、連絡方法確認)
	9:17		本部へ	婦人プログラム、三渓園到着
	9:53	東北HP、滋賀済生会HP	本部へ	東北大、滋賀済生会ホテル発(成田空港へ)
	11:13	愛知大学HP	各チーム	愛知医大、千里救命、京都第一日赤HP三渓園待機解除。成田出発。
	11:25	平鹿総合病院		ホテル待機終了本部到着。
	11:55	兵庫医科大学HP	各チーム	定時報告。患者1名(歯痛)
	12:00	愛媛HP		会議センター救護所へ出発。
	12:00	平鹿総合病院		メディアセンター救護所へ出発。
	12:40	兵庫医科大学HP	本部へ	けいゆう病院へ戻る連絡あり。
	12:40	徳島県立中央HP	各チーム	定時報告。患者1名
	12:43	愛媛HP	本部へ	会議センターにて引き継ぎ
	13:06	兵庫医科大学HP		4階本部到着
	13:10	愛媛HP	各チーム	救護所到着
	13:15			13階より救護所から患者情報につき確認。
	13:30	徳島県立中央HP		会議センターより4階本部に帰任
	13:35	草津総合病院		ホテル待機へ。
	14:32	平鹿総合病院	各チーム	無線にて患者受入連絡あり。
	15:46	本部	4階へ	メディアセンター、会議センターへ18:00撤収の指令あり。
	15:49	本部	各チーム	15:47アメリカ大統領離陸報告あり。
	15:52	本部	4階へ	会議センター撤収するよう指示。
	15:55	4階	会議センター	16:00撤収の指令。
	16:25	会議センター	本部へ	撤収完了報告。
	16:45	愛媛HP		会議センターより帰任。無線、ブルーカード13階本部へ返却。
	18:00	本部	メディアセンター	18:00撤収の指令。
	18:27	平鹿総合病院		メディアセンターより帰任。救急車搬送1名、投薬2名の報告。
	19:04	本部	4階へ	全首相帰国にて4階本部撤収指令。
	19:05			4階本部撤収完了。大友医師、全部隊解散宣言。

横浜部隊 DMAT 活動報告（11 月 12 日（金）活動分）

１．活動報告

・ 活動チーム
  - 午前：東京医科歯科大学（統括）、前橋赤十字病院、平鹿総合病院、草津総合病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院、新潟市民病院、愛媛県立中央病院
  - 午後：午前に同じ
  - 夜：東京医科歯科大学（統括）、新潟市民病院、草津総合病院、平鹿総合病院

・ 活動概要
  - 7:00　けいゆう病院４FDMAT 待機場所に集合
  - 7:00　ブリーフィング実施
  - 8:00　会議センター救護所及び IMC 救護所に各１チーム配置
  - 8:00　横浜市大センター病院・みなと赤十字病院・横浜労災病院・済生会東部病院へのアクセスの確認（現地踏査）（新潟市民病院、前橋赤十字病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院が実施）
  - 12:00　２箇所の救護所のチームが交代
  - 13:30　上記４病院へのアクセスの確認（現地踏査）（東京医科歯科大学、草津総合病院、秋田平鹿総合病院、愛媛県立中央病院が実施）
  - 14:30　けいゆう病院外への出動要領を実地で確認
  - 18:00　救護所待機終了

翌日の予定

・ 鎌倉対応のため、藤沢市民病院へ DMAT3 チーム派遣
・ チームの配置
  - 横浜対応：東京医科歯科大学、前橋赤十字病院、平鹿総合病院、兵庫医科大学病院、新潟市民病院、東北大学病院、愛知医科大学病院、京都第一赤十字病院、大阪府済生会千里病院、済生会滋賀県病院
  - 鎌倉対応：草津総合病院、徳島県立中央病院、愛媛県立中央病院

以上

横浜部隊 DMAT 活動報告（11 月 13 日（土）活動分）

1．活動報告

・ 活動チーム

- 午前：
  - （会議センター救護所）東北大学
  - （IMC 救護所）京都第一日赤
  - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、愛知医大、済生会千里、済生会滋賀
  - （配偶者プログラム対応）草津総合、徳島県立中央、愛媛県立中央
- 午後：
  - （会議センター救護所）愛知医大
  - （IMC 救護所）済生会千里
  - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、東北大学、京都第一日赤、済生会滋賀
- 夜：
  - （けいゆう病院）前橋日赤（統括）、新潟市民、平鹿総合、兵庫医大

・ 活動概要

- 7:05　ブリーフィング開始
- 8:00　３チーム、配偶者プログラム対応のため、藤沢市民病院へ出発
- 8:15　会議センター・メディアセンター救護所での活動開始
- 11:00　けいゆう病院での NBC 対応計画確認
- 11:40　会議センター救護所午前の活動終了
- 12:10　会議センター救護所午後の活動開始
- 13:10　メディアセンター救護所午前の活動終了
- 13:30　メディアセンター救護所午後の活動開始
- 14:25　配偶者プログラム対応チーム、藤沢市民病院での待機解除
- 18:00　救護所活動終了
- 18:45　夜間の体制へ移行

2．翌日（11/14）の予定

・ 活動予定

- 横浜：２ヶ所の救護所活動（午前：2 チーム、午後：2 チーム）。配偶者プログラム（三渓園）対応のため、みなと日赤に 3 チーム待機
- 成田：2 チーム午前中に横浜から成田空港に移動。配偶者プログラム対応の 3 チームは、対応終了後、成田に移動。フライトに合わせて対応

以上

横浜部隊 DMAT 活動報告（11 月 14 日（日）活動分）

1．活動報告

・ 活動チーム

- 午前：
  - （会議センター救護所）徳島県立中央病院
  - （IMC 救護所）兵庫医科大学病院
  - （けいゆう病院）東京医科歯科大学（統括）、愛媛県立中央病院、新潟市民病院、草津総合病院
  - （配偶者プログラム対応）愛知医科大学病院、大阪府済生会千里病院、京都第一赤十字病院
  - （成田空港）東北大学、済生会滋賀県病院
- 午後：
  - （会議センター救護所）愛媛県立中央病院
  - （IMC 救護所）平鹿総合病院
  - （けいゆう病院）東京医科歯科大学（統括）、新潟市民病院、徳島県立中央病院、兵庫医科大学病院
  - （成田空港）東北大学、済生会滋賀県病院、愛知医科大学病院、大阪府済生会千里病院、京都第一赤十字病院

・ 活動概要

日	時間	発信元	発信先	内容
11 月 14 日	8:00	愛媛 HP	本部へ	愛媛県立中央 HP 参集。
	8:00	本部	各チーム	ブリーフィング開始。
	8:10	本部	各チーム	ブリーフィング終了。
	8:20	徳島県立中央 HP	本部へ	会議センター到着。待機へ
	8:21	愛知大学 HP	本部へ	これからみなと赤十字へ向かうとの連絡。
	8:23			東北大学車両撤収、NBC 資器材移動。
	8:36	本部	兵庫医科大学 HP	メディアセンターに到着の確認→08:03 に到着の旨を確認した。
	8:43	愛知大学 HP	本部へ	愛知医大、千里救命、みなと赤十字病院へ到着。
	8;54	愛知大学 HP	各チーム	会議センター準備完了。
	9:04	徳島県立中央 HP	各チーム	徳島県立中央 HP 定時報告。メディアセンター患者発生無。周辺異常なし。
	9:15	本部	各チーム	チームブリーディング（出動順番、連絡方法確認）
	9:17		本部へ	婦人プログラム、三渓園到着
	9:53	東北 HP、滋賀済生会 HP	本部へ	東北大、滋賀済生会ホテル発（成田空港へ）

	10:04	徳島県立中央 HP	各チーム	定時報告。異常なし。
	10:46	兵庫医科大学 HP	各チーム	定時報告。患者 1 名(靴づれ)
	11:02	愛知大学 HP	各チーム	定時報告。異常なし。
	11:03	徳島県立中央 HP	各チーム	定時報告。異常なし。
	11:13	愛知大学 HP	各チーム	愛知医大、千里救命、京都第一日赤 HP 三渓園待機解除。成田出発。
	11:25	平鹿総合病院		ホテル待機終了本部到着。
	11:55	兵庫医科大学 HP	各チーム	定時報告。患者 1 名(歯痛)
	12:00	愛媛 HP		会議センター救護所へ出発。
	12:00	平鹿総合病院		メディアセンター救護所へ出発。
	12:08	徳島県立中央 HP	各チーム	定時報告。異常なし。
	12:40	兵庫医科大学 HP	本部へ	けいゆう病院へ戻る連絡あり。
	12:40	徳島県立中央 HP	各チーム	定時報告。患者 1 名
	12:43	愛媛 HP	本部へ	会議センターにて引き継ぎ
	13:06	兵庫医科大学 HP		4 階本部到着
	13:10	愛媛 HP	各チーム	救護所到着
	13:15			13 階より救護所から患者情報につき確認。
	13:30	徳島県立中央 HP		会議センターより 4 階本部に帰任
	13:35	草津総合病院		ホテル待機へ。
	14:32	平鹿総合病院	各チーム	無線にて患者受入連絡あり。
	15:30	平鹿総合病院	本部へ	無線にて定時報告。メディアセンター異常なし。
	15:32	徳島県立中央 HP	各チーム	定時報告。会議センター異常なし。
	15:46	本部	4 階へ	メディアセンター、会議センターへ 18:00 撤収の指令あり。
	15:49	本部	各チーム	15:47 アメリカ大統領離陸報告あり。
	15:52	本部	4 階へ	会議センター撤収するよう指示。
	15:55	4 階	会議センター	16:00 撤収の指令。
	16:25	会議センター	本部へ	撤収完了報告。
	16:45	愛媛 HP		会議センターより帰任。無線、ブルーカード 13 階本部へ返却。
	18:24	本部	4 階へ	パプアニューギニア・ペルー首脳離陸後に 4F 撤収。
	18:26			平鹿 HP、けいゆう HP 帰着、無線は 13F 本部返却。
	19:04	横浜統括		任務終了、撤収。

以上

資料①

出動訓練概要

【訓練内容】

けいゆう病院から外の病院支援等へ出動する際の出動体制を決定した.

発災を想定して，出動までの時間・移動経路等に問題がないかシミュレーションにより検証した.

【結果】

・出動車両の置き場所(地下駐車場へ行くのに B2Ｆにはエレベーターが停まらない.
→経路を実際徒歩にて確認した)

・横浜本部の位置（４F なのか駐車場なのか？）
→今回は１F に降りたがどうだったか.

大友医師→出動部隊同士，１階で確認すれば良いのではないか.
リーダーと運転手が４階で打ち合わせ．その他の隊員は車両，資機材の準備を進めれば良いのではないか.

阿南医師→１階に緊急車両が駐車出来れば荷物も積んでおける．出動までの時間短縮に繋がるのではないか．そのようにできれば４階でミーティングが出来るのではないか.
夜間・休日の駐車については交渉中.

・現場での動きは消防本部にいき到着報告する.

・４階　　→　ドクターカーまで４分３０秒くらいかかっている・
短縮できるとすれば４分位になるか?
→1 階に駐車出来れば解決する.
救急側のエレベーターを使用する.
→診療中に専用は困難．休日，夜間に関しては交渉中.

・万国橋駐車場からは規制区域内と一般道から入った．到着までに３０秒ほどの差があった．

→湯浅先生からの交渉をして頂き，けいゆう病院に緊急車両の駐車が認められた．
（駐車する車両に関しては，勤務帯毎に提出する）
カンファレンスは４Ｆで行い，その後出動する体制となると思われる．
→時間がかなり短縮出来るメリットあり．
資機材は緊急車両に積める．

資料②

１１月１３日　藤沢市民病院　病院支援　報告

＜応援チーム＞

草津総合病院，愛媛県立中央病院，徳島県立中央病院

＜日程＞

7：45：徳島県立中央病院　けいゆう病院着

7：48：愛媛県立中央病院　けいゆう病院着

草津総合病院は夜勤明け，３チームでブリーフィングを行い

8：00：けいゆう病院発

9：15：藤沢市民病院　着，待機開始

14：00：待機完了

14：25：藤沢市民病院　発

15：20：草津総合病院　ばんこく橋駐車場着→そのままホテル待機へ

15：24：愛媛県立中央病院　けいゆう病院着

15：25：徳島県立中央病院　けいゆう病院着

＜到着報告＞

特に問題なし，藤沢市民病院の対応はすばらしかった.

藤沢市民病院　派遣チーム組織図

リーダー	川瀬（草津）
サブリーダー	濱見（愛中）
ロジリーダー	鈴木（草津）
Nsリーダー	武田（愛中）

本部	草津総合病院
病院支援	愛媛県中
	徳島県中

草津総合（1，2，1）	愛媛県中（2，2，1）	徳島県中（2，2，1）
松田Ns	森実Dr	三村Dr
奥野Ns	山下Ns	江西Dr
	是永Logi	森吉Ns
		磯崎Ns
		吉岡Logi

藤沢市民DMAT対応窓口　西ノ宮さん（総務課）
発災時には救急、野崎Drが指揮
本日午前中は救急センターにDr6名

【コンタクトリスト】

PHS	6184	野崎Dr（発災時リーダー）
	6816	西宮さん（DMAT対応窓口）
	6003	仲野Dr（救急センター長）
	6545	角田Ns（看護師長）
	8011298251	草津総合
	8013776850	愛媛県中
	8011298266	徳島県中

藤沢市民病院派遣チーム活動記録　H22.11.13　　記録者：草津総合病院　鈴木

7:00	全体ミーティング	
7:45	藤沢市民病院派遣チームブリーフィング	3チーム：草津総合病院、愛媛県立中央病院、徳島県立中央病院
8:10	けいゆう病院出発	
9:14	藤沢市民病院到着	けいゆう病院本部へMCA無線にて到着報告
		けいゆう病院本部（前橋日赤）へ携帯電話にて到着報告
9:27	全体ブリーフィング	藤沢市民派遣DMAT待機室へ（2F会議室）、藤沢市民（西ノ宮さん）より病院説明、夫人鎌倉散策日程確認
9:40	職種別チームビルディング	本部長：川瀬（草総）副本部長：濱見（愛中）　看護師リーダー：武田（愛中）　調整員リーダー：鈴木（草総）
9:55	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤中村）	待機時間延長指示
10:04	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤太田）	病院支援体制確認
10:12	藤沢市民病院視察	病院案内、NBC対応時エリア確認
10:40	視察終了	
10:45	最終ミーティング	待機シフト確認、チーム自己紹介
10:41	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤太田）	内容秘
11:52	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤太田）	夫人鎌倉日程予定通り、藤沢市民待機解除予定13：40
12:30	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤太田）	今後のシフト変更について：夜勤体制の変更について
13:12	けいゆう病院本部へ連絡（前橋日赤）	通信手段（メール）追加のため
13:30	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤太田）	待機解除予定時間（16：30）
		シフト表送信済
13:57	けいゆう病院本部より連絡（前橋日赤）	撤収時間決定（14：00）
14:00	ブリーフィング	
14:25	藤沢市民病院撤収、出発	けいゆう病院本部（前橋日赤）へ携帯電話にて撤収報告
15:26	万国橋到着	けいゆう病院本部（前橋日赤）へ報告

APEC・DMAT　シフト表　変更後

Ｈ２２．１１．１３現在

	13日						14日						15日			
	午前		午後		夜		午前		午後		夜		午前		午後	
施設名	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番
東京医科歯科大学 医学部附属病院	横浜		横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜		横浜		帰路	
新潟市民病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜		帰路	
社会医療法人誠光会 草津総合病院	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	横浜		横浜		横浜	○	帰路	
JA秋田厚生連 平鹿総合病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜		横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	
前橋赤十字病院	横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜		横浜		横浜	○	帰路	
愛媛県立中央病院	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	
徳島県立中央病院	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	
兵庫医科大学病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	

APEC・DMAT　シフト表　変更前

Ｈ２２．１１．１３現在

	13日						14日						15日			
	午前		午後		夜		午前		午後		夜		午前		午後	
施設名	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番	配置	当番
東京医科歯科大学 医学部附属病院	横浜		横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		帰路	
新潟市民病院	横浜		横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		帰路	
社会医療法人誠光会 草津総合病院	横浜		横浜		横浜		横浜	○	横浜		横浜	○	横浜	○	帰路	
JA秋田厚生連 平鹿総合病院	横浜		横浜		横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	帰路	
前橋赤十字病院	横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜		横浜		横浜	○	帰路	
愛媛県立中央病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	
徳島県立中央病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	
兵庫医科大学病院	横浜		横浜		横浜	○	横浜	○	横浜	○	横浜		横浜	○	帰路	

配置時間

会議センター　午前　８：００～１２：３０　午後　１２：００～１８：００

国際メディアセンター　午前　８：００～１３：３０　午後　１３：００～１８：００

けいゆう病院　会議センター　国際メディアセンター

藤沢市民病院支援

11月12日救護所活動状況

救護場所	メディアセンター		会議センター	
時刻	活動チーム	報告内容	活動チーム	報告内容
9:00	愛媛県立中央	傷病者0名	草津	傷病者0名
10:00	愛媛県立中央	傷病者0名	草津	傷病者0名
11:00	愛媛県立中央	傷病者0名	草津	傷病者0名
12:00	愛媛県立中央	傷病者1名　鎮痛剤処方	草津	傷病者0名
12:00	徳島県立中央	引継後13:30より救護所再開	徳島県立中央	引継後13:30より救護所再開
13:30	徳島県立中央	傷病者0名	新潟市民	傷病者0名
14:00	徳島県立中央	傷病者1名　鎮痛剤処方	新潟市民	傷病者0名
15:00	徳島県立中央	傷病者0名	新潟市民	傷病者0名
16:00	徳島県立中央	傷病者0名	新潟市民	傷病者0名
17:00	徳島県立中央	傷病者0名	新潟市民	傷病者0名
18:00	徳島県立中央	傷病者0名	新潟市民	傷病者0名
12日計		2名		0名

11月13日救護所活動状況

救護場所	メディアセンター		会議センター	
時刻	活動チーム	報告内容	活動チーム	報告内容
9:00	京都第一赤十字	特記なし	東北大学	特記なし
10:00	京都第一赤十字	特記なし	東北大学	特記なし
11:00	京都第一赤十字	特記なし	東北大学	特記なし
12:00	京都第一赤十字	特記なし	東北大学	11:30-12:30 close
12:30	京都第一赤十字	11:30-12:30 close	愛知	特記なし
13:00	京都第一赤十字	特記なし	愛知	特記なし
13:30	済生会千里	特記なし	愛知	特記なし
14:00	済生会千里	1名（37歳女性発熱→市販薬処方）	愛知	1名(チリ人・高血圧・頭痛・嘔吐→市販薬処方)
15:00	済生会千里	特記なし	愛知	特記なし
16:00	済生会千里	1名(ブルネイ人捻挫→湿布・内服)	愛知	1名(14:00受診のチリ人再測・問題無)
17:00	済生会千里	特記なし	愛知	特記なし
18:00	済生会千里	1名(韓国人男1人頭痛→内服)	愛知	特記なし
13日計		3名		2名

11月14日救護所活動状況

救護場所	メディアセンター		会議センター	
時刻	活動チーム	報告内容	活動チーム	報告内容
9:00	兵庫医科大学	特記なし	徳島県立中央	特記なし
10:00	兵庫医科大学	1名（靴ズレ）	徳島県立中央	特記なし
11:00	兵庫医科大学	特記なし	徳島県立中央	特記なし
12:00	兵庫医科大学	1名（歯痛）	徳島県立中央	1名
13:00	兵庫医科大学	特記なし	徳島県立中央	特記なし
13:30	平鹿総合	特記なし	愛媛県立中央	特記なし
14:00	平鹿総合	受け入れ連絡あり	愛媛県立中央	特記なし
15:00	平鹿総合	特記なし	愛媛県立中央	特記なし
16:00	平鹿総合	特記なし（撤収）	愛媛県立中央	特記なし
17:00			愛媛県立中央	特記なし
18:00			愛媛県立中央	特記無し（撤収）
14日計		2名＋α		1名

4)羽田配備 DMAT の活動

山形県立中央病院　森野　一真

国立病院機構災害医療センター　井上　潤一

APEC 医療チーム（DMAT 羽田空港活動拠点本部）活動報告

【総括】

羽田空港へ参集した DMAT は国立病院機構災害医療センター、山形県立中央病院、大津赤十字病院、近森病院、相澤病院の 5 隊に加え、NBC 対応班が協働した。羽田空港における DMAT 活動は初めてであり、外務省、厚生労働省、羽田空港、東京消防庁を交えての事前調整を必要としたが、患者発生時の初動と患者搬送に関する具体的な調整の再検討が必要であると思われた。

実働の活動期間は 2010（平成 22 年）11 月 11 日から 11 月 14 日までの 4 日間であった。活動の骨子は羽田空港管理区域への入り口（ゲート）にて待機し、指示に応じて空港管理区域に CAB の誘導のもと進入し、医療活動を行うというものであった。活動に関す管理項目は以下のごとくである。

とくに前回の洞爺湖サミットにおける新千歳空港の医療対応でも指摘された点であるが、VIP 対応に熟知した救急医療専門家が事前の計画段階から参加し適切な対応プランを策定することが極めて重要である 。

1. 活動要請：待機から空港管理区域内での活動の切り替えは APEC 医療班本部から厚生労働省伊政局指導課救急・周産期医療等対策室災害医療対策専門官　風間和則氏への要請による
2. 指揮系統：DMAT 羽田空港活動拠点本部長は山形県立救命救急センター（山形県立中央病院）森野または国立病院機構災害医療センター井上。DMAT 羽田検疫所（以下、CIQ）指揮所は DMAT 羽田空港活動拠点本部からの指示により活動する。CIQ 指揮所の本部長は各隊のリーダー（責任者）とする。
3. 安全：活動には安全の確認と確保を怠らず、PPE 装着状態の確認を必ず行う。
4. 情報：指示情報等は DMAT 羽田空港活動拠点本部から提示する。
   情報伝達手段は携帯電話（メールを含む）を主とする。
   無線は日赤赤十字社の無線を使用予定。
   衛星携帯を併用する。
   伝達する情報の雛形は「METHANE」または「せいしゅはのりか」を用いる。
5. 報告：各隊の情報は EMIS に入力する。
   取得した情報は適宜 DMAT 羽田空港活動拠点本部に送る。
6. 要請：応援要請を常に考慮すること。
7. 場所情報：各隊の車両の駐車場は P4 を使用。
   DMAT 羽田空港活動拠点本部はエクセル東急（0357566000）7136 号室
   DMAT 羽田空港検疫所（CIQ）指揮所（0368479311）
   活動待機場所：V gate 脇駐車場
   搬送先病院：東邦大学大森病院など

【日別活動記録】

平成 22 年 11 月 11 日（木）
本部長　井上潤一

1.会議次第（12 時～）
・場所：羽田エクセルホテル東急（7136 号室）
・参加者：厚生労働省指導課　風間専門官
　　災害医療センター　井上、木崎
　　山形県立中央病院　森野、萬年
　　大津赤十字病院　　松原、辻
　　近森病院　　井原、宗石
　　相澤病院　　上條、内山

(1)本日の予定および連絡内容等
1)予定
　本部立ち上げ
　ミーティング（顔合わせ等）
　相澤病院、大津赤十字病院による V ゲート対応
　国際線検疫所の下見
2)前日の傷病者情報
　救護案件　なし
　その他異常なし
3)次回会議
　羽田調整会議は 11 月 11 日羽田エクセルホテル東急にて（19：00～）開催

2.本日の活動
12:00　本部ミーティング
13:00　本部ミーティング終了
14:30　本部立ち上げ完了
15:00　相澤病院、大津赤十字病院による V ゲートへ出発
15:25　相澤病院、大津赤十字病院による V ゲート到着
16:23　検疫所より、パプアニューギニア（16:16)、ベトナム（16:19）定刻通りに到着との連絡あり
16:45　パプアニューギニア車列が羽田出発を確認
16:52　ベトナム予定より（15 分ほど）遅れると連絡あり

16:56　ベトナム航空機着陸を本部より目視で確認
17:10　ベトナム車列が羽田出発を確認
17:42　マレーシア到着（18:07）との連絡あり
18:28　マレーシア到着
18:38　マレーシア車列が羽田出発を確認
19:09　相澤病院、大津赤十字病院による羽田本部報告※
19:16　羽田本部活動終了
19:30　羽田調整会議
深夜　　井上医師、羽田本部に宿泊

3.申し送り
本部の活動記録のログ（時間経過記録）を記録する
DMAT の活動を EMIS に入力する（羽田本部にて代行入力）
入力状況を確認
羽田本部 gmail: hanedaapec@gmail.com パスワード: hanedasaigai
各国飛行機の到着については横浜本部へ連絡（ロジより携帯で報告）が必要
上記、横浜本部連絡は 080-1053-5329（横浜本部 DMAT ロジ 2）へ
日赤の 150W 無線は羽田 DMAT 本部では使用できたかった。（発信はできるが受信できず。）屋内使用のためか？屋外は警備上問題ありのため設置困難。
フライトの時間の変更が多いため注意が必要

※（V スポットからの報告）
・トイレ使用可能
・連絡は電話のみ、無線は感度不良のため
・車両から出ての待機も可能であるがあまりうろつかないよう指示を受けた。

4.明日の予定
8 時に本部集合　各チーム、本部長 1 名ロジ 1 名　計 2 名その他は自室待機
ミーティング後、各部署へ配置とする。

平成 22 年 11 月 12 日（金）

本部長　森野一真

1.会議次第（8 時～）

場所：羽田エクセルホテル東急（7136 号室）

参加者：厚生労働省指導課　吉田

災害医療センター　井上、木崎

山形県立中央病院　森野、萬年

大津赤十字病院　松原、辻

近森病院　井原、宗石

相澤病院　上條、内山

NBC 対応班　浅利、池内

本日の予定および連絡内容等

2.予定

フライトに合わせた V スポットおよび CIQ 対応

3.傷病者情報

救護案件　なし

その他異常なし

4.本日の活動

7:30　本部待機開始

8:00　ミーティング開始、本日の予定確認

8:10　山形＋井上、相澤病院 V スポットへ移動開始

8:28　山形＋井上 V スポット着

8:32　東京消防庁 V スポット着

8:32　相澤病院 V スポット着

8:43　チリ機到着（目視）

9:05　チリ V ゲート通過

山形＋井上、相澤病院 V ゲート撤収

9:08　山形＋井上、相澤病院活動終了ホテル着

9:10　横浜本部より午後のフライトまでの指示は羽田本部へ任せるとのこと

9:10　全チーム各自待機（吉田、森野、木崎、本部待機）

12:15 横浜本部指示により Dropbox ダウンロード

15:28　ブルネイ機の到着予定 23:30→16:30 へ変更（風間専門官より）
15:45　災害医療センターV スポットへ移動開始
15:50　近森病院 V スポットへ移動開始
16:00　災害医療センターV スポット着
16:15　近森病院 V スポット着
16:15　東京消防庁 V スポット着
16:35　中国機　18:15→17:38　変更
16:43　ブルネイ機到着
16:56　ブルネイ V スポット通過
17:00　大津赤十字 CIQ へ出発
17:53　大津赤十字 CIQ 到着
17:59　菅首相機　19:15→19:05　変更
18:05　中国機到着確認（東京空港事務所小堀さん確認 17:50 に到着済み）
18:31　中国機 V ゲート通過
18:35　インドネシア機　21:05→21:30　変更
19:08　ロシア　20:10→19:54　変更
　　アメリカ(1)　19:35→19:40　変更
　　アメリカ(2)　19:40→19:45　変更
19:20　菅首相機（第一ターミナル？）に 19:05 到着
19:28　菅首相 V ゲート通過
19:48　アメリカ機到着
19:55　カナダ機　23:10→22:10　変更
20:02　アメリカ V ゲート通過
20:10　ロシア機到着
20:23　ロシア V ゲート通過
20:45　オーストラリア機着
20:45　メキシコ機着
20:51　オーストラリア V ゲート通過
21:00　シンガポール機　21:45→21:33　変更
21:11　メキシコ V ゲート通過
21:20　インドネシア機着
21:25　シンガポール機　21:33→21:55　変更
21:45　インドネシアゲート通過

22:15　カナダ機着
22:15　シンガポール機　到着済み
22:25　シンガポール北ゲートより空港外へ
22:25　大津赤十字病院へ撤収指示
22:25　災害、近森へカナダ機Ｖゲート通過後、撤収の指示
22:35　カナダ機Ｖゲート通過
22:35　災害、近森へ撤収指示
22:45　災害、近森本部着
22:50　災害、近森へ明日の予定を伝達し撤収
23:27　大津病院本部着、明日の予定を伝達し撤収
23:30　本部撤収

5.申し送り

Ｖ スポットと本部のトランシーバーについては傍受される恐れがあることからフライト情報については使用しないこと

Dropbox により情報を共有すること

5201 室　浅利医師、4203 室　井上医師の部屋から Ｖ スポットが目の前となっている。カーテンを閉めるとの指示が出ており、警察によりチェックされていることから注意して確認すること。

横浜本部への連絡については、貸与携帯電話の本部 DMAT２は調子が悪い、最初に本部 DMAT１にかけるようにすること。

フライトの時間の変更が多いため注意が必要

6.明日の予定

・05:00　タイ機着予定のため山形チームが対応する。04:00 より対応予定。
　　東京消防庁については 04:30 より対応とのこと
・09:00　全体ミーティングを行う。各チーム２名の参集とする。
・13:10　韓国機着予定のため相澤チームが対応とする。
・18:00　全体ミーティング予定

平成 22 年 11 月 13 日（土）

本部長　森野一真

活動チーム
　午前　山形県立中央病院
　午後　相澤病院
　夜　　全フライト終了後待機

1.会議次第（9 時～）
　場所：羽田エクセルホテル東急（7136 号室）
　参加者：厚生労働省指導課　風間、田川、村井
　　災害医療センター　井上、木崎
　　山形県立中央病院　森野、萬年
　　大津赤十字病院　　松原、辻
　　近森病院　　井原、宗石
　　相澤病院　　上條、内山
　　NBC 対応班　　浅利

2.本日の予定および連絡内容等
(1)予定
　フライトに合わせた V スポット待機
　全体ミーティング
　割り当てのないチームは空港エリアで待機とする

3.傷病者情報
　救護案件　なし
　その他異常なし

4.本日の活動
3:10　本部活動開始。タイ機到着 0450 予定。
4:15　山形 V ゲートへ移動開始
4:28　山形 V ゲート着
4:29　現状報告と DMAT 横浜本部に昨日の NBC 班との合流について報告。
4:58　タイ機到着
5:11　タイ V ゲート通過
　　山形 V ゲート撤収

5:20　山形活動終了ホテル着
9:00　代表者ミーティング
9:10　全チーム各自待機

11:10　14 日発予定のパプアニューギニア機が 13 日 19:00 に変更
横浜市医療対策本部　松尾氏（厚労省連絡員　村井さん確認）　情報誤り

11:52　相澤病院 V ゲートへ移動開始
12:14　相澤病院 V ゲート着
12:54　韓国機着
13:09　韓国機 V ゲート通過
13:10　相澤病院 V ゲート撤収
13:15　相澤病院
13:20　インドネシア機、日本出発 17:30 の連絡あり（災害対応予定）
16:20　相澤病院 V ゲートへ移動開始
16:36　相澤病院 V スポット到着
17:09　インドネシア V ゲート通過
17:53　インドネシア機　発
17:55　相澤病院へ撤収指示
18:00　相澤病院本部着
18:30　全体ミーティング

4.申し送り
横浜本部からの情報は共有すること。（デスクの Dropbox により閲覧可能）

5.明日の予定
9:00　本部長ミーティングを行う
フライトに合わせた首脳対応

平成 22 年 11 月 14 日（日）

本部長　森野一真

活動チーム
午前　全チーム待機
午後　近森、大津（V スポット）災害、山形（本部）
夜　　災害、山形（V スポット）相澤、災害（本部）

1.会議次第（9 時～）
場所：羽田エクセルホテル東急（7136 号室）
参加者：厚生労働省指導課　平野
災害医療センター　井上、高以良、江津、北川、木崎
山形県立中央病院　森野、萬年
大津赤十字病院　松原、辻
近森病院　井原、宗石
相澤病院　上條、内山
NBC 対応班　浅利、池内

2.本日の予定および連絡内容等
(1)予定
フライトに合わせた V スポット待機
12:00　全体撮影
21:30 ミーティング予定

3.傷病者情報
救護案件　なし
その他異常なし

4.本日の活動
9:00　本部活動開始。ミーティング。
12:00　集合、全体写真撮影
12:00　近森、大津 V ゲートへ移動開始
12:18　近森 V ゲート着
12:35　大津 V ゲート着
12:50　出国時にも東京消防庁は出動することを確認

13:05　中国バス 5 台ゲートより空港内へ
13:05　白人の乗ったバスがゲートより徒歩でゲート内へ
13:10　東京消防庁の救急車が V ゲート到着
13:00　メキシコホテル出発
13:19　ロシアみなとみらい出発
13:30　メキシコ羽田到着
13:37　ロシア羽田到着
13:51　メキシコ離陸
13:54　中国ホテル出発
13:58　ブルネイホテル出発
14:12　ロシア離陸
14:13　韓国ホテル出発
14:18　中国羽田到着
14:20　ブルネイ羽田到着
14:30　マレーシアホテル出発
14:36　韓国羽田到着
14:46　中国機離陸
14:49　マレーシア羽田到着
14:49　中国機(2)離陸
14:52　ブルネイ機離陸
15:00　韓国機離陸
15:10　マレーシア機離陸
15:13　アメリカみなとランプ出発
15:17　ロシア(2)離陸
15:32　アメリカ羽田到着
15:47　アメリカ機離陸
15:50　近森、大津へ撤収指示
15:55　近森本部到着
16:06　アメリカ機(2)離陸
16:17　大津本部到着
16:50　災害＋上条、山形 V ゲートへ移動開始
17:05　災害＋上条、山形 V ゲートに到着
17:36　東京消防庁 V ゲート到着
17:55　オーストラリア V ゲート通過
18:17　オーストラリア機離陸
18:22　パプアニューギニアホテル発

18:47　ペルーみなとみらい発　　誤報
18:48　パプアニューギニア羽田着
19:03　ペルーホテル発
19:11　パプアニューギニア機離陸
19:14　カナダ皇居発
19:43　カナダ羽田着
19:45　ペルー（商用機）羽田離陸
20:13　カナダ機離陸
20:15　災害＋上条、山形撤収指示
20:25　災害＋上条、山形本部着
20:25　ミーティング
20:30　ミーティング終了

5.申し送り
　羽田対応機については終了となった。

6.明日の予定
　8:00 よりミーティングを行う
　ミーティング後本部撤収
　各個別の部屋は 11:00 までにチェックアウトをすませること。
　本部については 12:00 撤収予定

平成 22 年 11 月 15 日（月）

本部長　森野一真

活動チーム
全チーム待機

1.会議次第（8 時～）
場所：羽田エクセルホテル東急（7136 号室）
参加者：厚生労働省指導課　風間、参集した全 DMAT
2.本日の予定および連絡内容等
⑴予定
撤収作業
3.傷病者情報
救護案件　なし
その他異常なし

4.本日の活動
8:00　本部活動開始。ミーティング。
12:00　本部撤収。

5)成田配備 DMAT の活動

東北大学大学院　山内　聡

愛知医科大学　中川　隆

成田配備 DMAT の活動

東北大学病院　山内聡
愛知医科大学病院　中川隆

担当 DAMT

東北大学病院
愛知医科大学病院
京都第一赤十字病院
大阪府済生会千里病院
済生会滋賀県病院

事前打ち合わせ

9／30　成田市役所での成田消防、成田空港関係者顔合わせ
10／15　成田市消防本部 NBC 資器材視察及び成田空港内 DMAT 待機場所視察

活動概要

11／11；成田空港にてフィリピン首脳到着に伴うテロ対応 DMAT 待機
11／12；ペルー首脳到着に伴うテロ対応 DMAT 待機
11／13；横浜に移動し、APEC 開催に伴うテロ対応 DMAT 派遣（けいゆう病院、メディアセンター、会議センター）
11／14；成田空港にてニュージーランド、タイ、シンガポール首脳出国に伴うテロ対応 DMAT 待機
11／15；フィリピン首脳出国に伴うテロ対応 DMAT 待機

活動時系列記録

11／11
15:00　京都一日赤柿本調整員到着
16:25　東北大学 DMAT 到着・本部立ち上げ
16:40　成田消防到着
16:50　京都一日赤他メンバー、愛知医大、北総松本先生到着
17:05　済生会滋賀県、済生会千里到着
17:10　事前打ち合わせ
17:55　フィリピン到着に備え資機材準備（東北大学、愛知医大、済生会滋賀県病院）
18:20　MCA 無線テスト
18:45　MCA 無線について横浜本部へ確認
18:50　NAA 柴田さんより予定通り航空機到着の報告

19:35　ゲート（64 番）へ移動（済生会滋賀、愛知医大）、成田本部（東北大学）
19:43　ゲート到着・待機
20:00　フィリピン航空機到着
20:15　フィリピン首脳出発
20:28　NAA へ移動
20:35　待機完了
20:50　成田本部撤収

11／12
10:00　ロジ打ち合わせ
11:30　全体打ち合わせ
12:00　NAA 研修室待機
13:00　愛知医大、京都第一日赤　成田空港ゲート視察
13:40　東北大学、済生会千里、済生会滋賀成田空港ゲート視察、
14:57　MCA 無線で横浜本部と通信（愛知医大）
15:00　ゲート（40 番）へ移動（京都一日赤、済生会千里）
15:15　ゲート到着・待機
15:40　ペルー航空機到着
15:50　ペルー首脳出発
16:03　NAA へ移動
16:05　成田本部撤収 横浜へ移動
19:00　けいゆう病院資器材保管場所ないため宿泊ホテル行先変更
19:30　ワシントンホテル桜木町着

11／13
7:00　けいゆう病院 ブリーフィング
7:30　会議室；東北大学、メディアセンター；京都赤十字、
　　愛知医大、済生会千里病院、済生会滋賀；けいゆう病院
12:10　東北大学ー愛知医大、京都赤十字ー済生千里病院申し送り、
12:40　会議室；愛知医大、メディアセンター；済生千里病院、
　　東北大学、京都赤十字、済生会滋賀；けいゆう病院
13:30　国際メディアセンター内救護所で活動開始。
13:31　会議室救護所　愛知医大 DMAT 対応　患者１名（42 歳女性）
　　チリ政府関係者。頭痛。投薬後診察終了。
13:43　メディアセンター救護所　千里ＤＭＡＴ対応　患者１名（３７歳女）診察。
　　セキュリティエリア連絡員。感冒症状。投薬後診察終了。
15:54　メディアセンター救護所　千里ＤＭＡＴ対応　患者１名（４３歳男）診察。
　　ブルネイ政府プレス担当。右足首捻挫。投薬後診察終了。

16:10　42 歳女性、再受診、回復確認
17:04　メディアセンター救護所　千里ＤＭＡＴ対応　患者１名（２９歳男）診察。
　　韓国プレス担当。頭痛。鎮痛剤投薬後終了。
18:00　会議室センター退室
18:30　けいゆう病院で反省会
19:40　万国駐車場付近で栃木県警・秋田県警から検問を受ける。

11／14
8:15　愛知医大、済生会千里、京都第一赤十字　ホテル出発
8:45　愛知医大、済生会千里、京都第一赤十字みなと赤十字３Ｆ 会議室で婦人プロ
　　グラムの医療支援のための待機
10:00　東北大学、済生会滋賀病院　成田空港へ移動
10:17　成田スケジュール変更　ペルー羽田発、タイ 19 時成田発
　　10 時現在　18 時 30 分　ニュージランド　第 2 ターミナル
　　19 時 00 分　シンガポール　第１ターミナル
　　19 時 00 分　タイ　第２ターミナル
11:02　横浜本部より　10：51 婦人プログラム終了連絡
11:05　みなと赤十字病院解散、各チーム成田へ移動開始
13:30　東北大、滋賀 NBA 本部到着
15:05　愛知医大、大阪千里到着
15:21　本部より 13：10 をもって APEC 公式行事終了の連絡あり
16:37　京都赤十字、NAA 到着
17:00　消防より千葉北インター通過後配備体制との連絡
17:00　ロジスティック打合せ
17:20　成田本部立ち上げ
　　◎成田正面統括（愛知医大）
　　◎第一ターミナル班（◎済生会滋賀、京都第一赤十字）
　　シンガポール（19：00 DP）対応
　　◎第二ターミナル班（◎東北大学病院、済生会千里）
　　ニュージーランド（18：30 DP）、タイ（19:00 DP）対応
17:28　第一ターミナル班　出発準備開始
17:35　第一ターミナル班　NAA ビルへ出発
17:40　第二ターミナル班　出発準備開始
17:45　第二ターミナル班　NAA ビル出発
17:46　第一ターミナル班　G40 到着
17:53　第一ターミナル班　G45 へ移動
17:56　第二ターミナル班　G64 到着
18:33　東北大よりニュージランド出発遅延

18:39　ニュージーランド機動き始めたため第二ターミナル班タイ出発の G414 へ移動
18:55　タイ首相到着　乗り込む（第二ターミナル）
18:56　シンガポール首相乗り込む（第一ターミナル）
19:10　タイ離陸　待機解除
19:30　第二ターミナル班第一ターミナルへ移動
19:34　シンガポール離陸、配備解除

11/15
8:20　本部立ち上げ
8:25　本部との無線開通確認
8:30　成田チームミーティング
8:45　愛知・京都空港内へ移動準備開始
8:50　空港内へ移動開始
8:52　ゲート６４へ到着連絡あり
8:58　警察よりフィリピン大統領車両千葉北インターを通過の連絡が入る
9:15　愛知医大よりフィリピン大統領エプロン６４到着との連絡が入る
横浜本部へ到着の件を報告
9:31　愛知医大より 9:29 にフィリピン大統領搭乗との連絡が入る
横浜本部へ搭乗の件を報告
9:52　愛知医大よりフィリピン大統領機離陸　待機解除と連絡あり
横浜本部に待機解除を報告
10:04　NAA 本部に愛知・京都到着
10:13　NAA 本部撤収

<u>考察</u>
1. 事前準備
- 打ち合わせの日程が突然決まるため、日程調整が困難であった。
- 事前資料の量が多すぎて、把握しきれなかった。自分と関係ない資料が多く、どこを読めば良いのか判らなかった。
- 何度も同様の書類の提出を求められたりして、非常に煩わしかった。その割には、通行許可書などの準備ができていなかった。医療チームの地位をもっと上げてほしい。

2. 連絡網、情報ツール
- 事前に作成した ML が情報共有に有効であった。
- トランシーバーは届かないことが多く、役立たなかった。
- MC 無線は横浜の本部とも会話でき、有用であったが、時々不通となってしまっ

ていた。
・ 携帯電話が支給されたが、事前に電話番号も登録されており、非常に有用であった。

3. 装備品・薬品について
・ 必要物品に関しては、国が費用を負担すべきだと思われる。なぜ、医療機関が国の行事のために自己負担をしなければならないのか。
・ 冷所管理の薬剤に関しては、本部などで一括して管理してほしい。
・ 薬剤リストにある、麻薬に準ずる薬剤（ケタラール）については、今後厚生省が麻薬管理・施用に関する特例ルールを定めないと、結果的に持っていくことも、施用することも出来ない。今回の事例を元に、厚生省で早急に対応策を講じていただけることを期待する。

4. 活動
・ DMAT 全体での指揮命令系統はかなり統率がされていた。
・消防も本部（待機場所）に連絡員を置いていただいた方が、スムーズに活動ができたと感じられた。
・ 安全管理は NAA がしてくれていた．空港内のことはやはり空港管理者の全面協力の下でないと厳しいと実感した
・ 空港内での車両の運転は NAA の誘導なしでは不可能であった。
・ 車両に通常の DMAT 資機材と NBC 用の資機材を満載した状態で現場に急行し、それらの資機材を出して活動できるのか疑問である。
・ 実際に現場活動をしようとしたら、事前に現場でのシミュレーションを行わないと困難である。

5. 宿泊施設、アメニティ
・ 成田空港の待機場所は NAA の協力の下、とても快適であった。
・ 成田での宿泊施設は問題なかった。ホテルと待機場所の移動は、NAA が協力してくれた。
・ 横浜のホテルの朝食時間は、出勤時間に合わせて調整してほしかった。

6. 交通
・横浜市内での移動は警察の検問で大変だった．通行許可書を事前に取っておくべきである．DMAT 隊員証で通してくれるともっと良い．

6）横浜市内の病院の準備

神奈川県警友会　けいゆう病院　湯浅　洋司

APEC 報告書

集団災害対応

- 横浜市内の病院の準備
  - けいゆう病院

けいゆう病院救急センター　湯浅洋司

APEC 会場直近の当院では，発災時にトリアージを中心とした現場救護所として，かつ横浜市内災害拠点 13 病院の一つとして機能するべく準備し，対応した．

まずは当初メンバーに入っていなかった厚労省の有識者会議に当院からも参加することとなり，横浜市および神奈川県や DMAT の準備会合にも出席した．APEC 開催 1 か月前には院内トリアージ訓練を行い，NBC 医療用臨時備蓄医薬品を準備，中毒センターから NBC 対応マニュアルの配布を受け，地域で開催された NBC 医療専門家による対テロ対策勉強会にも参加した．

当院は二次救急医療施設であるため，三次救急適応は転送の必要があり，転送先の選定については，当院内に設置された厚労省の現地医療対策本部に詰めている DMAT 現地本部がいくつかの施設をピックアップすることとなった．また，院内の同本部には NBC 責任者や日本中毒センター，放射線医学総合研究所，および国立感染研究所のエキスパートが常駐することで，NBC テロに備える体制となった．

当院は災害拠点病院ではあるが DMAT 未整備であり，除染設備や PPE（個人防護装備）もなく，DMAT の支援を受ける必要があった．そこで国立災害医療センターから移動用除染設備を借り受け，APEC 期間中設置した．さらに首脳会議の期間は院内に DMAT4 隊が常駐待機することとなり，発災時には残りの 4 隊も集結して，計 DMAT8 隊が現場救護所となる当院で活動することとなった．

情報伝達フロー確認のため，事前に神奈川県救急医療情報システムおよび E-MIS の入力訓練と横浜市の F ネット（災害用 FAX）受信訓練に参加した．APEC 期間中に起きた異臭騒ぎの際には F ネットが実際に使用されたが，運用は順調であった．

横浜市立大学附属市民総合医療センター　森村　尚登

APEC 開催期間中の院内対応

横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター　森村尚登

■はじめに

横浜市で開催されたアジア太平洋経済協力（Asia-Pacific Economic Cooperation：以下 APEC）フォーラムの期間中（2010 年 11 月 7-15 日）に関連して生じる可能性があるインシデントに対する、当該地域の救急・災害医療体制の一環として、当院がとった対応を報告する。

■APEC 開催期間中の救急・災害医療体制における当院の役割

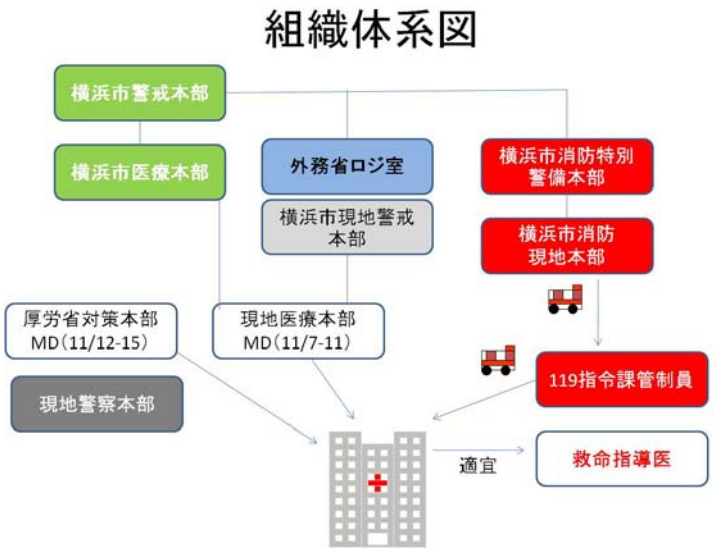
横浜市内で指定された 5 病院の一つとして、前半の 11 月 7-12 日は横浜市、後半の 13-15 日は厚生労働省によるそれぞれの対策本部の指揮下で、下記役割を担った。

11/7-11

1. 通常の救急医療
2. 災害発生時の対応（含む DMAT・局地災害対応型 DMAT 対応（YMAT））
3. 災害：テロを含む特殊災害

11/12-15

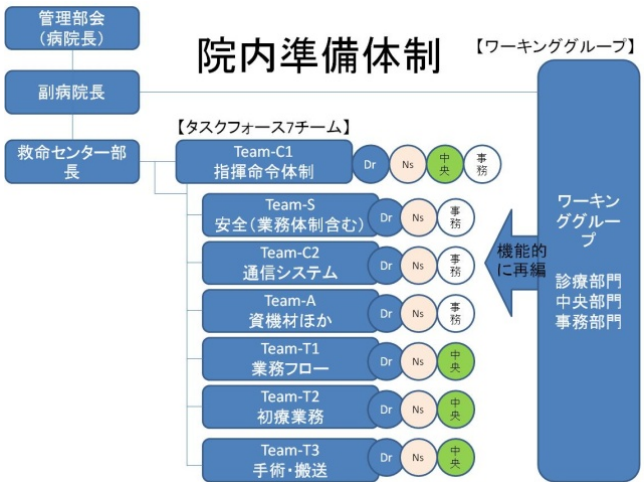
1. VIP 対応（VIP：参加各国首脳・首脳夫人・随行の上級シェルパ　が対象）
2. 通常の救急医療
3. 災害発生時の対応（含む DMAT・局地災害対応型 DMAT 対応（YMAT））
4. 災害：テロを含む特殊災害



■体制構築の過程

1. 院内体制検討組織の立ち上げ

下記のように CSCATTT の項目で役割を分担して、ワーキンググループを編成し、検討を開始した。



具体的には、Command（指揮体制）、Safety（安全管理）、Communication（通信体制）、Assessment（リスク評価）、Triage（受入れ体制）、Treatment（診療体制）、Transport（病床運用）の 7 項目に沿って準備した。

1.1 Command（指揮体制）

院内対策本部として、インシデント発生時には以下のメンバーを以て病院調整チームを立ち上げることとした。

・当直帯病院統括医 1（特に 12-14 日のみ、従来と異なり 1 名増員とした）
・当直事務（従来の管理当直）1
・当直看護師長 1
・当直救命救急センターリーダー医 1

1.2 Safety（安全管理）

Patient surge の可能性を考えて、多数傷病者受入れ窓口になる救命救急センタースタッフについては、期間を限定して、従来の日勤、当直体制から二交替勤務制に切り替えた。

1.3 Communication（通信体制）

脆弱になりがちな通信体制については、その強化のために、院内は常備していた無線機 5 台に加えて横浜市から7台借用して対応した。また院外組織との連携については、現地医療本部との通信体制は専用固定電話を用い、また消防局救命指導医への病院情報の提供も専用固定電話を使用した。さらに、病院間情報共有の目的で ad hoc mailing list を立ち上げ、細かな運用に関する情報交換を行った。加えて EMIS 入力、閲覧によって情報集約と共有を図った。

病院内情報発信のタイミングについては、毎日 2 回、9 時と 18 時に、決められた書式

に基づいて病院内情報を対策本部や連携病院に提示することとした。また傷病者対応時にはその都度連絡することとした。

1.4　Assessment（リスク評価）

リスク評価は METHANE 項目に沿って行い、下記が挙げられた。

E：会場およびその周辺（E）

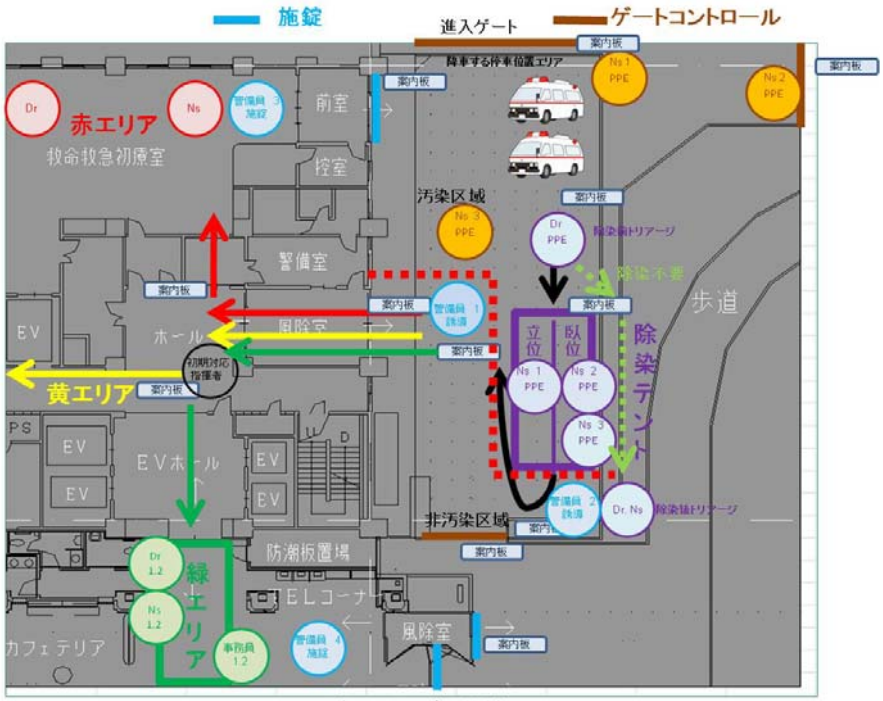
T：爆傷、銃創、化学災害等（T）

N：最緊急（赤）症例 2 名/最初の 1 時間（N）

特に、特殊災害対応の一環として、防護服着脱手順の再確認（シミュレーション）と N 災害初期対応の再確認（DVD）、受入れ時ゾーニングに沿ったエリアの確認を実施した。

1.5　Triage（受入れ体制）

下図のように、ゾーニングおよび人員配置、動線を確認した。



ゾーニング、動線

1.6　Treatment（診療体制）

下記を実施することによって院内体制の強化を図った。

① 全科オンコール対応強化

② 穿通性重症外傷対応の強化

③ 麻酔科増員（2 つの本学附属施設の連携による）

④ 外傷対応チーム外部応援依頼（日本救急医学会）：特に銃創対応

⑤ 手術枠準備

⑥ 輸血部（救命救急センター1F 診療エリアに O 型(-)血液を常備（10 単位予定））

1.7　Transport（病床運用）：別添資料参照

2. 対応マニュアルの策定：別添資料（「APEC 対応マニュアル」・「APEC 管理当直用マニュアル」）参照

横浜市立みなと赤十字病院　伊藤　敏孝

横浜市内の病院の準備

－横浜市立みなと赤十字病院の場合－

横浜市立みなと赤十字病院

救急部　部長

伊藤　敏孝

【はじめに】

今回APECに置ける当院の役割は、首脳クラスを除く、高級幹部の受け入れであった。また、APEC 会場のみなとみらい地区は距離的に車で10分程度の距離であることから、多数傷病者が発生した場合には当院が全面的に受け入れなくてはいけない立場であった。

【平時の救急体制】

当院は365日 24時間の救急患者を受け入れることを病院の基本的柱としている。そのため、出来るだけ救急車を断らないことを目標として救急外来を運営している。年間の救急患者総数は約 25000人、救急車受入台数は約 10000台である。救急外来の体制は、救急隊からのホットラインには医師が直接対応し、救急車で来院される方に対し、救急外来担当医が初期診療をおこなうER 体制をとっている。ファーストタッチした担当医が初期診療を行い、診断した上で、専門医の診療が必要と判断した場合には診療を依頼し、不要と判断した場合には帰宅を許可している。平日の昼間は、救急医学会専門医が中心となり、主に救急車で搬送される患者に対して診療を行っている。当直時間帯の診療は内科系、外科系、循環器科、小児科、産婦人科、重症患者対応、シニア、ジュニアの各 1名の当直医により行われ、必要に応じて各科のオンコール医が呼ばれる体制になっている。

【APEC 時の診療体制】

原則として、平時に置ける体制を変更せず診療を行った。ただし、夜間に関しては救急専従医一名が院内で待機した。ま

た、この期間中を通して救急患者の受け入れ制限は行わなかった。なぜなら、APEC とは関係ない多数の傷病者のたらい回しが起きることが予想されたため、受け入れ制限は行わなかった。

【災害発生時の対応】

当院では過去に年に1回程度20名以上の大量傷病者を受け入れた経験があることから、これらの経験をもとにアクションカードの作成などのマニュアル作りと救急倉庫への必要物品の保管を行っている。

このアクションカードは、災害発生した場合に医師･看護師･事務官がどのように動くかを示したカードである。

災害発生時の流れを示す。大量の傷病者の受け入れを依頼された場合、医師･看護師･事務官の3系統の責任者を救急外来に招集する。各系統の責任者は、状況確認後救急倉庫から各系統のアクションカードと外来配置図を示したホワイトボードや救急機材、傷病者リスト用のボードを運び出す。各責任者は、自身のアクションカードで各自の行動を確認する。その後、各責任者は、アクションカード内に示された優先順位に従い、各系統の人員の役割を命じて、そのアクションカードを渡す。役割を示された人員は、アクションカードの示された場所で各自の役割に従って、行動をする。

このようにすることで、大量の傷病者の受け入れになれていないものが当直していても、応援が来るまで初動対応が出来るようにした。

APEC 期間前から、このアクションカードの周知徹底と訓練によりアクションカードの修正を加えた。

【NBC 災害発生時の対応】

NBC 対応用のアクションカードを追加した。また、除染設備の立ち上げ場所の設定と NBC 対応訓練を実施した。また、APEC 期間中は除染設備を常時使用可能な状態にした。

また、NBC の院内での認識向上のための教育訓練をおこなった。

【まとめ】

当院では、各種災害体側対応マニュアルを整備し、大量傷

病者が発生したときの対処をしてきた。今回、APEC会議を機会により実用的なアクションカードを使用した対応マニュアルを準備した。また、NBC対応マニュアルの整備を追加して、より充実したマニュアルを整備することが出来た。今後、訓練や現実の災害対応を通じてマニュアルやアクションカードをより現実的なものにするようにブラッシュアップを行っていきたいと考えている。

済生会横浜市東部病院　船曳　知弘

APEC 対応について

≪横浜市内の病院の準備≫

済生会横浜市東部病院救命救急センター

医長　船曳知弘

【当院の概要】

当院は平成 19 年 3 月に開院した新設病院であり、横浜市内 13 の地域災害拠点病院のひとつである。救命救急センター・集中治療室などを中心とした急性期医療および様々な高度専門医療を中心に提供する急性期病院であるが、横浜市の政策的医療の一環としてハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。病床数は 560 床で、うち重症心身障害児（者）施設サルビア 44 床、救命救急センター病床 20 床、ICU10 床、NICU6 床、GCU10 床、SCU6 床が含まれている。

救急医療体制としては、日本救急医学会指導医施設（救急指導医 3 名）、日本救急医学会専門医施設、外傷専門医施設として、一次から三次までの幅広い救急患者診療を行い、緊急手術にも常時対応している。救急科以外に小児科・内科・循環器科・脳神経センター・精神科・産婦人科が 24 時間常駐しており、必要に応じて協力して診療を行っている。

【災害における対応】

災害委員が中心となって作成した災害対応マニュアルを基に、災害訓練を年に 1 回程度行っている。救命救急センターの医師・看護師だけでなく、多くの職員が参加し、アクションカードを用いて多傷病者受け入れの訓練を行っている。エリア（赤・黄・緑）ごとの責任者やトリアージ部門の責任者などが中心となり、災害訓練での反省点等から災害マニュアルや各アクションカードの改変を行っている。

DMAT はすでに 1 チーム(6 名)を保有していたが、さらに 2 名の医師が講習を受け、DMAT 隊員として災害対応の中心として院内で活動している。

【APEC における対応】

当院は、各国・各地域の首脳および首脳クラスの要人を横浜市立大学付属市民総合医療センターと共に受け入れることとなった。要人受け入れ時の搬入ルートの確認、および警備体制を確認し、病床の確保を行った。

要人の受け入れが不要であった場合は、近隣の災害拠点病院と同様に多傷病者の受け入れを行い、許容人数を越えた場合は後方搬送の拠点として、陸路搬送の手順の確認を救急科医師・看護師に行った。空路搬送に関しては当院では隣接する公園にヘリコプターが着地できる規程

はできていたものの実績がないために、APEC に合わせた搬送は基本的に行わないこととなった。

NBC 災害における対応に関して；これまでの 3 年半の間に NBC 災害に対する訓練までは、手が回らなかったことを反省し、APEC を前に、除染設備の立ち上げ場所の設定と NBC 対応訓練を実施した。除染の仕方の確認および導線の確認を行い、APEC 期間中は除染設備を常時使用可能な状態にした。また、NBC の院内での認識向上のための教育訓練や薬剤に関する教育訓練を行った。

【APEC を振り返って】

APEC に対応するための準備を行うことにより、当院における災害に対する脆弱性が明らかになり、再確認することができた。DMAT 隊員の追加養成だけでなく、個々のレベルアップが必要であると感じた。さらに NBC 災害や、病院が被災した場合も含め、今後の当院の災害対策に大きく結びついた結果となった。さらなるマニュアルの改訂や、現実に即した災害対応訓練に向けて準備を行っている。

労働者健康福祉機構横浜労災病院　中森　知毅

APEC 対応について

当院の準備について,

【当院の概要】

当院は，横浜市内に 13 ある地域災害拠点病院の一つであり，港北区と緑区の人口約 50 万人を背景人口としている．病床数は 650 床，初期研修医を含む総医師数は約 230 名である.

救急医療体制としては，横浜市の救急拠点病院 A 群に属し，救命救急センターではないが ER 型救急診療を行い，年間約 28000 人の救急患者と約 7800 台の救急車を受け入れている．救急医は正規職員 10 人と救急専属の後期研修医 10 人の 20 人で，この中から 1 日二交代の交替勤務制で救急医 3 人を選出，ローテンションで回ってくる初期研修医 3 人,さらに小児救急医 1 人をあわせた 7 人で，ER を運営している．ヘリポートは，病院と隣接しているサッカー場のサブグラウンドと設定されており，数回の離着陸経験があるが，ヘリコプターを用いて傷病者を実際に搬出あるいは受け入れたことはない．神奈川県 DMAT 指定病院であり，DMAT2 チームを保有している.

【当院が行った準備】

DMAT NBC 対応訓練受講	2010.9.
川崎市立川崎病院での DMAT 訓練に参加	2010.10.16
除染テント立ち上げ訓練と導線確認	2010.10 月と 11 月に二度実施
NBC 対応災害対策マニュアル作成	2010.10 月
DMAT 視察を受けた	2010.10 月 11 月
院内災害対策委員会	2010.6 月
院内医局会での周知	2010.10 月

【APEC を振り返って】

当院は，APEC に関連して多数傷病者が発生した場合，横浜市大，みなと赤十字病院で対応が困難になったとき，済生会東部病院とともに，傷病者受け入れ病院となり,後方搬送の拠点となる指示をいただいた.この指示に対応するため,院内に保有している施設，物品の確認などを行ったところ，予想を超えて資材

に恵まれていることがわかった．エアーテントは二つあり，一つは二列並列で，水除染が可能で，給湯器と暖房設備付きであった．また，レベルＣスーツ６着，ディスポのタイベックススーツは約60着あった．一方，これらの運用については，全くマニュアルなどもない状態であったが，これらの設備を無駄にしないため，事務系，看護系職員と救急医が一丸となって，体制整備にあたった．今回のAPECに対する準備は，当院の災害対策の充実に大きくむすびついた結果となった．

7) 現場医療活動マニュアル

藤沢市民病院　阿南　英明

APEC 関連対策活動報告

CBRNE テロ・災害現場対応指針の策定と試行的教育実施の報告

藤沢市民病院救命救急センター　阿南英明

【はじめに】

APEC 首脳会議開催期間中会場近辺に大規模災害発生に備えて DMAT18 隊が配備された。国際首脳レベルの会議開催期間中に発生しうる災害としては人為的に起こされるテロ災害が想定され、化学、生物、放射線、核、高性能爆薬（CBRNE）等のテロ特殊災害に対応する能力が求められる。「NBC 災害・テロ対策研修」（以下 NBC 研修）において、CBRNE 災害発生時に多数傷病者を病院に受け入れる対応指針は既に策定され、全国災害拠点病院のうち DMAT 隊員養成研修を受講した機関に対して実施している。しかし、災害現場での対応指針は未だに未整備であり、我が国 DMAT 隊員養成研修においてもＣＢＲＮＥ災害に関する教育は含まれていない。

【目的】

APEC 首脳会議開催期間中会場近辺に配備される DMAT に対して教育するべき CBRNE 災害の現場対応指針を策定する。

【方法】

①NBC 研修において教育している病院受け入れに関する CBRNE 災害対応指針を基に、厚生労働科学研究「CBRNE テロ・災害等の危機管理時の医療体制に関する研究（大友研究班）」と協同し、現場における CBRNE テロ・災害対応指針を策定する。

②現場配備 DMAT に対して短時間の教育を実施する。

【結果】

①現場対応指針の骨子

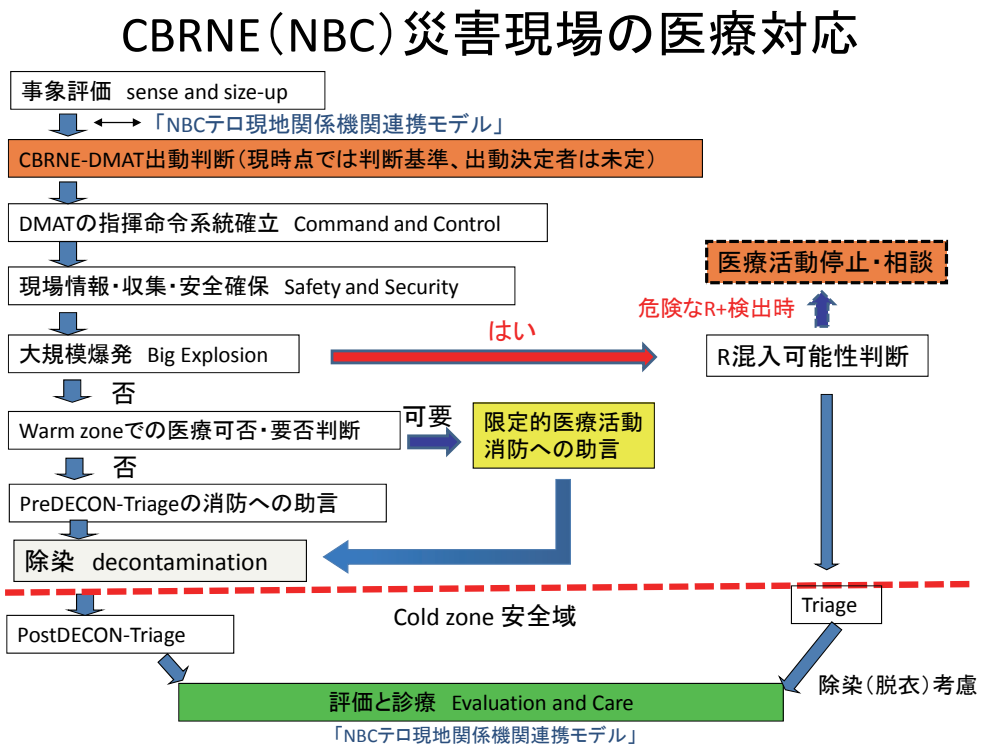
A）現場活動のあり方

災害現場での活動は安全域を基本とし、化学・放射線災害時に言う所謂コールドゾーンでの活動を基本とする。

B） CBRNE 災害対処を 2 種に分けた

・大規模爆発（E）：多数死傷者発生爆発

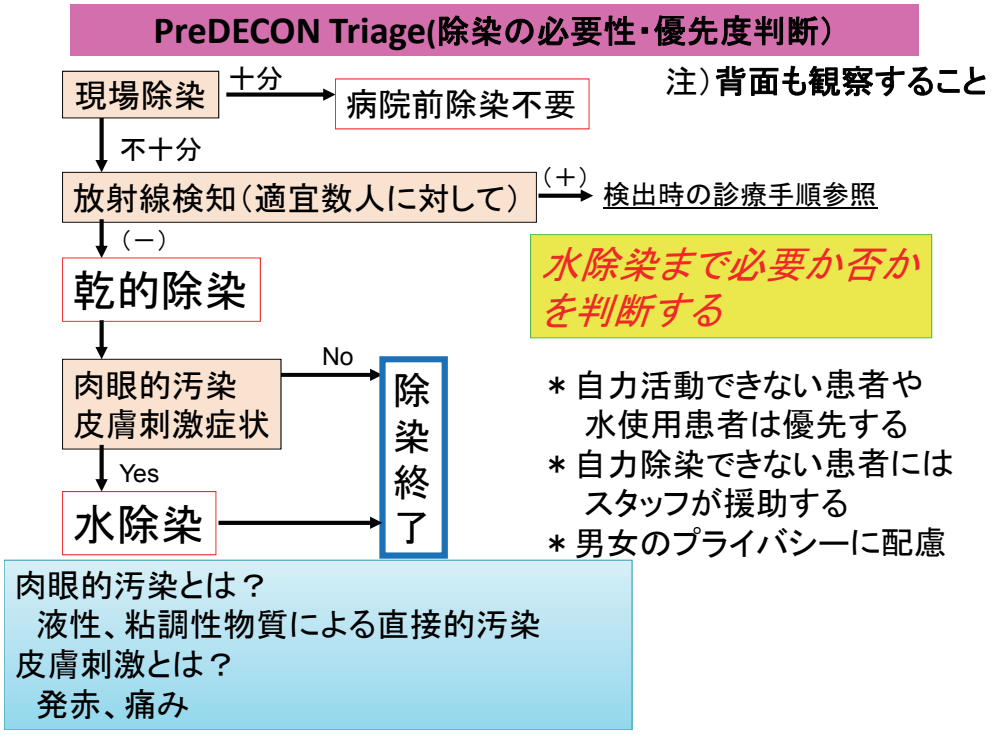
・CBRN : 不明の原因暴露による多数傷病者発生 （物質拡散のための小規模爆発を含む）



C) 除染方法の定義を変更

極力シャワー等の全身水除染を回避し以下の 2 方法の内容を整理した。

- 乾的除染（脱衣＋露出部拭き取り）
- 水除染（乾的除染＋汚染部洗浄シャワー）



D)特殊医療知識追加

- 爆発外傷特有の損傷・治療に関する情報を整理した。
  第一印象：鼓膜損傷患者では聴力障害のため誤判定しうる。
  当初重篤感がなくても、遅発性の重症外傷がある 。
  通常の外傷に比較して、四肢轢断多い。

爆発外傷に伴うPS・SS対応

	1次損傷	2次損傷	3次損傷	4次損傷
A				気道熱傷 窒息
B	肺損傷 空気塞栓	開放性気胸	気胸 血胸	
C		穿通損傷	四肢離断 圧挫症候群	熱傷
D	中枢神経損傷		中枢神経損傷	
SS	眼球損傷 腸管損傷	眼球損傷 体内異物	骨折 腹部臓器損傷	熱傷

- 放射線被曝に関する情報を整理した。
  患者対応するに当たり、危険な放射線汚染レベルを規定：
  50 ㎝で 50mSy/時以上の汚染
- 化学物質特有の症状・治療に関する情報を整理した。
  代表的な神経剤、びらん剤、窒息剤、シアン剤の症状や治療方針

その上で携行資機材に特殊治療物品を加えた。

DMAT の基本装備の追加の可能性

化学（C）剤対策⇒アトロピン、PAM、シアノキット、ジアゼパム
高性能爆薬（E）対策⇒ターニケット
放射線（R＋N）対策⇒線量測定器

②試行的教育を実施した。現場待機予定の DMAT に対して 1 回に 2~3 時間の追加講習を実施した。講習は座学中心の内容であった。

NO.	APEC派遣DMAT	研修・訓練	事前研修（説明会）対象施設					事前研修受講実績
		研修種別	NBC研修時	四国ブロック訓練時	東北ブロック訓練時	国民保護訓練時	事前打合せ	
		月日	9/16（木）	9/19（日）	9/26（日）	10/12（火）	10/26（火）	
		場所	立川市	徳島県	福島県	京都市	立川市	
1	東京医科歯科大学医学部附属病院	横浜	出席			出席		済
2	前橋赤十字病院	横浜	出席				出席	済
3	愛媛県立中央病院	横浜		出席		出席		済
4	新潟市民病院	横浜			出席		出席	済
5	社会医療法人誠光会　草津総合病院	横浜	出席			出席		済
6	JA秋田厚生連　平鹿総合病院	横浜			出席		出席	済
7	徳島県立中央病院	横浜	出席	出席		出席		済
8	兵庫医科大学病院	横浜				出席		済
9	山形県立中央病院・県立救命救急センター	羽田	出席		出席	出席		済
10	災害医療センター	羽田	出席					済
11	近森病院	羽田				出席		済
12	大津赤十字病院	羽田				出席		済
13	相澤病院	羽田	出席					済
14	東北大学病院	成田			出席		出席	済
15	愛知医科大学病院	成田	出席				出席	済
16	京都第一赤十字病院	成田	出席			出席		済
17	大阪府済生会千里病院	成田				出席		済
18	済生会滋賀県病院	成田				出席		済

【考察】

従来からNBC研修会において、CBRNE災害発生時に多数傷病者を病院に受け入れる対応指針に基づいて教育は実施されてきた。この教育は現場で対応するための内容ではないものの、全国災害拠点病院のうちDMAT隊員養成研修を受講した機関に対して実施してきた。この指針の大きな特徴は、災害発生当初原因が判明しない時点でも医療者が直ぐに活動を開始できるように、CBRNE個別の特性に拘らず、共通の行動ができるようにした点にある。しかし、災害現場での対応指針は未だに未整備であり、我が国DMAT隊員養成研修においてもＣＢＲＮＥ災害に関する教育は含まれていなかった。そこで、病院受け入れ時の指針の理念と内容を基本踏襲して新たに現場対応指針を策定した。

CBRNE災害被災者が医療機関へ搬送された場合、その対応は全て医療機関の人員で実施しなくてはならないので、極力医療者の二次被害を防止するために、防護衣の装着や除染行為を盛り込む必要があった。しかし、現場での対応は消防、警察機関によってなされることが基本であることから、現場活動するDMATは無理に不慣れな防護衣を装着する必要性は低い。むしろ他機関活動の障害ないならないように安全域での活動に徹することを基本とした。

医療機関受け入れではCBRNE共通の活動指針としたが実際の活動を熟慮した場合、高性能爆薬（E）による災害は化学、生物、放射線災害とは異なる対応が必要である。想定される損傷は重篤な外傷であることから、PreDECONトリアージや除染等の対応を優先させ

た場合致死的になり得る。直ぐに患者の治療を実施することの障壁として問題になるのは放射性物質を混入した爆発を想定した場合である。そこで、放射線医学総合研究所にその可能性に関しての検討を依頼した。結果、我が国に存在する最大線源を用いた爆発を想定したシミュレーションにおいて医療者が高度の二次被曝を生じる可能性がないことが報告された。これに基き、E 災害においては他の CBRN 災害とは異なる対応指針とした。

また従来から除染に関しては水除染を極力少なくする方針を取ってきたが、脱衣による乾的除染だけでは露出部の汚染が問題になる。このことは我が国で頻発した硫化水素自殺に対する医療者対応で指摘された問題点であった。そこで乾的除染の定義として上着の脱衣と露出部の拭き取りに変更した。また水除染は衣類を着ている部位での汚染は考えにくく、全身の露出と洗浄は非常に時間と手間がかかり、現実的な対応の妨げになると考えられた。そこで、水除染の定義も乾的除染に加え肉眼的汚染部の局所的洗浄をすることとした。ただし、実際には現場での除染は消防機関が実施する可能性が高いので、前述の除染方法に関する関係機関間での情報共有や擦り合わせを実施する必要性が高い。

通常の医学教育ではカバーされていない情報として、爆発外傷特有の問題や放射線測定に関する注意、化学物質暴露による種々の症状や対処法に関しての教育を加え、２~３時間の座学教育を実施した。今回の隊員は NBC 研修で病院受けいれに関する研修を修了していることもあり、変更点や追加点に関する教育で十分な理解を得ることができた。

【まとめ】

APEC 首脳会議場付近でのテロ災害発生を念頭に災害現場での CBRNE 対応指針を策定した。また、実際に DMAT 隊員に対して追加研修を実施した。

8) 無線について

日赤無線の活用について

武蔵野赤十字病院　高桑　大介

ＡＰＥＣ　JAPAN　２０１０　報告書

日赤無線の活用について

武蔵野赤十字病院　調度課長　高桑大介

1.目　的

日本赤十字社は災害救助法における救護団体として、また災害対策基本法における指定公共機関として災害時における医療を実施する責務がある。

また、全国 92 の赤十字医療施設についてはその半数以上が都道府県 DMAT 指定医療機関となっていることから、職員の教育、訓練あるいは資機材の備蓄を行い、災害のフェイズに従って必要な救護活動を実施することとしている。

今般ＡＰＥＣ2010 横浜の開催にあたり、通信体制の一部として日本赤十字社の業務用無線（以下日赤無線という）を活用したので報告する。

2.規程根拠

日赤無線は指定公共機関に与えられた業務用無線であり、通信内容は「赤十字用」となっている。広義に「赤十字用」を捉えると大変広い業務に活用できるわけであるが、いわゆる DMAT が出動する事態については、日赤病院の中でも相当数のチームが初動 DMAT として派遣される。

また、今般のようなマスギャザリング、テロ対策など事前の猶予がある場合、さらにライフラインなど通常インフラが使用できる状況では、事前準備が可能なことから、神奈川県支部、東京都支部との打合せを経て運用となった。

根拠規定は下記のとおり

〇日本赤十字社業務用無線局取扱規程(昭和 55 年2月 25 日本達丙第２号)

〇電波法(昭和 25 年5月2日法律第 131 号)

3.事前打合せ

平成 22 年 10 月 13 日（水）　15 時～　日本赤十字社神奈川県支部にて下記のとおり実施した。

4.運用について

日本赤十字社業務用無線運用規程に従い、けいゆう病院 DMAT 本部に、150MHz 帯業務用固定機１台と無線従事者（特殊無線技士資格者）２名を配備、赤十字車両、羽田空港および各基地局（にっせきかながわ、にっせきちば、にっせきとうきょう、にっせきおおもり、にっせきむさしの）との交信を行った。会議開催エリア内はデジタル簡易業務用無線 400MHz 帯を使用したが、通信状況は良好であった。また、教育用スライドを印刷し、無線を使用する可能性のある業務調整員に配布した。

打合せ検討会次第　　平成22年10月13日

APEC2010開催に伴うDMAT配置と日本赤十字社の協力について　2.0

1 日時　　平成22年10月13日（水）　15:00～

2 場所　　日本赤十字社神奈川県支部　〒231-8536 横浜市中区山下町70-7
TEL 045(681)2123

3 出席者

厚生労働省 DMAT事務局		大野龍男 氏
日本赤十字社神奈川県支部	事業部長	工藤孝志
日本赤十字社神奈川県支部	救護課長	野口理恵子
日本赤十字社東京都支部	救護課長	田中真人
横浜みなと赤十字病院	救命救急センター長	八木啓一 （統括DMAT）
秦野赤十字病院	社会課長	唐鎌宏明 （日本DMATスタッフ）
武蔵野赤十字病院	施設課長	高桑大介 （日本DMATスタッフ）

4 検討内容

（1）　APEC開催に伴うDMAT配置と医療体制について　厚生労働省DMAT事務局
・各会場DMATの配置と体制について　大野
・警察・消防等の対応について
・災害拠点病院等後方受入れ医療機関の対応と搬送手段について
・警備、規制事項について

（2）　神奈川県　東京都からの日本赤十字社への協力依頼について　支部担当課長
・現時点までの依頼内容、打診等　野口　田中
・災害未発生、マスギャザリング、テロ対策、国民保護法活動等の赤十字側のスタンス

（3）　通信の確保と日本赤十字社支部及び日本赤十字社DMATの協力について　高桑　唐鎌
・通信　簡易無線　防災行政無線　MCA　赤十字無線
・管理　法的根拠・日本赤十字社業務用無線局取扱規程・運用方法および管理
・従事者　必要な教育と訓練　規程第9条関係
・基地局（支部）の通信統制と非常通信時の基地局間通信
・成田空港（千葉）の対応について
・諸規程遵守の確認と本社、千葉、大津、京都第一、前橋と所属支部のコンセンサスについ

（4）　本社・支部に対する厚生労働省からの依頼内容について
・依頼文書の内容・発送と経由

（5）　その他
・その他リソースの協力体制について

2010.10.13　日本赤十字社神奈川県支部　議事
４階　災害対策室

テーマ　今回の DMAT 活動に対して日本赤十字社が通信の確保に協力できるか・・・・

- 14：20　パシフィコ会場と支部間の通信試験は結果良好
  業務用無線　アマチュア局ＵＨＦ　八木　高桑

- 15：00　打合せ会　敬称略
  厚生労働省　大野
  日赤　工藤　野口(神奈川)　八木(横浜みなと)　田中(東京)
  DMAT インスト　唐鎌（秦野）　高桑（武蔵野）

日本 DMAT 活動要領　平成 22 年３月 31 日　厚生労働省医政局指導課長通知

災害拠点病院、日本赤十字社、国立病院機構、大学附属病院等は、活動に必要な支援（情報収集、連絡、調整、人員又は物資の提供等）を可能な範囲で行う。
国〔厚生労働省，文部科学省〕日本赤十字社及び被災地域外の地方公共団体は、医師を確保し救護班・災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）を編成するとともに、必要に応じて、公的医療機関・民間医療機関からの救護班・災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の派遣を要請するものとする。

○後方支援（ロジスティック）抜粋
日本赤十字社、国立病院機構等は、厚生労働省、都道府県等の要請に応じ、ＤＭＡＴ活動に関わる通信、移動手段、医薬品、生活手段等の確保を可能な範囲で行う。
厚生労働省、都道府県等は、ＤＭＡＴ活動に関わる通信、移動手段、医薬品、生活手段等に関し、関係業界（通信関係、ヘリコプター、レンタカー、タクシー等の交通関係、医薬品等の卸関係等）に対して、その確保を依頼する。

・日赤神奈川、東京都支部としては現在まで当日対応の予定はない
・みなと赤十字病院は横浜市立として市の指揮下で活動予定
・調整会議にはこれまでも出ている
・みなと赤十字病院前に除染テントを設置予定
・県内の災害拠点病院１０病院が対応予定
・みなと・横浜市大以外の残りの８病院はどうするか現在協議中
・体制としての考え方は「受け入れ」を中心に考えている。
・軽症はどうするのという問題がある。
・過度な負担をかけないという県としての体制
・ＥＭＩＳの情報と待機要請は当然かかる
・東京都は何も来ていない。都の総合防災部「協力」と漠然
・神奈川県は指定公共機関の長あて緊急体制をとるように・・・・具体的にはない。
　通信網の確認。ＦＡＸ？
・洞爺湖サミットと同じ体制を基本とする。
・みなと赤十字として横浜市の対応詳細
・１１／７～１１横浜市１２～１５は国の対応
・９～１１みなと赤十字医療班を待機させる。
・メディカルセンターの救護所を運営する予定。
・ＹＭＡＴ（横浜市救急医療チーム）も待機する。
・首脳クラスについては市大と済生会が担当予定。
・夜間対応はけいゆう病院にチームを待機
・首脳クラスの疾病対策は別に慶応と東大

・日赤の対応についての議論
・マスギャザリング対応として捉える
・通信体制に関する協力は支部としては問題無い。
・通知は本社を通すことが必要である。
・同時に病院に依頼する
・近県支部（埼玉、山梨、千葉）への事前連絡はお願いしたい。
・みなと赤十字にも通信体制をつくる。
・今後の情報を共有する。
・体制は変わる可能性あり。
・「協同」を主眼に考える。

日本赤十字社の災害救護リソース　　2009 概要

- 職員　　57,876 名
- 病院　　92 病院（52 災拠）
- 常備救護班　　489 班　　5,194 名
- 救援車両　　590 台
- 医療セット　　265 セット
- エアテント　　156 張
- テント　　6,709 張
- 発電機　　1,531 台
- 衛星電話　　127 台
- 無線局　　3,528 局（基地局・移動局＝全国）
- 日本 DMAT 隊員養成研修　５１病院　86 チーム
- その他

写

医政指発1020第1号
平成22年10月20日

日本赤十字社　事業局長　殿

厚生労働省医政局指導課長

2010年日本APEC開催における医療体制に対する協力について

日頃より厚生労働行政につきまして多大なご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、来る１１月１３日から１４日の間に開催される2010年日本APEC首脳会議に際し、現在、政府においては各種の準備、調整等を行っているところであり、厚生労働省といたしましても現地医療体制の確保に万全を期すべく全国のDMATの協力によるテロ、集団災害対策を講じているところであります。

つきましては、災害・テロ等発生時に迅速に対応するため、日本DMAT活動要領に基づく「通信、移動手段等の確保」について、日本赤十字社神奈川県支部、日本赤十字社東京都支部及び日本赤十字社千葉県支部のご協力を賜りますようお願いいたします。

記

１．期　間　　平成２２年１１月１２日（金）～１５日（月）

２．内　容　　横浜会場、羽田空港及び成田空港におけるDMAT活動に伴う通信関係の補填
（非常時における日赤無線等による連絡体制のご協力）
詳細につきましては、DMAT事務局から各支部担当者にご連絡をさせていただきます。

連絡先
厚生労働省医政局指導課
災害医療対策専門官　風間　和則
03-3595-2194
厚生労働省医政局DMAT事務局
国立病院機構災害医療センター
近藤久禎・市原正行
042-526-5506

ＡＰＥＣ2010　DMAT通信体制　配置案　ver1.9

エリアブロック　携帯電話	所在地	無線コールサイン等	空中線電力	機種	無線管理担当
DMAT本部	けいゆう病院 １３階会議室	にっせきかながわ31	25W	固定	統制局　※機材とうきょう18
		にっせきかながわ121	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ122	1W	ハンディー	
		にっせきかながわ127	1W	ハンディー	高桑　唐鎌
		にっせきかながわ128	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう101	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう102	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう103	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう18	10W	車載	武蔵野ハイエース
		にっせきぐんま3	25W	車載	前橋ドクターカー
		にっせきぐんま6	10W	車載	前橋プレサージュ
		MCA災医セ　01番	2W	ポータブル	
		MCA災医セ　09番（予備機）	2W	ハンディー	大野
		MCA災医セ　10番（予備機）	2W	ハンディー	
		簡易無線	5W	固定	高桑
メディアセンター／ DMAT待機場所	パシフィコ横浜 メディアセンター救護室／ けいゆう病院４F研修室	にっせきとうきょう6	25W	固定	太田
		にっせきとうきょう105	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう106	1W	ハンディー	
		にっせきぐんま115	10W	可搬	
		MCA災医セ　02番	2W	ポータブル	大野
		簡易無線	5W	ハンディー	
会議センター／ DMA待機場所	パシフィコ横浜 会議センター救護室／ けいゆう病院４F研修室	にっせきとうきょう7	25W	固定	関口
		にっせきぐんま116	5W	可搬	
		にっせきとうきょう107	1W	ハンディー	
		MCA災医セ　05番	2W	ポータブル	大野
		簡易無線	5W	ハンディー	
横浜市立みなと赤十字病院	横浜市中区	にっせきかながわ34	10W	固定	
		にっせきかながわ129	1W	ハンディー	八木
		にっせきかながわ130	1W	ハンディー	
		MCA　横浜市	2W	ハンディー	
羽田空港	羽田空港 エクセルホテル東急7136 国際線ターミナルCIQ棟会議室	にっせきとうきょう3	25W	固定	
		にっせきとうきょう108	1W	ハンディー	
		にっせきとうきょう109	1W	ハンディー	辻
		にっせきとうきょう110	1W	ハンディー	
		にっせきしが201	1W	ハンディー	
		にっせきしが202	1W	ハンディー	
		にっせきしが4	10W	車載	大津救急車
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA災医セ　03番	2W	ポータブル	木崎
		MCA災医セ　07番	2W	ハンディー	
成田空港	空港内救護所 NAA情報通信ビル３F研修室	にっせききょうと6	10W	車載	上門
		簡易無線	5W	ハンディー	
		MCA災医セ　04番	2W	ポータブル	小澤
		MCA災医セ　08番	2W	ハンディー	
日赤神奈川県支部	横浜市中区	にっせきかながわ基地局	50W	基地	野口
		MCA　横浜市	2W	ハンディー	
日赤東京都支部	新宿区大久保	にっせきとうきょう基地局	25W	基地	田中
	豊島区駒込	にっせきこまごめ基地局	25W	基地	
	大田区中央	にっせきおおもり基地局	25W	基地	
日赤千葉県支部	千葉市中央区	にっせきちば基地局	50W	基地	増田
災害医療センター	立川市	MCA災医セ　11番	2W	ハンディー	DMAT事務局

武蔵野赤十字病院

日赤:VHF　150MHz帯　アナログ
簡易:UHF　400MHz帯　デジタル/アナログ　35/65ch
MCA:UHF　800MHz帯　デジタル

担当チーム

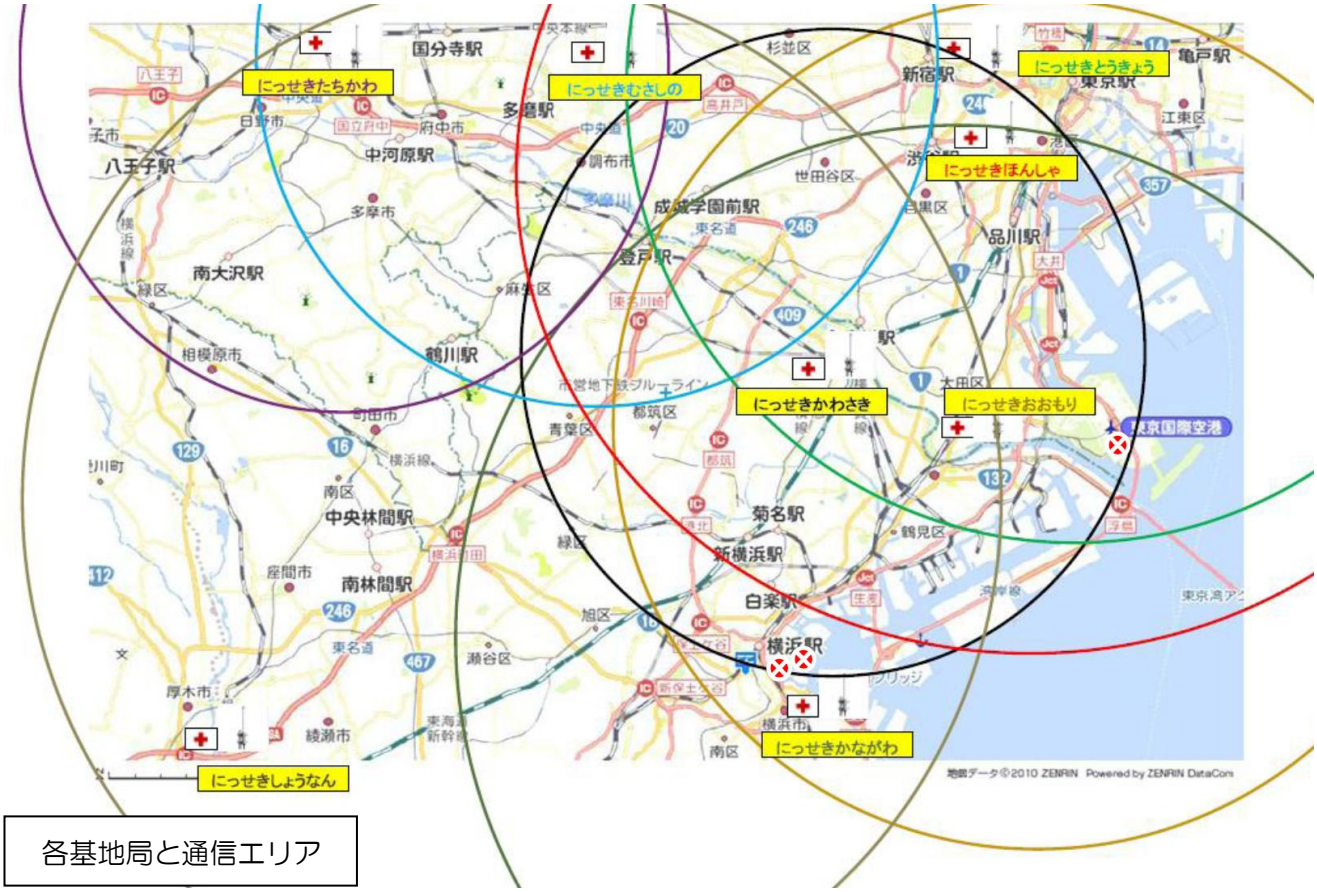
シフトについては別途策定

病　院　名	都道府県	業務調整員		
東京医科歯科大学病院	東京	工藤	宮崎	
前橋赤十字病院	群馬	太田	関口	関根
愛媛県立中央病院	愛媛	是永		
新潟市民病院	新潟	浅野	伊藤	
草津総合病院	群馬	鈴木		
平鹿総合病院	秋田	佐藤	冨木	
徳島県立病院	徳島	吉岡		
兵庫医科大学病院	兵庫	富加見		

病　院　名	都道府県	業務調整員		
山形県立中央病院	山形	萬年		
災害医療センター	東京	木崎		
近森病院	高知	宗石	竹崎	
相澤病院	長野	中込	内山	
大津赤十字病院	滋賀	辻	西島	

病　院　名	都道府県	業務調整員	
京都第一赤十字病院	京都	上門	柿本
東北大学病院	宮城		
愛知医科大学病院	愛知	小澤	小谷
大阪府済生会千里病院	大阪	寺澤	
済生会滋賀病院	滋賀	奥野	坂本

緊急時【休日夜間はオンコール】



各基地局と通信エリア

情報通信ツール

- 通信機器
  - 無線機　①業務用無線機150MHz
    ②業務用無線機400MHz
    ③簡易業務用無線機（トランシーバー）
    ④特定小電力無線機（免許不要レジャー用）
    ⑤MCA無線
    ⑥防災行政無線
  - 衛星携帯電話
  - 携帯電話（災害時優先携帯）
  - モバイルパソコン＆データ通信カード（EMISによる情報収集・発信に有用）
  - 電源（予備電源）の確保
- 記録機器
  - デジタルカメラ
  - ボイスレコーダー
  - コンタクトリスト
  - 電源（予備電源）の確保
- ラジオ等の情報収集ツール
- メガホン、笛、伝令用紙などの伝達ツール

APEC2010　Takakuwa　Original

無線通信の利点

- 通信インフラに左右されない。
- 一定範囲内での通信が可能
- 他事業からの混信がない
- 一斉通信が可能
- 呼び出しに特定な番号入力は不要
- 建物内での使用が可能
- 移動中の通信が可能
- 通話料金がかからない

○日本赤十字社業務用無線局取扱規程

(昭和55 年2月25 日本達丙第2号)

改正 昭和59 年5月本達丙第5号 昭和60 年4月本達丙第5号

平成4年3月 総務第50 号平成10 年10 月本達丙第28 号

平成13 年6月本達丙第6号平成16 年7月本達丙第27 号

(無線設備の操作)

第９条
無線設備の操作は、無線従事者が行うものとする。但し、非常通信業務を行う場合であって、無線従事者を無線設備の操作に充てることができないときならびにその技術操作が相手方の無線局の無線従事者によって管理されている場合は、この限りでない。

２ 管理責任者は、前項但し書きの規定により、無線従事者以外の者が、無線設備の操作及び通信業務に従事する場合を考慮し、関係職員等に対して必要な教育と訓練を行わなければならない。

けいゆう病院９階　ＤＭＡＴ本部日赤無線局「にっせきかながわ３１」

通信状況

	日赤無線	簡易無線	MCA無線
○本部⇔メディアセンター	◎	◎	
○本部⇔会議センター	◎	◎	
○本部⇔４階チーム待機室	◎	◎	
○本部⇔神奈川県支部	◎		
○本部⇔東京都支部	○		
○本部⇔千葉県支部	◎		
○本部⇔武蔵野赤十字病院	◎		
○本部⇔大森赤十字病院	◎		
○本部⇔横浜みなと赤十字病院	△		
○本部⇔市内災害拠点病院（移動）	◎		
○本部⇔羽田空港	△		△
○本部⇔成田空港	-		◎
○本部⇔災害医療センター	-		◎

5.結語

日本赤十字社の業務用無線局は指定公共機関として、VHF 帯と UHF 帯が全国波として許可されている。

今般は会場が首都圏エリアであり、近隣に基地局が多数存在しているため、前図のとおり通信状況に問題は無かった。また、ＤＭＡＴ活動要領中「ＤＭＡＴとの協働」を根拠として通信体制の補完を初めて実施したのである。

ただし、無線局の目的が「赤十字用」となっていることから、

①赤十字職員でなければ運用ができないのか

②ＤＭＡＴ活動は赤十字の活動なのか

③マスギャザリングや国が行う行事は、災害救護活動なのか

という議論があった。

①については、訓練やイベントにおいて奉仕団等が業務用無線局を使用することがあり、業務用無線局取扱規程による「無線従事者」と「教育」を運用条件とした。

②については、ＤＭＡＴ活動要領中「災害拠点病院、日本赤十字社、国立病院機構、大学附属病院等は、ＤＭＡＴの活動に必要な支援（情報収集、連絡、調整、人員又は物資の提供等）を可能な範囲で行う。」を根拠にした。

③については、日本赤十字社法第 27 条２項及び第 33 条１項の解釈を準用できる可能性がある。また、祭礼や体育大会等での臨時救護については実績があるため、これらと同等に考えることができる。

ＡＰＥＣにおける日赤無線の活用は、単に通信ツールを DMAT 活動に流用するのではなく、ひとつは検証として、もう一つは「協働」の具体的業務として捉えることとした。

本年３月の東日本大震災においては、宮城県支部が被害を受け、一時通信体制が取れなくなるなど、初期には問題も多かったが、石巻赤十字病院では地上インフラが悉く被災している状況下において、病院の無線基地局（にっせきいしのまき）は各移動班との連絡に大変有効であった。

石巻赤十字病院

基地局用空中線

しかし、災害医療活動においては、山間部や島嶼部等ではカバーできない地域もあり。

また、どのように基地局での統制要員を確保するかなど課題は多い。

さらに今回の被災規模によっては、DMAT 同様日本赤十字社としての活動も同時に実施することになるため、初期の通信体制の構築として「可能な限り」とは、DMAT 活動にどの程度協力できるか今後議論、検討の余地がある。

MCA 無線の活用について

国立病院機構災害医療センター　大野　龍男

APEC　YKOHAMA 2010
MCA 無線の運用

DMAT 事務局　大野　龍男

今回の APEC に置ける通信連絡システム全体を考える上で、無線機の活用が必要不可欠との考えにいたった。事前の訓練や計画の中で資料- 1 の運用計画を作成し複数の無線を活用するにいたった。中でも民間の広域無線（MCA）は無線免許不要でデジタル化されており関東全域での通信が可能との事で採用した。実際には日赤無線、簡易無線、神奈川県防災無線との組み合わせではあったが横浜けいゆう病院（DMAT 対策本部）と成田空港、羽田空港、横浜消防対策本部（保土ヶ谷）の長距離通信には有効であった。当初計画では他機関との連携のため警察本部への配備を考えたが、警察に配備することはできなかった。

利点

- デジタル化されているため電波さえとれれば音声がクリアーでノイズが少ない
- 長距離での通話が可能
- またデジタル化されているので個別呼出しが可能
- 今回借り上げた MCA 無線携帯型は軽量、コンパクトで運搬に適していた。

欠点

- 建物等の障害物に弱い
- 使用頻度にもよるが、バッテリーの保ちが悪い
- 中継基地によって一斉通報が出来ない（同じ中継局であれば可能）
- ポータブル型と言っても少し大きく重い
- 少し音声通話にタイムラグがありなれが必要

運用上の改善点

- ポータブル型でも携帯型でも車載アンテナ（磁石ベース）取り外し可能な物を携行する事によって、電波の受信状況の悪い場所でもアンテナを屋外や窓辺に置く事で通信可能になる。今後は必須
- 契約の形状にもよるが、広域一斉通報等する場合新たな契約が必要になる。
- 中継局を経由するため、災害時中継局が被災した場合通信不可能となる可能性があり MCA 無線単独での使用はやはりさけるべきで、複数の通信手段の一つとしての使用は可能である。

別添　資料-1　APEC 会議での無線運用計画

2010年１０月２３日

APEC 会議での DMAT 無線運用計画（案）

今回の案をつくのにあたり APEC の会議期間中に、何かしらの大規模テロ事件、事故、災害が起きたと想定して、できうる限り使用可能な通信手段のリソースと運用を考える。ただし一般の通信手段である固定電話・携帯電話・FAX 等を否定する物ではなく、あくまでも非常事態に対し何ができるのか、何が必要なのかを検討したい。

この非常事態については、想定が難しく日本国内ではテロイコール、サリン事件規模と考えてしまうが、外国では公共サービスへの攻撃（電気、水道、交通網等）やデモ・集団パニック（暴徒)、9.11のような飛行機での自爆、多く人が集まるところでの爆破など考えればきりがない。このようななか日本国内では同時に多くの人が一斉に電話、携帯を使った場合、通常でも通話ができなかったり回線がパンクする事も予想できる。そして通信網自体が狙われないとも限らない。（電話回線交換基地局や携帯基地局、サイバーテロ等)

また予想される対象地域も会場周辺から要人の移動する空港、高速道路、公共サービスなどを考えれば発電所や新幹線までも含まれるかも知れない。この為独自に通信網を確保する事及び複数のツールを持つ事は有益と考えられる。また情報収集の為にも他の機関との連絡も重要になる。

１.使用可能と思われる無線機の種類と特徴

①災害医療センター所有の MCA 無線機と無線網
関東圏内をカバー、現所有台数６台（レンタル可)、携帯可
デジタル回線の為（相手指定などが可能）

②神奈川県 DMAT 所有の MCA 無線機と無線網
（ただし災害医療センターの物とはシンクロ無し）
神奈川県全域をカバー、県内病院、医師会、保健所等約７０カ所に設置

③各応援 DMAT チームが所有無線機
特定小電力無線（トランシーバー）屋外で500m 程度室内では数百メートル
携帯に優れている（防護服を着ての活動時には必要）

④日本赤十字社が持つ VHF 無線機
全国赤十字社をカバー、アナログ、
基地局を経由すれば神奈川、東京圏は連絡可能
幸い今回は各 DMAT 配置場所に日赤のチームが入る事が決定済み

⑤他の機関
警察無線、消防無線等
警備運用上回線を貸してくれる可能性は低い

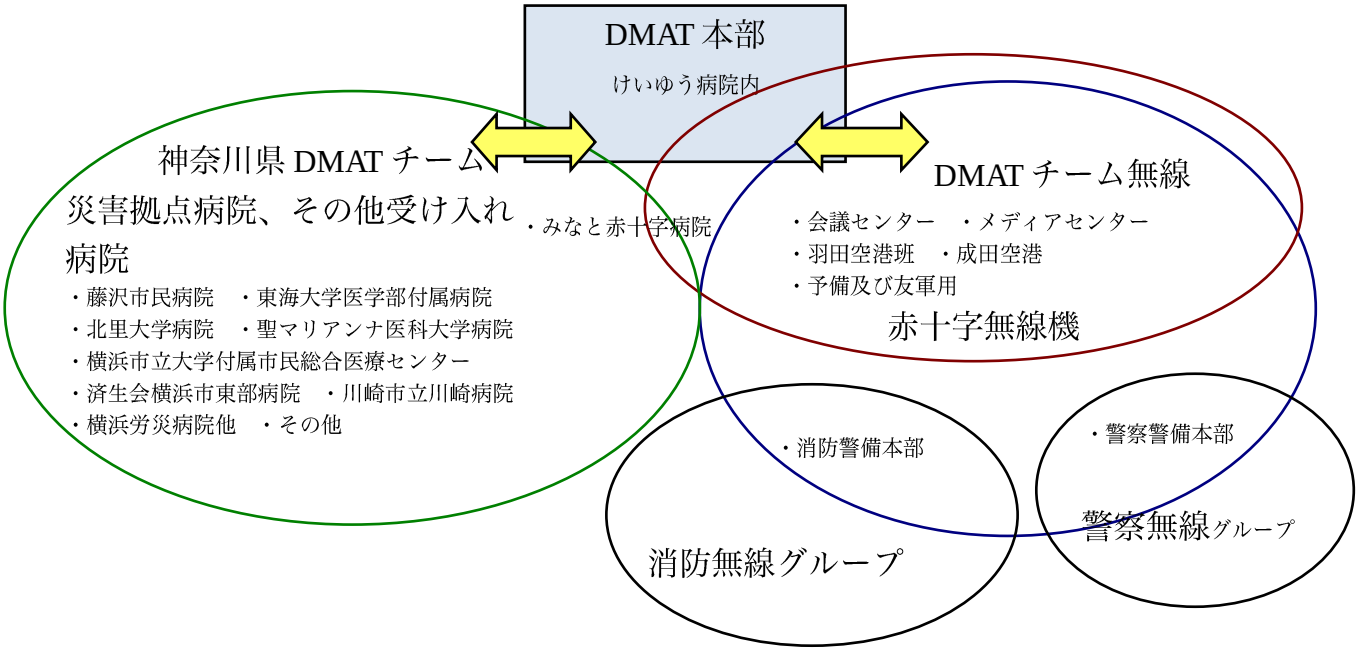
⑥その他の通信回線
衛星電話（イリジウム、スライヤ、インマルサット、ワイドスター等）
一斉は通話は不可
一般電話、携帯電話、インターネット、EMIS

２.今回の APEC 会議での無線機使用の可能性

①テロが発生した場合の広域での指示や情報の伝達

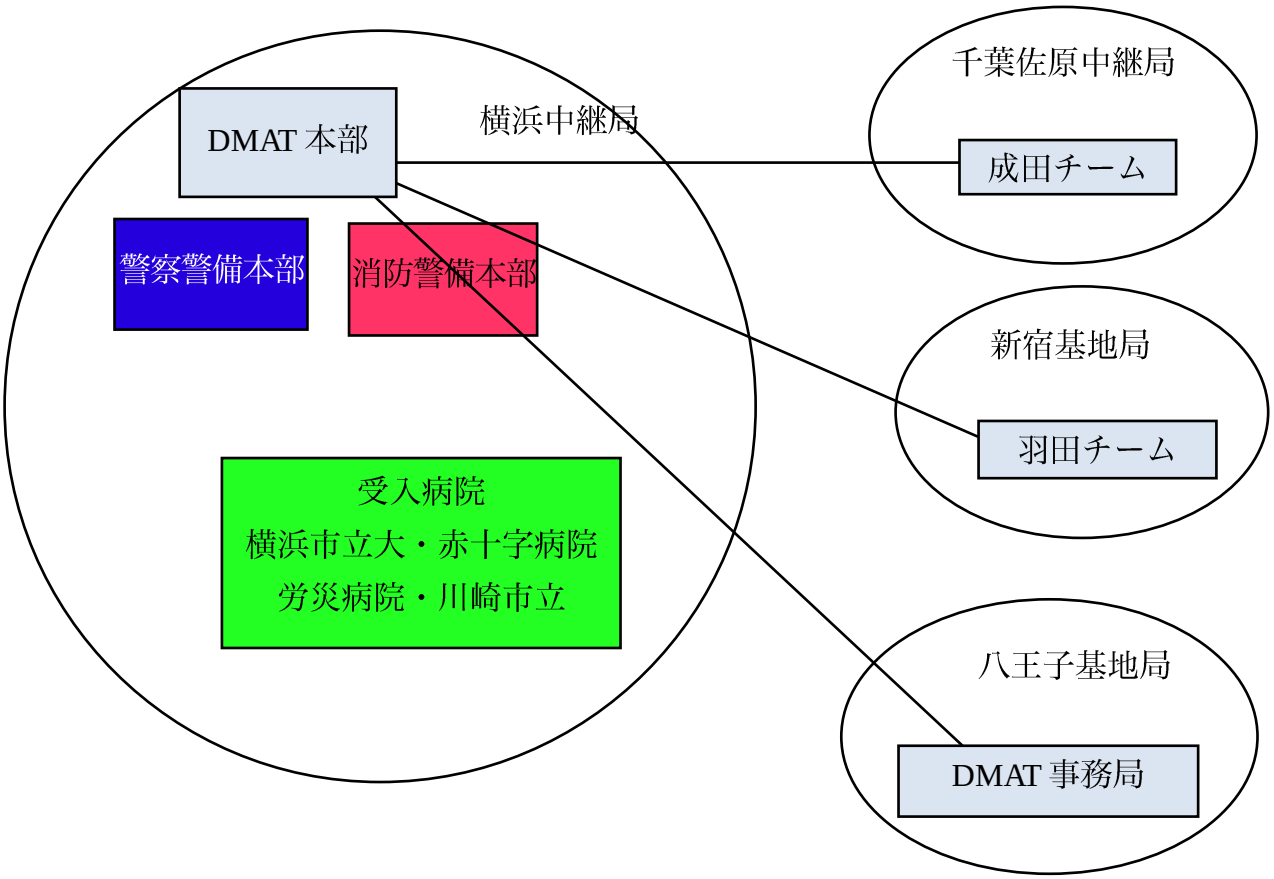
（受入れ病院、空港配置 DMAT、待機 DMAT チーム）
②現地 DMAT チーム同士連絡　（会場周辺）
③DMAT チーム内での連絡
（会場内での呼び出しや防護服を着た場合の通話、医師と看護士）
④発災現場との連絡
横浜市内、川崎市、東京都内での発災現場と本部、発災現場と受入れ病院など
⑤他の関係機関（警察、消防）との情報収集や連絡
NBC テロの場合の情報収集

3.配備場所
①本部（けいゆう病院内）　神奈 1 台　災害 1 台　赤十字
MCA 災害無線を置きこの場所で、情報収集を行う
※有事現場に急行するチーム及び予備　災害 1 台
②会議センター　赤十字
③メディアセンター　赤十字
④羽田空港　災害 1 台　赤十字
⑤成田空港　災害 1 台　赤十字
⑥横浜市立みなと赤十字病院　神奈 1 台　災害 1 台　赤十字
⑦横浜労災病院　神奈 1 台　災害 1 台
⑧横浜市立大付属市民総合医療センター　神奈川 1 台　災害 1 台
⑨川崎市立総合病院、神奈 1 台　災害 1 台
⑩その他の神奈川県内受け入れ病院　神奈各 1 台
⑪警察警備本部（通信班）　災害 1 台
⑫消防警備本部（通信班）　災害 1 台
⑬DMAT 事務局　災害 1 台



4.その他
- 神奈川 MCA 無線機は確認したところ、けいゆう病院に配備されている物から一斉通報も個別呼びだしも可能との事でした。
- 事務局 MCA の無線立川（八王子中継局）からは横浜エリアには一斉通報は契約を変更しないと不可、しかし個別の無線機を呼ぶ事は可能。

- 横浜エリアでは基本的に横浜中継局一局を使うため一斉通報は可能。
- 羽田のエリアが少し微妙？
- 羽田、成田と横浜の個別通話は可能
- 空港内は管制塔の付近は無線機の妨害を受けないように極所的に妨害電波が出ている場所が有ったり、窓に電波の飛ばないシールドが有る場合が有るとの事でした。待機場所での発信・着信確認が必要
- 後方搬送の拠点となる病院には２重３重の連絡手段が必要



MCA 無線の特性として、出力２ｗと小さくあくまでも基地局経由のため見える地点同士でも通話ができない事も多々有る。また遮蔽物の南と北等で異なる中継基地局を経由するため、一斉通報ができなくなり個別通話のみが可能な事が有る。

また出力が小さいためアンテナの位置によっては感度が悪く、室内で使う為には必ず外部アンテナの携行必要と思われる。
ポータブル器／ハンディーで５０ｍ程度のアンテナケーブルとそのジョイント金具が必要と思われる。

分担研究報告

分担研究報告

「国際連携ネットワークを活用した
健康危機管理体制構築に関する研究」

研究分担者　明石　真言

（放射線医学総合研究所　理事）

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

「国際連携ネットワークを活用した健康危機管理体制構築」に関する研究
研究分担者　明石真言　放射線医学総合研究所　理事

研究要旨　東電福島原発事故対応の一環として行われた一時立入りにおいては住民と物品のスクリーニングが計画的に行われた。この活動に参加し、スクリーニング体制に関して検討した。スクリーニング、除染等の防災要員の防護服は、他の環境因子も考え、総合的な安全性を考える必要性が示唆された。

A. 研究目的

NBCテロの際には多数の周辺にいた人々が汚染する事態が考えられる。この際、これらの多数の人々を効率よくスクリーニングし、除染の必要な被災者を分ける必要がある。このスクリーニングを有効に行う方法を検討する。

B. 研究方法

東電福島原発事故対応の一環として行われた一時立入りにおいては、放射性物質付着に関して住民と物品のスクリーニングが計画的に行われた。これは、訓練ではなく、実際のスクリーニングが多人数に必要となったこれまで無かった事例であり、この活動を通して、スクリーニング体制に関して検討した。

C. 研究結果

一時立入りは、5 月 10 日から開始された。一時立入りの運用の流れを示す。避難住民の方達が、立入りの入域出域の管理のため、中継基地と呼ばれる集合場所に集まる。この中継基地は、20-30 km 圏に設けられている（4カ所）。ここで準備をして、バスで警戒区域内に入り、2時間以内に自宅で荷物をまとめる作業をして、またバスに戻る。そして、バスで中継基地に戻り、スクリーニングを行う。

おおよそ4－5人が1チームになり人と荷物をスクリーニングした。スクリーニングチームは、当初タイベック、サージカルマスク、手袋等の防護衣を着用した。

D. 考察

気候として、気温が高く、湿度も高い日には、スクリーニング要員の消耗も激しく、要員の中からも熱中症が発生することもあった。スクリーニング、除染要員の防護衣は、放射線防護だけでなく、他の要員も考慮する必要がある。

E. 結論

スクリーニング、除染等の防災要員の防護服は、他の環境因子も考え、総合的な安全性を考える必要性が示唆された。

F. 健康危険情報　なし

G. 研究発表

1. 論文発表

(1)明石真言：放射線と正しく向き合うために－公衆衛生従事者に必要な基礎知識、公衆衛生、75(11)、pp824-829、 2011.11

(2)明石真言、富永隆子、高畠貴志、道川祐市、

蜂谷みさを:我が国の緊急被ばく医療の現状と展望、日本臨床、70(3)、pp469-474、2012.3

2. 学会発表

(1)明石真言:被曝による健康調査、シンポジウム「放射線と向き合う-低レベルの影響」(朝日新聞社)、東京、2011.10

(2)明石真言:福島第一原発事故と放射線被ばくについて、医療政策シンポジウム(日本医師会)、東京、2012.3

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　なし

2. 実用新案登録　　なし

3. その他　特になし

分担研究報告

「化学テロ全体を総合的な観点からみたリスク評価、各国における対応事例の集積」

研究分担者　黒木　由美子

（財団法人　日本中毒情報センター　施設長）

厚生労働科学研究費補助金（健康危機管理・テロリズム対策システム研究事業）
国際連携ネットワークを活用した健康危機管理体制構築に関する研究
分担研究報告書

化学テロ全体を総合的な観点からみたリスク評価、各国における対応事例の集積

研究分担者　黒木由美子　（財）日本中毒情報センター　施設長
研究協力者　山本　都　国立医薬品食品衛生研究所安全情報部　研究員
研究協力者　霧生信明　国立病院機構災害医療センター　救命救急科医師
研究協力者　飯田　薫　（財）日本中毒情報センター　係長
研究協力者　高野博徳　（財）日本中毒情報センター　係長
研究協力者　荒木浩之　（財）日本中毒情報センター　課長
研究協力者　水谷太郎　（財）日本中毒情報センター　常務理事
研究協力者　嶋津岳士　（財）日本中毒情報センター　専務理事
研究協力者　吉岡敏治　（財）日本中毒情報センター　理事長

研究要旨　本分担研究では、世界健康安全保障行動グループ（GHSAG：The Global Health Security Action Group）の化学事案に関する作業部会（CEWG：Chemical Events Working Group）が検討している緊急時対処計画策定における優先物質の選定基準について、優先順位付けのためのアプローチに関する最新のドラフトが提示されたため、ドラフトの内容について検討を実施し、さらに本年度の GHSAG-CEWG 活動状況について調査した。また、本年度は東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒等に関する日本中毒情報センター（以下、JPIC と略す）への問い合わせ状況と対応について調査を実施した。

化学物質が偶発的もしくは故意に放出された際の公衆衛生リスクを優先順位付けするためのアプローチについて作成されたドラフトにおいて、アプローチの客観性、有用性、実用性等を検討した結果、本ドラフトはスコア付けに用いるパラメーターが客観的であり、また容易に入手できる既存のデータを用いていて実用的であった。今後はさらに吸入ハザードと共に経口ハザードについても検討し、緊急時対処計画策定における優先物質の選定基準を明確にする必要があると考える。

GHSAG-CEWG の活動は、優先物質選定等化学物質に特化した活動のほか、リスク評価プロジェクトや除染プロジェクト等の関連プロジェクトにもかかわっていくことが重要である。今後も継続してメンバー国と情報共有を行っていくほか、議長国として、また GHSAG-CEWG の活動の一環として、ワーキンググループ会合と共に、平成 24 年秋に除染ワークショップを日本で開催し、報告する予定である。

東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した急性中毒事故として、ヨウ素剤の代替としてヨウ素含有消毒剤を誤飲した事例が 4 件確認された。JPIC 受信時までに 2 件で症状（下痢、悪心）が出現していた。外用薬であるヨウ素含有消毒剤には、エタノールやメントール等他の成分が含有されており、これらの成分により中毒症状が出現する場合がある。必要とする地域へ本来服用すべき医薬品のヨウ素剤の配布計画と実施が急務である。

Ａ．研究目的

現在、世界中で使用されている化学物質の種類は膨大であり、用途もさまざまである。その有用性はいうまでもないが、一方、化学物質は、時に流出事故や爆発事故、あるいは故意の放出等により、大きな健康被害を生じる原因となることもある。化学物質が関連するこうした事案を適切に処理し、被害を最小限に抑えるためには、緊急時対処に関わる関係機関がそうした事態を想定し、平時から十分な対処計画を作成しておくことが重要である。しかしながら化学物質の種類はきわめて多く、すべての化学物質を対象として計画を作成することは不可能である。したがって、化学物質の毒性や曝露経路等さまざまな要因を考慮しながら、優先順位を決めて対処計画を準備することがより現実的といえる。

そこで世界健康安全保障行動グループ（GHSAG：The Global Health Security Action Group）の化学事案に関する作業部会（CEWG：Chemical Events Working Group）により、緊急時対処計画策定における優先物質の選定基準について、優先順位付けのためのアプローチに関する最新のドラフトが提示されたため、ドラフトの内容について検討を実施し、さらに本年度のGHSAG-CEWG活動状況について調査した。

また、本年度は東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒等に関する日本中毒情報センター（以下、JPICと略す）への問い合わせ状況と対応について調査を実施した。

Ｂ．研究方法

1. 優先順位付けするための系統的アプローチに関するドラフトの検討

GHSAG-CEWGが提示したドラフト「A systematic approach to prioritizing public health risk associated with accidental or deliberate release of chemicals、2011（化学物質が偶発的もしくは故意に放出された際の公衆衛生リスクを優先順位付けするための系統的アプローチ、2011）」において、優先化学物質選定のための判断基準に関わる部分について検討した。なお、ドラフト全体は非公開のため資料1にドラフトの当該部分の概要を示した。

2. GHSAG-CEWG合同会合

平成23年10月26日に、米国にて開催された本年度のGHSAG-CEWG合同会合の内容を調査した。

3. 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒等に関するJPIC受信状況と対応

平成23年3月11日～4月10日の1か月間に、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒等に関するJPICへの問い合わせ状況と対応について調査した。

Ｃ．研究結果

1. 優先順位付けするための系統的アプローチに関するドラフトの検討

CEWGによるドラフト（2011）は、リスクの優先順位付けのために、いくつかのファクターをベースにしたスクリーニング・ツールを提示している。ドラフトでは、化学品の分類および表示に関する世界調和システム（The Global Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals、GHS）に準じて、リスクの大きさを「ハザード(有害性)の重大性 × 曝露の蓋然性」と定義し、「ハザードの重大性」と「曝露の蓋然性」それぞれについて、化学物質の放出によって生じるリスクの大きさの定量化を試みていた。

本ドラフトでは「ハザードの重大性」は物質の毒性、可燃性/引火性、反応性をベースに、「曝露の蓋然性」は入手しやすさと物理的状態をベースにスコア付け例を示している。

また、空気中に有毒物質が放出された場合に最も大量の被害者が出る可能性があるとして、特に吸入毒性に焦点をあてている。

リスクの優先順位付けのためのスクリーニング・ツールは、客観的で実用的なものでなければならない。客観的にスコア付け

するには、それぞれの物質に固有なデータを用いて定量化が可能なアプローチを採用することが重要である。また、データは誰もが容易に利用できるものが望ましい。こうした観点から、本ドラフトの客観性、有用性、実用性等について検討した。

1）客観性

個々の化学物質の放出によって生じるリスクの大きさを判断するファクターには、毒性の強さ、合成や入手のしやすさ（高生産量化学物質、消費者が購入できる家庭用品、あるいはそれらを原料として容易に合成できる有毒化学物質等）、検知や分析のしやすさ、リスクの認識（科学的データとは別に一般の人が危険と感じるかどうか）等さまざまなものがある。これらのファクターのうち、毒性や合成/入手しやすさ等は、適切なデータが入手できれば、客観的かつ定量的にスコア付けすることが可能である。一方、リスク認識は客観的な判断がしにくい。

今回のドラフトで示されているリスクの優先順位付けのアプローチは、[リスクの大きさ = 「ハザードの重大性」 ×「曝露の蓋然性」]をもとに、「ハザードの重大性」については、物質の毒性、可燃性/引火性、反応性に関するデータを用いてスコア付けを試みている。これらはいずれも、それぞれの化学物質に固有のものであり、客観的で定量化が可能である。

「曝露の蓋然性」に関しては、入手しやすさと物理的状態をベースにスコア付けしている。入手しやすさは、高生産量化学物質（HPV）か、市販されているか、販売・使用制限があるか、合成しやすいか等をベースにスコア付けが可能である。またここでは、最も大量の被害者を生じる可能性があるとして吸入曝露を中心としており、拡散しやすさのパラメーターとして蒸気圧を用いている。

本ドラフトのアプローチで採用されているパラメーターはいずれも定量化が可能であり、あらかじめスコア付けの基準を決めておけば、スコア付けする人に依存せずある程度客観的な結果が得られると考えられる。

2）データの入手しやすさ

上記の定量化のパラメーターとして用いるデータに関しては、既存の資料のデータを利用するとしている。例えば、急性吸入毒性のパラメーターとして、米国環境保護庁（US-EPA）等が開発した AEGL-3（AEGL：急性曝露ガイドラインレベル）の値を用いている。AEGL-3 は、10 分～8 時間の 5 つの曝露時間において生命の危険がある空気中濃度の閾値である。また、可燃性/引火性と反応性に関しては、NFPA（米国防災協会）のデータを利用するとしている。これらのデータは、いずれも公表データで容易に入手することができ、本スクリーニング・ツールはこうした点で実用的であると考えられる。

3）その他の曝露経路への適用性

本ドラフトでは、空気中に放出された有毒物質の吸入曝露が、最も多くの被害者を生じる可能性が高いとして、吸入ハザードを対象としたリスクのスコア付け例を示しており、毒性パラメーターとして急性吸入毒性のデータである AEGL-3、拡散しやすさのパラメーターとして蒸気圧を用いている。スコア付け例では、ホスゲン、エチレンオキサイド、一酸化炭素、硫化水素等のリスクが“extreme”となる一方、蒸気圧の低い固体/液体の有毒物質（農薬、シアン化カリウム、硫黄マスタード等）のリスクは、当然ながら“low”～“moderate”となっている。

ドラフトでは、有毒物質による飲食物汚染等経口ハザードを対象とした場合のパラメーターとして、AEGL-3 の代わりに経口毒性の LD_{50}（半数致死量）、蒸気圧の代わりに水への溶解度を用いたスクリーニング・ツールの利用も可能であるとしている。このように、スクリーニング・ツールの一部のパラメーターを置き換えることにより、吸入ハザードだけでなく、経口ハザードにも応用可能な点は、フレキシビリティの面で有用である。

2. GHSAG-CEWG 合同会合

本年度の GHSAG-CEWG 合同会合は、米国にて、10 月 26 日 9：00～17：00 に開催され、日本からは霧生信明研究協力者、齋藤智也厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐が参加した。

議題は以下の通り。

1）他のワーキンググループ等と取り組んでいるプロジェクト(SWOT 分析、対抗医薬品サーベイ、リスク・脅威ワークショプ、早期警戒・検知プロジェクト、緊急時連絡プロトコル、除染ワークショップ)についてレビューを実施した。

2）緊急時連絡プロトコルは、緊急事態が発生し各国のリクエストがなされたとき、2時間以内に電話・ビデオ会議を招集するものである。このたびプロトコルが拡大し、状況に応じてリスクマネージメント・コミュニケーション WG に加えて各専門 WG が招集される枠組みとなった。

3）リスク優先順位に関するペーパーの最終案に関して議論を実施し、6 月の局長級会合で検討した出版公開についてのプロトコルを確認した。また、各国の機関で承認をとるための共通ブリーフィングペーパーを作成予定であることを確認した。

4）除染ワークショップの開催について議論。日本から除染ワークショップとワーキンググループの会合のホストを検討中である旨を述べた。

5）英国・ニューカッスル大学のピーター・ブレイン教授より、リスク優先順位に関するペーパーを取り込み、教育マテリアルを作成したことが報告された。来年 4 月 20 日に英国カーディフに WHO のトレーニングセンター開所であり、これに併せて 19 日に春の face-to-face を予定することになった。

6）ブレインストーミングセッションを実施。本化学イベント会合の枠組みの強みと今後の方向性について、8 つの優先分野、3 年間の戦略計画を主に話し合った。日本からは、活動のタイムラインを考えるべきであり、いわゆる緊急時の急性期の情報交換をこの枠組みで行うことは担当者が通常手いっぱいであり困難であるが、事前準備を長期に行っていく上では、公衆衛生分野でテロ対策を議論できる唯一のプラットフォームとして重要である、旨述べた。

3. 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒等に関する JPIC 受信状況と対応

平成 23 年 3 月 11 日～4 月 10 日の 1 か月間に、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して発生した化学物質による急性中毒に関する JPIC への問い合わせ状況と対応を調査した。

1）急性中毒事故の問い合わせ

一般市民からの問い合わせが 4 件あった。いずれもインターネットやメール、ツイッター等の情報を基に、放射性ヨウ素の被ばく予防や応急手当のため、ヨウ素剤の代替として市販のヨウ素含有含そう剤（いずれの製品も 1mL 中ポビドンヨード 7mg 含有、添加物はエタノール、メントール等）を服用した事例であった。表 1 に概要を示す。

JPIC 受信時にまでに症状が出現していたのは、2 例で下痢 1 例、悪心 1 例であった。

2）急性中毒事故以外の問い合わせ

JPIC では化学物質による急性中毒が発生した緊急時に中毒情報を提供しているため、急性中毒事故以外の問い合わせはすべて放射線医学総合研究所等のホームページまたは電話番号を紹介した。

これは放射線事故による緊急事態時には放射線医学総合研究所等の専門機関を紹介することで連携を図るという事前の行動計画に従って実施された。

問い合わせの内容は以下の通りである。

・ヨウ素含有含そう剤の安全性等：一般市民 4 件、その他の機関 1 件
・ヨウ素剤の使用方法：医療機関 2 件
・放射線の人体への影響等：医療機関 1 件、一般市民 13 件、その他の機関 1 件

3）JPIC ホームページへの情報掲載

JPIC ではこれらの問い合わせ状況を受けて、JPIC ホームページのニュース欄から 2 件の情報を発信した。

・2011 年 3 月 15 日（3 月 17 日追加更新）「ヨウ素を含む消毒剤の誤飲について」うがい薬（ポビドンヨード）中毒情報資料掲載、関係各機関ホームページへのリンク。
・2011 年 3 月 22 日「安定ヨウ素剤に関する情報について」ヨウ素及びヨウ化物の中毒情報資料を掲載。

図 1 に JPIC ホームページ(医療従事者向け)アクセス件数と中毒情報資料の掲載日を示す。情報掲載後はアクセス件数が増加した。なお、3 月 12 日および 13 日は、つくば中毒 110 番は地震の影響で業務を停止していたため件数は未カウントであった。

4)海外関連機関へ情報提供

WHO/IPCS では、福島原子力発電所事故の発生に伴いインターネットやメール、ツイッター等で、放射性ヨウ素の被ばく予防や応急手当のため、ヨウ素剤の代替として市販のヨウ素含有含そう剤の服用を勧める情報が日本において氾濫している事実を掴み、その安全性を危惧していた。

JPIC では、海外関連機関へヨウ素含有含そう剤の誤飲事故に関する JPIC 問い合わせ状況および出現症状等、並びに放射線医学総合研究所のリンクおよび英文 PDF 資料（資料 2）[1)]の紹介を行い、連携を図った。情報提供先は、WHO/IPCS、GHSAG-CEWG、AAPCC(米国中毒対策センター連合)、Taiwan PCC（APAMT：アジアパシフィック臨床毒性学会事務局)である。

D．考察

GHSAG-CEWG が、化学物質が偶発的もしくは故意に放出された際の公衆衛生リスクを優先順位付けするためのアプローチについて原案を作成した。作業部会メンバーはこの原案に対するコメントを求められたことから、このドラフトの客観性、有用性、実用性等について検討した。

本ドラフトで提示された優先物質選定のためのアプローチは、スコア付けに用いるパラメーターが客観的であり、また容易に入手できる既存のデータを用いていて実用的と考えられる。パラメーターについては、毒性の種類や物性、曝露経路等が異なるいくつかの代表的な例を用いてさらに検討する必要があると考えられる。

たとえば、経口ハザードを対象としてパラメーターを LD_{50}（経口）および水への溶解度に置き換えた場合、吸入ハザードを対象としたドラフトのスコア付け例でスコアが低かった農薬やシアン化カリウム等（蒸気圧が低く経口毒性の高い物質）のスコアがどの程度になるかについては検証が必要である。経口毒性が高く脂溶性の物質もあり、また食品媒体も水溶性～脂溶性等さまざまな種類があるので、飲食物への混入を考えた場合、水への溶解度だけでは対応できない場合も想定され、パラメーターについては検討の余地がある。

吸入曝露は限られた場所で短時間に多くの被害者を生じる可能性が高いが、一方、経口毒性の高い物質が飲食物に混入した場合、流通等の状況によっては被害が生じるまでの時間や場所が広範囲に及ぶ可能性もある。化学物質を悪用しようとする者にとっては、持ち運びが容易で扱いやすい固体/液体の有毒物質がより利点になることも考えられ、吸入ハザードと共に経口ハザードについてもさらに検討する必要があると考えられる。

今後はさらに吸入ハザードと共に経口ハザードについても検討し、緊急時対処計画策定における優先物質の選定基準を明確にする必要がある。

GHSAG-CEWG の活動は、優先物質選定等化学物質に特化した活動のほか、リスク評価プロジェクトや除染プロジェクト等の関連プロジェクトにもかかわっていくことが重要である。今後も継続してメンバー国と情報共有を行っていくほか、議長国として、また GHSAG-CEWG の活動の一環として、ワーキンググループ会合と共に、平成 24 年秋に除染ワークショップを日本で開催し、報告

する予定である。

福島原子力発電所事故に関連して、ヨウ素剤の代替として、ヨウ素含有消毒剤を誤飲した事例が確認された。これはいずれもインターネットやチェーンメール等の誤った情報を基に、放射性ヨウ素の被ばく予防や応急手当のために服用した事例であった。外用薬であるヨード含有消毒剤には、エタノールやメントール等他の成分が含有されており、これらの成分により中毒症状が出現する場合がある。このような危険にさらさないためにも、必要とする地域へ本来服用すべき医薬品であるヨウ素剤の配布計画と実施が急務であると考える。

E．結論

GHSAG-CEWG において、化学物質が偶発的もしくは故意に放出された際の公衆衛生リスクを優先順位付けするためのアプローチについて作成したドラフトは、スコア付けに用いるパラメーターが客観的であり、また容易に入手できる既存のデータを用いていて実用的であった。今後はさらに吸入ハザードと共に経口ハザードについても検討し、緊急時対処計画策定における優先物質の選定基準を明確にする必要がある。

東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して、ヨウ素剤の代替として、ヨウ素含有消毒剤を誤飲した事例が確認された。必要とする地域へ本来服用すべき医薬品であるヨウ素剤の配布計画と実施が急務である。

参考文献

1) ヨウ素を含む消毒剤などを飲んではいけません－インターネット等に流れている根拠のない情報に注意
Don’t take commercially available products containing iodine. Beware of unfounded information on the Internet.
（平成 23 年3 月14 日）放射線総合医学研究所ホームページ.
http://www.nirs.go.jp/information/info2.php （平成23年2月29日）
http://www.nirs.go.jp/ENG/data/pdf/english.pdf （平成23年2月29日）

F．健康危機情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

1)飯田薫、黒木由美子、高野博徳、他：東日本大震災・原発事故に関連して発生した急性中毒に関する受信状況と対応.
日本中毒学会東日本地方会(盛岡)、2012年1月21日.

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

表1　福島原子力発電所事故に関連して発生した急性中毒事故の問い合わせ

事例No.	発生日	連絡者	都道府県	年齢	性別	症状	状況
1	3/13	一般市民	千葉県	17歳	女性	下痢	福島原発事故の報道後、**ツイッター**でうがい薬*を薄めて飲むとよいとの書き込みを読み、希釈液をコップ1杯飲んだ。
2	3/14	一般市民	宮城県	2歳	男性	なし	女川原発の近くに行った後、放射線に関する報道を見て、**メール**に記載されていたうがい薬*の原液3mLを子どもに飲ませた。
3	3/14	一般市民	茨城県	9歳	女性	悪心	福島原発事故の被ばくによる健康被害予防について**インターネット**で調べ、子どもにうがい薬*の希釈液を100mLを飲ませた。
4	3/15	一般市民	福島県	7歳	女性	なし	放射線障害の予防にポビドンヨード、ワカメが有効との**メール**が届いた。家族5名（1名は7歳、他4名は成人）でうがい薬*の原液を5～10滴飲んだ。

＊摂取したヨウ素含有含そう剤は4件とも異なるが、いずれの製品も1mL中ポビドンヨード7mg含有（添加物はエタノール、メントール等）

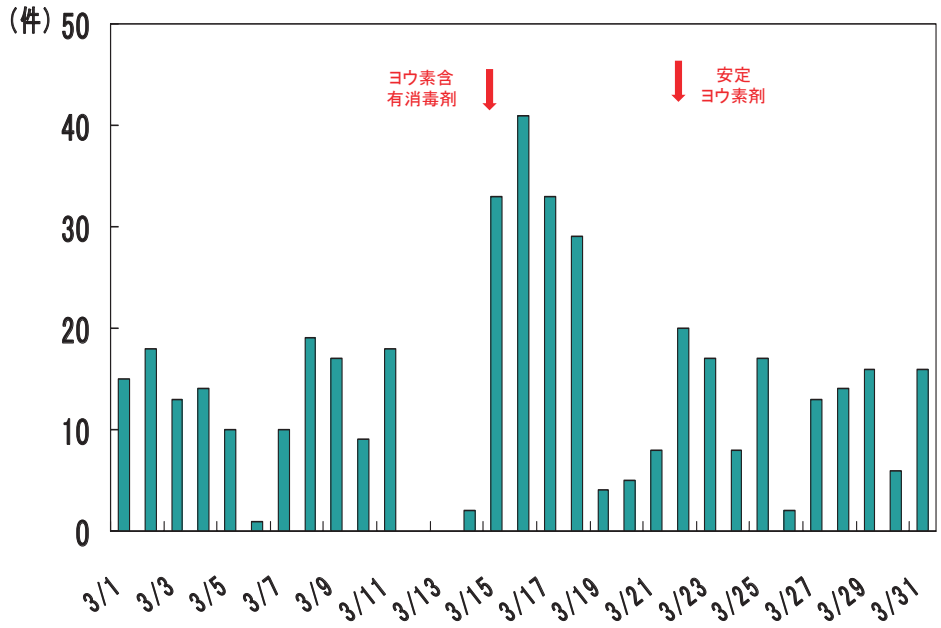


図2　JPICホームページ アクセス件数推移

資料 1

世界健康安全保障行動グループ（GHSAG）の化学事案に関する作業部会（CEWG）が提示したドラフトの概要は、以下のとおりである。

A systematic approach to prioritizing public health risk associated with accidental or deliberate release of chemicals, 2011

（化学物質が偶発的もしくは故意に放出された際の公衆衛生リスクを優先順位付けするための系統的アプローチ）

1）化学物質の偶発的もしくは故意の放出（release）によるリスクの優先順位付け：対処計画策定のためのアプローチ

CEWG はリスクの優先順位付けのためのスキーム（案）を作成した。スキームの作成にあたっては、客観的で、入手可能なデータのみを用いたフレキシブルで実用的なスクリーニング・ツールの開発を目指している。

2）リスクの大きさ

リスクの大きさは以下のように定義される：

Risk = (severity of hazard)　X　(probability of exposure)

リスク　=　ハザード(有害性)の重大性　×　曝露の蓋然性

3）ハザードの重大性

ハザードの重大性（severity of hazard）は、毒性（toxicity）、可燃性/引火性（flammability）、反応性（reactivity）に依存し、これらは各物質に固有である。

毒性に関しては、空気中に放出された有毒物質の吸入曝露が、最も多くの被害者を生じる可能性が高いことから、毒性パラメーターとして急性吸入毒性のデータを用いた。

優先順位付けには、既存の資料の毒性、可燃性/引火性、反応性に関するデータを利用した。例えば、急性毒性パラメーターとして、米国環境保護庁（US-EPA）等が開発した AEGL-3（AEGL：急性曝露ガイドラインレベル）があるものについては、この値を用いた。また、可燃性/引火性と反応性に関しては、NFPA（米国防災協会）のデータを利用した。

4）曝露の蓋然性

生産・使用・貯蔵・輸送時等における偶発的事故の場合は、原因物質を特定しやすいが、故意による放出の場合は、特定がより困難である。化学物質がいったん空気中に放出されると、取り消すことは不可能であり、警告の時間もほとんどないため、大量の死傷者が出る可能性がある。空気中への拡散のしやすさは化学物質の蒸気圧と直接関連するため、蒸気圧を拡散しやすさの指標として用いることができる。

曝露の蓋然性は下記の式で表すことができる：

Probability of exposure = (availability) + (physical state)

曝露の蓋然性　=　「入手しやすさ」＋「物理的状態」

5) リスクの決定

上述の「ハザードの重大性」および「曝露の蓋然性」について、吸入ハザードを有する化学物質を対象とした場合のスコア付けの基準（案）が例示されている。例えば「ハザードの重大性」に関しては、AEGL-3（60 分間曝露）が 1 mg/m^3 以下、可燃性/引火性（NFPA）が 4、反応性（NFPA）が 4 の場合は「ハザードの重大性」のスコアは 4 などとされている。また、「入手しやすさ」については、高生産量化学物質（HPV）か、市販されている物質か、販売・使用制限があるかなどに準じてスコア付けの基準（案）が示されている。これらのスコアをもとに総スコアを算出し、その値によって吸入ハザードを有する化学物質のリスクの程度を、“extreme”、“high”、“moderate”、“low”と分類している。

例として、いくつかの化学物質について、上記のアプローチによるスコア付けが例示されており、例えばホスゲン、エチレンオキサイド、一酸化炭素は“extreme”、ベンゼンやクロルピクリンは“high”、パラチオン、塩化水素は“moderate”、硫黄マスタードは“low”となっている。ドラフトでは、リスクが“extreme”、“high”の物質については（リソースがあれば“moderate”も）、詳細な緊急時対処計画が必要であるとしている。また、特定の物質に対する対処計画は、偶発的事故の場合も故意に放出された場合も有効なものでなければならない。

例示されているこれらの結果は、inhalational hazard（吸入ハザード）に特化した場合であるが、有毒物質には、飲食物を汚染した場合の経口毒性が問題になるものもある（ingestion hazard）。こうした経口ハザードを有する化学物質の場合は、ハザードの尺度として AEGL の代わりに経口毒性の LD_{50}（半数致死量）を用い、曝露の蓋然性に関しては蒸気圧の代わりに水への溶解度を用いた同様のスクリーニング・ツールの作成も可能であるとしている。

ヨウ素を含む消毒剤などを飲んではいけません
－インターネット等に流れている根拠のない情報に注意－

平成 23 年 3 月 14 日(月)
独立行政法人　放射線医学総合研究所

放射性ヨウ素が大量に体の中に入った場合の健康への影響を低減するために、内服薬である『安定ヨウ素剤』を医師が処方する場合があります。

市販品としてヨウ素を含んだものはたくさんあります。ヨードチンキ、うがい薬、のどスプレー、消毒用せっけん、ルゴール液などです。これらを内服薬である『安定ヨウ素剤』の代わりに飲むのは絶対にやめてください。

理由は以下のとおりです。

- うがい薬などの市販品は内服薬ではありません。これにはヨウ素以外の成分が多く含まれ、体に有害な作用を及ぼす可能性のある物質も含まれます。
- たとえ飲んだとしても、ヨウ素含有量が少なく、放射性ヨウ素が集まるのを抑制する効果がありません。

わかめ等の海藻にもヨウ素が含まれますが、これらも効果がありません。

- 含まれる安定ヨウ素が一定ではなく、十分な効果を得られるかは不明です。
- コンブなどは良く噛まなければならず、消化過程が必要であり、吸収までの時間がかかります。

以上のことから、消毒剤やうがい薬などのヨウ素を含んだ市販品は、『安定ヨウ素剤』の代わりに飲んではいけません。また海藻等を食べても十分な効果はありません。

『安定ヨウ素剤』を医師が処方するものです。原子力災害などの緊急時に、指定された避難所などで服用指示があった場合のみ、服用してください。

Don't take commercially available products containing iodine.

Beware of unfounded information on the Internet.

March 14, 2011
National Institute of Radiological Sciences

A physician may prescribe potassium iodine to reduce health risks when a large amount of radioactive iodine is taken into the body.

There are lots of over-the-counter medicine and products containing iodine, such as an iodine liquid for cuts and sores, Isodine, throat sprays, disinfectant soaps and Lugol's solution. **Never take or drink those products as a replacement for potassium iodine.**

The reasons are:

- Over-the-counter medicines/products such as Isodine are not intended for internal use. It contains other ingredients in addition to iodine that may have harmful effects on the body.
- Additionally, the amount of iodine contained in these products is very small and thus have no preventative effect against the accumulation of radioactive iodine.

Seaweed products such as kelp ("wakame") contain iodine but are not effective.

- The amount of iodine in seaweed is not always constant and its effectiveness is unknown.
- Kelp is very chewy and must be be processed first in the digestive system, taking a long time to be absorbed into the body.

For the above reasons, don't ingest disinfectants, Isodine or other over-the-counter medicines/products containing iodine. There also is not much benefit in eating seaweed products.

Potassium iodine should only be prescribed by doctors. Take it only when you are instructed to do so at a designated evacuation center in the event of an emergency situation such as a nuclear accident.